

（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告 第118集

上越新幹線関係  
埋蔵文化財発掘調査報告  
第15集

融通寺遺跡

第1分冊

1991

群馬県教育委員会  
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団  
東日本旅客鉄道株式会社



(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告 第118集

上越新幹線関係  
埋蔵文化財発掘調査報告  
第15集

# 融通寺遺跡

第1分冊

1991

群馬県教育委員会  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
東日本旅客鉄道株式会社





1区出土瓦塔



石製銚帶（表土出土鈍尾、2区71号住居跡出土丸柄、2区47号住居跡出土巡方）



# 序

太平洋側と日本海側の地域を結ぶ上越新幹線は、昭和60年3月に上野・新潟間を結ぶ全線が開通し、現在東京駅への乗入れを目指して工事が進められています。

この新幹線建設工事に伴い、群馬県内では23遺跡の埋蔵文化財発掘調査が行われましたが、平成3年3月をもって18年間の歳月を要した調査がすべて終了します。

ここに報告する融通寺遺跡は、高崎市に所在する遺跡で、昭和50年度に本線部分、昭和57～58年度に側道部分の調査が行われました。本線側・道部分の調査を通して、狭い範囲ながら301軒の住居跡が調査されました。その大部分は、奈良・平安時代のものです。調査された遺構・遺物は、平成元年7月より報告書刊行のための整理作業を行いました。その過程で瓦塔片・銅椀片を確認し、遺跡の近くに古代寺院跡が存在する資料を得ることができました。

酷寒・酷暑の日もいとわず、連日進められた調査の結果得られた、遺構・遺物の資料を収め、後世の人々に残す記録として、本報告書を上梓することができましたのも、日本鉄道建設公団、東日本旅客鉄道株式会社をはじめとする多くの調査関係者のご指導とご協力の賜物であります。ここに深甚なる感謝の意を表し、併せて本報告書が一般県民・研究者に広く活用されることを願い序とします。

平成3年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 清水 一郎





# 例 言

1 本書は上越新幹線建設工事に伴う事前調査として、昭和49年から昭和59年にかけて実施した高崎市大八木町字融通寺106他、下小島町字神戸278・字融通寺23他に所在する融通寺遺跡の発掘調査報告書である。

2 融通寺遺跡は事前調査でNo24・25地区と命名された地点である。

3 発掘調査は日本鉄道建設公団の委託を受けて、群馬県教育委員会および財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。調査年度・調査期間・担当者は次の通りである。

第一次調査 群馬県教育委員会 昭和50年4月16日～昭和51年2月15日

担当者 石川正之助 長谷部達雄 前沢和之 飯塚卓二 佐藤明人 下城正 調査員 中里吉伸 森尚登

第二次調査 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 昭和58年1月15日～昭和58年3月31日

担当者 飯塚卓二 女屋和志雄 井川達雄 調査員 宮下万喜子

第三次調査 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 昭和58年4月1日～昭和58年8月31日

担当者 関晴彦 井川達雄 調査員 宮下万喜子

4 整理事業は、群馬県教育委員会を通じ、東日本旅客鉄道株式会社の委託を受けて、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成元年7月1日～平成3年3月31日にかけて実施した。担当者は次の通りである。

## 事務担当職員

常務理事 邊見長雄 事務局長 松本浩一 管理部長 田口紀雄 調査研究部長 神保侑史 庶務課長 住谷進 岩丸大作(平成2年4.1～) 調査研究部第二課長 桜場一寿 能登健(平成2年4.1～) 庶務課主任 国定均 笠原秀樹 小林昌嗣 須田朋子 吉田有光 主事 柳岡良宏

## 整理担当職員

専門員 中東耕志 主任調査研究員 井川達雄 大西雅広 嘱託員 新井悦子 補助員 山田キミ子 原島弘子 安達好子 阿部幸恵 戸神晴美 岡田美知江 茂木順子 木暮芳枝 長岡美和子 大野容子 白井和子 富沢スミ江 吉田文子 六反田達子 岩渕節子 小野寺仁子 筑井弘子 宇佐美征子 五明志津江 石井きよ子 立川千栄子 平林照美 柴田敏子 岸トキ子 田所順子 佐子昭子

5 遺構写真撮影については各担当者が、遺物撮影については当事業団技師佐藤元彦が担当した。

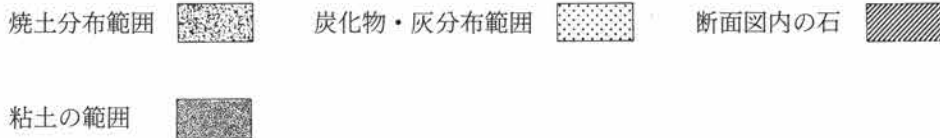
6 本書の編集は、中東耕志・井川達雄・大西雅広がおこない、第I章から第IV章の執筆は森田秀策・井川達雄・大西雅広がおこなった。執筆分担は下記の通りである。第V章については各節ごとに執筆者を記載してある。なお、第IV章の遺物観察表の瓦については須田茂・板碑については新倉明彦が行った。

第I章 森田秀策 第II章 井川達雄 第III章 井川達雄 第IV章 井川達雄・大西雅広

- 7 本書の作成にあたっては、下記の方々からご協力・ご教示をいただいた。記して感謝の意を呈する次第である。
- 8 石器・石製品の石質鑑定については、飯島静雄氏にお願いした。
- 9 第一次調査の出土人骨については聖マリアンナ医科大学の森本岩太郎教授はじめ小片丘彦（現鹿児島大学教授）・吉田俊爾の各先生に、第二次調査の人骨については大間々高等学校教諭宮崎重雄先生に鑑定をお願いした。
- 10 出土馬骨については大間々高等学校教諭宮崎重雄先生に鑑定をお願いした。
- 11 本書の作成にあたっては、各方面から多大な協力を得た。また、発掘調査に際しては現場で働いていただいた方々をはじめ、遺跡周辺の方々から多大なるご支援をいただいた。記して感謝の意を表するしだいである。
- 12 当遺跡出土の遺物・実測図・写真等の資料は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

# 凡 例

- 1 地区番号・遺構番号は、調査時点での番号を継承することを原則としたが、番号の重複・遺構種の判断の変更により、番号を変えたもの・欠番にしたものがある。また、土坑については全数を掲載することはできなかったため、掲載できなかった土坑は報告書では欠番になっている。
- 2 遺物番号は、復元の段階で報告書掲載予定のものにたいして、台帳登録順に連続番号を与えた。従って、同一遺構内出土の遺物でも番号が離れている場合もある。また、後の検討により、移動・削除した遺物があり、それらの遺物は、報告書では欠番になっている。
- 3 遺物番号は、遺物実測図・遺物観察表・遺物写真・遺構図の出土地点・考察を通して一致する。
- 4 遺構図の縮尺は、住居跡・井戸・土坑が1/60、住居跡の竈などの微細図1/30、溝1/100～1/300、水田1/300としたが、これ以外の縮尺もある。各遺構にはスケール・縮尺がいられてある。
- 5 遺物図の縮尺は、1/3を基準としたが、基石・銭などの小さい遺物は1/1・1/2を用い、大型の土器・板碑などには1/4～1/6を用いた。各遺物の縮尺率ごとにスケール・縮尺が入れてある。
- 6 遺物観察表の記載の [ ] は遺存値、( ) は推定値を表す。
- 7 当遺跡の方位は、磁北を表し、主軸などの方位は磁北を基準にしてある。
- 8 竈を有する住居跡の主軸方位は、竈を施設する壁に平行する方向と磁北との角度を表し、竈のない住居跡の主軸方位は長軸線と磁北との角度を表す。
- 9 遺構図に使用したスクリントーンは下記の通りである。



- 10 遺物図に使用したスクリントーンは下記の通りである。



- 11 遺構実測図は、完掘後に作成してあるために、平面図に新旧関係は表現されない。新旧関係が明らかな遺構は別途に測量してある。
- 12 遺物観察表中の色調は、農林水産省水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修『標準土色別帖』を使用した。

# 目 次

## 第1分冊

巻頭図版

序

例 言

凡 例

第I章 調査に至る経過 .....	1
第II章 調査の方法 .....	4
第III章 遺跡の概要 .....	6
第1節 遺跡の立地と環境 .....	6
第2節 周辺の遺跡 .....	6
第3節 遺跡の概要 .....	9
第IV章 発見された遺構と遺物 .....	11
第1節 JS24地区(県道南1～3区)発見の遺構と遺物 .....	13

## 第2分冊

第2節 JS25地区(県道北3～5区)発見の遺構と遺物 .....	335
-----------------------------------	-----

第V章 調査の成果と問題点 .....	709
第1節 融通寺遺跡出土の瓦について .....	711
第2節 融通寺遺跡出土の文字資料 .....	714
第3節 融通寺4区2号井戸跡出土の人骨について .....	715
第4節 融通寺遺跡出土の中世人骨について .....	718
第5節 融通寺遺跡出土の馬骨について .....	721
第6節 融通寺遺跡出土の板碑について .....	724
第7節 融通寺遺跡の特徴と問題点 .....	726

# 挿 図 目 次

第 1 図	調査区位置図	5
第 2 図	遺跡の位置と周辺の遺跡	7
第 3 図	1 区 1 号住居跡	13
第 4 図	1 区 1 号住居跡出土遺物	14
第 5 図	1 区 2 号住居跡	16
第 6 図	1 区 2 号住居跡出土遺物①	16
第 7 図	1 区 2 号住居跡出土遺物②	17
第 8 図	1 区 3・7 号住居跡	18
第 9 図	1 区 3 号住居跡出土遺物①	19
第 10 図	1 区 3 号住居跡出土遺物②	20
第 11 図	1 区 7 号住居跡出土遺物	20
第 12 図	1 区 4 号住居跡	22
第 13 図	1 区 4 号住居跡エレベーション・竈エレベーション	23
第 14 図	1 区 4 号住居跡出土遺物	23
第 15 図	1 区 5 号住居跡	25
第 16 図	1 区 5 号住居跡出土遺物	26
第 17 図	1 区 6 号住居跡	28
第 18 図	1 区 6 号住居跡出土遺物①	29
第 19 図	1 区 6 号住居跡出土遺物②	30
第 20 図	1 区 8 号住居跡・同掘形	33
第 21 図	1 区 8 号住居跡出土遺物①	34
第 22 図	1 区 8 号住居跡出土遺物②	35
第 23 図	1 区 9 号住居跡	38
第 24 図	1 区 9 号住居跡竈断面	39
第 25 図	1 区 9 号住居跡出土遺物①	39
第 26 図	1 区 9 号住居跡出土遺物②	40
第 27 図	1 区 10・11 号住居跡	42
第 28 図	1 区 10 号住居跡出土遺物	43
第 29 図	1 区 12 号住居跡	44
第 30 図	1 区 12 号住居跡出土遺物①	44
第 31 図	1 区 12 号住居跡出土遺物②	45
第 32 図	2 区 13 号住居跡	46
第 33 図	2 区 13 号住居跡出土遺物	46
第 34 図	2 区 14・15 号住居跡	48
第 35 図	2 区 14 号住居跡出土遺物	48
第 36 図	2 区 15 号住居跡出土遺物	49
第 37 図	2 区 16・17 号住居跡	52
第 38 図	2 区 16 号住居跡出土遺物	52
第 39 図	2 区 17 号住居跡出土遺物	53
第 40 図	2 区 18 号住居跡	55
第 41 図	2 区 18 号住居跡出土遺物	56
第 42 図	2 区 19・20 号住居跡	57
第 43 図	2 区 19・20 号住居跡断面・エレベーション	58
第 44 図	2 区 19 号住居跡出土遺物①	58
第 45 図	2 区 19 号住居跡出土遺物②	59
第 46 図	2 区 20 号住居跡出土遺物①	59
第 47 図	2 区 20 号住居跡出土遺物②	60
第 48 図	2 区 21・27・28 号住居跡	63
第 49 図	2 区 21 号住居跡出土遺物①	63
第 50 図	2 区 21 号住居跡出土遺物②	64
第 51 図	2 区 27 号住居跡出土遺物	64
第 52 図	2 区 28 号住居跡出土遺物	65
第 53 図	2 区 22 号住居跡	67
第 54 図	2 区 22 号住居跡出土遺物①	68
第 55 図	2 区 22 号住居跡出土遺物②	69
第 56 図	2 区 23 号住居跡	70

第 57 図	2 区23号住居跡出土遺物	71
第 58 図	2 区24・25・26号住居跡	72
第 59 図	2 区24号住居跡出土遺物	73
第 60 図	2 区25号住居跡出土遺物	73
第 61 図	2 区26号住居跡出土遺物	74
第 62 図	1 区29号住居跡	76
第 63 図	2 区30・54・55・56・57号住居跡	77
第 64 図	2 区30・55・56・57号住居跡エレベーション、57号住居跡竈エレベーション	78
第 65 図	2 区30号住居跡出土遺物	78
第 66 図	2 区54号住居跡出土遺物	78
第 67 図	2 区56号住居跡出土遺物①	79
第 68 図	2 区56号住居跡出土遺物②	80
第 69 図	2 区57号住居跡出土遺物①	80
第 70 図	2 区57号住居跡出土遺物②	81
第 71 図	2 区31号住居跡	86
第 72 図	2 区31号住居跡出土遺物①	87
第 73 図	2 区31号住居跡出土遺物②	88
第 74 図	2 区32号住居跡	90
第 75 図	2 区33号住居跡	90
第 76 図	2 区33号住居跡出土遺物	90
第 77 図	2 区34・43号住居跡	91
第 78 図	2 区34号住居跡エレベーション、竈エレベーション	92
第 79 図	2 区34号住居跡出土遺物①	92
第 80 図	2 区34号住居跡出土遺物②	93
第 81 図	2 区35・36・37号住居跡	96
第 82 図	2 区35号住居跡出土遺物	96
第 83 図	2 区36号住居跡出土遺物	97
第 84 図	2 区37号住居跡出土遺物①	97
第 85 図	2 区37号住居跡出土遺物②	98
第 86 図	2 区38号住居跡	100
第 87 図	2 区38号住居跡出土遺物	101
第 88 図	2 区39・40・42号住居跡	103
第 89 図	2 区39号住居跡出土遺物①	103
第 90 図	2 区39号住居跡出土遺物②	104
第 91 図	2 区40号住居跡出土遺物	104
第 92 図	2 区42号住居跡出土遺物	104
第 93 図	2 区41・44・45・46・53号住居跡	107
第 94 図	2 区41号住居跡出土遺物	108
第 95 図	2 区44号住居跡出土遺物	108
第 96 図	2 区45号住居跡出土遺物	108
第 97 図	2 区46号住居跡出土遺物	109
第 98 図	2 区53号住居跡出土遺物①	109
第 99 図	2 区53号住居跡出土遺物②	110
第100図	2 区53号住居跡出土遺物③	111
第101図	2 区47号住居跡	115
第102図	2 区47号住居跡竈断面	116
第103図	2 区47号住居跡出土遺物	116
第104図	2 区48号住居跡エレベーション	117
第105図	2 区48号住居跡	118
第106図	2 区48号住居跡出土遺物	118
第107図	2 区49・50・51号住居跡	120
第108図	2 区49号住居跡出土遺物	120
第109図	2 区51号住居跡出土遺物	120
第110図	2 区52号住居跡	122
第111図	2 区52号住居跡出土遺物	122
第112図	2 区58号住居跡	124
第113図	2 区58号住居跡出土遺物①	124
第114図	2 区58号住居跡出土遺物②	125
第115図	2 区59号住居跡	126

第116図	2区60・64号住居跡	127
第117図	2区60号住居跡出土遺物	128
第118図	2区64号住居跡出土遺物	128
第119図	2区61・155号住居跡	130
第120図	2区61・155号住居跡掘形	131
第121図	2区61号住居跡出土遺物①	131
第122図	2区61号住居跡出土遺物②	132
第123図	2区61号住居跡出土遺物③	133
第124図	2区61号住居跡出土遺物④	134
第125図	2区62号住居跡	138
第126図	2区62号住居跡出土遺物	138
第127図	1区63号住居跡	139
第128図	1区63号住居跡掘形	140
第129図	1区63号住居跡出土遺物①	140
第130図	1区63号住居跡出土遺物②	141
第131図	2区65号住居跡	143
第132図	2区65号住居跡出土遺物	143
第133図	2区66号住居跡	144
第134図	2区66号住居跡出土遺物①	144
第135図	2区66号住居跡出土遺物②	145
第136図	1区67号住居跡	146
第137図	1区67号住居跡出土遺物	146
第138図	2区68号住居跡	147
第139図	2区68号住居跡出土遺物①	147
第140図	2区68号住居跡出土遺物②	148
第141図	1区69・70・76号住居跡	149
第142図	1区69号住居跡出土遺物	150
第143図	1区70号住居跡出土遺物	150
第144図	1区76号住居跡出土遺物	150
第145図	2区71号住居跡	152
第146図	2区71号住居跡出土遺物①	152
第147図	2区71号住居跡出土遺物②	153
第148図	2区72・74号住居跡	155
第149図	2区72号住居跡出土遺物	155
第150図	2区74号住居跡出土遺物①	155
第151図	2区74号住居跡出土遺物②	156
第152図	2区73号住居跡	158
第153図	2区73号住居跡出土遺物	158
第154図	1区75号住居跡	159
第155図	1区75号住居跡出土遺物	160
第156図	1区77号住居跡	161
第157図	1区77号住居跡出土遺物	161
第158図	1区79・87・88号住居跡エレベーション、79号住居跡断面	162
第159図	1区78・79・87・88号住居跡	163
第160図	1区78号住居跡出土遺物	163
第161図	1区79号住居跡出土遺物	163
第162図	1区80号住居跡	164
第163図	1区80号住居跡断面・エレベーション	165
第164図	1区80号住居跡掘形	165
第165図	1区80号住居跡出土遺物	166
第166図	1区81号住居跡電エレベーション	167
第167図	1区81・82号住居跡	168
第168図	1区83号住居跡エレベーション	168
第169図	1区83号住居跡	169
第170図	1区83号住居跡出土遺物	169
第171図	1区84号住居跡	170
第172図	1区84号住居跡出土遺物	170
第173図	1区85・96号住居跡	171
第174図	1区85号住居跡出土遺物	172

第175図	1区96号住居跡出土遺物	172
第176図	1区86号住居跡	173
第177図	1区86号住居跡出土遺物	174
第178図	1区89・95号住居跡	175
第179図	1区89号住居跡出土遺物	175
第180図	1区95号住居跡出土遺物	175
第181図	1区90号住居跡	176
第182図	1区90号住居跡出土遺物	177
第183図	1区91号住居跡エレベーション	177
第184図	1区91号住居跡	178
第185図	1区91号住居跡出土遺物	178
第186図	1区92・93・94号住居跡	180
第187図	1区93号住居跡出土遺物	180
第188図	1区97号住居跡	181
第189図	1区97号住居跡出土遺物	181
第190図	2区98号住居跡	182
第191図	2区98号住居跡断面・竈断面	183
第192図	2区98号住居跡掘形	183
第193図	2区98号住居跡電掘形断面	184
第194図	2区98号住居跡出土遺物①	184
第195図	2区98号住居跡出土遺物②	185
第196図	2区99・100・101号住居跡	187
第197図	2区100号住居跡出土遺物	187
第198図	2区101号住居跡出土遺物	188
第199図	1区102・105号住居跡	189
第200図	1区102号住居跡出土遺物	189
第201図	1区103・107・112号住居跡	190
第202図	1区103号住居跡出土遺物	191
第203図	1区107号住居跡出土遺物	191
第204図	2区106号住居跡・同掘形	192
第205図	2区106号住居跡電掘形断面	193
第206図	2区106号住居跡出土遺物①	193
第207図	2区106号住居跡出土遺物②	194
第208図	2区108号住居跡	196
第209図	2区108号住居跡出土遺物①	196
第210図	2区108号住居跡出土遺物②	197
第211図	2区113号住居跡	198
第212図	2区113号住居跡出土遺物	199
第213図	2区117号住居跡	200
第214図	2区117号住居跡出土遺物①	200
第215図	2区117号住居跡出土遺物②	201
第216図	1区118号住居跡エレベーション	202
第217図	1区118・119号住居跡	203
第218図	1区118号住居跡出土遺物	203
第219図	1区119号住居跡出土遺物	204
第220図	2区120号住居跡	205
第221図	2区120号住居跡出土遺物	205
第222図	1区122号住居跡	207
第223図	1区123号住居跡断面	207
第224図	1区123号住居跡	208
第225図	1区122・123号住居跡掘形	208
第226図	1区122号住居跡出土遺物①	209
第227図	1区122号住居跡出土遺物②	210
第228図	1区123号住居跡出土遺物	211
第229図	1区124・130号住居跡	214
第230図	2区125号住居跡	215
第231図	2区125号住居跡出土遺物	215
第232図	1区126号住居跡	216
第233図	1区126号住居跡掘形	217



第234図	1 区126号住居跡出土遺物	217
第235図	2 区128号住居跡	218
第236図	2 区128号住居跡出土遺物①	218
第237図	2 区128号住居跡出土遺物②	219
第238図	2 区129号住居跡	220
第239図	2 区129号住居跡出土遺物	220
第240図	2 区131号住居跡	221
第241図	2 区131号住居跡出土遺物	222
第242図	2 区132号住居跡	222
第243図	2 区132号住居跡出土遺物	223
第244図	2 区133・140号住居跡	224
第245図	2 区133号住居跡掘形エレベーション	224
第246図	2 区133号住居跡掘形	225
第247図	2 区133号住居跡出土遺物①	225
第248図	2 区133号住居跡出土遺物②	226
第249図	2 区134号住居跡	229
第250図	2 区134号住居跡出土遺物①	229
第251図	2 区134号住居跡出土遺物②	230
第252図	2 区136号住居跡	231
第253図	2 区136号住居跡出土遺物	232
第254図	2 区137号住居跡	232
第255図	2 区137号住居跡掘形	233
第256図	2 区137号住居跡出土遺物①	233
第257図	2 区137号住居跡出土遺物②	234
第258図	2 区137号住居跡出土遺物③	235
第259図	2 区138号住居跡	237
第260図	2 区141号住居跡	238
第261図	2 区141号住居跡出土遺物①	238
第262図	2 区141号住居跡出土遺物②	239
第263図	2 区142号住居跡断面	240
第264図	2 区142号住居跡	241
第265図	2 区142号住居跡出土遺物①	241
第266図	2 区142号住居跡出土遺物②	242
第267図	2 区143号住居跡第1床面	243
第268図	2 区143号住居跡第1床面断面	244
第269図	2 区143号住居跡第2床面	244
第270図	2 区143号住居跡掘形	245
第271図	2 区143号住居跡出土遺物①	245
第272図	2 区143号住居跡出土遺物②	246
第273図	2 区145号住居跡電エレベーション	247
第274図	2 区145号住居跡	248
第275図	2 区145号住居跡出土遺物	248
第276図	2 区146号住居跡・同掘形	249
第277図	2 区146号住居跡出土遺物①	249
第278図	2 区146号住居跡出土遺物②	250
第279図	2 区147号住居跡・同掘形	251
第280図	2 区147号住居跡出土遺物	251
第281図	2 区148号住居跡	252
第282図	2 区148号住居跡掘形	253
第283図	2 区148号住居跡出土遺物	253
第284図	2 区149・156号住居跡	254
第285図	2 区149号住居跡断面、149・156号住居跡電断面	255
第286図	2 区149号住居跡掘形	255
第287図	2 区149号住居跡電掘形断面・エレベーション	256
第288図	2 区149号住居跡出土遺物①	256
第289図	2 区149号住居跡出土遺物②	257
第290図	2 区150号住居跡・同炭化物出土状態	260
第291図	2 区150号住居跡掘形	261
第292図	2 区150号住居跡出土遺物①	261

第293図	2区150号住居跡出土遺物②	262
第294図	2区151号住居跡掘形	263
第295図	2区152号住居跡	263
第296図	2区152号住居跡断面・エレベーション	264
第297図	2区152号住居跡出土遺物①	264
第298図	2区152号住居跡出土遺物②	265
第299図	2区153号住居跡	266
第300図	1区154号住居跡	266
第301図	1区154号住居跡出土遺物	267
第302図	2区1号掘立柱跡	268
第303図	2区2号掘立柱跡	269
第304図	1区1・2・3・4・5号溝跡	274
第305図	1区1・2・3・4・5号溝跡エレベーション、4号溝跡断面、6・7号溝跡	275
第306図	1区11・12号溝跡	276
第307図	1区14号、2区1号溝跡	277
第308図	2区2・3・4号溝跡	278
第309図	2区5号溝跡	279
第310図	2区6・7号溝跡	280
第311図	2区8・9・16号溝跡	281
第312図	2区10・11・12・13・14号溝跡	282
第313図	2区15・17号溝跡	283
第314図	2区18・22号溝跡	284
第315図	2区19・20号溝跡	285
第316図	2区21・23・24号溝跡	286
第317図	2区25・26・27号溝跡	287
第318図	3区1・2・3号溝跡	288
第319図	1区1・4・5号溝跡出土遺物	289
第320図	1区6・10・11号溝跡出土遺物	290
第321図	1区11・12号、2区4号溝跡出土遺物	291
第322図	2区4・5号溝跡出土遺物	292
第323図	2区7・8号溝跡出土遺物	293
第324図	2区8・9・10号溝跡出土遺物	294
第325図	2区11・12・13号溝跡出土遺物	295
第326図	2区15・17号溝跡出土遺物	296
第327図	2区22・25・26・27号溝跡出土遺物	297
第328図	2区1号井戸跡	307
第329図	2区1号井戸跡出土遺物①	308
第330図	2区1号井戸跡出土遺物②	309
第331図	2区2号井戸跡	312
第332図	2区1号土壌墓	313
第333図	2区1号土壌墓出土遺物	313
第334図	2区2号土壌墓	314
第335図	2区2号土壌墓出土遺物	314
第336図	1区1・2・3・4・5・6号土坑	317
第337図	1区8・9・10・11・12・14・16・18・19号土坑	318
第338図	1区17・20・22・23・25・27号、2区4号土坑	319
第339図	1区28・29号、2区5・6・7・10・11号土坑	320
第340図	2区12・13・14・15・18・22・23号土坑	321
第341図	2区24・26・27・28・29・36・38号土坑	322
第342図	2区43・44・45号、3区3・4・5・6号土坑	323
第343図	1区1・5・6・9号土坑出土遺物	324
第344図	2区10・12・22・27・36号土坑出土遺物	325
第345図	2区44号土坑出土遺物	326
第346図	1・2区表土出土瓦塔・瓦①	328
第347図	1・2区表土出土瓦②	329
第348図	1・2区表土出土瓦③	330
第349図	1・2区表土出土瓦④	331

# 図 版 目 次

- 巻頭図版 1 区出土瓦塔  
2 区47号住居跡出土巡方・2 区71号住居跡出土丸靴・表土出土鉈尾
- 図版 1 調査風景  
調査風景
- 図版 2 調査風景  
調査風景
- 図版 3 調査風景  
調査風景
- 図版 4 3 区本線グリッド全景（南より）  
1・2 区本線グリッド全景（北より）
- 図版 5 1・2・3 区西側道全景（南より）  
1・2・3 区東側道全景（南より）
- 図版 6 1 区東側道全景（北より）  
1 区西側道全景（北より）
- 図版 7 2 区西側道全景（南より）  
2 区東側道全景（北より）
- 図版 8 2 区K・L・M-13~17グリッド全景（北より）  
2 区K・L・M-10~17グリッド全景（南より）
- 図版 9 1 区1号住居跡遺物出土状態全景  
1 区1号住居跡貯蔵穴遺物出土状態
- 図版 10 1 区3号住居跡遺物出土状態全景  
1 区3号住居跡掘形全景
- 図版 11 1 区4号住居跡竈  
1 区4号住居跡全景
- 図版 12 1 区4・5・11号住居跡全景  
1 区5号住居跡全景
- 図版 13 1 区6号住居跡全景  
1 区8号住居跡全景
- 図版 14 1 区8号住居跡掘形全景  
1 区9号住居跡全景
- 図版 15 2 区15・16・17号住居跡遺物出土状態全景  
2 区15・16・17号住居跡全景
- 図版 16 2 区19号住居跡遺物出土状態全景（側道部分）  
2 区19・20号住居跡遺物出土状態全景
- 図版 17 2 区24・25・26号住居跡全景  
2 区24号住居跡竈
- 図版 18 2 区34号住居跡全景  
2 区36・37号住居跡遺物出土状態全景
- 図版 19 2 区36・37号住居跡全景  
2 区39・40号住居跡遺物出土状態全景
- 図版 20 2 区40・41・53号住居跡遺物出土状態全景  
2 区46号住居跡全景
- 図版 21 2 区53号住居跡  
2 区53号住居跡貯蔵穴遺物出土状態
- 図版 22 2 区57号住居跡竈  
2 区61号住居跡遺物出土状態全景
- 図版 23 2 区61号住居跡竈付近遺物出土状態  
2 区61号住居跡貯蔵穴遺物出土状態
- 図版 24 2 区63号住居跡遺物出土状態全景  
2 区63・67号住居跡全景
- 図版 25 2 区69・70・76・154号住居跡全景  
2 区71号住居跡全景
- 図版 26 1 区80号住居跡遺物出土状態全景  
1 区80号住居跡全景

- 図版 27 1区81号住居跡竈  
 1区83・84・85・90号住居跡全景  
 図版 28 1区83・85・90号住居跡掘形全景  
 1区97号住居跡遺物出土状態全景  
 図版 29 2区98号住居跡遺物出土状態全景  
 1区97・107・112号住居跡掘形全景  
 図版 30 2区117号住居跡遺物出土状態全景  
 2区117号住居跡掘形遺物出土状態全景  
 図版 31 1区118号住居跡全景  
 2区58・120号住居跡全景  
 図版 32 1区122号住居跡遺物出土状態全景  
 1区122号住居跡全景  
 図版 33 1区122号住居跡掘形全景  
 1区122号住居跡鉄製鎌出土状態  
 図版 34 2区133号住居跡遺物出土状態全景  
 2区133号住居跡全景  
 図版 35 2区137号住居跡遺物出土状態全景  
 2区141号住居跡遺物出土状態全景  
 図版 36 2区141号住居跡全景  
 2区141号住居跡掘形全景  
 図版 37 2区143号住居跡遺物出土状態全景  
 2区143号住居跡全景  
 図版 38 2区148号住居跡遺物出土状態全景  
 2区149号住居跡遺物出土状態全景  
 図版 39 2区149号住居跡掘形遺物出土状態全景  
 2区150号住居跡遺物出土状態全景  
 図版 40 2区152号住居跡掘形全景  
 1区1・2・3・4・5号溝跡全景（本線部分）  
 図版 41 1区8号溝跡全景（東側道部分・北より）  
 1区8・9・11・12号溝跡全景（東側道部分・西より）  
 1区14号溝跡全景（東側道部分・南西より）  
 図版 42 2区8・9・10号溝跡全景（東側道部分・南西より）  
 2区18号溝跡全景（東側道部分・南西より）  
 図版 43 2区8・9・10号溝跡（東側道部分・南西より）  
 3区2号溝跡全景（西側道部分・北東より）  
 1区3号土坑全景  
 図版 44 1区1・2号住居跡出土遺物  
 図版 45 1区3号住居跡出土遺物  
 図版 46 1区3・4・5号住居跡出土遺物  
 図版 47 1区5・6号住居跡出土遺物  
 図版 48 1区6号住居跡出土遺物  
 図版 49 1区7・8号住居跡出土遺物  
 図版 50 1区8号住居跡出土遺物  
 図版 51 1区8・9号住居跡出土遺物  
 図版 52 1区9・10号住居跡出土遺物  
 図版 53 1区12号、2区13・14号住居跡出土遺物  
 図版 54 2区15・16・17号住居跡出土遺物  
 図版 55 2区17・19号住居跡出土遺物  
 図版 56 2区19・20号住居跡出土遺物  
 図版 57 2区20・21号住居跡出土遺物  
 図版 58 2区21・22号住居跡出土遺物  
 図版 59 2区22・24号住居跡出土遺物  
 図版 60 2区24・25号住居跡出土遺物  
 図版 61 2区26・30・31号住居跡出土遺物  
 図版 62 2区31・33・34号住居跡出土遺物  
 図版 63 2区34号住居跡出土遺物  
 図版 64 2区34・35・36号住居跡出土遺物  
 図版 65 2区37・38・39号住居跡出土遺物  
 図版 66 2区39・40・41・42・45号住居跡出土遺物

- 图版 67 2区46·47号住居跡出土遺物  
图版 68 2区48·51·52号住居跡出土遺物  
图版 69 2区52·53号住居跡出土遺物  
图版 70 2区53·56号住居跡出土遺物  
图版 71 2区56·57号住居跡出土遺物  
图版 72 2区57号住居跡出土遺物  
图版 73 2区57·58·61号住居跡出土遺物  
图版 74 2区61号住居跡出土遺物  
图版 75 2区61号住居跡出土遺物  
图版 76 2区61号、1区63号住居跡出土遺物  
图版 77 2区64·65·66号住居跡出土遺物  
图版 78 1区67·69·70、2区66·68·71号住居跡出土遺物  
图版 79 2区71·72·73号住居跡出土遺物  
图版 80 2区73·74号住居跡出土遺物  
图版 81 1区75·78·80·83·85号住居跡出土遺物  
图版 82 1区89·91·93·95号住居跡出土遺物  
图版 83 1区96·97·102号、2区98·100·101号住居跡出土遺物  
图版 84 1区103号、2区106·108号住居跡出土遺物  
图版 85 2区106·108号住居跡出土遺物  
图版 86 1区118·122号、2区113·117·120号住居跡出土遺物  
图版 87 1区122号住居跡出土遺物  
图版 88 1区122·123号、2区125号住居跡出土遺物  
图版 89 1区126号、2区128·129·131·133号住居跡出土遺物  
图版 90 2区133·134号住居跡出土遺物  
图版 91 2区134·136·137号住居跡出土遺物  
图版 92 2区137·141号住居跡出土遺物  
图版 93 2区141·142·143号住居跡出土遺物  
图版 94 2区143·145·146·147号住居跡出土遺物  
图版 95 2区148·149号住居跡出土遺物  
图版 96 2区149·150·152号住居跡出土遺物  
图版 97 1区154号、2区152号住居跡、1区1·4号溝跡出土遺物  
图版 98 1区4·5·6·10号溝跡出土遺物  
图版 99 1区10·11号、2区4号溝跡出土遺物  
图版100 2区4·5·7号溝跡出土遺物  
图版101 2区7·8·9号溝跡出土遺物  
图版102 2区9·10·11·12·13号溝跡出土遺物  
图版103 2区13·15号溝跡出土遺物  
图版104 2区15·17·22·26·27号溝跡、2区1号井戸跡出土遺物  
图版105 2区1号井戸跡出土遺物  
图版106 2区1号井戸跡、1·2号土墳墓出土遺物  
图版107 1区1·5·6·9号、2区10·12·20号土坑出土遺物  
图版108 2区22·27·36·44号土坑出土遺物、表土出土遺物①  
图版109 表土出土遺物②  
图版110 表土出土遺物③  
图版111 表土出土遺物④



# 第I章 発掘調査に至る過程

森田秀策

## 1 下小鳥遺跡から融通寺遺跡へ

昭和47年度に群馬県教育委員会が実施した上越新幹線地域の分布調査で93件の文化財分布をリストアップしたが、その中でNo22遺跡が下小鳥遺跡、No24・25遺跡が融通寺遺跡であった。融通寺遺跡は高崎市大八木町融通寺に所在することから命名したものである。井野川の右岸に当たり、井野川左岸の熊野堂遺跡第I地区に接し、南東には主要地方道高崎・渋川線と北部環状線を挟んで、下小鳥遺跡と接している。

昭和48年度に開始された上越新幹線地域の埋蔵文化財発掘調査は、利根郡月夜野町上津の十二原遺跡（5～7月）、大原遺跡（8～12月）の県北地域と、高崎市内で最初となった下小鳥遺跡（48年10月～49年4月）とで実施された。

下小鳥遺跡のうち日本鉄道建設公団（以下鉄建公団と略記）による用地買収が終了していた所はごく一部分であったため用地の立ち入りはスムーズにいかず、地元地権者会と鉄建公団・群馬県教委との交渉は再三にわたって行われた。すなわち下小鳥町内の地権者会は昭和48年11月26日と12月27日の2回、大八木町の地権者会は同年12月5日、12月22日、49年1月11日の3回実施され、収穫物補償と借地料の相応の支払いという条件で妥結した。両地区とも県農協中央会の指導により六郷・中川農協組合長が実質的な当事者交渉として当たり、地区の役員の方々とのやりとりがあった。下小鳥遺跡調査の段階で、大八木町の融通寺・熊野堂遺跡第I地区の用地立ち入りについても承諾されていたので、スムーズに進展した。

## 2 融通寺遺跡の発掘調査

昭和49年3月12日の鉄建公団との協議で、月夜野町の上毛高原駅周辺の調査着手が早くいけば7月頃から可能かもしれないことや、4月からは大八木町内2カ所に入ってほしいとの要請があった。この要請を受けて、融通寺遺跡への着手方針をほぼ決定したが、井野川以北の熊野堂遺跡第I地区については現状では未定である旨の連絡を3月25日に地元の役員に伝えた。

昭和49年4月4日に借地に関する調印をしたことにより準備が進み、現地調査事務所も調査地の隣接地に借用することができて、4月15日から調査が開始された。

6月18日に行われた鉄建公団との定例協議で、月夜野町・群馬町・高崎市内における用地を中心にした情勢の報告があり、大八木町内の予定については当初4月から7月までの期間を組んでいたが延長となる可能性が大きいことと、それ以降は2班編成で進行できるかもしれないとのことであり、結局この調査は翌50年2月まで1次調査が続行されることとなった。また熊野堂遺跡第I地区は9月9日から着手することとして井野川の左右両岸の調査が併行された。

## 3 発掘調査の手順をめぐって

昭和48年度から始まった大型プロジェクトによる埋蔵文化財発掘調査については、下小鳥遺跡から

## 第I章 調査に至る経過

融通寺遺跡等48～49年度頃のいわば初期における経験が以後の取り組みに生かされたものが多かった。いくつかの項目についてその概要を覚書しておきたい。

### (1) 用地について

用地の確保については終始大きな問題点として介在していた。調査側からすれば、買収済みになった場所において調査が実施できることが本来ならば最も望ましい形であるが、実情は誠に厳しい情勢であった。地権者会は交渉を少しでも有利にしたい態度から買収反対の意志で臨んでいた地域が大半であったため、特に初期においては対応に苦慮していた。文化財調査のためというのは膠着状況にあった事態の打開策として使われたともいえるが、鉄建公団側にしても、また地権者側にしてもこれは一つの鎮静期ともなったが、発掘調査入りに当たっては中心杭と巾杭の設置が必須の要件であり、当局にとっては事実上の用地立ち入りでもあった。しかし、正式買収までの期間は県教委側が借地上と物補償をするという建前をとったため、地権者交渉とか事務処理上の手数などでの煩雑さはついてまわることとなった。

もう一つの問題は調査対象地の変動であった。高崎市周辺では当初新幹線建設本線敷の巾12mが対象であり、その範囲で調査を実施したところ、その後の地権者交渉で側道（工事用道路）がつくことになったりして、二次・三次調査をせざるを得なくなったことである。これは現地における調査効率を考える上で大きな問題点となった。

### (2) 調査箇所を選定について

調査箇所の順序とか、場所の決定に当たっては、鉄建公団と群馬県教委の定例協議によって決定していったが、年度計画が調査者側の意図で進行できたことは殆どなく、用地事情と建設事情に左右されることが大半であった。調査上は計画的に進行できることが最善であるし、ましてや短期のうちに転換できることは殆ど不可能なため協議の際の対立点となることがしばしばであった。地権者交渉とか、建設業者の工程とのかかわりで左右されることだけに複雑な折衝もみられ、せっかく現地入りしながら、部分的な調査で、次の箇所への移動を強いられることもあった。

### (3) 調査体制について

昭和40年代前半位までの発掘調査は小規模なものであったが、幹線交通（上武国道・関越道新潟線・上越新幹線）の大型プロジェクト事業に伴うものになって、極めて大規模、しかも過年度の調査への転換から、抜本的な問題として1現場の調査体制とか、調査担当者1人当たりの標準発掘面積とかが問われることになった。調査箇所の対象面積にもよるが、1現場の担当者は複数であることが必要であるが、2名ではなく病気・出張・研修など不在の時も支障のないようにと3人制も強く要望が出された。調査補助員の確保により職員2名に、補助員1～2名という理想的な体制がとれれば万全であるが、考古学専攻者又は経験豊かな調査補助員をすべての現場に確保することも難しく、体制の確立については継続的な課題であった。

### (4) 作業員の雇用について

発掘調査に欠かせぬのは作業員の雇用であるが、農村地帯のしかも農閑期なら可能であった。ところが、高崎市内に入って下小鳥・融通寺遺跡の発掘が実施された頃は各方面への手配、協力依頼にもかかわらず作業員が集まらず、やむなくそれまでの調査で協力してもらっていた高崎市乗付、同八幡



原町、榛名町本郷の関係者に応援を依頼したり、経大生のアルバイトを呼びかけたりしたが、作業員不足は慢性的なこととなり、ひいては調査期間の延長にも影響したことなど事態は深刻なものがあつた。こうした経験から、現地での雇用が困難な時、送迎用の車（タクシーの使用）で遠距離からの作業員に備えることや、作業員賃金の値上げも考慮せざるを得ないこともあつた。

#### (5) 調査の効率化について

大規模な調査に伴い、どうしたら時間的にも、また経費的にも効率的な調査が可能かということについての対応をかんがえていく事も課題の一つであつた。試掘結果にもとづく安全な部分の土砂を掘開していくための機械化は急速に進められた方法であつたし、融通寺遺跡のように河川近くで堆積した粘土状の土砂は乾燥すると硬固して発掘が困難となるため適度の水分を補強する方法とかさまざまな工夫がなされた。

#### (6) 調査事務所の設営について

長期にわたる発掘調査の現場事務所をどんな場所に、どんな設備で設営していくかも事務上の課題の一つであつた。プレハブ平屋建を下小鳥遺跡では設けたが、職員や作業員の詰所という役割のほか、調査用の機器や出土品の収納、整理にも使用する目的にもかなうためと、土地の有効利用上からも融通寺遺跡では二階建のプレハブ事務所を調達した。ところが土地が軟弱のため沈んでしまい困惑したこともあつた。電気・水道・電話の導入もここ融通寺遺跡あたりから本格化し、3点セットなどと俗称した。カメラや測量機器など高価な物品もあつたため盗難騒ぎやその予防のために腐心したこともある。事務所の設置・運営についてはそのすべてが経費とのかかわりがあるため、必ずしも現場の要望どおりにはいかなかったが、さまざまな工夫により改善していく方途をさぐっていった。

#### (7) 連絡調整・研修について

現場での調査が長期化していくとそこに生ずる問題点として本庁（文化財保護課）や、他の調査事務所間との連絡調整をいかにとっていくかがあつた。そこで給料日は一斉に現場を閉じて本庁に集まることとし、課内会議を開催して、各現場の現況報告と問題点の協議、行政上の課題と方向の報告協議、研修を行ったほか、随時に「課内通信」（連絡紙）を発行して情報交換を行ってきた。職員研修（一般研修・専門研修）も欠くことができず、県主催の研修会の開催をはじめ、関ブロック地区の研修会や、埼玉・新潟県との三県連絡会議、奈良文化財研究所や他府県への研修派遣なども次第に整えられ、情報の収集と自らの充実に資することとした。

## 第II章 調査の方法

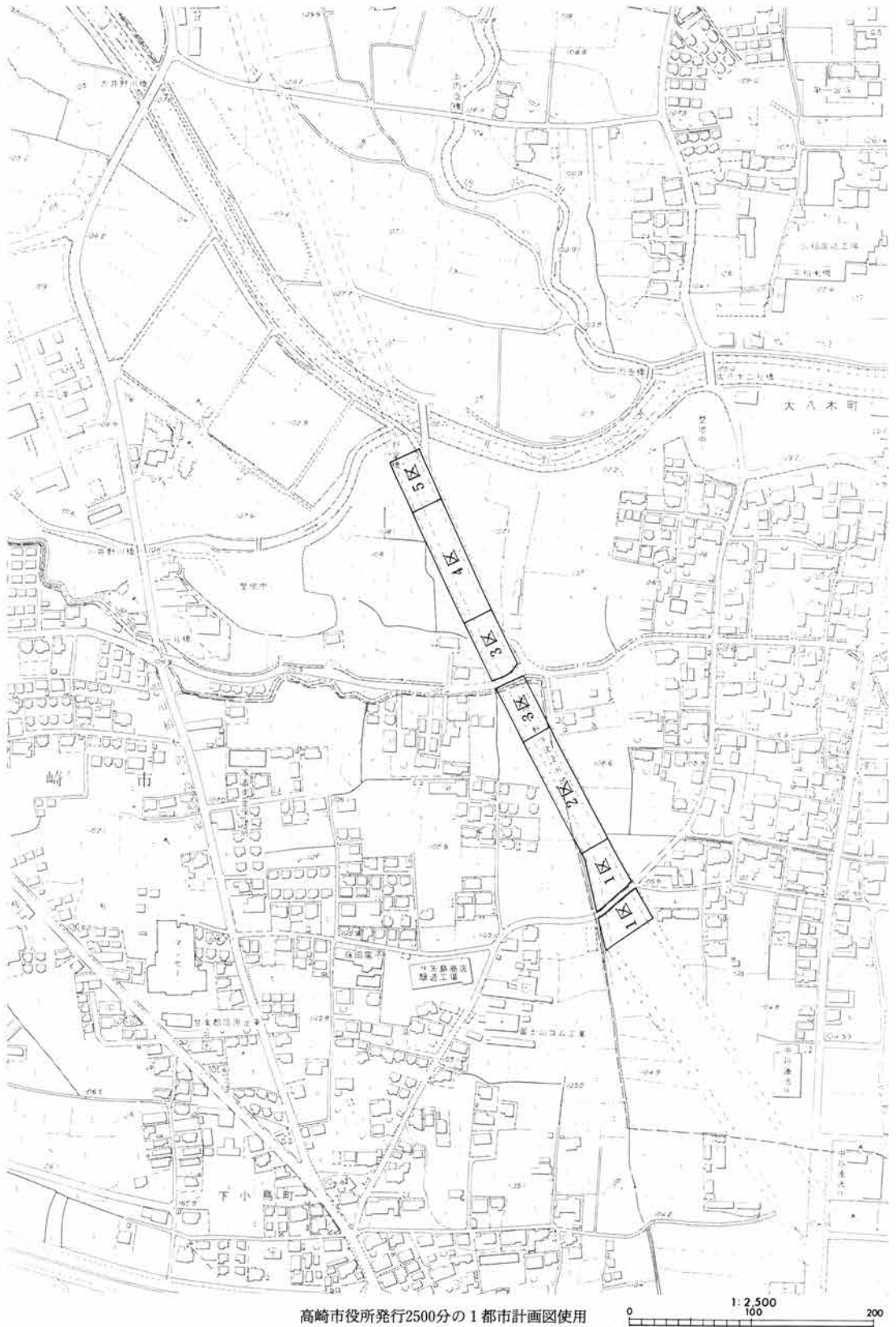
融通寺遺跡は上越新幹線大宮起点81km128m～81km541mの413mの区間である。遺跡中央を横切る市道大八木支線37号線により二分割されている。市道南は81km128m～353kmの225mの区間であり、発掘調査開始前の調査でJ S 24地区とよばれ、市道北は81km379m～541mの162mの区間でありJ S 25地区とよばれていた遺跡である。調査区間は、東に緩く曲がる地点であり、調査区・グリッドの設定はJ S 24地区とJ S 25地区で異なる。

調査区の設定は、100mを1区として設定した。各調査区の東西の中心は、J S 24地区では大宮起点81km200mと300mの新幹線センター杭を基準とし、その延長線を中心線とした。J S 25地区では大宮起点81km400mと500mのセンター杭を基準とし、その延長線を中心線とした。また、各調査区の南北方向の基準は、J S 24地区では81km200mを2区の起点とし、J S 25地区では81km400mを4区の起点とした。中心線の方位角は、J S 24地区が343°3'10"であり、J S 25地区が351°20'20"であり、J S 24地区とJ S 25地区の角度の違いは8°17'10"である。従って、J S 24地区とJ S 25地区の各区・グリッドの方向は一致しない。

各調査区のグリッドは3×3mを基本とした。グリッドの名称は、南東隅の杭の名称に一致する。各杭の名称は、東西方向をアルファベットで表示し、南北方向をアラビア数字で表示した。東西方向は中心線をMとし、東よりH～Qとし、南北方向は1～34とした。従って、グリッドの数を合計すると102mとなり、各調査区の距離より2m長くなる。従って、2区と3区の境と4区と5区の境では各調査区とグリッドは2mずれ、3区と5区はグリッドはすべて2mずつずれることになる。また、J S 24地区の1区およびJ S 25地区の3区は、各起点より逆算して名称を付した。従って、3区のグリッドの南北方向の表示は、J S 24地区とJ S 25地区では基準が異なることになり、一致しない。

各遺構の番号・遺物の取り上げはグリッド表示を用いておこなった。従って、実際の調査区はグリッドを基準とした調査区として表示される。また、遺構番号は、J S 24地区とJ S 25地区では各調査区により異なり、各調査区毎の番号と、通し番号の両者が併存する。例えば、J S 24地区の住居跡は1区・2区の通し番号であるが、J S 25地区の4区・5区は区毎に番号が付してある。

本線調査の開始にあたっては、グリッドを掘り下げ、遺構にあたった場合は広げる方法で着手した。側道調査の時点では、表土の上に新幹線工事時の盛土が約50cmあり、バックホーを用い遺構確認面まで全面的に掘り下げた。実測は、本線調査時は遣り方測量を基本とし、一部平板測量を用いた。側道調査時は、平板測量を基本とし、竈等の微細図は遣り方測量を用いた。遺構の縮尺は1:20、微細図は1:10を基本としたが、遺構の種類により縮尺を変えたものもある。モノクロ写真は35mmと6×9、カラーライドは35mmを使用した。



高崎市役所発行2500分の1都市計画図使用

第1図 調査区位置図

## 第Ⅲ章 遺跡の概要

### 第1節 遺跡の位置と地形

融通寺遺跡は高崎市の市街地の北の大八木町に所在し、高崎市の玄関である高崎駅から北約4kmの地点に位置する。遺跡の周辺は桑畑が全面に広がっている畑作・養蚕地帯であったが、近年は宅地化がすすみ、桑畑は年々減少している。

前橋市・高崎市の市街地は、平坦な台地の上に広がっている。この台地は、前橋台地と総称されており、高崎市の北に位置する融通寺遺跡も、この前橋台地の上に立地している。遺跡の北西には榛名山が聳え、その榛名山を源とする井野川が遺跡の北端を、北西から南東方向に流れている。その井野川は、遺跡の北端で支流である唐沢川・早瀬川と合流する。同じ前橋台地上の下小鳥遺跡は、低湿地であり、水位が高く、現在でもすぐ水が涌く地点であったが、融通寺遺跡は井野川の自然堤防上に位置し、水位はそれほど高くない。しかし、井野川の洪水には悩まされたようで、住居跡の検出面は、水性堆積層である。

全体的には井野川の自然堤防上に位置する遺跡であるが、微地形をみると市道が横切っている3区の中央付近が最も低く、その地点から南北に僅かずつ高まる地形になっている。住居跡もこの低地部分からは発見されず、1・2区と4・5区の2カ所に大きくわかれて営まれている。

### 第2節 周辺の遺跡

#### 旧石器・縄文時代

周辺の遺跡で、旧石器時代の遺物が発見されている遺跡は雨壺遺跡だけであり、両面加工の尖頭器が1点発見されている。

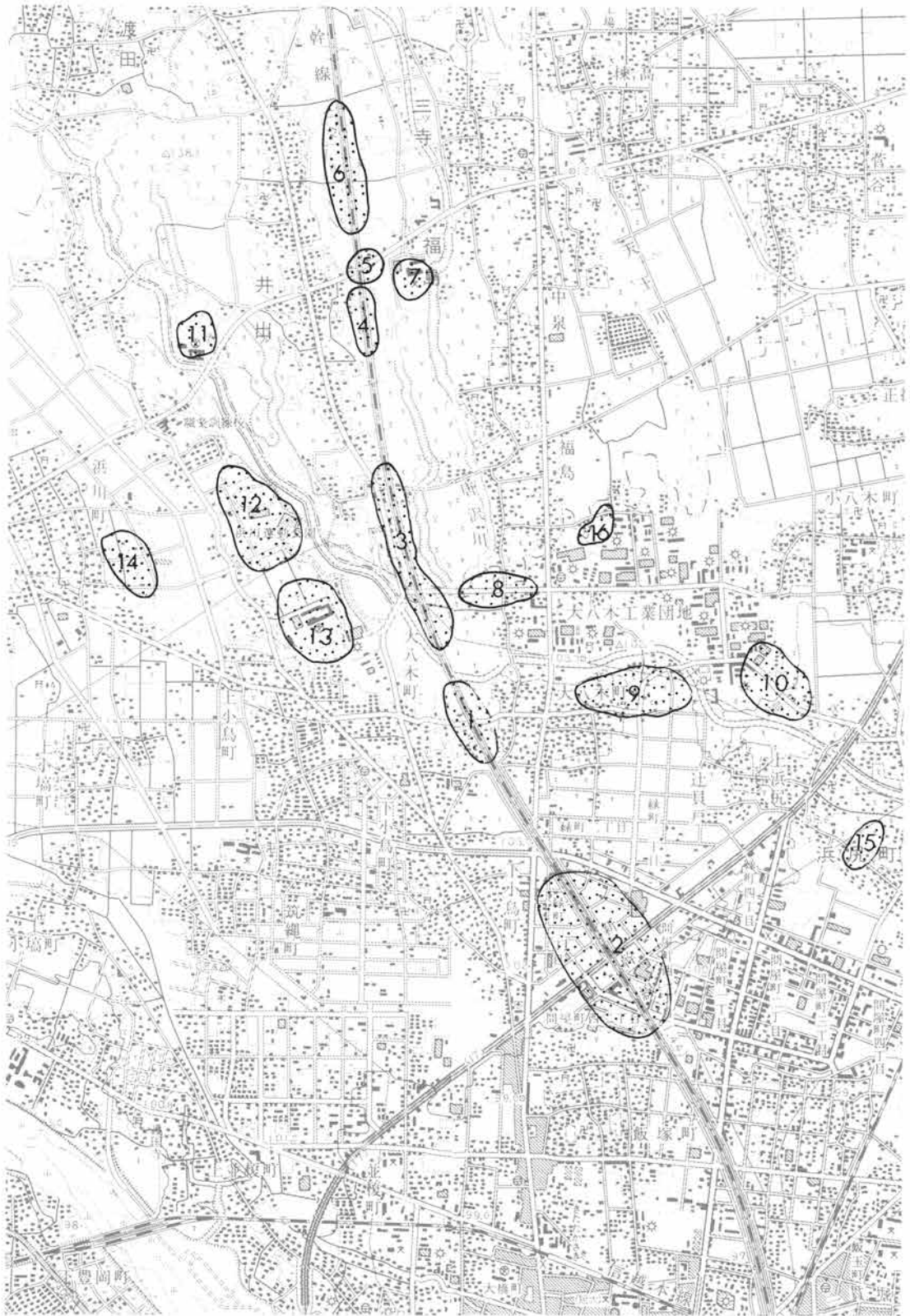
縄文時代の遺構・遺物を検出している遺跡は、大八木水田遺跡・熊野堂遺跡・三ツ寺II遺跡・雨壺遺跡・大八木遺跡・小八木遺跡・大八木箱田池遺跡である。また、住居跡を検出している遺跡は、三ツ寺II遺跡・雨壺遺跡・大八木遺跡である。これらの遺跡からは、主に縄文時代前期～後期の住居跡が発見されている。しかし、遺構の数が少なく、集落の解明には至っていないが、井野川流域には縄文時代の集落が営まれていたと推測できる。

#### 弥生時代の遺跡

弥生時代の遺構は、融通寺遺跡・熊野堂遺跡・井出村東遺跡・三ツ寺II遺跡・雨壺遺跡・小八木遺跡・浜尻遺跡から発見されている。検出されている遺構は、主に弥生時代後期の住居跡であるが、浜尻遺跡からは中期の竜見町式の土器を伴う住居跡が発見されている。小八木遺跡からは、弥生時代後期の水田・溝も発見されている。井野川流域には、縄文時代前期～後期に続き、弥生時代中期から集落が営まれていたことになる。また、小八木遺跡からは弥生時代の水田跡も発見されており、弥生時代には、集落と生産跡がこの地域に展開していたと推測できる。

#### 古墳時代の遺跡

古墳時代の住居跡は熊野堂遺跡・井出村東遺跡・三ツ寺I遺跡・三ツ寺II遺跡・中林遺跡・雨壺遺跡・大八木遺跡・小八木遺跡・芦田貝戸遺跡・大八木箱田池遺跡から発見されており、熊野堂遺跡で



周辺の地形と遺跡

500m 0 500 1000 1500

1:25,000  
国土地理院2.5万分の1地形図を使用

### 第三章 遺跡の概要

#### 周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	遺跡の概要	所在地	報告書名
1	融通寺遺跡	弥生時代末の住居跡。奈良・平安の住居跡。古墳時代の水田。中世の土壇墓。	高崎市大八木町字融通寺・下小鳥町	当報告。
2	下小鳥遺跡 大八木水田遺跡	縄文時代中期の土器。古墳時代前期の住居跡。奈良・平安時代の住居跡。浅間山B軽石下の水田。	高崎市問屋町西・緑町	『大八木水田遺跡』 高崎市教育委員会 1979
3	熊野堂遺跡	縄文時代の土器。弥生時代の住居跡。古墳時代の住居跡。奈良・平安時代の住居跡。古墳時代の水田・畑・特殊井戸。中世の陶磁器・石臼。	高崎市大八木町字熊野堂・群馬郡群馬町大字井出	『熊野堂遺跡(1)』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984 『熊野堂遺跡第III地区・雨壺遺跡』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984
4	井出村東遺跡	弥生時代の住居跡。古墳時代の住居跡。平安時代の住居跡。	群馬郡群馬町大字井出288他	『井出村東遺跡』 群馬町井出村東遺跡調査会 1983
5	三ツ寺I遺跡	古墳時代の豪族の居館。古墳時代の住居跡。平安時代の住居跡。	群馬郡群馬町大字三ツ寺	『三ツ寺I遺跡』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988
6	三ツ寺II遺跡	縄文時代前期の住居跡。弥生時代の後期の住居跡。古墳時代～奈良・平安時代の住居跡。浅間山B軽石下の住居跡。	群馬郡群馬町大字三ツ寺	
7	中林遺跡	古墳時代～平安時代の住居跡。浅間山B軽石下の住居跡。	群馬郡群馬町大字三ツ寺・大字福島	『中林遺跡調査概報』 群馬町教育委員会 1983
8	雨壺遺跡	旧石器時代の両面加工尖頭器1点。縄文時代中期の住居跡。弥生時代後期の住居跡。古墳時代前期～中期の住居跡。奈良・平安時代の住居跡。中世の陶器。	高崎市大八木町	『熊野堂遺跡第III地区・雨壺遺跡』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984
9	大八木遺跡	縄文時代中期の住居跡。古墳時代の住居跡。平安時代の住居跡。	高崎市大八木字清水・箱田池	『大八木遺跡範囲確認調査報告書』 高崎市教育委員会 1981
10	小八木遺跡	縄文時代中期の土器。弥生時代後期の住居跡。古墳時代の住居跡。弥生時代の水田・溝。浅間山B軽石下の水田・溝。中世～近世の陶磁器・石臼。	高崎市小八木町字村前・葦貝戸・井野川	『小八木遺跡(I)・(II)』 高崎市教育委員会 1979・1980
11	同道遺跡	浅間山C軽石・榛名山F A・榛名山F P・浅間山B軽石下の水田。中世の館跡。	群馬郡群馬町大字井出字同道800番地他	『同道遺跡』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査住居跡 1983
12	御布呂遺跡	浅間山C軽石・榛名山F A・榛名山F P下の水田。平安時代の住居跡。中世の建物跡。	高崎市浜川町字御布呂1440～1550	『御布呂遺跡』 高崎市教育委員会 1980
13	芦田貝戸遺跡	古墳時代の住居跡。平安時代の住居跡。浅間山C軽石・榛名山F A・浅間山B軽石下の水田。榛名山F A下の畑。	高崎市浜川町字芦田貝戸1594他	『芦田貝戸遺跡II』 高崎市教育委員会 1980
14	寺ノ内遺跡	平安時代の住居跡。浅間山B軽石下の水田。中世の館跡(長野氏関係)。中世～近世の陶磁器。板碑。	高崎市浜川町字町東・殿木	『寺ノ内遺跡』 高崎市教育委員会 1979
15	浜尻遺跡	弥生時代中期の住居跡。	高崎市浜尻町	『浜尻遺跡』 高崎市教育委員会 1981
16	大八木箱田池遺跡	縄文時代中期～後期の住居跡・土坑。古墳時代の住居跡。平安時代の住居跡。	高崎市大八木町字箱田池	『大八木箱田池遺跡』 高崎市教育委員会 1984

は古墳も調査されている。また、融通寺遺跡・熊野堂遺跡・同道遺跡・御布呂遺跡・芦田貝戸遺跡からは古墳時代の水田跡や畑跡が発見されている。

古墳時代になると、井野川流域の各遺跡からの住居跡の発見数が際立って増え、水田跡・畑跡などの生産遺構も多く発見されるようになる。古墳時代には、この地域の開発が進み、多くの集落・生産跡が営まれていたことがうかがわれる。

古墳時代で特に注目されるのは、三ツ寺Ⅰ遺跡から発見された豪族の居館である。古墳時代中期末～後期前半と考えられるこの居館の周辺からは、同時期の集落・生産跡が数多く発見されており、当時の集落・社会を解明するうえで大きな鍵となろう。

#### 奈良・平安時代の遺跡

融通寺遺跡・熊野堂遺跡からは数多くの住居跡が発見されており、下小鳥遺跡・井出村東遺跡・三ツ寺Ⅰ遺跡・三ツ寺Ⅱ遺跡・中林遺跡・雨壺遺跡・大八木遺跡・御布呂遺跡・寺ノ内遺跡・大八木箱田池遺跡からも多数発見されている。また、平安時代の末にあたる浅間山B軽石下の水田跡も下小鳥遺跡・大八木水田遺跡・三ツ寺Ⅱ遺跡・小八木遺跡・同道遺跡・芦田貝戸遺跡・寺ノ内遺跡から発見されている。井野川流域は、古墳時代に続き平安時代の集落跡・生産跡が数多く発見されており、古墳時代以降、引き続き集落・生産が営まれていたと推測できる。

#### 中世～近世の遺跡

中世～近世の遺構・遺物が発見されている遺跡は、融通寺遺跡・熊野堂遺跡・雨壺遺跡・小八木遺跡・同道遺跡・寺ノ内遺跡・御布呂遺跡である。融通寺遺跡では中世の土壌墓群が発見されており、溝内からは板碑が発見されている。御布呂遺跡からは中世の建物跡が発見されており、同道遺跡・寺ノ内遺跡からは中世の館跡が発見されている。特に、寺ノ内遺跡から発見された館跡は、長野氏との関連が指摘されている。中世～近世の遺構は不明な部分が多いが、井野川流域には、平安時代に続き中世～近世も集落、生産が営まれていたと推測できる。

### 第3節 遺跡の概要

当遺跡の集落は、井野川の洪水層と考えられる水成堆積の上に築かれている。この水成堆積層には、榛名山の火山軽石の小厩礫が多量に含まれており、榛名山の火山爆発と関係した井野川の洪水層と推測される。発見された住居跡の大部分はこの水成堆積層の上から構築されている。水成堆積層の下から発見された住居跡は、弥生時代末の住居跡が2軒だけである。また、この水性堆積層の下からは、古墳時代後期にあたりと考えられる水田が発見されている。

住居跡は、合計301軒もの多数にのぼるが、時期不明の住居跡を除き、大部分が7世紀後半以降の住居跡であり、他は弥生時代末の住居跡が2軒発見されているだけである。いわゆる古墳時代の住居跡は1軒も発見されていない。当遺跡の集落は、7世紀後半から奈良時代・平安時代に営まれた大集落といえる。

しかし、前述のように、当遺跡からは古墳時代の水田が発見されている。井野川の対岸の熊野堂遺跡からも水田が発見されている。同遺跡からは、古墳時代後期の住居跡も多数発見されており、当遺跡の水田跡は熊野堂遺跡の水田跡・住居跡と併せて考える必要がある。

### 第Ⅲ章 遺跡の概要

J S25地区南端の3区からは、中世と考えられる館の濠が発見されている。この館は、大八木屋敷と推定される。また、4区の3号溝跡からは文保2年(1318)と観應2年(1351)の年号の入った板碑が発見されており、中世の遺構・遺物も注目される。



## 第IV章 発見された遺構と遺物



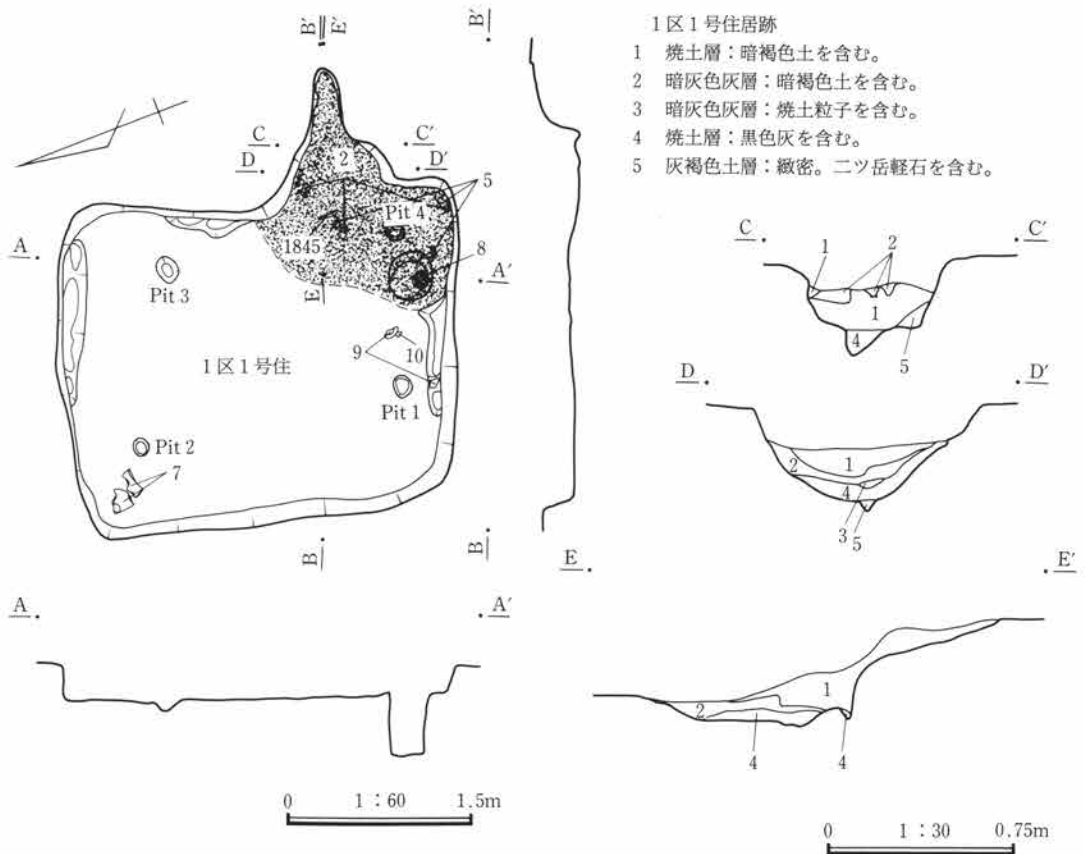
## 第1節 JS24地区（県道南1～3区）発見の遺構と遺物

## 1区1号住居跡

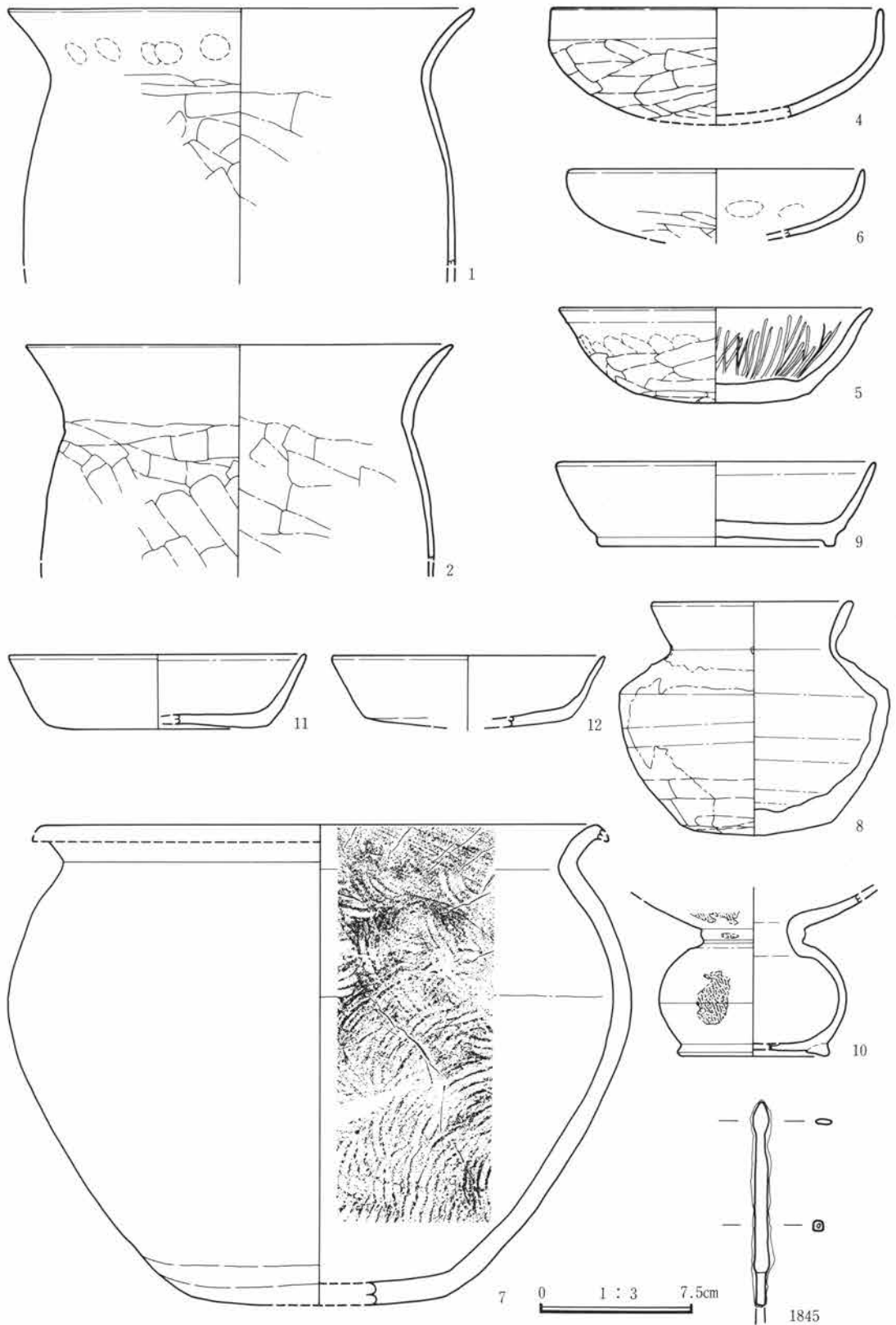
1区L-26グリッドに位置し、他遺構との重複はなく、良好な状態で検出された。平面形は、南北にやや長い隅丸長方形を呈する。規模は2.5m×3.2mを測り、主軸方位はN-15.5°-Eである。残存壁高は25cm～34cmである。床は全体に固く良好な状態であるが、西壁沿いはやや軟弱である。竈前と北壁沿いには、灰と焼土が厚く堆積している。南東隅には深さ48cmの貯蔵穴が存在し、埋土の最上部に床と口縁部が同じレベルでほぼ完形の須恵器短頸壺(8)が正位で出土している。埋土中には焼土、炭化物が多く堆積している。ピットは4基検出されており、いずれも浅いが位置的には主柱穴と考えられる。深さはピット1が18.3cm、ピット2が8cm、ピット3が8.5cm、ピット4が7cmである。壁溝は南・北・東壁の一部で確認されている。

竈は東壁の南側に構築され、屋外に98cm張り出している。奥壁から煙道にかけては、焼土が多量に堆積していた。

遺物は竈前から南壁にかけて多く分布し、灰釉陶器唾壺(10)も出土している。唾壺は2区73号住居跡との接合関係があり、時期的にも当住居跡に伴わないと考えられる。



第3図 1区1号住居跡



第4図 1区1号住居跡出土遺物

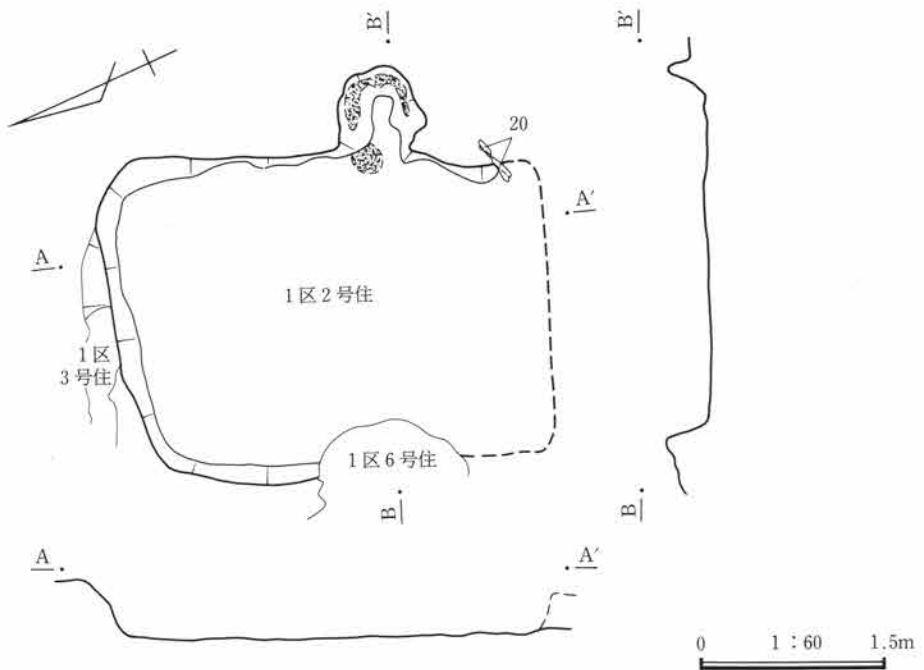
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0001	甕 土師器	器高：(124mm) 口径：[229mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上半は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上半は篋なで。	外面に油煙付着。
0002	甕 土師器	器高：(104mm) 口径：[208mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上半は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上半は篋なで。	内面に油煙付着。
0004	杯 土師器	器高：(53mm) 口径：[162mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部～胴部上半は横なで、胴部下半～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	内外面に油煙付着。
0005	杯 土師器	器高：46mm 口径：[153mm] 底径：86mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄褐。	口縁部はやや内湾しつつ開き、口縁部端部は僅かに内湾。丸底に近い平底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部は横なで。	内外面に油煙付着。
0006	杯 土師器	器高(33mm) 口径：[145mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部はほぼ直立。底部は平底に近い丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0007	甕 須恵器	器高：(231mm) 口径：[270mm] 底径：[125mm] 最大径：[304mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	口縁部は「く」字状に外反。底部は丸底に近い平底。最大径は胴部上半。外面：口縁部～胴部上端は横なで、胴部は叩き後なで、胴部下半～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部上半は横なで、胴部～底部は叩き目。	外面に油煙付着。
0008	短頸壺 須恵器	器高：113mm 口径：100mm 底径：75mm 最大径：133mm ほぼ完形	径1～2mmの砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤成形。口縁部は「く」字状に外反。底部は丸底に近い平底。最大径は胴部上半。外面：口縁部～胴部上半は回転なで、胴部下半～底部は回転篋削り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0009	椀 須恵器	器高：42mm 口径：[156mm] 底径：117mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤成形。口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。底部は回転篋切り後高台貼り付け。外面：口縁部～胴部は回転なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0010	唾壺 灰釉陶器	器高：(78mm) 口径：— 底径：75mm 口縁部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤成形。口縁部は直線的に広がり、胴部は丸い。外面頸部に凸帯が一条。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部～底部は回転なで。	外面口縁部～胴部と内面口縁部に施釉。
0011	杯 須恵器	器高：31mm 口径：[146mm] 底径：[106mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤成形。口縁部は直線的に広がる。底部は回転篋切り。外面：口縁部～胴部は回転なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	内面に油煙付着。
0012	杯 須恵器	器高：(35mm) 口径：[134mm] 底径：[102mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤成形。口縁部は直線的に広がる。底部は回転篋切り後篋なで。外面：口縁部は回転なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1845	鉄 鏝	長：(98mm) 幅：(4～8mm) 厚：3～6mm		柳葉式鏝。篋被はない。	

1区2号住居跡

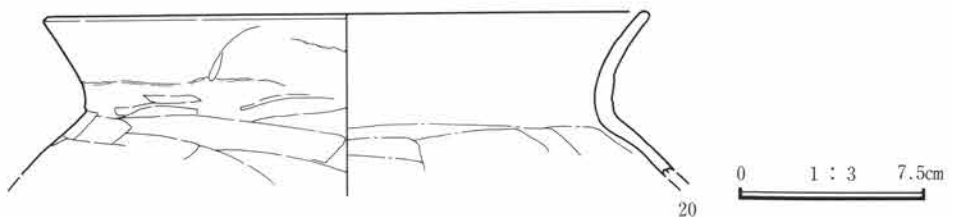
1区K-27グリッドで検出され、1区6号住居跡、1区3号住居跡と重複する。新旧関係は西壁と北壁が3号住居跡、6号住居跡の竈により破壊されていることから、いずれも当住居跡が古い。南壁と東壁付近には二ツ岳軽石が堆積しており、壁は軽石を掘り込んで構築している。しかし、南壁は二ツ岳軽石が崩壊していたため確認できなかった。平面形は隅丸長方形と考えられる。東西の規模は2.52mを測り、主軸方位はN-24°-Eである。残存壁高は0~45cmであり、遺存状態は良好である。床は、黒灰色土と黄褐色粘土塊の混土層で構築している。南半の床下に二ツ岳軽石層が堆積している部分は、同じ土を約5cmの厚さでつき固めて張り床としている。柱穴、壁溝は検出できなかった。

竈は東壁南寄りに構築され、二ツ岳軽石を掘り込んでいるため焼土が馬蹄形に残るかたちで確認された。竈前には焼土と灰が僅かに分布している。

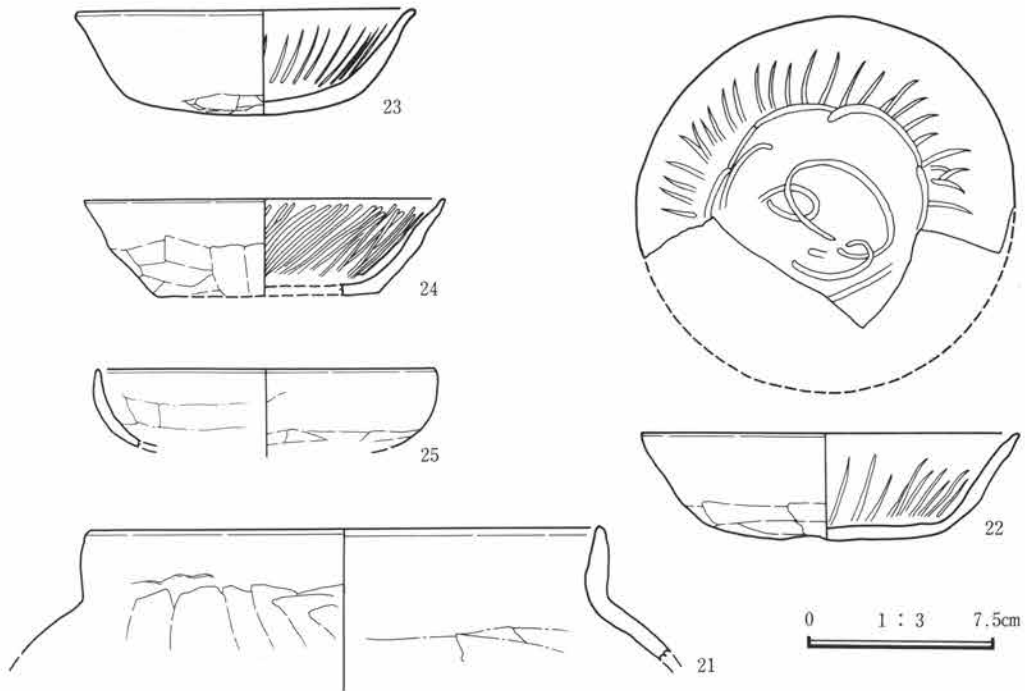
遺物量は少なく、図示できたものは6点であり、竈の南からは土師器甕(20)が出土している。



第5図 1区2号住居跡



第6図 1区2号住居跡出土遺物①



第7図 1区2号住居跡出土遺物②

番号	器種 土師器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0020	甕 土師器	器高:(65mm) 口径:240mm 底径:— 口縁部~胴部上 端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや軟質。 明赤褐色。	口縁部は「く」字状に外反。外面:口縁部は 横なで、胴部上端は篋削り。内面:口縁部 は横なで、胴部上端はなで。	内外面に油煙付 着。
0021	甕 土師器	器高:(53mm) 口径:[204 mm] 底径:— 口縁部~胴 部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。 橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面:口縁部は 横なで、胴部上端は篋削り。内面:口縁部 は横なで、胴部上端はなで。	
0022	杯 土師器	器高:42mm 口径:151mm 底径:90mm 口縁部~底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや軟質。 橙。	口縁部は直線的に広がる。底部は丸底に近い 平底。外面:口縁部は横なで、胴部~底 部は篋削り。内面:口縁部~胴部は横なで 後放射状暗文を施す。底部はなで。	
0023	杯 土師器	器高:42mm 口径:[136mm] 底径:90mm 口縁部~底部 $\frac{1}{2}$	径1~2mmの砂粒を含 む。酸化。やや軟質。 鈍い橙。	口縁部は直線的に広がる。底部は丸底に近い 平底。外面:口縁部は横なで、胴部~底 部は篋削り。内面:口縁部~胴部は横なで 後暗文を施す、底部はなで。	外面に油煙付着。
0024	杯 土師器	器高:(38mm) 口径:[144 mm] 底径:[80mm] 口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$	径1~2mmの砂粒を含 む。酸化。やや軟質。 橙。	口縁部は直線的に広がる。平底。外面:口 縁部は横なで、胴部~底部は篋削り。内面: 口縁部~胴部は横なで。	二次炎を受けてい る。
0025	杯 土師器	器高:(31mm) 口径:[134 mm] 底径:— 口縁部~底 部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。 鈍い橙。	口縁部は僅かに内湾する。丸底。外面:口 縁部は横なで、胴部~底部は篋削り。内面: 口縁部~底部上端は横なで。	

1区3号住居跡

1区K-29グリッドに位置する。1区2・6・7号住居跡と重複する。2号住居跡との新旧関係は、当住居跡の竈が2号住居跡の壁を破壊していることから当住居跡が新しい。また、6号住居跡、7号住居跡との新旧関係は、調査時の所見では当住居跡が新しいとされている。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は3.85m×3.45mを測る。主軸方位はN-26°-Eである。残存壁高は重複が多いため2~34cmである。床は中央部が固く、埋土が剥がれる状態であったが、周辺部は軟弱である。4隅には浅いピットがあり、位置的に支柱穴と考えられる。深さはピット1が不明。ピット2が23cm、ピット3が15cm、ピット4が15cmである。ピット1付近には、深さ28cmの不整形円形ピットがあるが貯蔵穴に当たるか否かは不明である。

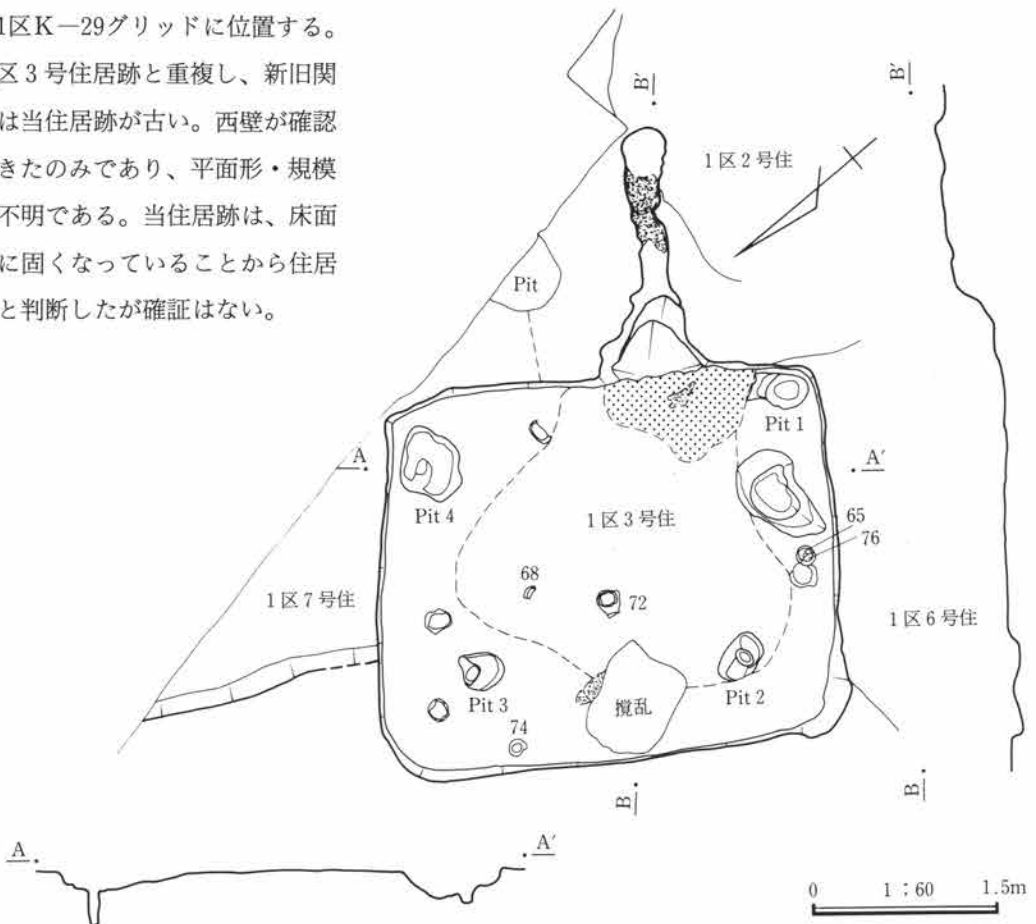
竈は東壁南寄りに構築され、煙道は壁外に190cm程延びている。燃焼部は壁外に設けている。煙道端部には、図示し得なかったが土師器甕の細片がかたまって出土しており、煙突として使用されていた可能性がある。竈前には灰が分布し、焼土塊と炭化物を混じえている。

遺物は中央床面から須恵器長頸瓶(72)、埋土中からは黒色の基石(79)が1点出土している。

1区7号住居跡

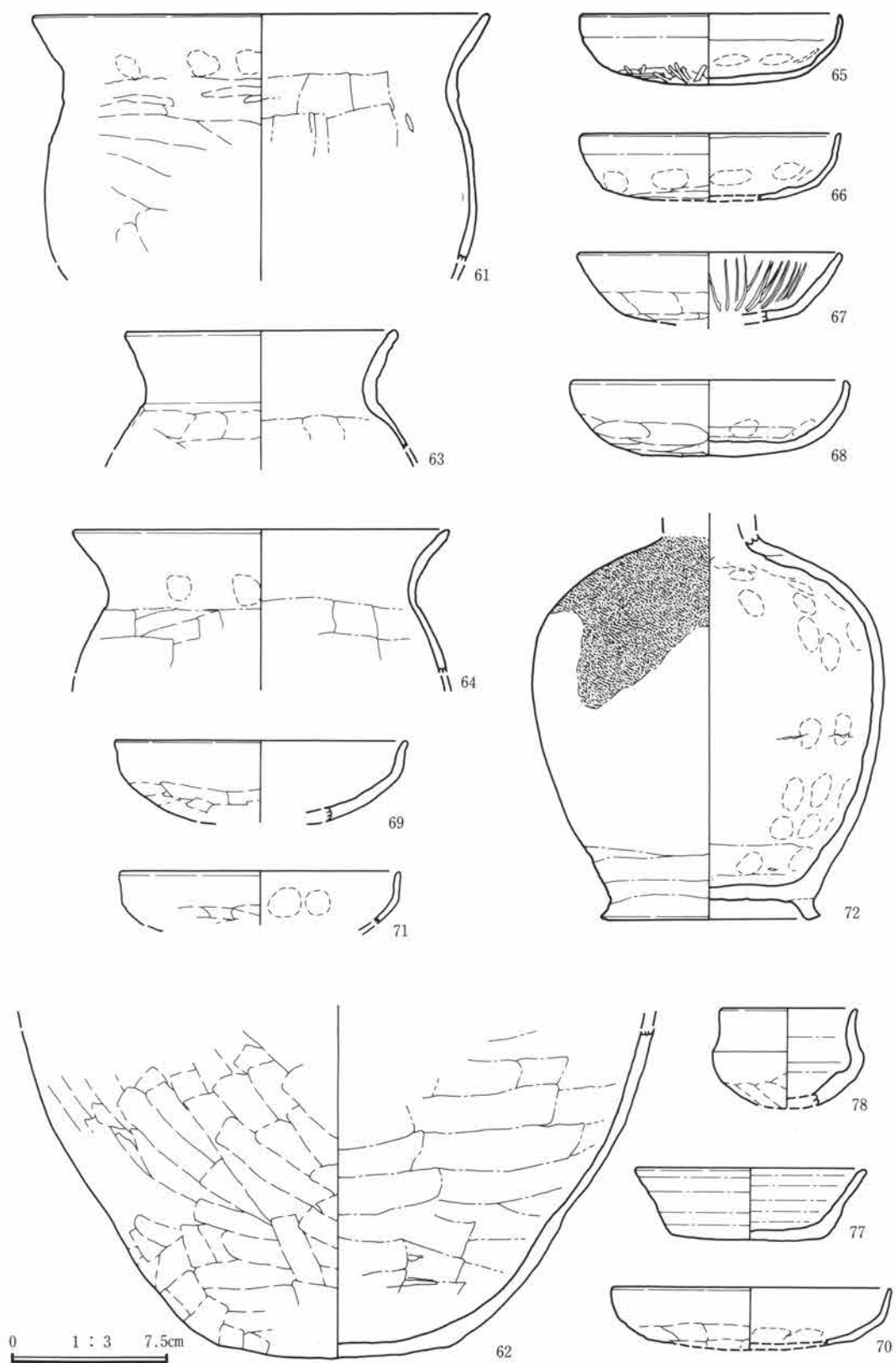
1区K-29グリッドに位置する。

1区3号住居跡と重複し、新旧関係は当住居跡が古い。西壁が確認できたのみであり、平面形・規模は不明である。当住居跡は、床面状に固くなっていることから住居跡と判断したが確証はない。

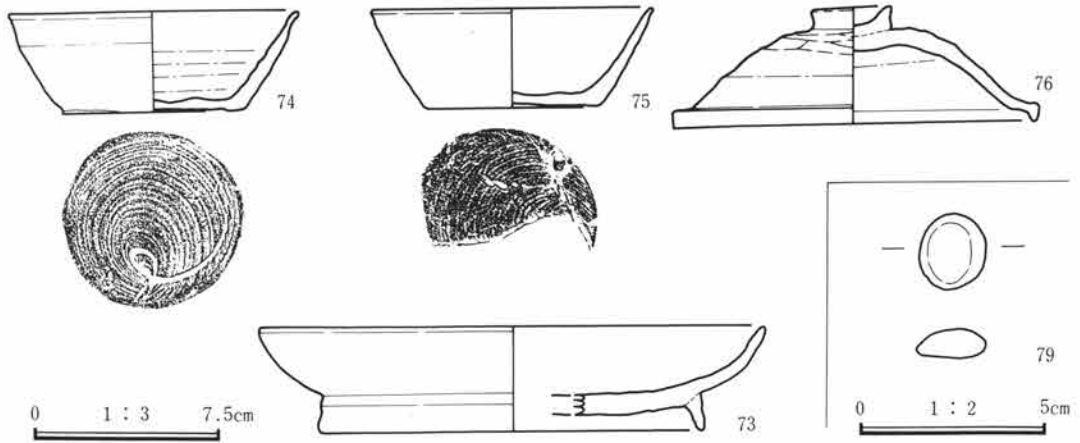


第8図 1区3・7号住居跡

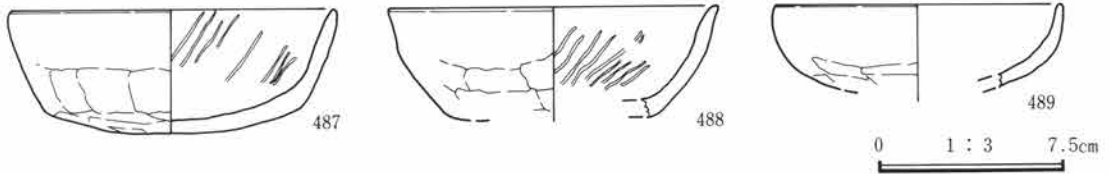




第9图 1区3号住居跡出土遺物①



第10図 1区3号住居跡出土遺物②



第11図 1区7号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0061	甕 土師器	器高：(116mm) 口径：[216mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上半は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上半は篋なで。	
0062	甕 土師器	器高：(152mm) 口径：— 底径：110mm 胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い褐。	外面：胴部下半～底部は篋削り。内面：胴部下半～底部は篋なで。	
0063	甕 土師器	器高：(56mm) 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	細砂粒をやや多量に含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上半は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上半は篋なで。	内外面に多量の油煙附着。
0064	甕 土師器	器高：(67mm) 口径：[178mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙附着。
0065	杯 土師器	器高：33mm 口径：126mm 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	口縁部は僅かに内湾。平底に近い丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部は横なで、底部はなで。	
0066	杯 土師器	器高：(31mm) 口径：124mm 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部はほぼ直立。平底に近い丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	内外面に多量の油煙附着。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0067	杯 土師器	器高：(32mm) 口径：124mm 底径：[85mm] 口縁部～底 部上半 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。酸化。 軟質。橙。	口縁部～胴部は広がる。丸底に近い平底。 外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削 り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状 暗文を施す。	
0068	杯 土師器	器高：35mm 口径：[130mm] 底径：[65mm] 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。 鈍い黄橙。	胴部～口縁部は内湾しつつ広がる。外面： 口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内 面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0069	杯 土師器	器高：(38mm) 口径：[140 mm] 底径：— 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。酸化。 やや軟質。橙。	口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は 横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁 部～底部上半は横なで、底部下半はなで。	内外面に油煙付 着。
0070	杯 土師器	器高：(27mm) 口径：[132 mm] 底径：[98mm] 口縁部 ～底部上半 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。酸化。 やや軟質。鈍い黄橙。	口縁部はほぼ直立。丸底に近い平底。外面： 口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内 面：口縁部は横なで、胴部～底部はなで。	
0071	杯 土師器	器高：(26mm) 口径：[134 mm] 底径：— 口縁部～胴 部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。酸化。 やや軟質。橙。	口縁部はほぼ直立。外面：口縁部は横なで、 胴部は篔削り。内面：口縁部～胴部はなで。	内外面に油煙付 着。
0072	長頸壺 須恵器	器高：(180mm) 口径：— 底径：103mm 最大径：166 mm 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの砂粒を含 む。還元。やや硬質。 灰。	底部は回転篔なで後高台貼り付け。最大径 は胴部上半。外面：胴部は叩き後回転なで、 一部叩き目が残る。内面：胴部～底部は叩 き後回転なで、胴部上端に頸部の貼り付け 跡が残る。外面に自然釉。	外面底部に篔記 号。
0073	皿 須恵器	器高：42mm 口径：[202mm] 底径：156mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰。	轆轤成形。底部は回転篔なで後高台貼り付 け。外面：口縁部～胴部は回転なで。内面： 口縁部～底部は回転なで。	
0074	杯 須恵器	器高：40mm 口径：117mm 底径：72mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの砂粒を含 む。還元。やや硬質。 灰白。	轆轤右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾し つつ広がる。底部は回転糸切り。外面：口 縁部～胴部は回転なで。内面：口縁部～底 部は回転なで。	外面は焼き。
0075	杯 須恵器	器高：40mm 口径：[112mm] 底径：[70mm] 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	轆轤右回転。口縁部～胴部は僅かに内湾し つつ広がる。底部は回転糸切り。外面：口 縁部～胴部は回転なで。内面：口縁部～底 部は回転なで。	二次炎を受けてい る。
0076	蓋 須恵器	器高：47mm 口径：148mm つまみ径：34mm 完形	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	轆轤成形後ぼたん状つまみ貼り付け。口縁 端部は直立。内外面共に天井部～口縁部は 回転なで。	
0077	杯 須恵器	器高：34mm 口径：[118mm] 底径：[74mm] 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$	細かい砂粒を含む。還 元。硬質。灰。	轆轤成形。胴部～口縁部は広がる。底部は 回転篔切り後篔なで。外面：口縁部～胴部 回転なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0078	短頸壺 須恵器	器高：(45mm) 口径：[64 mm] 底径：— 最大径：[72 mm] 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	細かい砂粒を含む。還 元。硬質。灰白。	轆轤成形。口縁部ほぼ直立。最大径は胴部 上半。外面：口縁部～胴部上半は回転なで、 胴部下半は篔削り。内面：口縁部～胴部は 回転なで。	
0079	碁 黒石	直径：19mm 厚：8mm 重： 3.9g	チャート。	表面は擦られて、滑らかになっている。	

第IV章 発見された遺構と遺物

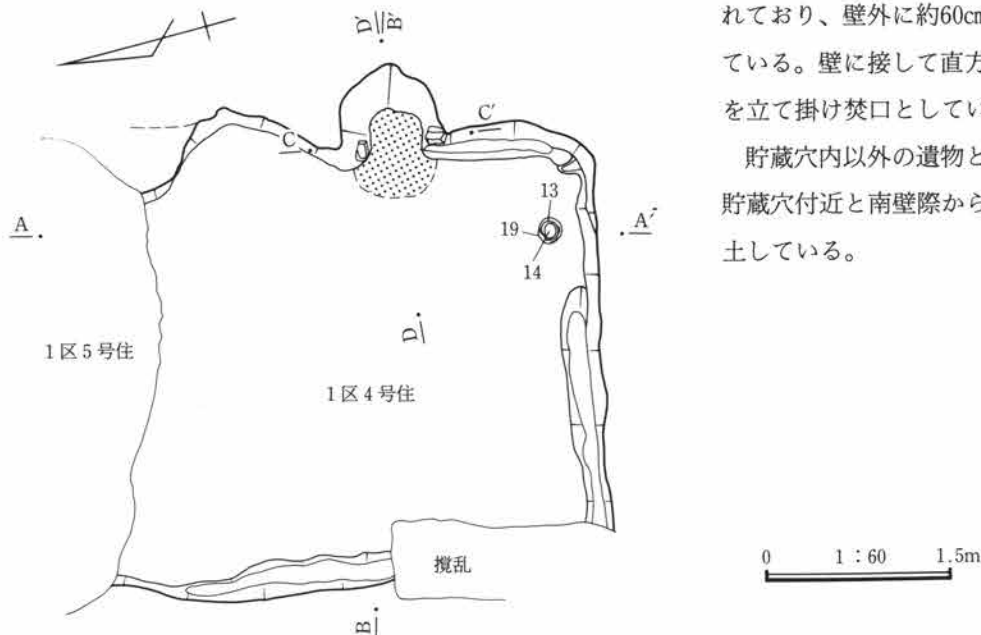
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0487	杯 土師器	器高：49mm 口径：[132mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	内外面に油煙付着。
0488	杯 土師器	器高：(44mm) 口径：[132mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。酸化。やや軟質。明黄褐。	胴部～口縁部はやや内湾。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施す。	内面に油煙付着。
0489	杯 土師器	器高：(39mm) 口径：[116mm] 底径：— 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は内湾する。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部～底部はなで。	

1区4号住居跡

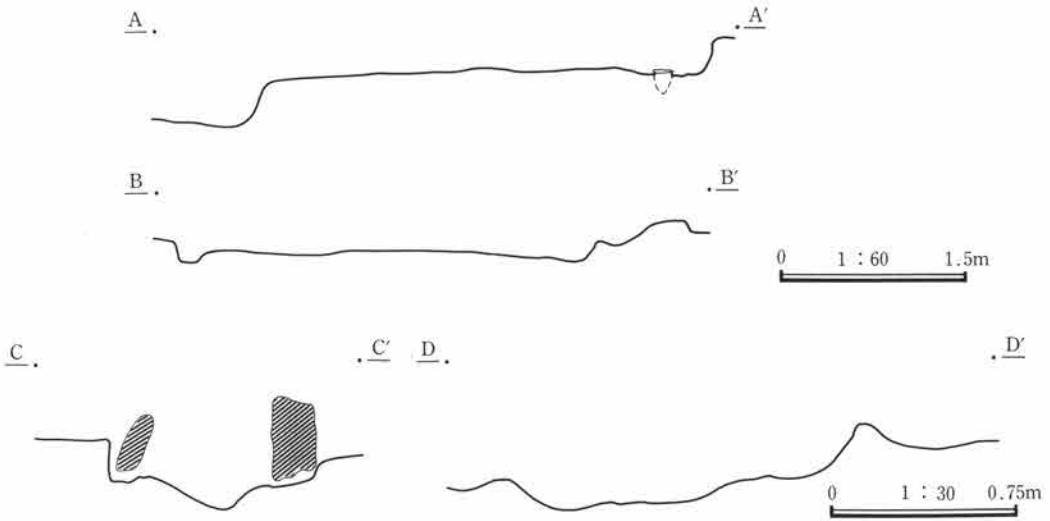
1区N-29グリッドに位置し、1区5号住居跡と重複する。調査時の所見では、新旧関係は当住居跡が古いとされている。平面形は、北壁が遺存していないが隅丸長方形と考えられる。東西の規模は3.93mを測り、主軸方位はN-19.5°-Eである。残存壁高は15cm～42cmであり、西壁南半は攪乱により破壊されている。床は中央部が非常に固く、周辺部は軟弱である。貯蔵穴は小さいものの南東隅に検出され、土師器甕(13)が正位で出土し、中には完形の土師器杯が2個体(14・19)正位で重ねて収められていた。柱穴は確認できない。壁溝は、西壁から南壁と竈以南の東壁に巡っている。

竈は東壁のやや南寄りに構築されており、壁外に約60cm張り出している。壁に接して直方体の砂岩を立て掛け焚口としている。

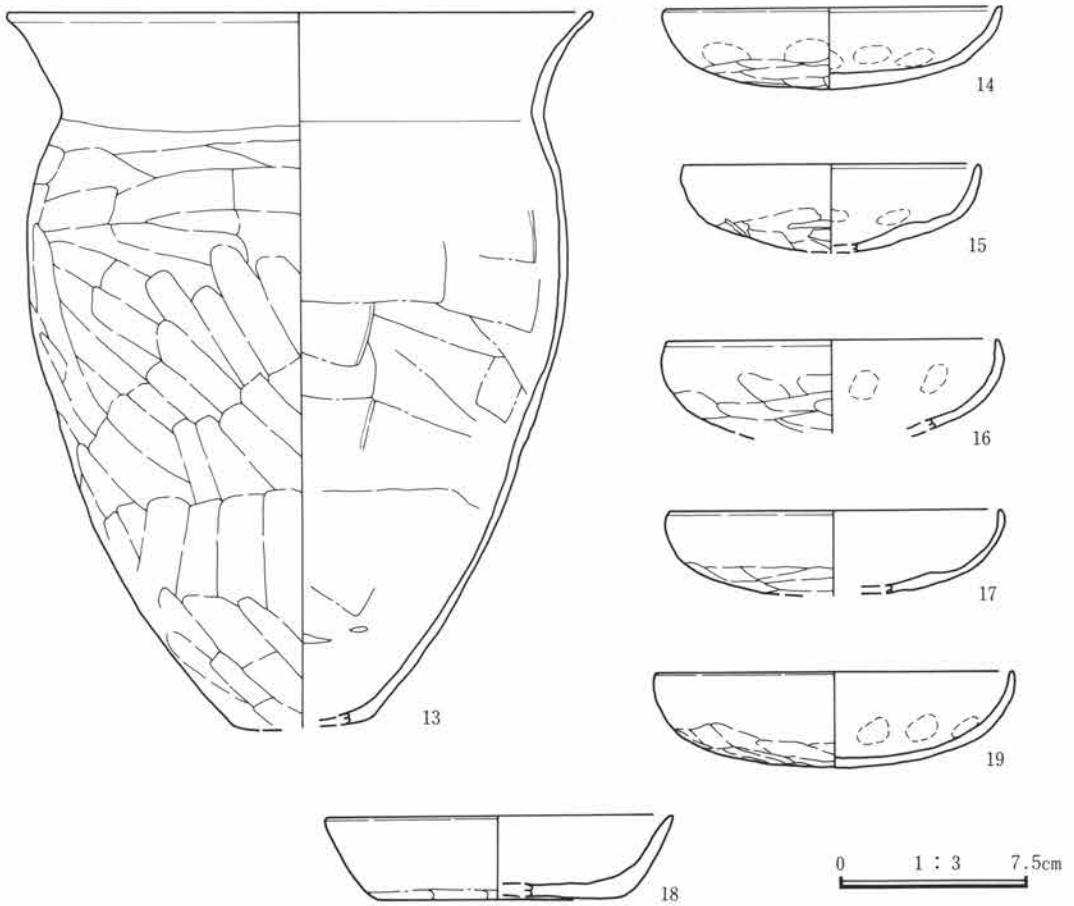
貯蔵穴内以外の遺物としては、貯蔵穴付近と南壁際から鉄滓が出土している。



第12図 1区4号住居跡



第13図 1区4号住居跡エレベーション・竈エレベーション



第14図 1区4号住居跡出土遺物

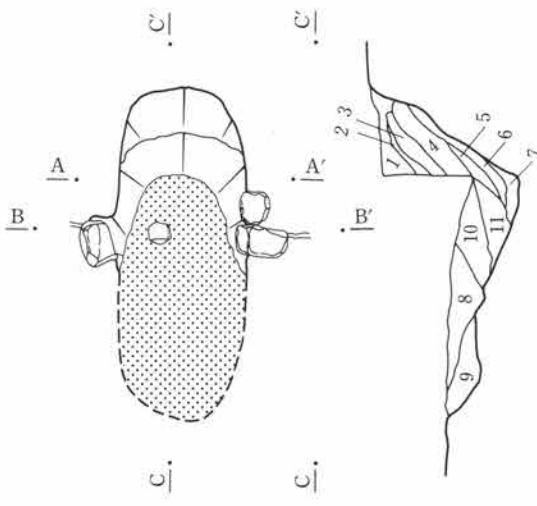
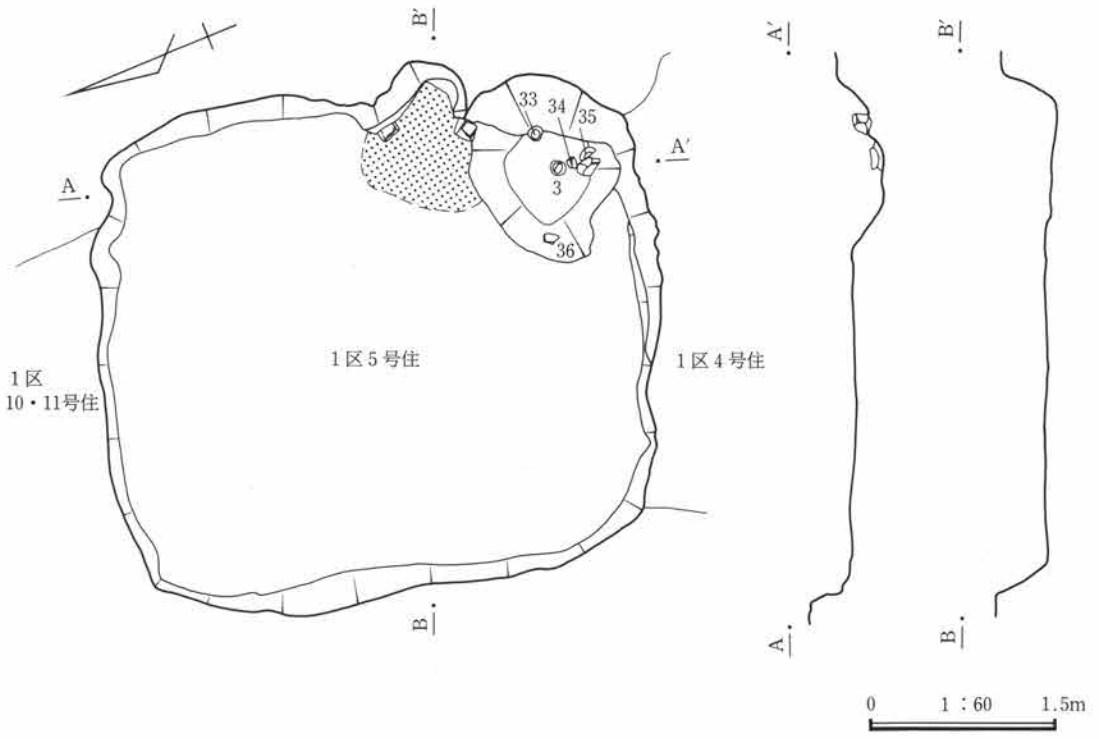
#### 第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0013	甕 土師器	器高：(281mm) 口径：[230mm] 底径：[57mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐色。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋なで。	内外面に多量の油煙付着。
0014	杯 土師器	器高：33mm 口径：136mm 底径：— ほぼ完形	径1mm前後の砂粒をやや多量に含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部はやや内湾しつつ広がる。底部は平底に近い丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0015	杯 土師器	器高：(35mm) 口径：[118mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は僅かに内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、底部下半はなで。	
0016	杯 土師器	器高：(37mm) 口径：[132mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は僅かに内湾。平底に近い丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで。	
0017	杯 土師器	器高：34mm 口径：[132mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄橙。	口縁部はやや内湾。底部は平底に近い丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	外面に油煙付着。
0018	杯 須恵器	器高：33mm 口径：138mm 底径：100mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤成形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り。内面：口縁部～底部は回転なで。外面に一部自然釉。	
0019	杯 土師器	器高：38mm 口径：142mm 底径：— ほぼ完形。	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は僅かに内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	内外面に油煙付着。

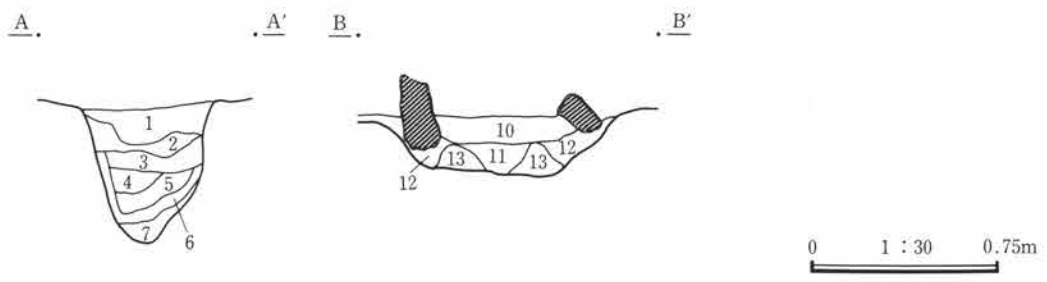
#### 1区5号住居跡

1区O-28グリッドに位置し、1区4号住居跡、1区10号住居跡、1区11号住居跡と重複する。新旧関係はいずれも当住居跡が新しい。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は4.5m×4.14mを測る。主軸方位はN-12.5°-Eである。残存壁高は11cm～42cmである。床は全体に軟弱で凹凸が多い。貯蔵穴は南隅に位置し、深さは25cm程である。貯蔵穴内には遺物が多く、土師器杯(3)と須恵器杯(33・34・35・36)が出土している。柱穴・壁溝は検出されない。

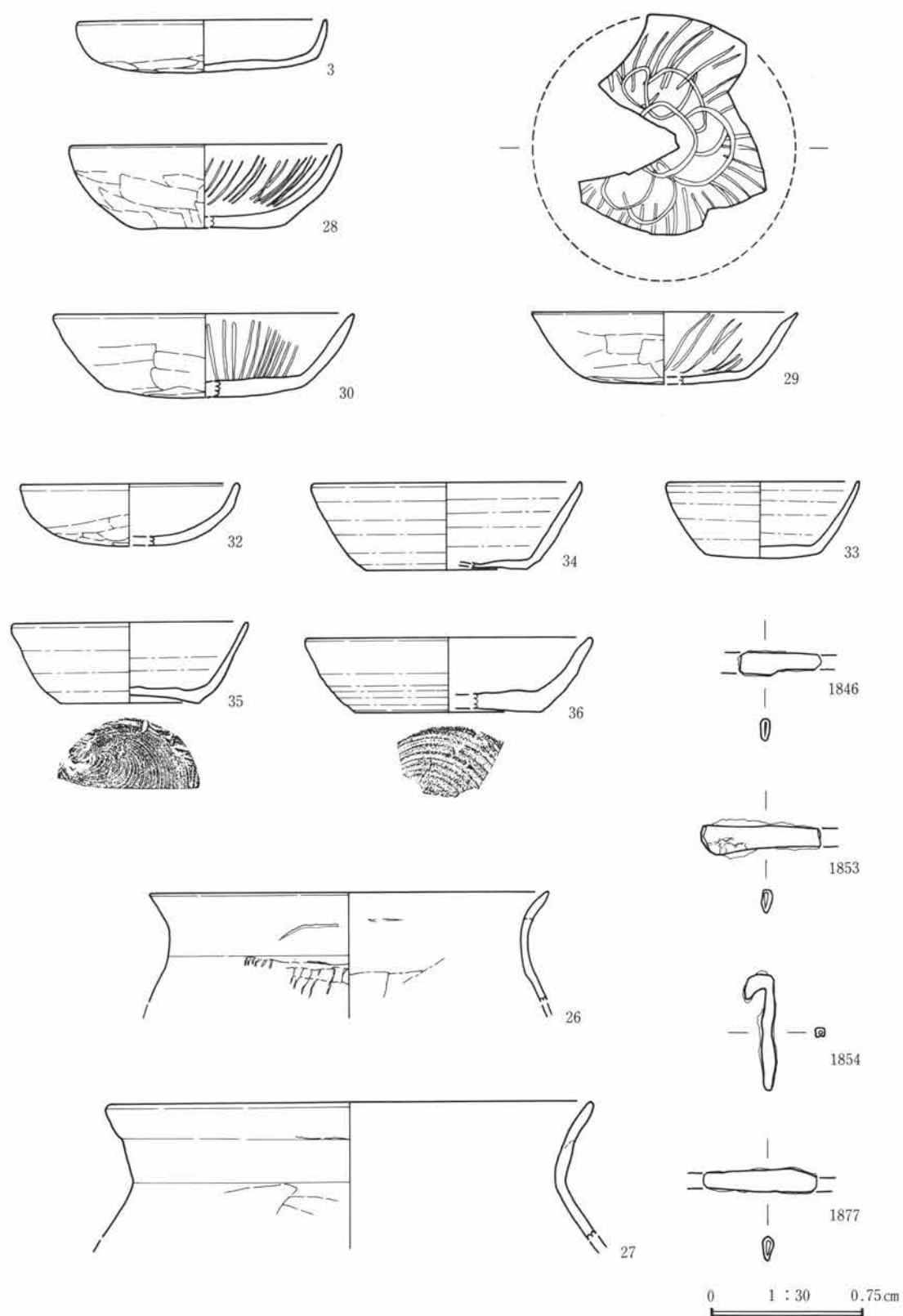
竈は東壁南寄りに構築され、燃焼部のみが遺存している。壁内には直方体の砂岩を一对立てて焚口としている。竈前には灰と焼土の分布が認められる。



- 1区5号住居跡竈
- 1 焼土ブロック：褐色土を多く含む。
  - 2 褐色土層：焼土細粒を含む。
  - 3 焼土層：鮮やかな朱色。青黒色灰を少量含む。
  - 4 青黒色灰土層：褐色土中に灰・焼土を含む。
  - 5 黄褐色土層：粒子は粗い。焼土・灰を僅かに含む。
  - 6 褐色焼土層：多量の焼土粒子を含む。
  - 7 黄黒色土層：粒子は粗い。黒色灰・黄灰色土小ブロックを含む。
  - 8 青黒色灰層：灰・焼土を含む。
  - 9 褐色焼土層：焼土塊・乳白色粘土塊を含む。
  - 10 青黒色灰土層：粘性は弱く焼土を含む。
  - 11 褐色粘質土層：灰褐色土を含む。
  - 12 灰褐色粘質土層：やや多量の灰褐色土を含む。
  - 13 黒色灰層。



第15図 1区5号住居跡



第16図 1区5号住居跡出土遺物



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0003	杯 土師器	器高：26mm 口径：120mm 底径：110mm 完形	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は僅かに内湾する。底部は丸底に近い平底。外面：口縁部～胴部は横なで、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、底部下半はなで。	
0026	甕 土師器	器高：(53mm) 口径：[194mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内面に油煙付着。
0027	甕 土師器	器高：(66mm) 口径：[236mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内面に油煙付着。
0028	杯 土師器	器高：41mm 口径：[134mm] 底径：74mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施す、底部はなで。	
0029	杯 土師器	器高：35mm 口径：[130mm] 底径：78mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施す、底部はなで。	内外面に油煙付着。
0030	杯 土師器	器高：41mm 口径：[148mm] 底径：[96mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0032	杯 土師器	器高：31mm 口径：[106mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで。	
0033	杯 須恵器	器高：37mm 口径：96mm 底径：55mm 完形	径1～2mmの小石及び細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～底部は回転なで、底部は回転篋切り後篋なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に一部自然釉。
0034	杯 須恵器	器高：43mm 口径：[132mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面口縁部～胴部・内面口縁部は燻し。
0035	杯 須恵器	器高：39mm 口径：[116mm] 底径：[68mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～底部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0036	杯 須恵器	器高：36mm 口径：[140mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～底部は回転なで、底部は回転糸切り後篋なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1846	刀子 鉄製品	長：(40mm) 幅：7～10mm 厚：4.5mm		刀子の一部。鉄板を折り曲げて製作。	

第IV章 発見された遺構と遺物

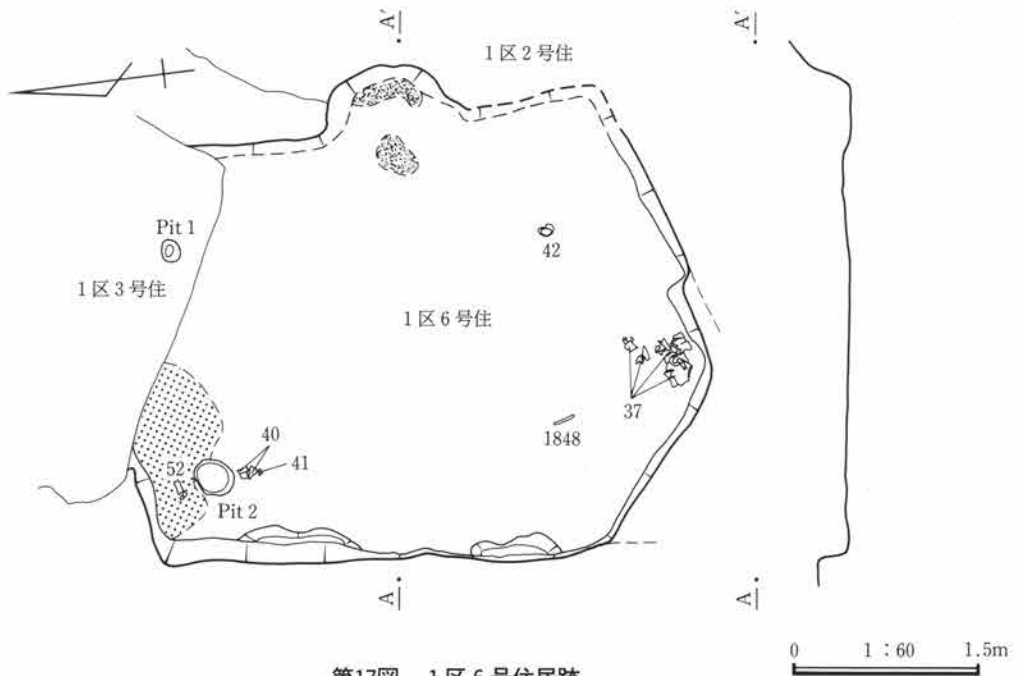
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1853	刀子 鉄製品	長：(58mm) 幅：14mm 厚： 5mm		刀子の一部か。鉄板を折り曲げて製作。	
1854	? 鉄製品	長：56mm 幅：4～7mm 厚：4～6mm		用途不明。芯は空洞。	
1877	刀子 鉄製品	長：(55mm) 幅：8～12mm 厚：5.5mm		刀子の一部。鉄板を折り曲げて製作。	

1区6号住居跡

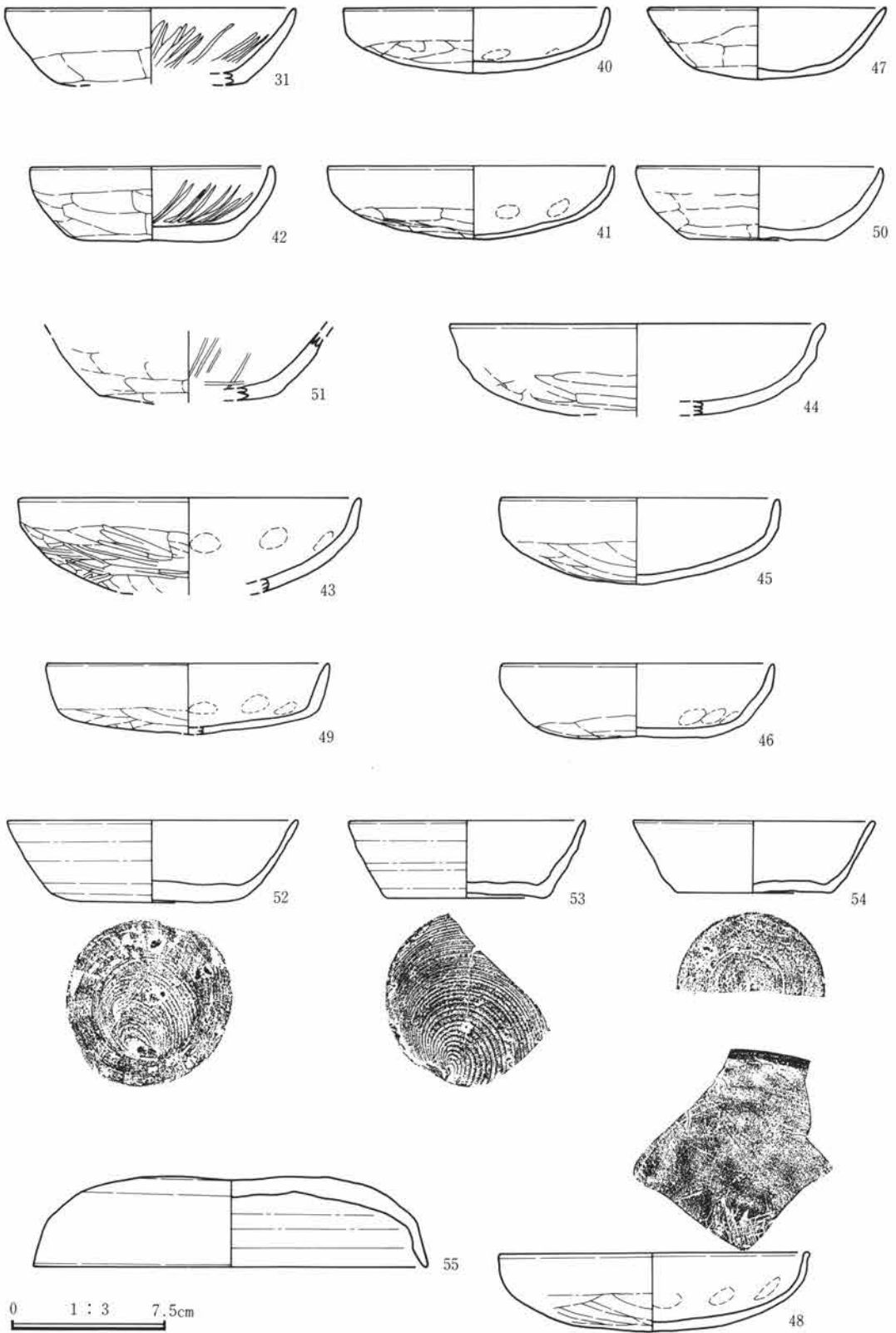
1区L-28グリッドに位置する。1区2号住居跡、1区3号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の竈が2号住居跡の壁を破壊していること、北壁が3号住居跡により破壊されていることから、3号住居跡より古く、2号住居跡より新しい。北壁が3号住居跡と重複していることや東壁が不明瞭なため、平面形・規模・主軸方位は不明であり、残存壁高は0cm～35cmである。床面は北半で堅く良好な状態であるが、南半はやや軟弱である。また、南半の床下には二ッ岳軽石の堆積が認められ、この上に灰褐色土と黒褐色土で張り床を構築している。ピットは2基確認されているが、位置的に柱穴の可能性もある。深さはピット1が29cm、ピット2が15cmである。壁溝と貯蔵穴は確認されない。

東壁と推定される位置には焼土塊が検出され、位置的に当住居跡の竈と考えられる。竈の残存状態は良くない。

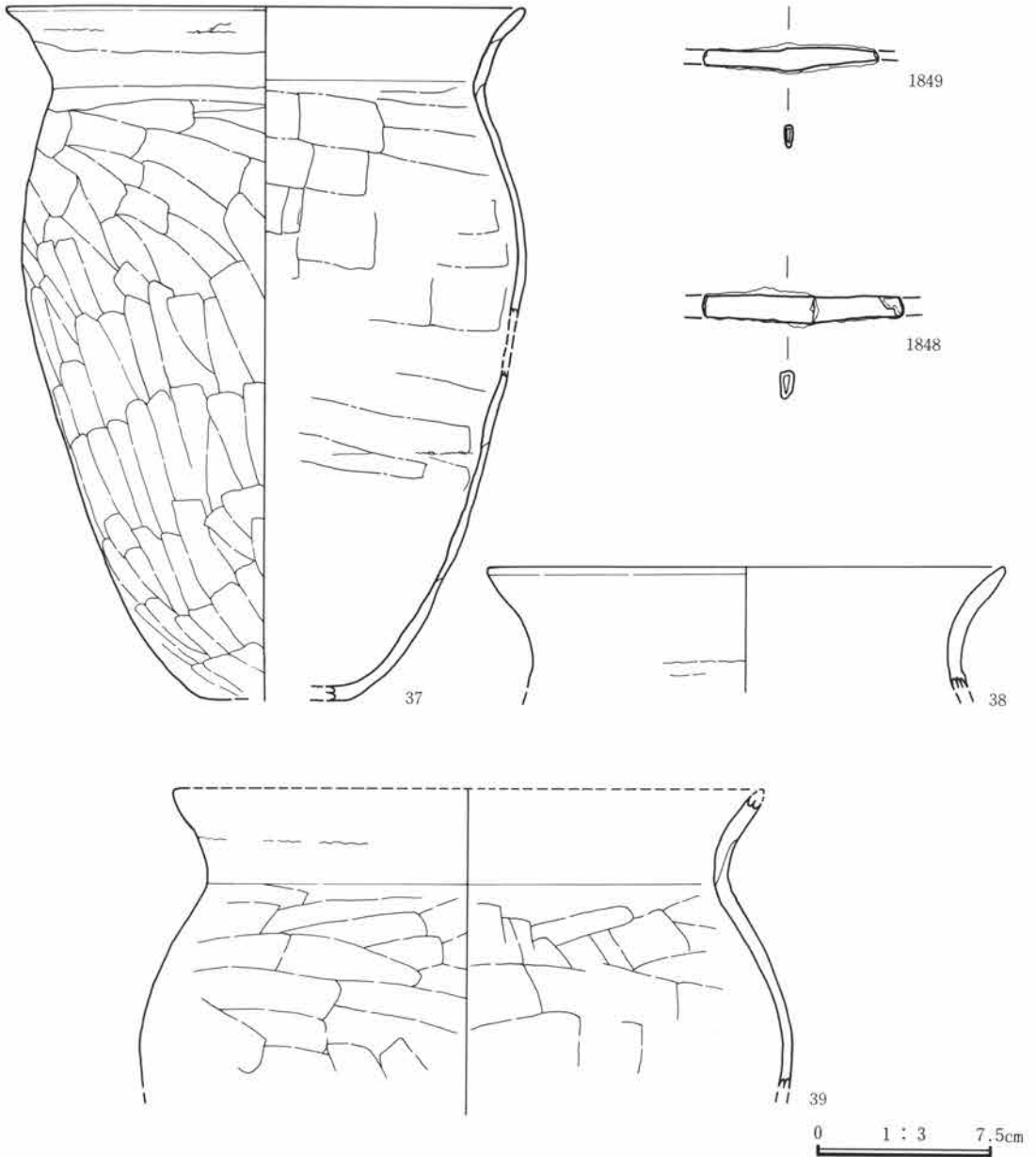
遺物のうち、南西隅から出土した土師器甕(37)は平面形に疑問のある場所であり、他遺構の遺物の可能性がある。



第17図 1区6号住居跡



第18図 1区6号住居跡出土遺物①



第19図 1区6号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0031	杯 土器	器高：(36mm) 口径：[138mm] 底径：[86mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0037	甕 土器	器高：281mm 口径：220mm 底径：[64mm] 口縁部～底部 $\frac{3}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋なで。	内外面に多量の油煙附着。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0038	甕 土師器	器高：(51mm) 口径：[220mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篔削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篔なで。	
0039	甕 土師器	器高：(121mm) 口径：[250mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上半は篔削り。内面：口縁部は横なで、胴部上半は篔なで。	
0040	杯 土師器	器高：31mm 口径：132mm 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は僅かに内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0041	杯 土師器	器高：35mm 口径：136mm 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0042	杯 土師器	器高：35mm 口径：117mm 底径：80mm ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は僅かに内湾。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施す、底部はなで。	内外面に油煙付着。
0043	杯 土師器	器高：45mm 口径：[162mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0044	杯 土師器	器高：43mm 口径：[178mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は僅かに外反。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	内外面に油煙付着。
0045	杯 土師器	器高：41mm 口径：[134mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。明赤褐。	口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	内外面に油煙付着。
0046	杯 土師器	器高：36mm 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。明赤褐。	口縁部は僅かに内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部は横なで、胴部～底部はなで。	内外面に油煙付着。
0047	杯 土師器	器高：34mm 口径：[114mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに内湾。平底に近い丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部は横なで、胴部～底部はなで。	
0048	杯 土師器	器高：38mm 口径：[150mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。平底に近い丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0049	杯 土師器	器高：(34mm) 口径：[136mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0050	杯 土師器	器高：35mm 口径：[116mm] 底径：73mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部はほぼ直立。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	

第IV章 発見された遺構と遺物

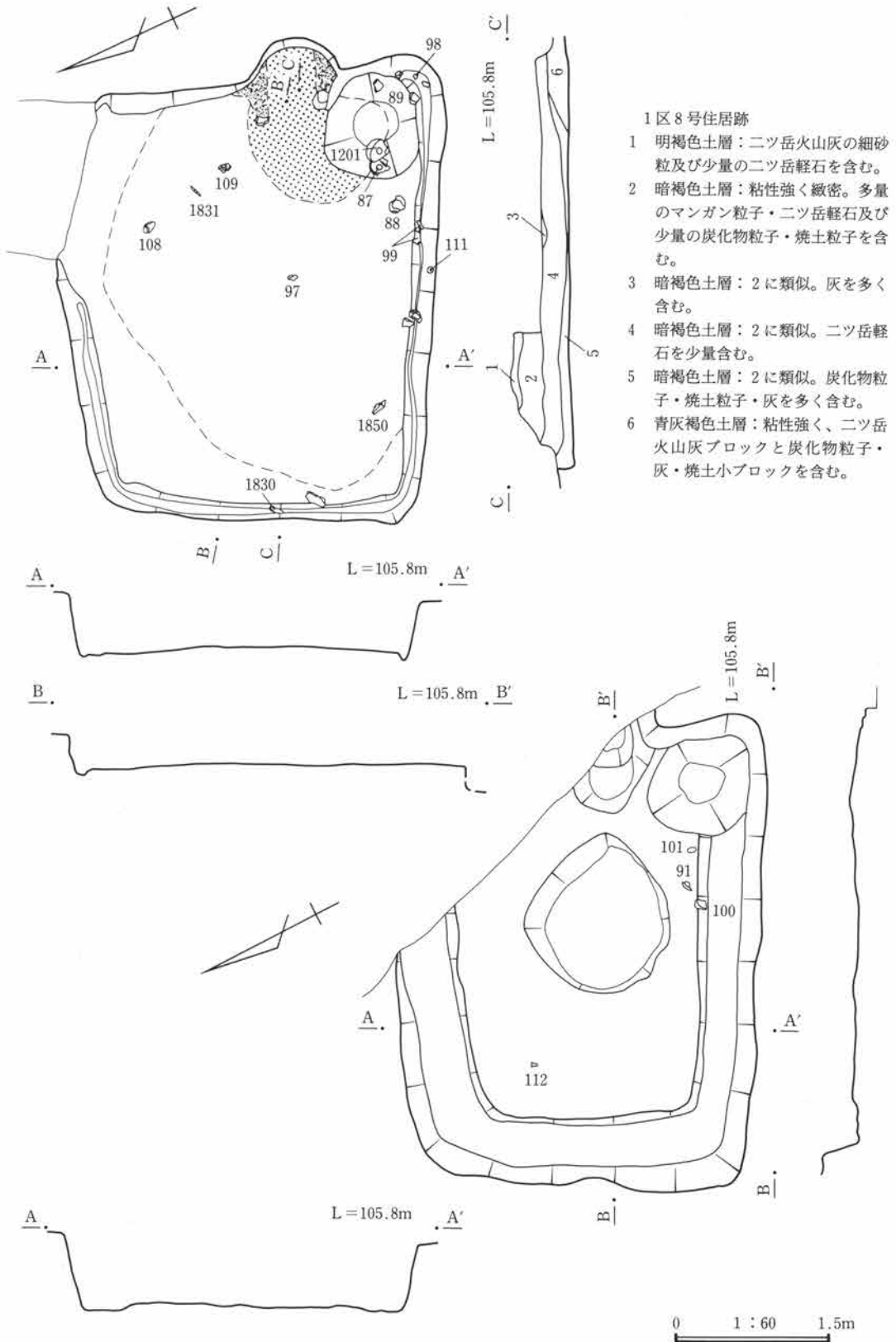
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0051	杯 土師器	器高：— 口径：— 底径： [82mm] 胴部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。橙。	外面：胴部～底部は篋削り。内面：胴部は 横なで、底部はなで。	
0052	杯 須恵器	器高：39mm 口径：140mm 底径：79mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がる。外面：口縁部は回転な で、胴部は回転篋削り、底部は回転糸切り 後外側は回転篋削り。内面：口縁部～底部 は回転なで。	
0053	杯 須恵器	器高：37mm 口径：[112mm] 底径：[70mm] 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がる。外面：口縁部～胴部回転なで、 底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は 回転なで。	内面燻し。
0054	杯 須恵器	器高：34mm 口径：[116mm] 底径：72mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。やや硬質。 青灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回 転篋削り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0055	蓋 須恵器	器高：43mm 口径：[140mm] 天井部～口縁部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰。	轆轤整形。口縁部は直線的に広がる。内外 面共に天井部～口縁部は回転なで。	
1848	刀 鉄製品	長：(85mm) 幅：11mm 厚： 6mm		刀子の一部。身は折り返して製作。	
1849	刀 鉄製品	長：(75mm) 幅：11mm 厚： 4mm		刀子の一部。身は折り返して製作。	

1区8号住居跡

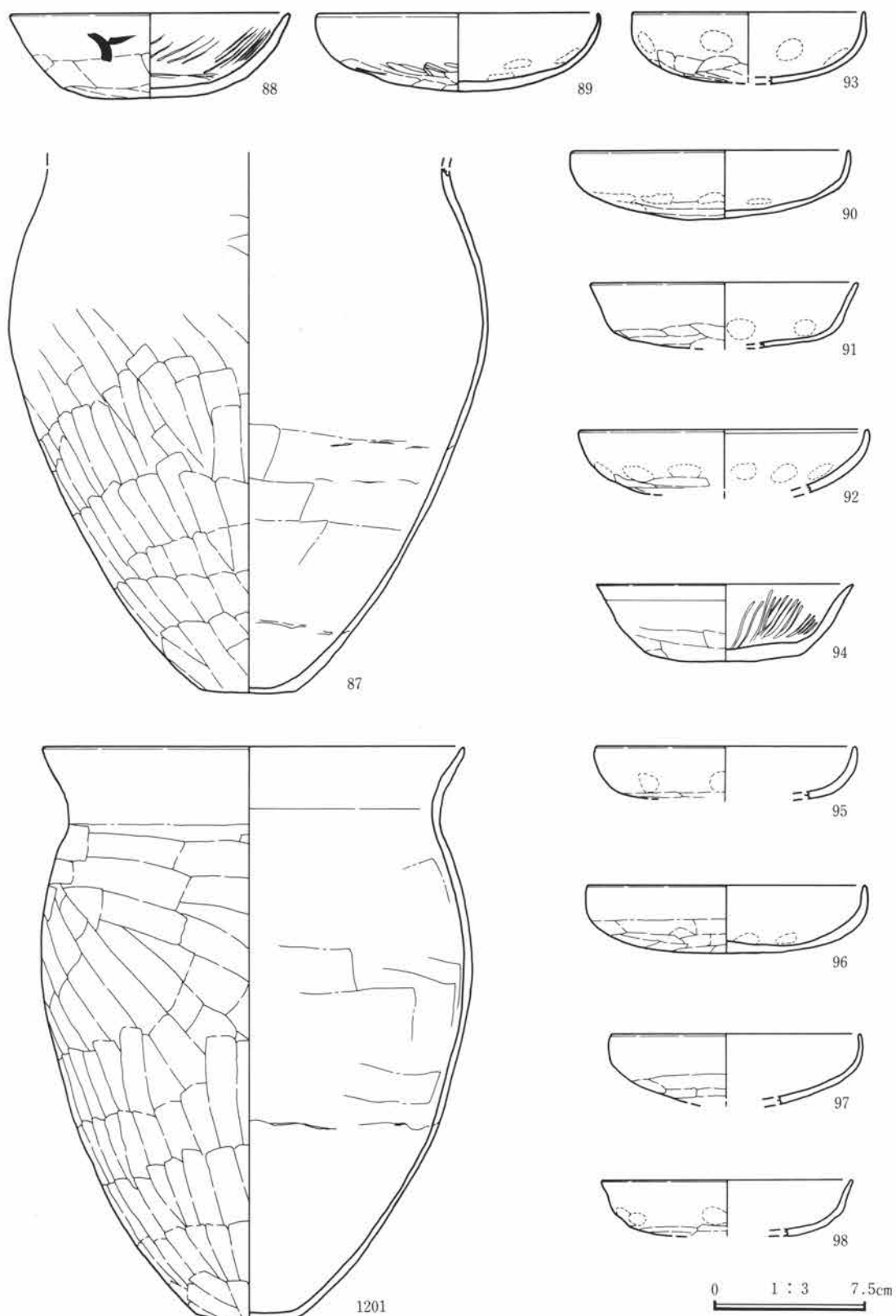
1区O-33グリッドに位置する。1区63・67・75・77号住居跡と重複する。新旧関係は、63・67号住居跡より古い。75・77号住居跡との関係は不明である。平面形は隅丸方形を呈し、規模は4.32m×3.57mを測る。主軸方位はN-20°-Eである。残存壁高は21cm～53cmと遺存は良好である。床は北西隅から北壁沿いを除き、堅い張り床が施されている。貯蔵穴は掘形調査段階で確認され、中には土師器甕が2個体(87・1201)正位で出土している。柱穴は確認されない。壁溝は、東壁と土坑と重複している部分を除き全周している。遺物は埋土中や床面から多量に出土しており、須恵器や土師器をはじめ西壁際からは鎌(1830)、南壁際からは石製紡錘車(111)が出土している。

竈は東壁南寄りに構築され、袖の両端には砂岩を立てて焚口としている。遺存は比較的良いが、煙道は確認できない。

掘形は中央部で10cm～15cm程、周辺部では周溝状に更に6cm～10cm掘り下げている。また、中央には深さ20cm程の床下土坑がある。

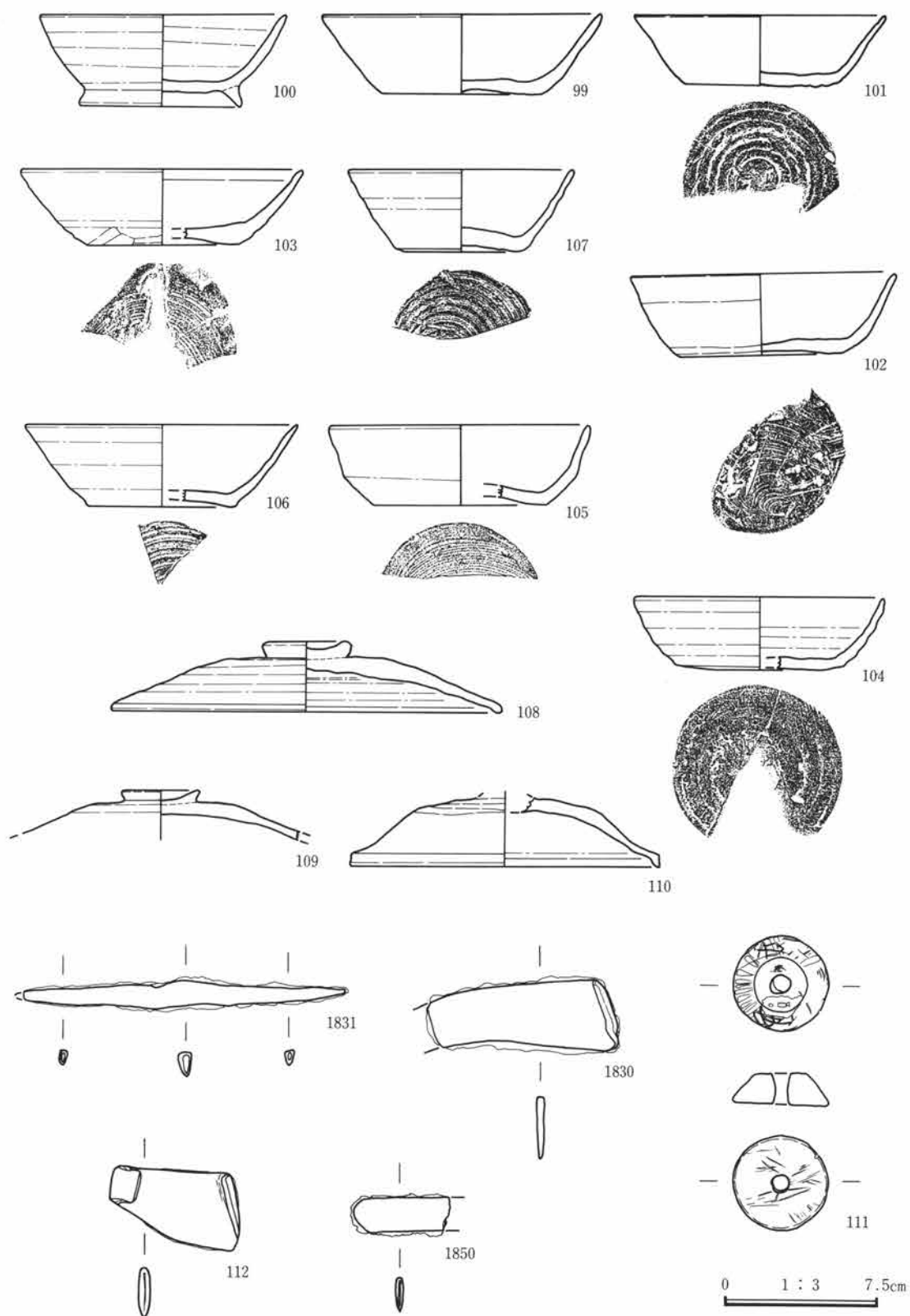


第20図 1区8号住居跡・同掘形



第21図 1区8号住居跡出土遺物①





第22图 1区8号住居跡出土遺物②

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0087	甕 土師器	器高：(250mm) 口径：一 底径：55mm 口縁部下半 ～底部 $\frac{1}{2}$	やや多量の砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔なで。内面に輪積み痕跡が残る。	外面に多量の油煙附着。
0088	杯 土師器	器高：42mm 口径：138mm 底径：一 ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。平底に近い丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施す、底部はなで。	内外面に油煙附着。内面墨書「丁」。
0089	杯 土師器	器高：38mm 口径：140mm 底径：一 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0090	杯 土師器	器高：34mm 口径：[136mm] 底径：一 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。明赤褐。	口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	内外面に油煙附着。
0091	杯 土師器	器高：(32mm) 口径：[130mm] 底径：一 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は僅かに外反。平底に近い丸底。外面：口縁部～胴部上半は横なで、胴部下半～底部は篔削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0092	杯 土師器	器高：(31mm) 口径：[140mm] 底径：一 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。鈍い橙。	口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部上半は篔削り。内面：口縁部～底部上半は横なで。	外面に油煙附着。
0093	杯 土師器	器高：(35mm) 口径：[114mm] 底径：一 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は僅かに内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	外面に油煙附着。
0094	杯 土師器	器高：38mm 口径：[126mm] 底径：一 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施す、底部はなで。	
0095	杯 土師器	器高：(26mm)口径：[127mm] 底径：一 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部は内湾。平底に近い丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篔削り。内面：口縁部～底部上端は横なで。	
0096	杯 土師器	器高：34mm 口径：[136mm] 底径：一 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0097	杯 土師器	器高：(35mm) 口径：[122mm] 底径：一 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は僅かに内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0098	杯 土師器	器高：(27mm) 口径：[122mm] 底径：一 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部～底部上半は横なで。	内面に油煙附着。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0099	杯 須恵器	器高：39mm 口径：138mm 底径：79mm ほぼ完形	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回 転笠切り。内面：口縁部～底部は回転で。	
0100	碗 須恵器	器高：45mm 口径：121mm 底径：76mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回 転笠切り後高台貼り付け。内面：口縁部 ～底部は回転で。	
0101	杯 須恵器	器高：34mm 口径：[122mm] 底径：77mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回 転笠切り後笠で。内面：口縁部～底部は 回転で。	
0102	杯 須恵器	器高：40mm 口径：[126mm] 底径：75mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は 回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁 部～底部は回転で。	外面に少量の油煙 付着。
0103	杯 須恵器	器高：37mm 口径：[136mm] 底径：[74mm] 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。やや硬 質。還元。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は 回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁 部～底部は回転で。	
0104	杯 須恵器	器高：35mm 口径：[120mm] 底径：83mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。硬質。 還元。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつ つ広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、 底部は回転笠切り後笠で。内面：口縁部 ～底部は回転で。	
0105	杯 須恵器	器高：34mm 口径：[126mm] 底径：[84mm] 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。硬質。 還元。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は 回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁 部～底部は回転で。	
0106	杯 須恵器	器高：(40mm) 口径：[132 mm] 底径：[72mm] 口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。やや軟 質。還元。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、 底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は 回転で。	外面口縁部～胴部 は燻し。
0107	杯 須恵器	器高：(40mm) 口径：[110 mm] 底径：[56mm] 口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。やや硬 質。還元。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～底部は直線的に 広がる。外面：胴部～口縁部は回転で、 底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は 回転で。	
0108	蓋 須恵器	器高：34mm 口径：[190mm] つまみ径：46mm 天井部～口 縁部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。外面：天井部上半は回転笠削り、 天井部下半～口縁部は回転で、つまみ部 は貼り付け。内面：天井部～口縁部は回 転で。	
0109	蓋 須恵器	器高：(24mm) 口径：一 つ つまみ径：39mm 天井部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。青灰。	轆轤整形。外面：天井部上半は回転笠削り、 天井部下半は回転で、つまみ部は貼り付 け。内面：天井部は回転で。	

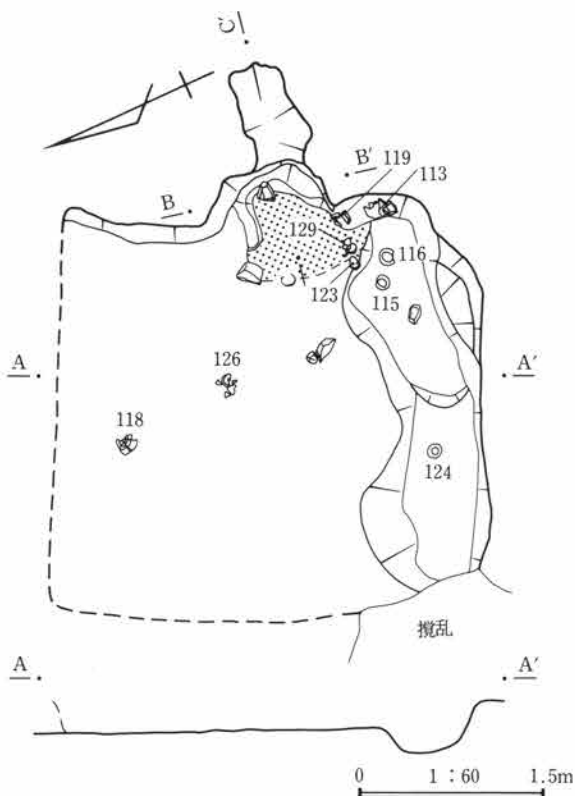
第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0110	蓋 須恵器	器高：(34mm) 口径：[152mm] つまみ径：— 天井部～口縁部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：天井部上半は回転篋削り、天井部下半～口縁部は回転なで、つまみ部は貼り付け。内面：天井部～口縁部は回転なで。	
0111	紡錘車 石製	直径：45mm 厚さ：16mm 孔径：6mm 重さ：47.5g	蛇紋岩。	断面台形。	
0112	鎌? 鉄製	長：62mm 幅：16～37mm 厚：5mm		鎌か。両端が折り曲げられている。鉄板を折り曲げて製造。	
1201	甕 土師器	器高：277mm 口径：[207mm] 底径：51mm 最大径：210mm 口縁部～底部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。最大径は胴部上半。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋なで。	外面に多量の油煙附着。
1830	鎌 鉄製品	長：(93mm) 幅：35mm 厚：4mm		身の反りは僅かである。基部は折り曲げ。刃先は欠損。	
1831	刀子 鉄製品	長：156mm 幅：13mm 厚：7mm		鉄板の折り曲げ。芯に空洞が残る。	
1850	刀子 鉄製品	長：(47mm) 幅：16mm 厚：4mm		刀子の身の一部。鉄板を折り曲げて製作。	

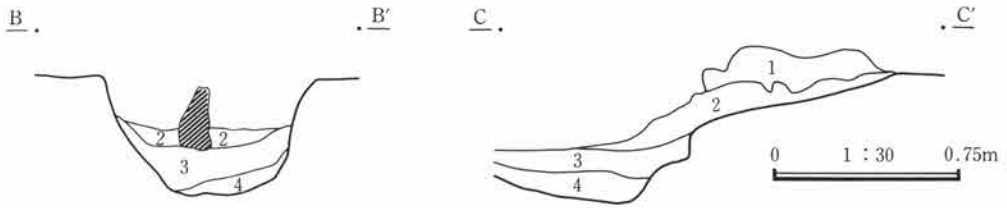
1区9号住居跡

1区M-33グリッドに位置する。他遺構との重複はないが、北半の壁は攪乱によって破壊されているため、平面形・規模は不明である。主軸方位はN-22.5°-Wで、残存壁高は13cm～43cmを測る。床は中央部は堅く良好で、周辺部は軟弱である。南壁際は5cm～22cm深くなっており、掘形まで達していると思われる。また、南東隅は、深いうえに完形に近い土師器杯が2個体(115・116)出土しており、貯蔵穴が存在したと考えられる。柱穴や壁溝は確認されない。

竈は東壁南寄りに構築され、左袖のみ遺存している。燃烧部の奥壁には支脚と考えられる石が認められた。煙道部分は明確には捕えられず、焼土塊として確認できたのみである。



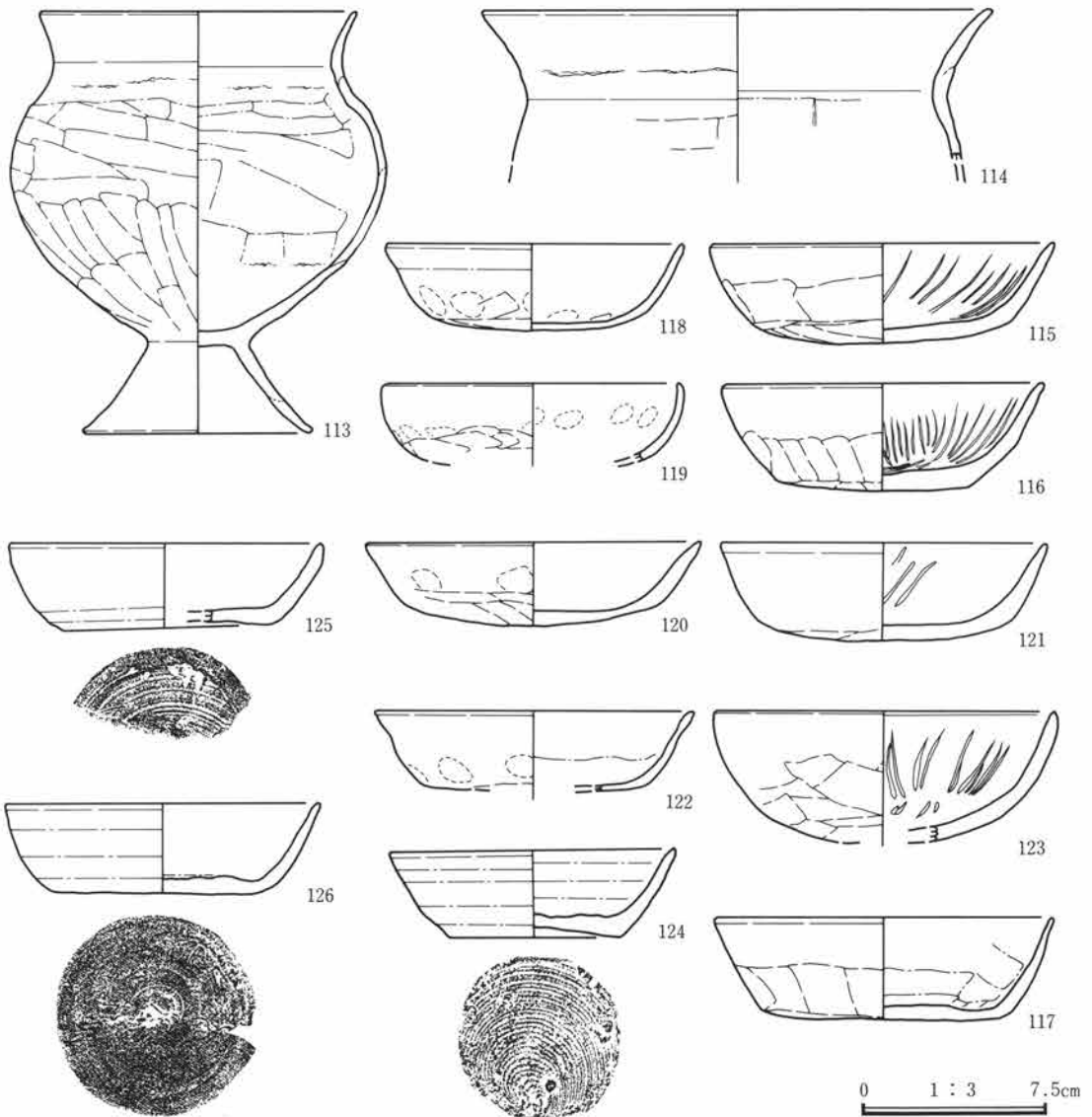
第23図 1区9号住居跡



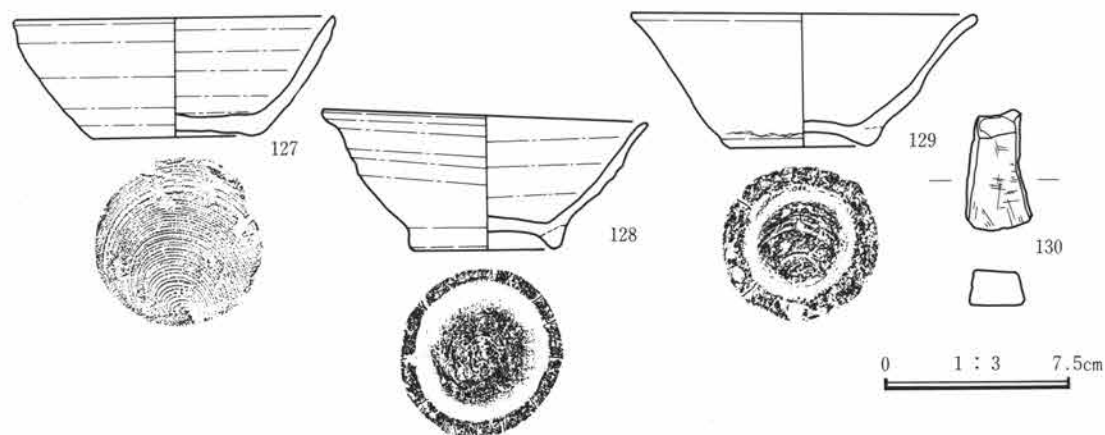
1区9号住居跡竈

- 1 黄黒褐色層：火を若干受けているため堅い。
- 2 黄黒褐色層：少量の焼土を含む。
- 3 黄黒褐色層：黒味があり、微量の焼土を含む。
- 4 暗黒褐色土層：黒色土に粘土が混じり、少量の焼土粒子を含む。

第24図 1区9号住居跡竈断面



第25図 1区9号住居跡出土遺物①



第26図 1区9号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0113	台付甕 土師器	器高：169mm 口径：[130mm] 底径：[96mm] 最大径：[154mm] 口縁部～脚部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は外反。脚部は「ハ」字状にひろく。最大径は胴部上半。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り、脚部は横なで。内面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋なで、脚部は横なで。	内外面に油煙付着、外面は多量。
0114	甕 土師器	器高：(60mm) 口径：[210mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	
0115	杯 土師器	器高：40mm 口径：140mm 底径：— ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	内外面に油煙付着、二次炎を受けている。
0116	杯 土師器	器高：43mm 口径：131mm 底径：80mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施す、底部はなで。	内外面に油煙付着。
0117	杯 土師器	器高：41mm 口径：140mm 底径：98mm ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0118	杯 土師器	器高：35mm 口径：121mm 底径：— 口縁部～底部 $\frac{3}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0119	杯 土師器	器高：(31mm) 口径：123mm 底径：— 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部は内湾。平底に近い丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0120	杯 土師器	器高：34mm 口径：[138mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	口縁部は僅かに外反。平底に近い丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0121	杯 土師器	器高：39mm 口径：[132mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0122	杯 土師器	器高：(32mm) 口径：[130mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁部は僅かに外反。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0123	杯 土師器	器高：(52mm) 口径：[140mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	外面に油煙付着。
0124	杯 須恵器	器高：35mm 口径：115mm 底径：68mm 完形	径3～4mmの小石及び細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に自然釉。
0125	杯 須恵器	器高：34mm 口径：128mm 底径：85mm 口縁部～底部 $\frac{2}{3}$	径1～2mmの小石及び細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。内面：口縁部～胴部上半は横なで、胴部下半は回転篋削り、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0126	杯 須恵器	器高：36mm 口径：131mm 底径：84mm 口縁部～底部 $\frac{2}{3}$	径1～2mmの小石及び細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋削り後篋なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0127	杯 須恵器	器高：47mm 口径：[130mm] 底径：70mm 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～底部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面口縁部～胴部は燻し。
0128	碗 須恵器	器高：53mm 口径：132mm 底径：64mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。口縁部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0129	碗 須恵器	器高：52mm 口径：144mm 底径：63mm ほぼ完形	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	轆轤整形、右回転。口縁部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0130	砥石	長さ：(49mm) 幅：25mm 厚さ：22mm 重さ：28.4g	細粒安山岩。	3面使用。	

### 1区10号住居跡

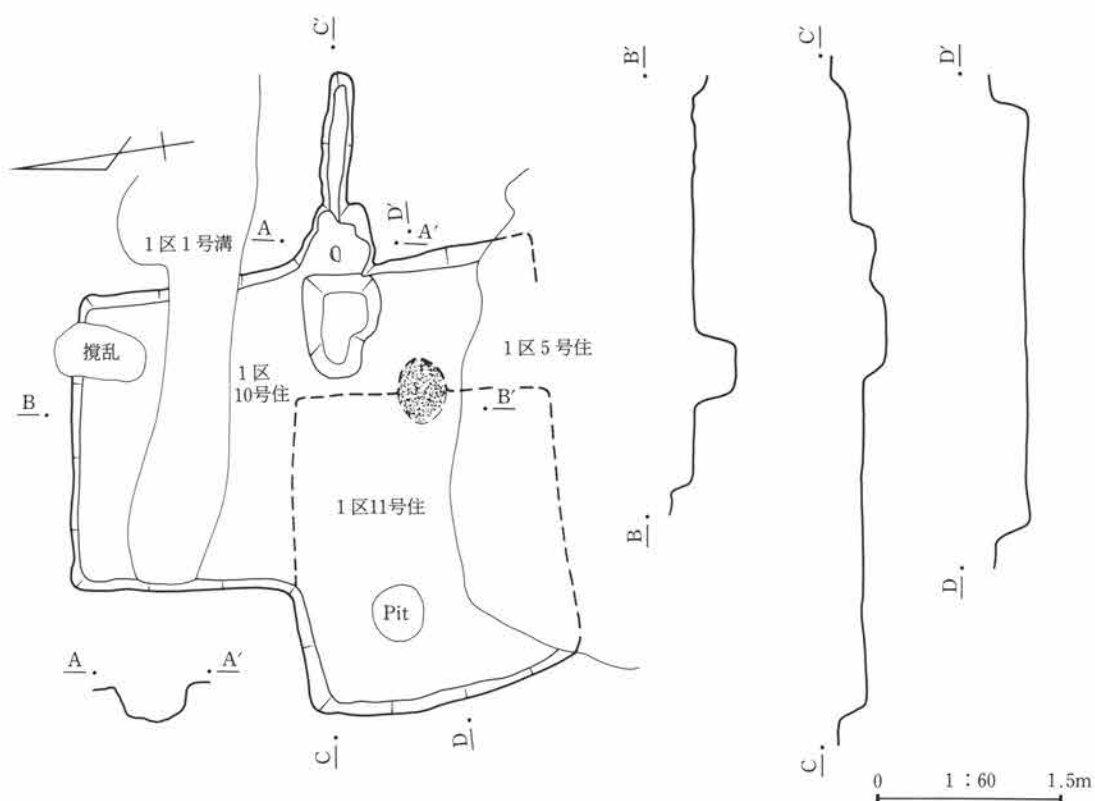
1区L-31グリッドに位置する。1区1号溝、1区5号住居跡、1区11号住居跡と重複し、新旧関係は1号溝と5号住居跡より古く、1区11号住居跡より新しい。他遺構と重複しているため平面形は不明であるが、隅丸長方形を呈していたものと考えられる。東西の規模は2.54mを測り、主軸方位はN-1.5°-Wである。残存壁高は24cm~27cmであるが、南壁と西壁南半の壁高は確認できない。床面は全体に堅く平坦である。また、床面精査時には、1区11号住居跡の竈の痕跡が確認されている。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されなかった。

竈は東壁南寄りに構築され、煙道は長く、壁外に114cm延びる。燃焼部には軽石製の支脚が置かれている。燃焼部前面は、皿状に浅く掘り込まれている。

### 1区11号住居跡

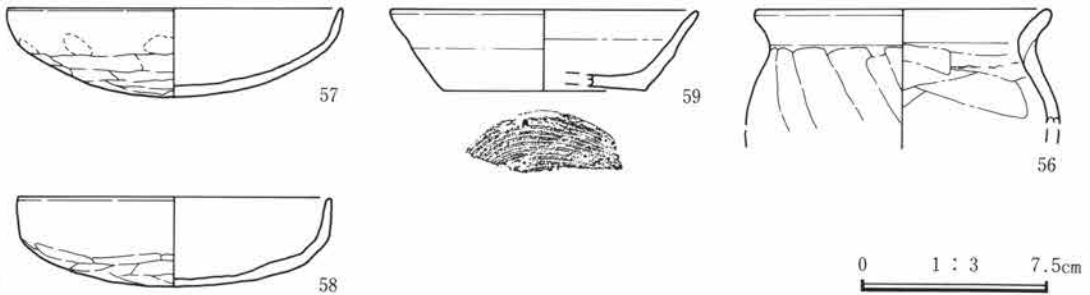
1区M-31グリッドに位置し、1区5・10号住居跡と重複する。新旧関係はいずれも当住居跡が古い。壁の大半を5号住居跡と10号住居跡に破壊されているため、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は25cm~30cmを測り、床面は10号住居跡に比して軟弱である。柱穴・貯蔵穴・壁溝は確認できない。

竈は、10号住居跡床面精査時に痕跡が確認された。



第27図 1区10・11号住居跡





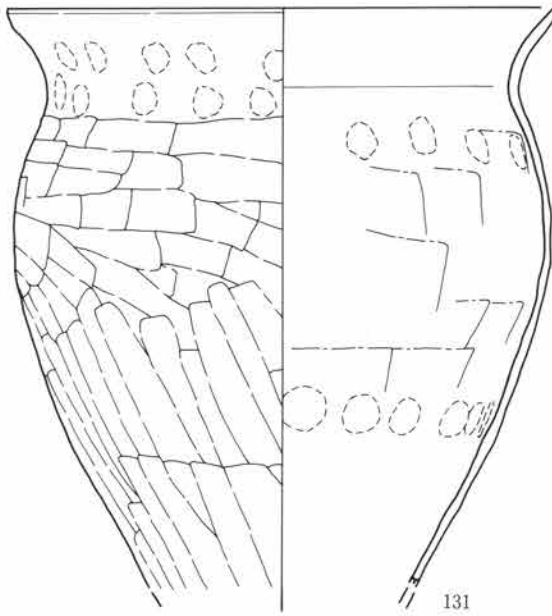
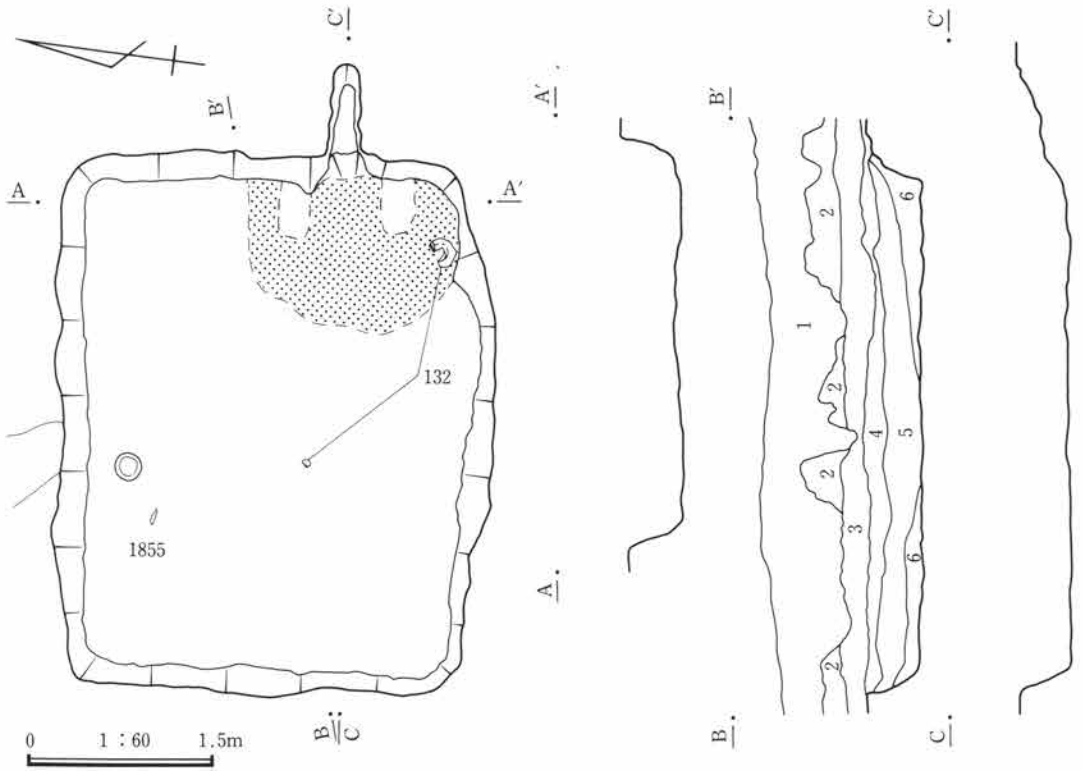
第28図 1区10号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0056	甕 土師器	器高：46mm 口径：[116mm] 底径：— 口縁部～胴部上 半迄	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、胴部上半は篋削り。内面：口縁部 は横なで、胴部上半は篋なで。	内外面に油煙付 着。内面やや多量。
0057	杯 土師器	器高：35mm 口径：[134mm] 底径：— 口縁部～底部迄	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。橙。	口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は 横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁 部～胴部は横なで、底部はなで。	
0058	杯 土師器	器高：35mm 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～底部迄	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。橙。	口縁部はほぼ直立。平底に近い丸底。外面： 口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内 面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	外面に少量の油煙 附着。
0059	杯 須恵器	器高：(32mm) 口径：[122 mm] 底径：[82mm] 口縁部 ～底部迄	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回 転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に自然釉。

## 1区12号住居跡

1区M-19グリッドに位置し、他遺構との重複はない。平面形は東西に長い隅丸長方形を呈し、規模は4.25m×3.45mである。主軸方位はN-7.5°-Wであり、残存壁高は35cm～45cmを測る。床面は中央部のみ非常に堅い。床面には1基小ピットが存在するが、当住居跡に伴うか否か不明である。柱穴・壁溝・貯蔵穴は、精査を行ったが確認できなかった。遺物は竈右横から土師器甕(132)が逆位で出土し、床面中央の小片と接合関係がある。また、136の土師器杯は、竈前面の灰層上から出土している。埋土中出土の土師器甕は、132の甕や136の杯とは時期差が認められる。

竈は東壁南寄りに構築され、煙道は壁外に72cm張り出している。竈前面には焼土と灰が分布しているが、袖が存在したと考えられる場所には分布していない。このことから、袖は検出できなかったが、遺存していたと推定される。



0 1 : 3 7.5cm

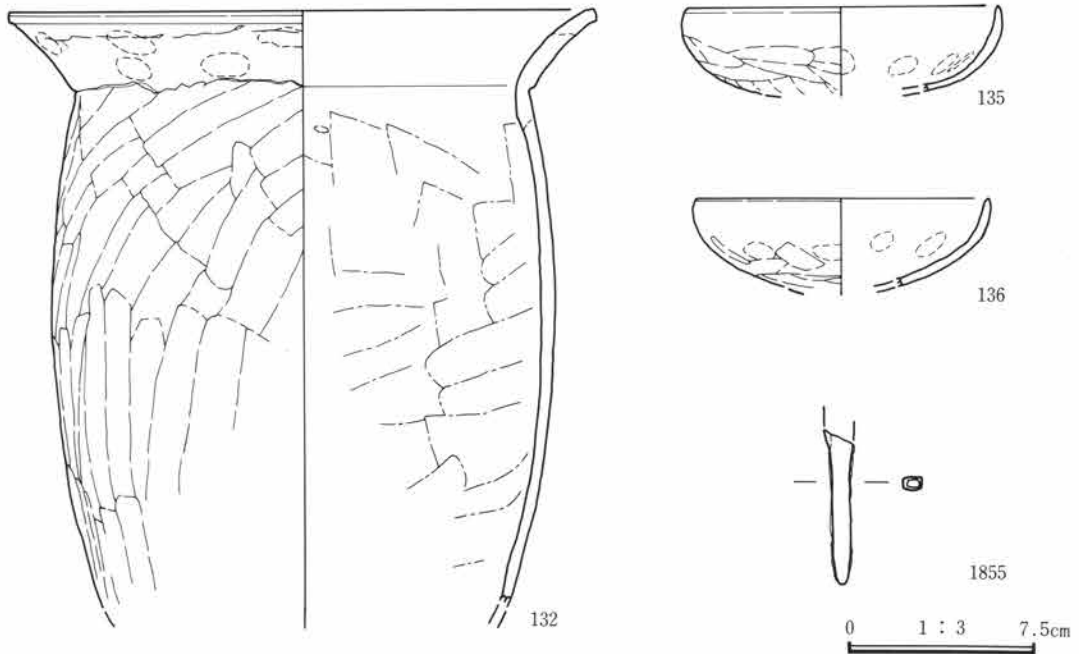
第30図 1区12号住居跡出土遺物①

1区12号住居跡

- 1 耕作土層：多量の軽石を含む。
- 2 褐色粘質土層：少量の灰及び多量の軽石小円礫を含む。
- 3 暗褐色粘質土層：少量の暗灰褐色土・軽石小円礫を含む。
- 4 黒褐色粘質土層：細粒子で緻密。少量の褐色土小塊・軽石小円礫を含む。
- 5 黒黄褐色粘質土層：緻密。少量の軽石を含む。
- 6 淡灰褐色粘質土層：多量の暗褐色土・褐色土及び少量の軽石を含む。

第29図 1区12号住居跡





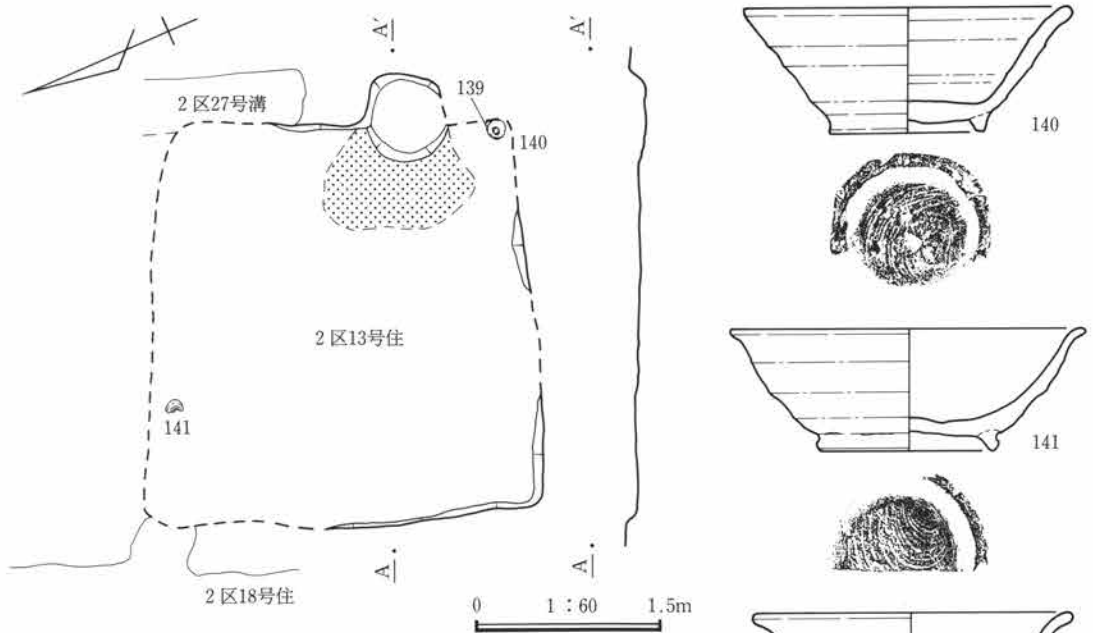
第31図 1区12号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0131	甕 土師器	器高：(228mm) 口径：[220mm] 底径：— 口縁部～胴部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は外反。最大径は口縁部。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。内面：口縁部～胴部は篋なで。	内外面に油煙付着。
0132	甕 土師器	器高：(236mm) 口径：[230mm] 底径：— 口縁部～胴部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。最大径は口縁部。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部は篋なで。	内外面に油煙付着。
0134	甕 須恵器	器高：(68mm) 口径：[138mm] 底径：— 口縁部～胴部上半%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	口縁部は「く」字状に外反し外縁帯を持つ。外面：内外面共に口縁部～胴部上半は回転なで。	
0135	杯 土師器	器高：(34mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～底部%	細砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は内湾しつつ広がり、口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0136	杯 土師器	器高：(34mm) 口径：[118mm] 底径：— 口縁部～底部%	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
1855	鉄 鉄	長：(61mm) 幅：8mm 厚：5mm		鉄鉄の茎か。折り返して製造。	

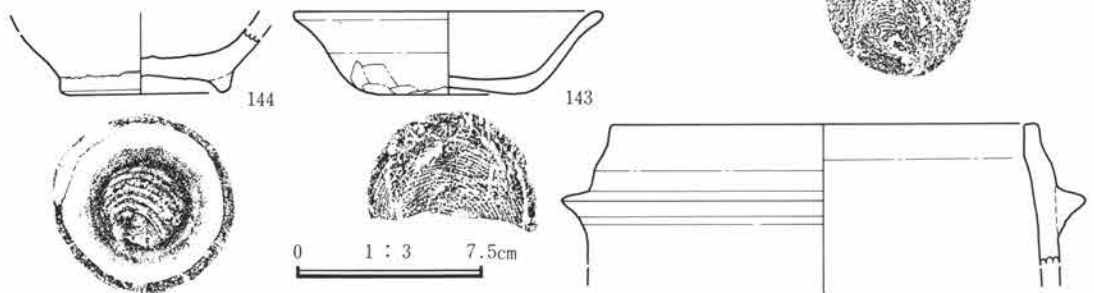
2区13号住居跡

2区M-01グリッドに位置し、2区27号溝、2区18号住居跡と重複する。床面近くまで攪乱が及んでいるために壁の遺存は悪いが、東隅の壁が27号溝により削平され、北西隅の壁は18号住居跡の竈を破壊している。このことから、新旧関係は27号溝より古く、18号住居跡より新しいと考えられる。主軸方位・平面形は不明であるが、北壁のラインは床面の範囲が明確であることから、東西に長い隅丸長方形と推定される。東西の規模は3.2mを測る。残存壁高は4cm～9cmである。床面は浅く掘形を掘込んだ後、黄褐色土と暗褐色粘質土を使用して張り床を行っている。なお、床面は桑根による攪乱が激しい。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されない。遺物は少ないが、南東隅と北壁際から須恵器碗(140・141)が出土している。

竈は東壁南寄りに構築し、燃烧部は壁外に38cm張り出す。竈前面には灰が広く分布している。



第32図 2区13号住居跡



第33図 2区13号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0139	羽釜	器高：(56mm) 口径：[172mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。鈍い黄。	口縁部は僅かに内湾。内外面共に口縁部～胴部上端は横なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0140	椀 須恵器	器高：50mm 口径：134mm 底径：64mm ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁部端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面にタール又は漆が付着。
0141	椀 須恵器	器高：48mm 口径：[142mm] 底径：[72mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁部端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0142	杯 須恵器	器高：36mm 口径：[128mm] 底径：60mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰オリーブ。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁部端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に油煙付着。
0143	杯 須恵器	器高：33mm 口径：[124mm] 底径：62mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、胴部下半は一部篋削り、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0144	椀 須恵器	器高：(25mm) 口径：— 底径：69mm 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転なで。	

## 2区14号住居跡

2区N-03グリッドに位置し、2区15・16・17・18号住居跡と重複する。新旧関係はセクションから15・16・17号住居跡より新しい。また、当住居跡の竈が18号住居跡埋土上に構築されており、当住居跡が新しい。当住居跡は、遺存状態が悪く、南東部分が僅かに検出されたのみであり、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は0cm～5cmである。床は、黒灰色粘質土と黄褐色粘土ブロックで構築されている。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出できない。

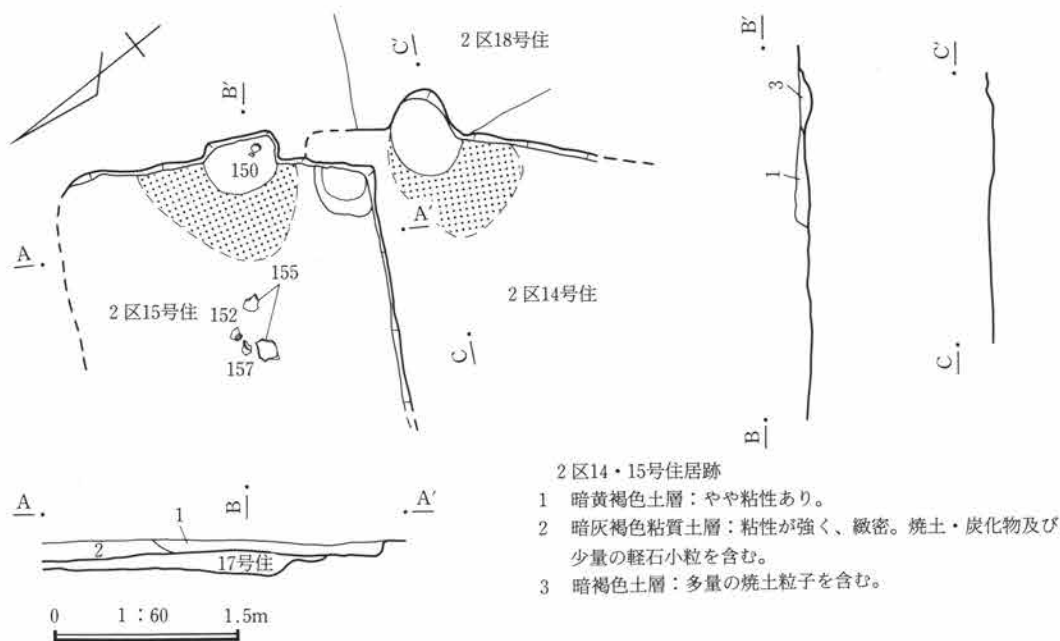
竈は東壁に位置し、燃烧部は壁外に34cm張り出している。竈前面には灰が分布している。遺物は竈内に僅かに遺存していた。

## 2区15号住居跡

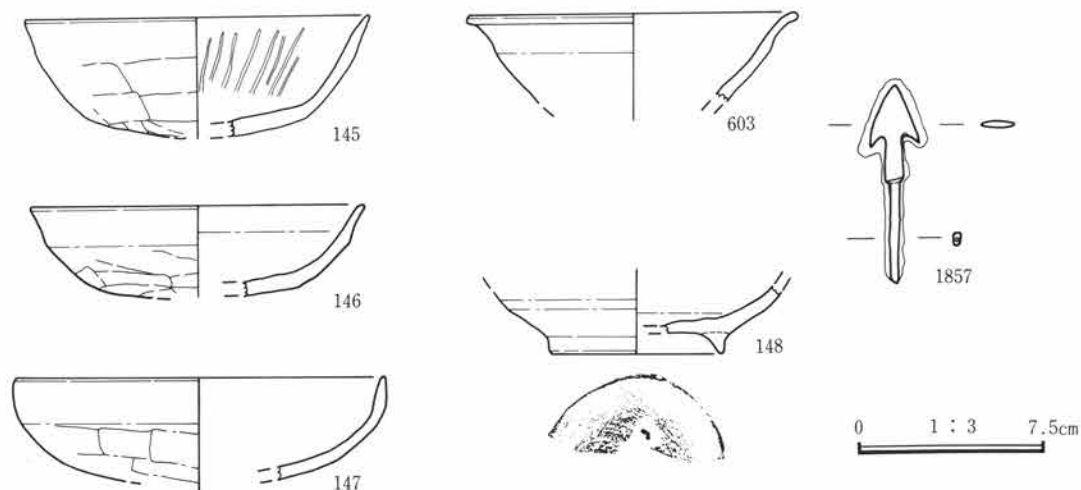
2区N-03グリッドに位置し、2区14号住居跡、2区16号住居跡、2区17号住居跡と重複する。新

旧関係は、16・17号住居跡より新しく14号住居跡より古い。住居跡の遺存は悪く、南半分程度を検出したに停どまった。このため、平面形・規模は不明である。主軸方位はN-33°-Eである。残存壁高は0cm~10cmを測る。床面は16号住居跡床面より3cm~5cm上に作られている。床面からは瓦片や須恵器碗(155・157)などが出土している。また、155の瓦は、2区17号住居跡と接合関係がある。柱穴・壁溝は検出されない。貯蔵穴は南隅に位置し、深さは10cmで遺物の出土はない。

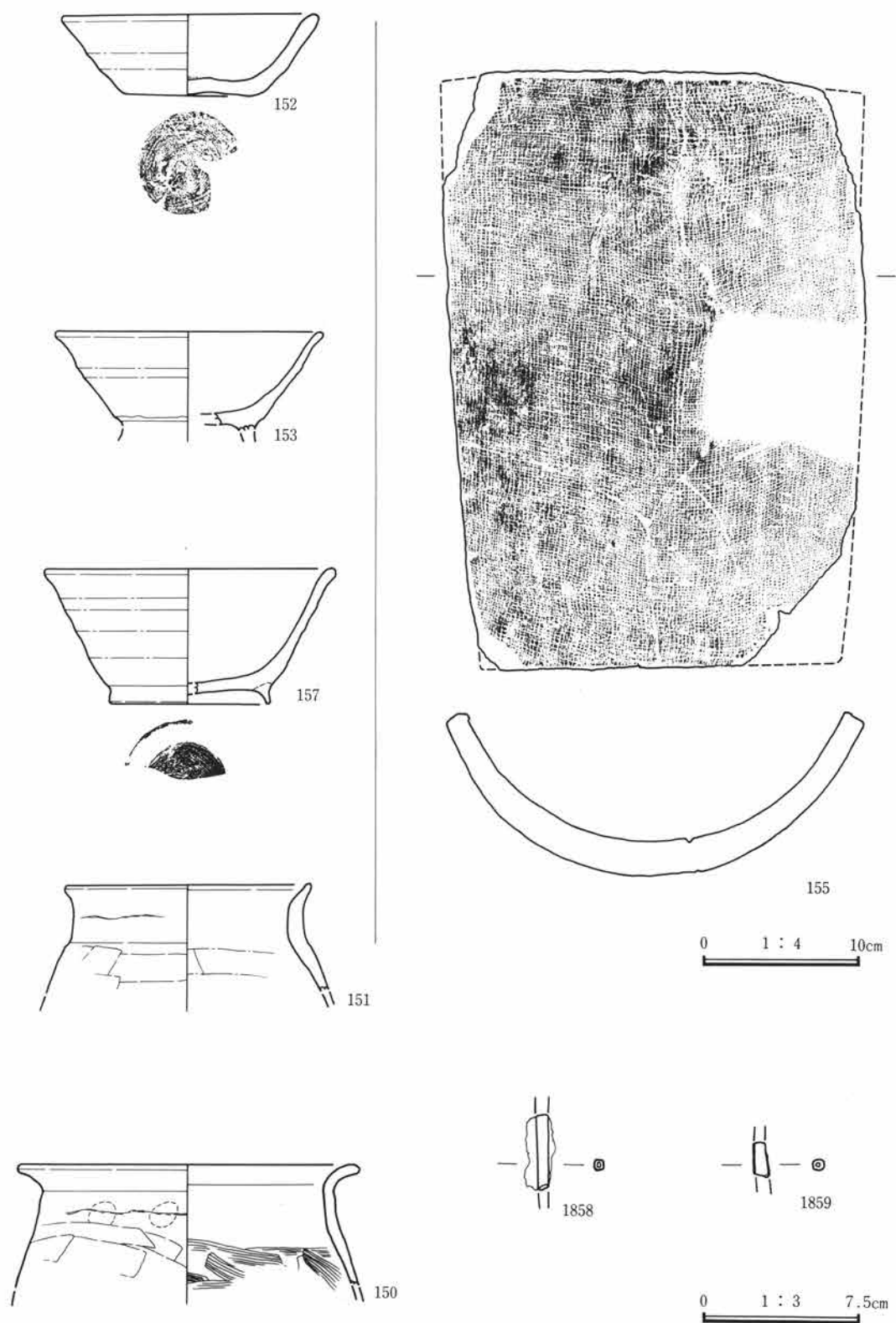
竈は東壁南寄りに構築されているが、遺存は悪い。竈前面には広く灰の分布が認められた。



第34図 2区14・15号住居跡



第35図 2区14号住居跡出土遺物



第36图 2区15号住居跡出土遺物

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0145	杯 土師器	器高：(47mm) 口径：[140mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	
0146	杯 土師器	器高：(41mm) 口径：[150mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	外面に油煙付着。
0147	杯 土師器	器高：(36mm) 口径：[134mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁部は僅かに外反。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0148	椀 須恵器	器高：(27mm) 口径：— 底径：[72mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底部は高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転なで。	
0603	椀 須恵器	器高：(36mm) 口径：[132mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{4}$	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形。口縁部はやや外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	
1857	鉄 鉄	長：(78mm) 幅：身20mm・筥7mm 厚：身3mm・茎5mm		三角形。逆刺・篋被を持つ。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0150	壺 土師器	器高：(62mm) 口径：[164mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	外面に油煙付着。
0151	壺 土師器	器高：(50mm) 口径：[118mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部～胴部上端は横なで。	内外面に油煙付着。
0152	杯 須恵器	器高：38mm 口径：124mm 底径：66mm 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に油煙付着。
0153	椀 須恵器	器高：(47mm) 口径：[128mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0155	平瓦	長さ：375mm 幅：265mm 厚さ：14～21mm	粒子はやや細かい。還元。普通。灰。	粘土板成形、一枚造り。凸面は斜め方向なで。凹面は布目、部分的に二重の布目。側面整形は1面。	
0157	椀 須恵器	器高：63mm 口径：[140mm] 底径：[78mm] 口縁部～高台部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部はなで。	
1858	? 鉄製品	長：(35mm) 幅：5mm 厚：5mm		鉄製の茎か。	
1859	? 鉄製品	長：(12mm) 幅：6mm 厚：5mm		鉄製の茎または紡錘車の軸か。	

## 2区16号住居跡

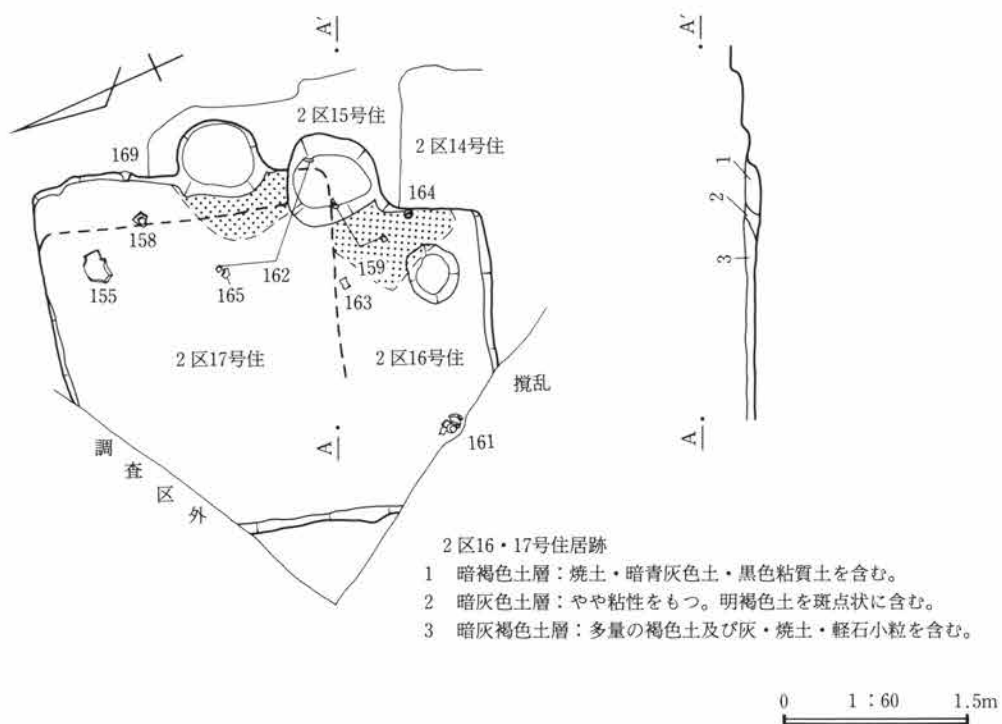
2区N-03グリッドに位置し、2区14・15・17号住居跡と重複する。新旧関係は14・15・17号住居跡より古い。当住居跡付近は床面近くまで攪乱が及んでいるうえ、重複が多いために竈と南壁・西壁の一部が確認できたのみである。平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は2cm～27cmである。床は竈前面のみ堅く、その他は軟弱である。貯蔵穴は床面では確認できなかったが、床を少し削った段階で確認された。深さは15cmで椀状に掘り込んでいる。柱穴と壁溝は確認できない。

竈は東壁に構築され、燃焼部は壁外に位置する。竈内には灰、焼土、炭化物が堆積していた。

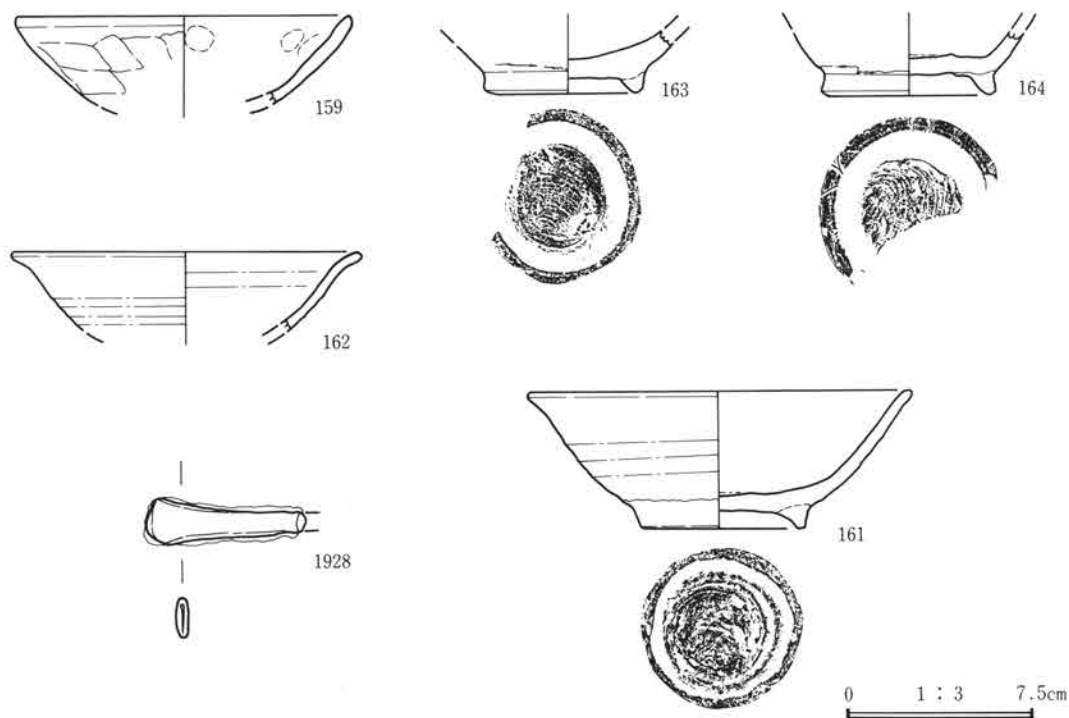
## 2区17号住居跡

2区N-04グリッドに位置し、2区15・16号住居跡と重複する。新旧関係は、16号住居跡より新しく、15号住居跡より古い。竈付近以外は遺存状態は非常に悪く、西壁は確認できない。また、北壁も僅かに検出された程度である。検出された部分の残存壁高は1cm～10cmである。平面形・規模は不明。主軸方位はN-19°-Eを示す。床面は16号住居跡とほぼ同一面である。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出されない。遺物は、北東部分から瓦(155)が出土している。この瓦は15号住居跡との間に接合関係がある。

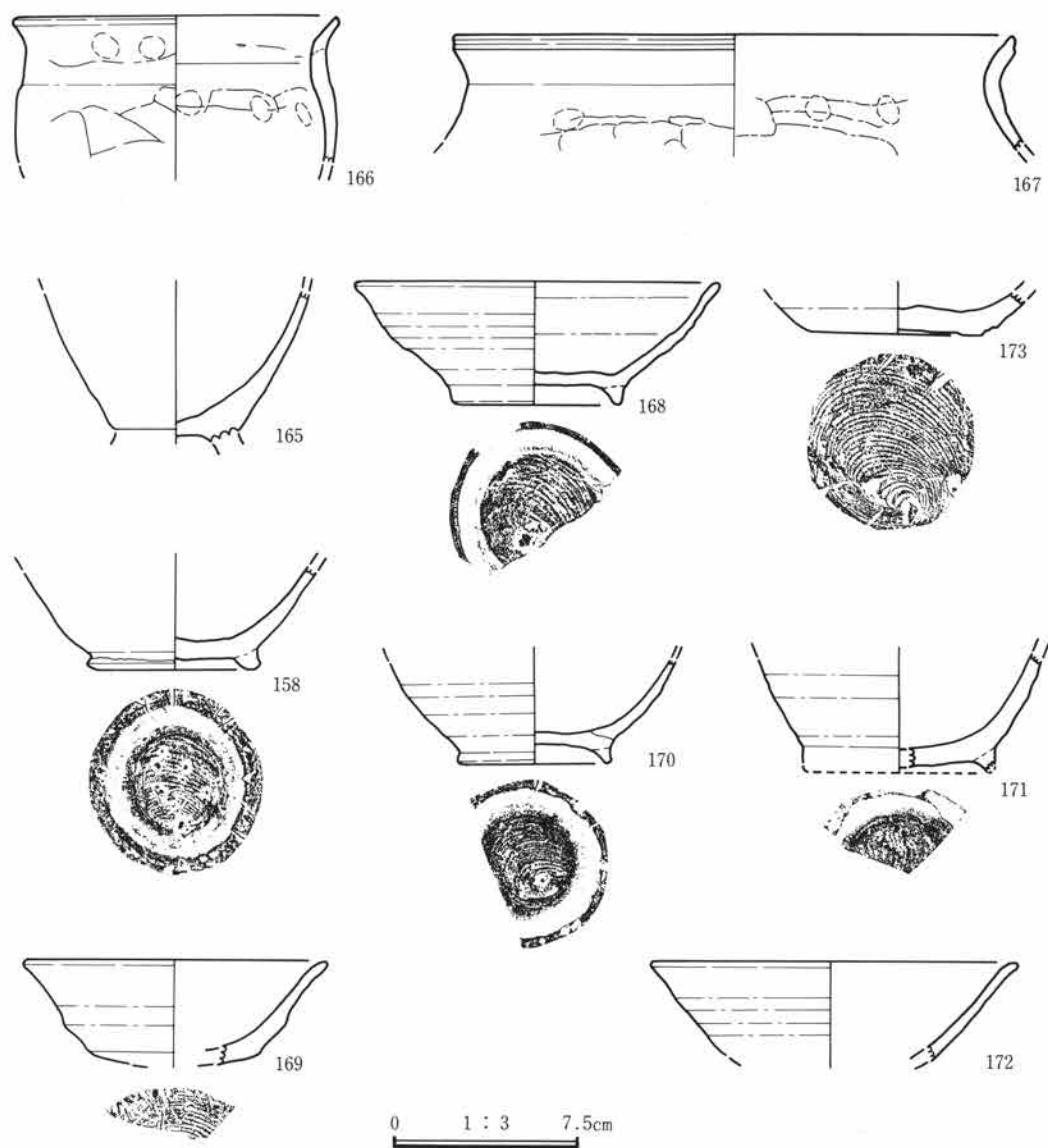
竈は東壁南寄りに構築され、燃焼部は壁外に40cm張り出す。竈内は浅い椀状に掘り込んでおり、中には焼土、灰が堆積していた。



第37図 2区16・17号住居跡



第38図 2区16号住居跡出土遺物



第39図 2区17号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0159	杯 土師器	器高：(35mm) 口径：[136mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐色。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。内面：口縁部～胴部横なで。	内外面に油煙付着。
0161	椀 須恵器	器高：54mm 口径：154mm 底径：67mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白・オリーブ黒。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に共に燻し。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0162	椀 須恵器	器高：(32mm) 口径：[142mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白・オリーブ黒。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。内外面共に口縁部～胴部は回転まで。	内外面共に燻し。
0163	椀 須恵器	器高：(24mm) 口径：— 底径：65mm 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転まで。	
0164	椀 須恵器	器高：(25mm) 口径：— 底径：70mm 胴部下端～高台部 $\frac{2}{3}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転まで。底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転まで。	
1928	? 鉄製品	長：(64mm) 幅：8～18mm 厚：5mm		刀子の茎か。鉄板を折り曲げ、たたいて鍛えてある。	

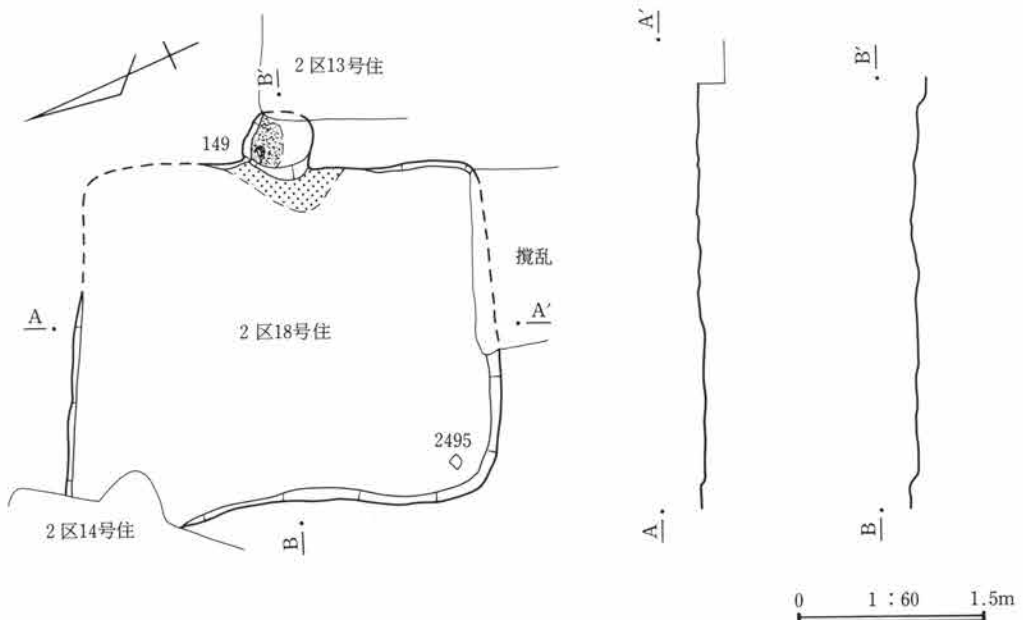
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0158	椀 須恵器	器高：(41mm) 口径：— 底径：71mm 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形、右回転。外面：胴部は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転まで。	
0165	台付甕 土師器	器高：(60mm) 口径：— 底径：— 胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。褐。	内外面ともに胴部下半～底部はなで。	外面に油煙付着。
0166	甕 土師器	器高：(58mm) 口径：[132mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は指まで後横まで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横まで、胴部上端は篋まで。	
0167	甕 土師器	器高：(45mm) 口径：[226mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。赤褐。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横まで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横まで、胴部上端は篋まで。	内面に油煙付着。
0168	椀 須恵器	器高：48mm 口径：[148mm] 底径：70mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部はなで。	
0169	杯 須恵器	器高：(41mm) 口径：[144mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	外面に油煙付着。
0170	椀 須恵器	器高：(41mm) 口径：— 底径：63mm 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転まで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0171	碗 須恵器	器高：(48mm) 口径：一 底径：一 胴部～高台部上端 $\frac{1}{4}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転なで、底部は高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで。	内外面に油煙付着。
0172	碗 須恵器	器高：(38mm) 口径：[148mm] 底径：一 口縁部～胴部 $\frac{1}{3}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部胴部は回転なで。	
0173	碗 須恵器	器高：(18mm) 口径：一 底径：72mm 胴部下端～底部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り。内面：胴部下端～底部は回転なで。	

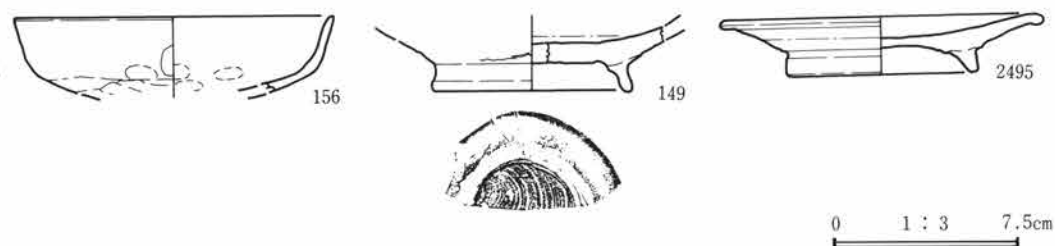
## 2区18号住居跡

2区N-02グリッドに位置する。2区13号住居跡、2区14号住居跡と重複する。新旧関係は13・14号住居跡より古い。平面形は2.68m×3.44mを測るが、東壁がほとんど遺存していないため主軸方位は不明である。当住居跡は遺存が悪く、南壁東半と北東隅の壁は確認できず、残存壁高は0cm～17.5cmである。また、床面は竈前から北半にかけて非常に堅いが、南半は床面まで攪乱が及んでいるためかなり遺存が悪い。柱穴・貯蔵穴・壁溝は確認できない。

竈は痕跡をとどめる程度で、東壁中央で検出された。燃焼部には灰と焼土が堆積し、前面には灰が分布していた。先端は13号住居跡に壊されている。



第40図 2区18号住居跡



第41図 2区18号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0149	碗 須恵器	器高：(25mm) 口径：一 底 径：[80mm] 胴部下端～底 部迄	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転 なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。 内面：胴部下端～底部は回転なで。	
0156	杯 土師器	器高：(30mm) 口径：[130 mm] 底径：一 口縁部～底 部迄	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。 橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。丸 底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は 篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底 部はなで、所々指頭痕が残る。	
2495	皿 須恵器	器高：23mm 口径：[131mm] 底径：[78mm] 口縁部～高 台部迄	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部回転なで、底部は回転 糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底 部は回転なで。	

## 2区19号住居跡

2区K-5グリッドに位置し、2区20号住居跡・2区1号井戸と重複する。新旧関係は住居跡の西側が1号井戸を埋めた後に構築されていることから1号井戸より新しい。また、20号住居跡との新旧関係は攪乱が一部床面に達する程遺存が悪いため、セクションや平面で重複を確認することができなかった。しかし、竈前の灰が20号住居跡床面に及んでいること、掘形と床の状況から20号住居跡より新しいと考えられる。南西部分は壁が確認できないが、平面形は隅丸長方形を呈していると考えられる。規模は2.22m×-mを測り、主軸方位はN-13.5°-Eを示す。残存壁高は6cm～13.4cmである。床面は暗褐色粘質土中に褐色土を斑状に含む土で構築している。張り床の厚さは、6cm～18cmである。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出できない。遺物は西壁際から土師器杯(175)、須恵器碗(177)、東壁北側から須恵器碗(176)などが出土している。また、羽釜(182)は、埋土・掘形・20号住居跡・22号住居跡出土の破片が接合している。このため182の羽釜は当住居跡には伴わないと考えられる。

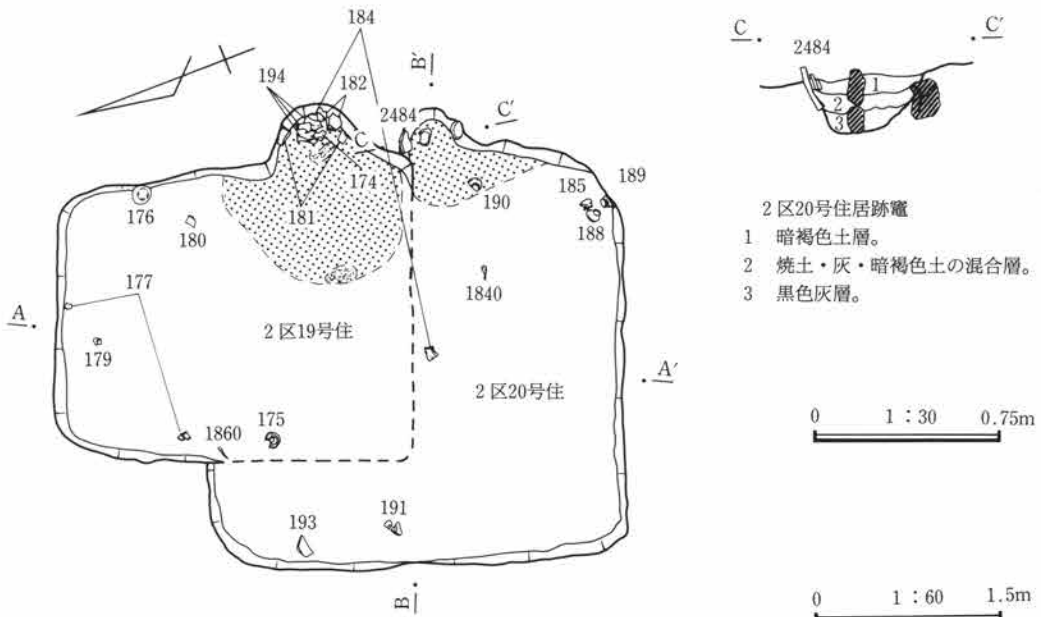
竈は東壁の南に位置し、燃焼部は43cm壁外に張り出す。なお、当住居跡の竈東半から北東隅は側道調査で確認された。燃焼部壁際からは瓦(181)が立て掛けられた状態で出土し、それと対になるように反対側には石が置かれていた。共に竈の側壁に使用されていたものと考えられる。竈前面には灰が広く分布している。

掘形は検出されているが、他遺構の掘形と図面が分離できないため報告は割愛した。

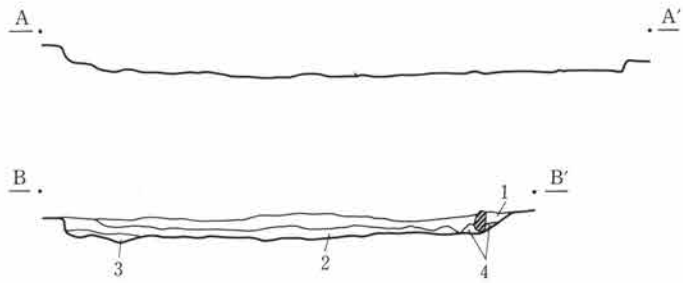
## 2区20号住居跡

2区K-04グリッドに位置し、2区19号住居跡、2区22号住居跡、2区1号井戸と重複する。新旧関係は1号井戸を埋めた後に当住居跡が構築されていること、当住居跡が22号住居跡の埋土を掘り込んでいることから、1号井戸・22号住居跡より新しく、19号住居跡より古い。平面形は、19号住居跡により北東部分を破壊されているが、規模3.32m×3.32mの隅丸方形を呈するものと考えられる。主軸方位は不明で、残存壁高は5cm～10cmを測る。床は、5cm～20cmの黒灰色土と褐色土の混土層で構築している。掘形埋土中には多量の須恵器・土師器の破片が含まれていた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出されない。遺物は、竈前から須恵器皿(190)、南東隅からは須恵器椀(188・189)と小型の土師器台付甕(185)がまとめて出土している。また、184の土師器甕は19号住居跡竈内出土の小片と当住居跡埋土・竈・掘形出土の破片が接合している。

竈は東壁中央に構築され、燃焼部は壁外に24cm張り出す。燃焼部には砂岩の支脚が遺存している。また、燃焼部からは壁に使用されたと考えられる瓦が出土している。



第42図 2区19・20号住居跡

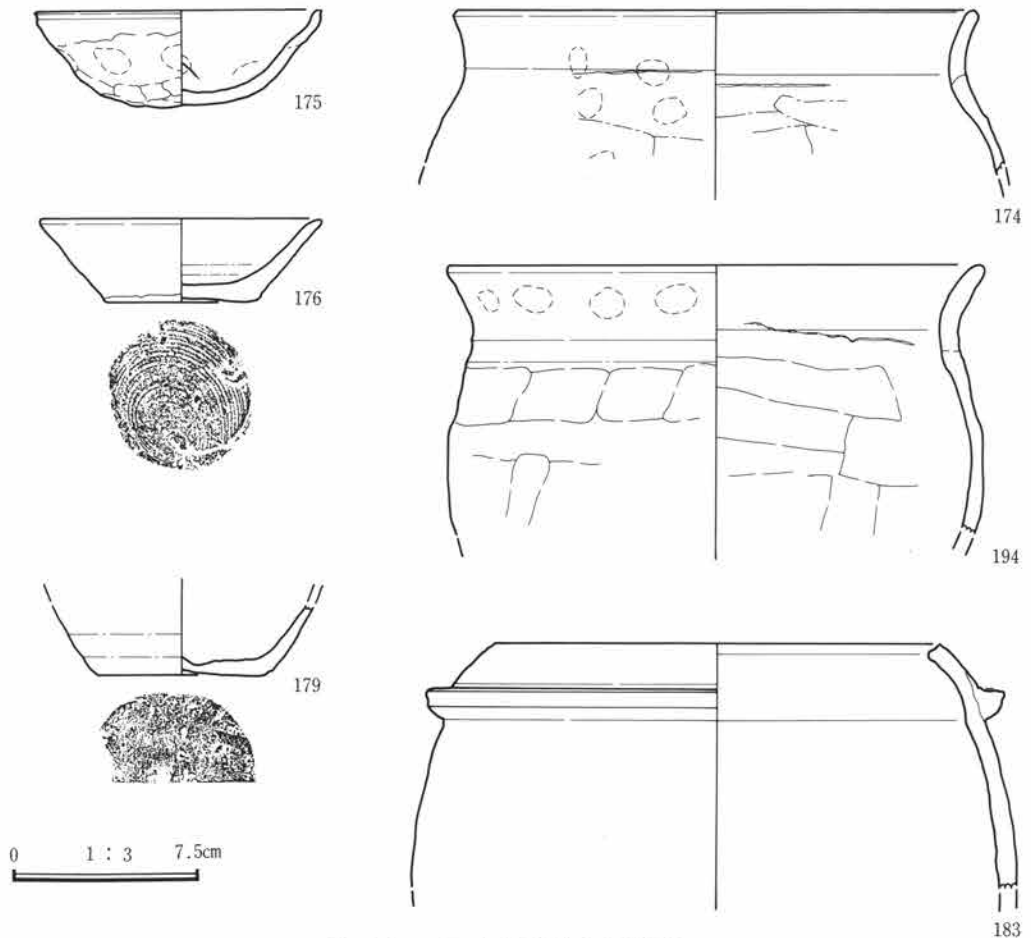


2区20号住居跡

- 1 黒褐色土層：軽石小粒及び微量の褐色土小ブロックを含む。
- 2 黒灰褐色土層：1層に類似。灰色味が強く、大豆～小粒大の軽石を含む。
- 3 暗黄褐色粘質土層：黒味を帯びた褐色土。黄色粘土ブロック及び少量の軽石小粒を含む。
- 4 暗褐色土層：焼土・灰を含む。

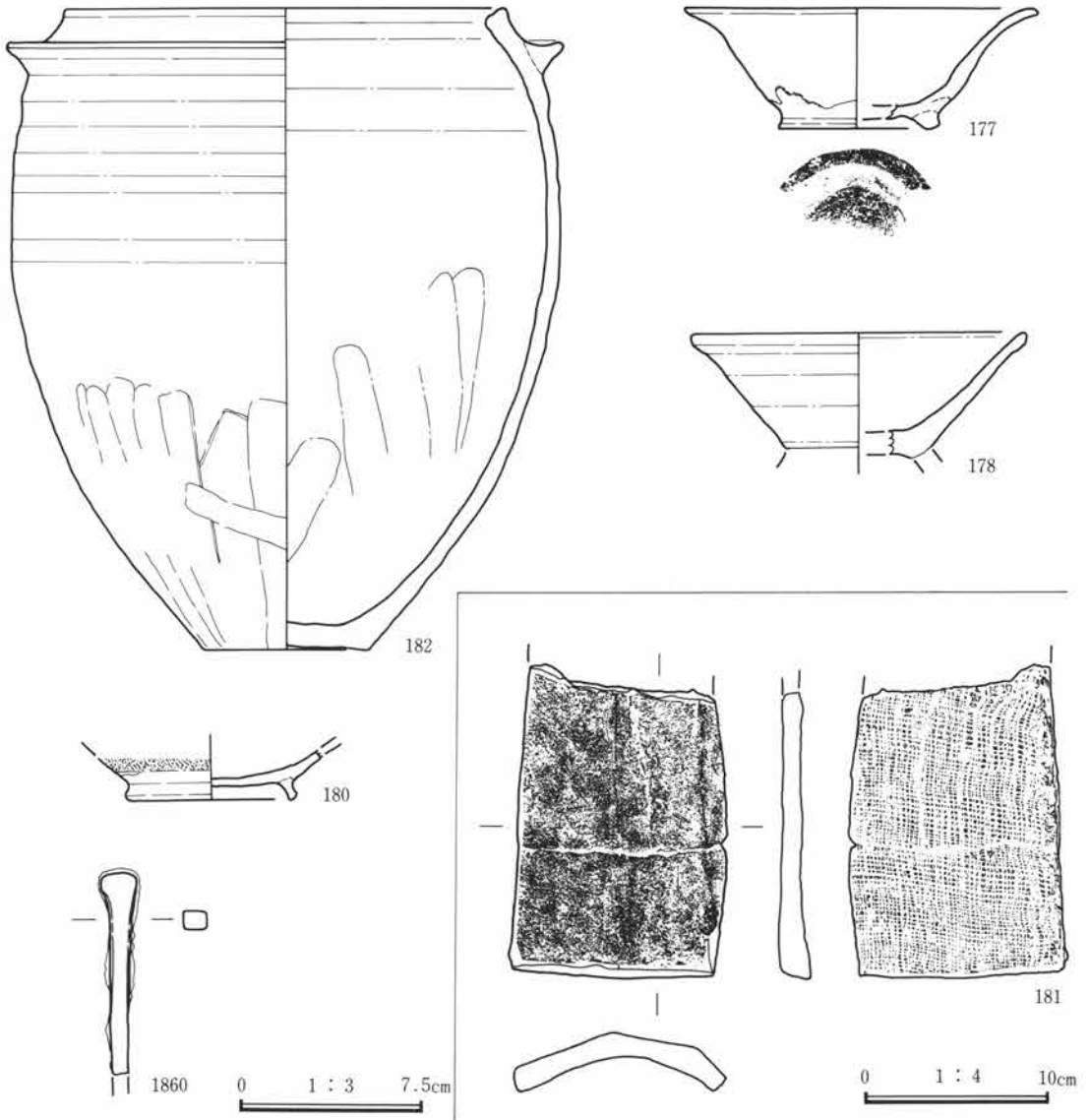
0 1 : 60 1.5m

第43図 2区19・20号住居跡断面・エベレーション

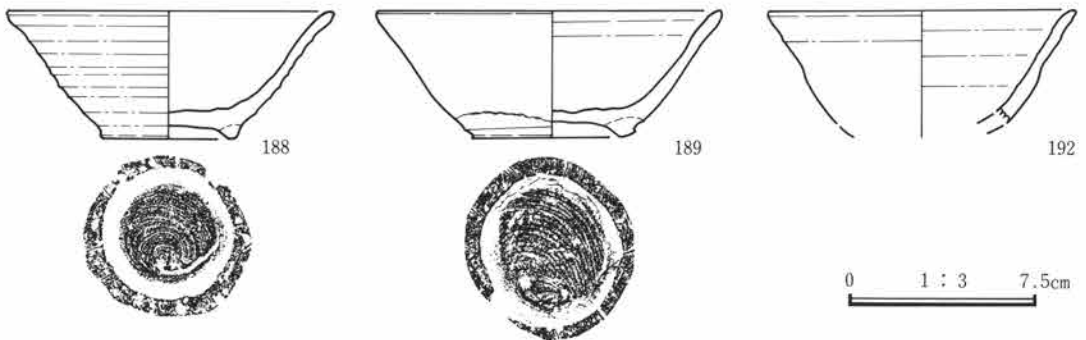


第44図 2区19号住居跡出土遺物①

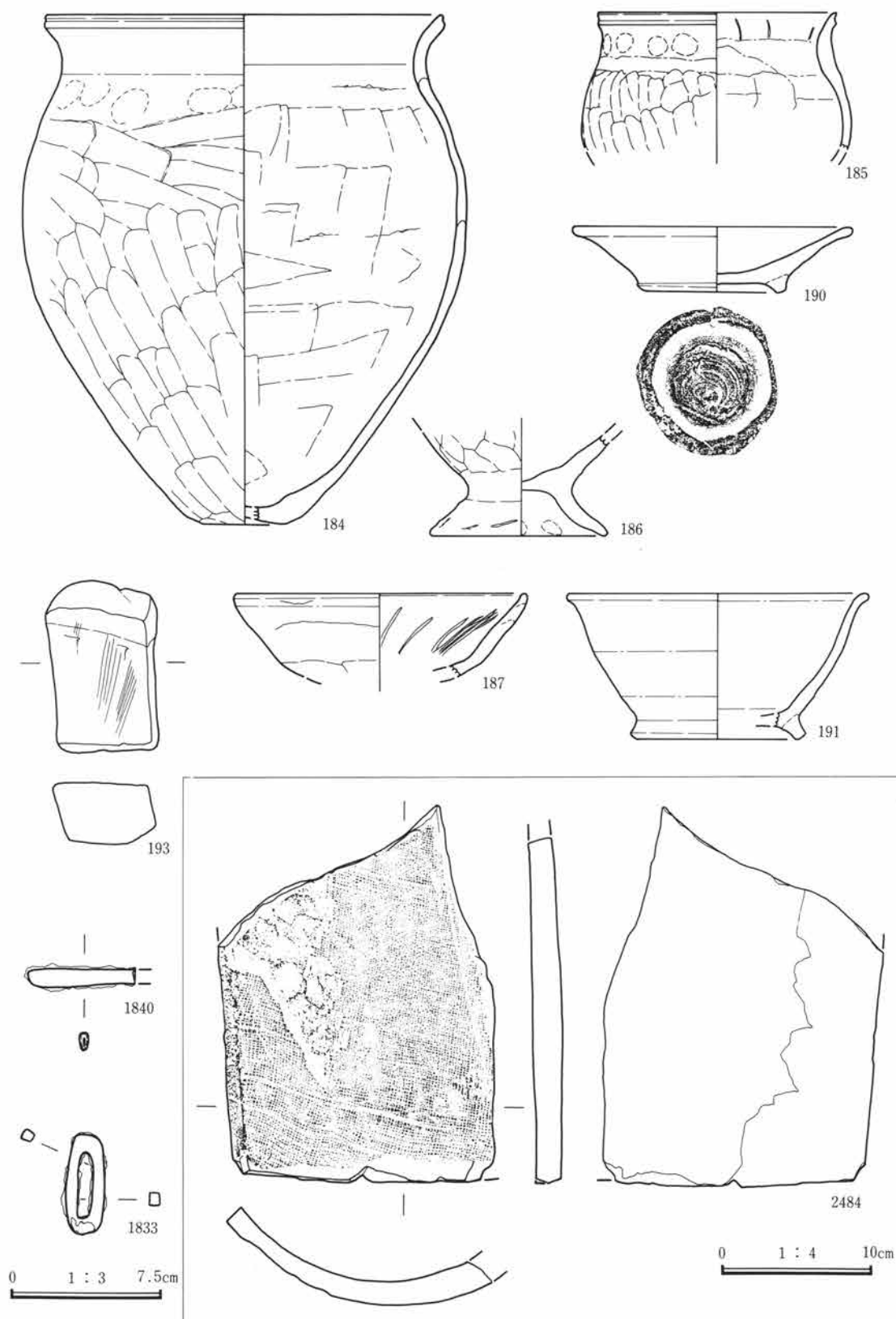




第45图 2区19号住居跡出土遺物②



第46图 2区20号住居跡出土遺物①



第47図 2区20号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0174	甕 土師器	器高：(65mm) 口径：[208mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0175	杯 土師器	器高：38mm 口径：116mm 底径：— ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。鈍い橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面口縁端部に沈線一条。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部に指頭痕が残り、胴部下半～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、底部下半はなで。	
0176	杯 須恵器	器高：33mm 口径：115mm 底径：60mm 完形	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に油煙付着。
0177	碗 須恵器	器高：48mm 口径：141mm 底径：[66mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白、一部二次炎で酸化橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け。口縁部～底部は回転なで。	外面に油煙付着。一部二次炎を受けている。
0178	碗 須恵器	器高：(50mm) 口径：[136mm] 底径：[48mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。灰黄。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に油煙付着。
0179	杯 須恵器	器高：(27mm) 口径：— 底径：[70mm] 胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転篋削り。内面：胴部下半～底部は回転なで。	
0180	碗 灰釉陶器	器高：(19mm) 口径：— 底径：[70mm] 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底部は高台貼り付け後回転なで。内面：胴部下端～底部は回転なで。	
0181	丸 瓦	長：(168mm) 幅：(120mm) 厚：6～10mm	砂粒を含む。酸化。軟質。褐。	粘土板成形、一枚造り。凸面は縦方向篋削り。凹面は布目。側面整形は1面、端面整形は1面。	
0182	羽 釜	器高：260mm 口径：[178mm] 底径：72mm 最大径：226mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	口縁部はやや内湾。最大径は胴部中央。外面：口縁部～胴部上半は回転なで、胴部下半～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部上半は回転なで、胴部下半は篋なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0183	羽 釜	器高：(96mm) 口径：[180mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	口縁部は内湾。内外面共に口縁部～胴部上端は回転なで。	
0194	甕 土師器	器高：(106mm) 口径：[216mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上半は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上半は篋なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
1860	？ 鉄製品	長：(81mm) 幅：14mm 厚：8mm		角釘の一部か。	

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0184	甕 土師器	器高：248mm 口径：[196mm] 底径：[42mm] 最大径：[218mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。最大径は胴部上半。外面口縁端部に沈線一条。内面に輪積み痕が残る。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋なで。	外面に油煙付着。
0185	甕 土師器	器高：(67mm) 口径：[120mm] 底径：— 最大径：[134mm] 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。最大径は胴部上半。口縁端部に沈線一条。外面：口縁部は横なで、胴部上半は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上半は篋なで。	内外面に油煙付着。
0186	台付甕 土師器	器高：(51mm) 口径：— 脚径：88mm 胴部下端～脚部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	脚部は「ハ」字状にひらく。外面：胴部下端は篋削り、脚部は横なで。内面：胴部下端～底部は篋なで、脚部はなで。	外面に多量の油煙付着。
0187	杯 土師器	器高：(41mm) 口径：146mm 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで。	外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0188	椀 須恵器	器高：50mm 口径：[132mm] 底径：66mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内面に油煙付着。
0189	椀 須恵器	器高：50mm 口径：[139mm] 底径：71mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に油煙付着
0190	皿 須恵器	器高：32mm 口径：[140mm] 底径：73mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元(部分的に酸化)。やや硬質。灰白・橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に油煙付着。
0191	椀 須恵器	器高：(71mm) 口径：[152mm] 底径：[80mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0192	椀 須恵器	器高：(45mm) 口径：[124mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	
0193	砥石	長：(83mm) 幅：56mm 厚：31mm 重：198.7g	砥沢石。	使用面は4面。	
1833	？ 鉄製品	リング長径：49mm 短径：19mm 棒材幅・厚：6mm		断面四角形の棒材がリング状になっている。	
1840	刀子 鉄製品	長：(53mm) 幅：9mm 厚：3mm		二重に折り返している。	
2484	平瓦	長：(247mm) 幅：(183mm) 厚：13～20mm	粒子はやや細かい。還元。普通。灰。	粘土板成形、一枚造り。凸面は斜め方向なで。凹面は布目、部分的に二重布目。側面整形は1面、端面整形は1面。	

## 2区21号住居跡

2区L-03グリッドに位置し、2区27号住居跡と重複する。当住居跡は竈掘形と張り床の一部が検出されたのみであり、平面形・規模・主軸方位は不明である。また、柱穴・壁溝・貯蔵穴も不明である。床は竈前のみ遺存しており、その広がりから2区27号住居跡より新しいと判断された。竈前からは須恵器碗(307・310)が出土している。また、床面からは鉄滓(1834・1835)が、埋土からは焼成前に「如」と刻字された灰釉陶器碗(314)が出土している。

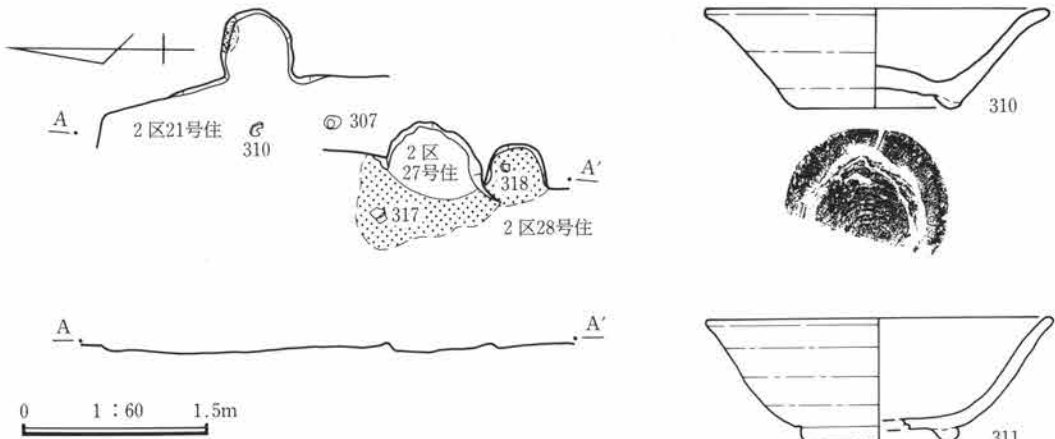
## 2区27号住居跡

2区L-03グリッドに位置し、竈とその手前の床面が僅かに検出された。2区21号住居跡、2区28号住居跡と重複し、床面の広がりから21号住居跡より古く、28号住居跡より新しいと判断された。平面形・規模・主軸方位は不明である。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されない。遺物で図示し得たのは羽釜(317)1点のみである。

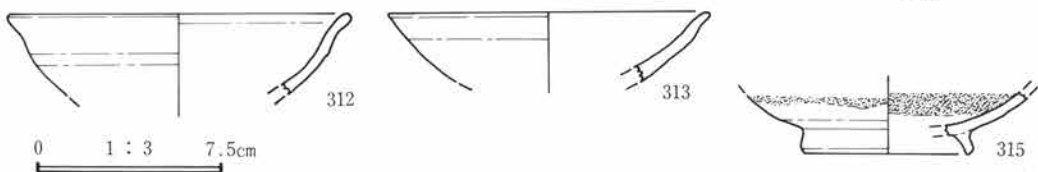
竈は楕円形状であり、灰と焼土が分布していた。

## 2区28号住居跡

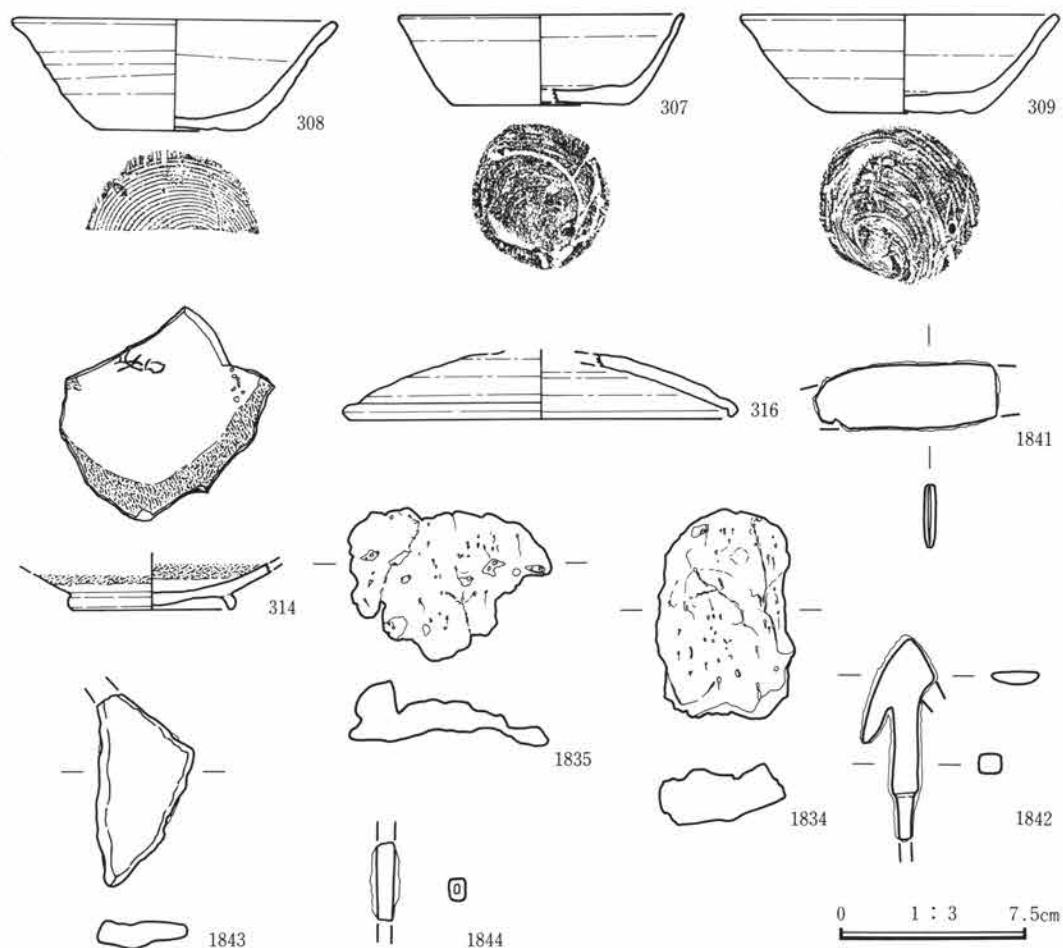
2区L-03グリッドに位置し、竈の痕跡のみ検出された。2区27号住居跡と重複し、新旧関係は当住居跡が古い。平面形・規模・主軸方位は不明である。床面は遺存していない。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。



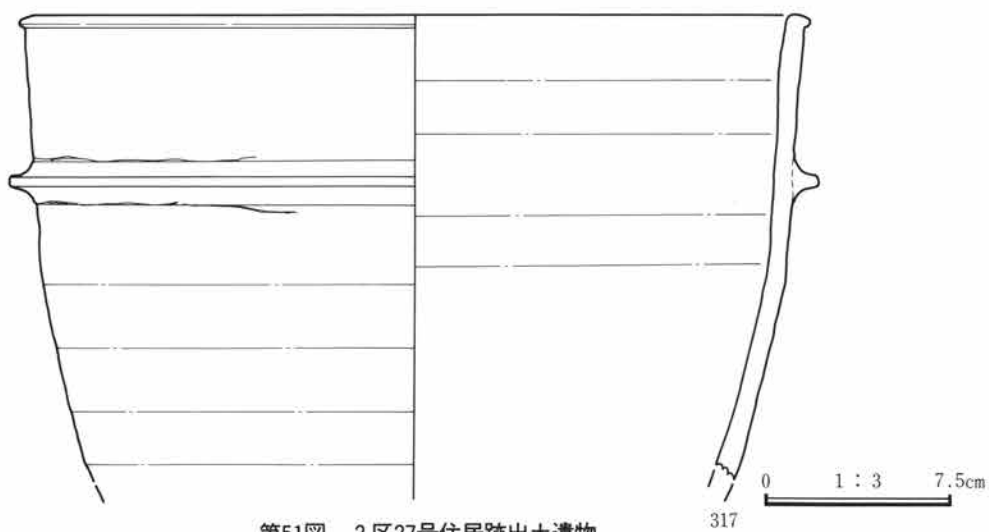
第48図 2区21・27・28号住居跡



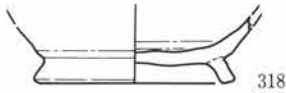
第49図 2区21号住居跡出土遺物①



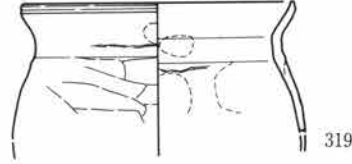
第50図 2区21号住居跡出土遺物②



第51図 2区27号住居跡出土遺物



318



319

0 1 : 3 7.5cm

第52図 2区28号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0307	杯 須恵器	器高：44mm 口径：135mm 底径：63mm 完形	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転などで。	
0308	杯 須恵器	器高：36mm 口径：[116mm] 底径：[72mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転などで。	
0309	杯 須恵器	器高：39mm 口径：[128mm] 底径：66mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転などで。	内外面共に口縁部には油煙付着。
0310	碗 須恵器	器高：40mm 口径：[140mm] 底径：65mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転などで。	内面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0311	碗 須恵器	器高：50mm 口径：[140mm] 底径：[58mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。浅黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転などで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0312	碗 須恵器	器高：(33mm) 口径：[138mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。内外面共に口縁部～胴部は回転などで。	
0313	碗 須恵器	器高：(28mm) 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。口縁部～胴部はやや内湾しつつ広がる。内外面共に口縁部～胴部は回転などで。	外面に油煙付着。
0314	碗 灰釉陶器	器高：(17mm) 口径：— 底径：65mm 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部下半は回転などで、底部は高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転などで。	内面底部に刻字「如」。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0315	椀 灰釉陶器	器高：(25mm) 口径：— 底径：[67mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部下半は回転なで、底部は高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転なで。	
0316	蓋 須恵器	器高：(21mm) 口径：[156mm] 天井部～口縁部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。返りは短い。内外面共に天井部～口縁部は回転なで。	
1834	鉄 滓			鉄分を含む。	
1835	鉄 滓			鉄分を含む。	
1841	鎌 鉄製品	長：(72mm) 幅：26mm 厚：4.5mm		鎌の身の一部。反りは殆どない。	
1842	鉄 鎌	長：(80mm) 幅：(28mm) 厚：身6mm・筥披8mm		三角形形式。腸袂は深い。	
1843	? 鉄製品	長：76mm 幅：38mm 厚：11mm		用途不明。	
1844	? 鉄製品	長：(31mm) 幅：9mm 厚：7mm		鉄鎌の茎または紡錘車の軸?	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0317	羽 釜	器高：(182mm) 口径：[320mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄橙。	口縁部はほぼ直立。罅部は貼り付け。内外面共に口縁部～胴部上半は回転なで。	

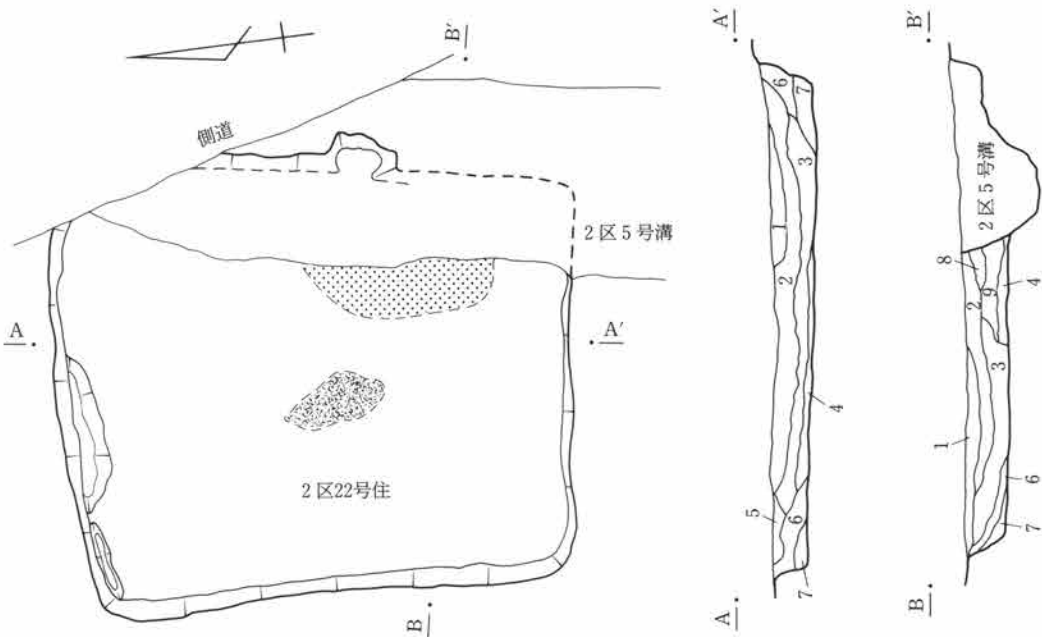
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0318	椀 須恵器	器高：(25mm) 口径：— 底径：[80mm] 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転なで。	
0319	甕 土師器	器高：(52mm) 口径：[100mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、頸部～胴部上端はなで、一部指頭痕が残る。	外面に油煙付着。



## 2区22号住居跡

2区K-03グリッドに位置し、2区20号住居跡、2区5号溝と重複する。新旧関係は、5号溝により東壁が破壊されていること、北壁が20号住居跡によって破壊されていることからいずれも当住居跡が古い。平面形は不明であり、南北の規模は4.12mを測る。主軸方位は不明である。5号溝と20号住居跡と重複する以外は遺存状況は良く、残存壁高は16cm～51cmと高い。床は黒色の緻密な土と淡褐色土の混土層を5cm～10cm張って構築している。床面中央付近には、焼土と黒色灰が分布している。壁溝は北壁の西側に、深さ2cm～7cmの不整形なものが確認されている。柱穴・貯蔵穴は確認できない。床面上には遺物が殆どなく、図示した遺物はすべて埋土上層であり、他遺構が重複していた可能性がある。

竈は、5号溝の東に焼土化した奥壁が残存していた。竈底面は、黄灰色粘土を5cm程張り付けている。竈前面には灰と焼土が分布している。

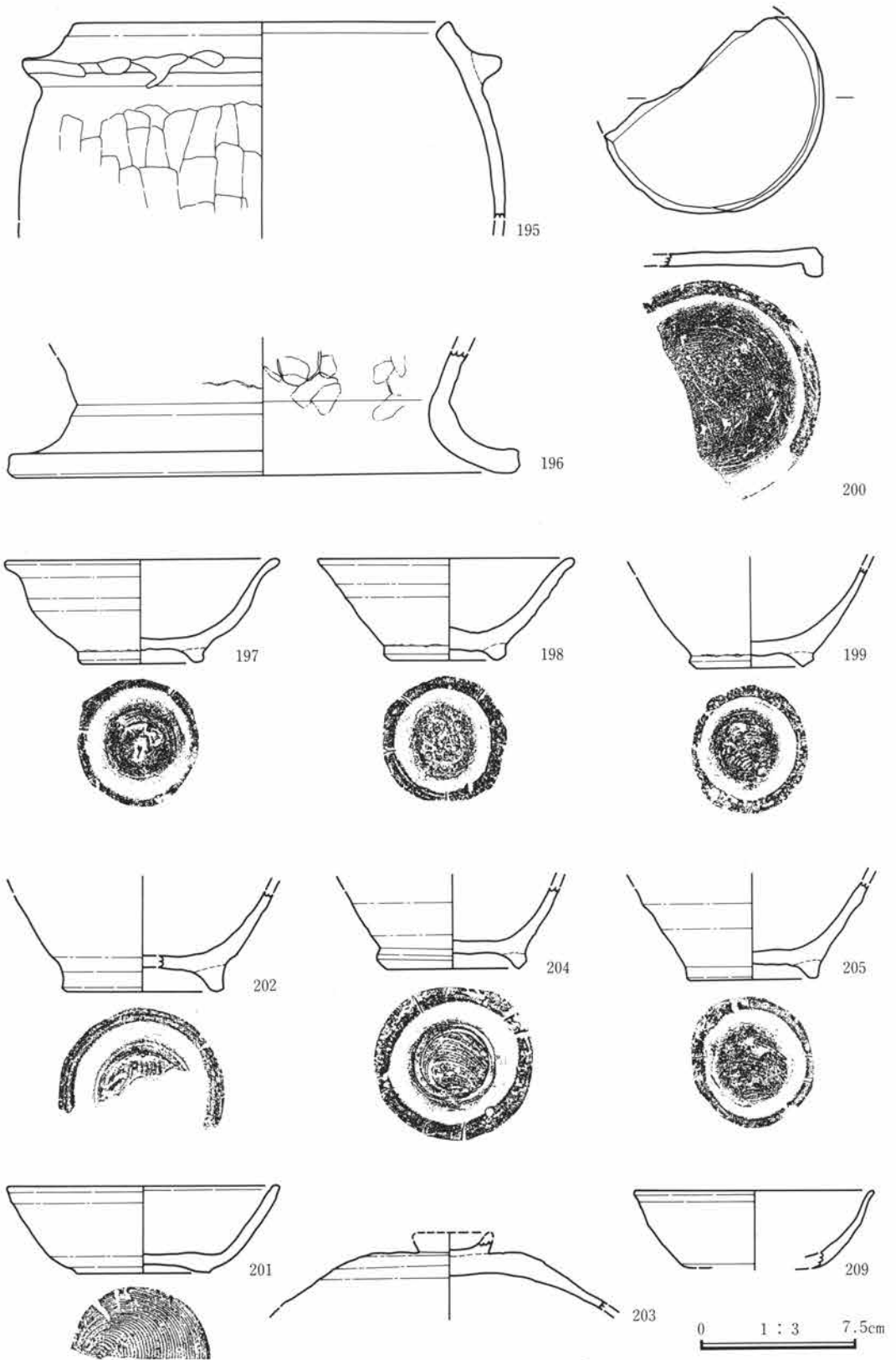


## 2区22号住居跡

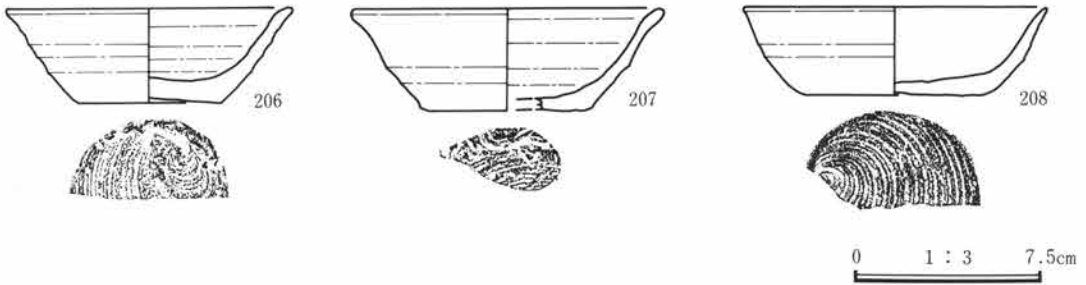
- 1 暗褐色土層：灰色味を帯びた細粒子で締った層。少量の大豆大～小粒の軽石を含む。
- 2 淡灰褐色土層：灰色土・褐色土の混土層。多量の軽石小粒を含み、少量の炭化物・焼土を含む。
- 3 暗灰色粘質土層：暗褐色土に褐色土が斑点状に混じる。多量の大豆大～小粒軽石を含む。
- 4 黒灰色粘質土層：緻密。少量の軽石小粒を含む。
- 5 黒灰色土層：暗青色灰を含む。
- 6 暗灰褐色土層：褐色土・黄褐色土及び少量の大豆大～小粒軽石を含む。
- 7 黒黄褐色土層：黒色灰土と暗灰褐色土の混合、微量の軽石を含む。
- 8 暗灰色粘質土層：褐色土が斑点状に混じり、緻密。多量の大豆大～小粒軽石を含む。
- 9 暗灰褐色粘質土層：暗褐色土と褐色土が斑点状に混じり、緻密。少量の梅干大～小粒軽石を含む。

0 1 : 60 1.5m

第53図 2区22号住居跡



第54図 2区22号住居跡出土遺物①



第55図 2区22号住居跡出土遺物②

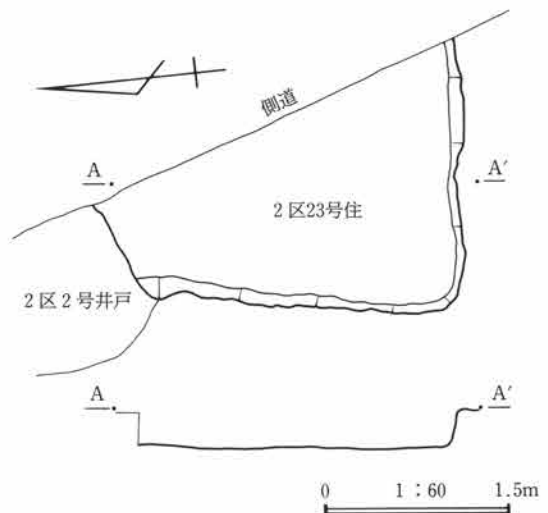
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0195	羽 釜	器高：(92mm) 口径：[180mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	口縁部は内湾。鋸部は貼り付け。外面：口縁部～鋸部は回転で、胴部上半は篋削り。内面：口縁部～胴部上半は回転で。	
0196	甗	器高：(58mm) 口径：— 底径：[248mm] 胴部下端～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	底部は大きく広がる。内面に2所の凹みが残る。内外面共に胴部下端～底部は回転で。	内外面に油煙付着。
0197	椀 須恵器	器高：49mm 口径：136mm 底径：60mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。浅黄。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は高台貼り付け。内面：口縁部～胴部は回転で。	
0198	椀 須恵器	器高：48mm 口径：[124mm] 底径：61mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。浅黄。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転で。	内面底部にタール又は漆の付着。
0199	椀 須恵器	器高：(46mm) 口径：— 底径：59mm 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転で、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転で。	
0200	椀 須恵器	器高：(15mm) 口径：— 底径：107mm 底部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：底部は回転で。周囲が丁寧に打ち欠かれており、内外面の底部は摩滅している。	転用形態。
0201	杯 須恵器	器高：41mm 口径：[132mm] 底径：65mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	やや多量の径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	
0202	椀 須恵器	器高：(47mm) 口径：— 底径：78mm 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部は直線的に広がる。外面：胴部は回転で、底部は高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転で。	

第四章 発見された遺構と遺物

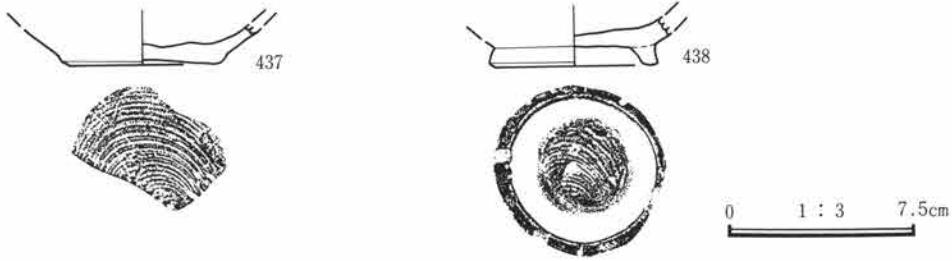
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0203	蓋 須恵器	器高：(31mm) 口径：一つ まみ径：一つまみ部～天 井部%	やや多量の径3～4mm の小石及び砂粒を含 む。還元。硬質。灰。	つまみ部は貼り付け。外面：天井部上半は 回転篋削り、天井部下半は回転なで。内面： 天井部は回転なで。	
0204	碗 須恵器	器高：(38mm) 口径：一底 径：72mm 胴部～高台部%	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部は回転なで、 底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面： 胴部～底部は回転なで。	内面に油煙付着。
0205	碗 須恵器	器高：(45mm) 口径：一底 径：63mm 口縁部下半～高 台部%	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高 台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転な で。	内外面の胴部～底 部は焦し。
0206	杯 須恵器	器高：38mm 口径：[116mm] 底径：[58mm] 口縁部～底 部%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。 外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回 転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0207	杯 須恵器	器高：41mm 口径：[126mm] 底径：[68mm] 口縁部～底 部%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ 広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口 縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。 内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に油煙付着。
0208	杯 須恵器	器高：(35mm) 口径：[122mm] 底径：[72mm] 口縁部下半 ～底部%	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回 転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部 ～底部は回転なで。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
0209	杯 須恵器	器高：(36mm) 口径：[116 mm] 底径：一口縁部～胴 部%	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。やや軟質。 灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ 広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共 に口縁部～胴部は回転なで。	

2区23号住居跡

1区K-34グリッドに位置し、本線敷調査時に西半分のみ検出された。2区106号住居跡、2区2号井戸と重複し、新旧関係は、セクションから2号井戸より古いことは確認できるが、106号住居跡との関係は、調査時期が異なるため確認できなかった。残存壁高は21cm～43cmを測る。平面形・規模・主軸方位は不明である。床は黒灰色粘質土を用いて張っている。柱穴・壁溝・貯蔵穴・竈は、側道調査時にも確認できなかった。



第56図 2区23号住居跡



第57図 2区23号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0437	杯 須恵器?	器高：(16mm) 口径：一 底 径：63mm 胴部下端～底部 %	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄橙。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転 なで、底部は回転糸切り。内面：胴部下端 ～底部は回転なで。	
0438	碗 須恵器	器高：(19mm) 口径：一 口 径：67mm 胴部下端～高台 部%	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転 なで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。 内面：胴部下端～底部は回転なで。	

## 2区24号住居跡

2区M-05グリッドに位置し、2区25号住居跡、2区26号住居跡と重複する。新旧関係は、26号住居跡床面が当住居跡埋土上に構築されていること、25号住居跡を当住居跡が壊していることから、25号住居跡より新しく、26号住居跡より古い。北西隅と南西隅は攪乱により壁は確認できず、平面形は不明である。規模は $1 \times 2.81$ mを測り、主軸方位はN-13.5°-Eである。残存壁高は0cm～33cmである。床面は、黒褐色粘質土を最大で10cm張って構築している。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認できない。遺物は、北西隅に位置すると考えられる床面上から須恵器碗(210)が出土している。

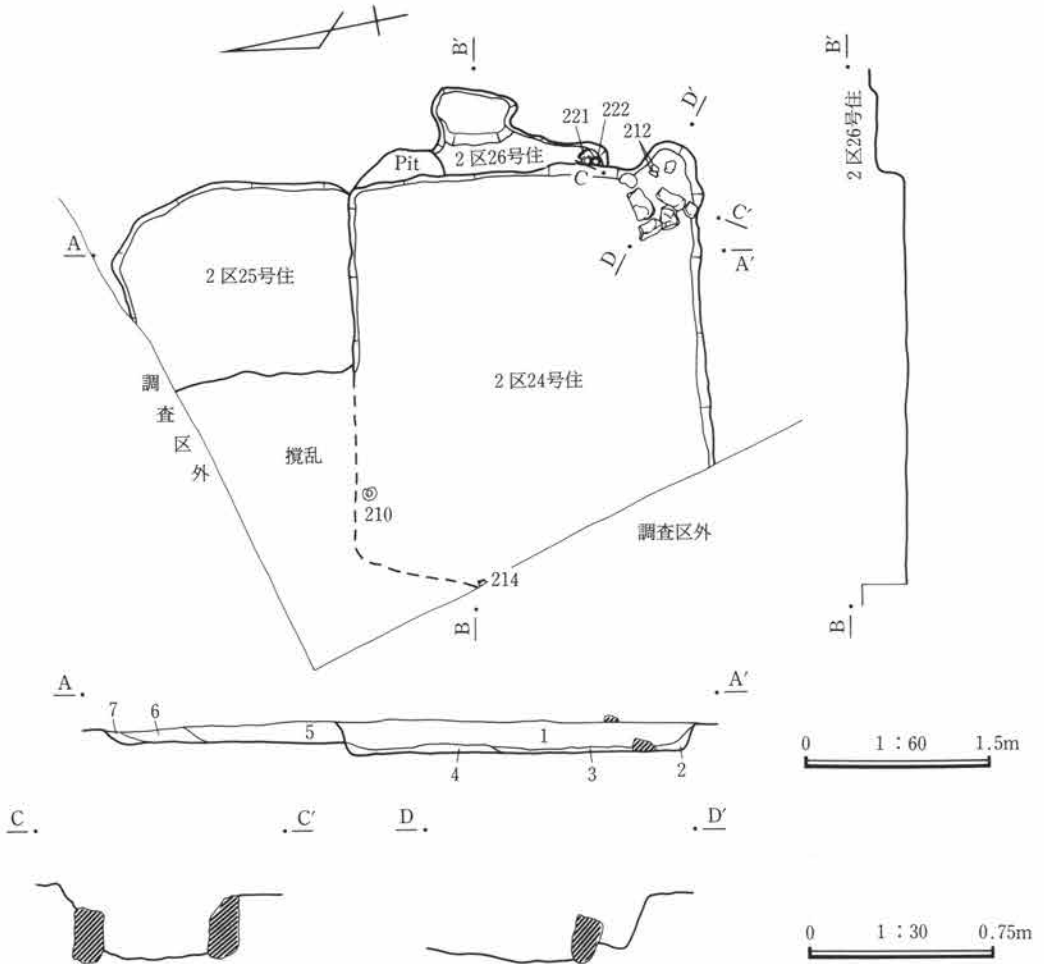
竈は南東隅に構築され、砂岩製の袖石と支脚が遺存している。支脚の高さは約20cmである。また、竈前面には砂岩製の焚口天井石が4つに破損して出土している。

## 2区25号住居跡

2区M-05グリッドに位置し、北東隅のみ検出された。2区24号住居跡と重複するが、2区26号住居跡とは重複していると考えられるが明確ではない。新旧関係は当住居跡が古く、26号住居跡との関係は不明である。平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は4cm～11cmを測る。床は黒灰色土中に褐色土塊を含む土で構築されている。柱穴・壁溝・貯蔵穴・竈は確認できない。遺物はすべて埋土出土であるが、焼成前の刻字のある須恵器耳皿(217)が出土している。

2区26号住居跡

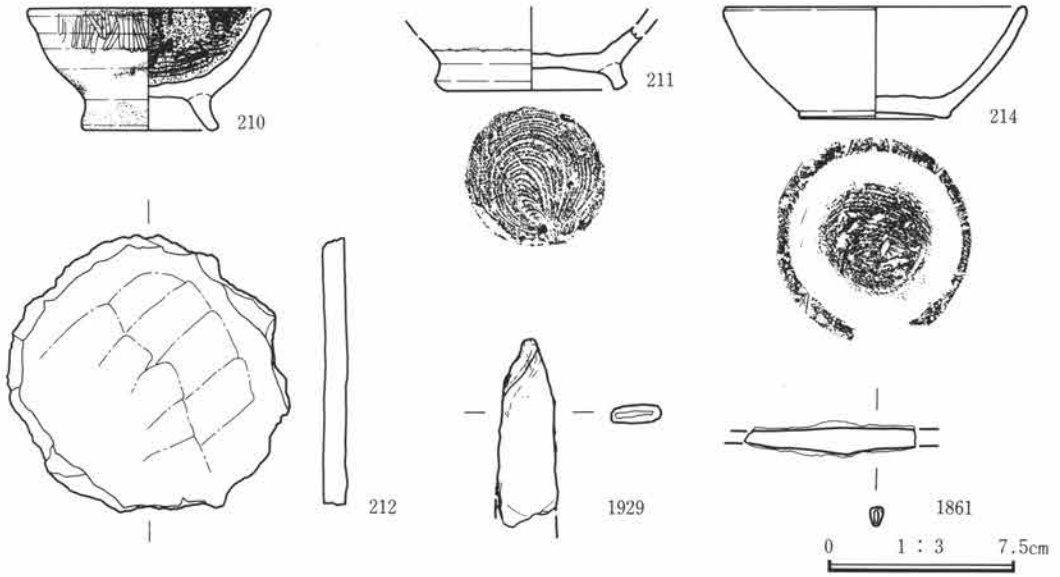
2区M-05グリッドに位置し、竈部分のみ検出された。2区24号住居跡と重複し、新旧関係は本住居跡が新しい。2区25号住居跡とも重複していると思われるが確認できない。竈や壁の位置から、本住居跡と25号住居跡とは同一である可能性も考えられる。平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は4cm～8cmである。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認できない。竈は遺存が悪く、掘形のみ確認であった。



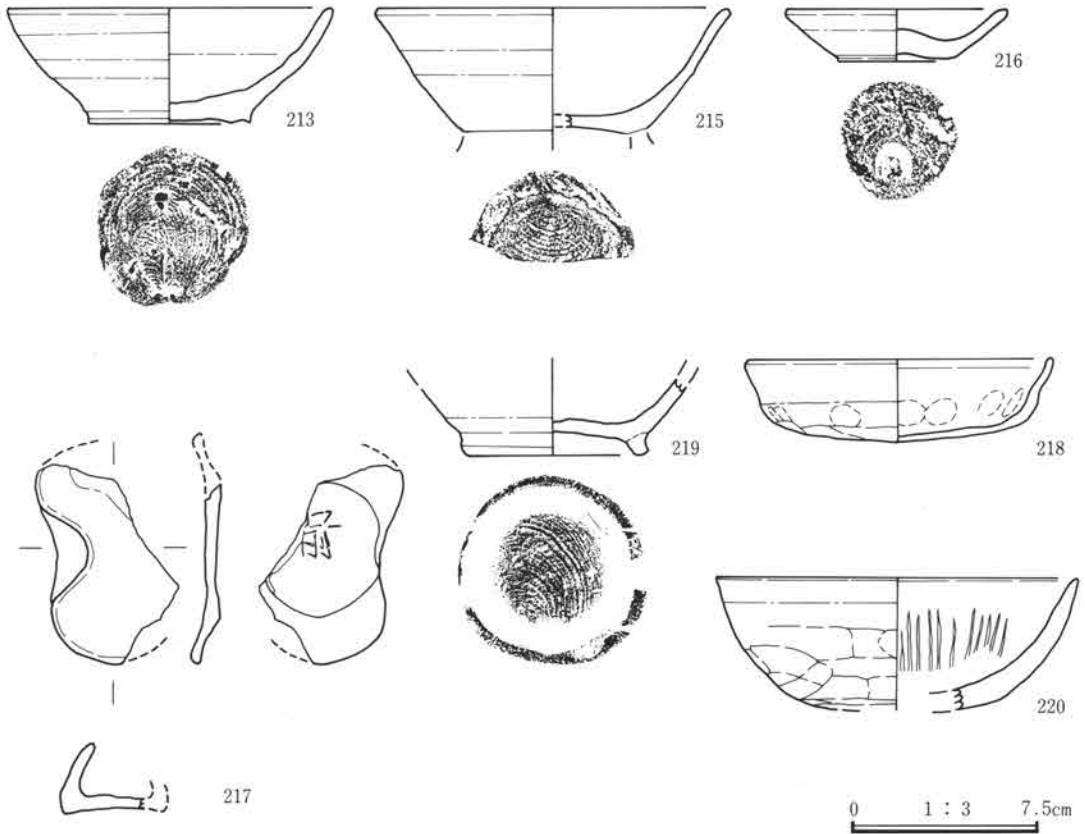
2区24・25号住居跡

- 1 黒灰色粘質土層：斑状の褐色土及び多量の大豆大～小粒の軽石を含む。(24号住)
- 2 黒褐色土層：1層に類似。多量の褐色土及び大豆大～小粒の軽石を含む。(24号住)
- 3 暗灰色粘質土層：灰色が強く、緻密。少量の小粒の軽石を含む。(24号住)
- 4 黒灰褐色粘質土層：1に類似。多量の褐色土・少量の黒灰土小ブロックを含む。(24号住)
- 5 暗灰褐色粘質土層：褐色土ブロック・多量の大豆大の軽石・少量の炭化物を含む。(25号住)
- 6 灰褐色粘質土層：5に類似。緻密。多量の褐色土・大豆大～小粒の軽石を含む。(25号住)
- 7 淡黄褐色砂質土層：細粒子の砂質土で緻密。(25号住)

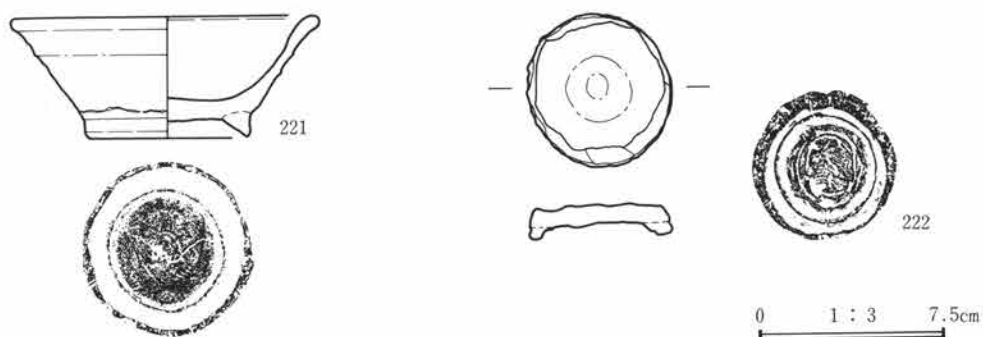
第58図 2区24・25・26号住居跡



第59图 2区24号住居跡出土遺物



第60图 2区25号住居跡出土遺物



第61図 2区26号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0210	碗 須恵器	器高：48mm 口径：98mm 底径：57mm 完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。淡黄。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は回転などで後篋磨き、胴部は回転などで、底部は高台貼り付け後なで。内面：口縁部～底部は回転などで後篋磨き。	内黒。内外面口縁部～胴部にタークル又は漆附着。
0211	碗 須恵器	器高：(24mm) 口径：— 底径：76mm 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転などで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転などで。	
0212	甕 土師器	器高：9mm 口径：— 底径：— 底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い褐。	周囲が丁寧に打ち欠いてある。内外面共に底部はなで。	転用形態。
0214	杯 須恵器?	器高：44mm 口径：[122mm] 底径：60mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。浅黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転などで。	
1861	刀子 鉄製品	長：(67mm) 幅：11mm 厚：5mm		刀子の一部。芯は空洞。	
1929	鎌 鉄製品	長：(75mm) 幅：25mm 厚：8mm		鎌の一部。鉄板を折り曲げて製造。端部は折り曲げられている。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0213	杯 須恵器?	器高：45mm 口径：134mm 底径：66mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。浅黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転などで。	

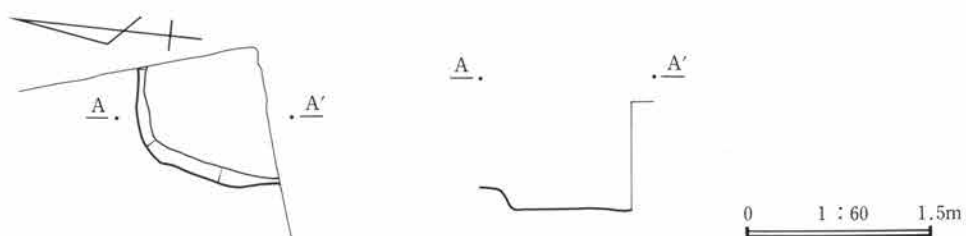


番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0215	碗 須恵器	器高：(49mm) 口径：[144mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0216	杯 土師質	器高：20mm 口径：90mm 底径：45mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。浅黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に油煙付着。
0217	耳皿 須恵器	器高：27mm 口径：[90mm] 底径：53mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、推定2所に深い折り曲げ。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後篋なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面底部に刻字「前」。
0218	杯 土師器	器高：33mm 口径：[124mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに内湾。丸底。外面：口縁端部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0219	碗 須恵器	器高：(30mm) 口径：— 底径：75mm 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。浅黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで。	
0220	杯 土師器	器高：(52mm) 口径：[146mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0221	碗 須恵器	器高：48mm 口径：[124mm] 底径：68mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0222	碗 須恵器	器高：(12mm) 口径：— 底径：60mm 底部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	底部の周囲は丁寧に打ち欠かれている。外面：底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：底部は回転なで。	転用形態？。

### 1区29号住居跡

1区南東端のK-11グリッドに位置し、他遺構との重複はない。北西隅が確認されたのみであるため、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は15cm～20cmである。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。竈は調査区外に存在すると考えられる。整理時に当住居跡出土遺物は確認できなかったが、調査時の所見では伴出する遺物から古墳時代後期と推定している。



第62図 1区29号住居跡

### 2区30号住居跡

2区M-10グリッドに位置し、2区54・55・56号住居跡と重複する。遺構の重複による新旧関係は、把握できなかった。西壁と南壁のほとんどが確認されなかったため、平面形は不明であるが、隅丸長方形を呈すると考えられる。規模は不明で、残存壁高は0cm～9cmを測る。竈が確認できないため、主軸方位は不明である。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認できない。竈は時期的に存在すると考えられるが検出できなかった。

### 2区54号住居跡

2区M-11グリッドに位置し、2区30号住居跡・55号住居跡と重複する。遺構の重複による新旧関係は、把握できなかった。北西隅と北壁が確認されたのみであり、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は10cm～27cmである。柱穴・壁溝・貯蔵穴・竈は確認できない。

### 2区55号住居跡

2区L-11グリッドに位置し、2区30・54・56・57号住居跡と重複する。遺構の重複による新旧関係は、把握できなかった。北壁が確認されたのみであり、平面形・主軸方位は不明である。規模は東西が1.7mと小さく、土坑の可能性も考えられる。

### 2区56号住居跡

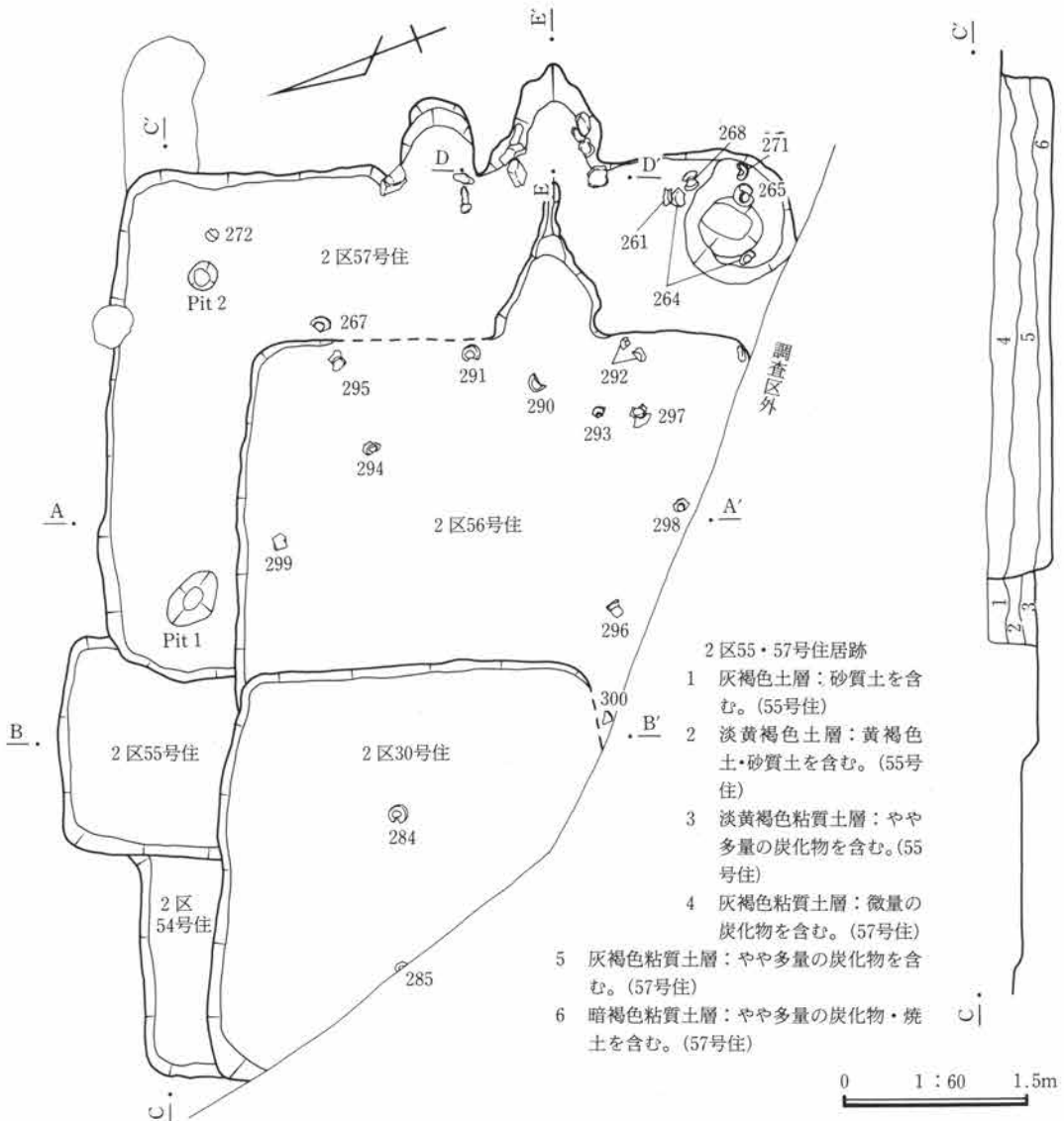
2区L-09グリッドに位置し、2区30・55号住居跡と重複する。遺構の重複による新旧関係は、把握できなかった。また、2区57号住居跡とも重複するが、当住居跡の竈が57号住居跡の埋土を掘り込んで構築されていることから、当住居跡が新しい。北壁と竈が確認されたのみであり、平面形・規模・主軸方位は不明である。柱穴・貯蔵穴は確認できない。遺物は竈前から須恵器杯(290)や土師器杯(291)などが出土している。

竈は東壁の南寄りに構築されていると考えられ、燃焼部は壁外に位置し、煙道は壁外に130cm張り出す。

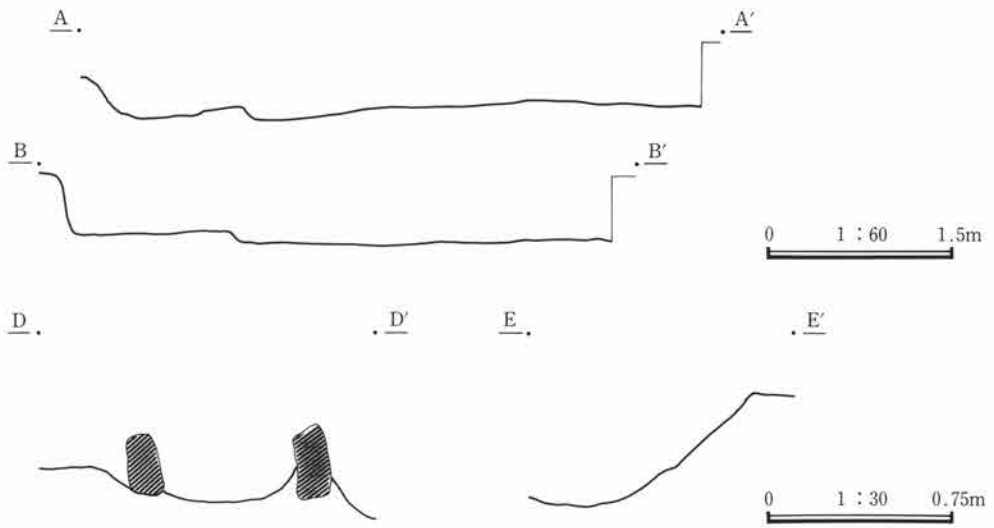
## 2区57号住居跡

2区L-09グリッドに位置し、2区30・55号住居跡と重複する。遺構の重複による新旧関係は、把握できなかった。2区56号住居跡とも重複するが、56号住居跡の竈が当住居跡の埋土を掘り込んで構築されていることから、当住居跡が古いと考えられる。西壁と南壁は確認が困難であった。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は4m×5.42mを測る。主軸方位はN-19°-Eを示し、残存壁高は0.5cm~29cmである。床面にはピットが2基確認され、位置的に柱穴の可能性が考えられるが南側では確認されなかった。深さはピット1が21cm、ピット2が4.5cmである。壁溝は確認できない。貯蔵穴は南東隅で確認され、深さは50cmを測る。

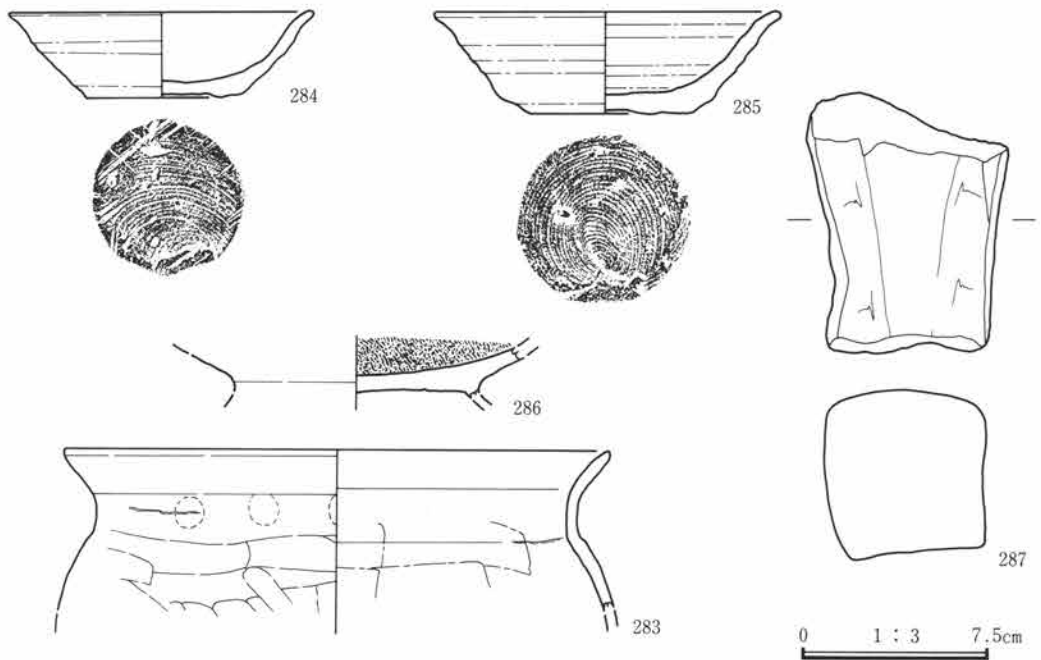
竈は東壁中央と南寄りに1基づつ確認された。燃焼部はいずれも壁外に構築し、遺存状態は南側が良好である。遺存状態から南の竈が新しいと考えられるが、確実な前後関係は不明である。



第63図 2区30・54・55・56・57号住居跡



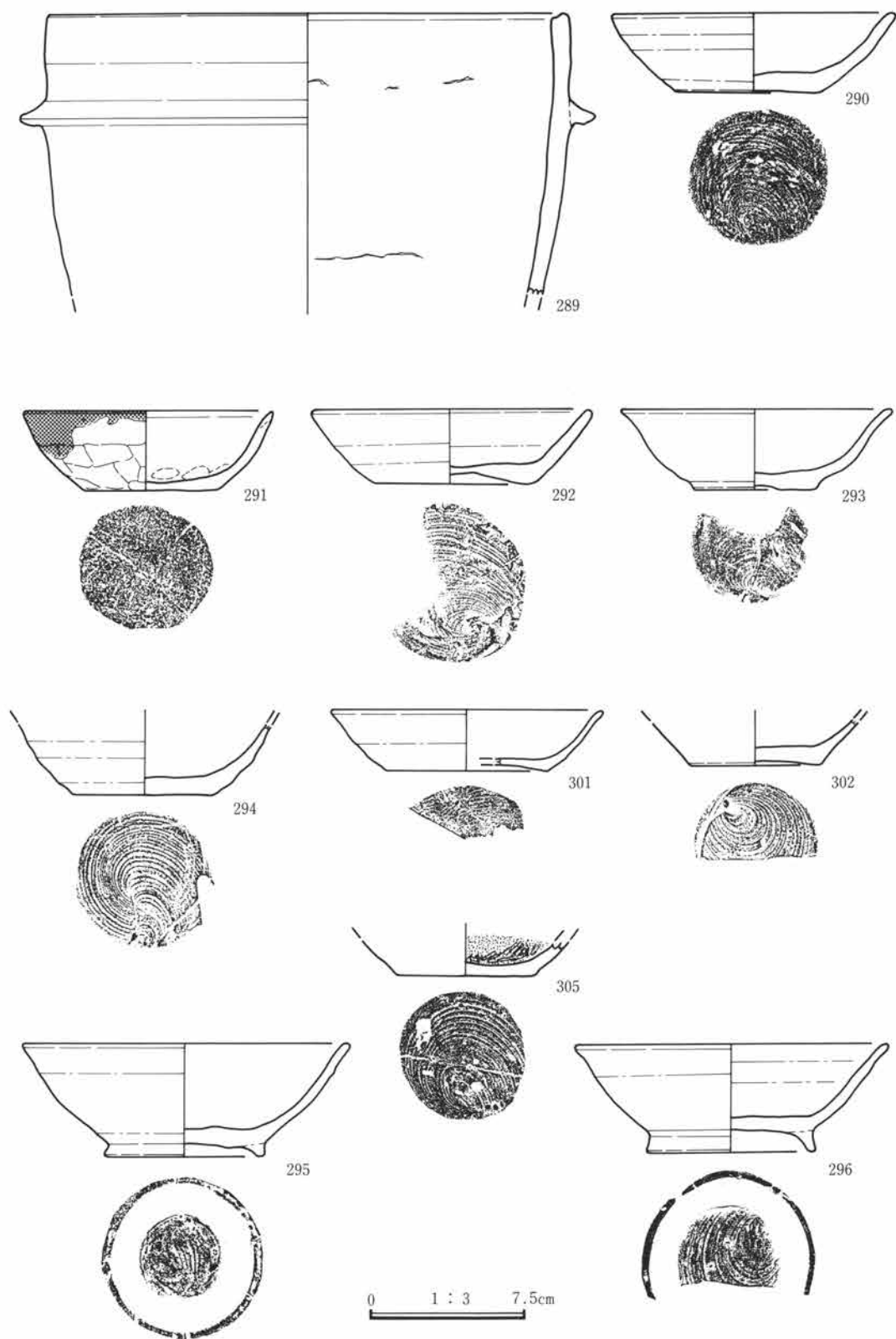
第64図 2区30・55・56・57号住居跡エレベーション、57号住居跡竈エレベーション



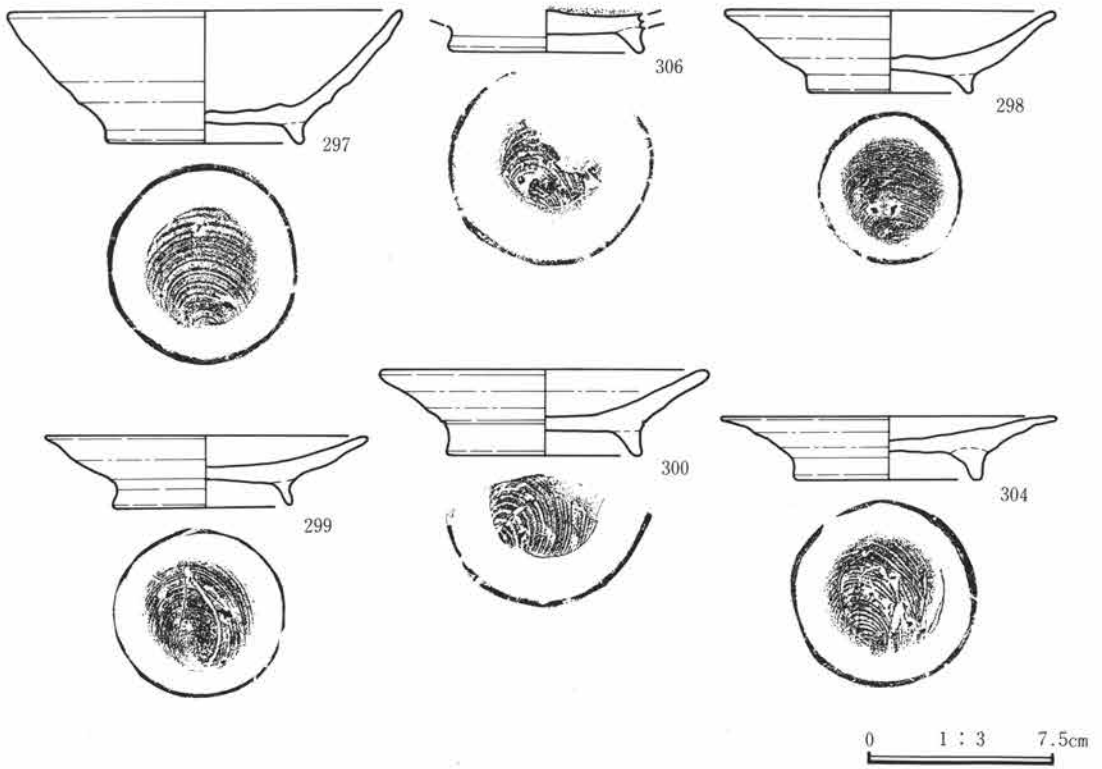
第65図 2区30号住居跡出土遺物



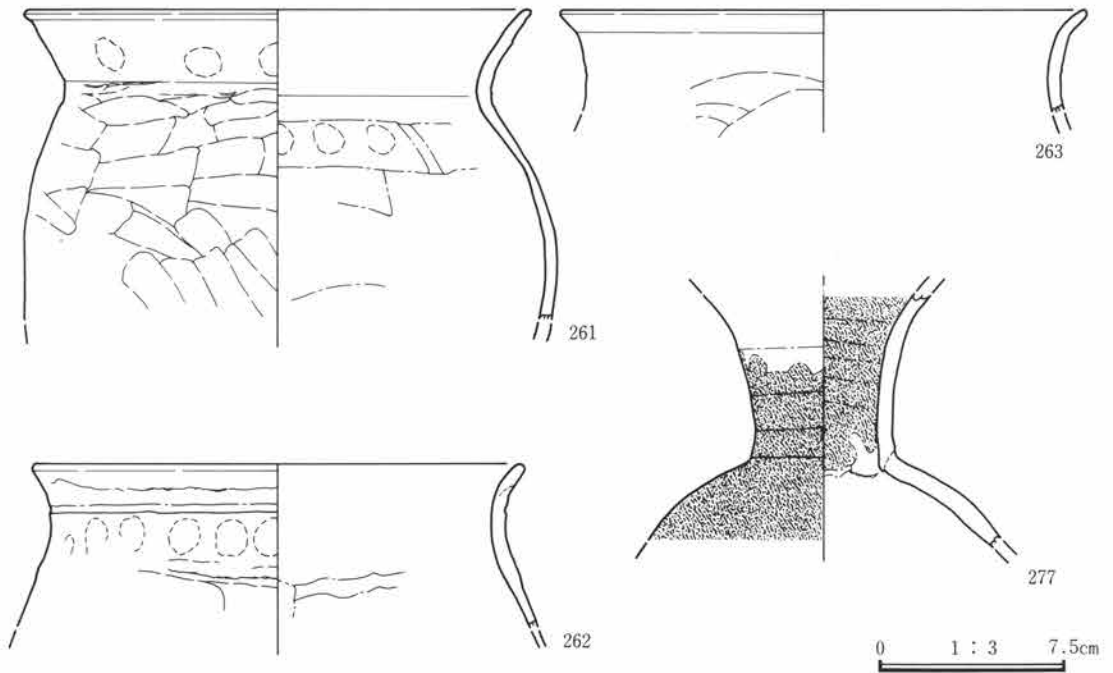
第66図 2区54号住居跡出土遺物



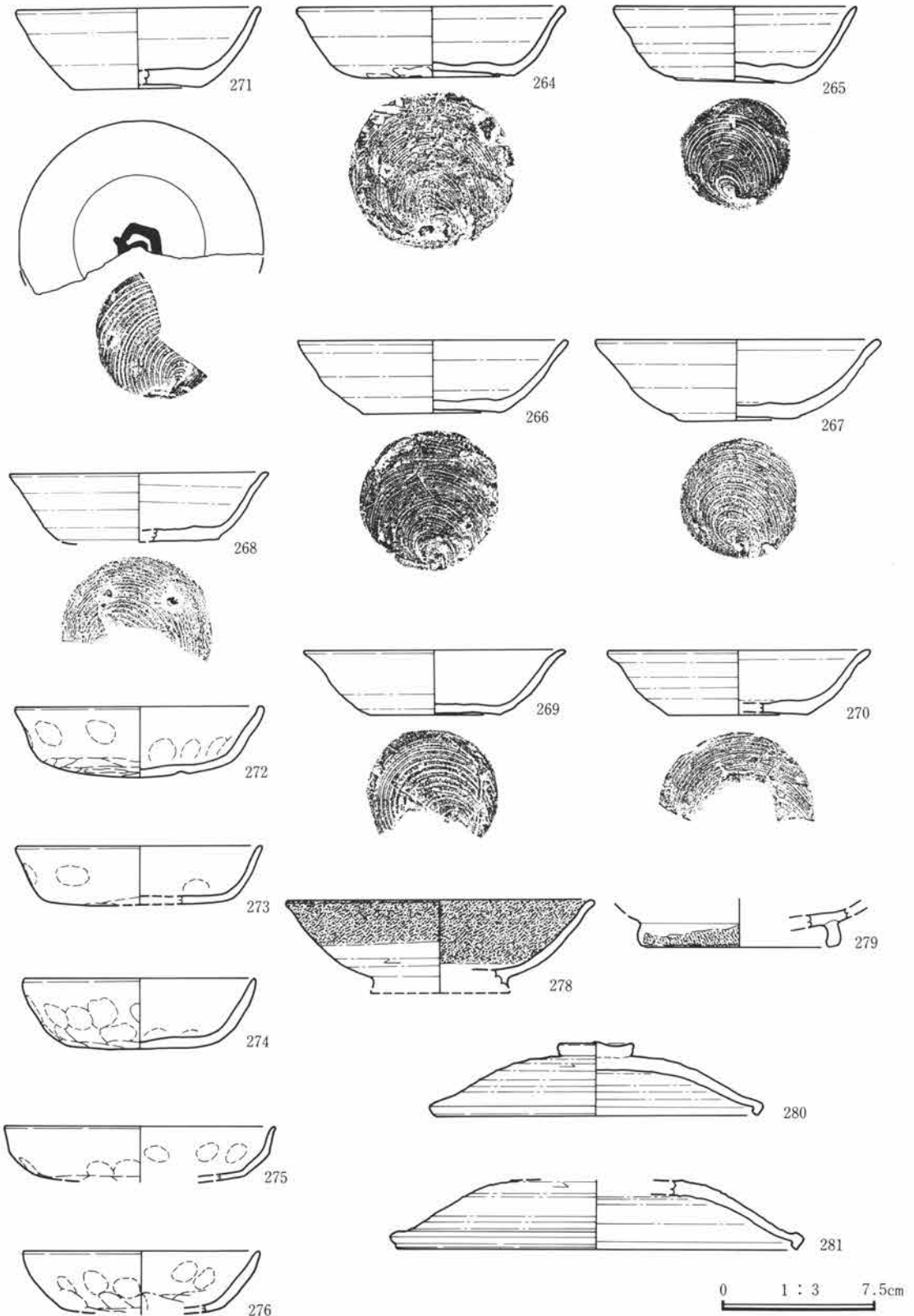
第67图 2区56号住居跡出土遺物①



第68図 2区56号住居跡出土遺物②



第69図 2区57号住居跡出土遺物①



第70図 2区57号住居跡出土遺物②

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0283	甕 土師器	器高：(61mm) 口径：[220mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付着。
0284	杯 須恵器	器高：34mm 口径：122mm 底径：58mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0285	杯 須恵器	器高：40mm 口径：[140mm] 底径：68mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0286	皿 灰釉陶器	器高：(20mm) 口径：— 底径：— 胴部下端～高台部上半 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底部は高台張り付け後なで。内面：胴部下端～底部は回転なで。	外面底部に赤色顔料?付着。
0287	砥石	長：(103mm) 幅：77mm 厚：73mm 重：567.7g	粗粒安山岩。	使用面は4面。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0288	杯 土師器	器高：(29mm) 口径：[128mm] 底径：[60mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は横なで、胴部には指頭痕が残る、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0289	羽釜	器高：(132mm) 口径：[248mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。黄橙。	口縁部は僅かに内湾。鏝部は貼り付け。内外面共に口縁部～胴部上半は回転なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0290	杯 須恵器	器高：38mm 口径：137mm 底径：67mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0291	杯 土師器?	器高：38mm 口径：120mm 底径：67mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、底部はなで。	内外面の一部にタール又は漆付着。
0292	杯 須恵器	器高：35mm 口径：133mm 底径：75mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0293	杯 須恵器	器高：38mm 口径：131mm 底径：58mm 口縁部～底部 ㄨ	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。不完全選 元。やや軟質。浅黄。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。外 面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転 糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	
0294	杯 須恵器	器高：(34mm) 口径：一 底径：65mm 胴部～口縁部 ㄨ	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾し つ広がる。外面：胴部は回転で、底部は回 転糸切り。外面：胴部～底部は回転で。	内外面共に胴部 ～底部は燻し。
0295	碗 須恵器	器高：53mm 口径：[156mm] 底径：74mm 口縁部～高台 部ㄨ	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾し つ広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、 底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面： 口縁部～底部は回転で。	内面胴部下半～底 部は燻し。外面に 油煙付着。
0296	碗 須恵器	器高：51mm 口径：150mm 底径：80mm 口縁部～高台 部ㄨ	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。軟 質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾し つ広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、 底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面： 口縁部～底部は回転で。	
0297	碗 須恵器	器高：53mm 口径：[158mm] 底径：[80mm] 口縁部～高 台部ㄨ	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広 がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底 部は高台部貼り付け。内面：口縁部～底 部は回転で。	内外面共に口縁部 ～胴部は燻し。
0298	皿 須恵器	器高：32mm 口径：[132mm] 底径：63mm 口縁部～高台 部ㄨ	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、 底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面： 口縁部～底部は回転で。	
0299	皿 須恵器	器高：28mm 口径：131mm 底径：70mm 口縁部～高台 部ㄨ	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、 底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面： 口縁部～底部は回転で。	
0300	皿 須恵器	器高：34mm 口径：[132mm] 底径：[78mm] 口縁部～高 台部ㄨ	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、 底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面： 口縁部～底部は回転で。	内面に油煙付着。
0301	杯 須恵器	器高：29mm 口径：[130mm] 底径：[78mm] 口縁部～底 部ㄨ	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾し つ広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、 底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部 は回転で。	外面に自然釉。
0302	杯 須恵器	器高：(22mm) 口径：一 底径：60mm 胴部下半～底部 ㄨ	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部は僅かに内湾し つ広がる。外面：胴部下半は回転で、底 部は回転糸切り。内面：胴部下半～底部 は回転で。	
0304	皿 須恵器	器高：25mm 口径：[134mm] 底径：76mm 口縁部～高台 部ㄨ	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。軟 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がる。外面：胴部～口縁部は回転で、 底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面： 口縁部～底部は回転で。	内面に油煙付着。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0305	杯 須恵器?	器高:(17mm) 口径:— 底径:64mm 胴部下半~底部%	径1~2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙、黒。	轆轤整形、右回転。胴部は僅かに内湾しつつ広がる。外面:胴部下半は回転まで、底部は回転糸切り。内面:胴部はなで後篋磨き、底部はなで。	内黒。
0306	椀 須恵器?	器高:17mm 口径:— 底径:79mm 胴部下端~高台部%	径3~4mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙、黒。	轆轤整形、右回転。胴部下端は回転まで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面:胴部下端~底部は回転まで。	内黒。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0261	甕 土師器	器高:(122mm) 口径:202mm 底径:— 最大径:213mm 口縁部~胴部上半%	径2~3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。最大径は胴部中央。外面:口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上半は篋削り。内面:口縁部は横なで、胴部上半は篋なで、一部指頭痕が残る。	内外面に油煙付着。
0262	甕 土師器	器高:(64mm) 口径:[196mm] 底径:— 口縁部~胴部上端%	径1~2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	口縁部は「コ」字状に外反。外面:口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面:口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付着。
0263	甕 土師器	器高:(41mm) 口径:[210mm] 底径:— 口縁部~胴部上端%	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面:口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面:口縁部は横なで。	内外面に油煙付着。
0264	杯 須恵器	器高:34mm 口径:132mm 底径:80mm ほぼ完形	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部~口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面:口縁部~胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面:口縁部~底部は回転まで。	外面に自然釉。
0265	杯 須恵器	器高:37mm 口径:119mm 底径:57mm ほぼ完形	径1~2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部~口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面:口縁部~胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面:口縁部~底部は回転まで。	内面口縁部に一部油煙付着。
0266	杯 須恵器	器高:36mm 口径:133mm 底径:70mm 口縁部~底部%	径1~2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部~口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面:口縁部~胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面:口縁部~底部は回転まで。	内面口縁部~底部と外面の一部は焼し。
0267	杯 須恵器	器高:39mm 口径:140mm 底径:60mm 口縁部~底部%	径1~2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部~口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面:口縁部~胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面:口縁部~胴部は回転まで。	内面底部及び外面の一部に油煙付着。
0268	杯 須恵器	器高:33mm 口径:128mm 底径:76mm 口縁部~底部%	径2~3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白・灰。	轆轤整形、右回転。胴部~口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。外面:口縁部~胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面:口縁部~底部は回転まで。	
0269	杯 須恵器	器高:31mm 口径:[128mm] 底径:64mm 口縁部~底部%	径3~4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部~口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。外面:口縁部~胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面:口縁部底部は回転まで。	

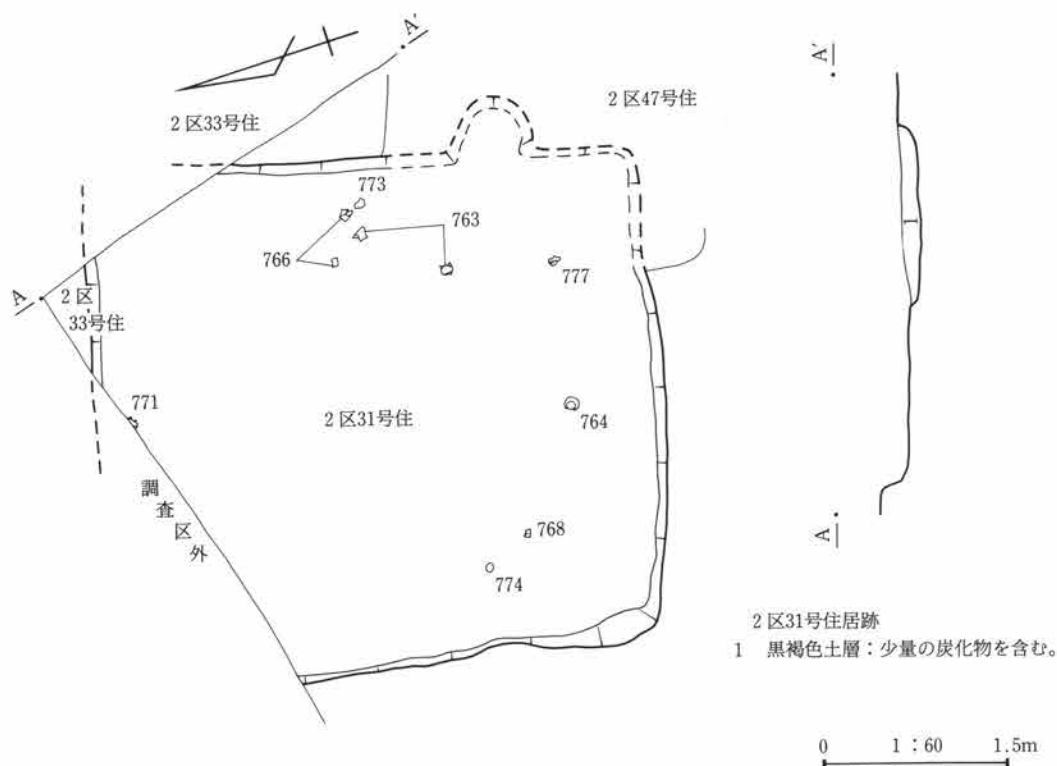
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0270	杯 須恵器	器高：31mm 口径：[128mm] 底径：[68mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁部～胴部回転で。	
0271	杯 須恵器	器高：39mm 口径：121mm 底径：64mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	外面口縁部～胴部は燻し。外面底部に墨書、釈読不能。
0272	杯 土師器	器高：34mm 口径：123mm 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに内湾。平底に近い丸底。外面：口縁部～胴部は横で、一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横で、底部はなで、一部指頭痕が残る。	
0273	杯 土師器	器高：28mm 口径：[120mm] 底径：88mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は横で、一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横で、一部指頭痕が残り、底部はなで。	外面に油埋付着。口縁端部にタール又は漆付着。
0274	杯 土師器	器高：34mm 口径：[114mm] 底径：83mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は横で、一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横で、底部はなで、一部指頭痕が残る。	
0275	杯 土師器	器高：(26mm) 口径：[132mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部はほぼ直立。外面：口縁部～胴部は横で、一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横で、一部指頭痕が残る。	
0276	杯 土師器	器高：(29mm) 口径：[116mm] 底径：[70mm] 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	口縁部はほぼ直立。外面：口縁部は横で、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横で、一部指頭痕が残る。	
0277	長頸壺 灰釉陶器	器高：(101mm) 口径：— 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。内面に頸部と胴部の接合痕が残る。外面：口縁部～胴部上半は回転で。内面：口縁部は回転篋で、胴部上半は回転で。	外面口縁部～胴部上半及び内面口縁部に施釉。
0278	椀 灰釉陶器	器高：(42mm) 口径：[150mm] 底径：— 口縁部～高台部上半 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は高台貼り付け。内面：口縁部～底部は丁寧な回転で。	内外面共に口縁部～胴部に施釉。
0279	椀 灰釉陶器	器高：(19mm) 口径：— 底径：[108mm] 胴部下端～口縁部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	外面：胴部下端は回転で、底部は高台貼り付け後丁寧なで。内面：胴部下端～底部は回転で。	
0280	蓋 須恵器	器高：36mm 口径：[158mm] つまみ径：37mm 天井部～口縁部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	擬宝珠つまみ。つまみ部は貼り付け。返りは短い。外面：天井部上半は回転篋削り、天井部下半～口縁部は回転で。内面：天井部～口縁部は回転で。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0281	蓋 須恵器	器高：(34mm) 口径：[196mm] 天井部～口縁部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	返りは短い。外面：天井部上半は回転篋削り、天井部下半～口縁部は回転なで。内面：天井部～口縁部は回転なで。	

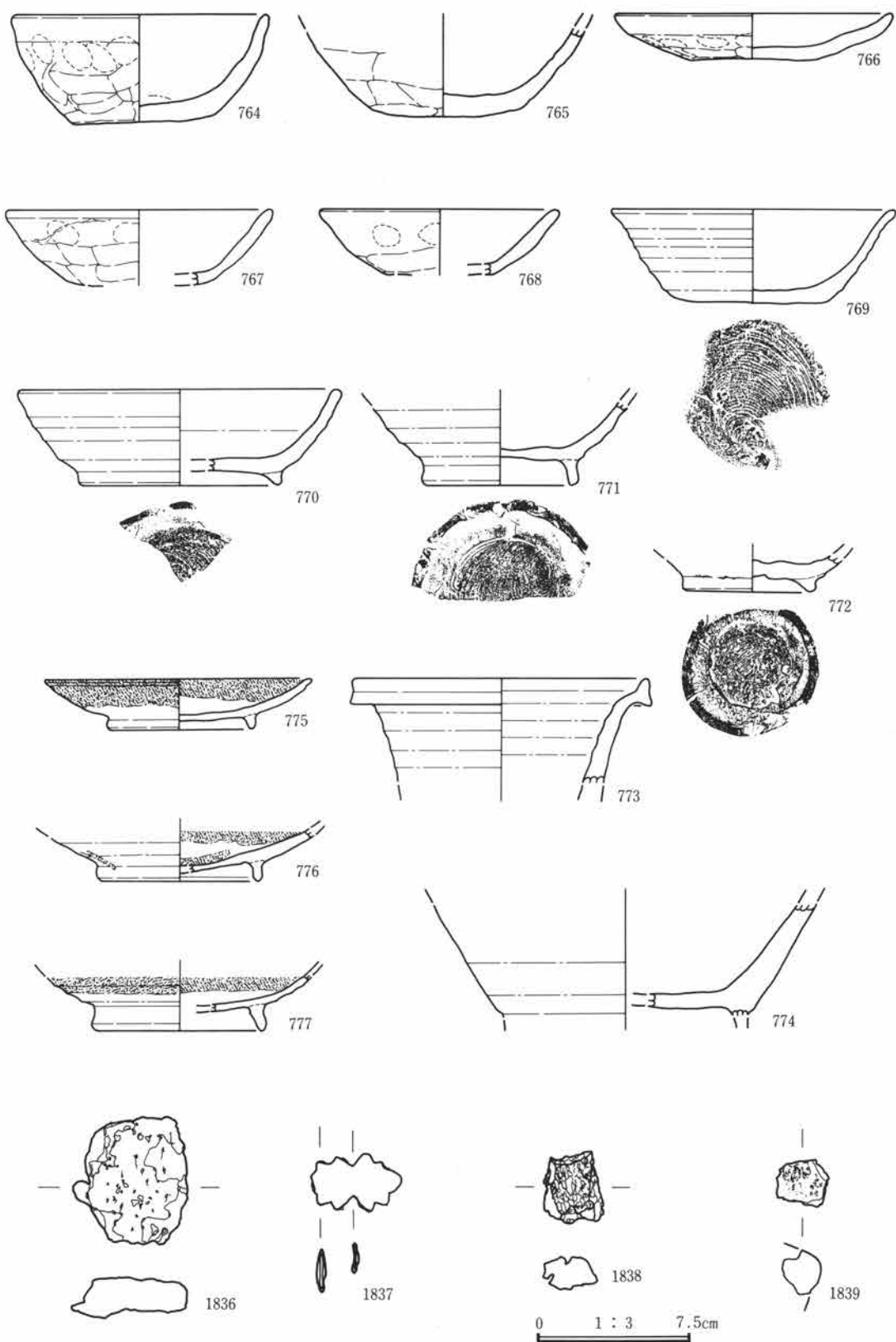
### 2区31号住居跡

2区K-16グリッドに位置する。2区32・33・47・48号住居跡、2区1号溝と重複する。新旧関係は、当住居跡が33号住居跡の床面下から確認されていることから、33号住居跡より古い。また、当住居跡の床面が47・48号住居跡上に構築されていることや、32号住居跡が当住居跡床面検出時に確認されたことから当住居跡が新しいと判断される。2区1号溝との関係は不明である。平面形は隅丸長方形を呈すると考えられ、規模は4.0m×4.5mである。主軸方位は不明で、残存壁高は3cm～12cmを測る。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認できない。遺物は東壁付近から須恵器甕(763)、土師器皿(766)、須恵器長頸瓶(773)が出土している。また、西壁付近で出土した須恵器壺(774)には、2区149号住居跡との接合関係がある。埋土中からは鉄滓(1838)や鞆の羽口(1839)が出土している。

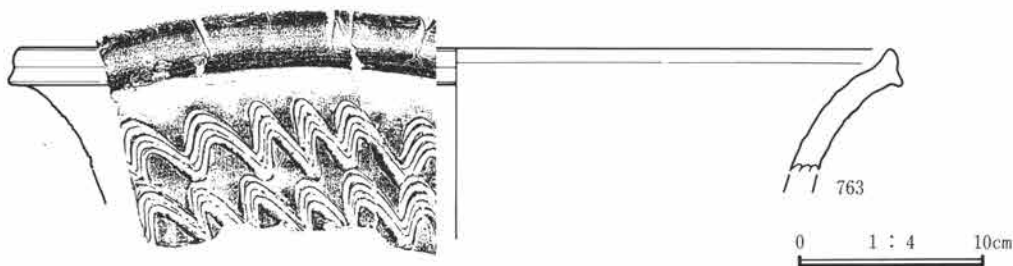
47号住居跡との重複関係から、竈は47号住居跡埋土内に存在したと考えられるが検出されなかった。



第71図 2区31号住居跡



第72图 2区31号住居跡出土遺物①



第73図 2区31号住居跡出土遺物②

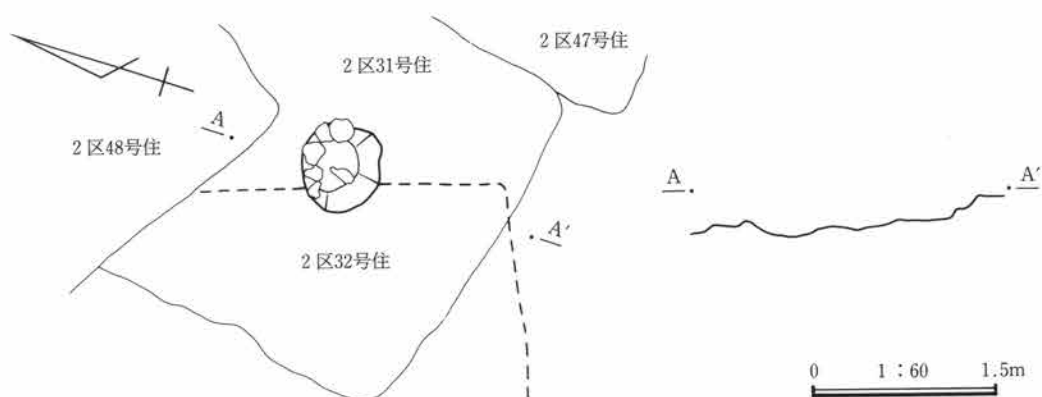
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0763	甕 須恵器?	器高:(64mm) 口径:[466mm] 底径:— 口縁部 $\frac{1}{2}$	径2~3mmの小石及び砂粒を含む。硬質。酸化。橙。	口縁端部は外縁帯を持つ。外面:口縁部は横なで後波状文を施文。内面:口縁部は横なで。	
0764	杯 土師器	器高:51mm 口径:[124mm] 底径:69mm 口縁部~底部 $\frac{1}{2}$	径2~3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部~口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面:口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部~底部は篔削り。内面:口縁部~胴部は横なで、底部は篔なで。	内外面に油煙付着。
0765	杯 土師器	器高:(42mm) 口径:— 底径:75mm 胴部~底部 $\frac{1}{2}$	径2~3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部は僅かに内湾しつつ広がる。外面:胴部~底部は篔削り。内面:胴部~底部は横なで。	
0766	皿 土師器	器高:22mm 口径:[134mm] 底径:[62mm] 口縁部~底部 $\frac{1}{2}$	径2~3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部~口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに内湾。外面:口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部~底部は篔削り。内面:口縁部~底部は横なで。	
0767	杯 土師器	器高:(36mm) 口径:[128mm] 底径:[68mm] 口縁部~底部上端 $\frac{1}{2}$	径1~2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部~口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面:口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部~底部は篔削り。内面:口縁部~底部上端は横なで。	
0768	杯 土師器	器高:(31mm) 口径:[116mm] 底径:(54mm) 口縁部~胴部 $\frac{1}{2}$	径1~2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部~口縁部は直線的に広がる。外面:口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部は篔削り。内面:口縁部~胴部は横なで。	
0769	杯 須恵器	器高:45mm 口径:[138mm] 底径:[72mm] 口縁部~底部 $\frac{1}{2}$	径3~4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部~口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面:口縁部~胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面:口縁部~底部は回転なで。	
0770	椀 須恵器	器高:(46mm) 口径:[156mm] 底径:[98mm] 口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$	径1~2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部~口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面:口縁部~胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面:口縁部~底部は回転なで。	内外面に油煙付着。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0771	椀 須恵器	器高：(41mm) 口径：— 底径：[76mm] 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転まで。	外面胴部は燻し。
0772	椀 須恵器	器高：(17mm) 口径：— 底径：64mm 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転まで。	内面胴部下端～底部は燻し。
0773	長頸壺 須恵器	器高：(49mm) 口径：[144mm] 底径：— 口縁部 $\frac{1}{4}$	細砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰褐色。	轆轤整形。口縁部は外縁帯を持つ。内外面共に口縁部は回転まで。	内外面に自然釉。
0774	壺 須恵器	器高：(52mm) 口径：— 底径：— 胴部下半～高台部上半 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転まで、底部は高台貼り付け後まで。内面：胴部下半は回転まで、底部はなで。	外面に自然釉。
0775	皿 灰釉陶器	器高：24mm 口径：128mm 底径：71mm 完形	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は高台貼り付け後まで。内面：口縁部～底部は回転まで。	
0776	皿 灰釉陶器	器高：(25mm) 口径：— 底径：[80mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部下半は僅かに内湾しつつ広がる。外面：胴部下半は回転筥削り、底部は高台貼り付け後まで。内面：胴部下半～底部は回転まで。	
0777	椀 灰釉陶器	器高：(27mm) 口径：— 底径：[82mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{4}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部下半はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部下半は回転筥削り、底部は高台貼り付け後まで。内面：胴部下半～底部は回転まで。	
1836	鉄滓			鉄分を含む。	
1837	? 鉄製品	長：(44mm) 幅：28mm 厚：5mm		鉄板を折り曲げて製造。かたどりされている。	
1838	鉄滓			少し鉄を含む。	
1839	羽口	小破片		周囲に鉄滓付着。	

## 2区32号住居跡

2区K-17グリッドに位置し、2区31号住居跡と重複する。2区48号住居跡とも重複すると考えられるが、確認できない。新旧関係は、当住居跡が31号住居跡の床面下で確認されたことから当住居跡が古いと考えられる。重複が著しく、竈の痕跡と南壁の一部が確認されたのみであり、平面形・規模・主軸方位は不明である。柱穴・壁溝は確認できない。

竈の痕跡は燃焼部の底部と考えられ、礫が弧状に残存していた。

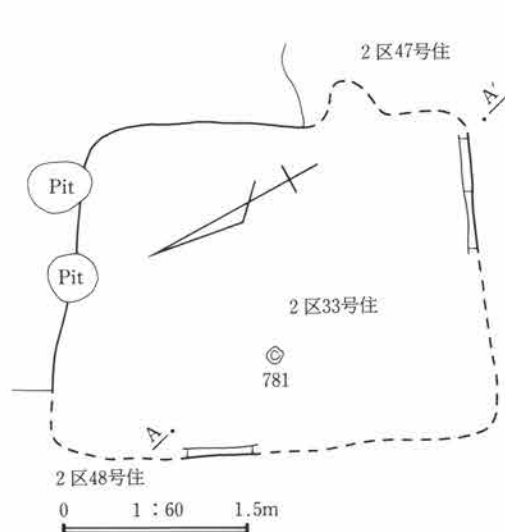


第74図 2区32号住居跡

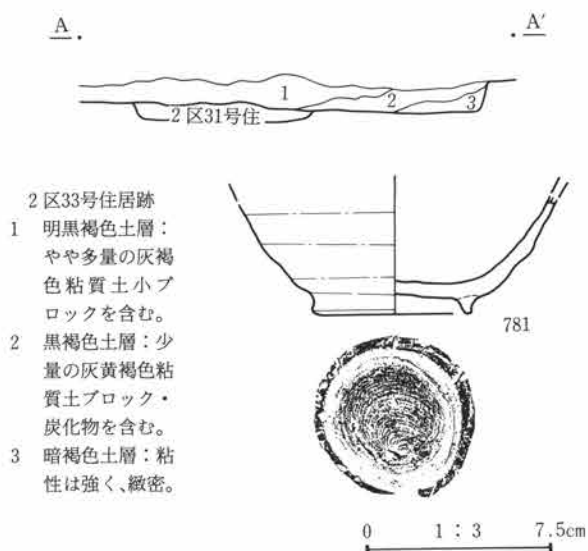
### 2区33号住居跡

2区K-16グリッドに位置し、2区31・47・48号住居跡と重複する。新旧関係は、31号住居跡の埋土中に床面を構築していることから、当住居跡が新しいと考えられる。また、47・48号住居跡との関係は直接的には不明であるが、47・48号住居跡が31号住居跡より古いことから当住居跡が新しいことがわかる。当住居跡は遺存が悪く、南壁と西壁の一部が確認できたのみであり、他はかろうじて床の範囲が推定できたのみである。このため平面形・規模・主軸方位は不明である。壁が確認された部分の残存壁高は5cm程度である。遺物は須恵器碗(781)が1点出土しているのみである。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認できない。

竈は時期的に存在すると考えられるが、検出されなかった。



第75図 2区33号住居跡



- 2区33号住居跡
- 1 明黒褐色土層：やや多量の灰褐色粘質土小ブロックを含む。
  - 2 黒褐色土層：少量の灰黄褐色粘質土ブロック・炭化物を含む。
  - 3 暗褐色土層：粘性は強く、緻密。

第76図 2区33号住居跡出土遺物



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0781	椀 須恵器	器高：(46mm) 口径：一底 径：62mm 胴部～高台部 4/5	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾しつつ 広がる。外面：胴部は回転で、底部は回 転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底 部は回転で。	

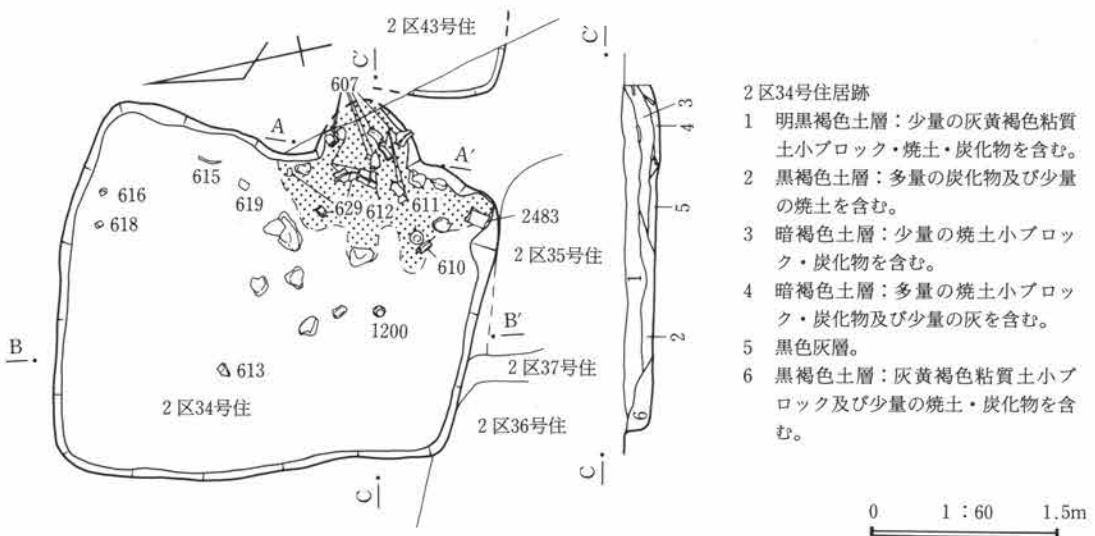
## 2区34号住居跡

2区K-15グリッドに位置し、2区36・37・47号住居跡と重複する。新旧関係は、調査段階では不明である。当住居跡は北東隅が側道調査で、その他の部分が本線調査で確認された。平面形は、ややいびつであるが平面形は隅丸長方形を呈し、規模は2.74m×3.27mである。主軸方位はN-24.5°-Eであり、残存壁高は5cm～33cmを測る。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。竈内や竈前面からは、土器や角閃石安山岩が多量に出土している。

竈は東壁南寄りに構築され、燃烧部は壁外に設けている。竈先端部は調査区の関係から検出できなかった。

## 2区43号住居跡

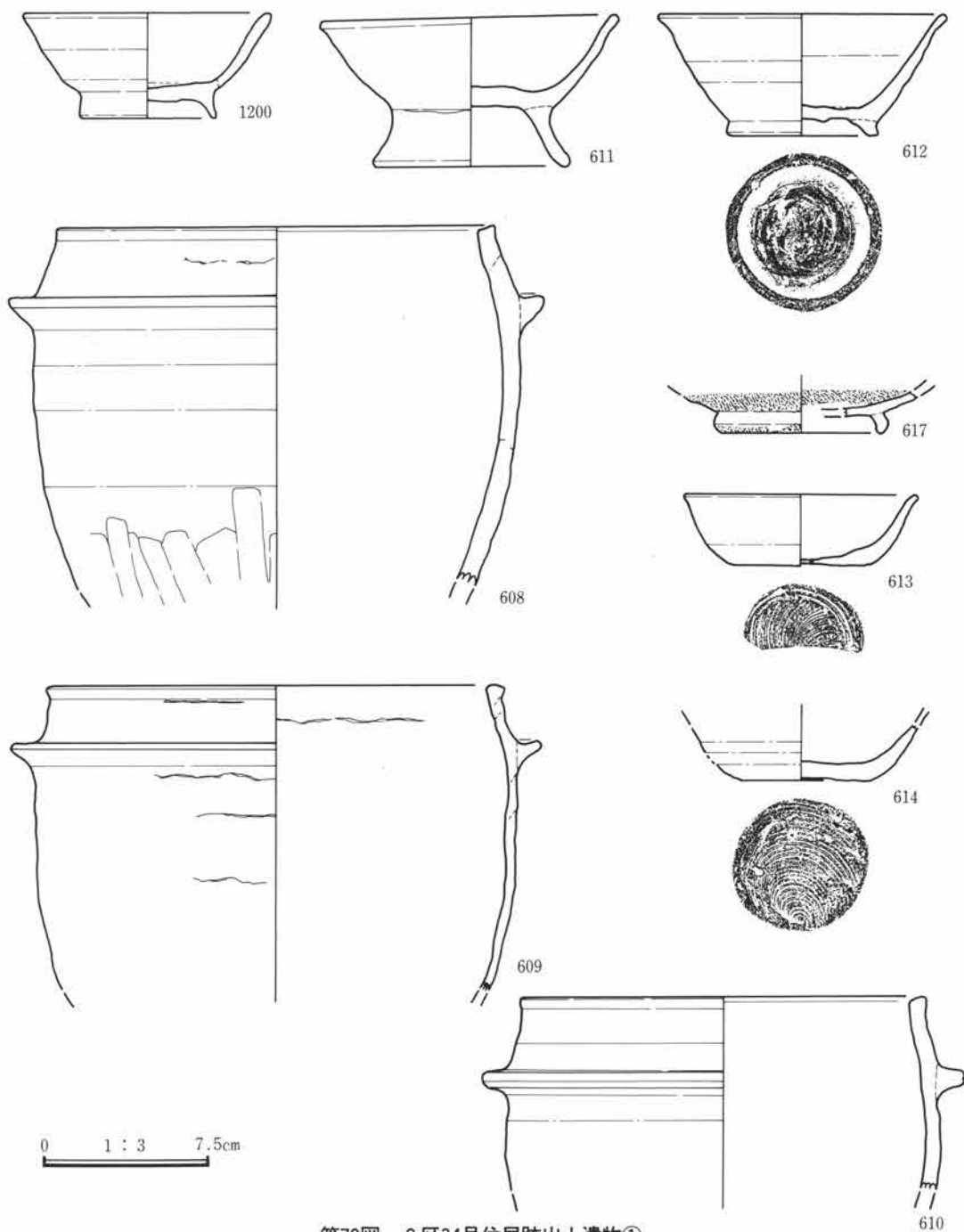
2区K-15グリッドに位置し、2区35号住居跡と近接する。当住居跡は、本線部分で一部が検出されたのみであり、側道調査時には検出されていない。検出部分が極僅かなため、平面形・規模などは不明である。残存壁高は10cmを測る。出土遺物は認められない。



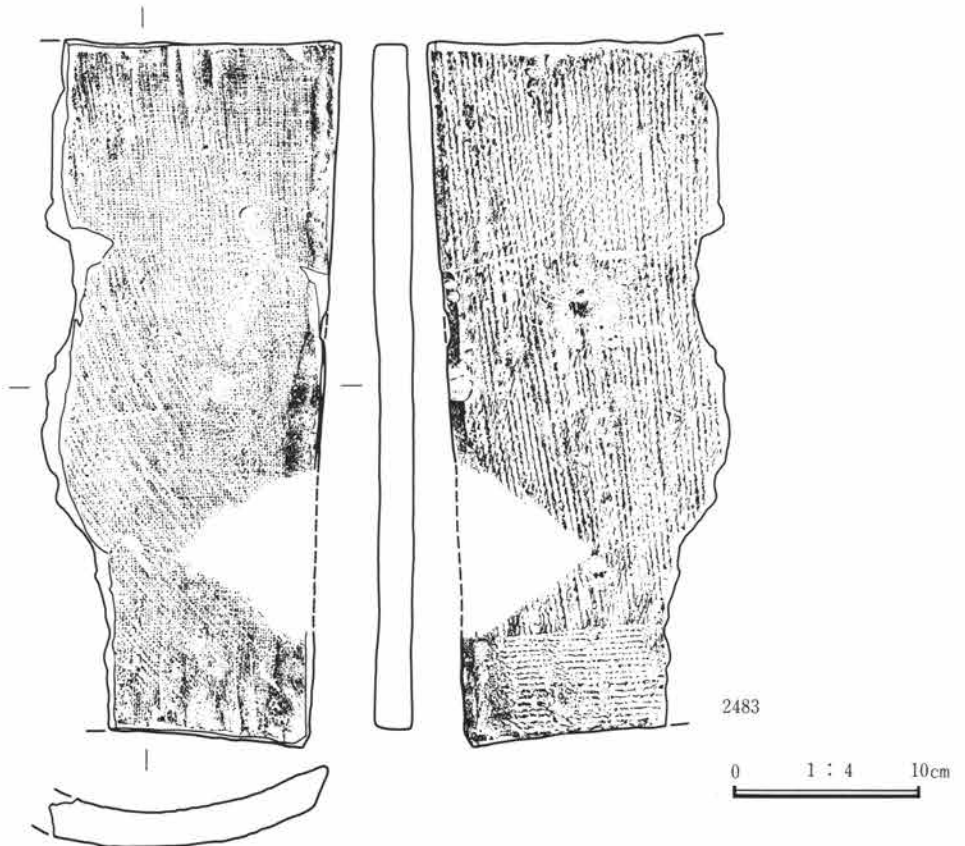
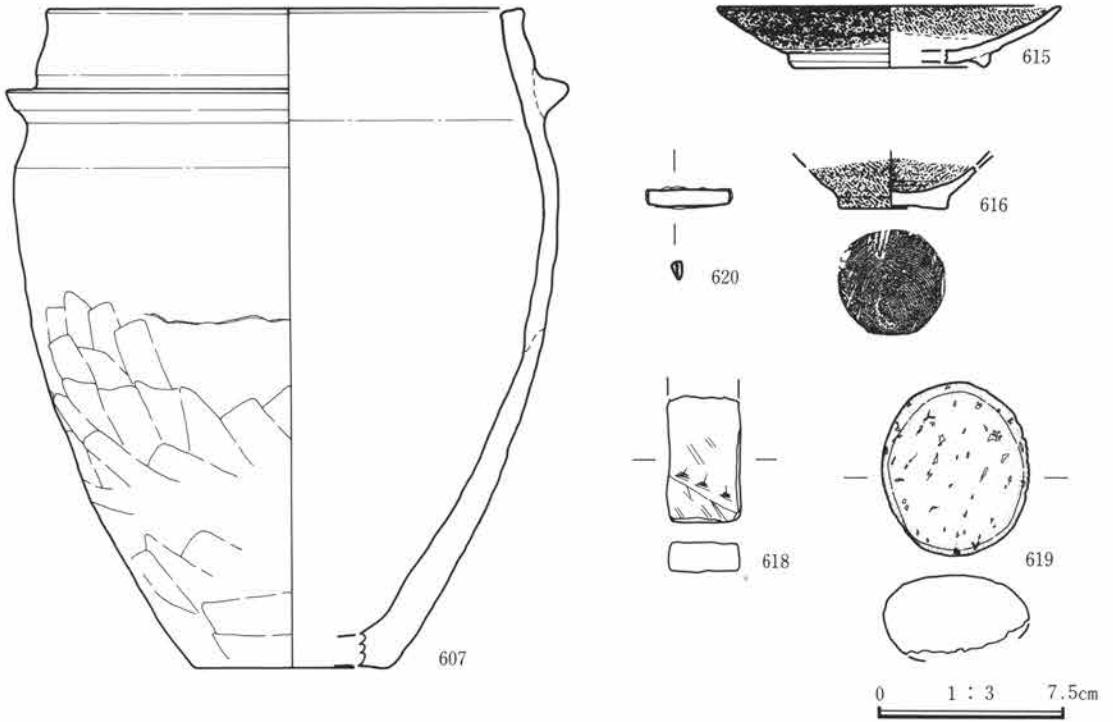
第77図 2区34・43号住居跡



第78図 2区34号住居跡エレベーション・竈エレベーション



第79図 2区34号住居跡出土遺物①



第80図 2区34号住居跡出土遺物②

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0607	羽 釜	器高：260mm 口径：188mm 底径：[78mm] 最大径：223mm 口縁部～底部%	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	口縁部はやや内湾。最大径は鈔部。鈔部は貼り付け。外面：口縁部～胴部上半は回転など、胴部下半は篋削り。内面：口縁部～底部は回転など。	外面に油煙付着。
0608	羽 釜	器高：(160mm) 口径：[196mm] 底径：— 最大径：[240mm] 口縁部～胴部%	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。浅黄橙。	口縁部はやや内湾。最大径は鈔部。鈔部は貼り付け。外面：口縁部～胴部上半は回転など、胴部下半は篋削り。内面：口縁部～胴部は回転など。	内外面に油煙付着、内面は多量。二次炎を受けている。
0609	羽 釜	器高：(135mm) 口径：[206mm] 底径：— 最大径：[236mm] 口縁部～胴部上半%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。軟質。灰白・淡黄。	口縁部はやや内湾。最大径は鈔部。鈔部は貼り付け。内外面共に口縁部～胴部上半は回転など。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0610	羽 釜	器高：(86mm) 口径：[180mm] 底径：— 口縁部～胴部上端%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	口縁部はやや内湾。鈔部は貼り付け。内外面共に口縁部～胴部上端は回転など。	
0611	碗 須恵器?	器高：66mm 口径：136mm 底径：89mm 口縁部～高台部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。黄橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転など、底部は足高台貼り付け後など。内面：口縁部～底部は回転など。	
0612	碗 須恵器	器高：54mm 口径：[128mm] 底径：68mm 口縁部～高台部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転など、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転など。	外面に少し油煙付着。
0613	杯 須恵器	器高：31mm 口径：[106mm] 底径：[64mm] 口縁部～底部%	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。浅黄。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転など、底部は回転糸切り。外面：口縁部～底部は回転など。	内外面に油煙付着。
0614	杯 須恵器	器高：(25mm) 口径：— 底径：61mm 胴部下半～底部%	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。オリーブ灰。	轆轤整形、右回転。胴部下半はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部下半は回転など、底部は回転糸切り。内面：胴部下半～底部は回転など。	
0615	皿 灰釉陶器	器高：24mm 口径：[136mm] 底径：[78mm] 口縁部～高台部%	径1mmの砂粒・細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転など、底部は高台貼り付け後など。内面：口縁部～胴部は回転など。	
0616	壺 緑釉陶器	器高：(17mm) 口径：— 底径：43mm 胴部下端～底部%	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転など、底部は回転糸切り。内面：胴部下端～底部は回転など。	外面胴部下端及び内面胴部下端～底部に施釉。
0617	碗 灰釉陶器	器高：(18mm) 口径：— 底径：[72mm] 胴部下端～高台部%	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は還元など、底部は高台貼り付け後など。内面：胴部下端～底部は回転など。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0618	砥石	長：(48mm) 幅：29mm 厚：20mm 重：36.0g		使用面は4面。	
0619	用途不明 石製品	長：68mm 幅：53mm 厚：31mm 重：71.7g	軽石(二ツ岳)。	周囲がきれいに擦られている。	
0620	刀子? 鉄製品	長：(33mm) 幅：6～7mm 厚：4mm		刀子の一部か。鉄板を折り曲げて製作。	
1200	椀 須恵器?	器高：47mm 口径：[112mm] 底径：61mm 口縁部～高台部%	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は高台貼り付け後など。内面：口縁部～底部は回転で。	内外面に油煙付着・二次炎を受けている。
2483	平瓦	長：372mm 幅：(155mm) 厚：17～20mm	石英粒などを含み、普通。還元。やや硬質。灰。	粘土板成形、1枚造り。凸面は縦方向縄叩、下端近くは横方向縄叩。凹面は布目・粘土板切り取り痕あり。側面整形は3面、端面整形は1面。	表面に砂粒付着。

## 2区35号住居跡

2区K-14グリッドに位置し、2区36・37・38号住居跡と重複する。新旧関係は、36号住居跡の竈と37・38号住居跡が当住居跡の埋土を切っていることから、いずれも当住居跡が古いと考えられる。他遺構との重複により東西壁が確認できないため、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は20cm前後である。柱穴・貯蔵穴・壁溝が確認できない。

竈は38号住居跡との重複部分に構築されていたと考えられる。

## 2区36号住居跡

2区K-14グリッドに位置し、2区34・35・37号住居跡と重複する。調査段階に於ける34・37号住居跡との新旧関係は不明である。しかし、位置的には36号住居跡内(出土レベルは他の遺物より高い)である鉄製品(1865)が37号住居跡として取り上げられていることから、37号住居跡が新しいとも考えられる。また、35号住居跡との関係は、当住居跡が新しい。南西隅は検出できなかったが、平面形は隅丸長方形を呈し、規模は2.04m×3.08mである。主軸方位はN-18.5°-Eである。柱穴と壁溝は確認できない。貯蔵穴は南東隅に位置し、深さは19cmを測る。貯蔵穴内からは、完形に近い須恵器椀が2個体(626・627)出土している。また、竈前面には鉄製品(1862・1863・1864)が分布している。

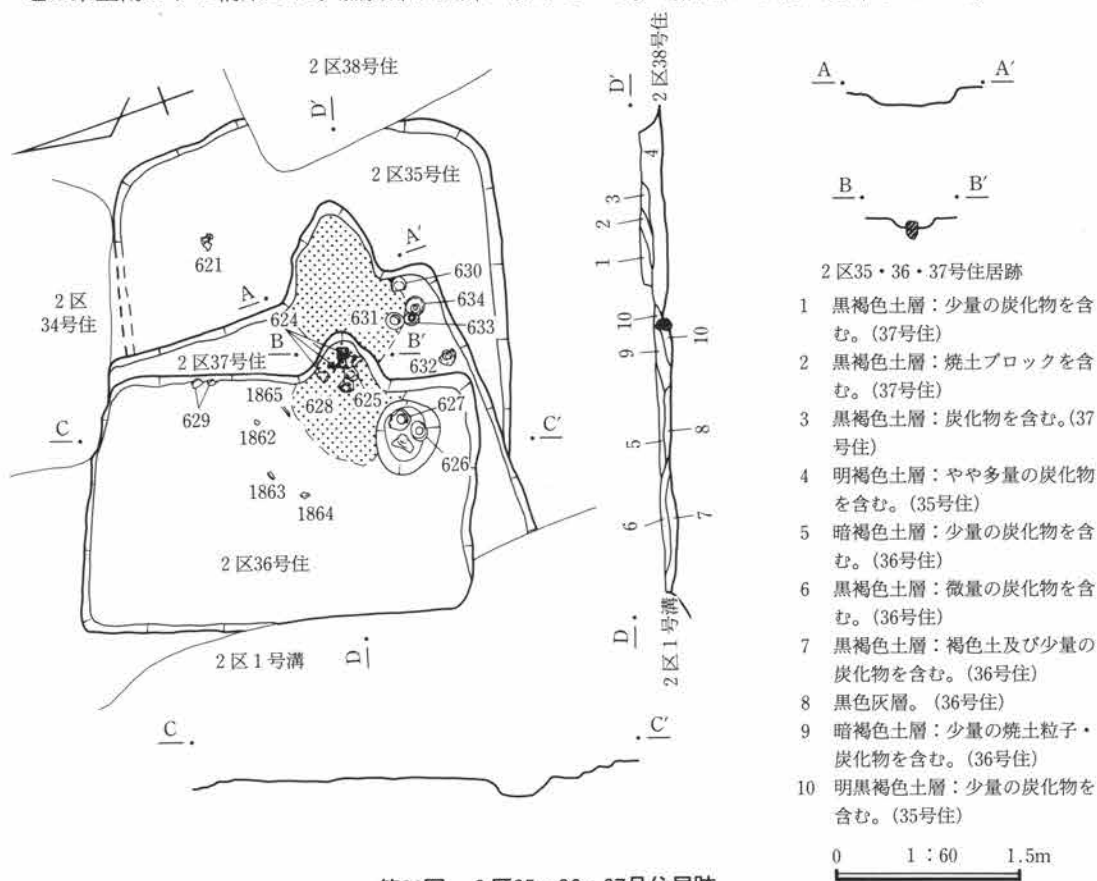
竈は東壁南寄りに構築され、燃烧部は壁外に設けている。竈内からは、土師器甕(624)や須恵器椀(628)・須恵器杯(625)が出土している。

## 2区37号住居跡

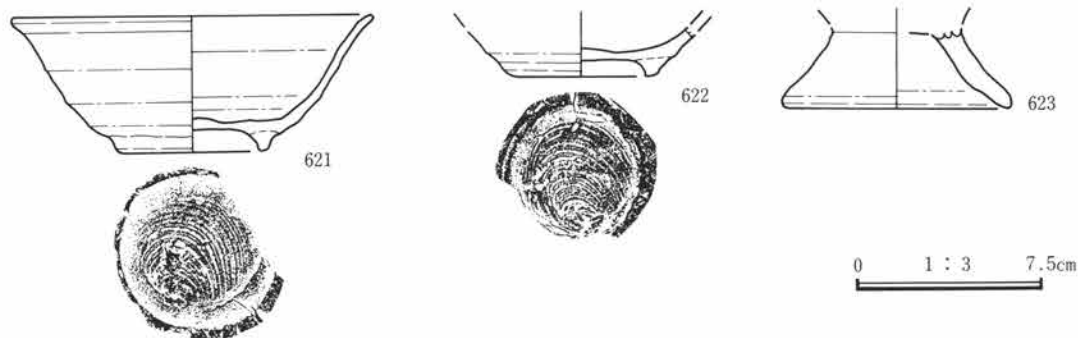
2区K-14グリッドに位置し、2区34・35・36・60号住居跡と重複する。新旧関係は35号住居跡埋土上に当住居跡の竈が構築されていることから、当住居跡が新しいと考えられる。60号住居跡との新

旧関係は、当住居跡の下から同住居跡が検出されたことから、当住居跡の方が新しい。34・36号住居跡との新旧関係は不明である。他遺構との重複により、東壁と南壁が検出されたのみであり、平面形・規模は不明である。主軸方位はN-3.5°-Eである。残存壁高は3cm~15cmを測る。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認できない。遺物は、南東隅から須恵器碗が逆位で5個体(630・631・632・633・634)まとまって出土している。

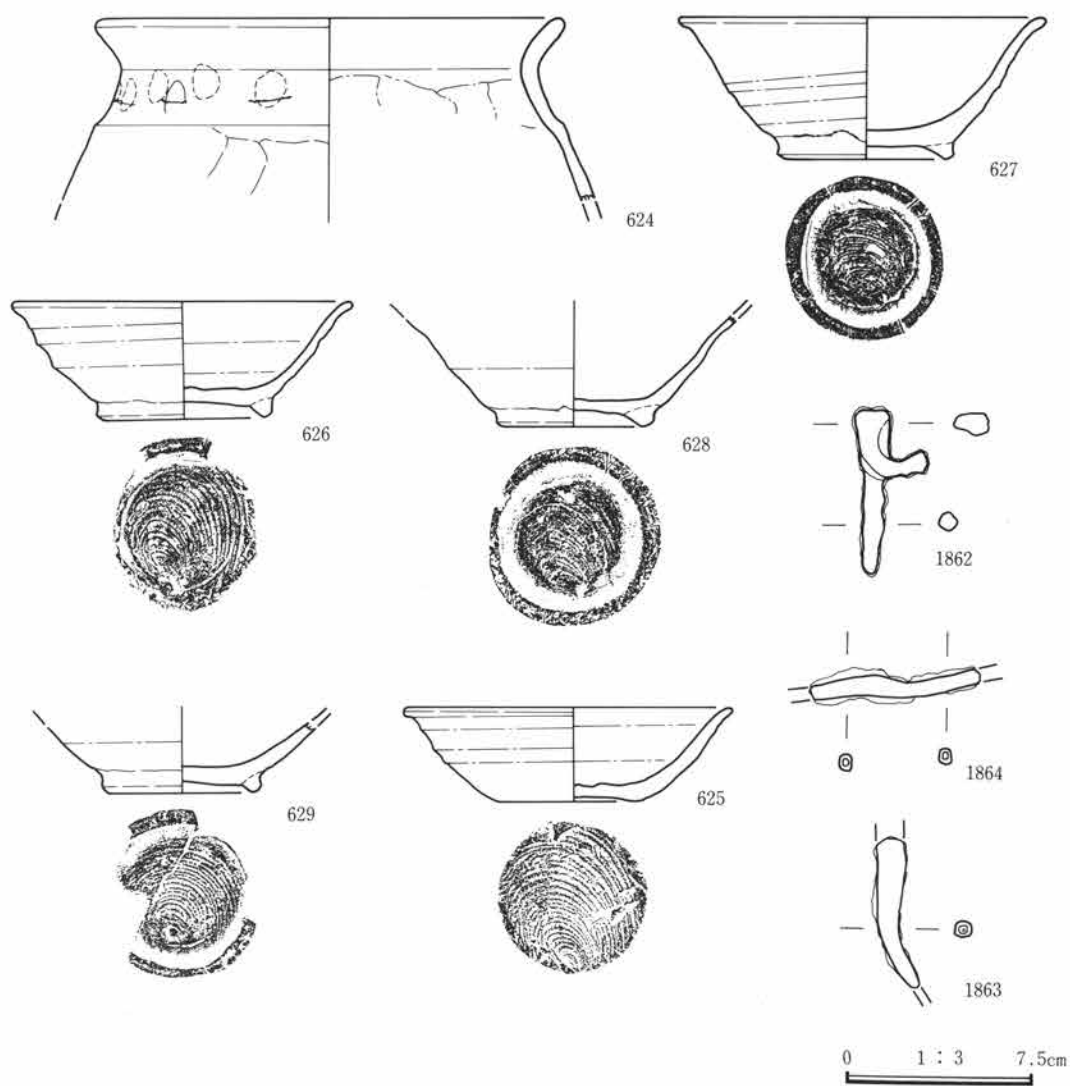
竈は東壁南よりに構築され、燃燒部は壁外に設けている。竈前面には灰が分布していた。



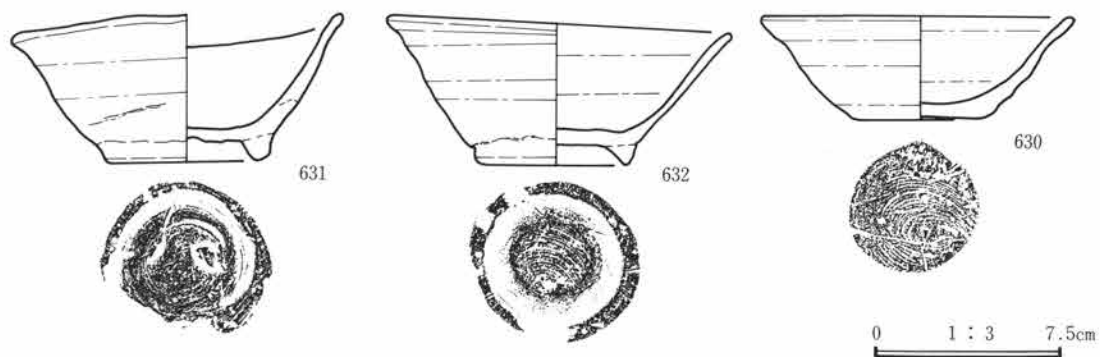
第81図 2区35・36・37号住居跡



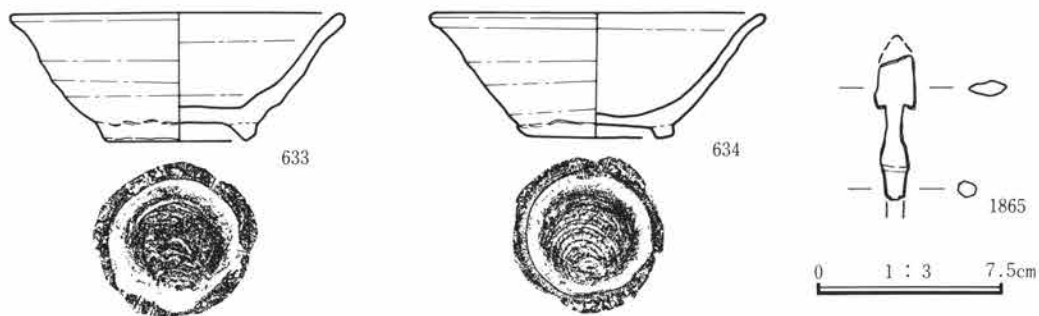
第82図 2区35号住居跡出土遺物



第83図 2区36号住居跡出土遺物



第84図 2区37号住居跡出土遺物①



第85図 2区37号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0621	碗 須恵器	器高：54mm 口径：[144mm] 底径：66mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。浅黄橙・淡黄。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内面に油煙付着。
0622	碗 須恵器	器高：(21mm) 口径：— 底径：[62mm] 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白(内外面焼で、黒)。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転なで。	内外面共に焼し。
0623	台付 土師器	器高：(32mm) 口径：— 底径：[92mm] 脚部： $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	内外面共に脚部は横なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0624	甕 土師器	器高：(72mm) 口径：[188mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篔削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篔なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0625	杯 須恵器	器高：37mm 口径：132mm 底径：60mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	二次炎を受けている。
0626	碗 須恵器	器高：47mm 口径：137mm 底径：[70mm] ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0627	椀 須恵器	器高：56mm 口径：[146mm] 底径：70mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回 転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部 ～底部は回転まで。	内外面に油煙付 着。
0628	椀 須恵器	器高：(44mm) 口径：一 底径：64mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。鈍い橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁部は僅かに外反。外 面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回 転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底 部は回転まで。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
0629	椀 須恵器	器高：(27mm) 口径：一 底径：65mm 胴部下半～高台 部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。やや軟質。灰白・ 鈍い橙。	轆轤整形、右回転。胴部下半はやや内湾し つつ広がる。外面：胴部下半は回転まで、 底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面： 胴部下半～底部は回転まで。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
1862	？ 鉄製品	長：(65mm) 幅：14mm 厚： 9mm		用途不明。	
1863	？ 鉄製品	長：(59mm) 幅：11～6mm 厚：7mm		用途不明。	
1864	？ 鉄製品	長：(67mm) 幅：5mm 厚： 6mm		芯は空洞。鉄鉄の茎または紡錘車の軸か。	

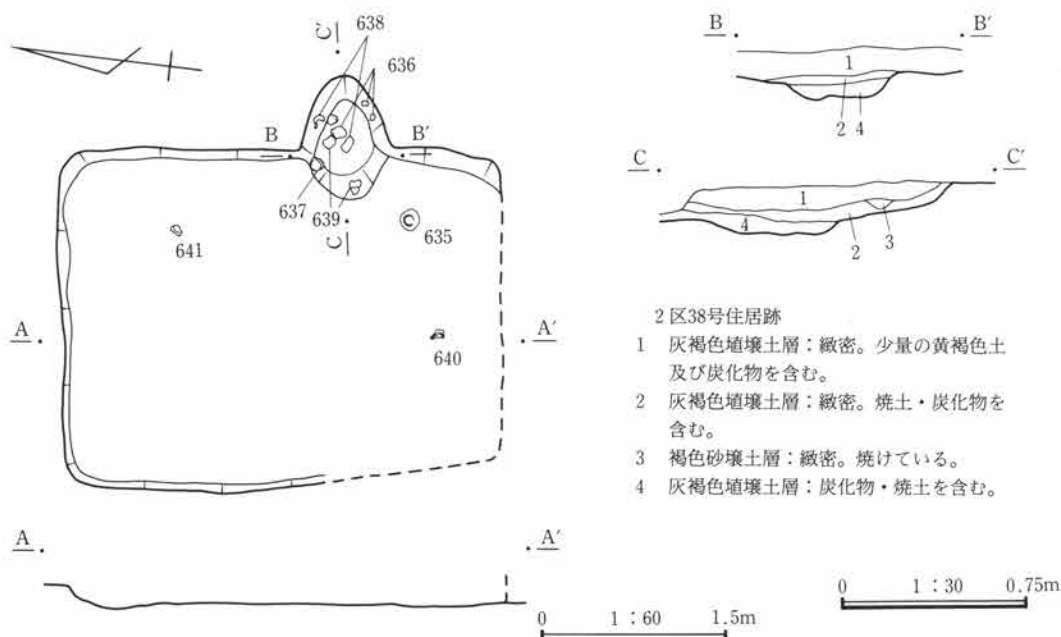
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0630	杯 須恵器	器高：41mm 口径：124mm 底径：52mm 口縁部～底部 部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回 転糸切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	外面に油煙付着。 二次炎を受けてい る。
0631	椀 須恵器	器高：58mm 口径：133mm 底径：67mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。やや軟質。灰白・ 鈍い橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回 転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部 ～底部は回転まで。	内外面共に燻し。
0632	椀 須恵器	器高：59mm 口径：138mm 底径：62mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。やや硬質。灰白・ 浅黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回 転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部 ～底部は回転まで。	外面は燻し。内面 に少し油煙付着。 二次炎を受けてい る。
0633	椀 須恵器	器高：51mm 口径：135mm 底径：63mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。硬質。鈍い黄褐。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回 転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部 ～底部は回転まで。	内面は燻し。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0634	碗 須恵器	器高：49mm 口径：134mm 底径：62mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。淡黄・鈍い褐。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転まで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
1865	鉄 鐵	長：(57mm) 幅：身16mm・筥7mm 厚：身6mm・筥7mm		三角形式。腸扶は浅い。身の断面は両丸か。	

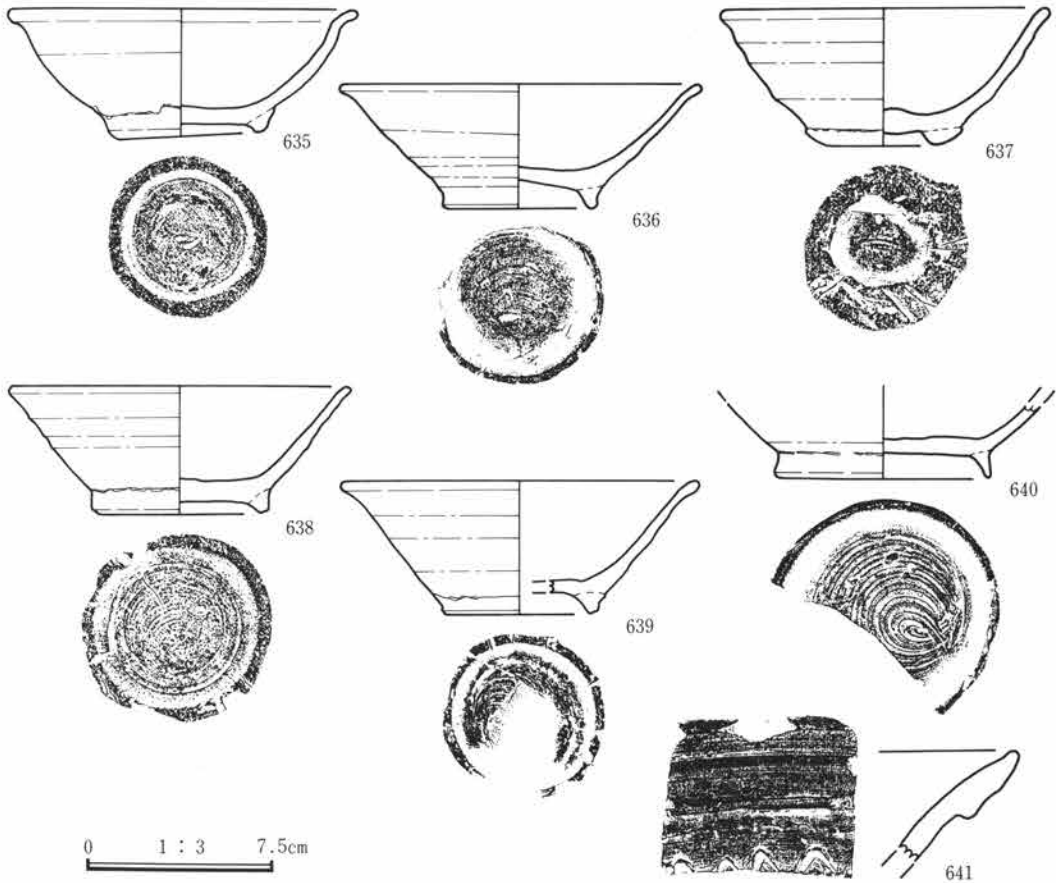
## 2区38号住居跡

2区J-13グリッドに位置し、東壁は側道調査、その他は本線調査で確認された。2区35号・52号住居跡・2区2号溝と重複し、2号溝と35号住居跡との新旧関係はいずれも当住居跡が新しいと考えられる。また、52号住居跡との新旧は明確ではないが、当住居跡が先に調査されていることから、当住居跡が新しいと考えられる。南西隅と南壁は検出されないが、平面形は隅丸長方形を呈する。東西の規模は2.66mである。主軸方位はN-8.5°-Wを示し、残存壁高は3cm～14cmを測る。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。遺物は東壁付近に多く、須恵器碗(635)や須恵器甕(641)などが出土している。

竈は東壁南寄りに構築され、燃焼部は壁外に設ける。竈内からは、須恵器碗が4個体(636・637・638・639)出土している。



第86図 2区38号住居跡



第87図 2区38号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0635	碗 須恵器	器高：52mm 口径：139mm 底径：65mm 完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に共に燻し。
0636	碗 須恵器	器高：49mm 口径：[144mm] 底径：68mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～胴部は回転なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0637	碗 須恵器	器高：54mm 口径：[132mm] 底径：64mm 口縁部～高台部 $\frac{3}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明黄褐。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。

## 第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0638	椀 須恵器	器高：51mm 口径：[136mm] 底径：73mm 口縁部～高台部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に油煙付着。
0639	椀 須恵器	器高：52mm 口径：[142mm] 底径：63mm 口縁部～高台部%	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。灰白・鈍い橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0640	椀 須恵器	器高：(29mm) 口径：— 底径：86mm 胴部下半～高台部%	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部下半は僅かに内湾しつつ広がる。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転なで。	内外面共に胴部下半は燻し。
0641	甕 須恵器	器高：— 口径：— 底径：— — 口縁部小破片	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・橙。	口縁端部は折り返し及び二条の凸帯状の膨らみを持ち、口縁部中央には波状文を施す。	

### 2区39号住居跡

2区L-13グリッドに位置し、2区40・42・45・60・64号住居跡と重複する。新旧関係は、40・42・45号住居跡が当住居跡を破壊していることから、当住居跡の方が古いと考えられる。また、60・64号住居跡が39号住居跡より後に調査されていることから、当住居跡の方が新しいと考えられる。当住居跡の壁は深いため、南西隅と東壁の一部を除き確認された。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は2.94m×4.86mである。主軸方位はN-15°-Eで、残存壁高は2cm～35cmを測る。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認できない。

竈は東壁南寄りに構築され、燃焼部は壁外に設けられている。竈の遺存は悪く、焼土の塊として確認された程度である。

### 2区40号住居跡

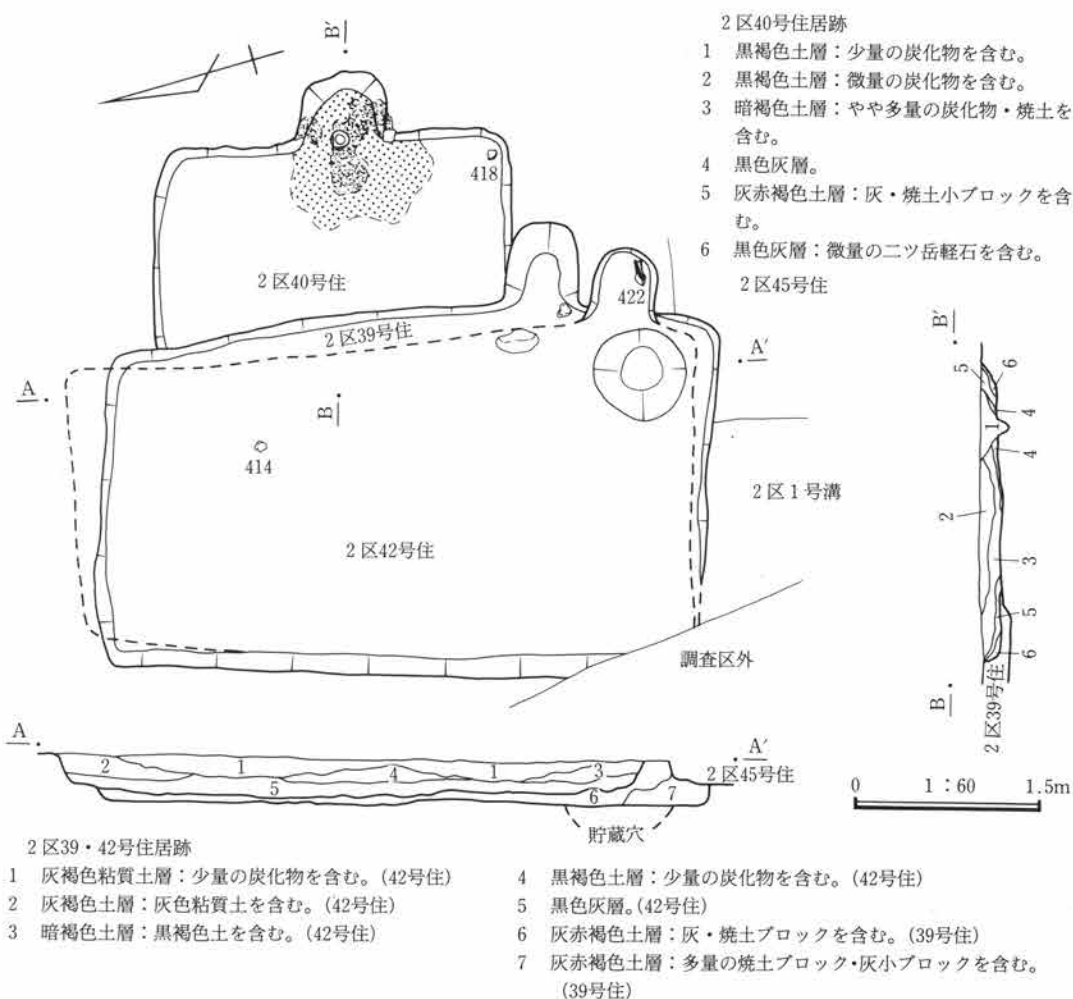
2区L-13グリッドに位置し、2区39・42・64号住居跡と重複する。新旧関係は、39号住居跡埋土上に当住居跡の床が構築されていたことから、当住居跡の方が新しいと考えられる。また、当住居跡調査後に64号住居跡が確認されていることから、当住居跡の方が新しい。しかし、42・64号住居跡との新旧関係は不明である。平面図では西壁は表現されていないが、セクションから平面形は隅丸長方形を呈し、規模が1.94m×2.86mであることがわかる。主軸方位はN-14°-Eを示し、残存壁高は8cm～30cmを測る。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認できない。

竈は東壁中央に構築され、右側には袖石が遺存している。中央の小ピットは、位置的にやや疑問があるが支脚の抜き取り穴であろうか。竈前面には、灰が広く分布している。

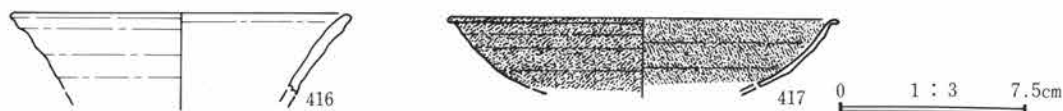
## 2区42号住居跡

2区L-13グリッドに位置し、2区39・40・45・64号住居跡、2区1号溝と重複する。40・45号住居跡、1号溝との新旧関係は不明であるが、39号住居跡より新しいことはセクションから判断できる。また、64号住居跡は当住居跡より後に調査されていることから、当住居跡が新しいと考えられる。しかし、平面図が割り付けで測図されているため、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は、セクションから28cm前後であったと考えられる。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認できない。

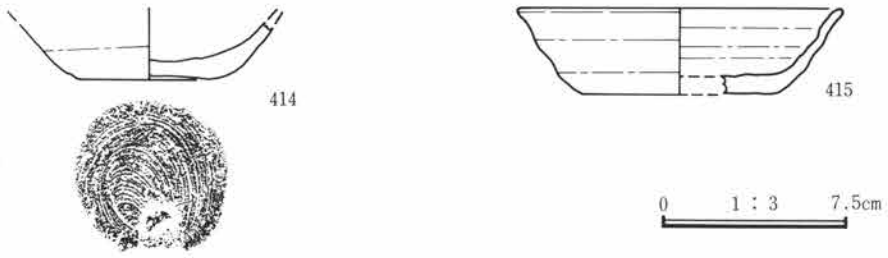
竈は東壁南側に構築され、燃烧部は壁外に設けられていた。竈内からは羽釜(422)が1点出土している。



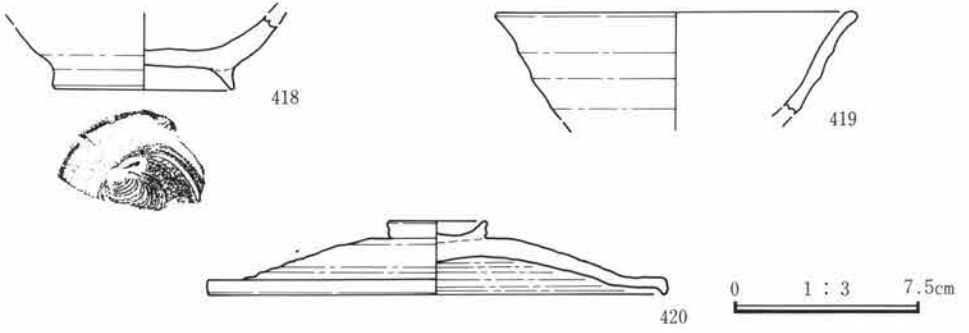
第88図 2区39・40・42号住居跡



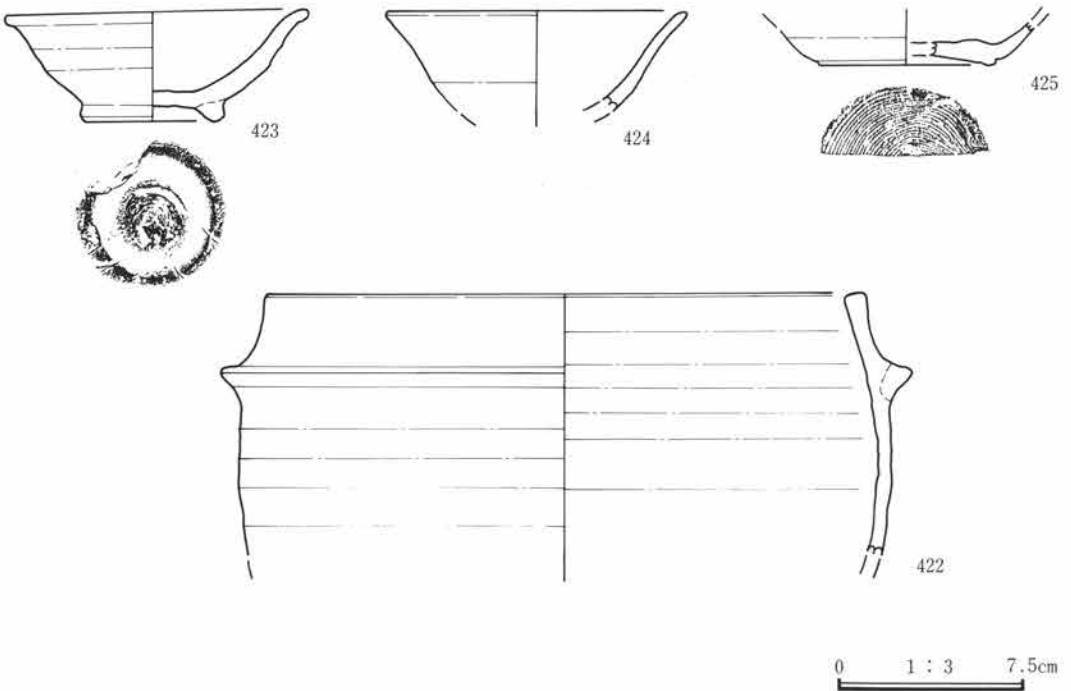
第89図 2区39号住居跡出土遺物①



第90図 2区39号住居跡出土遺物②



第91図 2区40号住居跡出土遺物



第92図 2区42号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0414	杯 須恵器	器高：(22mm) 口径：一底径：60mm 胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り。内面：胴部下半～底部は回転なで。	内面に油煙付着。
0415	杯 須恵器	器高：(33mm) 口径：[130mm] 底径：[76mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に自然釉。
0416	椀 須恵器	器高：(32mm) 口径：[136mm] 底径：一 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	
0417	椀 灰釉陶器	器高：(27mm) 口径：[156mm] 底径：一 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0418	椀 須恵器	器高：(29mm) 口径：一底径：[74mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転なで。	内面に油煙付着。
0419	椀 須恵器	器高：(41mm) 口径：[144mm] 底径：一 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。灰白・鈍い橙。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	
0420	蓋 須恵器	器高：29mm 口径：[184mm] つまみ径：42mm つまみ部～口縁部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	返りは短い。ボタン状つまみ。つまみ部は貼り付け。外面：天井部上半は回転篋削り、天井部下半～口縁部は回転なで。内面：天井部～口縁部は回転なで。	内外面に油煙付着。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0422	羽 釜	器高：(103mm) 口径：[236mm] 底径：一 最大径：[274mm] 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・淡黄。	口縁部は僅かに内湾。最大径は鋳部。鋳部は貼り付け。内外面共に口縁部～胴部上半は回転なで。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0423	椀 須恵器	器高：43mm 口径：[122mm] 底径：57mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～胴部は回転なで。	内外面に油煙付着。

## 第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0424	碗 須恵器	器高：(39mm) 口径：[120mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転など。	内面に多量の油煙付着。
0425	杯 須恵器	器高：(17mm) 口径：— 底径：[72mm] 胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転など、底部は回転糸切り。内面：口縁部～胴部は回転など。	

### 2区41号住居跡

2区K-12グリッドに位置し、2区53号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の竈が検出されていないことから、当住居跡が古いと考えられる。当住居跡は、南西隅が確認されたのみであり、平面形・規模・主軸方位はすべて不明である。残存壁高は9cm前後を測る。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。遺物は比較的多く、須恵器杯(645・646・648)や須恵器蓋(650)などが出土している。

### 2区44号住居跡

2区M-12グリッドに位置し、2区1号溝と重複する。新旧関係は不明である。竈先端のみの検出である。

### 2区45号住居跡

2区M-12グリッドに位置し、2区39・42・53・46・59号住居跡、2区1号溝と重複する。新旧関係は、セクションから39・42・53号住居跡より新しく、当住居跡の竈が46号住居跡の西壁上に構築されていることから、当住居跡が新しい。また、59号住居跡は当住居跡より後に調査されていることから当住居跡が新しいと考えられる。42号住居跡、2区1号溝との新旧関係は不明である。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は2.56m×3.0mである。主軸方位はN-24°-Eを示し、残存壁高は5cm～16cmである。柱穴・壁溝は確認できない。貯蔵穴は南東隅に位置し、深さは12cmである。

竈は東壁南側に構築されている。竈内には焼土、竈前面には灰が分布している。

### 2区46号住居跡

2区L-14グリッドに位置し、2区45号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡西壁上に45号住居跡の竈が構築されていることから当住居跡が古いと考えられる。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は2.56m×3.8mである。主軸方位はN-21°-Eを示し、残存壁高は12cm～25cmである。柱穴・壁溝は確認できない。貯蔵穴は南東隅に位置し、深さは15cmである。貯蔵穴付近の床面からは、須恵器碗(230)と須恵器杯(232)が出土している。また、東壁際からは須恵器杯(233)が出土している。

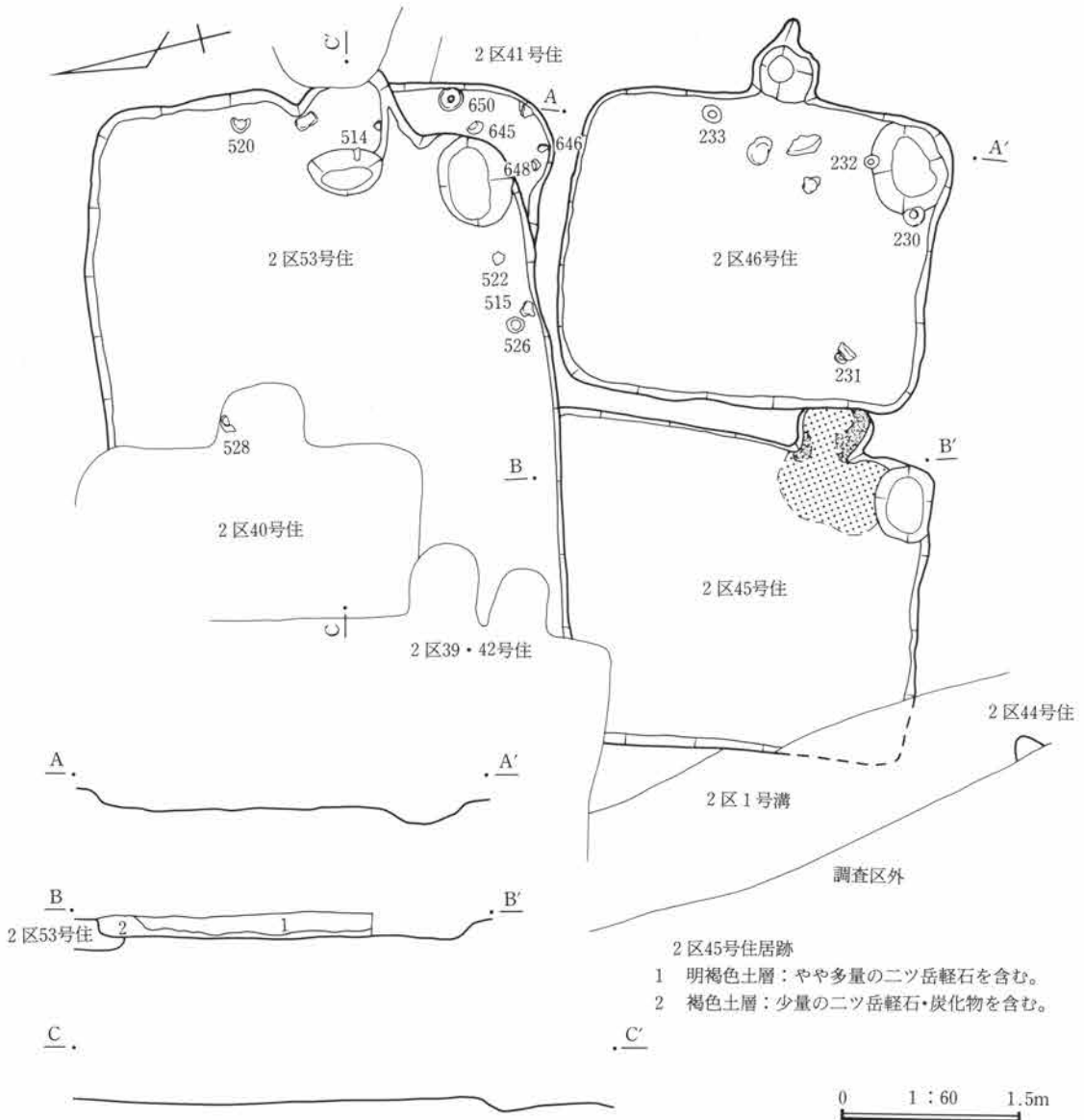
竈は東壁中央に構築され、燃焼部は壁外に設けている。



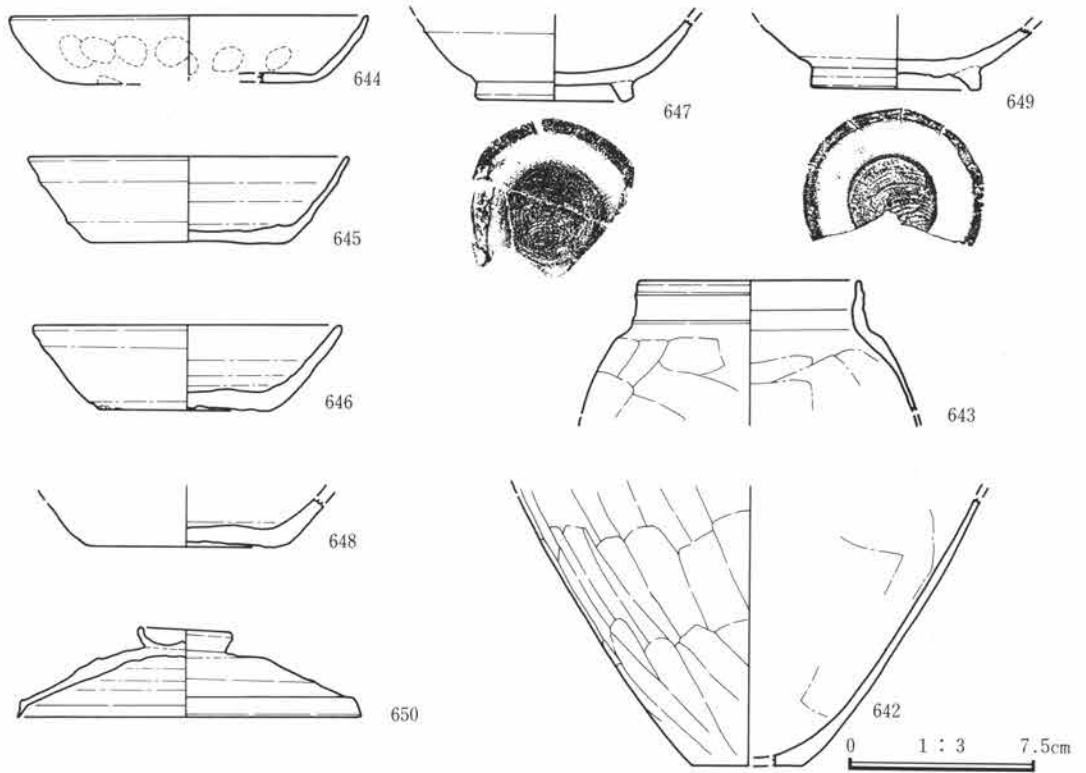
## 2区53号住居跡

2区K-12グリッドに位置し、2区41号住居跡・2区52号住居跡と重複する。新旧関係は41号住居跡の竈が検出できないことから、当住居跡が新しいと考えられる。52号住居跡との新旧関係は不明である。西壁が確認されないため平面形は不明であり、南北の規模は3.74mである。主軸方位はN-11.5°-Eを示し、残存壁高は3cm~32cmである。柱穴・壁溝・竈は確認できない。貯蔵穴は南東隅に設けられ、深さは37cmである。貯蔵穴内には土師器甕が正位で出土しているが、この遺物は所在不明で図示し得なかった。

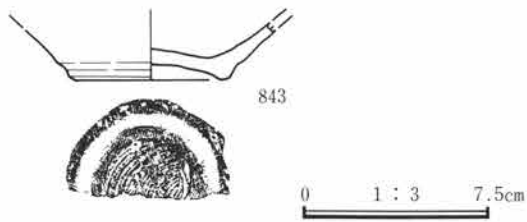
竈は東壁中央に構築され、燃焼部は壁外に設ける。



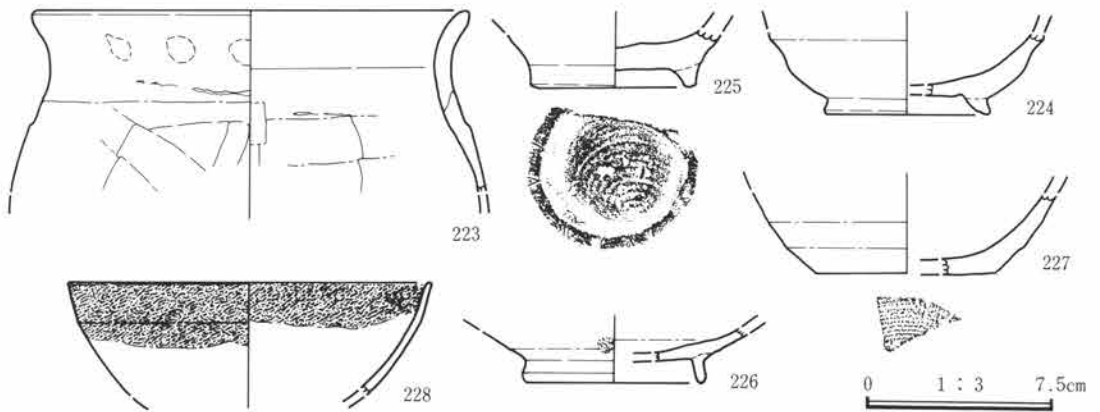
第93図 2区41・44・45・46・53号住居跡



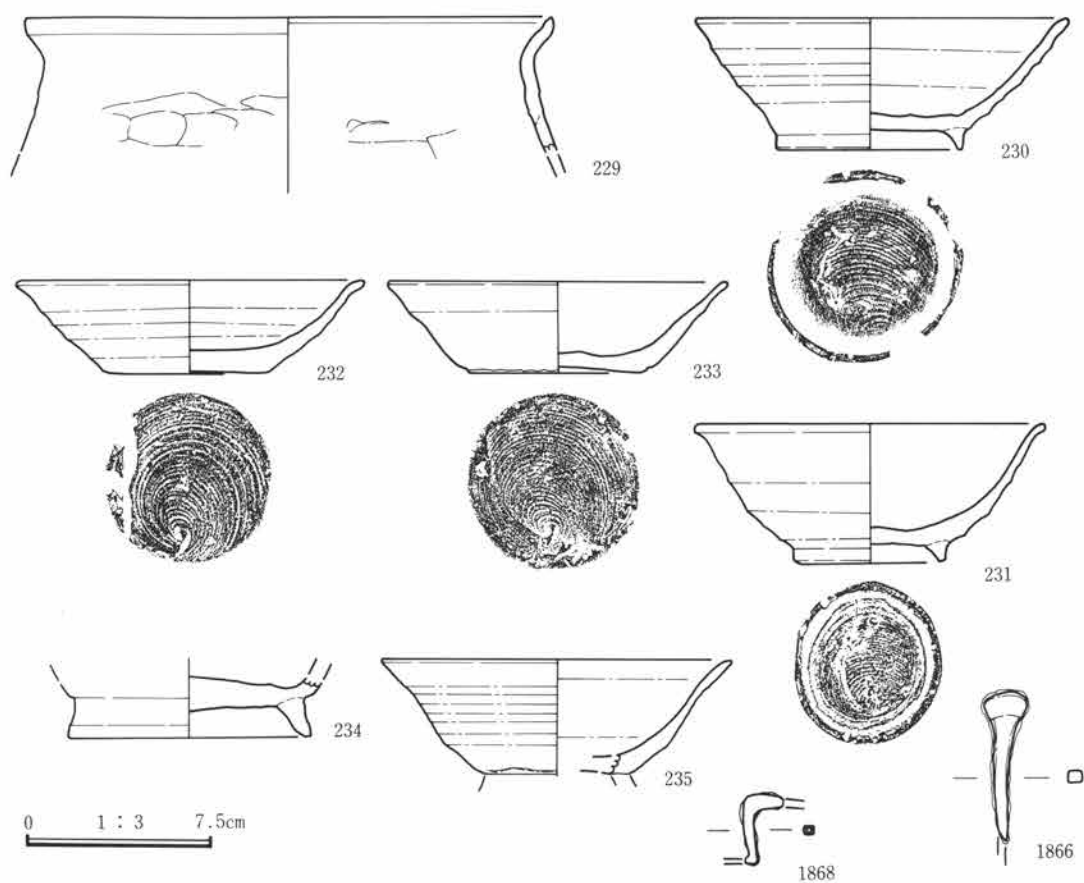
第94図 2区41号住居跡出土遺物



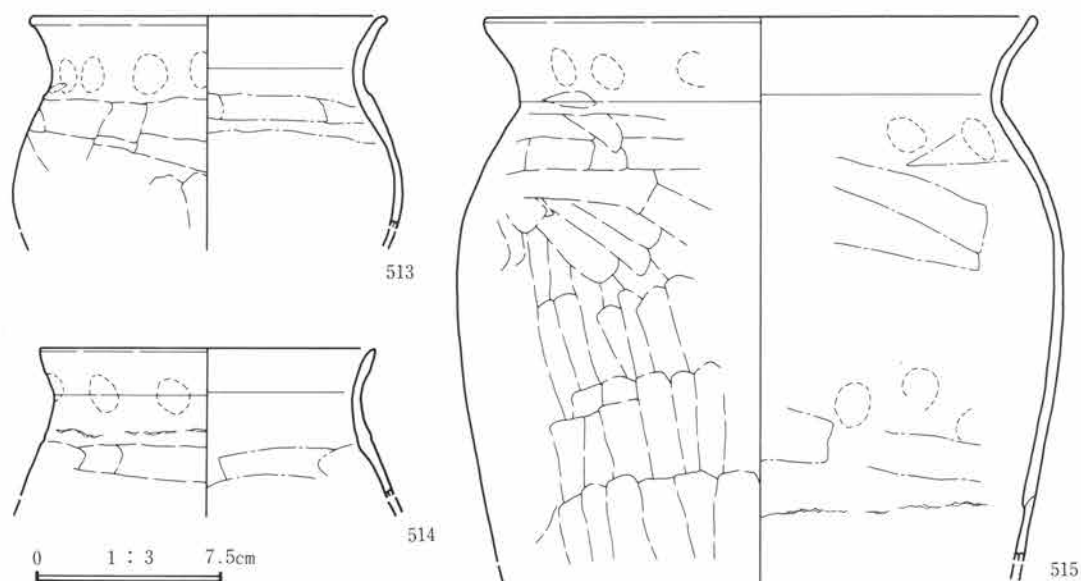
第95図 2区44号住居跡出土遺物



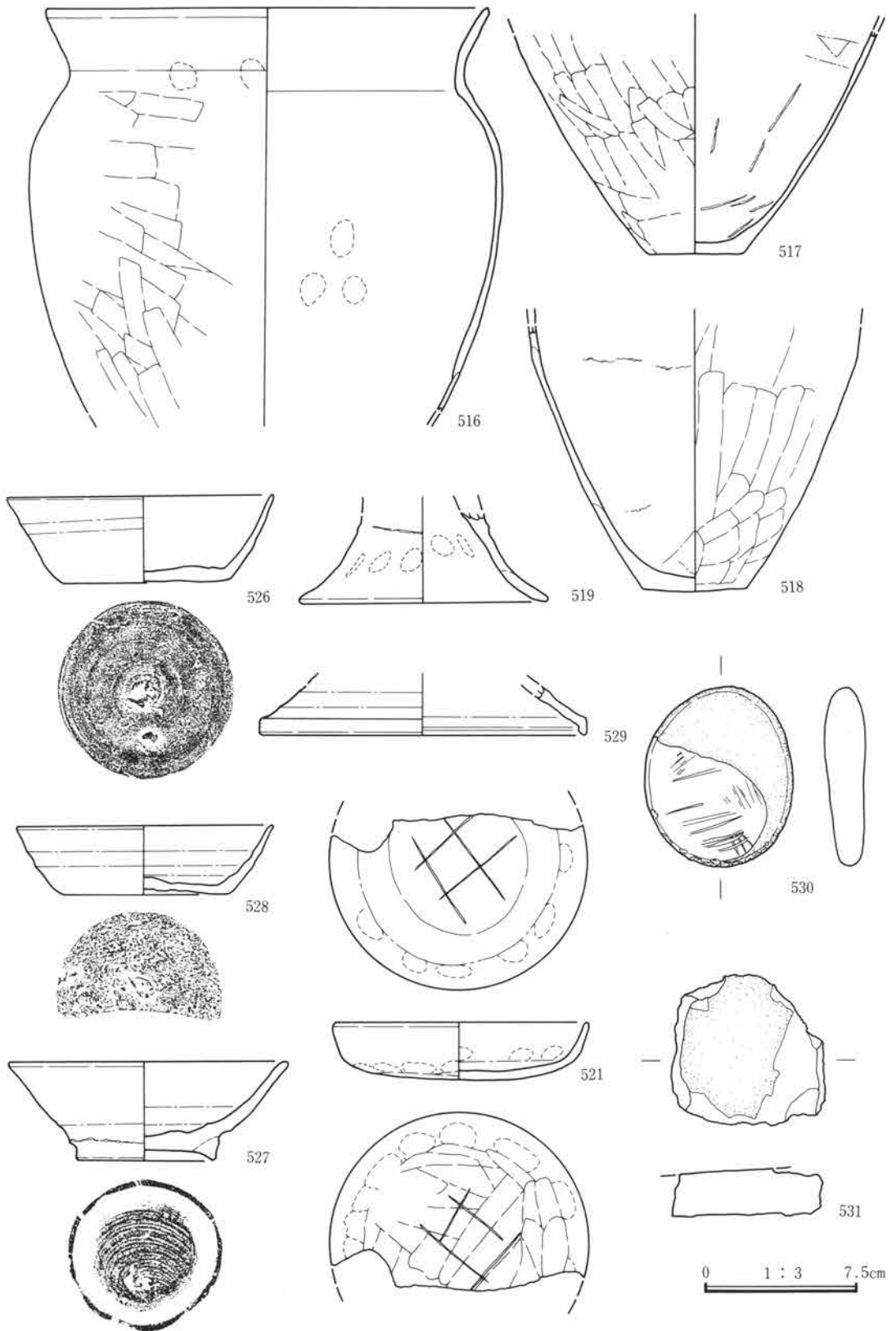
第96図 2区45号住居跡出土遺物



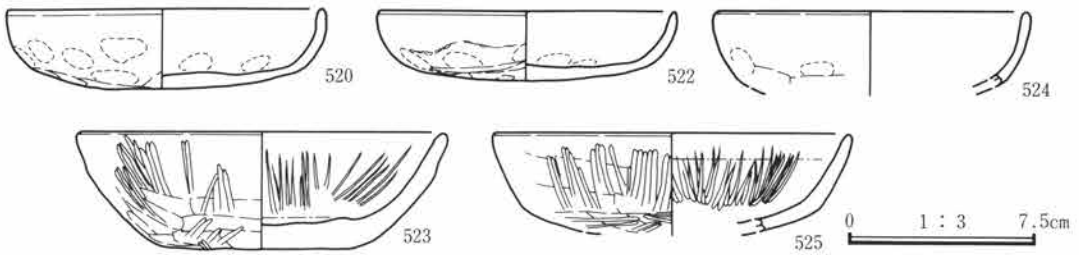
第97图 2区46号住居跡出土遺物



第98图 2区53号住居跡出土遺物①



第99図 2区53号住居跡出土遺物②



第100図 2区53号住居跡出土遺物③

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0642	甕 土師器	器高：(106mm) 口径：一 底径：[45mm] 胴部下半 ～底部迄	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。明赤褐。	外面：胴部下半～底部は篋削り。内面：胴 部下半～底部は篋なで。	内外面にやや多量 の油煙付着。二次 炎を受けている。
0643	甕 土師器	器高：(51mm) 口径：[90 mm] 底径：一 口縁部～胴 部上半迄	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。 鈍い橙。	口縁部は「コ」字状に外反。口縁端部に沈線 一条。外面：口縁部は横なで、胴部上半は 篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上半 は篋なで。	内外面に油煙付 着。
0644	杯 土師器	器高：(27mm) 口径：[144 mm] 底径：[96mm] 口縁部 ～底部迄	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。 鈍い橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外 面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が 残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部 は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	外面に油煙付着。
0645	杯 須恵器	器高：34mm 口径：[128mm] 底径：84mm 口縁部～底部 迄	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回 転篋切り後なで。内面：口縁部～底部は回 転なで。	
0646	杯 須恵器	器高：34mm 口径：[122mm] 底径：70mm 口縁部～底部 迄	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回 転篋切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0647	碗 須恵器	器高：(32mm) 口径：一 底 径：[64mm] 胴部～高台部 迄	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。橙。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾しつつ 広がる。外面：胴部は回転なで、底部は回 転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底 部は回転なで。	
0648	杯 須恵器	器高：(21mm) 口径：一 底 径：78mm 胴部下半～底部 迄	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底 部は回転篋切り。内面：胴部下半～底部は 回転なで。	
0649	碗 須恵器	器高：(25mm) 口径：一 底 径：69mm 胴部下半～高台 部迄	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰・灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転 なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。 内面：胴部下半～底部は回転なで。	
0650	蓋 須恵器	器高：36mm 口径：136mm つまみ径：38mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。返りは短い。ボタン状つまみ。 つまみ部は貼り付け。外面：天井部上半は 回転篋削り、天井部下半～口縁部は回転な で。内面：天井部～口縁部は回転なで。	

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0843	椀 須恵器	器高:(23mm) 口径:一 底 径:64mm 胴部下半~高台 部 $\frac{1}{2}$	径1~2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面:胴部下半は回転 なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。 内面:胴部下半~底部は回転なで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0223	甕 土師器	器高:(71mm) 口径:[174 mm] 底径:一 口縁部~胴 部上端 $\frac{1}{2}$	径1~2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。明赤褐。	口縁部は外反。外面:口縁部は横なで、一 部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面: 口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付 着。
0224	椀 須恵器	器高:(32mm) 口径:一 底 径:[66mm] 胴部~高台部 $\frac{1}{2}$	径2~3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。胴部はやや内湾しつつ広がる。 外面:胴部回転なで、底部は高台貼り付け 後なで。内面:胴部~底部は回転なで。	
0225	椀 須恵器	器高:(22mm) 口径:一 底 径:65mm 胴部下端~高台 部 $\frac{1}{2}$	径2~3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰・灰白。	轆轤整形、右回転。外面:胴部下端は回転 なで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。 内面:胴部下端~底部は回転なで。	
0226	椀 灰釉陶器	器高:(22mm) 口径:一 底 径:[72mm] 胴部下端~高 台部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	轆轤整形。外面:胴部下端は回転なで、底 部は高台貼り付け後丁寧なで。内面:胴 部下端~底部は回転なで。	内外面に油煙付 着。
0227	杯 須恵器	器高:(31mm) 口径:一 底 径:[72mm] 胴部~底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。やや硬質。 灰白。	轆轤整形。胴部は僅かに内湾しつつ広がる。 外面:胴部は回転なで、底部は回転糸切り。 内面:胴部~底部は回転なで。	
0228	椀 灰釉陶器	器高:(44mm) 口径:[146 mm] 底径:一 口縁部~胴 部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。 やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部~口縁部はやや内湾しつつ 広がる。内外面共に口縁部~胴部は回転な で。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0229	甕 土師器	器高:(53mm) 口径:[212 mm] 底径:一 口縁部~胴 部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。 鈍い橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面:口縁部は 横なで、胴部上端は篋削り。内面:口縁部 は横なで、胴部は篋なで。輪積み痕が残る。	外面に油煙付着。
0230	椀 須恵器	器高:52mm 口径:156mm 底径:75mm 口縁部~高台 部 $\frac{1}{2}$	径2~3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部~口縁部は僅かに 内湾しつつ広がり、口縁部は僅かに外反。 外面:口縁部~胴部は回転なで、底部は回 転糸切り後、高台貼り付け。内面:口縁部 ~底部は回転なで。	外面及び内面口縁 部に油煙付着。
0231	椀 須恵器	器高:56mm 口径:[140mm] 底径:60・65mm 口縁部~高 台部 $\frac{1}{2}$	径2~3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部~口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁部は僅かに外反。 外面:口縁部~胴部は回転なで、底部は回 転糸切り後、高台貼り付け。内面:口縁部 ~底部は回転なで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0232	杯 須恵器	器高：37mm 口径：140mm 底径：67mm ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に油煙付着。
0233	杯 須恵器	器高：37mm 口径：138mm 底径：73mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の口縁部に油煙又はタール付着。
0234	椀 須恵器	器高：(25mm) 口径：— 底径：97mm 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・鈍い橙。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下端～底部は回転なで。	
0235	椀 須恵器	器高：(45mm) 口径：[140mm] 底径：58mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1866	? 鉄製品	長：(59mm) 幅：17mm 厚：5mm		鉄鏝の一部か。	
1868	? 鉄製品	長：(28mm) 幅：3～5mm 厚：4mm		用途不明。芯は空洞。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0513	甕 土師器	器高：(83mm) 口径：140mm 底径：— 最大径：151mm 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。最大径は胴部上半。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上半は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上半は篋なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0514	甕 土師器	器高：(57mm) 口径：[134mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0515	甕 土師器	器高：(213mm) 口径：[220mm] 底径：— 最大径：[240mm] 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。最大径は胴部上半。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部は篋なで、胴部下半に輪積痕が残る。	内外面に油煙付着、内面は多量。二次炎を受けている。
0516	甕 土師器	器高：(195mm) 口径：[216mm] 底径：— 最大径：[230mm] 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。最大径は胴部上半。内面に輪積痕が残る。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部は篋なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0517	甕 土師器	器高：(126mm) 口径：— 底径：50mm 胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	外面：胴部下半～底部は篋削り。内面：胴部下半～底部は篋なで、輪積痕が残る。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0518	甕 土師器	器高：(106mm) 口径：一 底径：46mm 胴部下半～底 部%	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。橙。	外面：胴部下半～底部は篋削り。内面：胴 部下半～底部は篋なで。	外面に多量の油煙 付着。二次炎を受 けている。
0519	台付甕 土師器	器高：(43mm) 口径：一 底 径：120mm 脚部%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。明赤褐。	脚部は「ハ」字状にひろく。内外面共に脚部 は横なで。	
0520	杯 土師器	器高：31mm 口径：128mm 底径：一 口縁部～底部%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。橙。	胴部～口縁部は内湾。平底に近い丸底。外 面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り、 一部指頭痕が残る。内面：口縁部～胴部は 横なで、底部はなで、一部指頭痕が残る。	外面底部に油煙付 着。
0521	杯 土師器	器高：28mm 口径：124mm 底径：一 口縁部～底部%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底に近い平底。 外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削 り、一部指頭痕が残る。内面：口縁部～胴 部は横なで、底部はなで、一部指頭痕が残 る。	内面に一部油煙が 付着。内外面の底 部にヘラ記号。
0522	杯 土師器	器高：27mm 口径：[118mm] 底径：一 口縁部～底部%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。平底に近い丸底。 外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削 り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部は なで、一部指頭痕が残る。	
0523	杯 土師器	器高：46mm 口径：[146mm] 底径：72mm 口縁部～底部 %	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬 質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外 面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り 後なで。内面：口縁部～胴部は横なで後放 射状暗文を施す。底部はなで。	外面にやや多量の 油煙付着。二次炎 を受けている。
0524	杯 土師器	器高：(29mm) 口径：[124 mm] 底径：一 口縁部～胴 部%	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。外面：口縁部は 横なで、胴部は篋削り後なで。内面：口縁 部胴部は横なで。	
0525	杯 土師器	器高：(38mm) 口径：[142 mm] 底径：一 口縁部～底 部上端%	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。 外面：口縁部は横なで、胴部～底部上端は 篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放 射状暗文を施す。底部上端はなで。	
0526	杯 須恵器	器高：41mm 口径：130mm 底径：86mm ほぼ完形	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。やや硬質。 灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は 回転なで、底部は回転篋切り後なで。内面： 口縁部～底部は回転なで。	
0527	碗 須恵器	器高：48mm 口径：[134mm] 底径：72mm 口縁部～高台 部%	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回 転なで、底部は回転糸切り後、高台貼り付 け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0528	杯 須恵器	器高：33mm 口径：[124mm] 底径：82mm 口縁部～底部 %	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は 回転なで、底部は回転篋切り。内面：口縁 部～底部は回転なで。	外面残り一部に油 煙付着。
0529	蓋 須恵器	器高：(24mm) 口径：[160 mm] 天井部下半～口縁部%	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	返りは短い。内外面共に天井部下半～口縁 部は回転なで。	

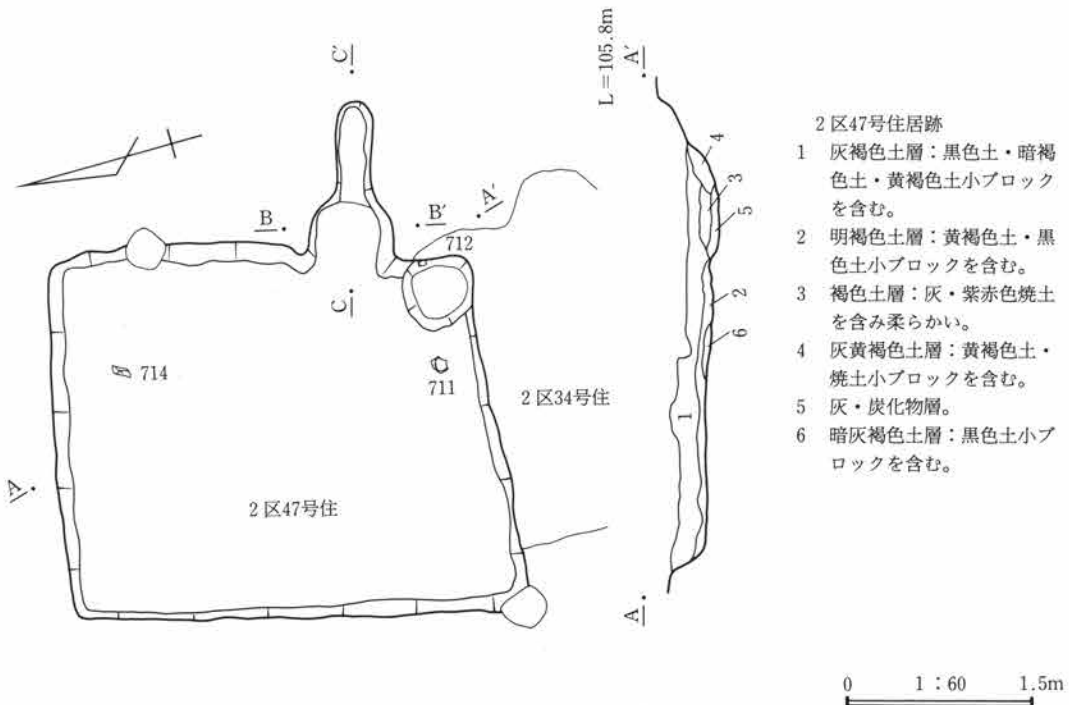


番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0530	用途不明 石製品	長：85mm 幅：71mm 厚：20mm 重：168.2g	砂岩。	表面は擦れている。	
0531	用途不明 石製品	長：(80mm) 幅：(75mm) 厚：(23mm) 重：189.4g	粗粒安山岩。		熱を受けひびが入っている。

## 2区47号住居跡

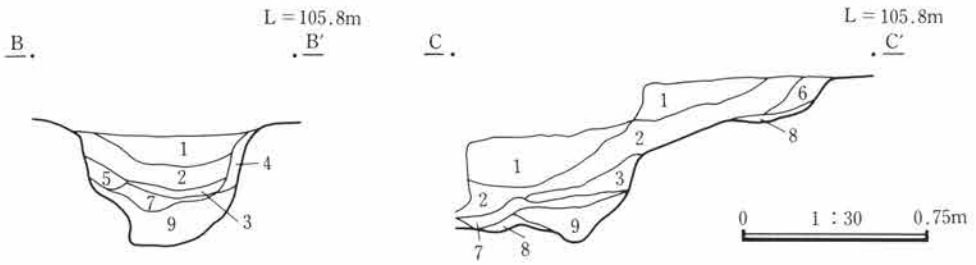
2区J-16グリッドに位置し、2区31・33・34号住居跡と重複する。34号住居跡との新旧関係は不明であるが、当住居跡上に31号住居跡の床が構築されていることから、当住居跡が古いと考えられる。また、33号住居跡との関係は直接的には不明であるが、33号住居跡が31号住居跡より新しいことから、当住居跡が古いと考えられる。平面形は長方形を呈し、規模は3.0m×3.5mである。残存壁高は8cm～33cmである。主軸方位はN-14.5°-Eである。柱穴・壁溝は確認されない。貯蔵穴は東壁南隅に位置し、深さは約30cmである。貯蔵穴の東際からは灰釉陶器碗(712)、貯蔵穴の西からは須恵器皿(711)が出土している。特殊遺物としては、埋土内から石製の巡方もしくは鉞尾の破片(713)が出土している。

竈は東壁南側に構築され、やや角張った燃焼部を壁外に設けている。煙道は、燃焼部から40cm程張り出している。



第101図 2区47号住居跡

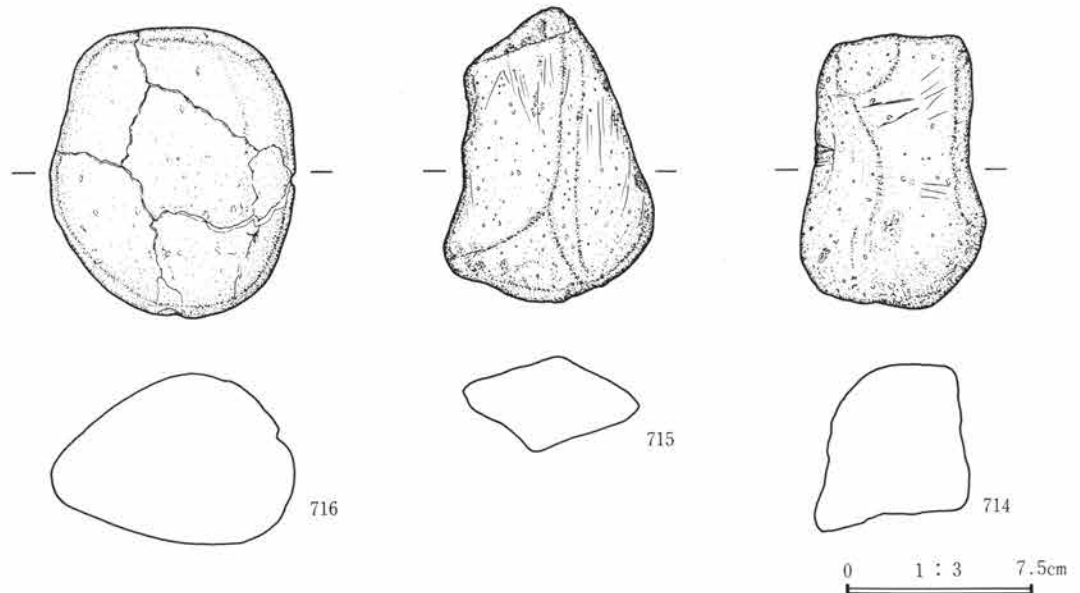
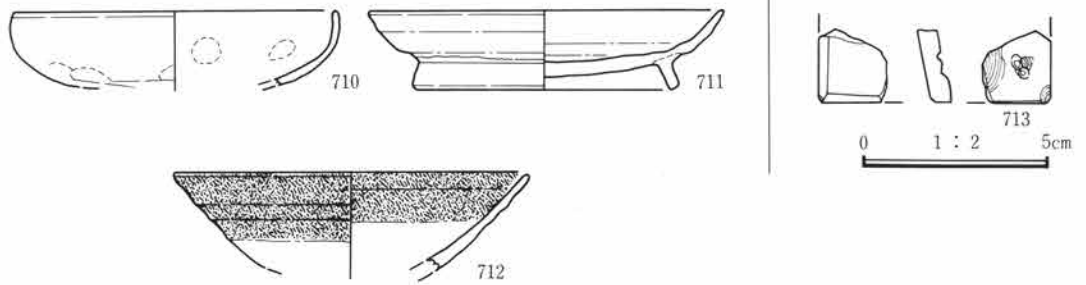
第IV章 発見された遺構と遺物



2区47号住居跡竈

- |                             |                                 |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 1 灰褐色土層：暗褐色土及び黄褐色土小ブロックを含む。 | 6 褐色土層：暗褐色土・焼土・灰を含む。            |
| 2 明褐色土層：焼土・褐色土を含む。          | 7 灰と焼土の混合。                      |
| 3 灰層。                       | 8 暗褐色粘質土層：黄褐色土小ブロックを含む。         |
| 4 明褐色土層：褐色土を含む。             | 9 明褐色粘質土層：褐色土・粘性土及び黒色土小ブロックを含む。 |
| 5 暗灰褐色土層：焼土・灰を含む。           |                                 |

第102図 2区47号住居跡竈断面



第103図 2区47号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0710	杯 土師器	器高：(30mm) 口径：[128mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は内湾する。外面：口縁部～胴部は横なで、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部上半は横なで、一部指頭痕が残る。	
0711	皿 須恵器	器高：32mm 口径：[142mm] 底径：106mm 口縁部～高台部 $\frac{2}{3}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰・灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	内面の口縁部～胴部に自然釉。
0712	椀 灰釉陶器	器高：(37mm) 口径：[142mm] 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	内外面共に口縁部～胴部上半に施釉。
0713	石製鈴帯 巡方	長：(19mm) 幅：(18mm) 厚：6mm 重：3.4g	黒耀石。	表は表面・側面共に丁寧に擦られており、平になっている。裏面は取り付け用の孔が穿けられている。	
0714	用途不明 石製品	長：107mm 幅：76mm 厚：64mm 重：601.9g	粗粒安山岩。	一部金属による擦痕がある。	
0715	用途不明 石製品	長：116mm 幅：78mm 厚：42mm 重：363.1g	粗粒安山岩。	一部金属による擦痕があり、擦れている。	
0716	用途不明 石製品	長：115mm 幅：96mm 厚：68mm 重：859.4g	粗粒安山岩。	周囲が擦れている。	

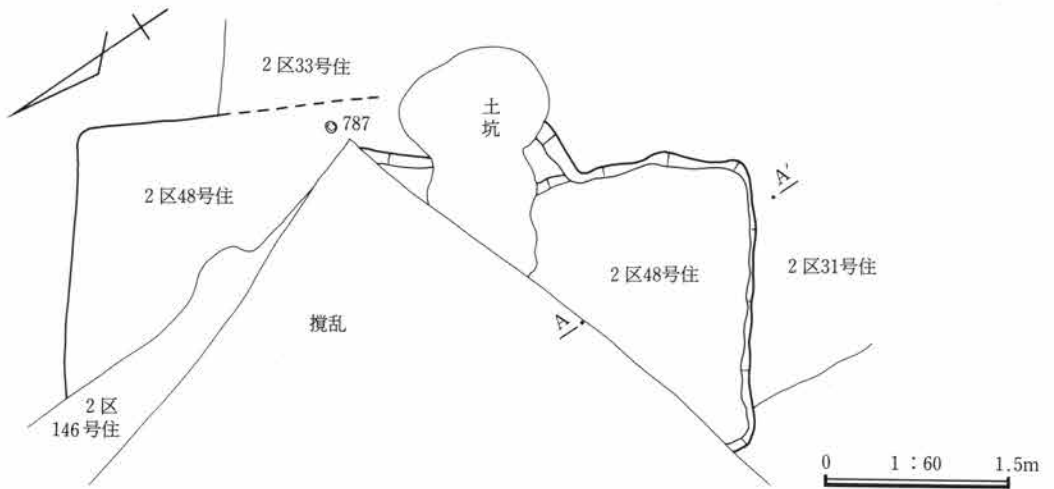
## 2区48号住居跡

2区K-17グリッドに位置し、2区31・33・146号住居跡、2区1号溝と重複する。新旧関係は、31号住居跡の床面が当住居跡上に構築されており、当住居跡が古いと判断される。33号住居跡との関係は、33号住居跡より31号住居跡が古いことから、当住居跡が古いと判断される。146号住居跡との関係は、重複部分が床面のみの確認であったが、当住居跡の方が新しいと考えられる。住居跡の南半と北半では調査時期が異なるうえ、中間が攪乱で検出できないため、平面形・規模・主軸方位は不明である。側道部分は床面のみの確認であるが、本線部分の残存壁高は6cm～11cmである。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。

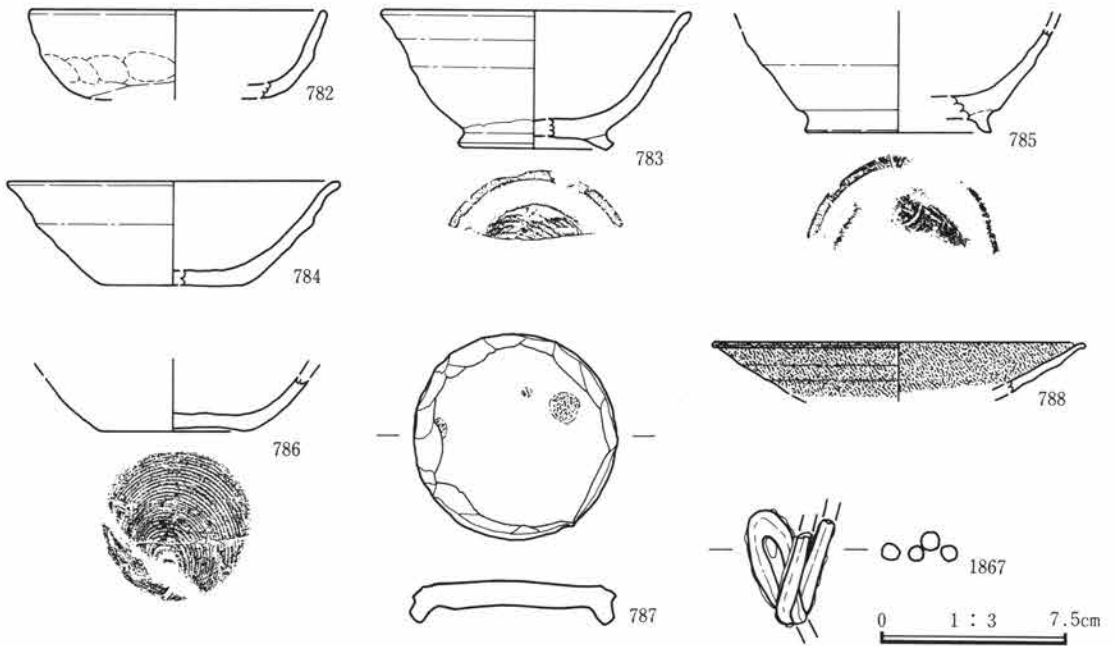
竈部分には2基の土坑が存在し、竈は確認できなかった。



第104図 2区48号住居跡エレベーション



第105図 2区48号住居跡



第106図 2区48号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0782	杯 土師器	器高:(35mm)口径:[116mm]底径:一口縁部~底部上端迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部~口縁部は直線的にやや広がる。外面:口縁部~胴部は横なで、胴部に一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面:口縁部~底部上端は横なで。	内外面に油煙付着。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0783	椀 須恵器	器高：54mm 口径：[122mm] 底径：[58mm] 口縁部～高 台部迄	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、 口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴 部は回転で、底部は回転糸切り後高台貼 り付け。内面：口縁部～底部は回転で。	
0784	杯 須恵器	器高：41mm 口径：[132mm] 底径：[60mm] 口縁部～底 部迄	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつ つ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口 縁部～胴部は回転で、底部はなで。内面： 口縁部～底部は回転で。	外面に油煙付着。 二次炎を受けてい る。
0785	椀 須恵器?	器高：(40mm) 口径：一 底 径：74mm 胴部～高台部迄	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。鈍い橙。	轆轤整形。胴部はやや内湾しつ つ広がる。外面：胴部は回転で、底部は高台貼 り付け後で。内面：胴部～底部は回転で。	内外面共に燻し。
0786	杯 須恵器	器高：(21mm) 口径：一 底 径：60mm 胴部下半～底部 迄	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転 で、底部は回転糸切り。内面：胴部下半 ～底部は回転で。	
0787	椀 灰釉陶器	器高：(17mm) 口径：一 底 径：80mm 底部～高台部迄	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	轆轤整形。外面：底部は高台貼 り付け後で。内面：底部は回転で。底部の周囲が 丁寧に打ち欠いてある。	底部に油煙又は墨 の付着あり。硯へ の転用形態か？。
0788	椀 灰釉陶器	器高：(20mm) 口径：[148 mm] 底径：一 口縁部～胴 部迄	細砂粒を含む。還元。 やや硬質。灰白。	轆轤整形。口縁端部は僅かに外反。内外面 共に口縁部～胴部は回転で。	内外面共に口縁部 ～胴部に施釉。
1867	? 鉄製品	直径：6～7mm		断面円形の鉄棒を折り曲げている。用途不 明。	

## 2区49号住居跡

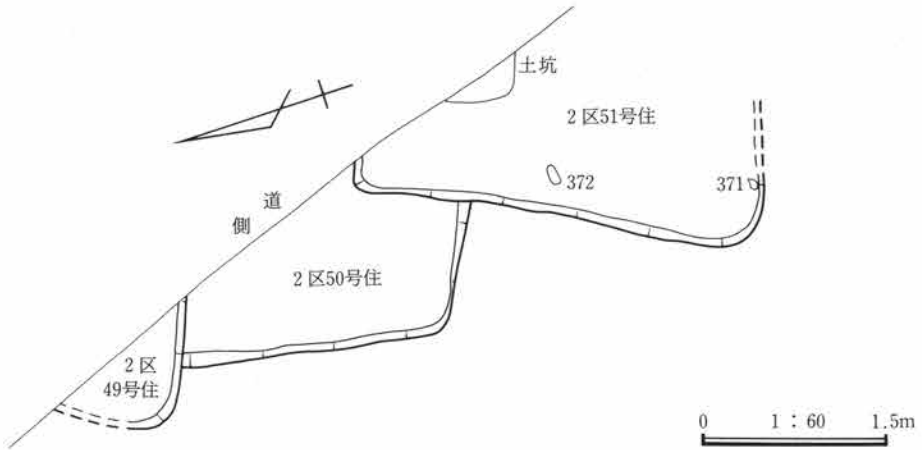
2区K-12グリッドに位置し、2区50号住居跡と重複する。新旧関係は、断面写真から50号住居跡より新しいと判断される。南壁のごく一部が検出されたのみであり、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は10cm程である。なお、当住居跡は側道調査時には確認できなかった。

## 2区50号住居跡

2区K-10グリッドに位置し、2区49・51号住居跡、2区10号土坑と重複する。新旧関係は49号住居跡より古い、51号住居跡と10号土坑との関係は不明である。南西隅のみの確認であり、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は7cm～9cmである。柱穴・壁溝は検出されない。なお、当住居跡は側道調査時には確認できなかった。

2区51号住居跡

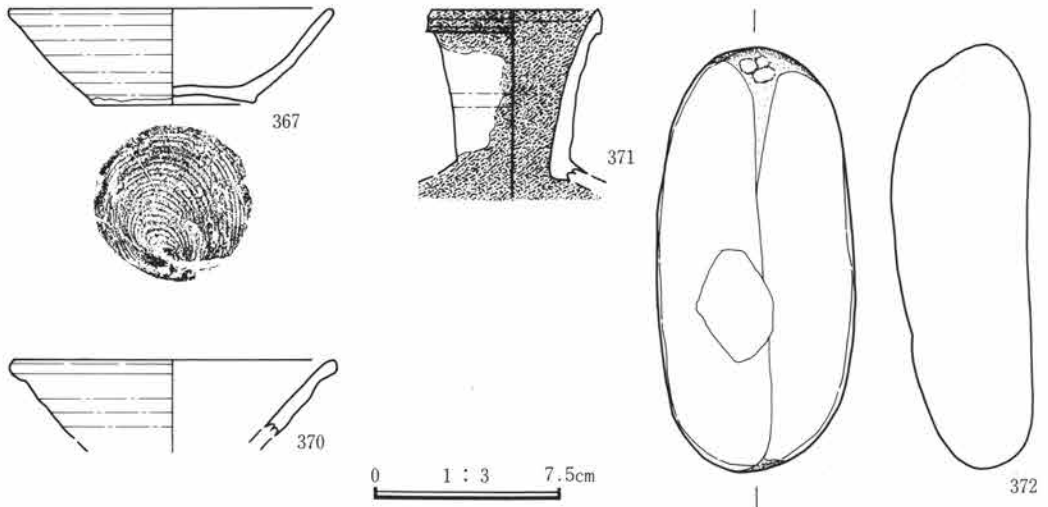
2区K-11グリッドに位置し、2区50・61号住居跡、2区10号土坑と重複する。新旧関係はすべて不明である。西壁のみの確認であるため、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は30cm程である。柱穴・壁溝・竈は検出されない。なお、当住居跡は側道調査時には確認できなかった。



第107図 2区49・50・51号住居跡



第108図 2区49号住居跡出土遺物



第109図 2区51号住居跡出土遺物

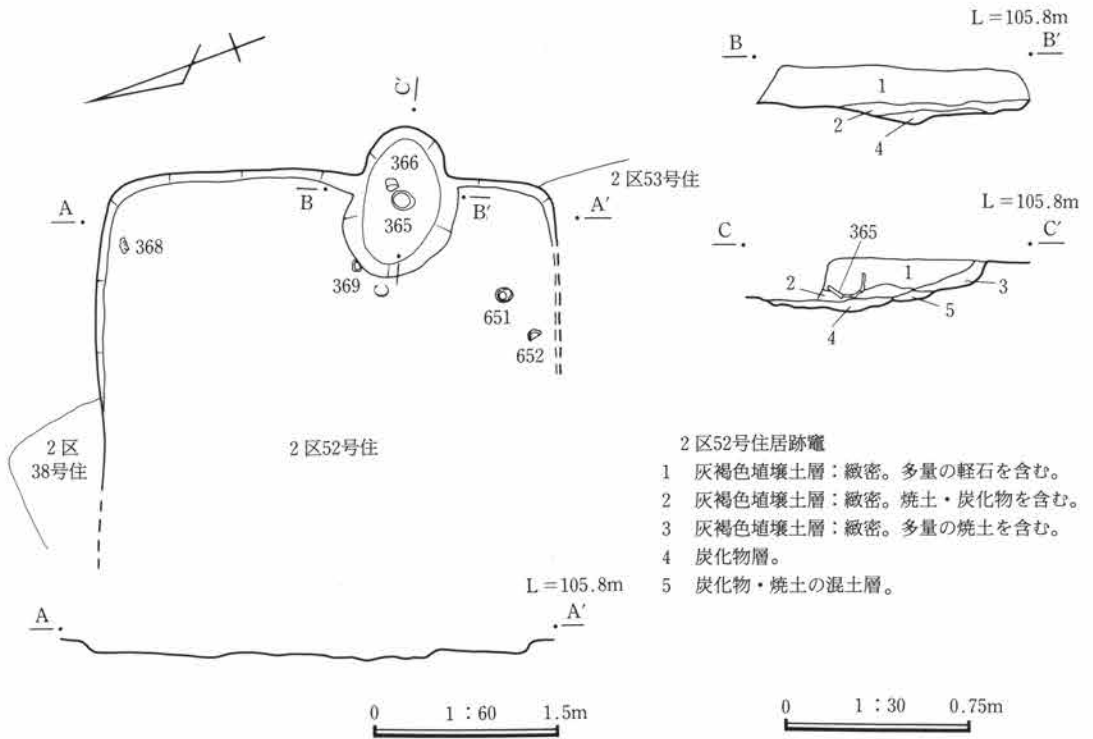
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0844	杯 土師器	器高：(36mm) 口径：[120mm] 底径：— 口縁部～胴部迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部上半は横なで、胴部下半は寛削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施す。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0367	杯 須恵器	器高：38mm 口径：128mm 底径：64mm 口縁部～底部迄	径3～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0370	杯 須恵器	器高：(30mm) 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～胴部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	胴部～口縁部は内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	
0371	長頸壺 灰釉陶器	器高：(66mm) 口径：[68mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1mm前後の砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・淡黄。	轆轤整形。口縁端部は外縁帯を持つ。頸部及び口縁端部に沈線2条。頸部下端には胴部との接合痕が残る。内外面共に口縁部～頸部は回転なで。	外面口縁部～胴部上端及び内面頸部に施釉。
0372	薦石	長：167mm 幅：76mm 厚：55mm 重：1141.7g	粗粒安山岩。	両端が一部割れている。叩いた痕跡か？	

## 2区52号住居跡

2区K-13グリッドに位置し、2区38・53・138号住居跡と重複する。53号住居跡との新旧関係は、断面写真から当住居跡が新しいと判断した。また、138号住居跡は当住居跡の下から検出されていることから、当住居跡が新しいと考えられる。38号住居跡との関係は不明であるが、38号住居跡が先行して調査されていることから当住居跡が古いと考えられる。東壁と北壁が確認されたのみであり、平面形・規模は不明である。主軸方位はN-21°-Eで、残存壁高は4cm～14cmである。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認できない。北東隅からは須恵器碗(368)、南壁付近からも須恵器碗(651・652)が出土している。なお、南東隅からは完形に近い土師器甕が出土しているが、所在不明のため図示しえなかった。この土師器甕は、斜めではあるが口縁部を上にしており、貯蔵穴が存在した可能性が高い。

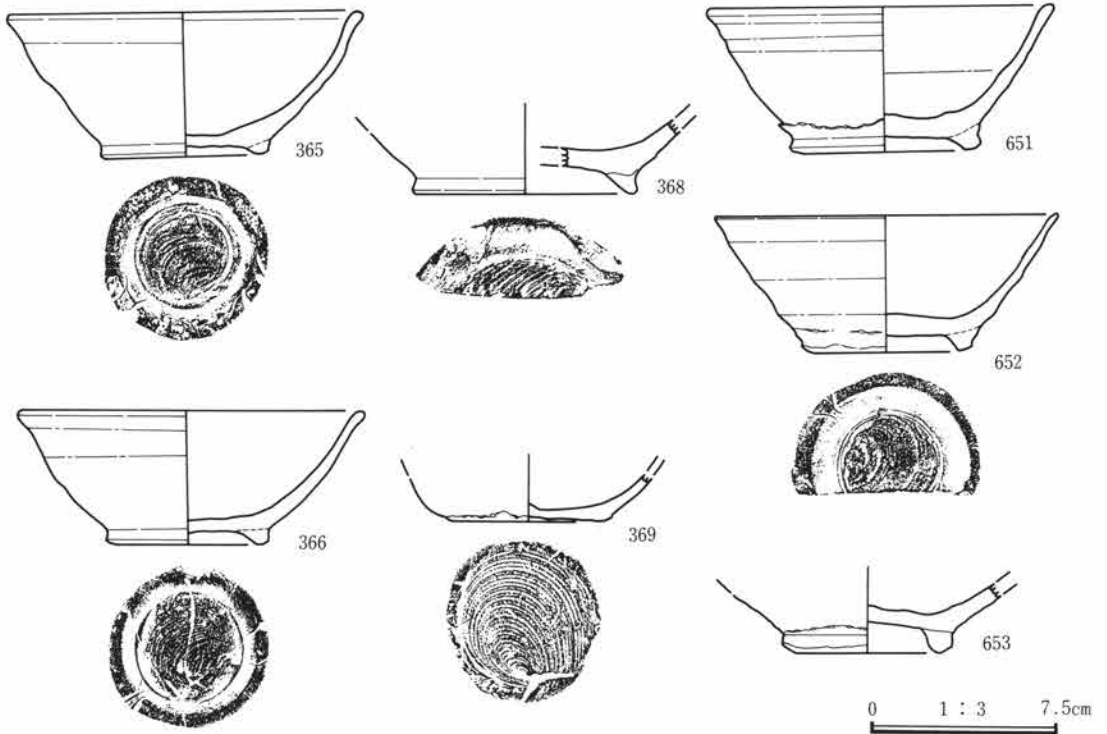
竈は東壁南側に構築されている。竈内からは、須恵器碗(365・366)が出土している。



2区52号住居跡竈

- 1 灰褐色埴壤土層：緻密。多量の軽石を含む。
- 2 灰褐色埴壤土層：緻密。焼土・炭化物を含む。
- 3 灰褐色埴壤土層：緻密。多量の焼土を含む。
- 4 炭化物層。
- 5 炭化物・焼土の混土層。

第110図 2区2号住居跡



第111図 2区52号住居跡出土遺物

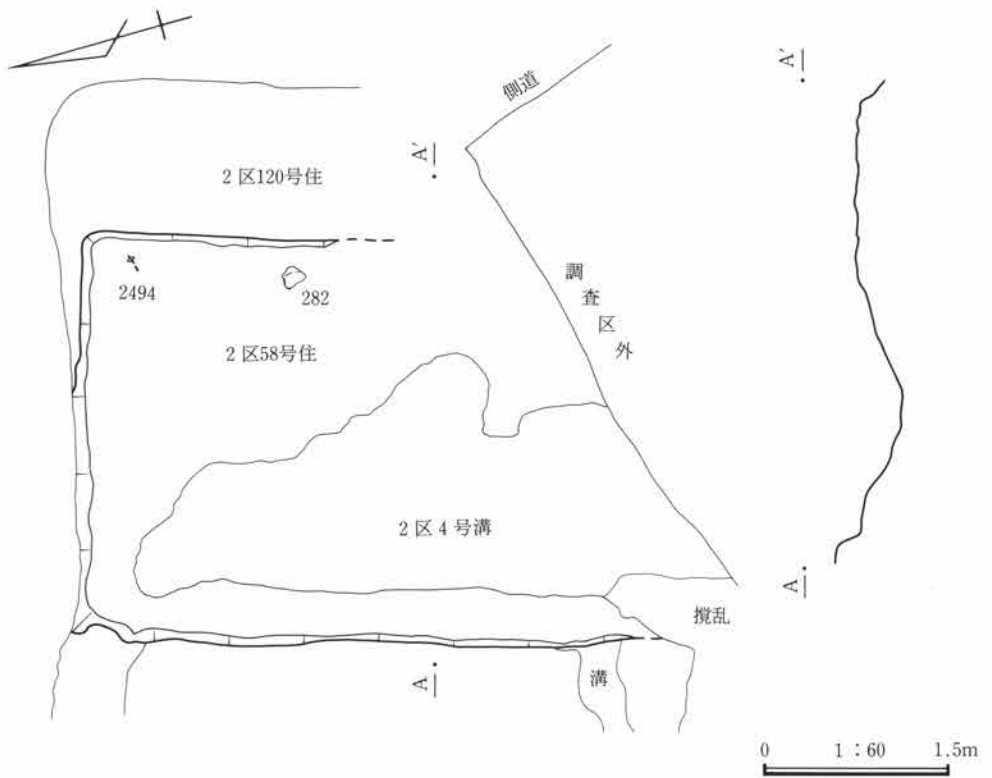


番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0365	椀 須恵器	器高：58mm 口径：145mm 底径：66mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回 転糸切り後、高台貼り付け。内面：口縁部 ～底部は回転で。	
0366	椀 須恵器	器高：28mm 口径：[138mm] 底径：63mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回 転糸切り後、高台貼り付け。内面：口縁部 ～底部は回転で。	内外面に油煙付 着。
0368	椀 須恵器	器高：(29mm) 口径：— 底 径：[78mm] 胴部下半～高 台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。回転。硬 質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転で、底 部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面： 胴部下半～底部は回転で。	
0369	杯 須恵器	器高：(19mm) 口径：— 底 径：67mm 胴部下端～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。やや硬質。 灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転 で、底部は回転糸切り。内面：胴部下端 ～底部は回転で。	外面に油煙付着。
0651	椀 須恵器	器高：58mm 口径：138mm 底径：76mm 完形	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつ つ広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、 底部は高台貼り付け後で。内面：口縁部 ～底部は回転で。	
0652	椀 須恵器	器高：54mm 口径：[136mm] 底径：70mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。軟質。灰白・鈍い 赤褐色。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は 回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付 け。内面：口縁部～底部は回転で。	内外面に油煙付 着。
0653	椀 須恵器	器高：(27mm) 口径：— 底 径：[64mm] 胴部下半～高 台部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。やや硬質。灰白・ 橙。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転で、底 部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴 部下半～底部は回転で。	内外面に油煙付 着。

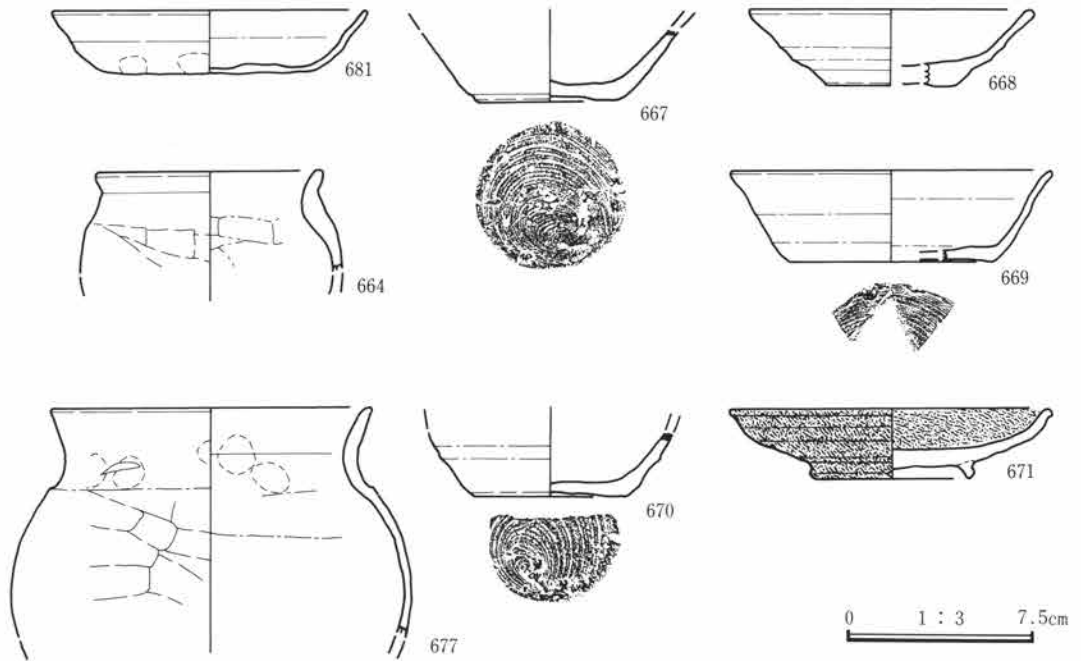
## 2区58号住居跡

2区K-09グリッドに位置し、2区120・145号住居跡、2区4号溝と重複する。新旧関係は、120号住居跡の床下に当住居跡が構築されていることから当住居跡が古いと考えられる。また、4号溝との関係は、セクションから当住居跡が古いことが確認できる。また、145号住居跡との関係は、当住居跡の方が新しい。南壁は調査区外のため確認できず、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は6cm～30cmである。東半の床は遺存が悪く、南東壁も検出できなかった。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認できない。北東隅からは、鉄製の紡錘車(2494)が出土している。

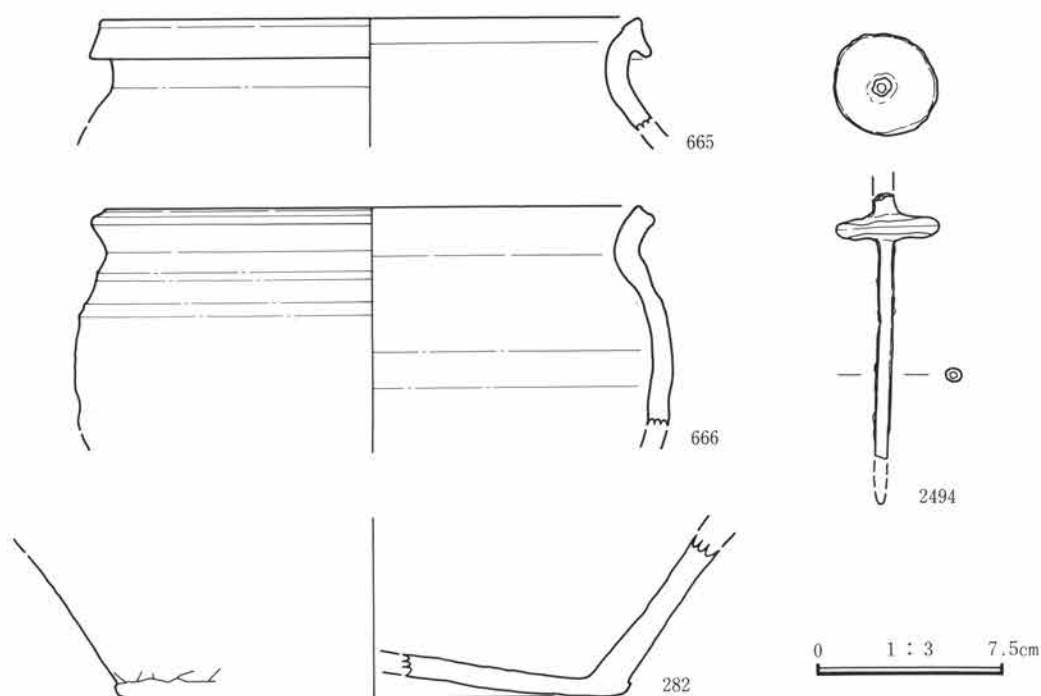
竈は、調査区外か南東の遺存が悪い部分に存在したと考えられる。



第112図 2区58号住居跡



第113図 2区58号住居跡出土遺物①



第114図 2区58号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0282	甕 須恵器	器高:(63mm) 口径:— 底径:[204mm] 胴部下端～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	内外面共に胴部下端は叩き後などで、一部叩き目が残り、底部はなで。	
0664	甕 土師器	器高:(40mm) 口径:[92mm] 底径:— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面:口縁部は横なで、胴部上半は篋削り。内面:口縁部は横なで、胴部上半は篋なで。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0665	甕 須恵器	器高:(45mm) 口径:[216mm] 底径:— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	轆轤整形。口縁部は「く」字状に外反し、口縁端部は外縁帯を持つ。内外面共に口縁部～胴部上端は回転なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0666	甕 須恵器	器高:(86mm) 口径:[214mm] 底径:— 最大径:[239mm] 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰・鈍い黄橙。	轆轤整形。口縁部は「く」字状に外反。最大径は胴部上半。内外面共に口縁部～胴部上半は回転なで。	外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0667	杯 須恵器	器高:(27mm) 口径:— 底径:59mm 胴部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面:胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面:胴部～底部は回転なで。	
0668	杯 須恵器	器高:(30mm) 口径:[114mm] 底径:[52mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面:口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り後なで。内面:口縁部～底部は回転なで。	内外面に油煙付着。

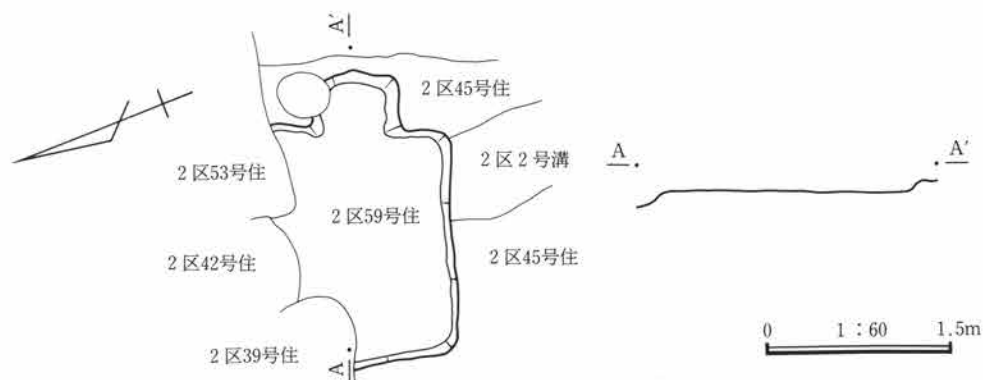
第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0669	杯 須恵器	器高：(36mm) 口径：[128mm] 底径：[82mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。灰白・浅黄。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0670	杯 須恵器	器高：(25mm) 口径：— 底径：[60mm] 胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り。内面：胴部下半～底部は回転なで。	
0671	皿 灰釉陶器	器高：28mm 口径：130mm 底径：65mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び細砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0677	甕 土師器	器高：(90mm) 口径：[126mm] 底径：— 最大径：[160mm] 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。明赤褐。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上半は篋削り。内面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上半はなで。	内外面に油煙付着。
0681	杯 土師器	器高：25mm 口径：[126mm] 底径：[84mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部下端に不明瞭な段を持つ。口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
2494	紡錘車 鉄製品	長：(105mm) 直径：円板40mm・軸6mm 厚：円8mm		軸の中は空洞。円板は鉄板を折り重ねて製造。	

2区59号住居跡

2区L-12グリッドに位置し、2区39・42・45・53号住居跡、2区2号溝と重複する。新旧関係は、いずれも当住居跡が古いと考えられる。壁が確認されたのは南側のみであり、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は9cm～15cmを測る。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。

竈は、東壁南側に構築されている。



第115図 2区59号住居跡

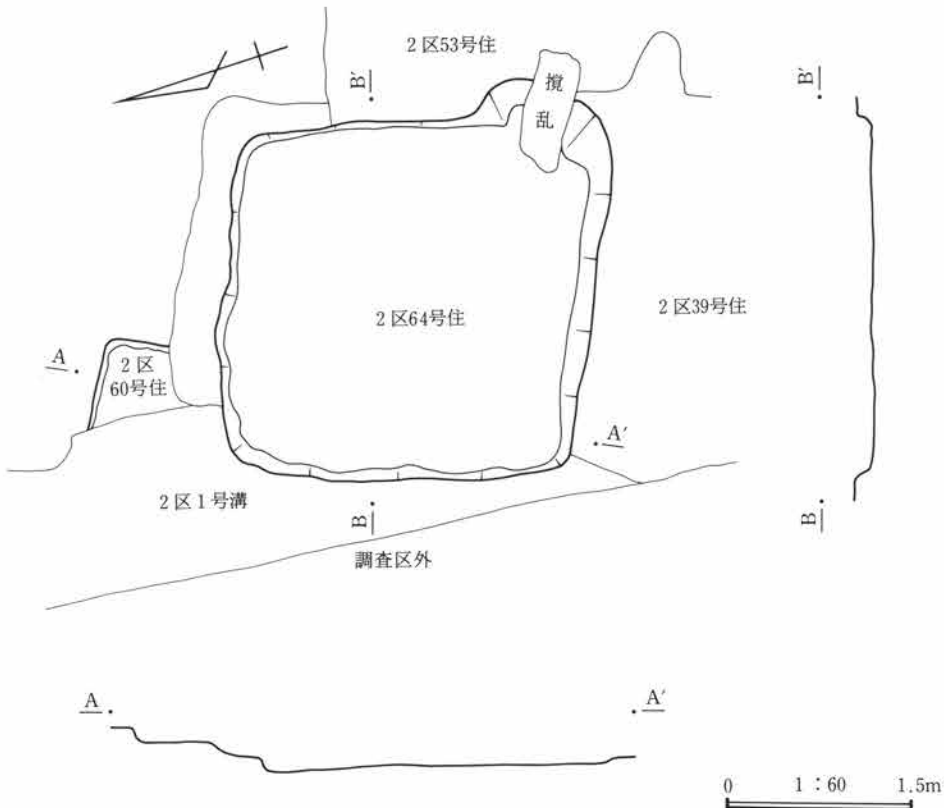
## 2区60号住居跡

2区L-14グリッドに位置し、2区37・39号住居跡、2区1号溝と重複する。新旧関係は、37・39号住居跡調査後に確認されていることから、当住居跡が古いと考えられる。また、1号溝との関係は不明である。当住居跡は北東隅のみの確認であり、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は14cm前後である。柱穴・壁溝・貯蔵穴・竈は確認できない。

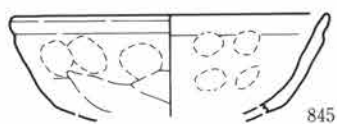
## 2区64号住居跡

2区L-13グリッドに位置し、2区39・40・42・53号住居跡、2区1号溝と重複する。新旧関係は、各住居跡調査後に検出されたことから、当住居跡が古いと考えられる。1号溝との関係は不明である。当住居跡は、重複が多いものの床面が深く、東壁の一部を除いて壁を検出することができた。平面形は隅丸方形を呈し、規模は2.94m×2.8mを測る。主軸方位はN-10.5°-Eを示し、残存壁高は10cm～19cmである。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。遺物は、南東隅から須恵器杯(535)が出土し、埋土内からは鉄滓(1903・1904)が出土している。

竈は東壁南側に構築され、南半は攪乱により破壊されている。

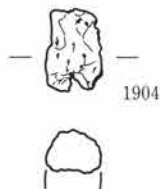
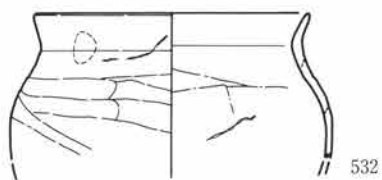
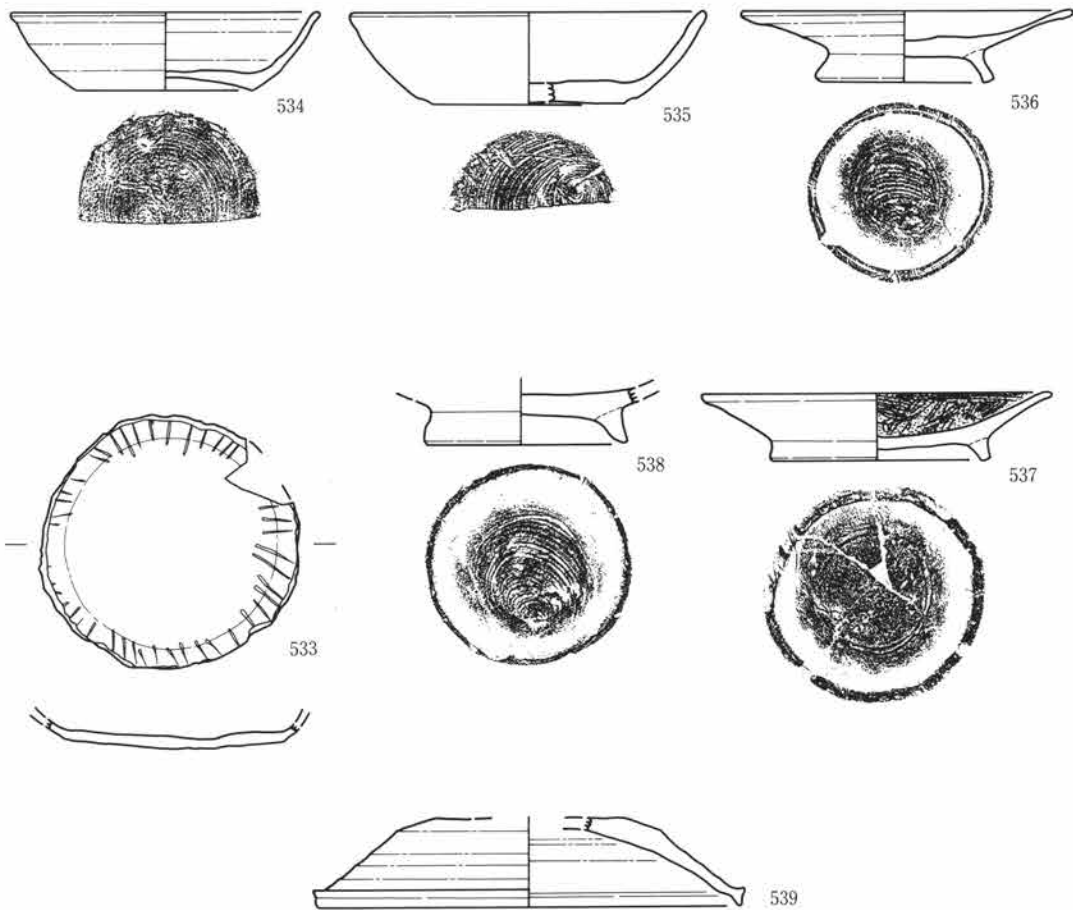


第116図 2区60・64号住居跡



0 1 : 3 7.5cm

第117図 2区60号住居跡出土遺物



0 1 : 3 7.5cm

第118図 2区64号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0845	杯 土師器	器高：(39mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部上半には指頭痕が残り、胴部下半～底部上端は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0532	甕 土師器	器高：(57mm) 口径：[110mm] 底径：— 最大径：[128mm] 口縁部～胴部上半 $\frac{3}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上半は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上半はなで。	
0533	杯 土師器	器高：(12mm) 口径：— 底径：87mm 胴部下端～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	外面：胴部下端～底部は篋削り。内面：胴部下端は横なで、底部はなで。	内面一部に油煙付着。
0534	杯 須恵器	器高：31mm 口径：[124mm] 底径：70mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に自然釉。
0535	杯 須恵器	器高：36mm 口径：[142mm] 底径：[78mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面口縁部に一部油煙付着。
0536	皿 須恵器	器高：28mm 口径：132mm 底径：72mm 口縁部～高台部 $\frac{3}{4}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0537	皿 須恵器?	器高：27mm 口径：141mm 底径：88mm 口縁部～高台部 $\frac{3}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。淡黄。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：口縁部～底部はなで。	内黒。
0538	椀 須恵器	器高：(23mm) 口径：— 底径：83mm 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・浅黄橙。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転なで。	
0539	蓋 須恵器	器高：(35mm) 口径：[170mm] つまみ径：— 天井部～口縁部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	返りは短い。外面：天井部上半は回転篋削り、天井部下半～口縁部は回転なで。内面：天井部～口縁部は回転なで。	外面天井部に一部油煙付着。
1903	鉄 滓			鉄分を含む。	
1904	鉄 滓			鉄分を含む。	

2区61号住居跡

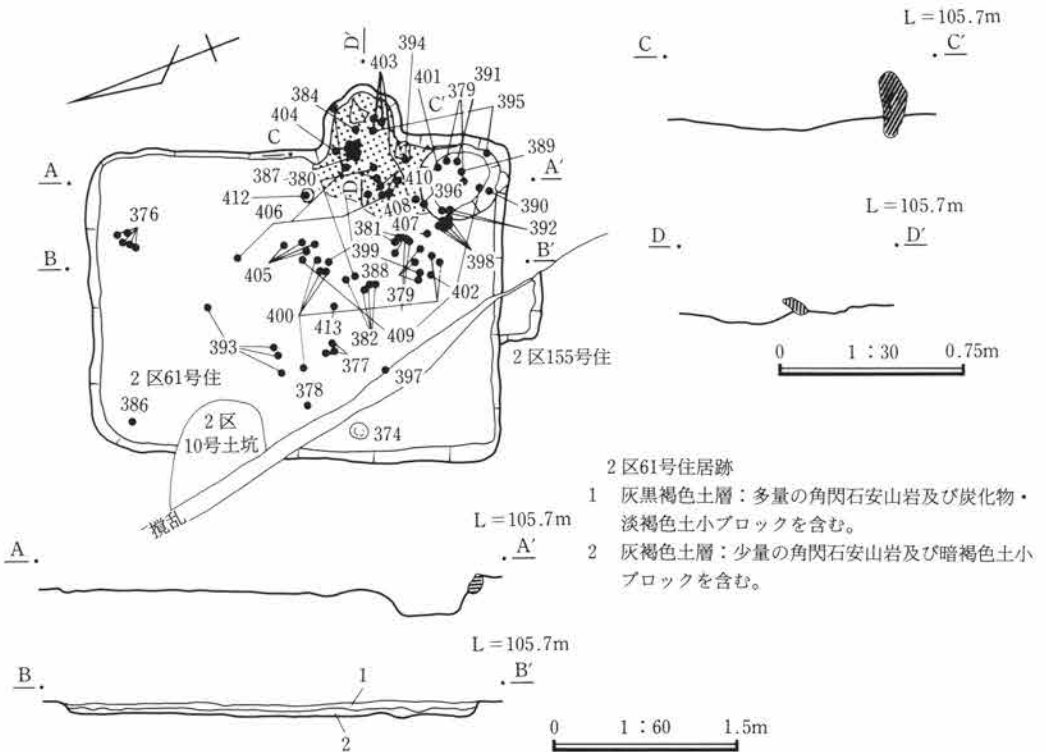
2区J-10グリッドに位置し、2区51・155号住居跡、2区10・27号土坑と重複する。住居跡との新旧関係は不明であるが、10号土坑より古く、27号土坑より新しい。南西隅とその他の部分では調査時期が異なるが、両者の間に若干未調査部分があったのみで図面は良く一致している。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は2.39m×3.3mである。主軸方位はN-13.5°-Eを示し、残存壁高は1cm~20cmである。柱穴・壁溝は確認されない。貯蔵穴は南東隅に位置し、深さは16cmである。貯蔵穴内からは、須恵器杯が5個体(389・391・392・395・396)と須恵器皿1個体(401)が出土している。当住居跡出土遺物は多く、いずれも竈付近に集中している。

竈は東壁南側に位置し、燃烧部は壁外に設ける。竈右側には袖石が残存している。竈前面には灰が分布している。

掘形は、竈前部分を高く残し、周辺を深く掘り込んでいる。

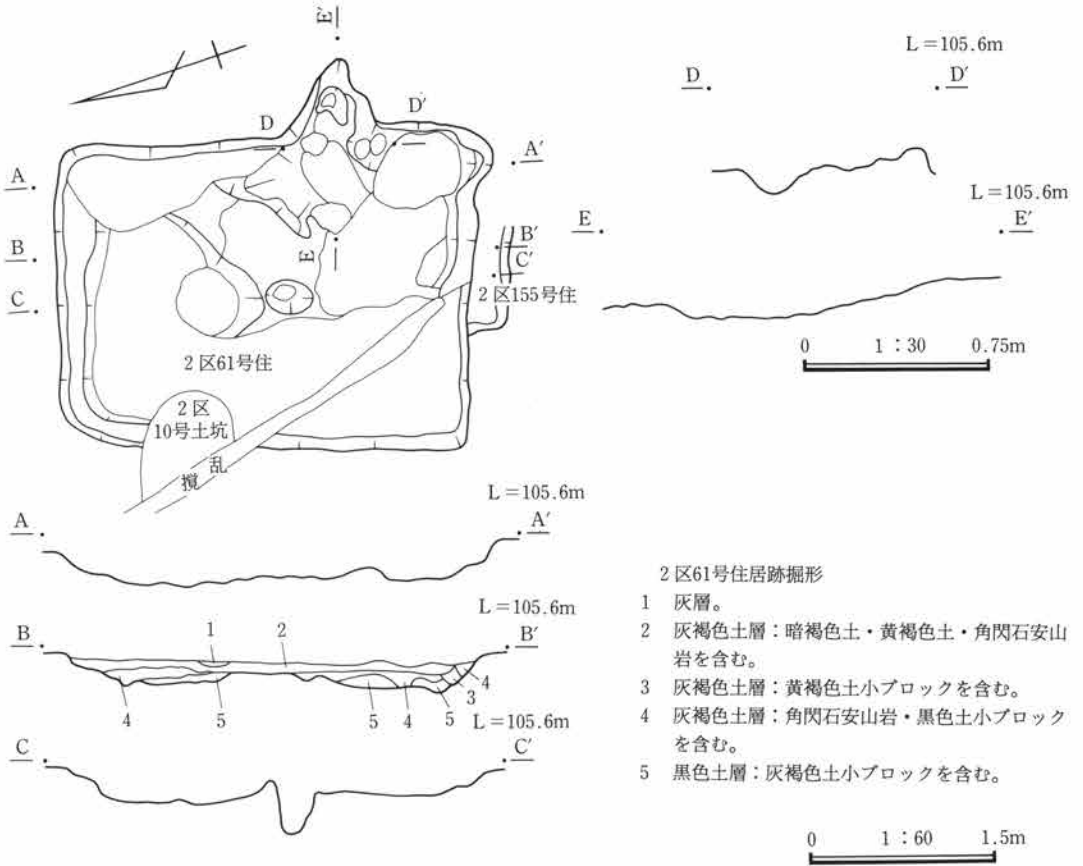
2区155号住居跡

2区K-10グリッドに位置し、2区61号住居跡と重複する。新旧関係は確認できない。南西隅が一部確認されたのみであり、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は8cm程である。側道調査時には確認できなかった。

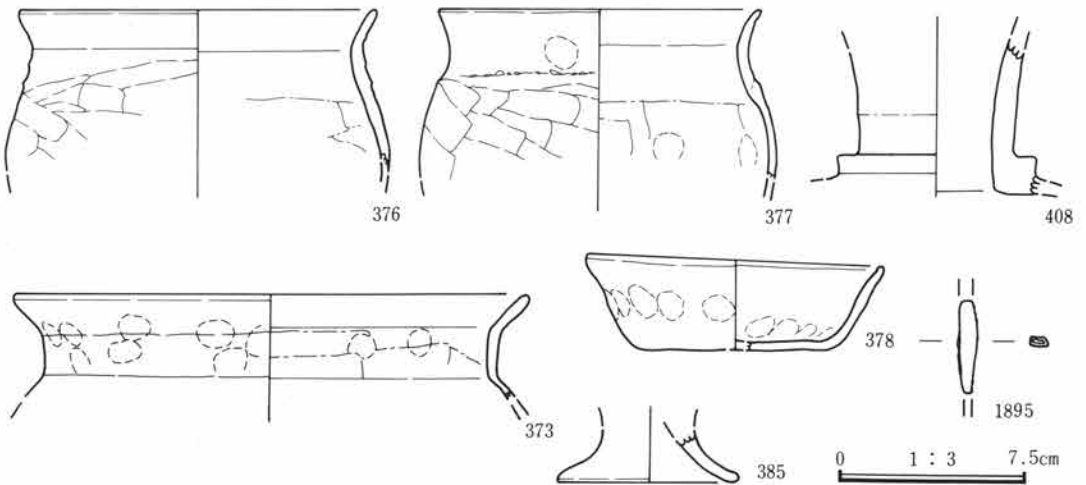


第119図 2区61・155号住居跡

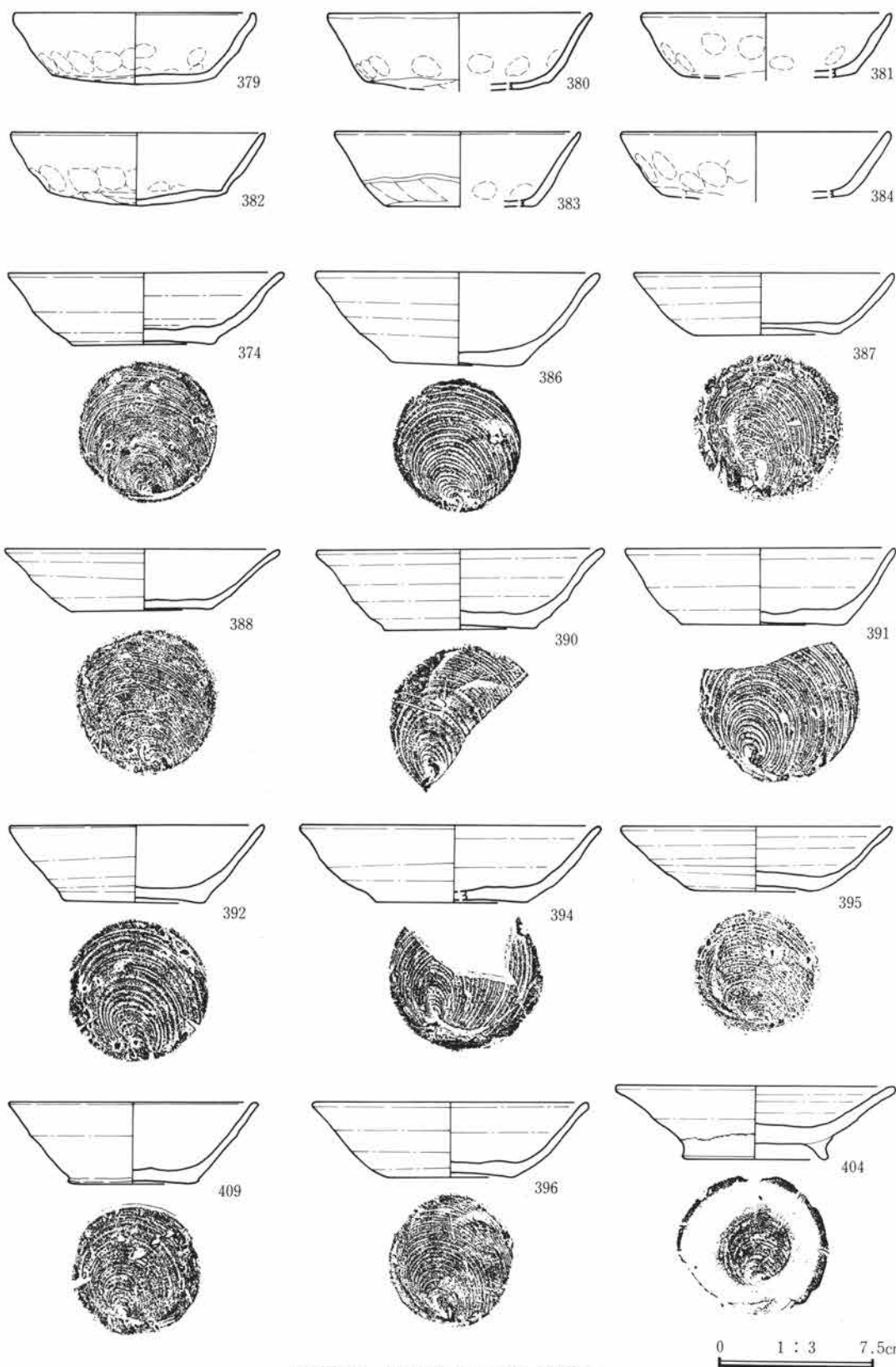




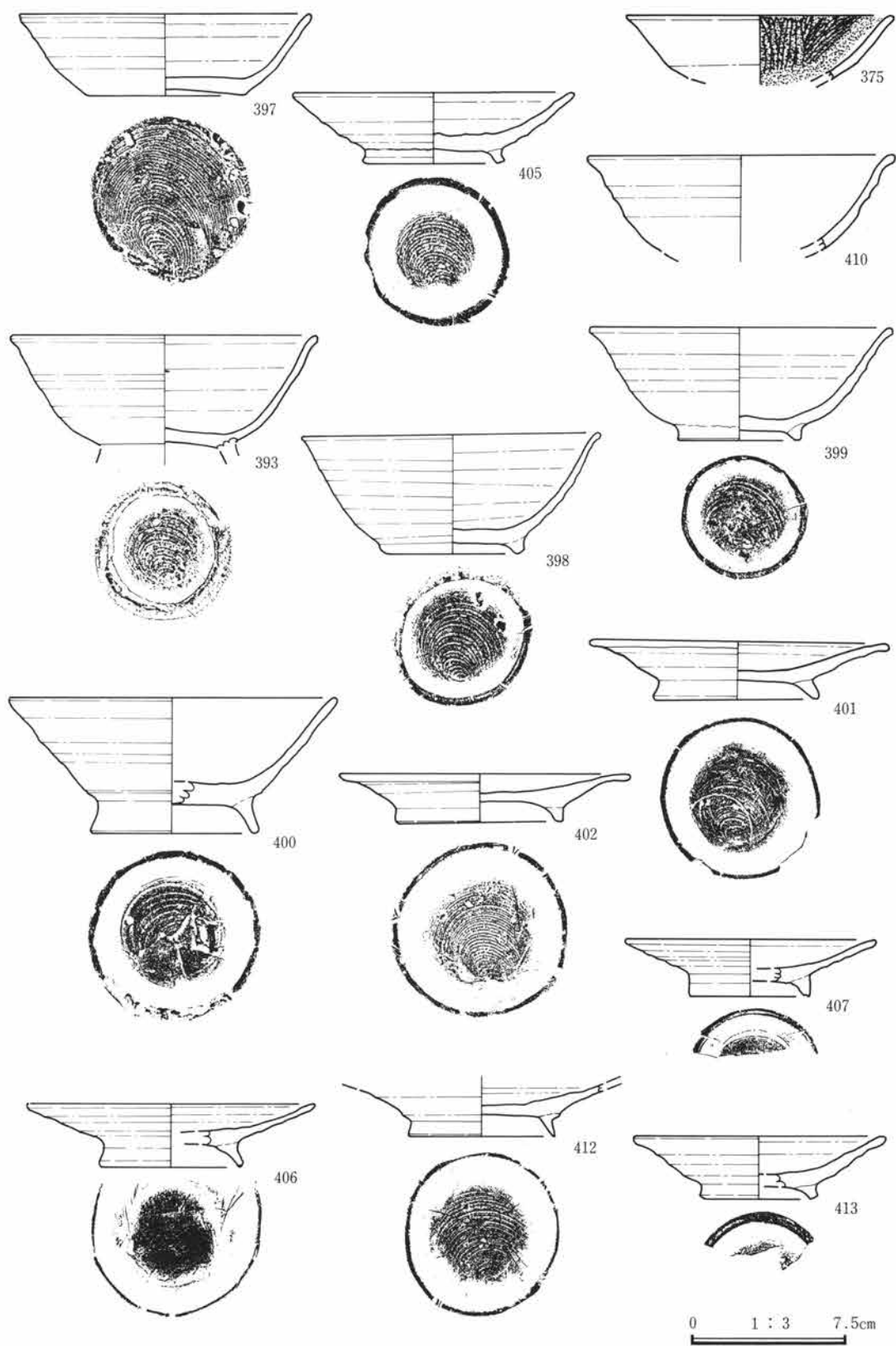
第120図 2区61・155号住居跡掘形



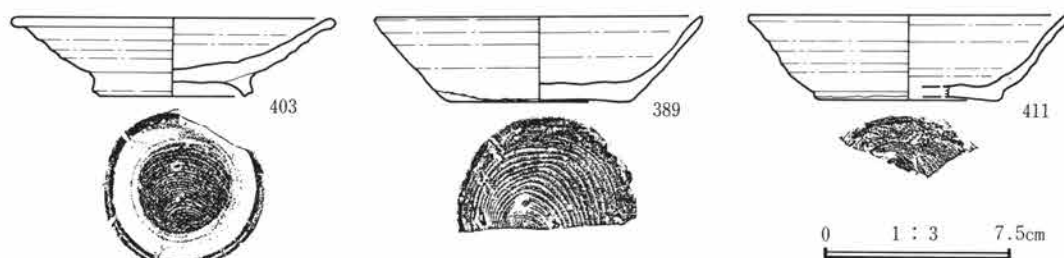
第121図 2区61区①号住居跡出土遺物



第122図 2区61号住居跡出土遺物②



第123图 2区61号住居跡出土遺物③



第124図 2区61号住居跡出土遺物④

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0373	甕 土師器	器高：(41mm) 口径：[206mm] 底径：— 口縁部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。明黄褐色。	口縁部は「コ」字状に外反。内外面共に口縁部は横なで。	内面に油煙付着。
0374	杯 須恵器	器高：34mm 口径：130mm 底径：68mm 完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0375	碗 須恵器?	器高：(31mm) 口径：[128mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。淡黄。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで。内面：口縁部～胴部は回転なで後篋磨き。	内黒。
0376	甕 土師器	器高：(63mm) 口径：[142mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内面に油煙付着。
0377	甕 土師器	器高：(66mm) 口径：[128mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒をやや多量に含む。酸化。やや軟質。明赤褐色。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕・輪積痕が残り、胴部上半は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上半は篋なで、一部指頭痕が残る。	内外面にやや多量の油煙付着。
0378	杯 土師器	器高：43mm 口径：120mm 底径：80mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部はやや外反。外面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0379	杯 土師器	器高：33mm 口径：[116mm] 底径：76mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0380	杯 土師器	器高：(37mm) 口径：127mm 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	外面に一部油煙が付着。
0381	杯 土師器	器高：(30mm) 口径：[120mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部上端は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0382	杯 土器	器高：34mm 口径：[122mm] 底径：— 口縁部～底部%	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残る。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る、底部はなで。	
0383	杯 土器	器高：(36mm) 口径：118mm 底径：[74mm] 口縁部～底部上端%	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部上半は横なで、胴部下半～底部上端は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	
0384	杯 土器	器高：(31mm) 口径：[130mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部上端%	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。明赤褐。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残る、底部上端は篋削り。内面：口縁部～胴部上端は横なで。	
0385	台付甕 土器	器高：(20mm) 口径：— 底径：71mm 脚部%	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	脚部は「ハ」字状に開く。内外面共に脚部は横なで。	内外面に油煙付着。
0386	杯 須恵器	器高：45mm 口径：137mm 底径：64mm 完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。軟質。灰白・淡黄。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に油煙付着。
0387	杯 須恵器	器高：30mm 口径：125mm 底径：70mm 口縁部～底部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内面にやや多量の油煙付着。
0388	杯 須恵器	器高：30mm 口径：132mm 底径：69mm 口縁部～底部%	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0389	杯 須恵器	器高：34mm 口径：[130mm] 底径：71mm 口縁部～底部%	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0390	杯 須恵器	器高：39mm 口径：[138mm] 底径：75mm 口縁部～底部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。底部～胴部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面は燻し。
0391	杯 須恵器	器高：37mm 口径：130mm 底径：77mm 口縁部～底部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰・鈍い黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0392	杯 須恵器	器高：38mm 口径：123mm 底径：68mm 口縁部～底部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面共に一部燻し。

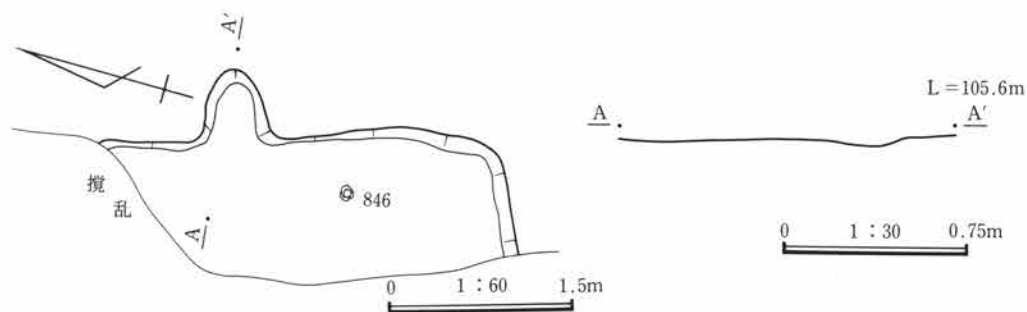
第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0393	碗 須恵器	器高：(54mm) 口径：[148mm] 底径：一 口縁部～底部%	径1～2mmの小石及び砂粒をやや多量に含む。やや硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転まで。	
0394	杯 須恵器	器高：37mm 口径：[144mm] 底径：73mm 口縁部～底部%	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。灰白・鈍い黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0395	杯 須恵器	器高：31mm 口径：[130mm] 底径：60mm 口縁部～底部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	
0396	杯 須恵器	器高：35mm 口径：[130mm] 底径：61mm 口縁部～底部%	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	
0397	杯 須恵器	器高：39mm 口径：[142mm] 底径：77mm 口縁部～底部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白・黒。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	内外面共に全面的に燻し。
0398	碗 須恵器	器高：58mm 口径：145mm 底径：67mm 口縁部～高台部%	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転まで。	
0399	碗 須恵器	器高：54mm 口径：[146mm] 底径：59mm 口縁部～高台部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転まで。	内面及び外面の一部燻し。
0400	碗 須恵器	器高：64mm 口径：[158mm] 底径：82mm 口縁部～高台部%	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転まで。	外面の一部燻し。内面に油煙付着。
0401	皿 須恵器	器高：28mm 口径：143mm 底径：79mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転まで。	内外面共に燻し。
0402	皿 須恵器	器高：24mm 口径：141mm 底径：82mm 口縁部～高台部%	径2～3mmの小石及び砂粒をやや多量に含む。還元。硬質。明青灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転まで。	内外面の一部に自然燻。
0403	皿 須恵器	器高：31mm 口径：[130mm] 底径：62mm 口縁部～高台部%	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転まで。	外面に一部油煙付着。

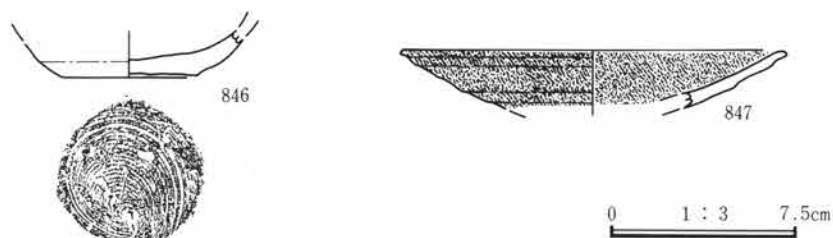
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0404	皿 須恵器	器高：35mm 口径：[134mm] 底径：70mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。硬質。灰白・黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面： 口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切 り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は 回転で。	
0405	皿 須恵器	器高：34mm 口径：[136mm] 底径：68mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。やや軟質。灰白・ 淡黄。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は 回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付 け。内面：口縁部～底部は回転で。	
0406	皿 須恵器	器高：30mm 口径：144mm 底径：[70mm] 口縁部～高 台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び やや多量の砂粒を含 む。還元。やや硬質。 灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回 転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部 ～底部は回転で。	内外面共に口縁部 ～胴部は燻し。
0407	皿 須恵器	器高：27mm 口径：[120mm] 底径：[58mm] 口縁部～高 台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転で、底部は高 台貼り付け後で。内面：口縁部～底部は 回転で。	
0408	長頸壺？ 須恵器	器高：(60mm) 口径：— 底 径：— 頸部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。頸部下端と胴部上端の間に段を 持つ。外面：頸部～胴部上端は回転で。 内面：頸部は回転で、胴部上端はで。	
0409	杯 須恵器	器高：39mm 口径：[120mm] 底径：62mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。軟 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、 底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は 回転で。	外面口縁部～胴 部・内面口縁部 ～底部は燻し。
0410	碗 須恵器	器高：(45mm) 口径：[148 mm] 底径：— 口縁部～胴 部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。軟 質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ 広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共 に口縁部～胴部は回転で。	内外面共に燻し。
0411	杯 須恵器	器高：(33mm) 口径：[126 mm] 底径：[74mm] 口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回 転糸切り。内面：口縁部～胴部は回転で。	外面は燻し。
0412	皿 須恵器	器高：(25mm) 口径：— 底 径：71mm 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部は回転で、 底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面： 胴部～底部は回転で。	内外面共に燻し。
0413	皿 須恵器	器高：30mm 口径：[120mm] 底径：[58mm] 口縁部～高 台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回 転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部 ～底部は回転で。	
1895	？ 鉄製品	長：(36mm) 幅：3～7mm 厚：3.5mm		刀子の一部か。鉄板を折り曲げて製造。	

2区62号住居跡

2区O-06グリッドに位置し、2区73号住居跡と重複する。新旧関係は、調査時の所見では当住居跡が新しいとしている。西側の大半は攪乱により破壊されており、平面形・規模は不明である。主軸方位はN-6.0°-Wを示し、残存壁高は5cm~19cmを測る。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認できない。竈は東壁に構築されている。



第125図 2区62号住居跡



第126図 2区62号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0846	杯 須恵器	器高：(19mm) 口径：— 底径：58mm 胴部下半~底部 片	径3~4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転などで、底部は回転糸切り。内面：胴部下半~底部は回転などで。	
0847	皿 灰釉陶器	器高：(23mm) 口径：[154mm] 底径：— 口縁部~胴部片	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部~口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部~胴部は回転などで。	内外面共に口縁部~胴部に施釉。

1区63号住居跡

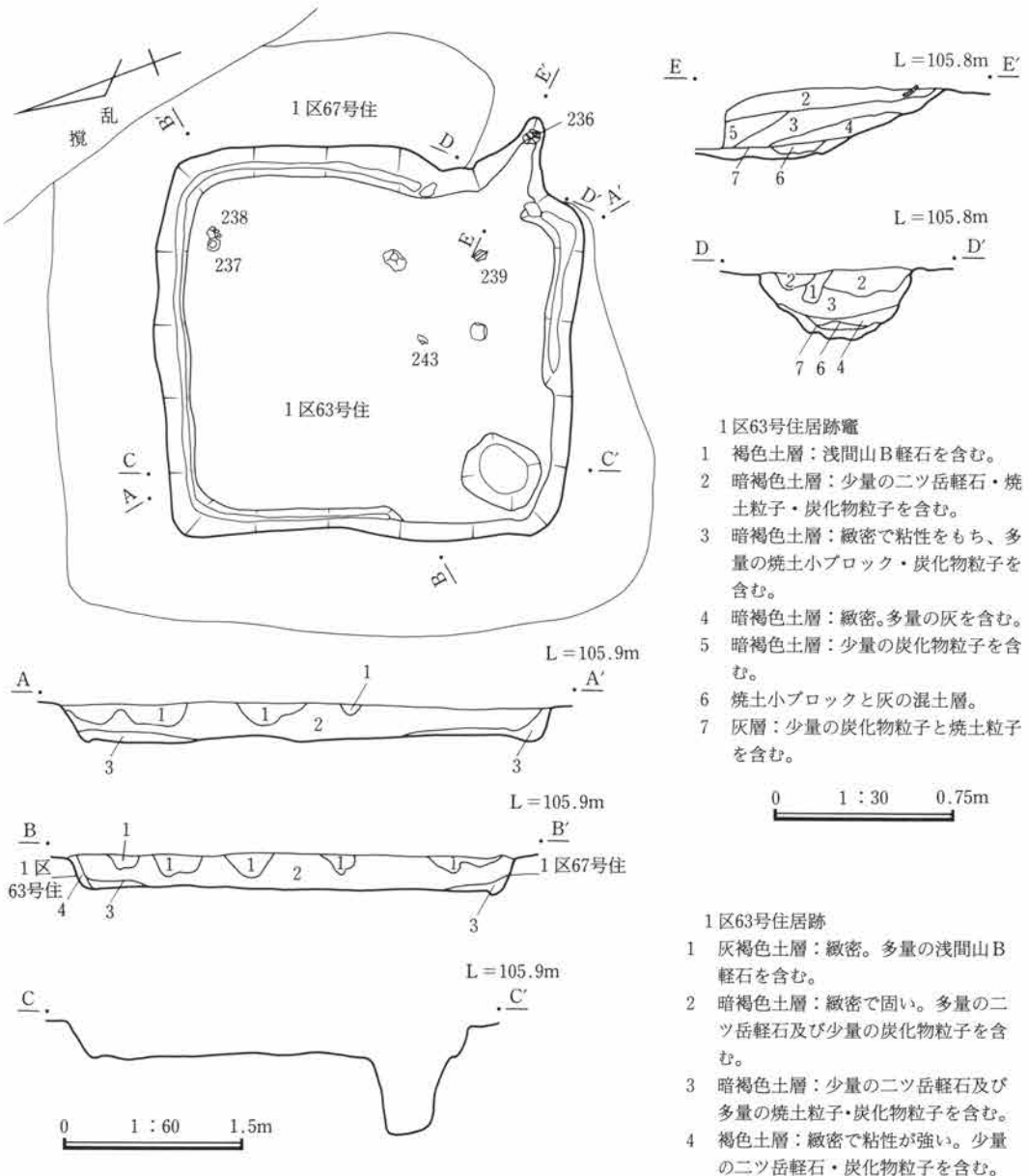
1区O-32グリッドに位置し、1区8・67・77号住居跡と重複する。新旧関係は8・67・77号住居



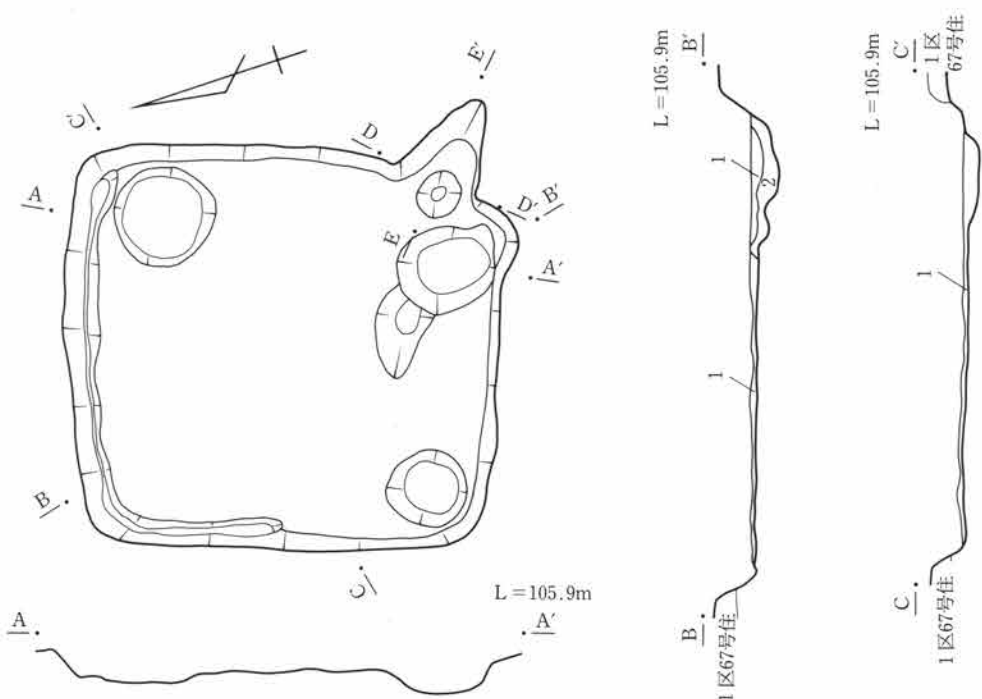
跡より新しい。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は3.0m×3.5mを測る。主軸方位はN-23.5°-Wを示し、残存壁高は5cm~31cmである。柱穴は確認できない。壁溝の幅は一定しており、竈前と南西隅を除いて巡っている。貯蔵穴は南西隅に位置し、深さは60cmと深い。貯蔵穴内からは、遺物はほとんど出土していない。住居跡北東隅からは、土師質の皿が2個体(237・238)正位で出土している。

竈は東壁南側に構築され、主軸は南に偏している。袖石や支脚は遺存していないが、竈の壁は良く焼土化している。

当住居跡の埋土上部には、浅間B軽石を多量に含む落ち込みが認められる。

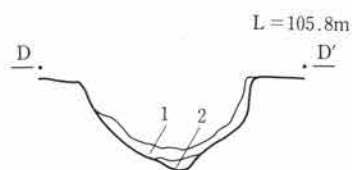


第127図 1区63区号住居跡



1区67号住居跡掘形

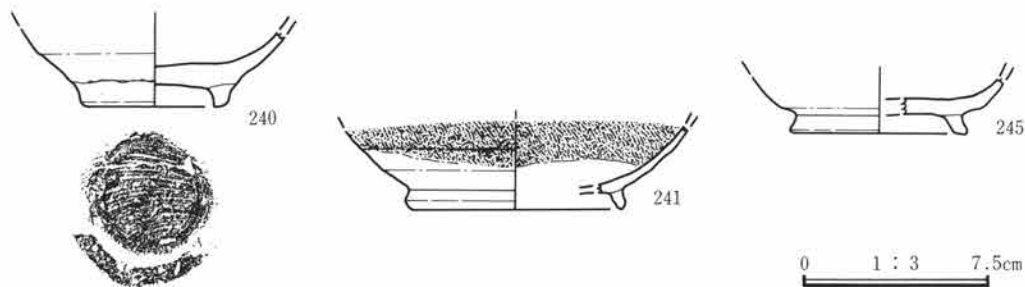
- 1 暗褐色土層：緻密。少量の二ツ岳軽石及び焼土粒子・粘質土を含む。
- 2 暗褐色土層：緻密。多量の焼土小ブロック・炭化物粒子を含む。



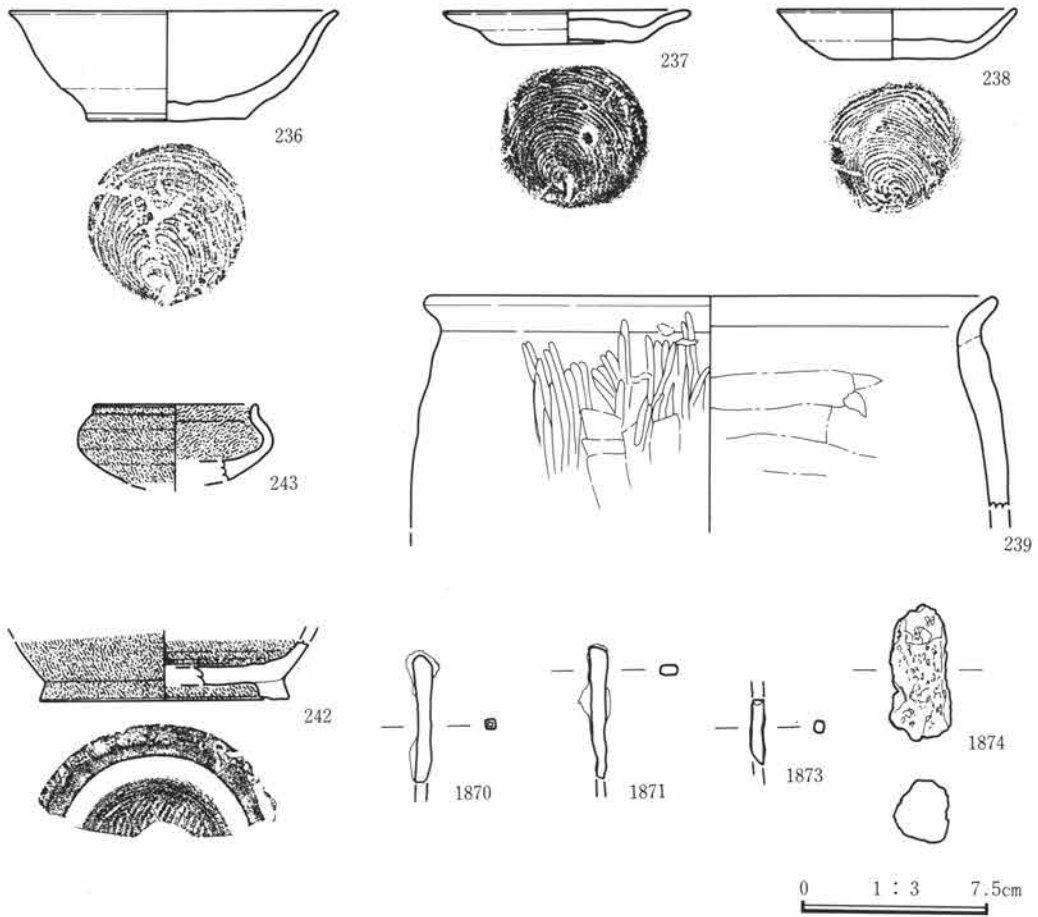
1区63号住居跡掘形

- 1 赤褐色土層：粘土が焼土化している。
- 2 暗褐色土層：少量の灰・焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土層：少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。

第128図 1区63号住居跡掘形



第129図 1区63号住居跡出土遺物①



第130図 1区63号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0236	杯 須恵器	器高：44mm 口径：[132mm] 底径：64mm 口縁部～底部 1/2	径2～4mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回 転糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	外面に多量の油煙 付着、二次炎を受 けている。
0237	杯 土師質土 器	器高：14mm 口径：100mm 底径：57mm ほぼ完形	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。浅黄。	轆轤整形、右回転。外面：口縁部～胴部は 回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁 部は回転で、胴部～底部はなで。	
0238	杯 土師質土 器	器高：20mm 口径：[96mm] 底径：50mm 口縁部～底部 2/3	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。浅黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は 回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁 部～底部は回転で。	

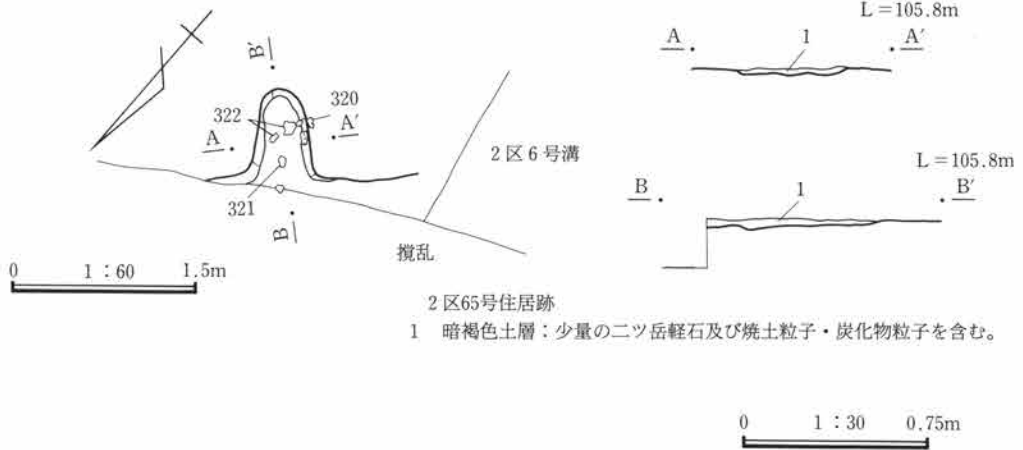
第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0239	土 釜	器高：(83mm) 口径：[228mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端篋なで。	内外面に油煙付着。
0240	椀 須恵器	器高：(30mm) 口径：— 底径：[60mm] 胴部下半～高台部 $\frac{2}{3}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。灰白・明黄褐。	轆轤整形。胴部下半はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0241	椀 灰釉陶器	器高：(33mm) 口径：— 底径：[86mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底部は高台貼り付け後丁寧なで。内面：胴部下半～底部は回転なで。	内外面共に胴部中央付近まで施釉。
0242	壺 灰釉陶器	器高：(27mm) 口径：— 底径：[98mm] 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は還元なで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転なで。	内外面共に胴部下端～底部は施釉。
0243	短頸壺 緑釉陶器	器高：(31mm) 口径：[64mm] 底径：— 最大径：[78mm] 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	内外面に鉛緑釉を施す。釉はくすんだ濃緑色で、貫入が入る。釉の一部は剝落している。被熱している。	近江製か？
0245	椀 須恵器	器高：(23mm) 口径：— 底径：[72mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部下半は還元なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下半～底部は回転なで。	
1870	？ 鉄製品	長：(50mm) 幅：5～7mm 厚：4～6mm		用途不明。芯は空洞。	
1871	？ 鉄製品	長：(51mm) 幅：3～7mm 厚：3～4mm		用途不明。	
1873	？ 鉄製品	長：(22mm) 幅：4.5mm 厚：4mm		鉄鏝の茎または紡錘車の軸か。	
1874	鉄 滓			一部鉄分が残っている。	

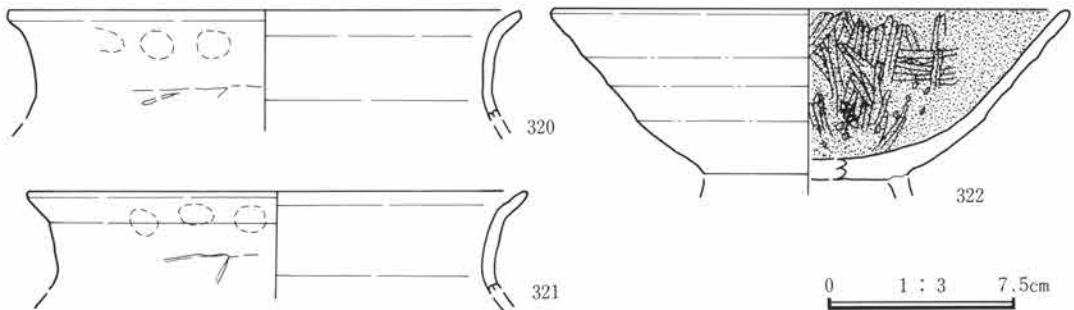
2区65号住居跡

2区O-02グリッドに位置し、2区68号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡が68号住居跡の埋土上で検出されていることから、当住居跡が新しいと考えられる。住居跡の大半は攪乱により破壊されており、僅かに竈が検出されたのみである。このため、平面形・規模・主軸方位などは不明である。

竈の位置は、他の住居跡に比してかなり南に偏している。竈内からは土師器甕(320・321)と須恵器椀(322)が出土している。このうち、322の須恵器椀には、68号住居跡との接合関係がある。



第131図 2区65号住居跡

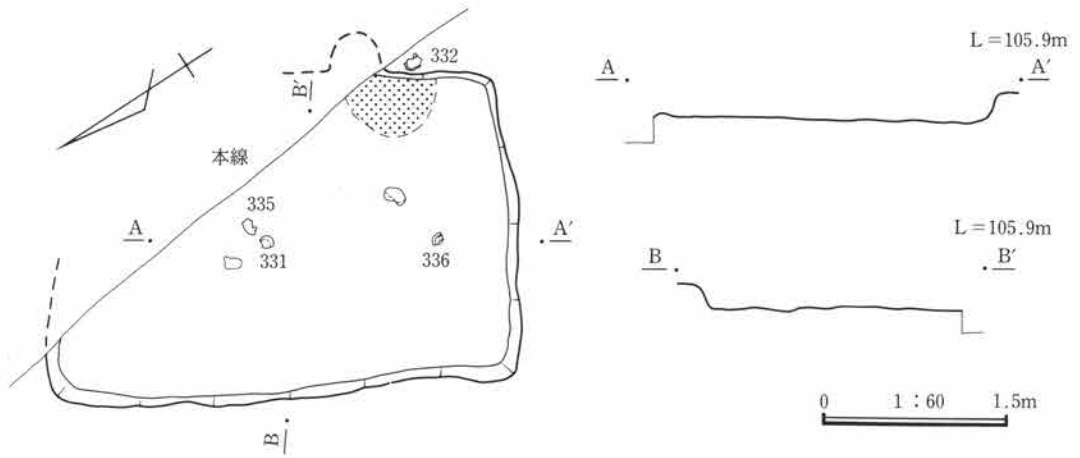


第132図 2区65号住居跡出土遺物

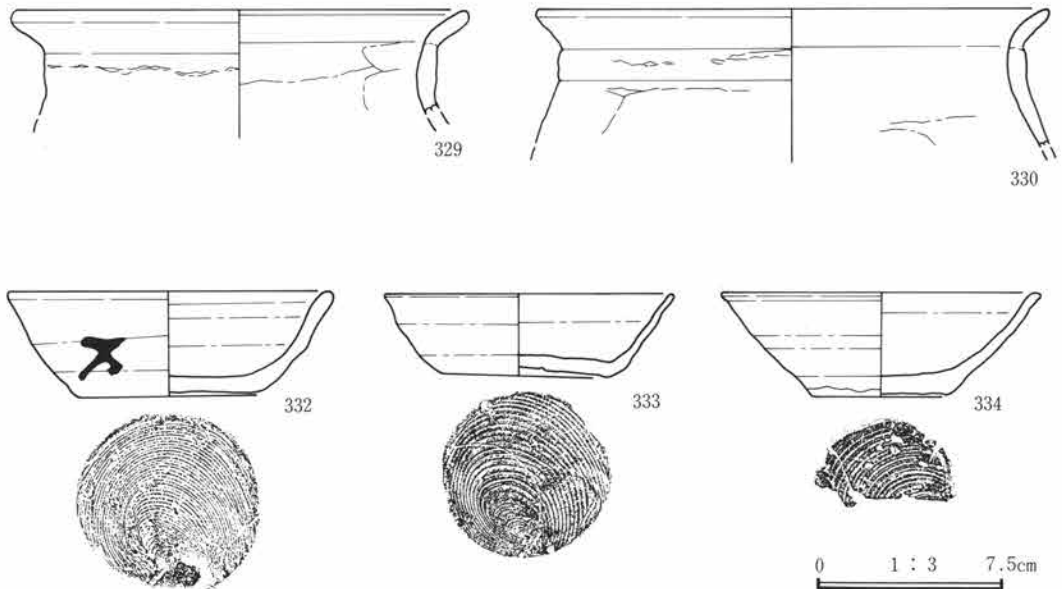
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0320	甕 土師器	器高：(44mm) 口径：[204mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付着。
0321	甕 土師器	器高：(40mm) 口径：[200mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内面に油煙付着。
0322	碗 須恵器?	器高：(67mm) 口径：[206mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで後篋磨き。	内黒。

2区66号住居跡

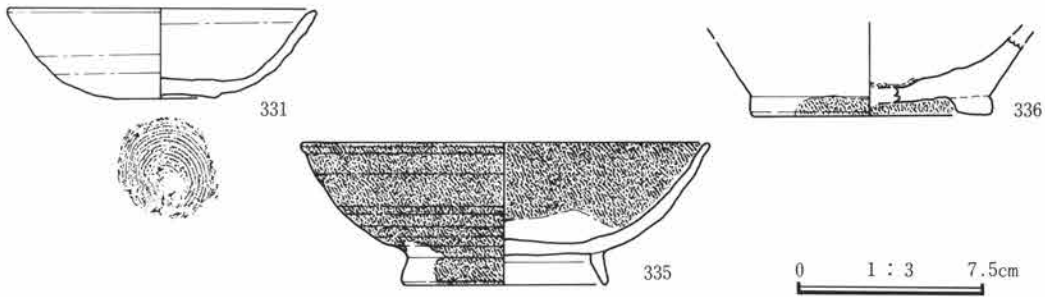
2区P-01グリッドに位置し、他遺構との重複は認められない。当住居跡は本線調査時には検出されなかったが、平面形は隅丸長方形を呈するものと考えられる。また、規模は2.42m×3.76mを測る。竈は検出されず、主軸方位は不明である。残存壁高は5cm～28cmである。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。南東隅には灰が分布しており、東壁南側に竈が構築されていたと考えられる。332の須恵器杯は、住居跡壁外に位置するが住居跡出土遺物として掲載した。



第133図 2区66号住居跡



第134図 2区66号住居跡出土遺物①



第135図 2区66号住居跡出土遺物②

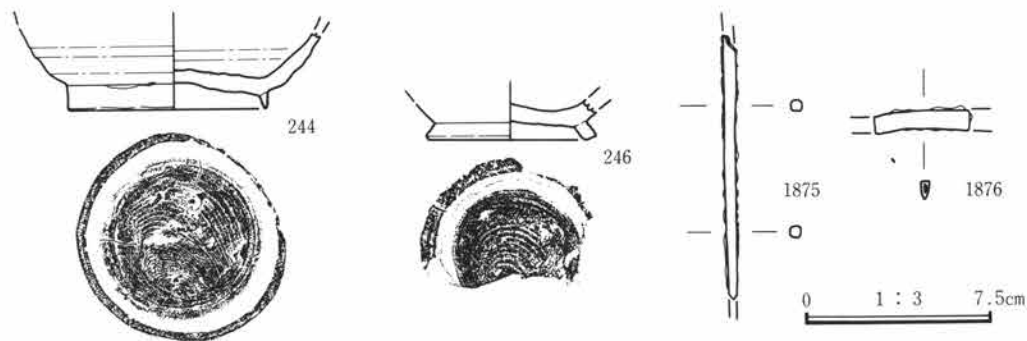
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0329	甕 土師器	器高：(41mm) 口径：[180mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	外面に油煙付着。
0330	甕 土師器	器高：(54mm) 口径：[204mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	
0331	杯 須恵器?	器高：36mm 口径：125mm 底径：41mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。外面：口縁部～底部は回転なで。	
0332	杯 須恵器	器高：41mm 口径：130mm 底径：72mm ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。灰白・明黄褐。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。内面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内面口縁部の一部に油煙付着。外面に墨書「万」。
0333	杯 須恵器	器高：32mm 口径：[116mm] 底径：65mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0334	杯 須恵器	器高：41mm 口径：[126mm] 底径：[56mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0335	碗 灰釉陶器	器高：56mm 口径：[160mm] 底径：[82mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後丁寧なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0336	壺 灰釉陶器	器高：(31mm) 口径：— 底径：[96mm] 胴部下端～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	外面：胴部下端は還元篋なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下端～底部は回転なで。	

1区67号住居跡

1区O-32グリッドに位置し、1区8・63・79号住居跡と重複する。新旧関係は8号住居跡より新しく、63号住居跡より古い。79号住居跡との関係は不明である。住居跡の壁は、北東・南東・南西の隅が確認できなかったが、平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。中央部は、ほとんど63号住居跡によって壊されている。規模は4.92m×4.76mを測る。竈は検出されず、主軸方位は不明である。残存壁高は5cm～16cmである。床は、北西部のみ張り床がなされていた。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。



第136図 1区67号住居跡



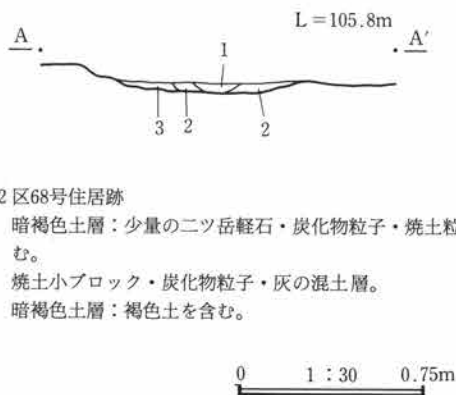
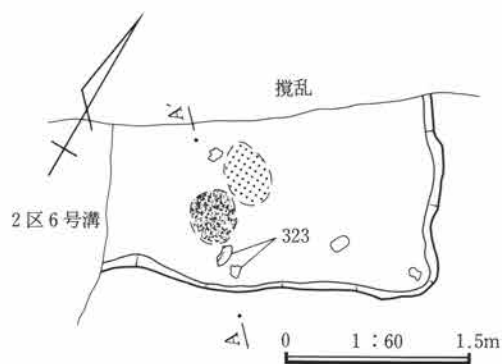
第137図 1区67号住居跡出土遺物



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0244	椀 須恵器	器高：(31mm) 口径：一底 径：84mm 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾しつつ 広がる。外面：胴部は回転まで、底部は回 転糸切り後、高台貼り付け。内面：胴部～底 部は回転まで。	外面に油煙付着。
0246	椀 須恵器	器高：(16mm) 口径：一底 径：[70mm] 底部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。硬質。鈍い黄橙。	轆轤整形。外面：底部は回転糸切り後、高 台貼り付け。内面：底部は回転まで。	
1875	? 鉄製品	長：(103mm) 幅：4mm 厚：4mm		紡錘車の軸か。	
1876	刀子 鉄製品	長：(48mm) 幅：8mm 厚： 3mm		芯は空洞。刀子の一部。	

## 2区68号住居跡

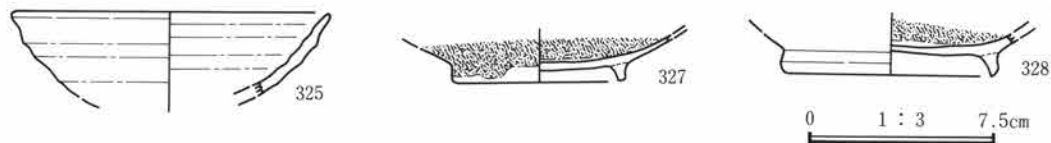
2区O-02グリッドに位置し、2区65号住居跡、2区6号溝と重複する。新旧関係は65号住居跡より古く、6号溝との関係は不明である。当住居跡も大半を攪乱により破壊されており、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は2cm～8cmである。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。



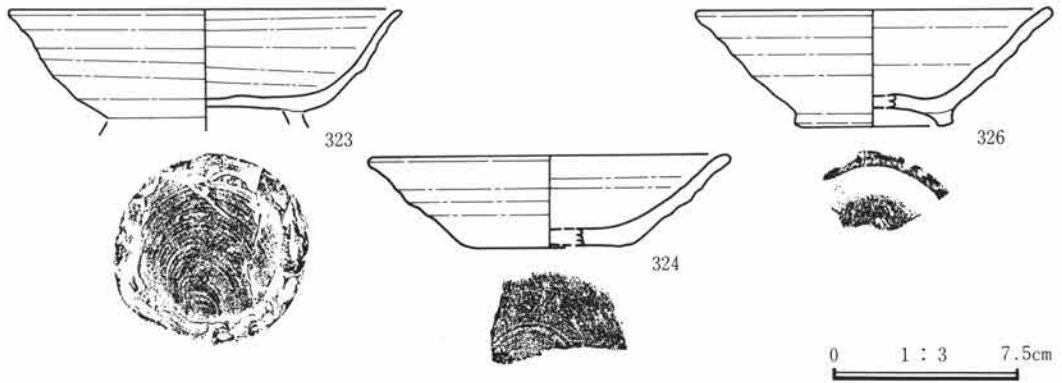
## 2区68号住居跡

- 1 暗褐色土層：少量の二ツ岳軽石・炭化物粒子・焼土粒子を含む。
- 2 焼土小ブロック・炭化物粒子・灰の混土層。
- 3 暗褐色土層：褐色土を含む。

第138図 2区68号住居跡



第139図 2区68号住居跡出土遺物①



第140図 2区68号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0323	椀 須恵器	器高：(41mm) 口径：157mm 底径：— 口縁部～高台部 上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回 転糸切り後、高台貼り付け。内面：口縁部 ～底部は回転で。	内外面の口縁部 ～胴部は燻し。
0324	杯 須恵器	器高：36mm 口径：[144mm] 底径：[64mm] 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は 回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁 部～底部は回転で。	内外面の口縁部 ～底部は燻し。
0325	椀 須恵器	器高：(33mm) 口径：[126 mm] 底径：— 口縁部～胴 部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ 広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共 に口縁部～胴部は回転で。	
0326	椀 須恵器	器高：46mm 口径：[140mm] 底径：[64mm] 口縁部～高 台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。やや硬質。浅黄橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、 口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴 部は還元で、底部は高台貼り付け後で。 内面：口縁部～底部は回転で。	
0327	椀 灰釉陶器	器高：(18mm) 口径：— 底 径：69mm 胴部下半～高台 部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。 やや硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は丁寧な回転で 、底部は高台貼り付け後丁寧なで。内 面：胴部下半～底部は丁寧な回転で。	
0328	椀 灰釉陶器	器高：(17mm) 口径：— 底 径：[84mm] 胴部下端～高 台部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。 やや硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は丁寧な回転で 、底部は高台貼り付け後丁寧なで。内 面：胴部下端～底部は丁寧な回転で。	

1区69号住居跡

1区P-30グリッドに位置し、1区154・70・76号住居跡と重複する。新旧関係は、154号住居跡より古い、70・76号住居跡との関係は不明である。東壁が攪乱、南壁が154号住居跡との重複により確

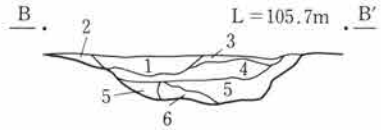
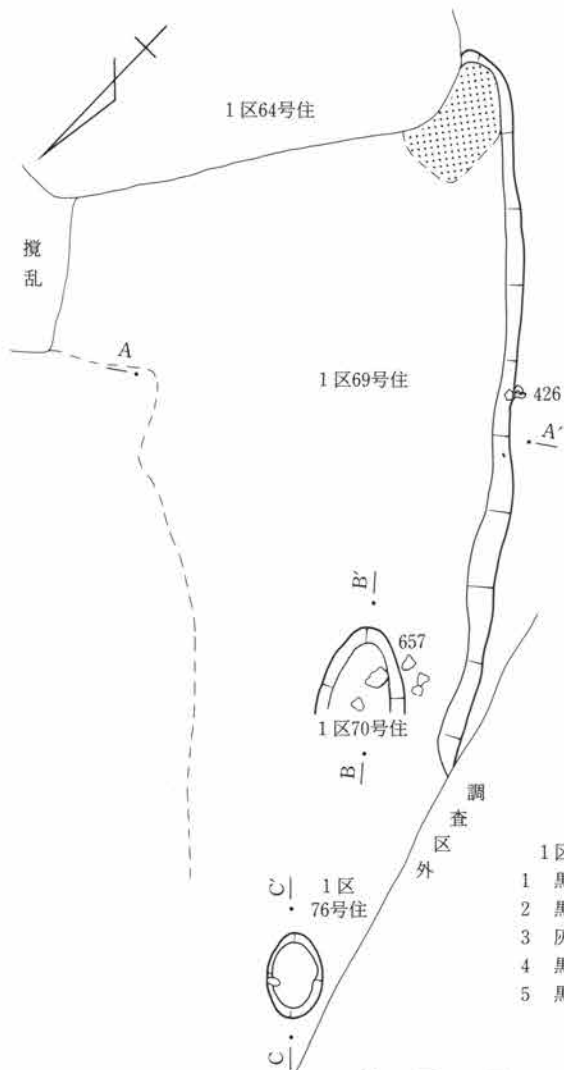
認できないため、平面形・規模・主軸方位は不明である。西壁の残存壁高は10cm～15cmを測る。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認できない。竈は検出できなかったが、南東隅の床面には灰が分布しており、東壁南側に構築されていたと考えられる。出土遺物のうち図示できたのは、全て土師器杯である。

### 1区70号住居跡

1区P-31グリッドに位置する。1区69号住居跡と重複し、新旧関係は不明である。遺存が悪く、竈が確認されたのみであり、平面形・規模などは不明である。

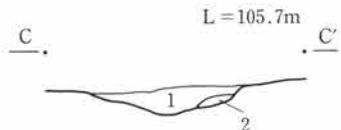
### 1区76号住居跡

1区P-32グリッドに位置する。1区69号住居跡と重複し、新旧関係は不明である。竈燃焼部の底部が確認されたのみであり、平面形・規模などは不明である。



#### 1区70号住居跡竈

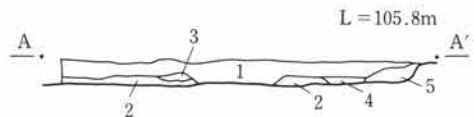
- 1 灰褐色土層：浅間山C軽石を含む。
- 2 灰褐色土層：二ツ岳火山灰を含む。
- 3 灰褐色土層：灰・軽石を含む。
- 4 灰褐色土層：灰・焼土を含む。
- 5 灰層：灰褐色土・焼土粒子を含む。
- 6 二ツ岳火山灰層。



#### 1区76号住居跡竈

- 1 淡黄褐色土層：焼土粒子を含む。
- 2 黒褐色土層：灰を含む。

0 1 : 30 0.75m



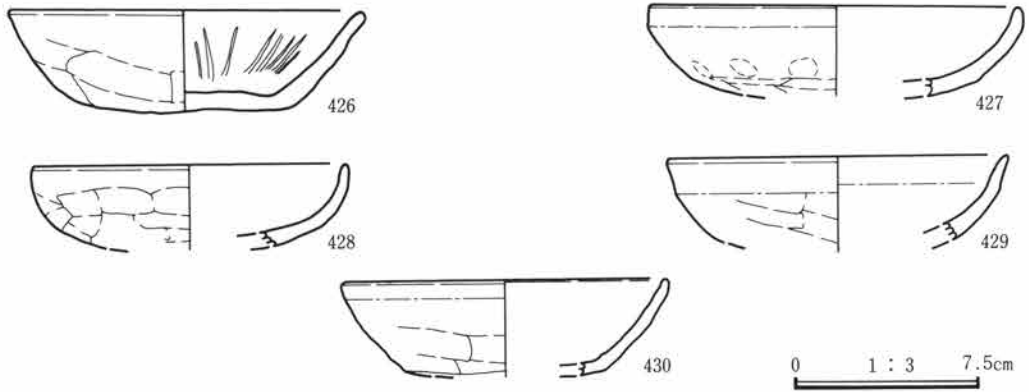
#### 1区69号住居跡

- 1 黒褐色土層：軽石・炭化物・焼土粒子を含む。
- 2 黒褐色土層：少量の軽石を含む。
- 3 灰黒褐色土層：灰・焼土を含む。
- 4 黒褐色土層：炭化物を含む。
- 5 黒褐色土層：二ツ岳火山灰を含む。

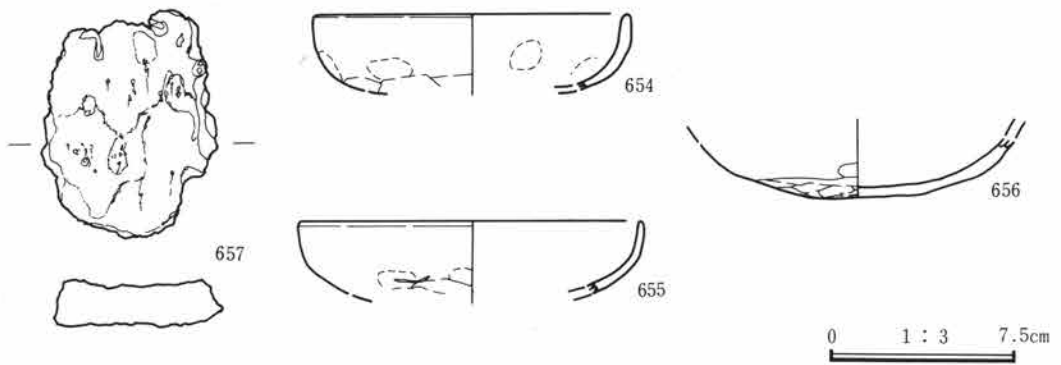
0 1 : 60 1.5m

第141図 1区69・70・76号住居跡

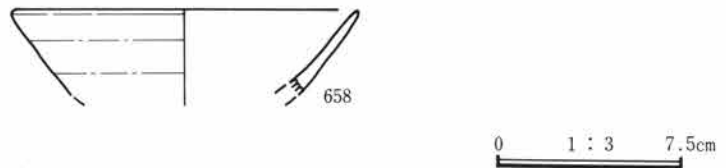
第IV章 発見された遺構と遺物



第142図 1区69号住居跡出土遺物



第143図 1区70号住居跡出土遺物



第144図 1区76号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0426	杯 土師器	器高：40mm 口径：[140mm] 底径：86mm 口縁部～底部 3/4	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口 縁部は横なで、胴部～底部は篋削り、一部 指頭痕が残る。内面：口縁部～胴部は横な で、底部はなで、一部指頭痕が残る。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0427	杯 土師器	器高：(35mm) 口径：[148mm] 底径：－ 口縁部～底部上端 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部上端は篋削り。内面：口縁部～胴部上端は横なで。	
0428	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[122mm] 底径：－ 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0429	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[136mm] 底径：－ 口縁部～胴部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部～胴部は内湾しつつ広がり、口縁部はやや外反。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで。	
0430	杯 土師器	器高：(38mm) 口径：[130mm] 底径：[80mm] 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部胴部上端は横なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。

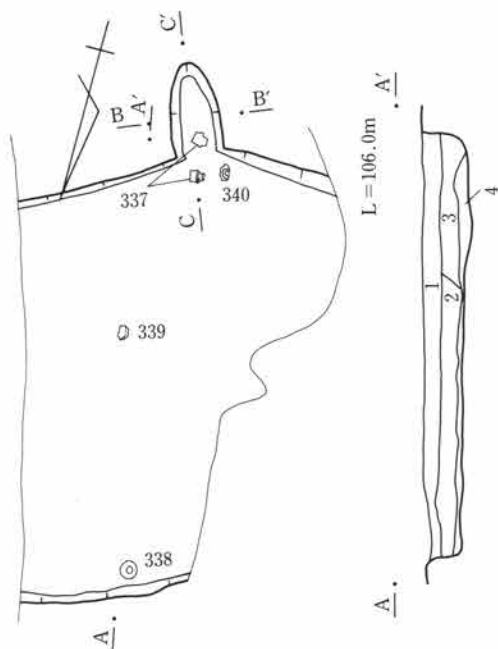
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0654	杯 土師器	器高：(30mm) 口径：[126mm] 底径：－ 口縁部～底部上半 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部上半～口縁部はほぼ直立。外面：口縁部は横なで、胴部はなで一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残る。	内外面に油煙付着。
0655	杯 土師器	器高：(28mm) 口径：[136mm] 底径：－ 口縁部～底部上半 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部上半は内湾、口縁部はほぼ直立。外面：口縁部は横なで、胴部はなで一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部上半はなで。	
0656	杯 土師器	器高：(23mm) 口径：－ 底径：－ 胴部下半～底部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	外面：胴部下半はなで、一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：胴部下半は横なで、底部はなで。	外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0657	鉄 滓			鉄分を含む。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0658	椀 須恵器	器高：(33mm) 口径：[138mm] 底径：－ 口縁部～胴部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。内外面共に口縁部は回転なで。	

2区71号住居跡

当住居跡は、2区N-4・5、O-4・5グリッドに位置し、2区72号住居跡・2区74号住居跡と重複する。2区72号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床上に当住居跡の壁・床が構築されていることから、当住居跡の方が新しい。2区74号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東部の床上に当住居跡の壁・床・竈が構築されていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東壁は検出できず、西壁は攪乱により破壊されているので、確定できないが、南北は約3.4mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。残存壁高は約10cm～15cmである。床面は、やや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。竈は南壁に構築されている。燃烧部・煙道部の壁外への張り出しは約0.8mである。大部分が破壊されており、袖は検出できなかったが、燃烧部からは灰・焼土の堆積を確認できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は羽釜(337)、須恵器杯(338)、須恵器椀(339・340・341)、鉄製品(343・344)等が出土しており、特に石製銚帯の丸軋(342)の出土が目される。

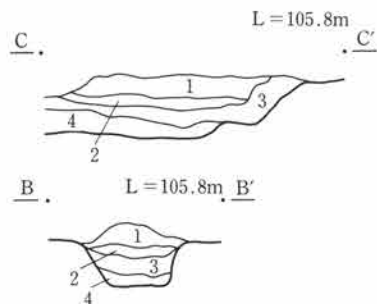


2区71号住居跡

- 1 灰黒褐色土層：二ツ岳軽石・炭化物粒子・褐色土小ブロックを含む。
- 2 黒褐色土層：軽石・炭化物粒子を含む。
- 3 黒褐色土層：FA粒子・灰・焼土を含む。(掘形)
- 4 黒色土層：灰・焼土粒子・灰褐色土を含む。(掘形)

0 1:60 1.5m

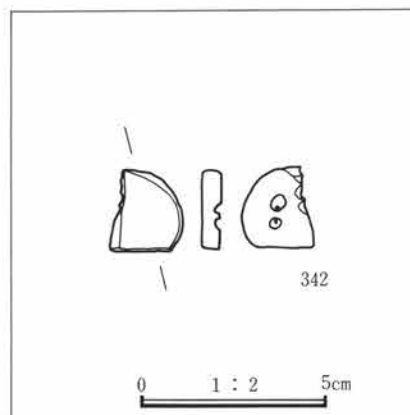
第145図 2区71号住居跡



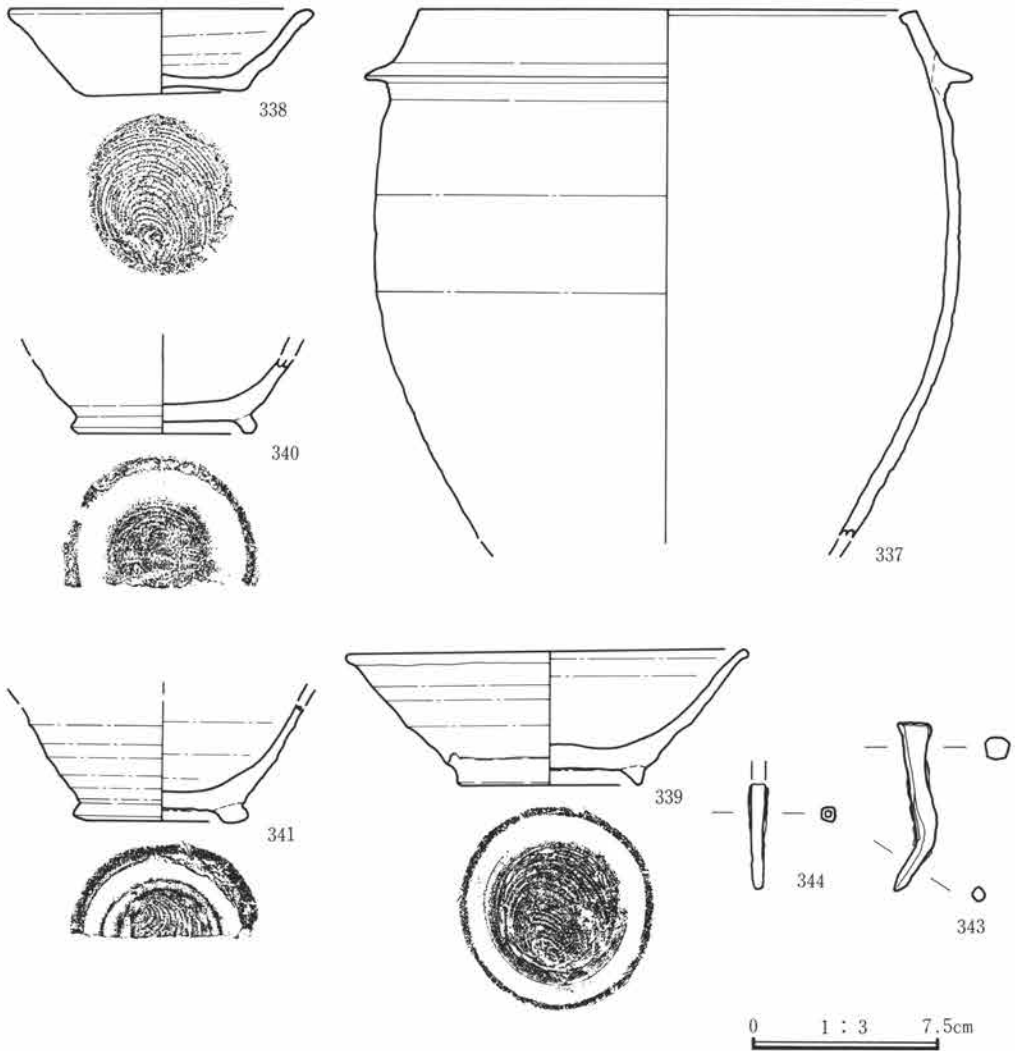
2区71号住居跡竈

- 1 灰褐色土層：灰・焼土を含む。
- 2 灰褐色土・灰・焼土の混合層。
- 3 灰褐色土層：焼土粒子・炭化物を含む。
- 4 灰褐色粘質土層：焼土粒子・炭化物・FA小ブロックを含む。

0 1:30 0.75m



第146図 2区71号住居跡出土遺物①



第147図 2区71号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0337	羽釜	器高：(208mm) 口径：[200mm] 底径：— 最大径：[244mm] 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。灰・浅黄。	口縁部はやや内湾。最大径は鋸部。鋸部は貼り付け。内外面共に口縁部～胴部は回転など。	内外面に油煙付着。
0338	杯 須恵器	器高：34mm 口径：121mm 底径：61mm ほぼ完形	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白・黒。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転など、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転など。	内外面共に口縁部～底部は燻し。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0339	椀 須恵器	器高：53mm 口径：[162mm] 底径：77mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転まで。	外面に油煙付着。
0340	椀 須恵器	器高：(29mm) 口径：— 底径：76mm 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部下半は回転まで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転まで。	
0341	椀 須恵器	器高：(46mm) 口径：— 底径：[72mm] 胴部～高台部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転まで、底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転まで。	外面に油煙付着。
0342	石製袴帯丸 柄	長：(19mm) 幅：(21mm) 厚：6mm 重：4.0g	珪質頁岩。	裏面の留め穿孔は6カ所(4カ所確認)と推定。表面と側面は丁寧に磨いてある。	
0343	角釘? 鉄製品	長：67mm 幅：5～14mm 厚：5～9mm		角釘か。断面四角形。	
0344	? 鉄製品	長：(41mm) 幅：4～6mm 厚：4～6mm		鉄製の茎または紡錘車の軸か。芯は空洞。	

2区72号住居跡

当住居跡は、2区N-4、O-4グリッドに位置し、2区16号住居跡・2区71号住居跡・2区74号住居跡と重複する。2区16号住居跡との新旧関係は、不明である。2区71号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下から当住居跡の床・壁の一部が検出されたことから、当住居跡の方が古い。2区74号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南西部の壁・床・竈が当住居跡の壁・床の一部を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、重複と攪乱により大部分が破壊されているために、不明である。残存壁高は、検出できた東壁の一部で約15cmである。床面の状態はやや軟弱であるが、ほぼ平坦である。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は、須恵器の杯(346)、須恵器の椀(345)、須恵器の蓋(347)、砥石(348)等が出土している。

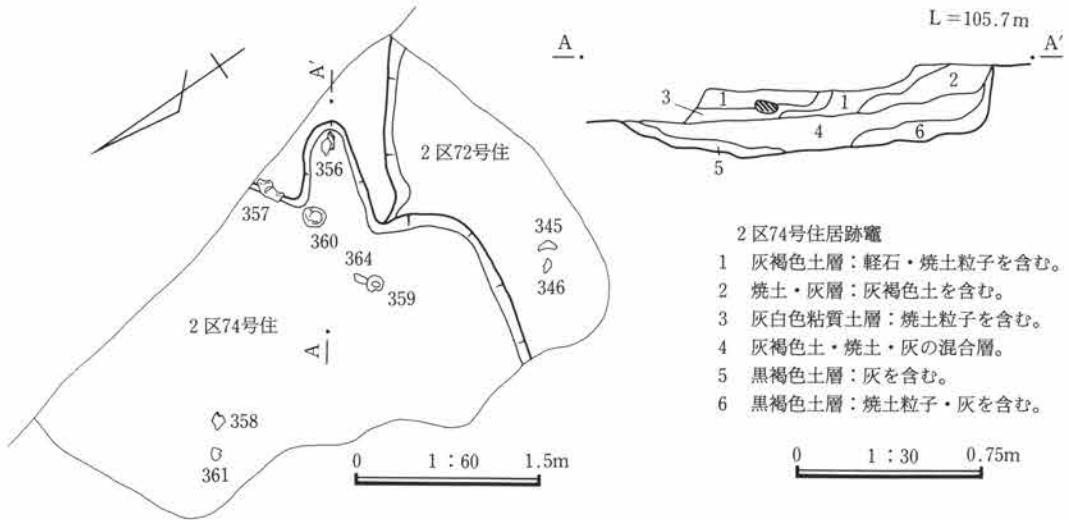
2区74号住居跡

当住居跡は、2区N-4・5、O-4・5グリッドに位置し、2区16号住居跡・2区71号住居跡・2区72号住居跡と重複する。2区16号住居跡との新旧関係は、不明である。2区71号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の床下から当住居跡の壁・床・竈の一部が検出されていることから、当住居跡の方が古い。2区72号住居跡との新旧関係は、同住居跡北部の壁・床の一部を当住居跡の南西部の壁・床が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。

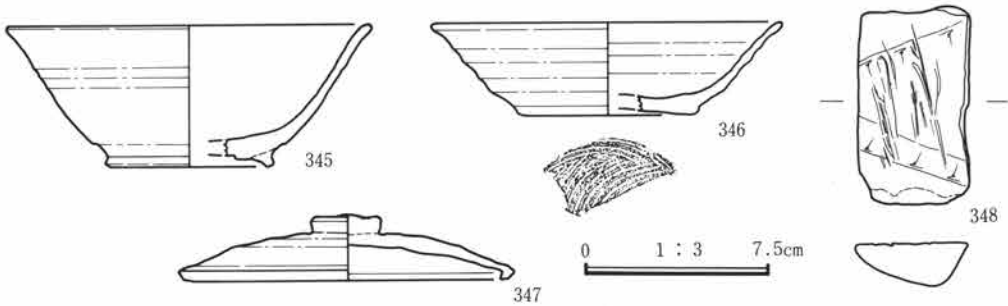
当住居跡の規模は、北壁は検出できず、西部は攪乱により破壊されていることから、不明である。



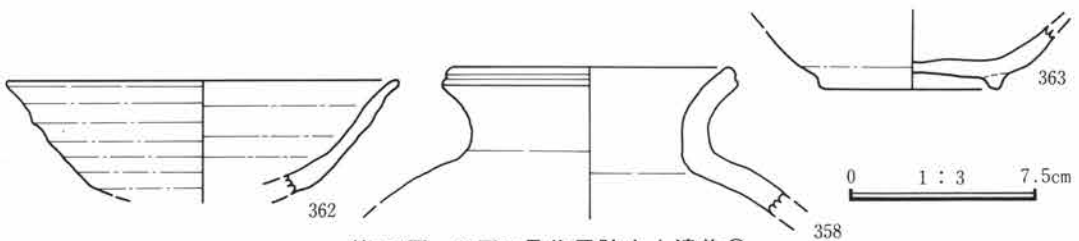
残存壁高は、約5cm～10cmである。床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。竈は東壁の南よりに構築されている。燃烧部・煙道部の壁外への張り出しは、約0.8mである。大部分が破壊されており、袖は検出できなかったが、燃烧部に堆積している灰・焼土を検出することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は、土師器の甕(356)、須恵器の甕(357)、須恵器の壺(358)、須恵器の杯(359・361)、須恵器の椀(360・362・363)の他、薦石(364)等が出土している。



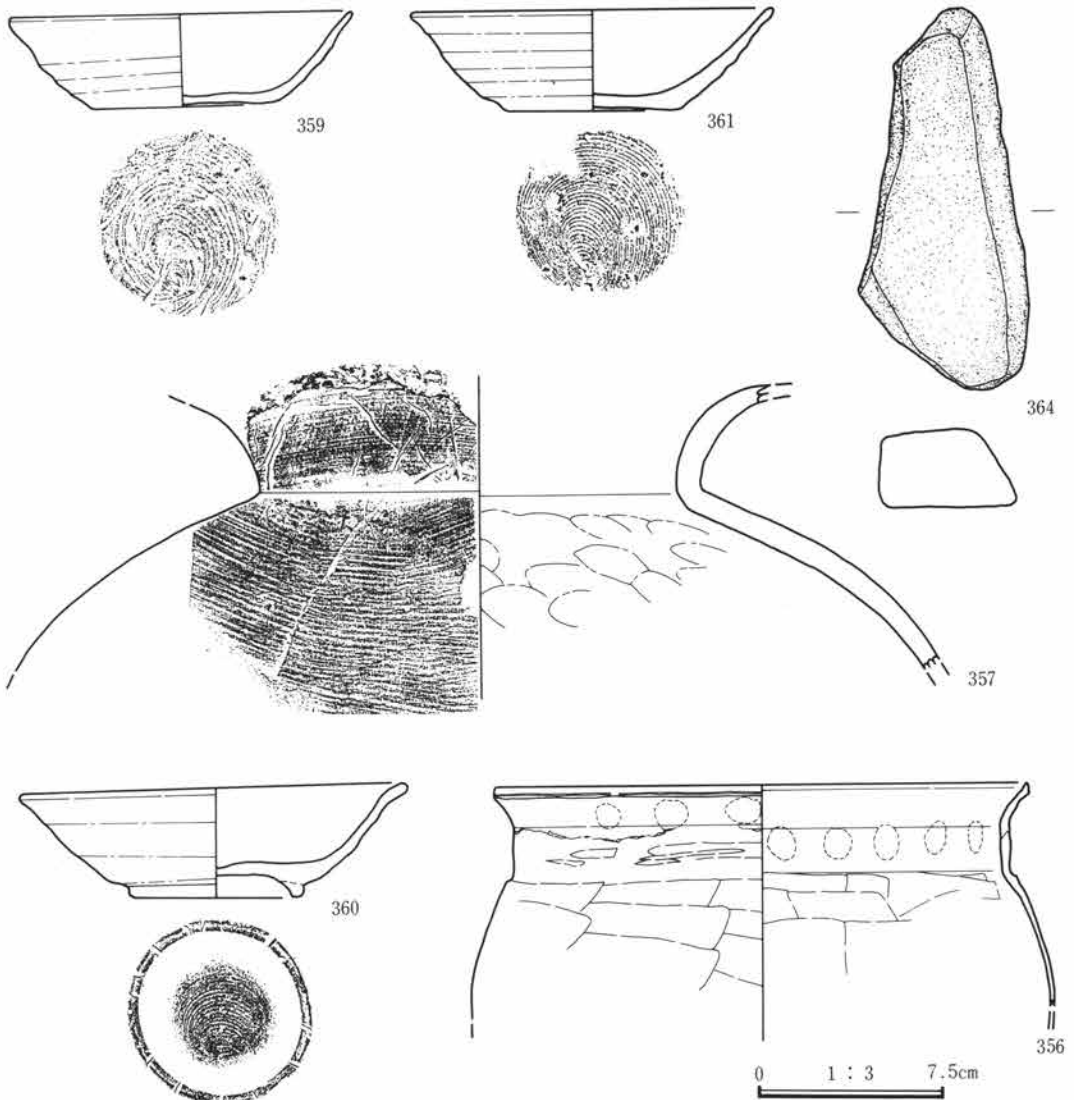
第148図 2区72・74号住居跡



第149図 2区72号住居跡出土遺物



第150図 2区74号住居跡出土遺物①



第151図 2区74号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0345	碗 須恵器	器高：56mm 口径：[146mm] 底径：[68mm] 口縁部～高 台部迄	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部僅かに直線的に広 がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁 部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け。 内面：高台部～底部は回転なで。	内外面に油煙付 着。
0346	杯 須恵器	器高：37mm 口径：[140mm] 底径：[72mm] 口縁部～底 部迄	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回 転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	

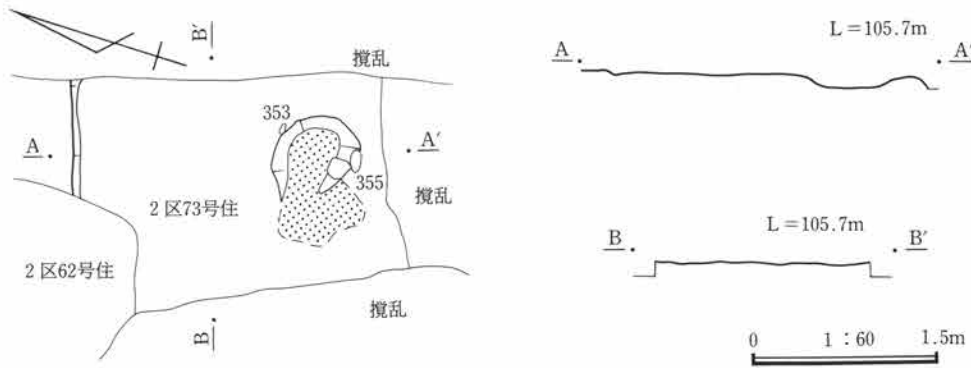
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0347	蓋 須恵器	器高：27mm 口径：130mm つまみ径：27mm 天井部 ～口縁部 $\frac{3}{4}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	疑宝珠つまみ。返りは短い。つまみ部は貼 り付け。外面：天井部上半は回転篋削り、 天井部下半～口縁部は回転なで。内面：天 井部～口縁部は回転なで。	
0348	砥石	長：(76mm) 幅：45mm 厚： 18mm 重：82.2g	砥沢石。	使用面は3面。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0356	甕 土師器	器高：(88mm) 口径：[214 mm] 底径：— 口縁部～胴 部上半 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、一部指頭痕が残り、胴部上半は篋 削り。内面：口縁部は横なで、一部指頭痕 が残り、胴部上半は篋なで。	
0357	甕 須恵器	器高：(116mm) 口径：— 底径：— 口縁部～胴部上 半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰。	口縁部は大きく外反。外面：口縁部は横な で、胴部上半は叩き目が残る。内面：口縁 部は横なで、胴部は叩き後なで。	
0358	壺 須恵器	器高：(57mm) 口径：[112 mm] 底径：— 口縁部～胴 部上端 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰・オリープ黒。	口縁部は大きく外反。内外面共に口縁部～ 頸部は横なで、胴部上端はなで。	内外面に自然釉。
0359	杯 須恵器	器高：37mm 口径：137・143 mm 底径：74mm ほぼ完形	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回 転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0360	椀 須恵器	器高：46mm 口径：154mm 底径：70mm 完形	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白・黒。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。 外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回 転糸切り後、高台貼り付け。内面：口縁部 ～底部は回転なで。	内外面共に焼し。
0361	杯 須恵器	器高：40mm 口径：[144mm] 底径：69mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は 回転なで、底部は回転糸切り。外面：口縁 部～底部は回転なで。	
0362	椀 須恵器	器高：(46mm) 口径：[156 mm] 底径：— 口縁部～胴 部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、 口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部 ～胴部は回転なで。	
0363	椀 須恵器	器高：(27mm) 口径：— 底 径：72mm 胴部下半～高台 部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾しつつ 広がる。外面：胴部下半は回転なで、底部 は回転糸切り後、高台貼り付け。内面：胴 部下半～底部は回転なで。	外面に油煙付着。
0364	用途不明 石製品	長：151mm 幅：66mm 厚： 36mm 重：484.0g	粗粒安山岩。	2面が擦れている。	

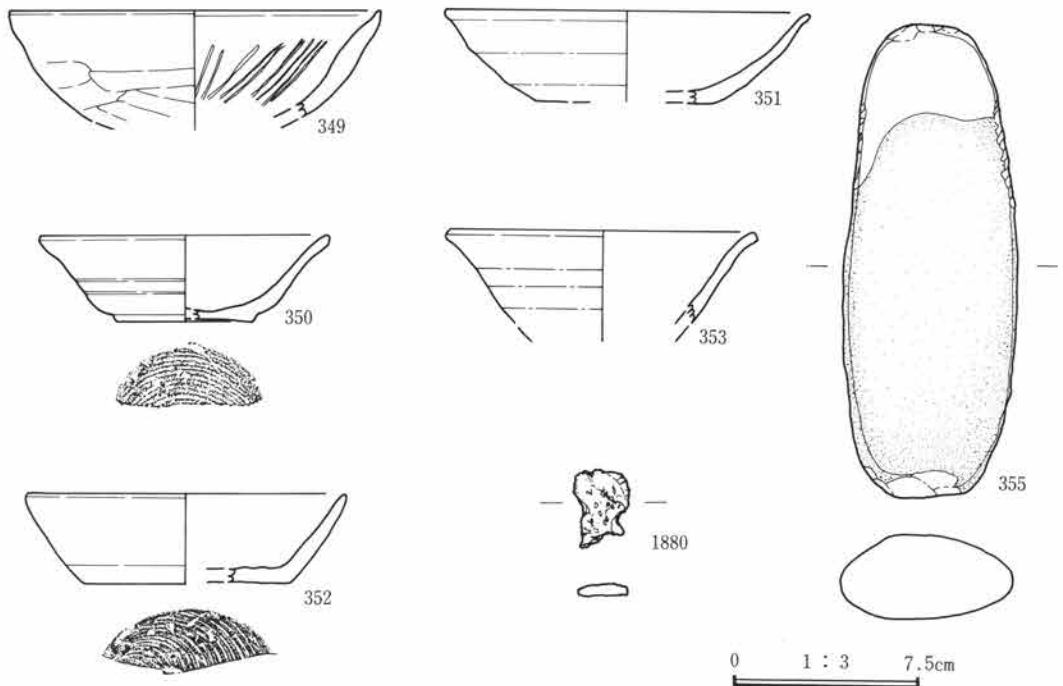
2区73号住居跡

2区N-05グリッドに位置し、2区62号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡が古い。当住居跡の東、西、南は攪乱により確認できず、北は62号住居跡との重複があるために北壁の一部が遺存していたのみである。平面形・規模・主軸方位は不明である。北壁の残存壁高は5cmである。柱穴・壁溝は確認されない。

住居跡には竈と思われるものが確認され、前面には灰が分布していた。調査者は当住居跡に伴うものと判断しているが、時期的に竈を住居跡内に構築するとは考えにくく、他遺構の可能性が高い。



第152図 2区73号住居跡

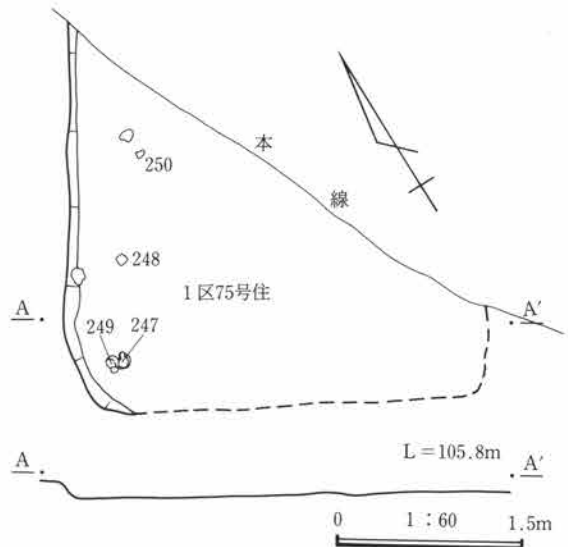


第153図 2区73号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0349	杯 土器	器高：(42mm) 口径：[150mm] 底径：— 口縁部～胴部迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は寛削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施す。	
0350	杯 須恵器	器高：34mm 口径：[116mm] 底径：[56mm] 口縁部～底部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0351	杯 須恵器	器高：(36mm) 口径：[146mm] 底径：— 口縁部～胴部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	内外面共に燻し。
0352	杯 須恵器	器高：35mm 口径：[128mm] 底径：[82mm] 口縁部～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～胴部は回転なで。	
0353	杯 須恵器	器高：(38mm) 口径：[122mm] 底径：— 口縁部～胴部迄	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	内外面に油煙付着。
0355	用途不明 石製品	長：187mm 幅：71mm 厚：35mm 重：714.5g	緑色片石。	表面は擦れていて、両端に打ち付けた痕あり。	
1880	鉄 滓			一部鉄分を含む。	

## 1区75号住居跡

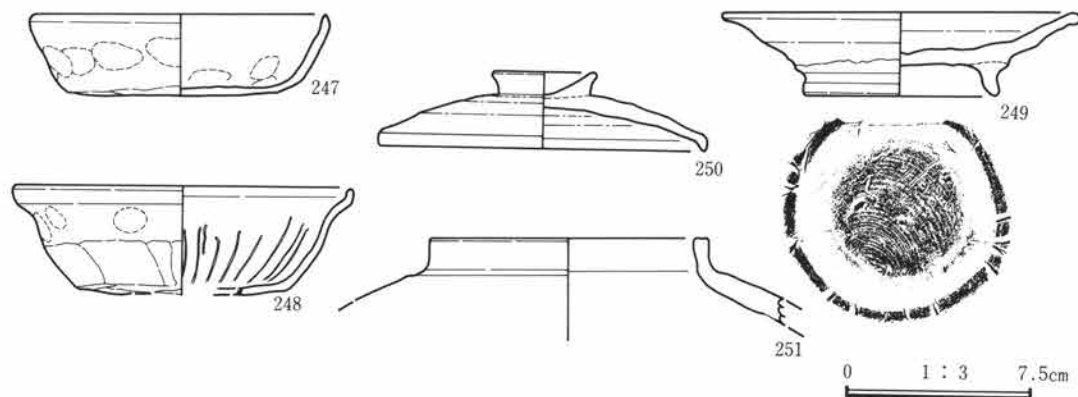
1区O-31グリッドに位置し、1区8・77号住居跡と重複する。新旧関係はいずれも不明である。当住居跡は、側道調査時に西半分が検出されたが、本線調査時には検出されていない。また、南壁は検出されず、床面の範囲によって推定している。したがって、検出されたのは北壁のみであり、平面形・規模・主軸方位は不明である。北壁の残存壁高は11cm～13cmを測る。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。遺



第154図 1区75号住居跡

第IV章 発見された遺構と遺物

物は、北西隅から土師器杯(247)と須恵器皿(249)、北壁付近から土師器杯(248)と須恵器蓋(250)が出土している。

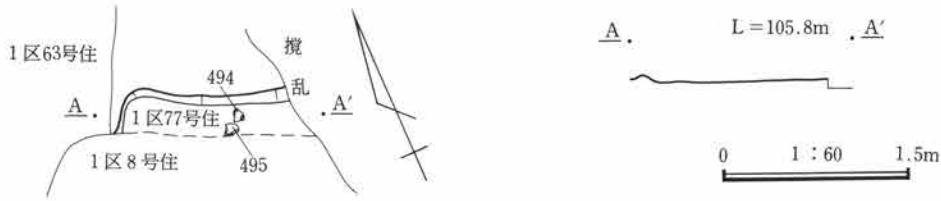


第155図 1区75号住居跡出土遺物

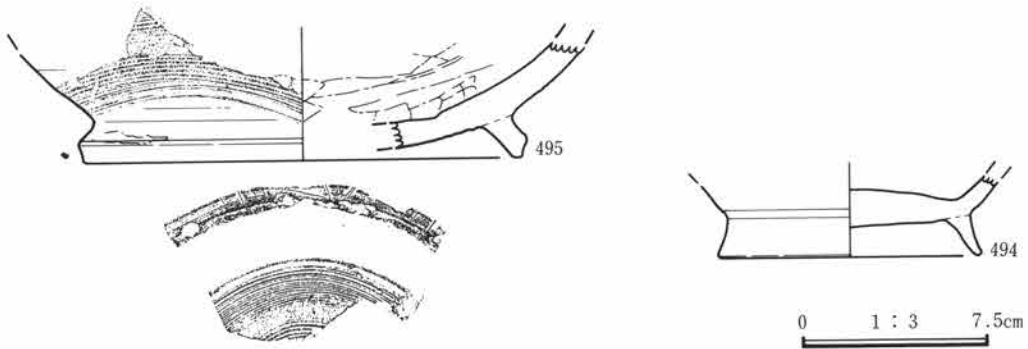
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0247	杯 土師器	器高：32mm 口径：118mm 底径：86mm ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに内湾。外面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで、胴部～底部は一部指頭痕が残る。	
0248	杯 土師器	器高：42mm 口径：[136mm] 底径：[83mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに内湾。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り、一部指頭痕が残る。内面：口縁部～底部上半は横なで後放射状暗文を施す。	
0249	皿 須恵器	器高：32mm 口径：[142mm] 底径：80mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台張り付け。内面：口縁部～胴部は回転なで。	内外面の一部は燻し。
0250	蓋 須恵器	器高：30mm 口径：[131mm] つまみ径：41mm つまみ部～口縁部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・鈍い赤褐。	轆轤整形。ボタン状つまみ。つまみ部は張り付け。返りは短い。外面：天井部は回転篋削り、口縁部は回転なで。内面：天井部～口縁部は回転なで。	
0251	短頸壺 須恵器	器高：(35mm) 口径：[112mm] 底径：一 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。口縁部～頸部は短く、ほぼ直立。内外面共に口縁部～胴部上端は回転なで。	外面に自然釉。

## 1区77号住居跡

1区N-32グリッドに位置し、1区8号住居跡・1区63号住居跡と重複する。新旧関係は、8号住居跡により壁が壊されていることから、当住居跡が古いと考えられるが確証はない。63号住居跡との関係は、63号住居跡も8号住居跡より古いことから判断できない。北西隅のみの確認であるため、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は3cm～5cmである。柱穴・壁溝は確認できない。床面からは須恵器椀(494)と須恵器壺(495)が出土している。なお、494の須恵器椀は、1区8号住居跡と接合関係がある。



第156図 1区77号住居跡



第157図 1区77号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0494	椀 須恵器	器高：(29mm) 口径：一底径：106mm 胴部下端～高台部 $\frac{3}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・鈍い橙。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転で、底部は高台貼り付け後など。内面：胴部下端は回転で、底部はなで。	
0495	壺 須恵器	器高：(44mm) 口径：一底径：[176mm] 胴部下端～高台部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端はカキ目、底部は高台貼り付け後カキ目。内面：胴部下端～底部は篋で。	

### 1区78号住居跡

1区I-24グリッドに位置し、1区79号住居跡・1区9号土坑と重複する。新旧関係は、9号土坑より古い、79号住居跡との関係は不明である。南側は攪乱により破壊されており、平面形は不明である。規模は、東西が2.18mである。主軸方位は、竈が確認できないため不明である。北壁の残存壁高は4cm~17cmを測る。柱穴・壁溝などは確認できない。253の鉄製品は、どの遺構に伴うものか判断しがたい。

### 1区79号住居跡

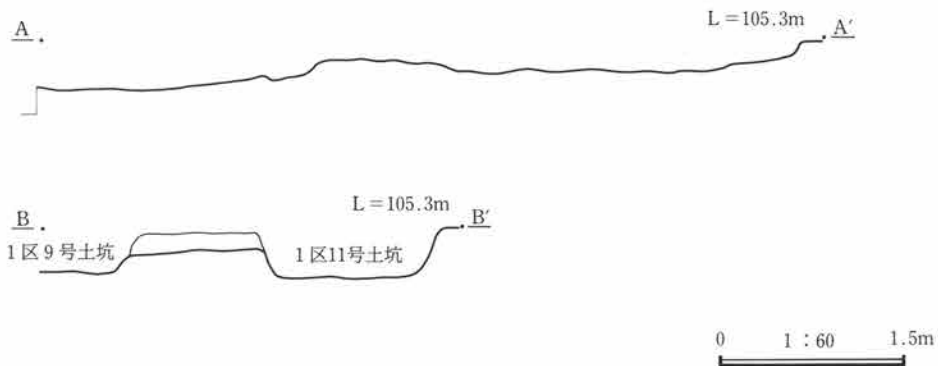
1区I-24グリッドに位置し、1区78・87・88号住居跡・1区9・10・11号土坑と重複する。新旧関係は、土坑より古い、当住居跡との関係は不明である。当住居跡は中央部を攪乱に、北を土坑に破壊され、南は78号住居跡と重複しているため、平面形・規模は不明である。竈は確認されず、主軸方位は不明である。残存壁高は0cm~10cmを測る。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。

### 1区87号住居跡

1区J-24グリッドに位置し、1区79・88号住居跡と重複する。新旧関係は、床面まで攪乱が達しているために確認できなかった。壁は確認できず、床面の範囲で壁を推定した。このため、平面形・規模・主軸方位は不明である。柱穴・壁溝・貯蔵穴・竈は確認できない。

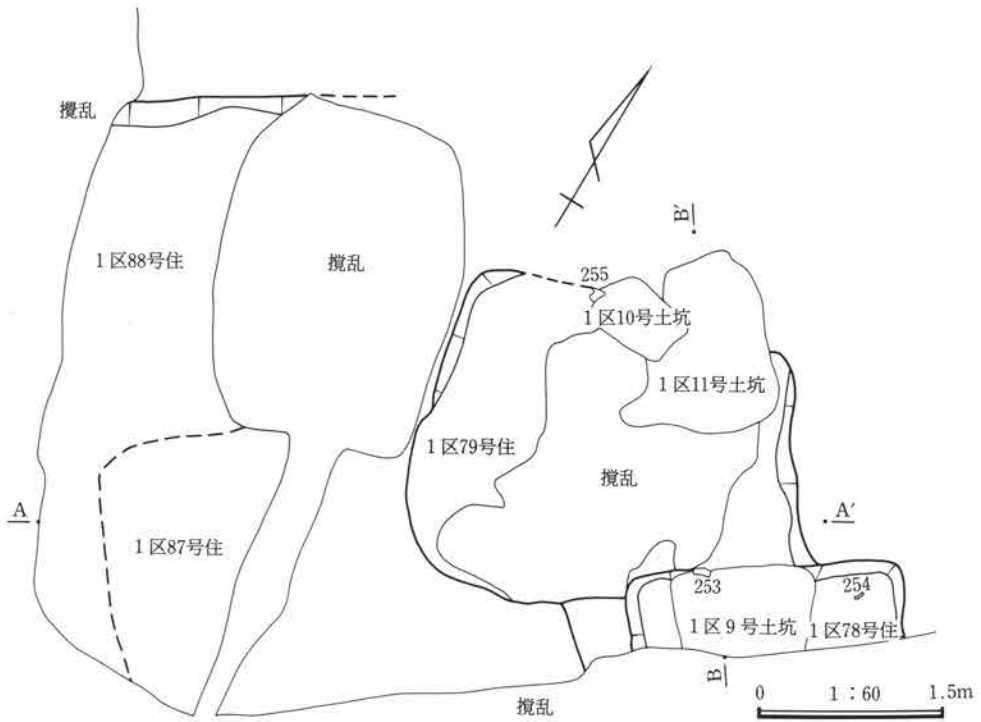
### 1区88号住居跡

1区J-24グリッドに位置し、1区79・87号住居跡と重複する。新旧関係は、埋土がほとんどないために不明である。南と西の壁は攪乱により確認できず、北壁の一部のみが確認できた。このため、平面形・規模・主軸方位は不明である。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。竈は、重複によるためか検出できなかった。

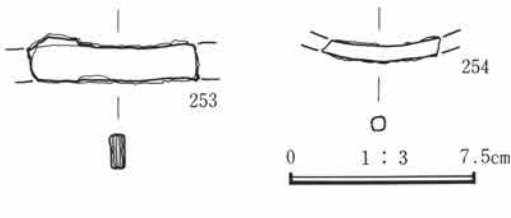


第158図 1区79・87・88号住居跡エレベーション、79号住居跡断面

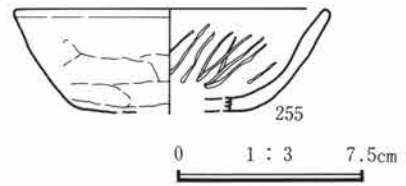




第159図 1区78・79・87・88号住居跡



第160図 1区78号住居跡出土遺物



第161図 1区79号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0253	？ 鉄製品	長：(67mm) 幅：13～14mm 厚：6mm		用途不明。鉄板を重ねて製造。	
0254	？ 鉄製品	長：(47mm) 幅：6mm 厚：6mm		用途不明。	

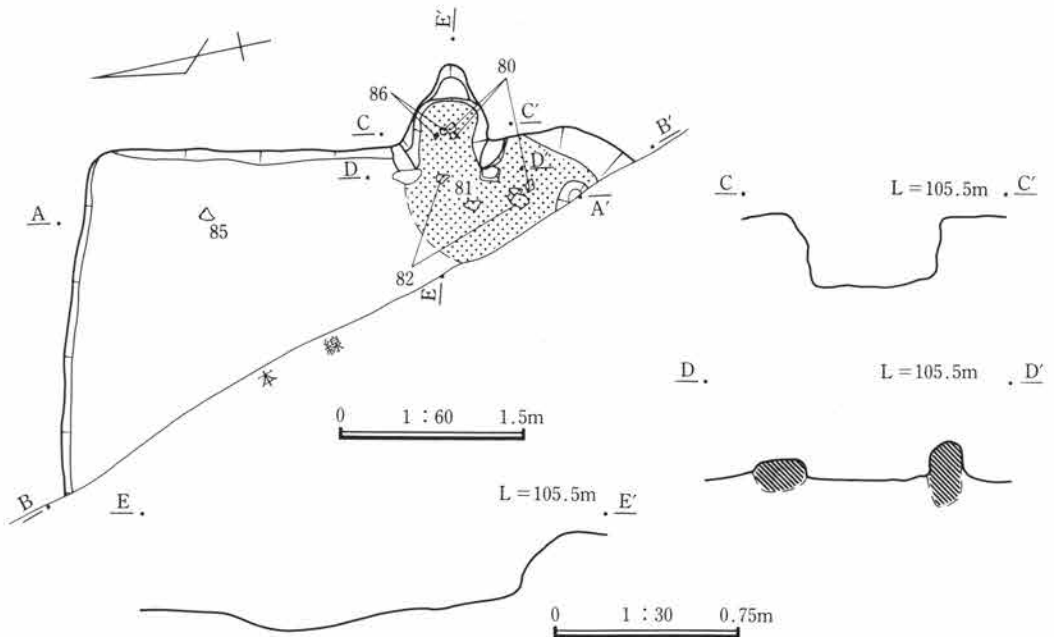
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0255	杯 土師器	器高：41mm 口径：[124mm] 底径：[62mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。橙・鈍い黄橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで、底部上半は暗文を施す。	

1区80号住居跡

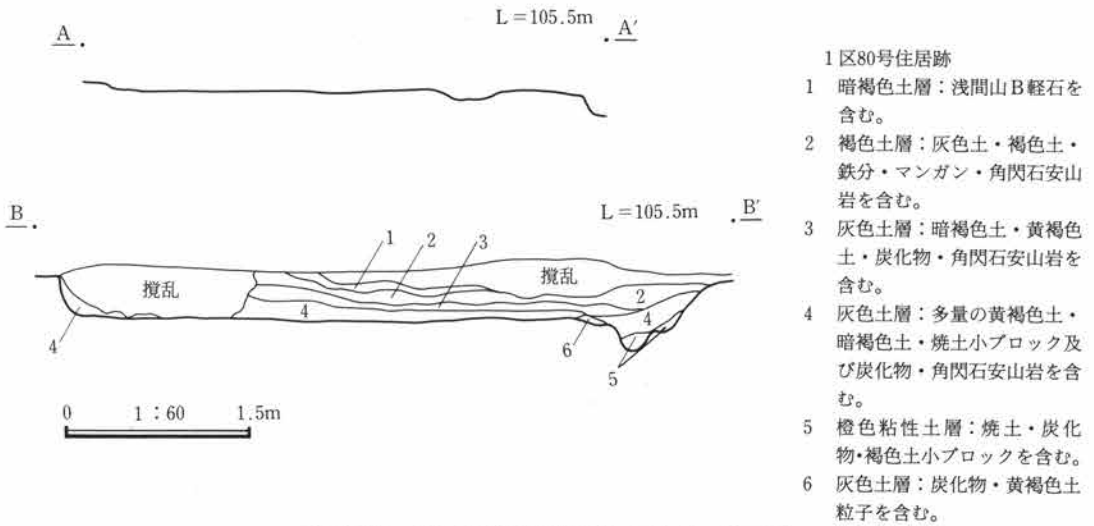
1区J-29グリッドに位置し、1区7・97・102・105・112・118号住居跡と重複する。セクションから判断すると、新旧関係は古い方から118→80→102→105号住居跡となる。また、7・97・112号住居跡との関係は不明である。当住居跡の南半分は、本線調査で確認されておらず、南半分は不明である。しかし、北西と南東隅が確認されているため、平面形は隅丸長方形を呈すると考えられる。規模は不明である。主軸方位はN-10.5°-Eである。残存壁高は2cm～30cmを測る。柱穴・壁溝は確認されない。貯蔵穴は、確認されない。南東隅に認められるピット状の落ち込みは、貯蔵穴としては小規模である。

竈は東壁南側に構築され、燃烧部は壁外に設ける。袖は両側に僅かに遺存しており、端部には砂岩切石の袖石が立てられている。燃烧部はやや角張っており、煙道との境には段差がある。遺物は、竈埋土内と竈前面から多く出土し、これらのうち土師器甕(80・81・82)と土師器杯(86)を図示している。

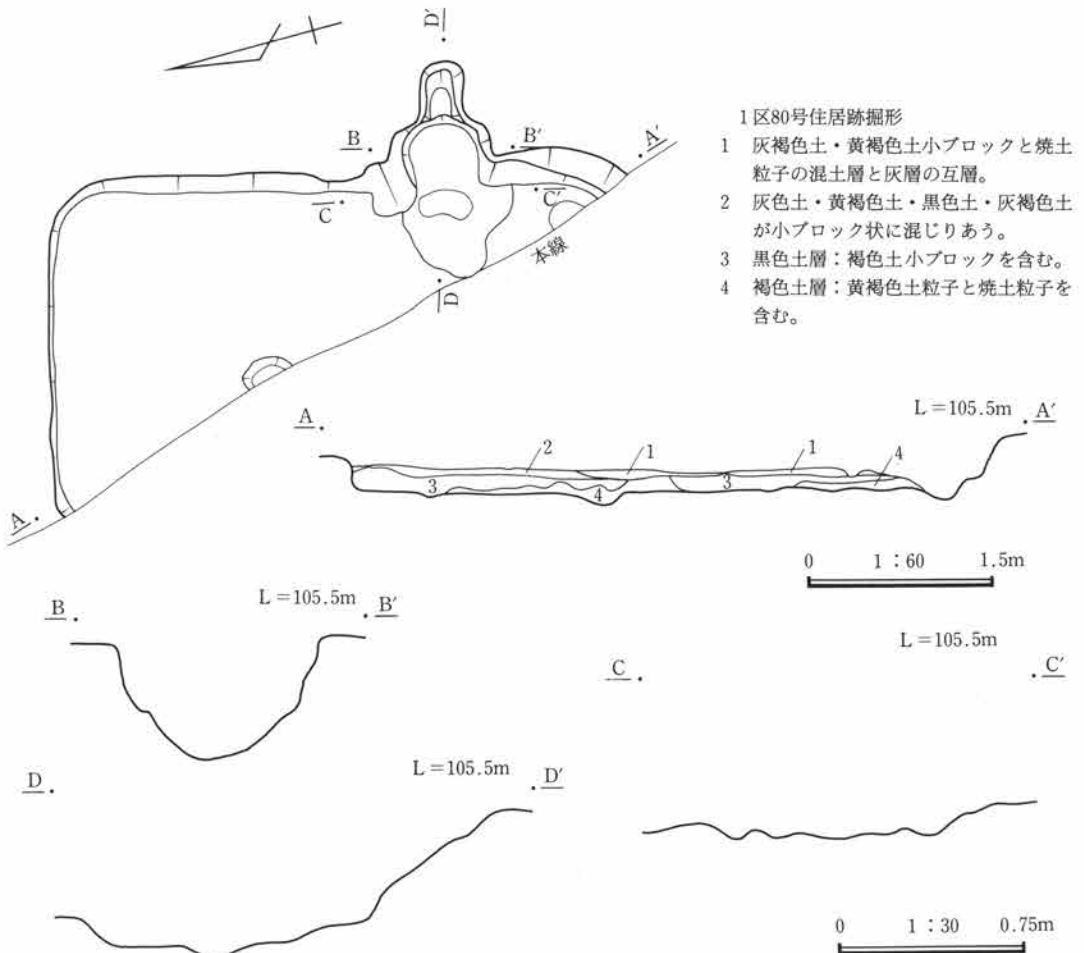
掘形は、住居内全体を掘り込むタイプであり、床下土坑は検出されていない。図示していないが、掘形からは鉄滓が出土している。



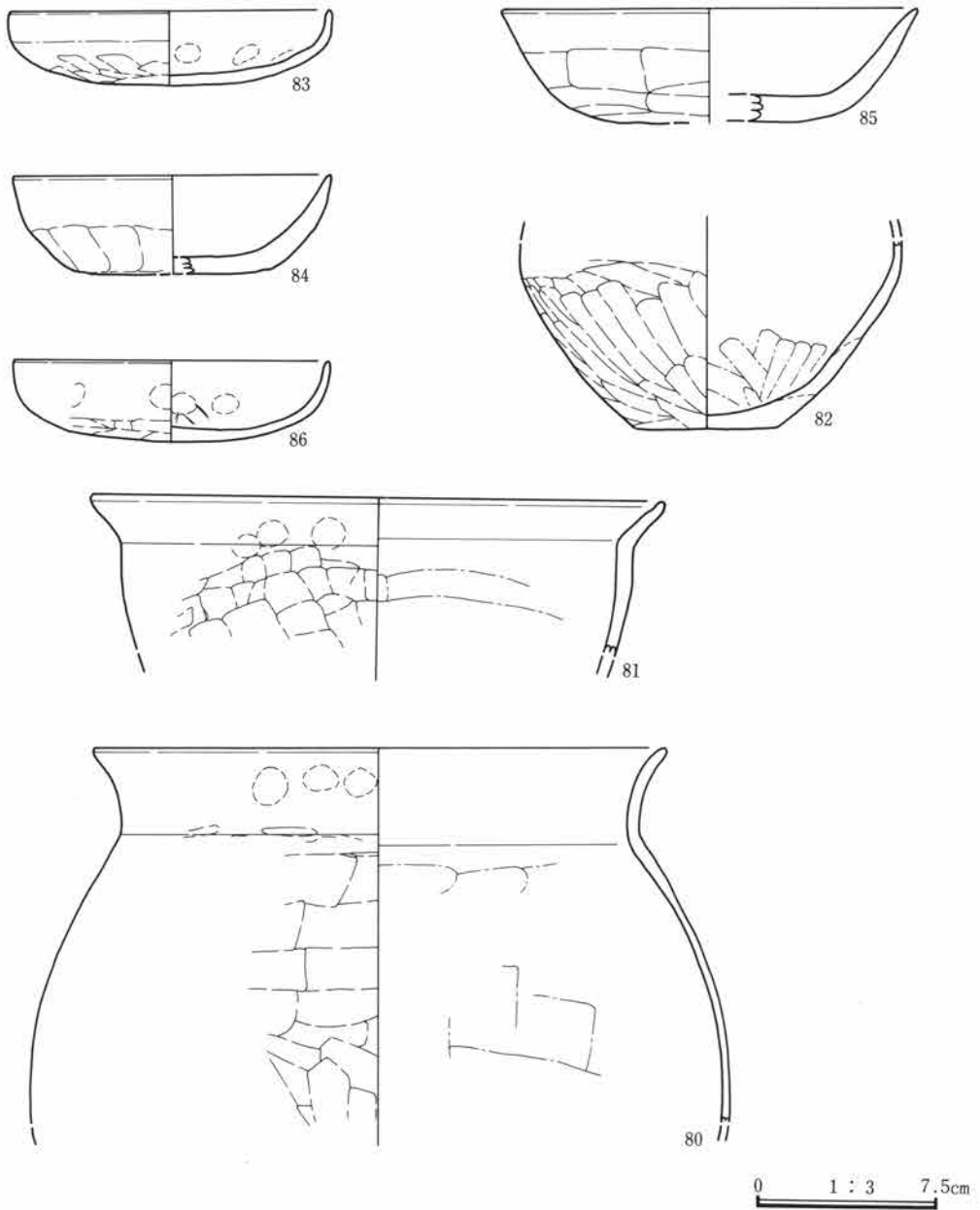
第162図 1区80号住居跡



第163図 1区80号住居跡断面・エレベーション



第164図 1区80号住居跡掘形



第165図 1区80号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0080	甕 土師器	器高：(152mm) 口径：[236mm] 底径：— 最大径：[288mm] 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上半は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上半は篋なで。	外面に油煙付着。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0081	甕 土器	器高：(63mm) 口径：[234mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。内面に油煙付着。	
0082	甕 土器	器高：(76mm) 口径：— 底径：59mm 胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	外面：胴部下半～底部は篋削り。内面：胴部下半～底部は篋なで。	内外面に油煙付着、外面は多量。二次炎を受けている。
0083	杯 土器	器高：30mm 口径：[132mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部はほぼ直立。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで、一部指頭痕が残る。	
0084	杯 土器	器高：40mm 口径：[130mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁部はほぼ直立。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0085	杯 土器	器高：46mm 口径：[170mm] 底径：[82mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	外面に油煙付着。
0086	杯 土器	器高：34mm 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。

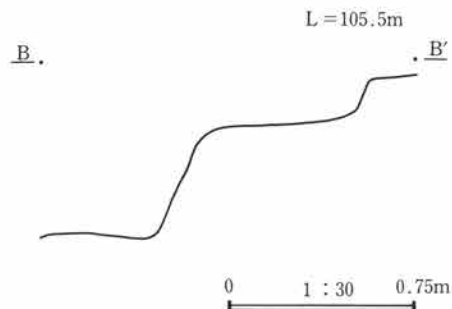
### 1区81号住居跡

1区J-27グリッドに位置し、1区82号住居跡と重複する。新旧関係は、セクションから当住居跡が新しいことが確認できた。当住居跡は、側道調査で東半分のみ確認されており、平面形・規模は不明である。主軸方位はN-3.5°-Eである。残存壁高は24cm～57cmを測る。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。

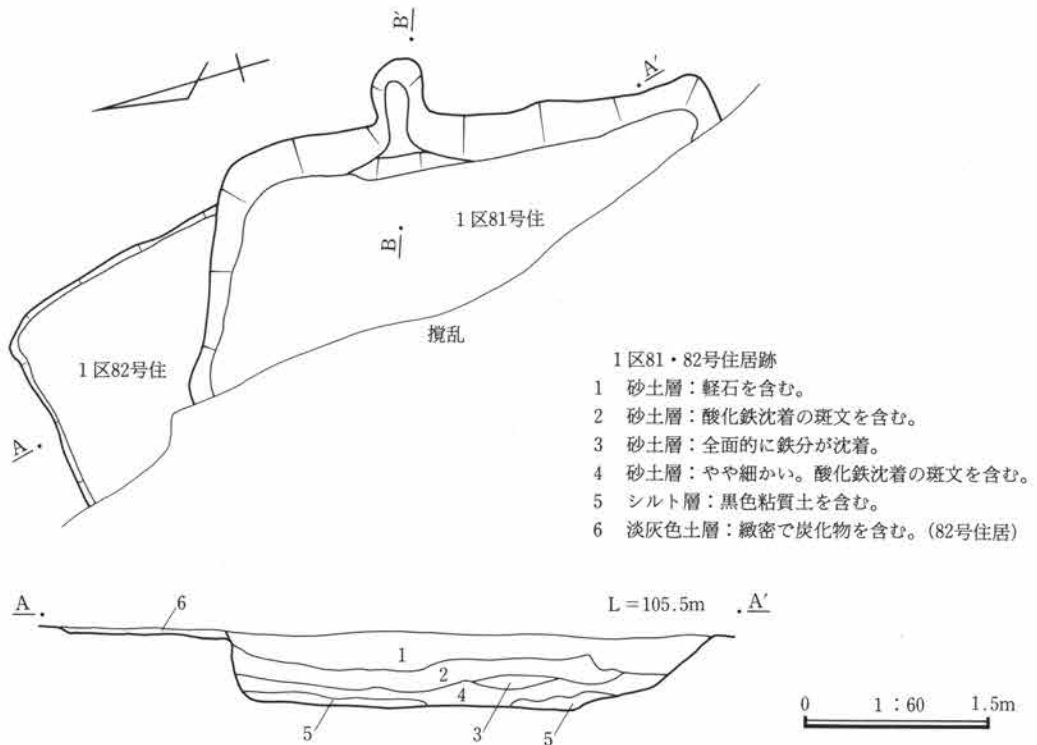
竈は東壁北寄りに構築されており、燃焼部は住居内に設けている。

### 1区82号住居跡

1区J-27グリッドに位置し、1区81号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡が古い。平面形は、南側が81号住居跡に破壊され、西側が検出されないために不明である。規模・主軸方位は不明である。残存壁高は3cm～9cmである。柱穴・壁溝・竈は確認されない。



第166図 1区81号住居跡竈エレベーション

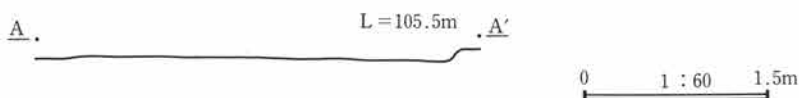


第167図 1区81・82号住居跡

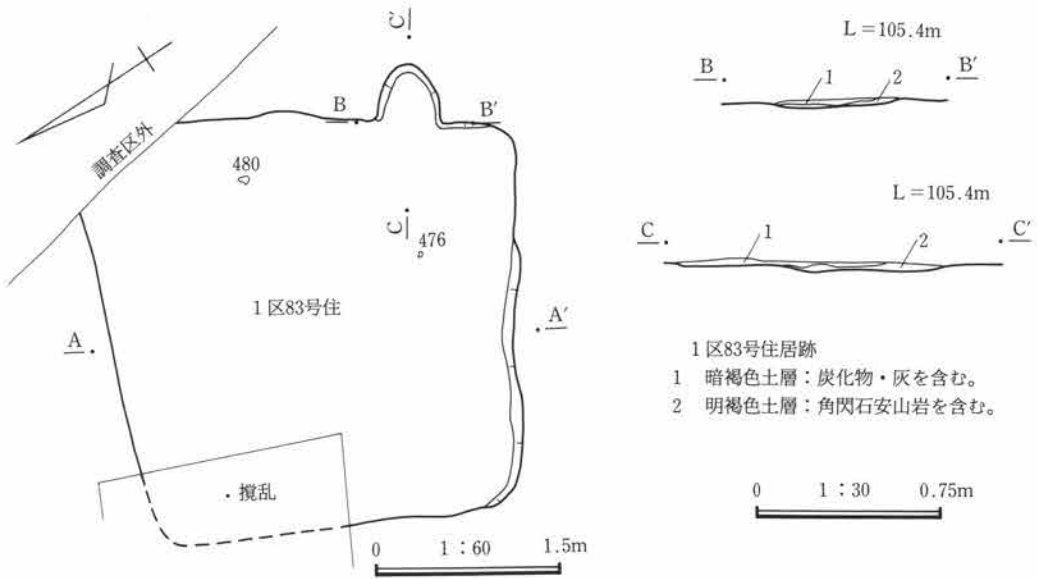
### 1区83号住居跡

1区I-28グリッドに位置し、1区84・85・86・90・96・122・123号住居跡と重複する。調査段階において新旧関係は、84・85・90・96号住居跡より古く、86・122・123号住居跡より新しいと判断された。住居跡の壁は、他住居との重複のため南壁西側が検出できたのみである。また、北西隅は攪乱によって破壊されている。床面の範囲から推定される平面形は隅丸方形であり、規模は3.3m×3.1mである。壁が検出できないため、主軸方位は不明である。南壁の残存壁高は10cm程度である。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認できない。遺物は小破片が多く、図示し得たものは土師器杯(476)と須恵器杯(477・480)のみである。

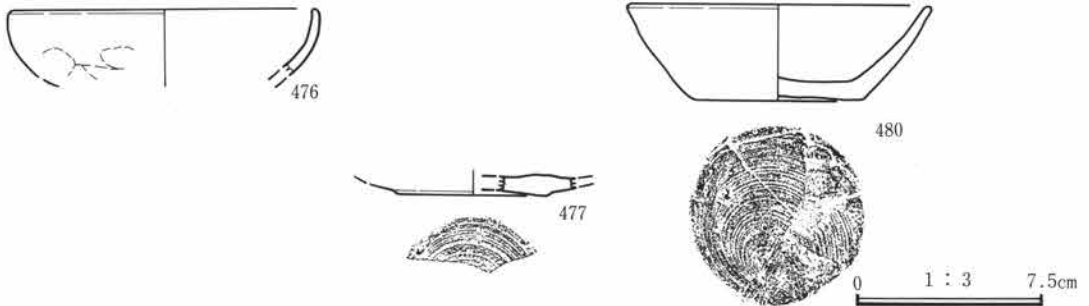
竈は東壁南側に構築されていたと推定される。他住居との重複のため、かろうじてくぼみが確認された程度である。



第168図 1区83号住居跡エレベーション



第169図 1区83号住居跡



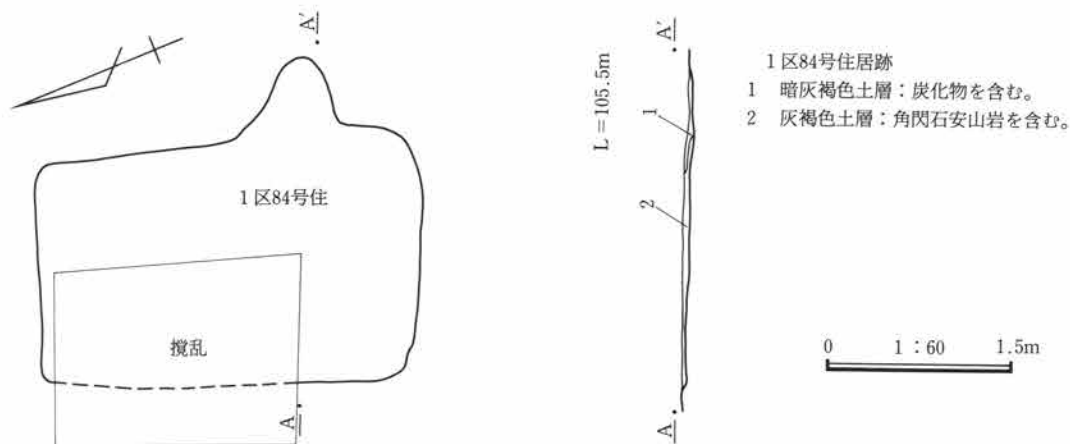
第170図 1区83号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0476	杯 土師器	器高：(26mm) 口径：[122mm] 底径：一口縁部～胴部%	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	胴部～口縁部はやや内湾。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで。	
0477	杯 須恵器	器高：(9mm) 口径：一底径：[63mm] 胴部下端～底部%	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り。内面：胴部下端～底部は回転なで。	
0480	杯 須恵器	器高：38mm 口径：[122mm] 底径：71mm 口縁部～底部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	

1区84号住居跡

1区J-29グリッドに位置する。1区83・85・86・90・122・123号住居跡と重複する。新旧関係は、85・90号住居跡より古く、83・86・122・123号住居跡より新しい。しかし、他の住居跡との関係は不明である。壁は重複のため確認できないが、床面の範囲により平面形は隅丸長方形を呈すると推定される。規模は2.0m×3.06mと推測される。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認できない。

竈の痕跡は、東南で確認された。



第171図 1区84号住居跡



第172図 1区84号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0478	杯 土師器	器高：(24mm) 口径：[112mm] 底径：一 口縁部～底部上端迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部～胴部は横なで、胴部に一部指頭痕が残り、底部上端は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで。	

1区85号住居跡

1区I-27グリッドに位置し、1区83・84・85・86・90・122・123号住居跡と重複する。新旧関係は、90号住居跡より古く、83・84・86・96・122・123号住居跡より新しい。東壁は調査区外であろう

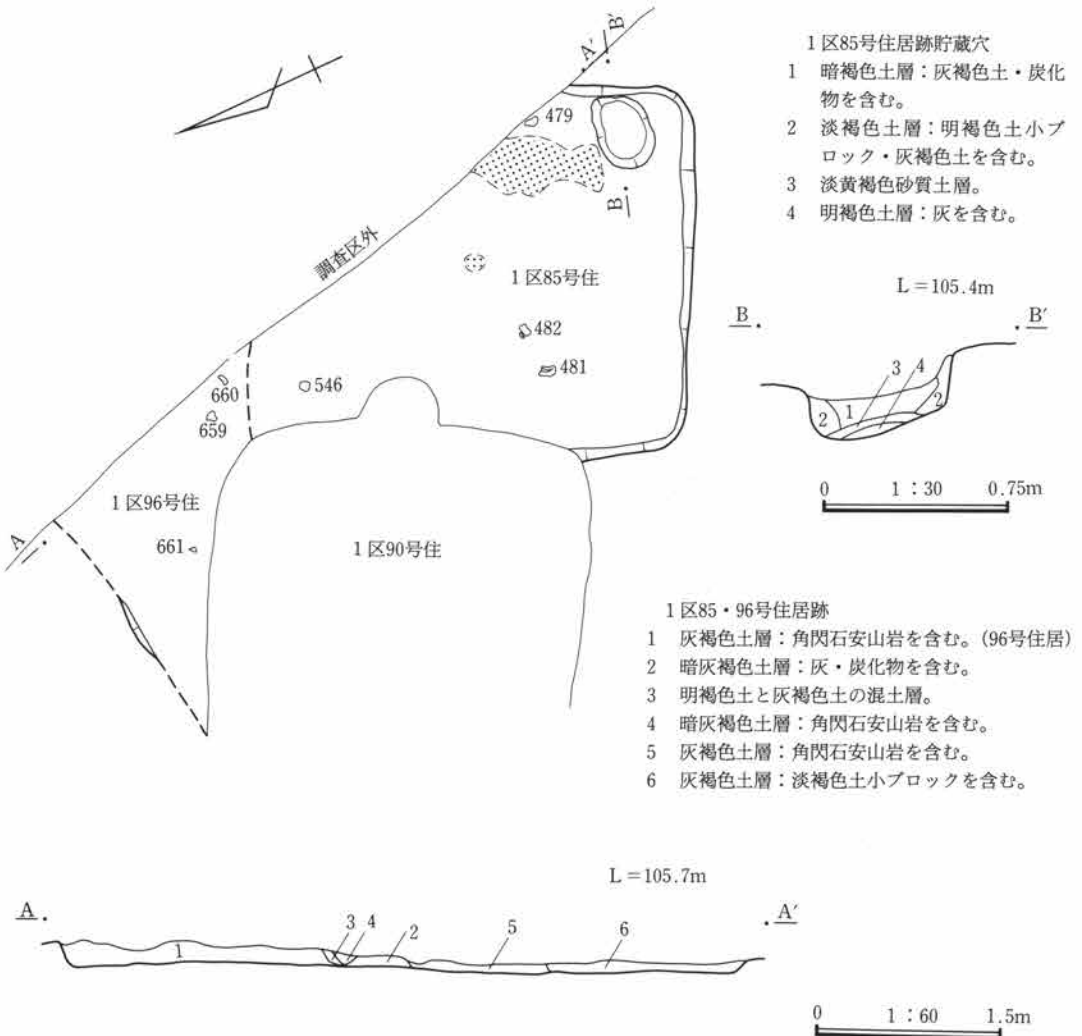


え、西壁は90号住居跡に壊されているため、南壁と北壁の一部のみ確認できた。しかし、南側のコーナーが検出できたため、平面形は隅丸長方形を呈することが確認できた。南北の規模は、3.5mである。南壁の残存壁高は2cm～11cmである。柱穴・壁溝は確認されない。貯蔵穴は南東隅に位置し、深さは12cmを測る。東壁南側の床面には灰の分布が認められ、付近に竈が構築されていたことが伺われる。

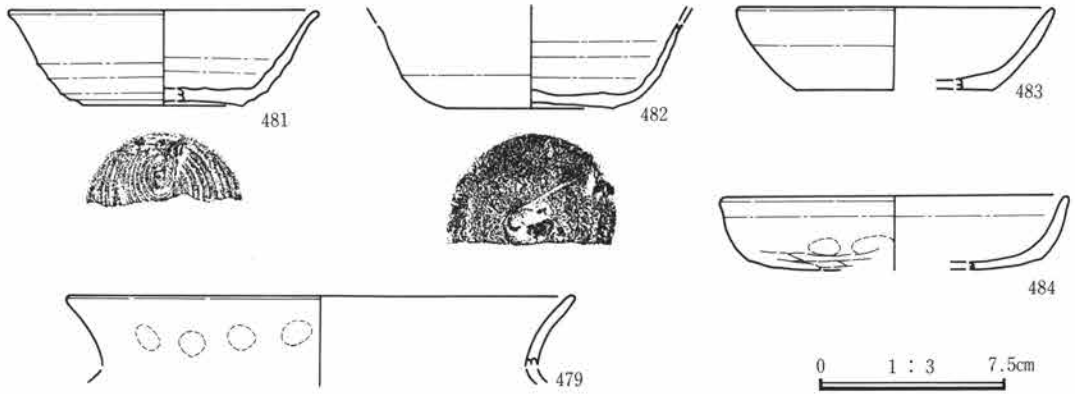
### 1区96号住居跡

1区I-29グリッドに位置し、1区83・85・86・90・93・122・123号住居跡と重複する。新旧関係は、85・90号住居跡より古く、83・93・122・123号住居跡より新しい。北壁の一部が確認されたのみであり、平面形・規模・主軸方位は不明である。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。

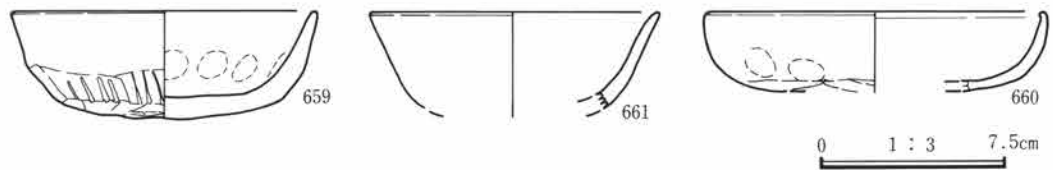
竈は、調査区外に存在すると考えられる。



第173図 1区85・96号住居跡



第174図 1区85号住居跡出土遺物



第175図 1区96号住居跡出土遺物

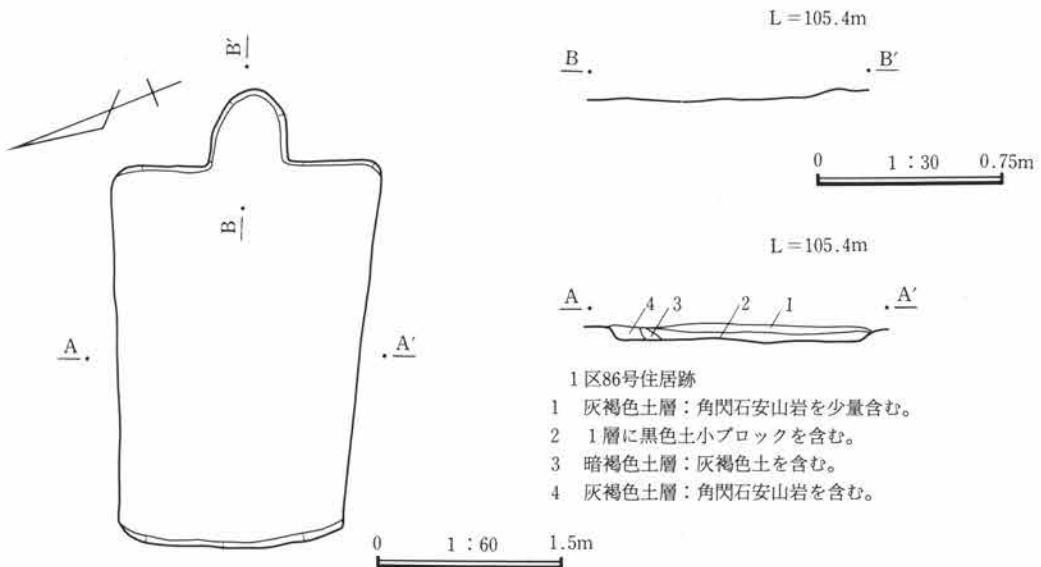
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0479	甕 土師器	器高：(26mm) 口径：[202mm] 底径：— 口縁部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残る。 内面：口縁部は横なで。	
0481	杯 須恵器	器高：37mm 口径：[124mm] 底径：[64mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面共に燻し。
0482	杯 須恵器	器高：(33mm) 口径：— 底径：68mm 口縁部下半～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転寛切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0483	杯 須恵器	器高：(33mm) 口径：[126mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転寛切り。内面：口縁部～底部上半は回転なで。	外面口縁部～底部は燻し。
0484	杯 土師器	器高：(30mm) 口径：[136mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は横なで、胴部に一部指頭痕が残る、底部は寛削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0659	杯 土師器	器高：43mm 口径：121mm 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部はやや広がる。丸底に近い平底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、胴部に一部指頭痕が残り、底部はなで。	外面底部に油煙付着。
0660	杯 土師器	器高：(31mm) 口径：[136mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は内湾しつつ立ち上がり、口縁端部は僅かに内湾。外面：口縁部～胴部は横なで、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで。	
0661	碗 須恵器	器高：(38mm) 口径：[116mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	外面に自然釉。

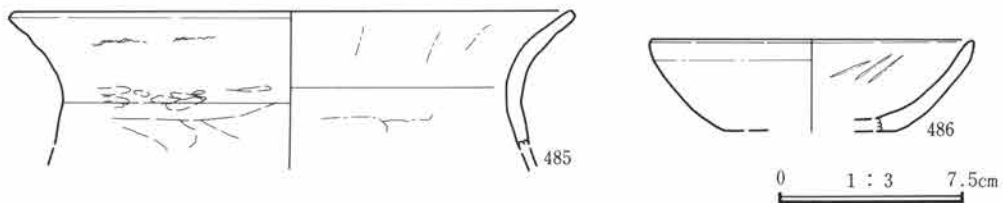
## 1区86号住居跡

1区I-28グリッドに位置し、1区83・84・85・90・96・122・123号住居跡と重複する。新旧関係は83・84・85・90・96号住居跡より古く、122・123号住居跡より新しい。南北壁は、平面図において表現されないが断面では確認されている。このため、平面形は、東西に長い隅丸長方形を呈することが判明した。規模は3.06m×1.92mを測り、主軸方位はN-15.5°-Eである。残存壁高は10cm～12cmである。柱穴・壁溝・貯蔵穴は、確認されない。遺物はいずれも小片のため、図示できたのは(485・486)の2点のみである。

竈は東壁中央に構築され、燃焼部は壁外に設けている。



第176図 1区86号住居跡



第177図 1区86号住居跡出土遺物

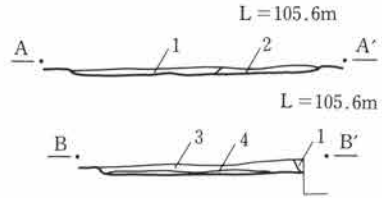
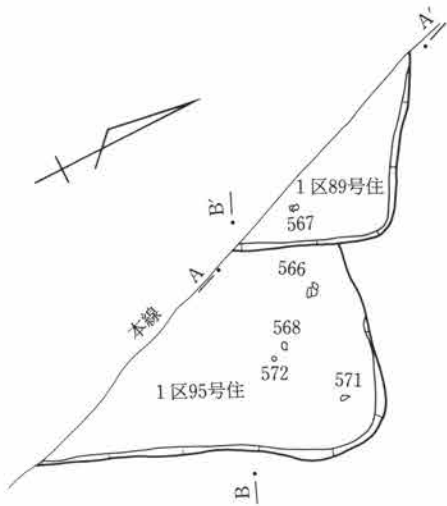
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0485	甕 土師器	器高：(54mm) 口径：[224 cm] 底径：一 口縁部～胴 部上端迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面に一部輪積み痕が残る。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	外面に油煙付着。
0486	杯 土師器	器高：(36mm) 口径：[128 mm] 底径：[70mm] 口縁部 ～底部上端迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部上端はなで。内面：口縁部～胴部は横なで、一部篋の傷があり、底部はなで。	

### 1区89号住居跡

1区J-31グリッドに位置し、1区95号住居、1区13・18号土坑と重複する。新旧関係は、95号住居跡埋土上に当号住居跡の床面が構築されていたため、当住居跡が新しいと考えられる。また、18号土坑が当住居跡下から確認され、13号土坑が当住居跡に破壊されていることから、当住居跡が新しいと考えられる。当住居跡は本線調査では確認されず、側道調査時に北東隅のみが確認された。このため、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は4cm程である。床面付近まで攪乱が及んでいるため、床は遺存が悪く凹凸が多い。柱穴・壁溝・貯蔵穴・竈は確認されない。

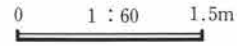
### 1区95号住居跡

1区J-30グリッドに位置し、1区89・105号住居跡と重複する。新旧関係は、当号住居跡の方が古い。また、105号住居跡との関係は、セクションから当住居跡が新しいことが確認されている。当住居跡は、側道調査時に北東隅のみが確認された。このため、平面形・規模・主軸方位は不明で、残存壁高は4cm～8cmである。柱穴・壁溝・竈は確認されない。埋土内からは、鉄製の分銅(572)が出土している。

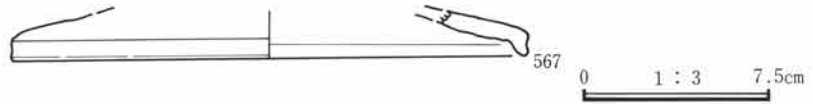


1区89・95号住居跡

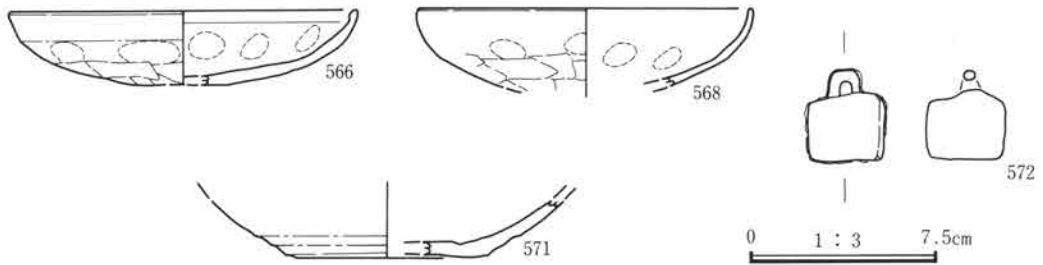
- 1 灰色土・褐色土・黄褐色土小ブロックの混土層：粘性のある土。(89号住居)
- 2 灰色土層：暗褐色土及び淡褐色土小ブロックを含む。(89号住居)
- 3 灰色土層：褐色土・鉄分・炭化物・焼土粒子を含む。
- 4 灰色土と黄褐色土の混土層。



第178図 1区89・95号住居跡



第179図 1区89号住居跡出土遺物



第180図 1区95号住居跡出土遺物

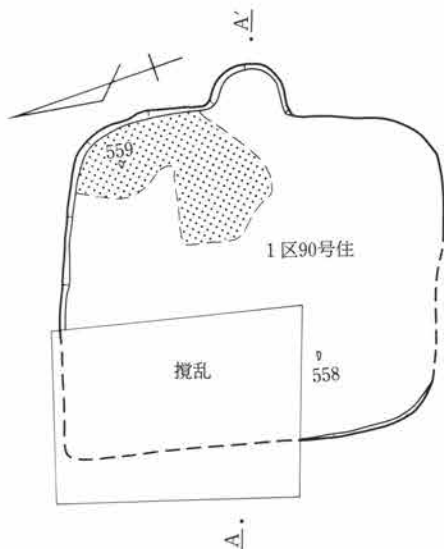
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0567	蓋 須恵器?	器高：(18mm) 口径：[206mm] 天井部下半～口縁部1/4	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	轆轤整形。返りは短い。内外面共に天井部下半～口縁部は回転で。	内面に油煙付着。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0566	杯 土師器	器高：29mm 口径：[140mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{3}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部は内湾。外面：口縁部～胴部は横なで、胴部に一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、胴部に一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0568	杯 土師器	器高：(31mm) 口径：[134mm] 底径：— 口縁部～底部上半 $\frac{3}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部は内湾しつつ広がる。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、胴部に指頭痕が残り、底部はなで。	
0571	杯 須恵器	器高：(22mm) 口径：— 底径：[80mm] 口縁部下半～底部 $\frac{3}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。回転。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部下半～胴部は回転なで、底部は回転篋削り後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0572	分銅 鉄製品	長：35mm 縦：30mm 横：31mm 高：27mm 重：129.2g		直方体の身に鉤がつく。	

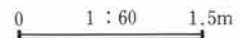
1区90号住居跡

1区I—28グリッドに位置し、1区83・84・85・86・96・122・123号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡が最も新しい。当住居跡付近は床面近くまで攪乱が及んでおり、壁は北東隅と南西隅が確認できたのみである。しかし、床面の範囲から南東隅を確認することができたため、平面形は隅丸長方形を呈し、規模は2.54m×3.2mを測るものと推定される。主軸方位はN-22°-Eを示し、北東隅と南西隅の残存壁高は2cm～4cmである。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認できない。

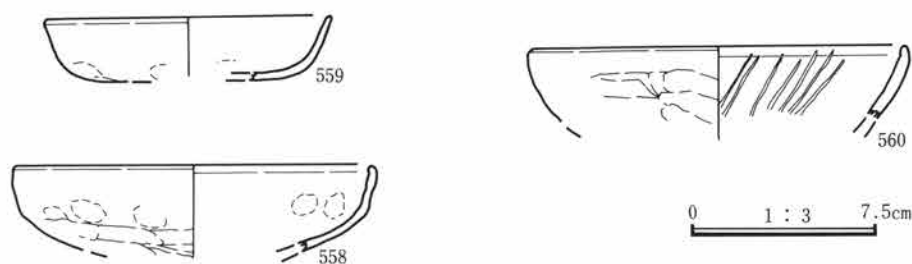
竈は東壁やや北寄りに構築され、燃焼部は壁外に設けていると考えられる。灰は、竈前面ではなく北東隅に分布している。図示していない遺物を含め、ほとんどの遺物が灰の周辺から出土している。



1区90号住居跡  
1 灰褐色土層：炭化物・焼土粒子を含む。



第181図 1区90号住居跡



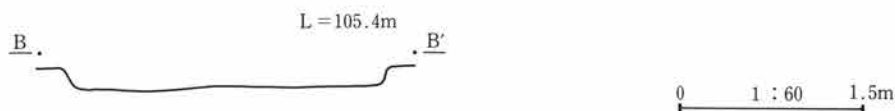
第182図 1区90号住居跡出土遺物

番号	器種 土師器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0558	杯 土師器	器高：(34mm) 口径：[142mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾する。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、胴部に一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0559	杯 土師器	器高：(25mm) 口径：[114mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、底部上半に一部指頭痕が残る。	
0560	杯 土師器	器高：(37mm) 口径：[148mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに内湾。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後、放射状暗文を施す。	

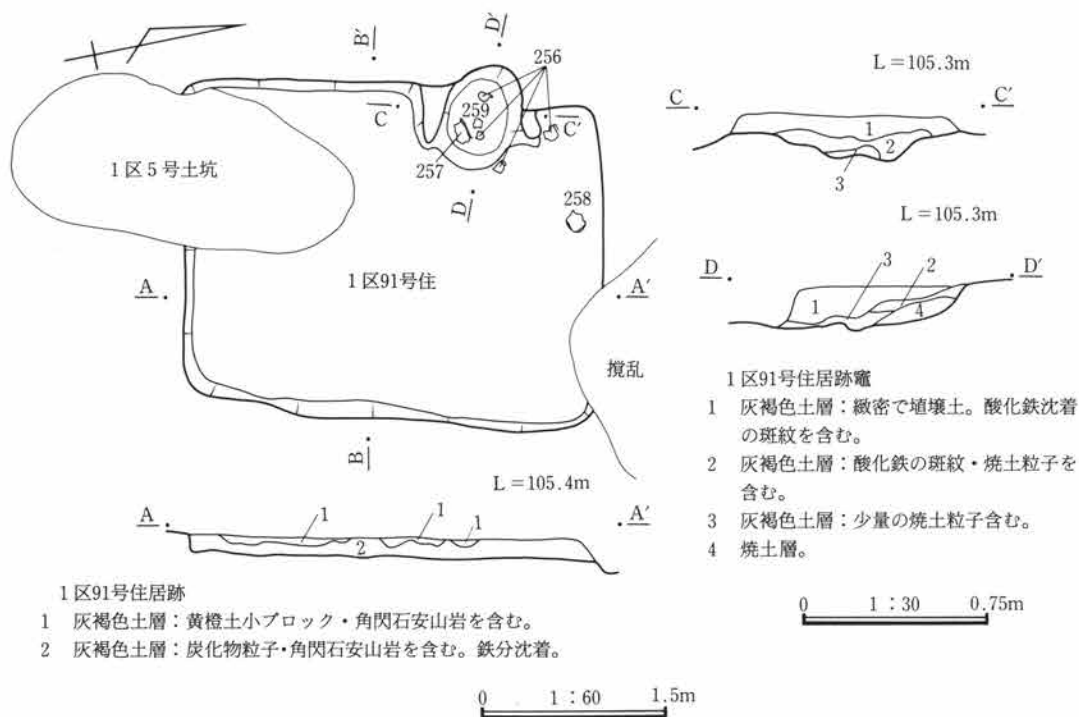
## 1区91号住居跡

1区I-26グリッドに位置し、1区4・5・10・15号土坑と重複する。新旧関係は、5・10号土坑より古く、4・15号土坑より新しい。北壁が確認できないが、平面形は隅丸長方形を呈すると考えられる。規模は東西が2.65mであり、南北は3.5mと推定される。主軸方位はN-12.5°-Eを示し、残存壁高は8cm～19cmを測る。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。

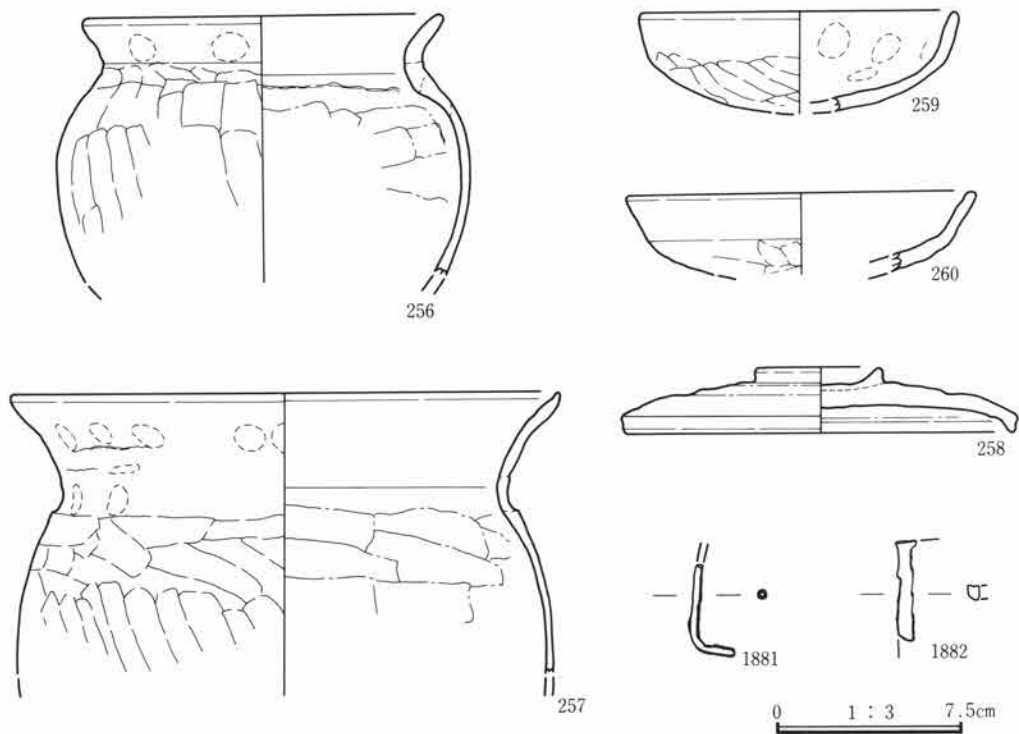
竈は東壁南側に構築されている。遺物は、竈内から土師器甕と杯(257・259)が、竈内と南東隅から土師器甕(256)が出土している。また、南壁付近と推定される場所からは須恵器蓋(258)が出土している。



第183図 1区91号住居跡エレベーション



第184図 1区91号住居跡



第185図 1区91号住居跡出土遺物



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0256	甕 土師器	器高：(103mm) 口径：[140mm] 底径：— 最大径：[164mm] 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	口縁部は「く」字状に外反。最大径は胴部上半。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部は篋なで、一部指頭痕・輪積痕が残る。	内外面に油煙付着。
0257	甕 土師器	器高：(110mm) 口径：[220mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上半は篋削り、一部指頭痕が残る。内面：口縁部は横なで、胴部上半は篋なで、一部指頭痕が残る。	内面に油煙付着。
0258	蓋 須恵器	器高：26mm 口径：[156mm] つまみ径：50mm つまみ部～口縁部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	ボタン状つまみ。つまみ部は貼り付け。返りは短い。内外面共に天井部～口縁部は回転なで。	
0259	杯 土師器	器高：(39mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	口縁部は直線的に広がる。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで、一部指頭痕が残る。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0260	杯 土師器	器高：(31mm) 口径：[138mm] 底径：— 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は直線的に広がる。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部上半は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで。	
1881	? 鉄製品	長：(35mm) 直径：3mm		用途不明。芯は空洞。	
1882	角釘 鉄製品	長：(40mm) 幅：5～8mm 厚：5mm		角釘の一部。	

## 1区92号住居跡

1区H-30グリッドに位置し、1区93・94号住居跡と重複する。調査時の所見では、当住居跡が最も新しいとされている。調査区の関係から南西隅が検出されたのみであり、平面形・規模・主軸方位は不明である。南西隅の残存壁高は、2cm程度と非常に浅い。壁溝は確認されない。

## 1区93号住居跡

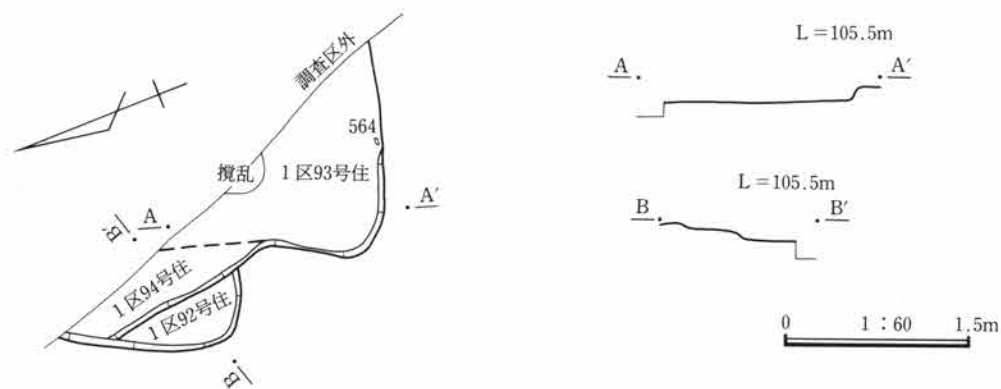
1区H-29グリッドに位置し、1区92・94・96・122・123号住居跡と重複する。調査時の所見によると、新旧関係は122・123号住居跡より新しく、92・94・96号住居跡より古い。調査区と重複の関係から、南西隅が検出されたのみであり、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は10cmを測る。壁溝は確認されない。

## 1区94号住居跡

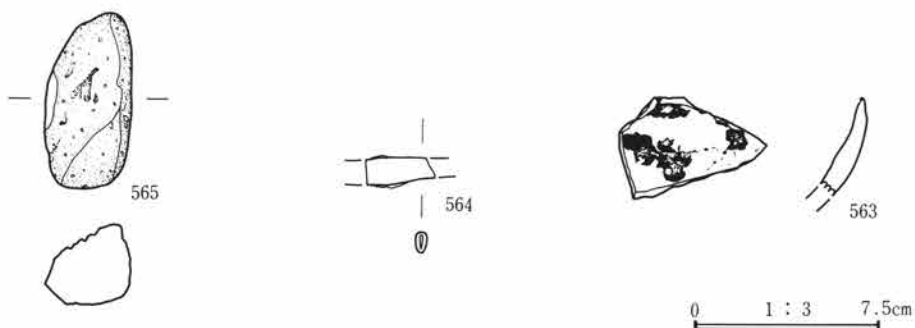
1区H-30グリッドに位置し、1区92・93号住居跡と重複する。新旧関係は、調査時の所見では93

第IV章 発見された遺構と遺物

号住居跡より新しく、92号住居跡より古いとされている。調査区と重複の関係から西壁の一部が検出できたのみであり、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は10cmを測る。壁溝は確認されない。



第186図 1区92・93・94号住居跡



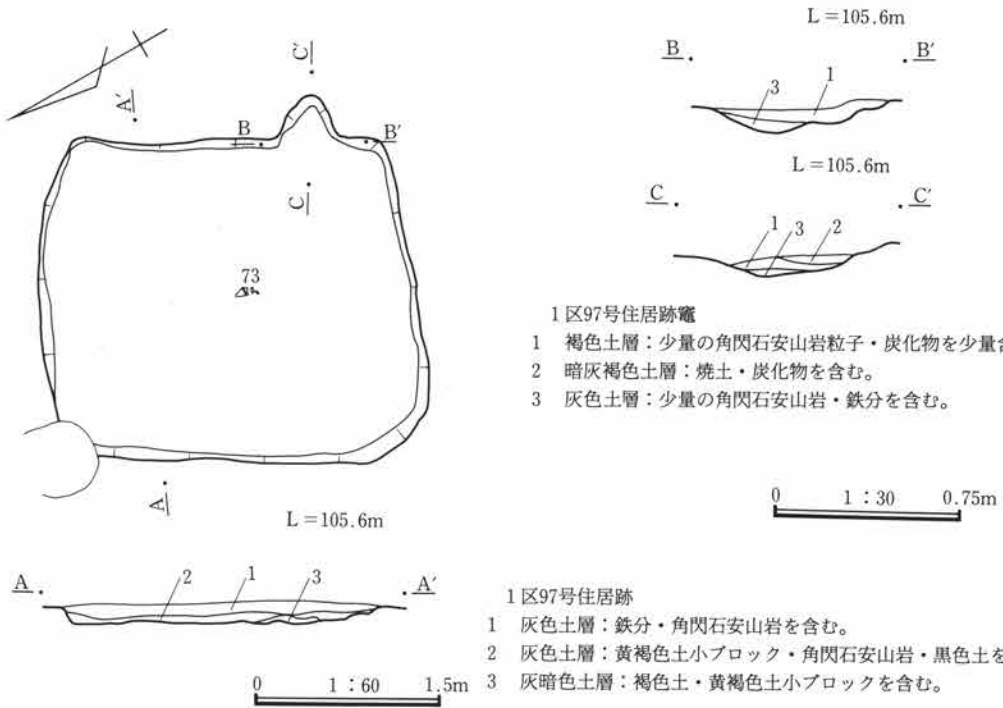
第187図 1区93号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0563	杯 土師器	器高：— 口径：— 底径：— — 口縁部～胴部½	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い橙。	外面：口縁部は横なで、胴部はなで。内面：口縁部～胴部は横なで。	内面にタールor漆付着。
0564	刀子 鉄製品	長：(28mm) 幅：8～11mm 厚：4mm		刀子の一部。鉄板を折り曲げて製作。	
0565	用途不明 石製品	長：70mm 幅：31mm 厚：34mm 重：42.6g	二ツ岳軽石。	一部擦れている。	

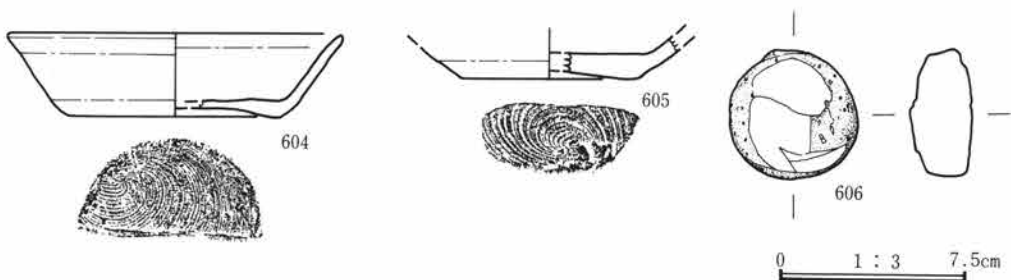
1区97号住居跡

1区J-30グリッドに位置し、1区80・103・107・112・118号住居跡、ピットと重複する。新旧関係は、103・107・112・118号住居跡より新しく、ピットより古い。なお、80号住居跡との関係は不明である。平面形は、正方形に近い隅丸長方形を呈し、規模は2.52m×2.95mを測り、主軸方位はN-27.5°-Eである。当住居跡周辺は遺存が悪く、残存壁高は1cm~10cmである。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認できない。出土遺物は少なく、図示できたものは須恵器杯(604・605)、須恵器皿(73)、用途不明石製品(606)の4点のみである。これらのうち、73の須恵器皿は1区3号住居跡と、604の須恵器杯は1区3・80号住居跡との接合関係がある。

竈は東壁南側に構築され、燃焼部は壁外に33cm張り出している。



第188図 1区97号住居跡



第189図 1区97号住居跡出土遺物

第IV章 発見された遺構と遺物

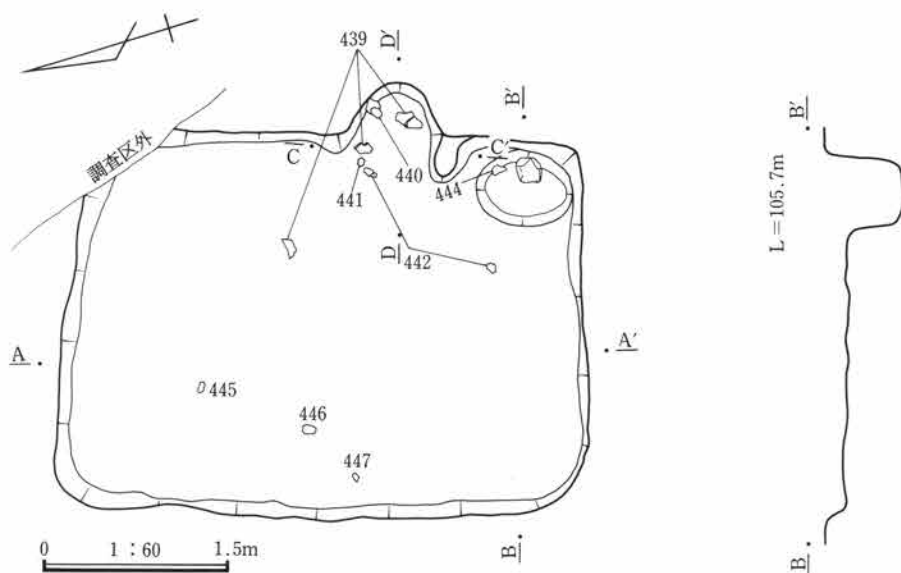
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0604	杯 須恵器	器高：33mm 口径：[134mm] 底径：[84mm] 口縁部～底部%	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面： 口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切 り。内面：口縁部～底部は回転など。	
0605	杯 須恵器	器高：(18mm) 口径：一 底 径：[72mm] 胴部下半～底 部%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転 などで、底部は回転糸切り。内面：胴部下半 ～底部は回転など。	外面胴部下端に タール又は漆付 着。
0606	用途不明 石製品	長：51mm 幅：49mm 厚：26 mm 重：32.7g	ニツ岳軽石。	2面擦れている。	

2区98号住居跡

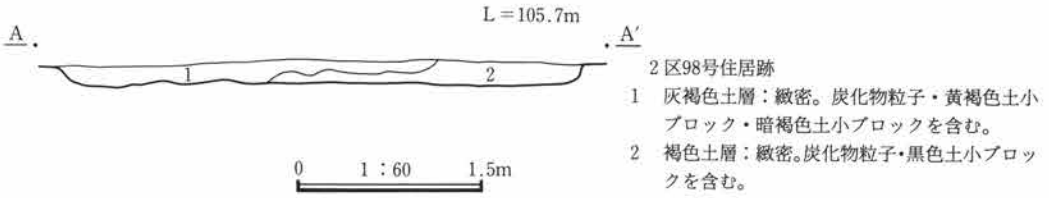
2区J-02グリッドに位置し、2区106・129号住居跡と重複する。新旧関係は、いずれも当住居跡が新しい。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は3.4m×4.2mを測り、主軸方位はN-15.5°-Eである。当遺跡においては比較的遺存がよく、残存壁高は8cm～18cmである。柱穴・壁溝は確認されない。貯蔵穴は南東隅に位置し、深さは50cmである。貯蔵穴内からは、須恵器碗(444)が出土している。また、覆土内からは白の碁石(449)が出土している。

竈は東壁南寄りに構築され、燃焼部は壁外に40cm張り出している。竈両側には、僅かに袖が遺存している。竈内出土の遺物は多く、須恵器碗(442)、須恵器杯(441)、須恵器甕(439)が出土している。

掘形は住居跡全体を浅く掘り下げている程度である。また、竈北側には袖石の抜き取り穴が確認された。

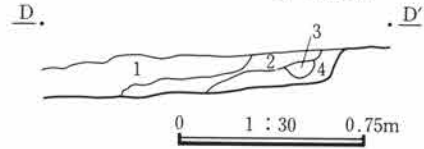
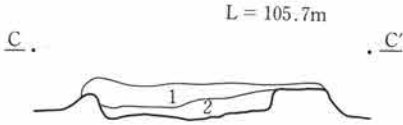


第190図 2区98号住居跡



2区98号住居跡

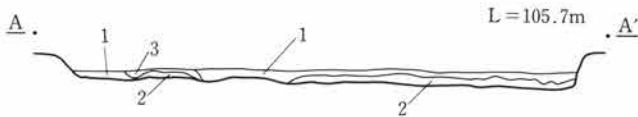
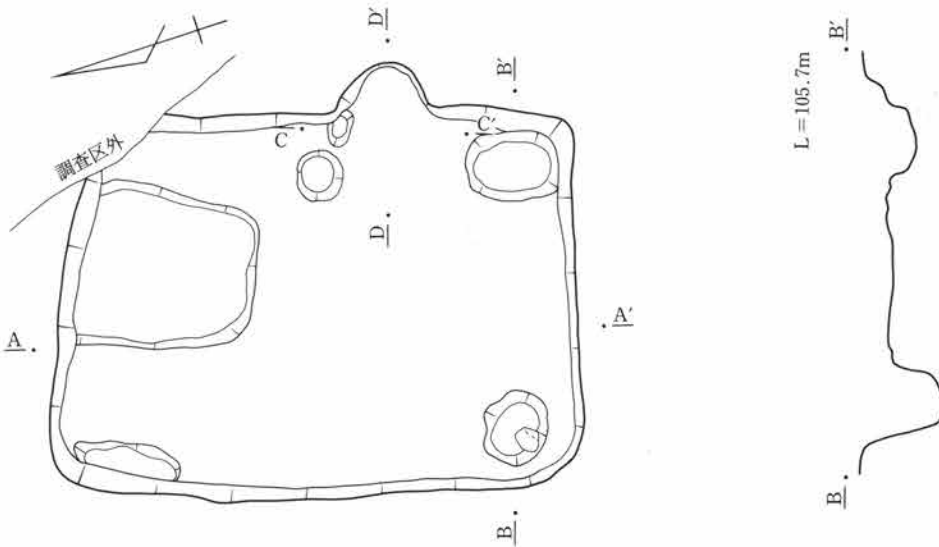
- 1 灰褐色土層：緻密。炭化物粒子・黄褐色土小ブロック・暗褐色土小ブロックを含む。
- 2 褐色土層：緻密。炭化物粒子・黒色土小ブロックを含む。



2区98号住居跡竈

- 1 灰褐色土層：緻密。黄褐色土小ブロックを含む。
- 2 灰褐色土層：炭化物・焼土粒子を含む。
- 3 灰褐色土層：多量の焼土・炭化物を含む。
- 4 灰褐色土層：少量の焼土粒子を含む。

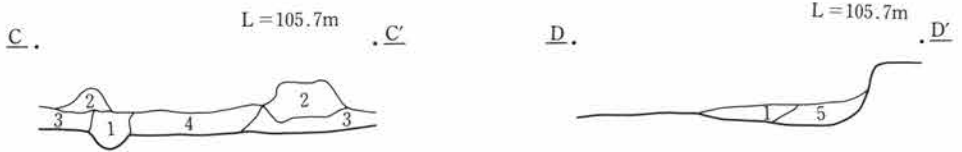
第191図 2区98号住居跡断面・竈断面



2区98号住居跡掘形

- 1 黒褐色土層：浅間山C軽石・淡灰褐色土小ブロックを含む。
- 2 黒褐色土層：浅間山C軽石・黒褐色土小ブロックを含む。
- 3 淡灰褐色土層：少量の黒褐色土小ブロックを含む。

第192図 2区98号住居跡掘形

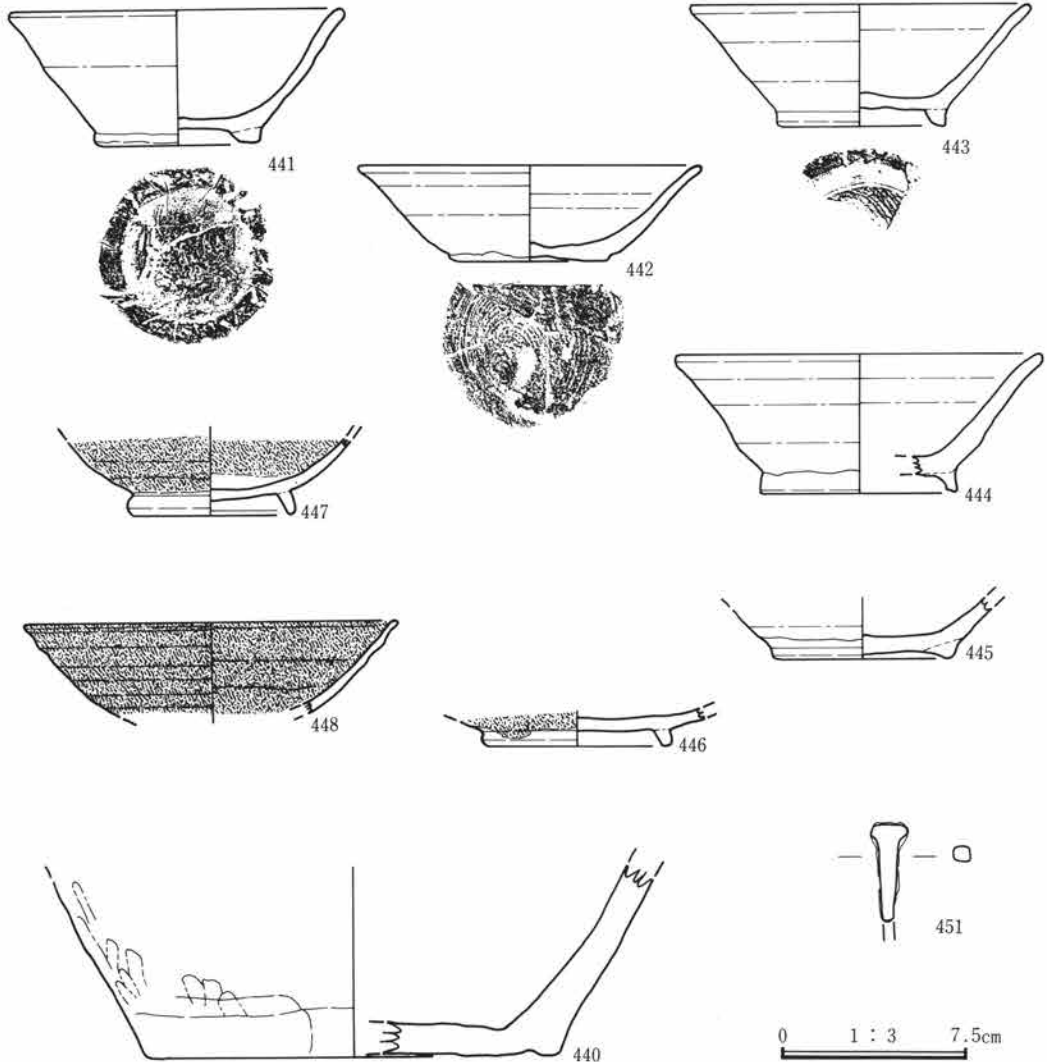


2区98号住居跡電掘形

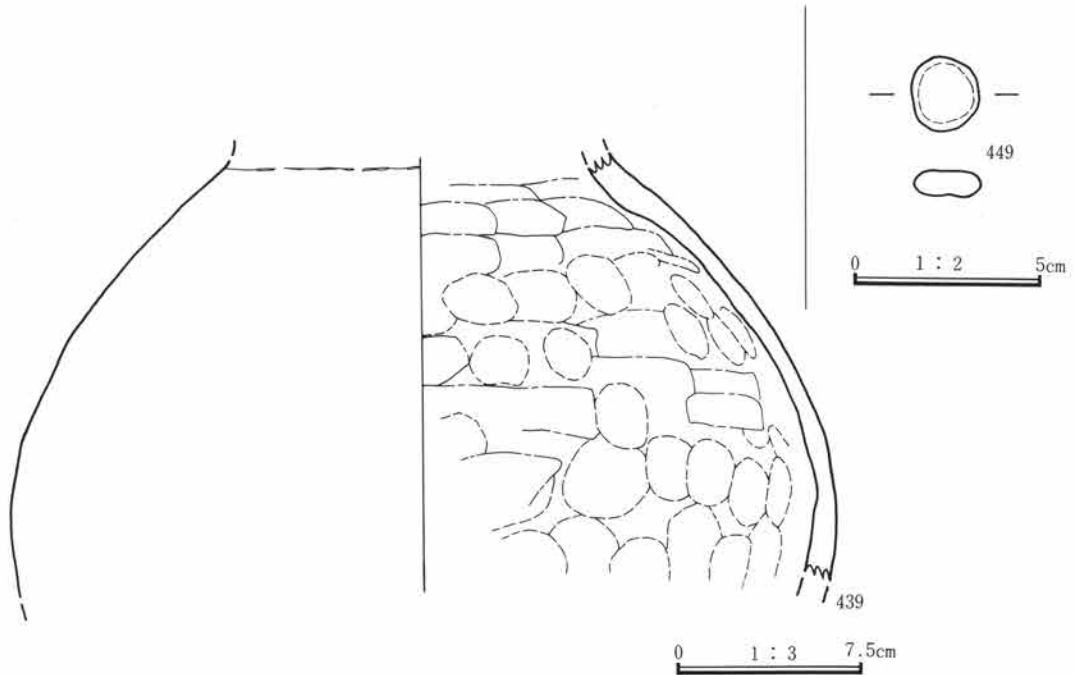
- 1 灰褐色土層：焼土・灰を含む。
- 2 灰褐色土層：淡黄褐色土小ブロック・炭化物・焼土粒子を含む。
- 3 黒褐色土層：浅間山C軽石・暗褐色土小ブロックを含む。
- 4 黒色粘質土層：焼土・黄褐色土小ブロックの混土層。
- 5 黄褐色土と灰褐色土の混土層。

0 1 : 30 0.75m

第193図 2区98号住居跡電掘形断面



第194図 2区98号住居跡出土遺物①



第195図 2区98号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0439	甕 須恵器	器高：(170mm) 口径：— 底径：— 頸部～胴部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	最大径は胴部中央。内外面共に胴部は叩き 後など。内面に叩き目が残る。	
0440	甕 須恵器	器高：(76mm) 口径：— 底 径：[166mm] 胴部下半～底 部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	胴部は直線的に広がる。外面：胴部下半は 横など、底部は凹凸が多い。内面：胴部下 半は窠など、底部はなで。	外面に油煙付着。
0441	杯 須恵器	器高：38mm 口径：[136mm] 底径：67mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元・一 部酸化。やや軟質。灰 白・橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がり、口縁端部はやや外反。外面：口 縁部～胴部は回転など、底部は回転糸切り。 内面：口縁部～底部は回転など。	二次炎を受けてお り、酸化されてい る部分がある。
0442	椀 須恵器	器高：53mm 口径：135mm 底径：68mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元・一 部酸化。軟質。灰白・ 橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁部～胴部は回転など、底部は回 転糸切り後、高台貼り付け。内面：口縁部 ～底部は回転など。	二次炎を受けてお り、酸化されてい る部分がある。
0443	椀 須恵器	器高：48mm 口径：[134mm] 底径：[67mm] 口縁部～高 台部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、 口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～底 部は回転など、底部は回転糸切り後、高台 貼り付け。内面：口縁部～底部は回転など。	内外面に油煙付 着。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0444	椀 須恵器	器高：55mm 口径：[146mm] 底径：[78mm] 口縁部～高 台部迄	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還元。 やや硬質。淡黄。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、 口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴 部は回転なで、底部は高台貼り付け。内面： 口縁部～底部は回転なで。	内面に油煙付着。
0445	椀 須恵器	器高：(24mm) 口径：一 底 径：[70mm] 胴部下半～底 部迄	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部は直線的に広がる。 外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り 後、高台貼り付け。内面：胴部～底部は回 転なで。	内外面共に胴部 ～底部は燻し。
0446	皿 灰釉陶器	器高：(15mm) 口径：一 底 径：76mm 胴部下端～高台 部迄	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は丁寧な回転な で、底部は高台貼り付け後丁寧ななで。内 面：胴部下端～底部は丁寧ななで。	
0447	椀 灰釉陶器	器高：(31mm) 口径：一 底 径：[64mm] 胴部～高台部 迄	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	轆轤整形。胴部はやや内湾しつつ広がる。 外面：胴部は丁寧な回転なで、底部は高台 貼り付け後丁寧ななで。内面：胴部～底部 は丁寧な回転なで。	
0448	椀 灰釉陶器	器高：(36mm) 口径：[148 mm] 底径：一 口縁部～胴 部迄	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ 広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共 に口縁部～胴部は丁寧な回転なで。	
0449	碁石	直径：20mm 厚さ：7mm 重 さ：3.2g	粗粒安山岩。	白石。	
0451	角釘 鉄製品	長：(38mm) 幅：5～14mm 厚：5～11mm		角釘の頭と胴の一部。	

2区99号住居跡

2区I-03グリッドに位置し、2区100・101・129号住居跡と重複する。新旧関係は、100・129号住居跡より古い、101号住居跡との関係は不明である。当住居跡は、調査区の東端に位置するために南西隅の一部が検出されたにすぎず、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は12cm前後である。壁溝は確認されない。

竈は調査区外に存在すると考えられる。

2区100号住居跡

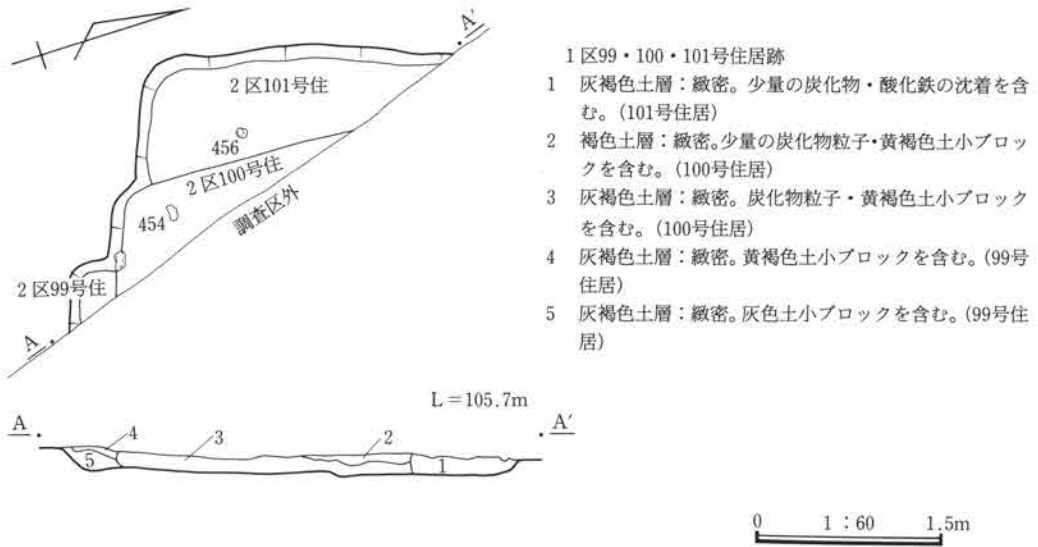
2区I-03グリッドに位置し、2区99・101・129号住居跡と重複する。新旧関係は、99・101・129号住居跡より新しい。当住居跡は、調査区の東端に位置するために南西隅の一部が検出されたにすぎず、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は11cmを測り、壁溝は確認されない。当遺跡では、竈は東壁に構築されることが殆どであることから、竈は調査区外に存在すると考えられる。



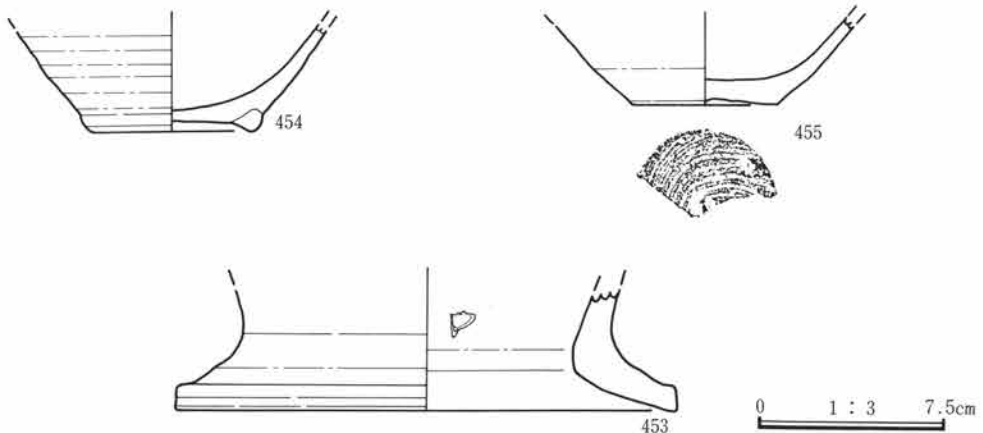
2区101号住居跡

2区I-03グリッドに位置し、2区99・100・129・132号住居跡、2区43号土坑と重複する。新旧関係は、100号住居跡より古く、129・131号住居跡、43号土坑より新しい。なお、99号住居跡との関係は不明である。当住居跡は、調査区の東端に位置するために南西隅と西壁の一部が検出されたにすぎず、平面形・規模・主軸方位は不明である。壁溝は確認されず、残存壁高は6cm～11cmを測る。

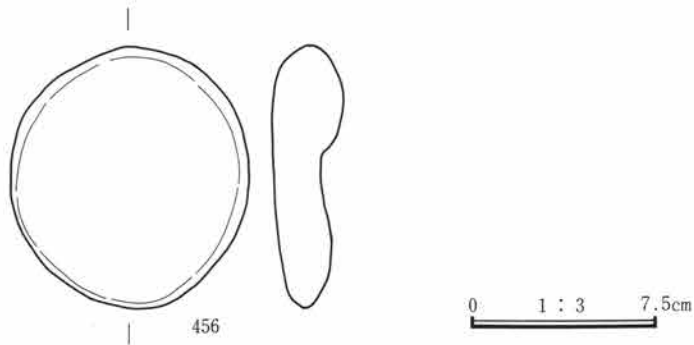
当遺跡では、竈は東壁に構築されることがほとんどであることから、竈は調査区外に存在すると考えられる。



第196図 2区99・100・101号住居跡



第197図 2区100号住居跡出土遺物



第198図 2区101号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0453	甕	器高：(47mm) 口径：一底径：[200mm] 胴部下端～底部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。浅黄橙。	底部は「ハ」字状にひろく。内面に穿孔有。内外面共に胴部下端～底部は回転なで。	内面に油煙付着。
0454	椀 須恵器	器高：(42mm) 口径：一底径：68mm 胴部～高台部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰・橙。	轆轤整形。胴部は直線的に広がる。外面：胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部～底部は回転なで。	外面に油煙付着。二次炎を受けている。内面は燻し。
0455	杯 須恵器	器高：(35mm) 口径：一底径：[60mm] 胴部～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：胴部～底部は回転なで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0456	用途不明 石製品	長：102mm 幅：95mm 厚：27mm 重：384.0g	粗粒安山岩。	1面擦れている。	

### 1区102号住居跡

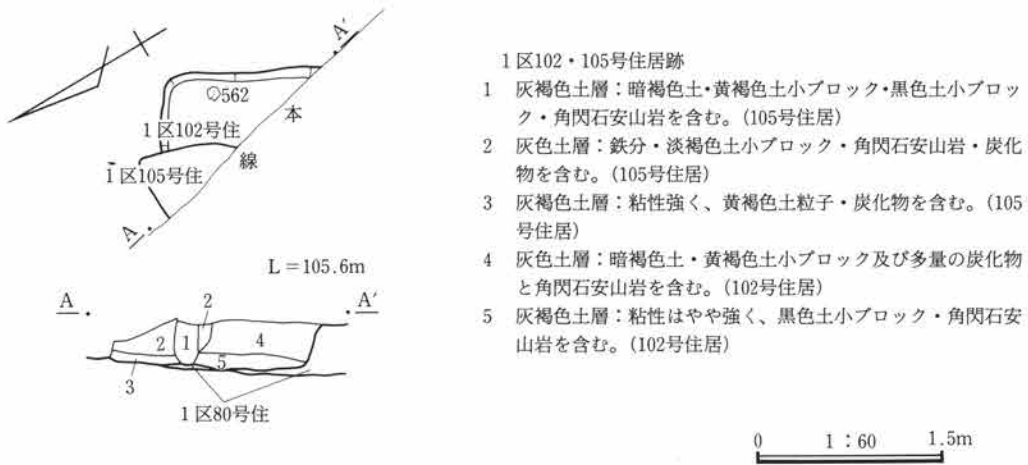
1区J-30グリッドに位置し、1区7・80・105号住居跡と重複する。セクションから確認できる新旧関係は、古いほうから80→102→105→95号住居跡である。また、7号住居跡との関係は不明である。105号住居跡より古く、80号住居跡より新しい。95・112号住居跡との関係は不明である。当住居跡は、側道調査時に北東隅が検出されたが本線調査時には確認されておらず、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は15cm程である。壁溝は確認されない。

竈は、本線部分に存在したと考えられるが不明である。

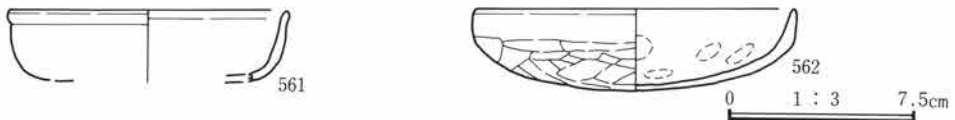
### 1区105号住居跡

1区J-30グリッドに位置し、1区7・95・102号住居跡と重複する。セクションから確認できる新旧関係は、古いほうから80→102→105→95号住居跡である。また、7号住居跡との関係は不明である。当住居跡は、側道調査時に北東隅が検出されたが本線調査時には確認されておらず、平面形・規模・主軸方位は不明である。セクションで確認できる残存壁高は14cmを測る。壁溝は確認されない。

竈は、本線部分に存在したと考えられるが不明である。



第199図 1区102・105号住居跡



第200図 1区102号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0561	杯 須恵器	器高：(28mm) 口径：[110mm] 底径：一口縁部～底部上端%	径1mm前後の細砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐・赤褐。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部はなで。内面：口縁部～底部上端は回転なで。	外面に自然釉。
0562	杯 土師器	器高：32mm 口径：[126mm] 底径：一口縁部～底部%	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで、胴部～底部に一部指頭痕が残る。	外面口縁部に油煙附着。

1区103号住居跡

1区I-30グリッドに位置し、1区97・107・112・118・119号住居跡と重複する。新旧関係は、97・107号住居跡より古い。また、112・118・119号住居跡との関係は不明である。残存壁高は2cm～3cmと浅く、西側は床の範囲が確認できたのみである。平面形は隅丸長方形を呈し、南北の規模は2.6mを測り、東西の規模は3m前後と推定される。柱穴・壁溝・竈は確認されない。

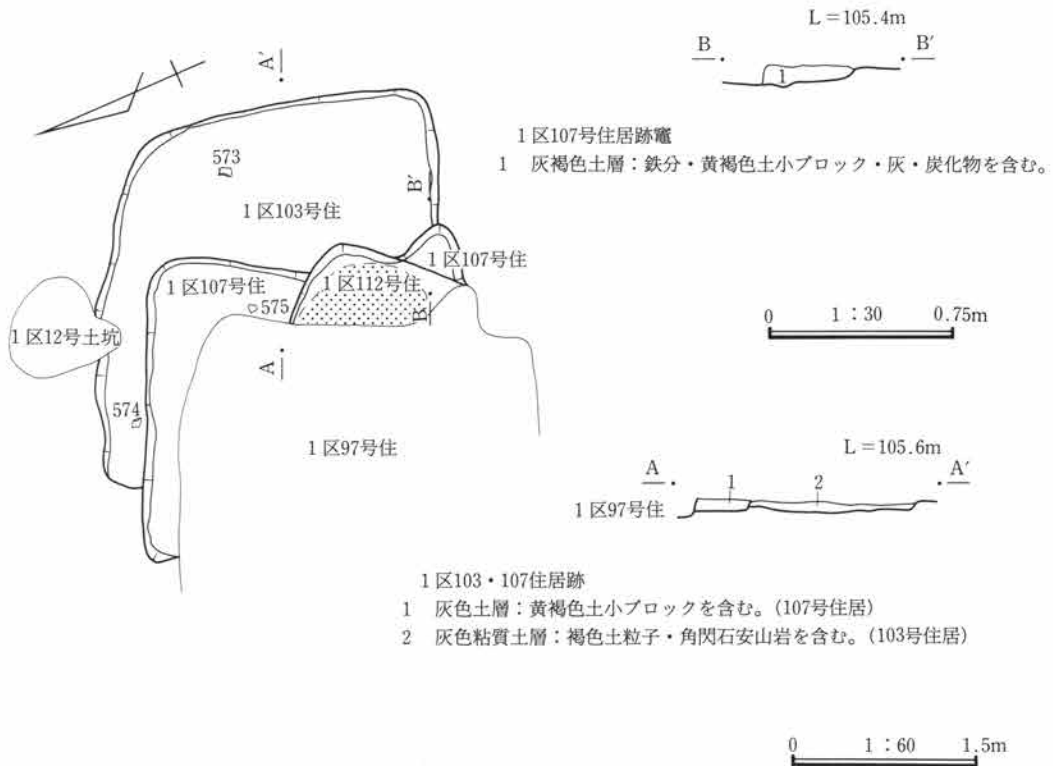
1区107号住居跡

1区I-30グリッドに位置し、1区97・103・112号住居跡と重複する。新旧関係は、97号住居跡より古く、103号住居跡より新しい。なお、112号住居跡との関係は不明である。北壁と東壁の一部が確認できたのみであり、平面形は不明である。東西の規模は2.4mを測る。主軸方位は不明で、残存壁高は2cm～5cmを測る。柱穴・壁溝・貯蔵穴・竈は確認されない。

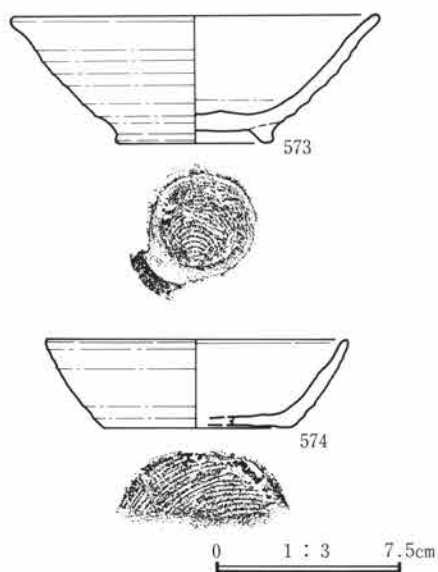
1区112号住居跡

1区I-30グリッドに位置し、1区97・103・107・118号住居跡と重複する。新旧関係は1区97号住居跡よりも古い、1区103・107・118号住居跡とは不明である。竈と北東隅が確認されたのみであり、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は2cm～13cmを測る。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。

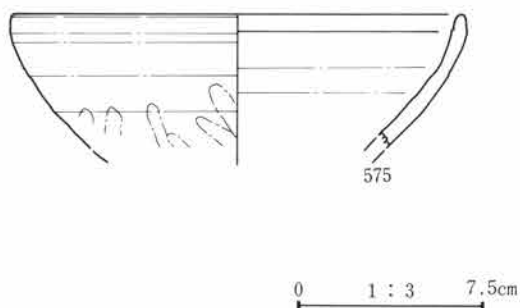
竈は東壁に構築され、北東隅にかけて灰が分布している。



第201図 1区103・107・112号住居跡



第202図 1区103号住居跡出土遺物



第203図 1区107号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0573	椀 須恵器	器高：(50mm) 口径：[146mm] 底径：— 口縁部～高台部上半 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁端部～胴部はなで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0574	杯 須恵器	器高：(35mm) 口径：[120mm] 底径：[75mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0575	椀 須恵器	器高：(52mm) 口径：[180mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。内面口縁端部に段を持つ。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。外面の一部に篋の痕あり。	

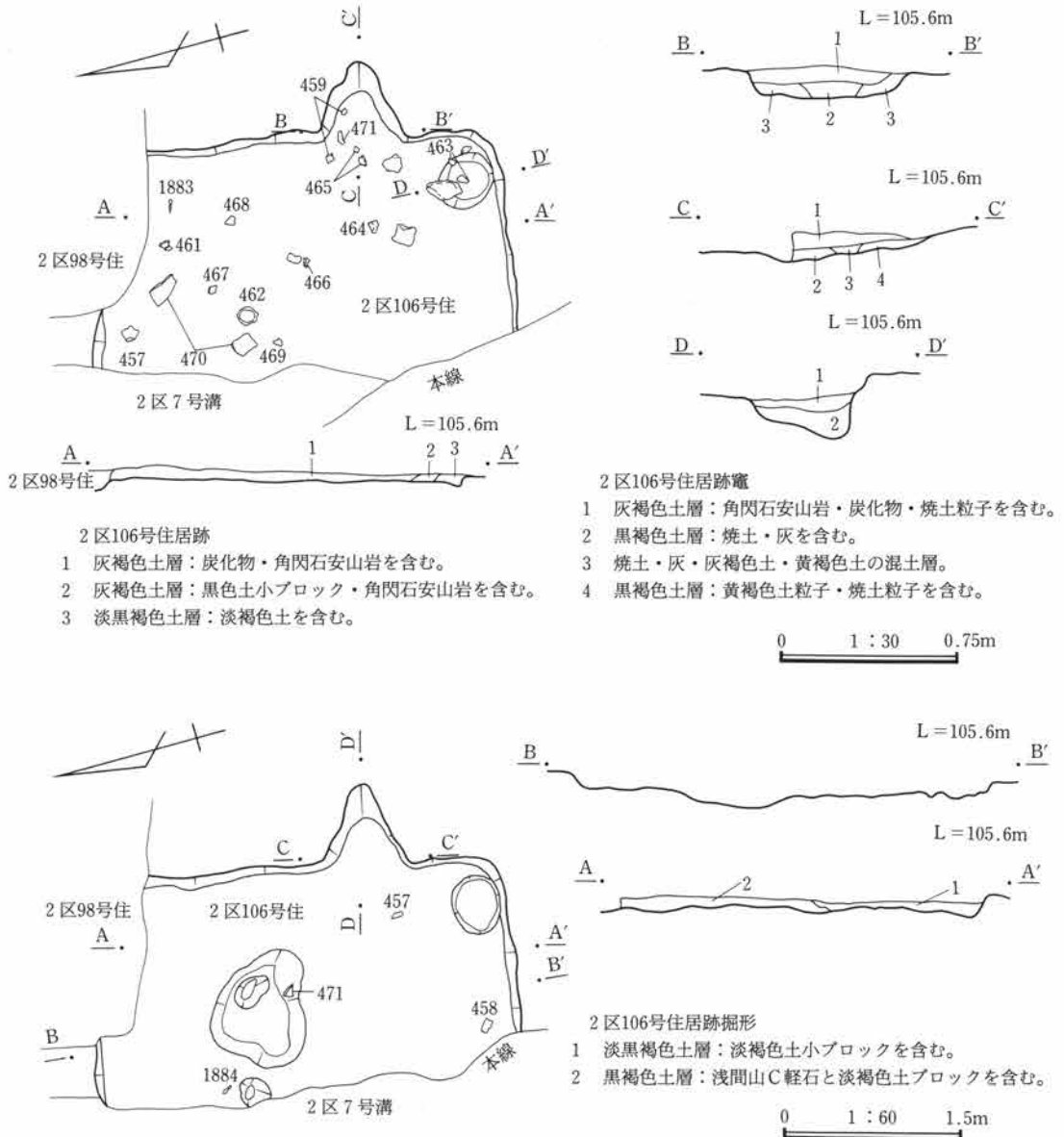
## 2区106号住居跡

2区J-01グリッドに位置し、2区23・98・129号住居跡、2区7号溝、2区2号井戸と重複する。

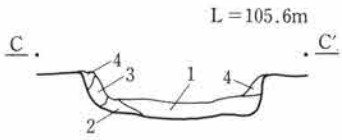
新旧関係は、98号住居跡、7号溝、2号井戸より古く、129号住居跡より新しい。なお、23号住居跡とは調査年度が異なるため、新旧関係は不明である。西壁が確認されないため、平面形は不明である。南北の規模は3.5m、主軸方位はN-7°-Eを測る。残存壁高は5cm~14cmである。柱穴・壁溝は確認されない。貯蔵穴は南東隅に位置し、深さは14cmと浅い。遺物は住居跡の北側から多く出土している。

竈は東壁南寄りに構築され、燃燒部は壁外に65cm張り出している。竈内からは土師器甕(459)、須恵器杯(465)、羽釜(471)が出土している。471の羽釜は、2区129号住居跡と接合関係がある。

掘形は全体を浅く掘り込むタイプで、中央に床下土坑がある。129号住居跡と接合関係のある471の羽釜は、中央の床下土坑内からも出土している。

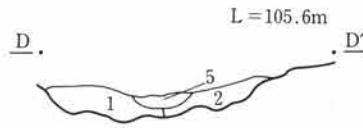


第204図 2区106号住居跡・同掘形



2区106号住居跡竈掘形

- 1 淡褐色土層：黒褐色土小ブロックを含む。
- 2 黒褐色土層：浅間山C軽石を含む。

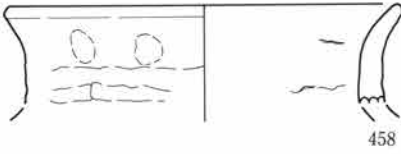


- 3 淡褐色土層：淡褐色土小ブロックを含む。

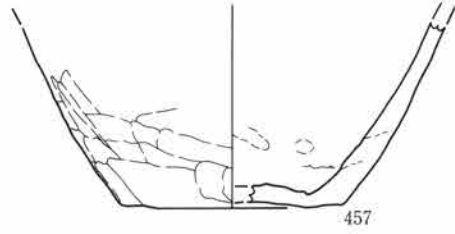
- 4 淡黄褐色土層：淡褐色土小ブロック・黄褐色土小ブロックを含む。
- 5 焼土・灰・淡褐色土の混土層。

0 1 : 30 0.75m

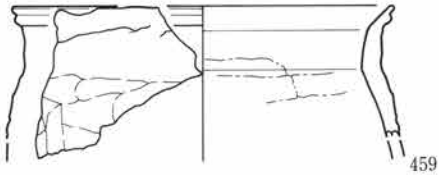
第205図 2区106号住居跡竈掘形断面



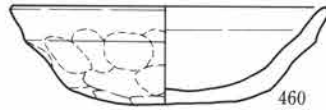
458



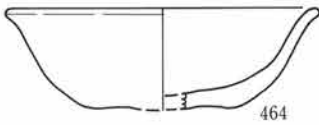
457



459



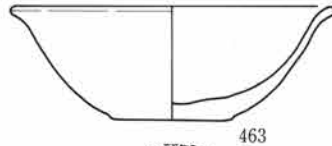
460



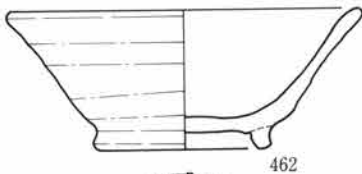
464



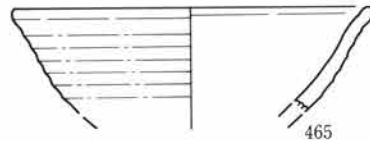
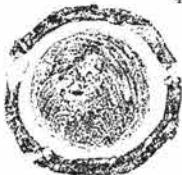
461



463



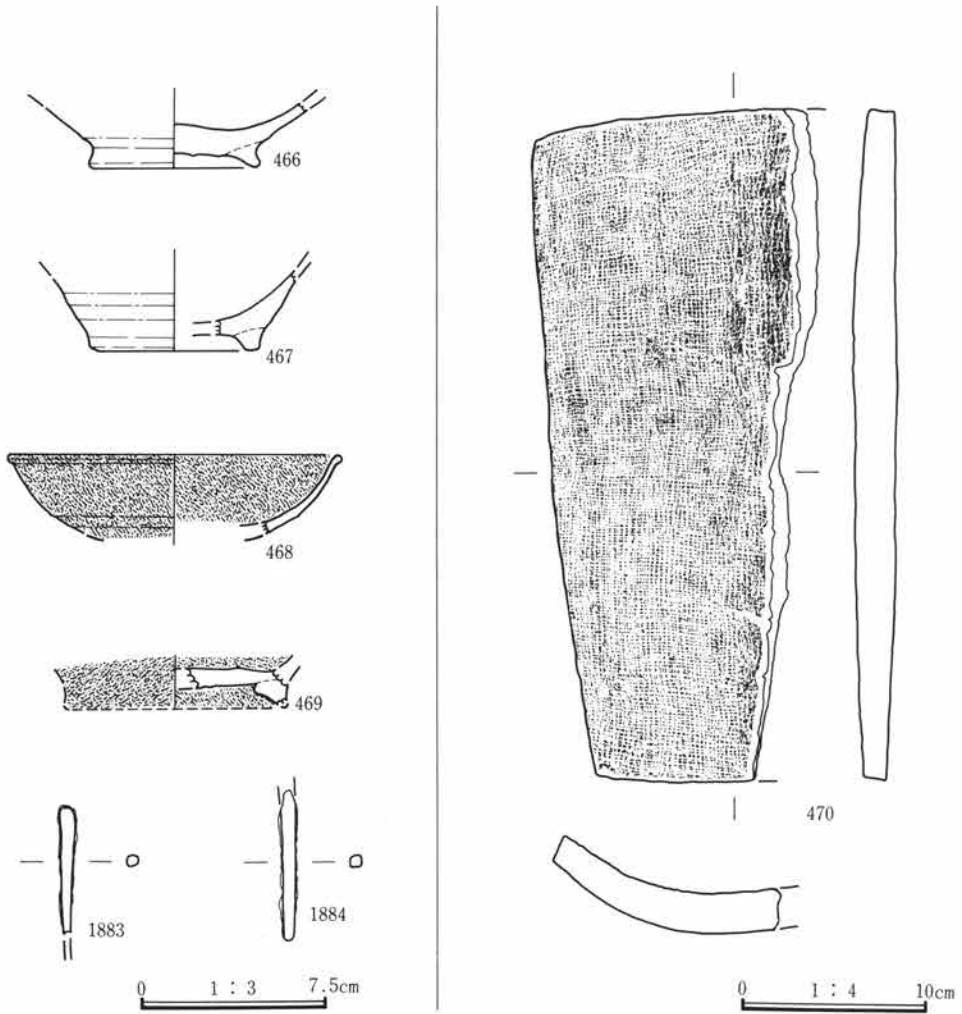
462



465

0 1 : 3 7.5cm

第206図 2区106号住居跡出土遺物①



第207図 2区106号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0457	羽釜	器高：(72mm) 口径：— 底径：[90mm] 胴部下半～底部迄	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。明オリブ灰・浅黄橙。	胴部下半は僅かに内湾しつつ広がる。外面：胴部下半は回転で、胴部下端は篋削り。外面：胴部下半～底部は回転で。	内外面に油煙付着。
0458	甕 土師器	器高：(39mm) 口径：[152mm] 底径：— 口縁部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁端部は外反。内外面共に口縁端部は横などで。	内外面に油煙付着。
0459	甕 土師器	器高：(52mm) 口径：[154mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁端部は外反し、沈線1条。外面：口縁部は横で、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横で、胴部上端は篋削り。	内外面に油煙付着。

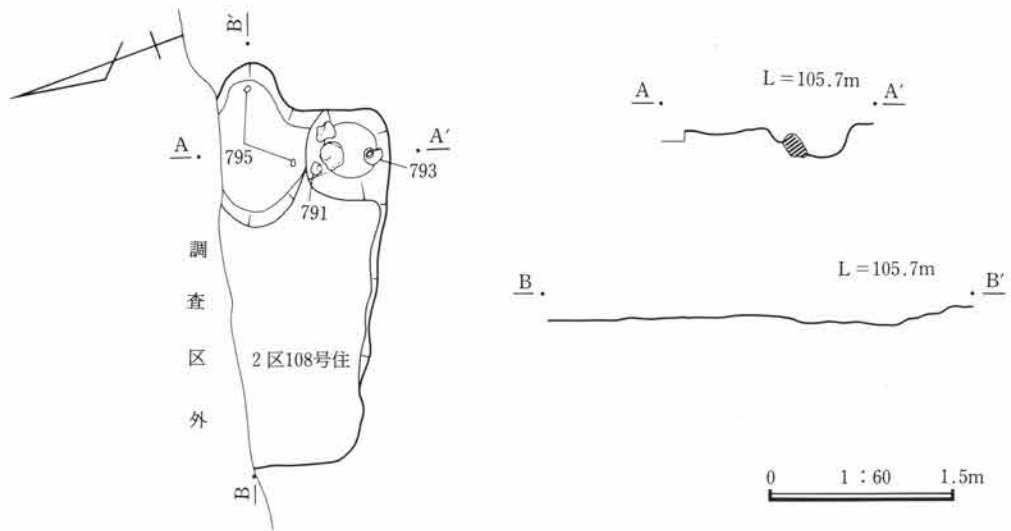


番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0460	杯 土師器	器高：38mm 口径：[128mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。明赤褐。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口 縁部は横なで、胴部～底部は篋削り、胴部 に指頭痕が残る。内面：口縁部～胴部は横 なで、底部はなで。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
0461	杯 土師器	器高：[35mm] 口径：[116 mm] 底径：[56mm] 口縁部 ～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。明赤褐。	胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部 はやや内湾。外面：口縁部は横なで、胴部 ～底部は篋削り、胴部に指頭痕が残る。内 面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	内外面に油煙付 着。
0462	椀 須恵器	器高：55mm 口径：[140mm] 底径：71mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{4}$	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、 底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面： 口縁部～底部は回転なで。	
0463	杯 須恵器	器高：45mm 口径：[128mm] 底径：47mm 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部は外反。外面： 口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切 り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の底部に油 煙付着、内面はや や多量。二次炎を 受けている。
0464	杯 須恵器	器高：40mm 口径：[126mm] 底径：[62mm] 口縁部～底 部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。外 面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転 糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0465	杯 須恵器	器高：(42mm) 口径：[142 mm] 底径：— 口縁部～胴 部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ 広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共 に口縁部～胴部は回転なで。	
0466	椀 須恵器	器高：(27mm) 口径：— 底 径：68mm 胴部下半～高台 部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底 部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面： 胴部下半～底部は回転なで。	
0467	椀 須恵器	器高：(32mm) 口径：— 底 径：[68mm] 胴部下半～高 台部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底 部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面： 胴部下半底部は回転なで。	内外面共に胴部下 半～高台部は燻 し。
0468	椀 灰釉陶器	器高：(31mm) 口径：[132 mm] 底径：— 口縁部～胴 部 $\frac{1}{4}$	細砂粒を含む。還元。 やや硬質。灰白。	轆轤整形。内外面共に口縁部胴部は回転な で。	内外面に施釉。
0469	壺 灰釉陶器	器高：(15mm) 口径：— 底 径：[90mm] 底部～高台部 $\frac{1}{4}$	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	轆轤整形。外面：回転なで後高台貼り付け。 内面：凹凸が多い。	内面底部に施釉。
0470	平瓦	長：355mm 幅：(151mm) 厚：15～21mm	粒子はやや細かい。還 元。普通。灰。	粘土板成形、一枚造り。凸面は斜め方向な で。凹面は布目、部分的に二重の布目。側 面整形は1面、端面整形は1面。	
1883	? 鉄製品	長：(50mm) 直径：3～6 mm		用途不明。断面円形。	
1884	? 鉄製品	長：(60mm) 幅：5mm 厚： 5mm		用途不明。断面四角形。	

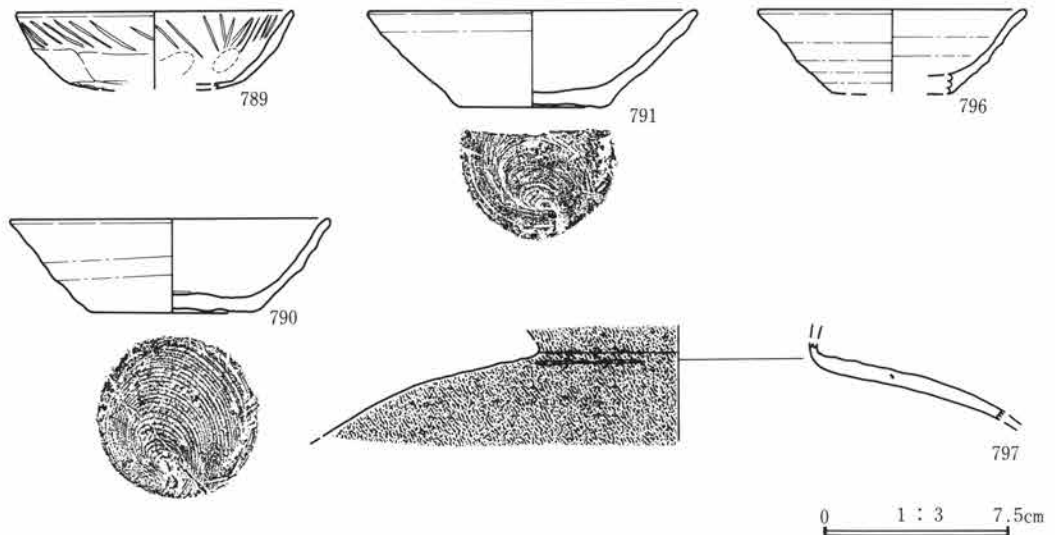
2区108号住居跡

2区J-05グリッドに位置する。2区8・16号溝と重複するが、新旧関係は不明である。北半分は攪乱により破壊され、西壁は遺存していないため平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は4cm程である。柱穴・壁溝は確認されない。貯蔵穴は南東隅に位置し、深さは23cmである。貯蔵穴内からは須恵器碗(793)と杯(791)が出土している。また、竈に使用されたと考えられる焼石も出土している。

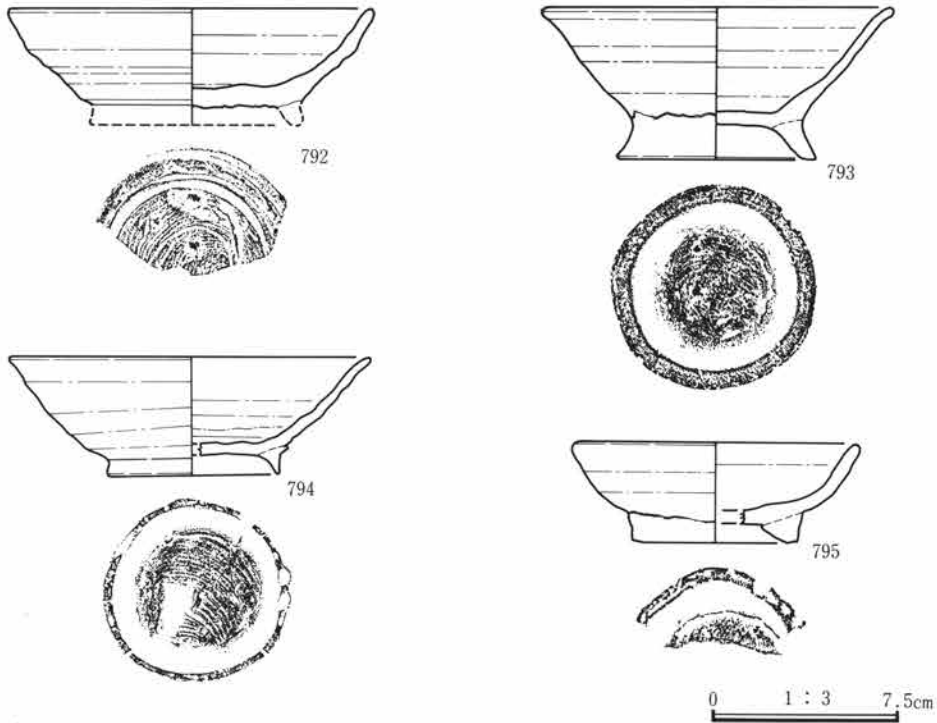
竈は東壁南寄りに構築され、燃烧部底面から前面にかけて3cm～6cm低くなっている。



第208図 2区108号住居跡



第209図 2区108号住居跡出土遺物①



第210図 2区108号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0789	杯 土師器	器高：(31mm) 口径：[112mm] 底径：— 口縁部～底部上端%	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで後放射状暗文を施し、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、胴部下端～底部は横なで、一部指頭痕が残る。	
0790	杯 須恵器	器高：37mm 口径：128mm 底径：65mm 口縁部～底部%	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0791	杯 須恵器	器高：39mm 口径：[132mm] 底径：61mm 口縁部～底部%	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。灰・鈍い黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内面に少し油煙付着。
0792	碗 須恵器	器高：(40mm) 口径：[146mm] 底径：— 口縁部～高台上端%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	

第IV章 発見された遺構と遺物

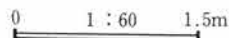
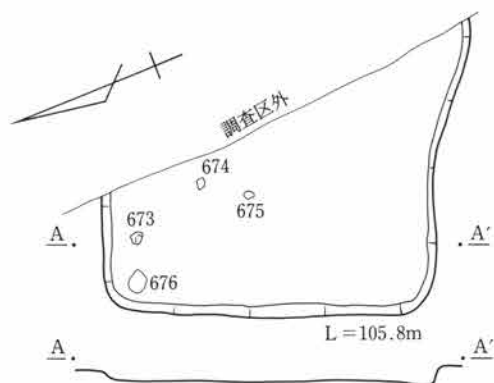
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0793	椀 須恵器	器高：60mm 口径：143mm 底径：81mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。軟 質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、 口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴 部は回転で、底部は回転糸切り後高台貼 り付け。内面：口縁部～底部は回転で。	
0794	椀 須恵器	器高：47mm 口径：145mm 底径：69mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁端部～胴部は回転で、底部は 回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部 ～底部は回転で。	内外面の口縁部 ～胴部に自然釉。 外面：口縁端部～胴部は回転で、底部は 回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部 ～底部は回転で。
0795	椀 須恵器?	器高：40mm 口径：[146mm] 底径：[67mm] 口縁部～高 台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。橙・淡黄。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ 広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、 底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面： 口縁部～胴部は回転で。	外面に油煙附着。 二次炎を受けてい る。
0796	杯 須恵器?	器高：(34mm) 口径：[108 mm] 底径：[48mm] 口縁部 ～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。鈍い 褐。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ 広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、 底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部上 端は回転で。	内外面に油煙付 着。
0797	短頸壺 灰釉陶器	器高：(30mm) 口径：一 底 径：一 頸部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	轆轤整形。内外面共に頸部～胴部上半は回 転で。	外面に施釉。

2区113号住居跡

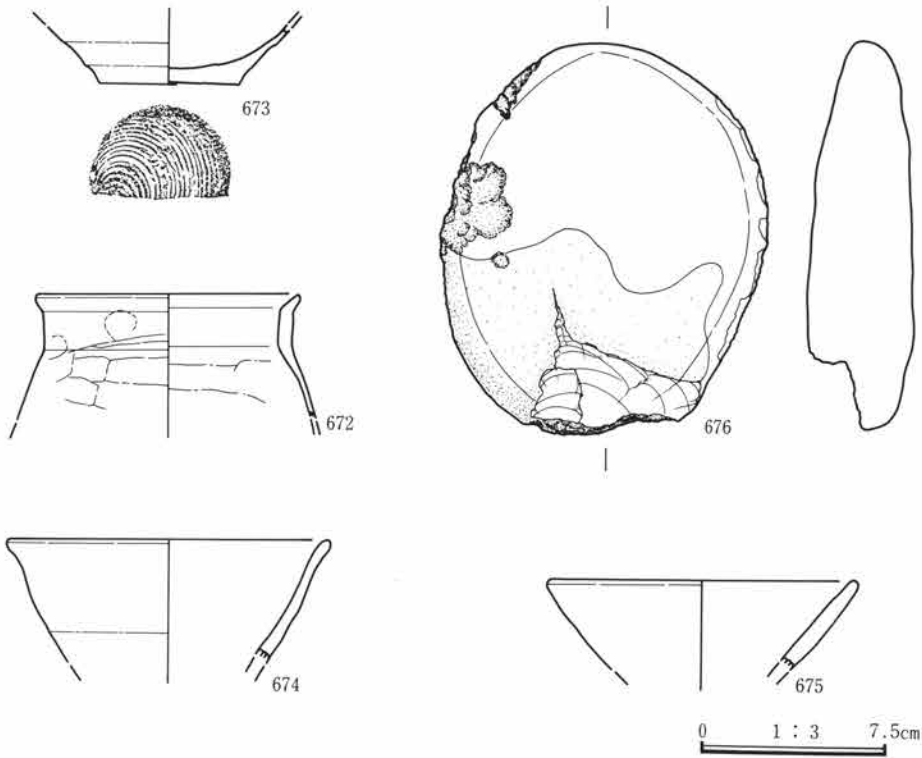
2区I-08グリッドに位置し、2区117・131・141・142号住居跡、2区9号溝と重複する。新旧関係は、当住居跡が117号住居跡竈の先端を壊していることから当住居跡が新しいと考えられる。なお、131・141・142号住居跡は、当住居跡より後に調査されていることから、当住居跡より古いと推定される。また、9号溝跡との関係は不明である。当住居跡は、調査区の東端に位置しているため東半分が

調査区外に存在する。このため、平面形・主軸方位は不明で、南北の規模は2.68mである。残存壁高は2cm～8cmを測る。柱穴・壁溝は確認されない。貯蔵穴は調査区外に存在したと考えられる。遺物は、北西隅付近から須恵器杯(673)や須恵器椀(674・675)、用途不明石製品(676)が出土している。

時期的に竈は存在したと考えられるが、竈部分が調査区外のため不明である。



第211図 2区113号住居跡



第212図 2区113号住居跡出土遺物

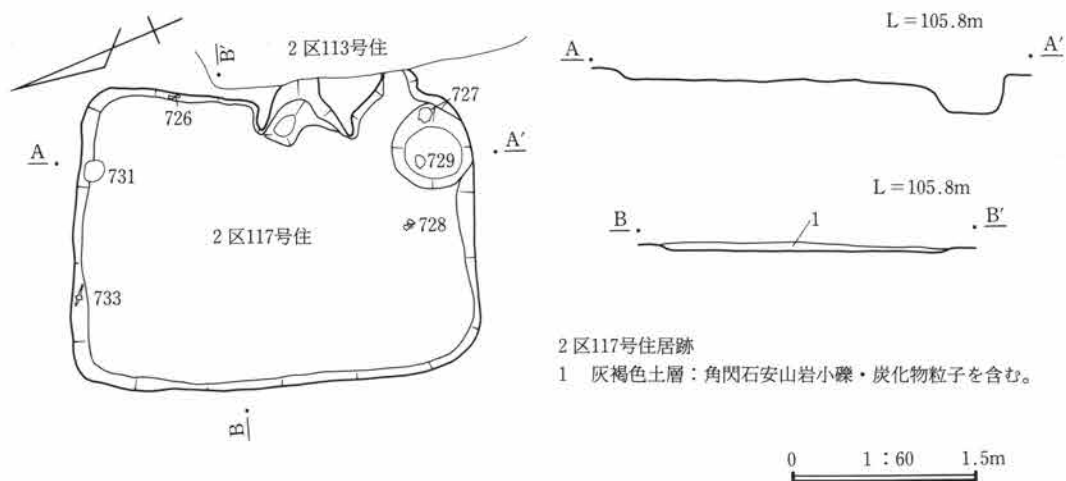
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0672	甕 土師器	器高：(50mm) 口径：[110mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐色。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付着。
0673	杯 須恵器	器高：(23mm) 口径：— 底径：58mm 胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白。鈍い橙。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り。内面：胴部下半～底部は回転なで。	
0674	椀 須恵器	器高：(49mm) 口径：[128mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	内外面共に口縁部～胴部上半は燻し。
0675	椀 須恵器	器高：(35mm) 口径：[124mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	
0676	用途不明 石製品	長：154mm 幅：130mm 厚：45mm 重：566.5g	粗粒安山岩。	2面擦れている。側面に打ちつけた痕あり。	

2区117号住居跡

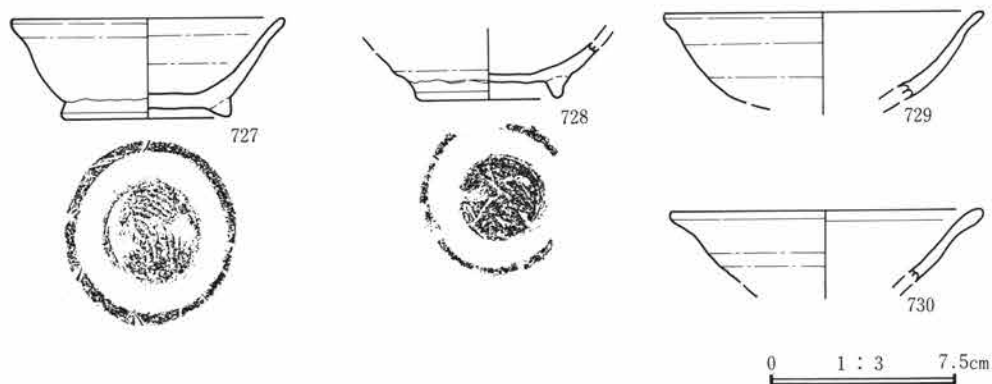
2区I-08グリッドに位置し、2区113・131・134・142・145・150号住居跡、2区12号溝と重複する。新旧関係は、113号住居跡の西壁が当住居跡の竈を壊していることから、当住居跡が古い。また、131・142・145・150号住居跡は、当住居跡より後に調査されていることから当住居跡が新しいと思われる。134号住居跡、12号溝との関係は不明である。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は2.3m×3.2mである。残存壁高は2cm～12cmを測る。主軸方位はN-23°-Eである。柱穴・壁溝は確認されない。貯蔵穴は南東隅に位置し、深さは34cmである。貯蔵穴内からは、須恵器碗(727・729)が2個体出土している。また、埋土中からは鉄滓(734)と図示していないが緑釉陶器碗の小片が出土している。

竈は、東壁南側に2基検出されている。南側の竈は、前面に貯蔵穴が存在し、貯蔵穴との間に時期差があると考えられ、北側の竈と同時期と推定される。両者の前後関係は不明である。

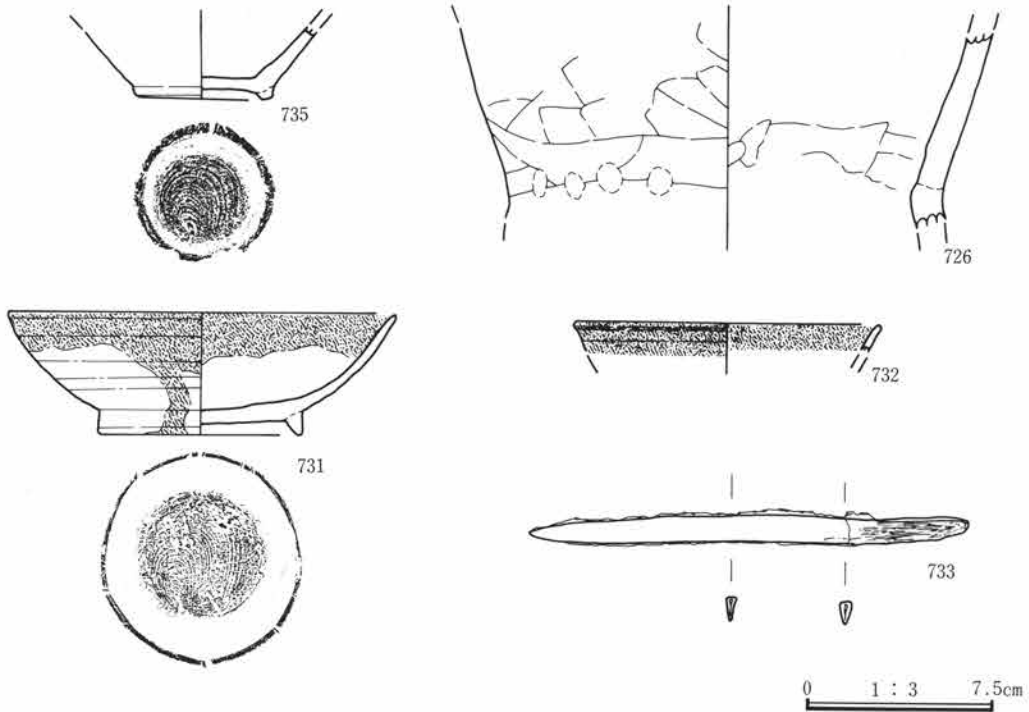
掘形は、住居跡全体を浅く掘り込むタイプであり、床下土坑は認められない。



第213図 2区117号住居跡



第214図 2区117号住居跡出土遺物①



第215図 2区117号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0726	甌	器高：(75mm) 口径：— 底径：胴部下半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄橙。	胴部下半は直線的に広がる。外面：胴部下半は篋削り、胴部下端は篋なで、一部指頭痕が残る。内面：胴部下半はなで、胴部下端は篋なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0727	椀 須恵器	器高：40mm 口径：[110mm] 底径：68mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0728	椀 須恵器	器高：(21mm) 口径：— 底径：60mm 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。軟質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端底部は回転なで。	内面にタール又は漆付着。
0729	椀 須恵器	器高：(35mm) 口径：[128mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	内面燻し。
0730	椀 須恵器	器高：(39mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0731	椀 灰釉陶器	器高：48mm 口径：[154mm] 底径：81mm 口縁部～高台部%	径1mm前後の砂粒及び細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面共に口縁部～胴部に施釉。
0732	椀 緑釉陶器	器高：(11mm) 口径：[122mm] 底径：— 口縁部小片	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部は回転なで。	内外面共に口縁部は施釉。
0733	刀子 鉄製品	長：176mm 幅：8～10mm 厚：4～5mm		鉄板を折り重ねて製造。柄の部分に木の繊維が残っている。	
0735	椀 須恵器	器高：(28mm) 口径：— 底径：55mm 胴部～高台部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。灰黄褐・鈍い橙。	轆轤整形、右回転。胴部は直線的に広がる。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで。	

1区118号住居跡

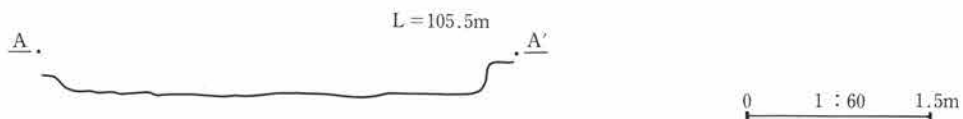
1区J-29グリッドに位置し、1区80・97・103・112・119号住居跡、14・16号土坑と重複する。新旧関係は、80・97号住居跡より古く、119号住居跡より新しい。なお、103・107・112号住居跡との関係は不明である。西壁が80号住居跡に壊されているが、平面形は隅丸長方形を呈すると考えられる。規模は2.74m×3.44m、残存壁高は6cm～23cmを測る。主軸方位はN-15°-Eである。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。

竈は東壁南側に構築され、燃焼部は壁外に設ける。煙道は僅かに残存している。竈両側には袖が遺存しているが、袖石は検出されなかった。

1区119号住居跡

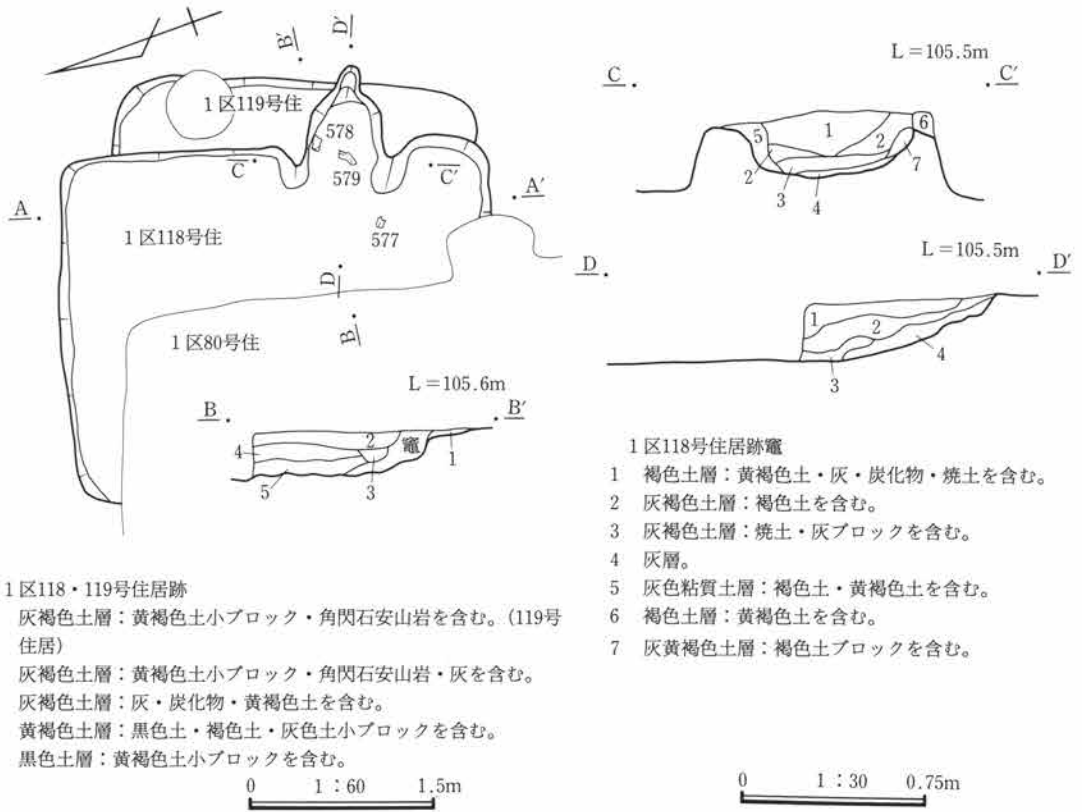
1区J-29グリッドに位置し、1区80・103・118号住居跡と重複する。新旧関係は80・118号住居跡より古い、103号住居跡との関係は不明である。東壁が確認されたのみであり、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は0cm～4cmと低く、遺存は悪い。柱穴・壁溝は確認されない。

当遺跡では、竈を東壁南寄りに構築するのが通例となっている。しかし、当住居跡の場合、東壁南側の立ち上がりが遺存していなかったためか竈は検出されなかった。

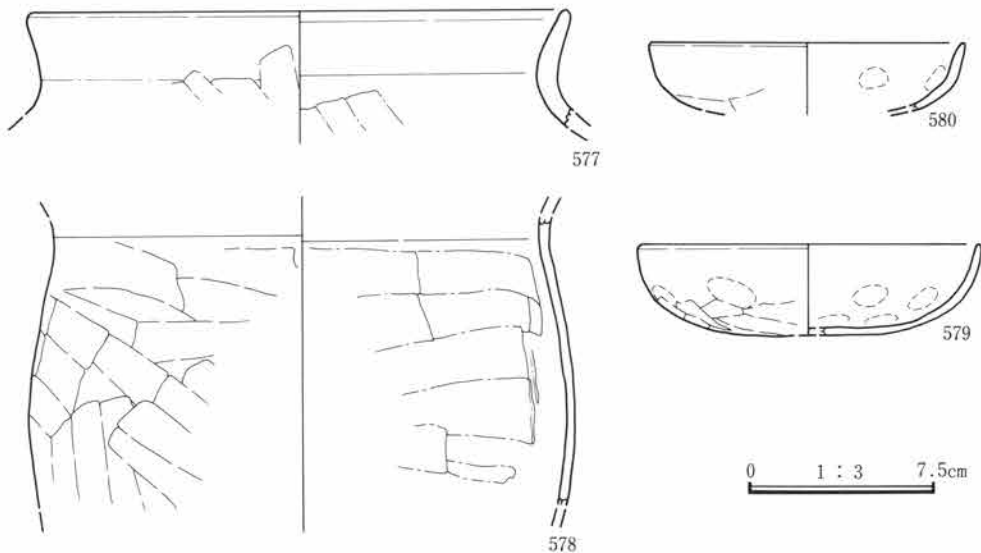


第216図 1区118号住居跡エレベーション





第217図 1区118・119号住居跡



第218図 1区118号住居跡出土遺物



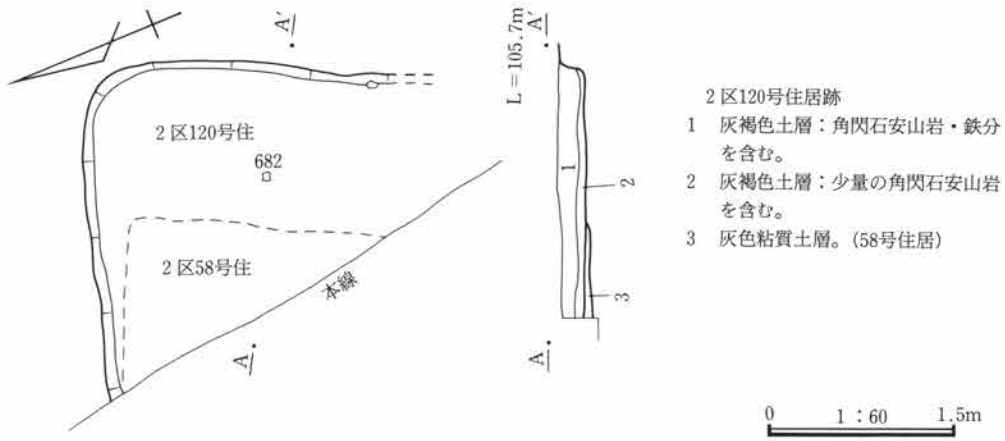
第219図 1区119号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0577	甕 土師器	器高：(46mm) 口径：[216mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篔削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篔なで。	
0578	甕 土師器	器高：(114mm) 口径：— 底径：— 口縁部下半～胴部上半迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は外反。外面：口縁部下半は横なで、胴部上半は篔削り。内面：口縁部下半は横なで、胴部上半は篔なで。	内外面に油煙付着。
0579	杯 土師器	器高：36mm 口径：[138mm] 底径：— 口縁部～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部はやや内湾し、口縁部はほぼ直立。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残る。	内外面に油煙付着。
0580	杯 土師器	器高：(27mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～底部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部はやや内湾し、口縁部はほぼ直立。外面：口縁部は横なで、胴部～底部上端は篔削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0581	杯 土師器	器高：(27mm) 口径：[138mm] 底径：— 口縁部～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾する。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	内外面に油煙付着。

2区120号住居跡

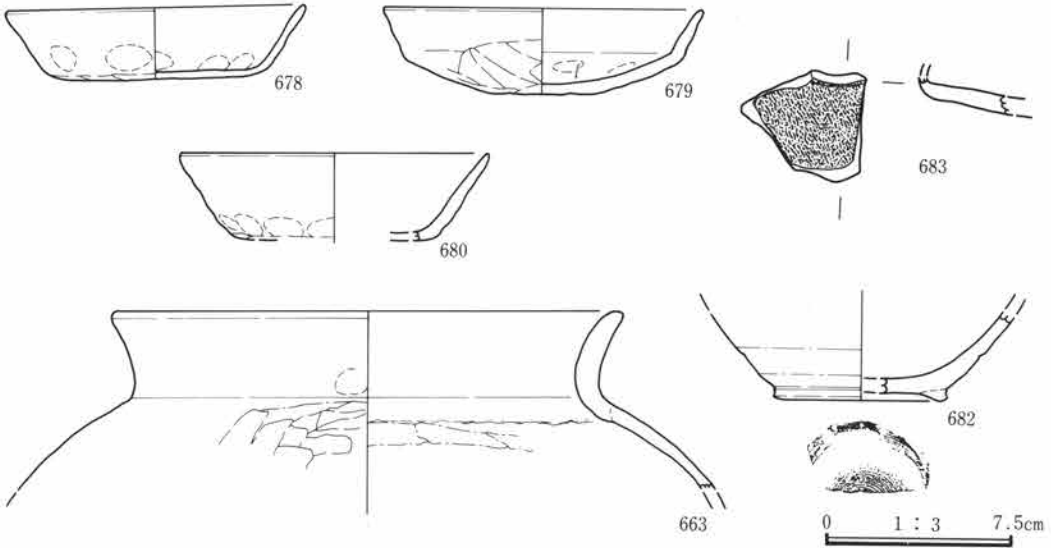
2区J-09グリッドに位置し、2区58・128・134・142・145・150号住居跡、2区12号溝と重複する。新旧関係は、当住居跡の床面下において58・150・142号住居跡が検出されたことから当住居跡が新しい。しかし、128・134・145号住居跡、12号溝との関係は不明である。当住居跡は、本線調査時には検出されず、側道調査時に北東隅が検出された。このため平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は3cm～20cmを測る。柱穴・壁溝・竈は確認されない。



2区120号住居跡

- 1 灰褐色土層：角閃石安山岩・鉄分を含む。
- 2 灰褐色土層：少量の角閃石安山岩を含む。
- 3 灰色粘質土層。(58号住居)

第220図 2区120号住居跡



第221図 2区120号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0663	甕 土師器	器高：(70mm) 口径：[202mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	
0678	杯 土師器	器高：23mm 口径：[120mm] 底径：[72mm] 口縁部～底部迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部はなで、一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0679	杯 土師器	器高：(34mm) 口径：[128mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	外面に不明瞭な稜を持ち、口縁部はやや広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部～底部はなで、一部指頭痕が残る。	
0680	杯 土師器	器高：(34mm) 口径：[124mm] 底径：[72mm] 口縁部～底部上端 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。鈍い橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部上半は横なで、胴部下半は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで。	外面に油煙付着。
0682	椀 須恵器	器高：(36mm) 口径：— 底径：68mm 胴部～高台部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は横なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで。	外面に油煙付着。
0683	短頸壺 灰釉陶器	器高：— 口径：— 底径：— 口縁部下端～胴部上端小片	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。内外面共に硬質下端～胴部上端は回転なで。	外面に施釉。

1区122号住居跡

1区I-28グリッドに位置し、1区83・84・85・86・90・93・96・123号住居跡と重複する。調査時の所見によると新旧関係は、83・84・85・86・90・93号住居跡より古く、123号住居跡より新しいとされている。調査区の東端で確認されたため、北東隅は調査区外に存在する。平面形は隅丸長方形を呈すると推定され、規模は東西が3.25m、南北は4.2m前後である。東壁がほとんど確認されないため、主軸方位は不明である。残存壁高は7cm～30cmを測る。床面は中央が固く、周辺はやや軟弱である。柱穴・壁溝は確認されない。貯蔵穴は南東隅に位置し、深さは22cmである。貯蔵穴の北西隅からは、正位の状態で土師器甕(602)が出土している。当住居跡出土遺物は多く、南東半分に集中している。なお、埋土中からは鉄製鎌の刃(1887・1888)、鉄製刀子(1889・1890)、鉄滓(1892)が出土している。

竈は東壁南側に構築され、燃焼部は調査区外に存在する。燃焼部両側には、竈に使用されたと考えられる石が認められる。

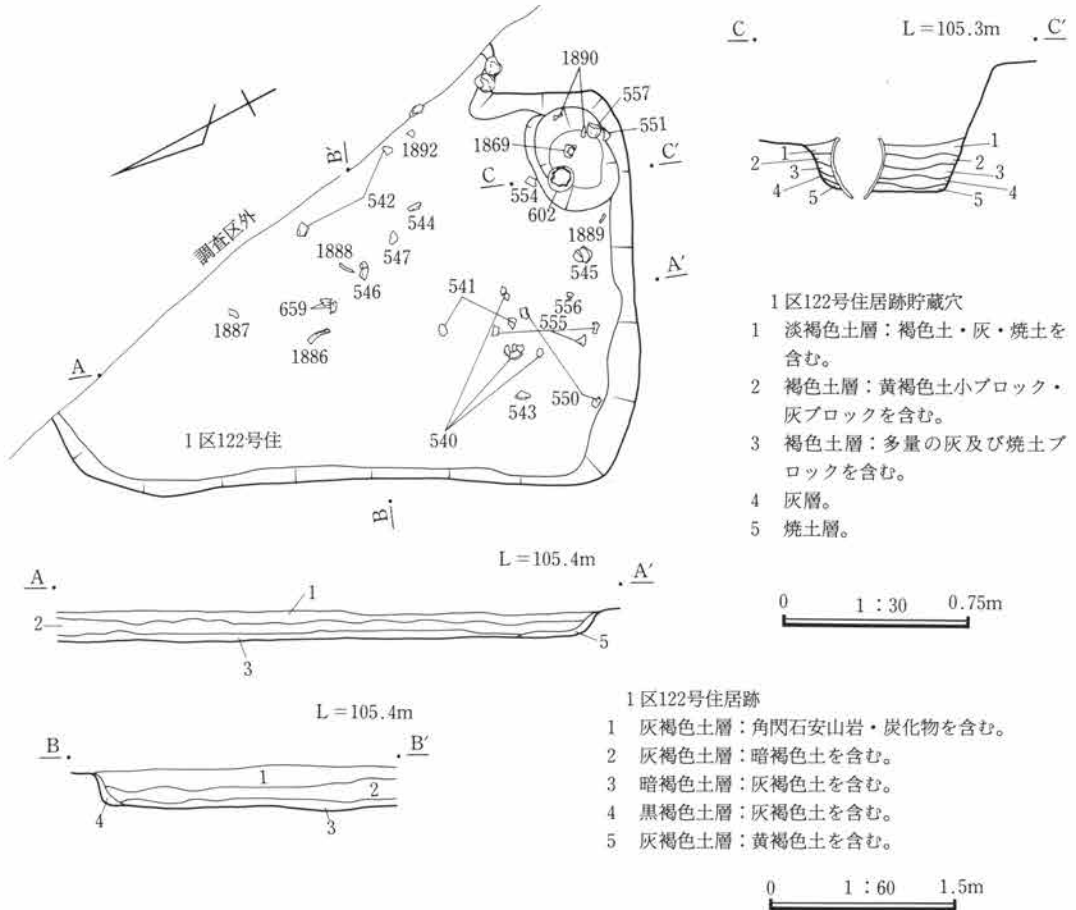
掘形は全体に5cm～10cm掘り下げ、竈部分を除いて掘り込んでいない。

1区123号住居跡

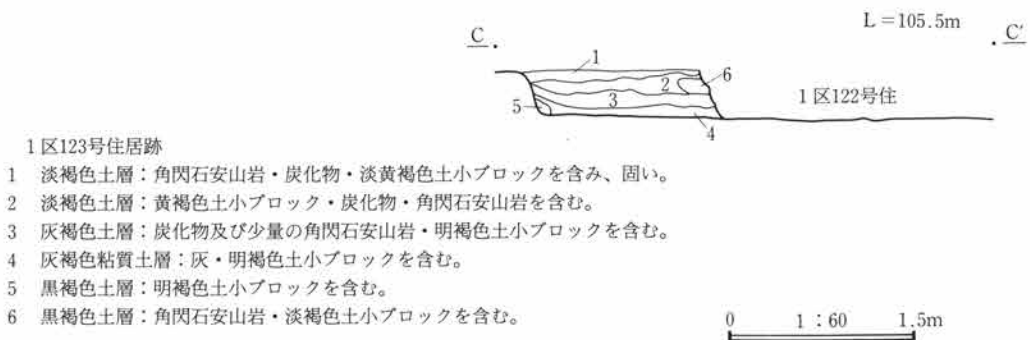
1区I-28グリッドに位置し、1区83・84・85・86・90・93・122号住居跡と重複する。新旧関係は、83・84・85・86・90・93・122号住居跡より古い。当住居跡東半分は、122号住居跡との重複のため壁は確認できなかったが、西半分については立ち上がり確認された。床面は、東側については122号住居跡掘形調査時に確認でき、僅かながら灰の分布も認められ、おおよその形状は推定できる。その結

果、平面形は南北にやや長い隅丸長方形を呈するものと推定される。規模は、南北3.7mを測る。主軸方位は不明であり、西壁の残存壁高は20cmである。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。

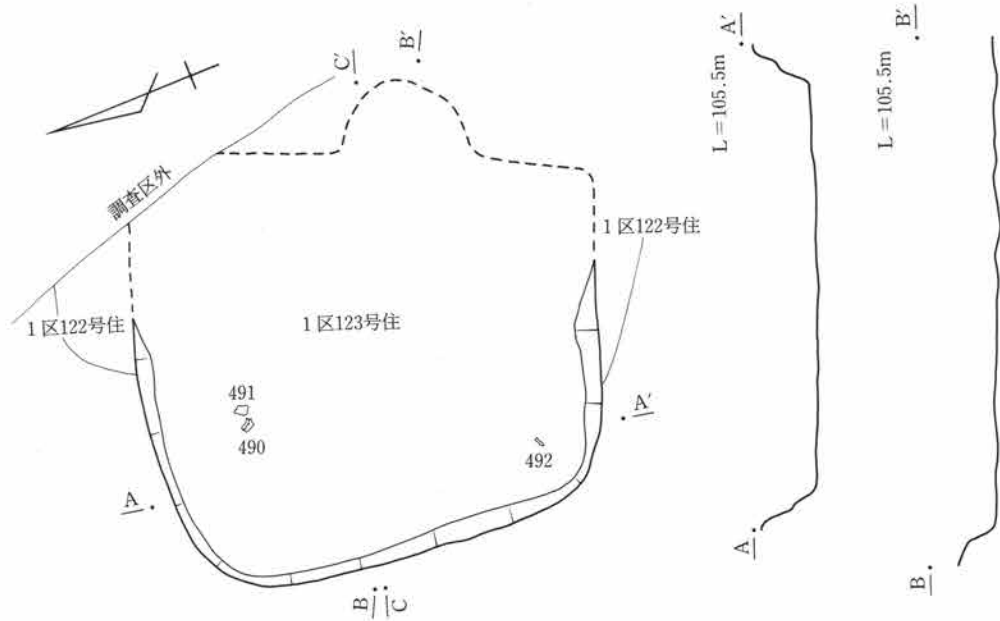
掘形はほとんどなく、部分的に10cm程掘り下げられている程度である。しかし、床面において竈の存在が想定された部分は周囲より5cm～8cm掘り下げ、底部には灰が認められた。この部分は、位置的にも竈の掘形と考えられる。



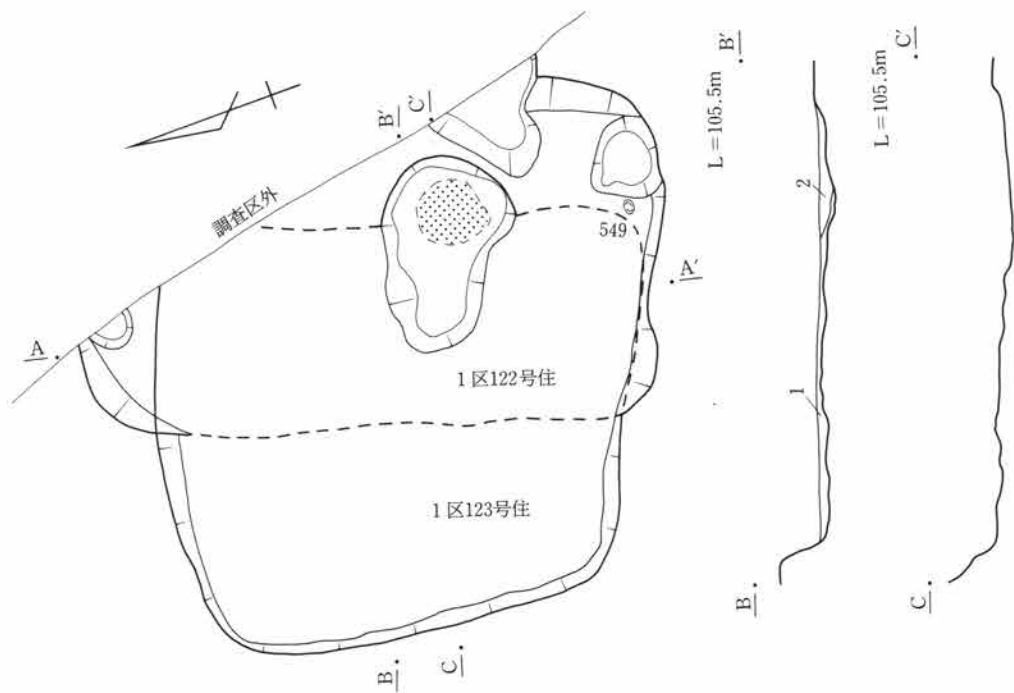
第222図 1区122号住居跡



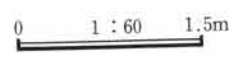
第223図 1区123号住居跡断面



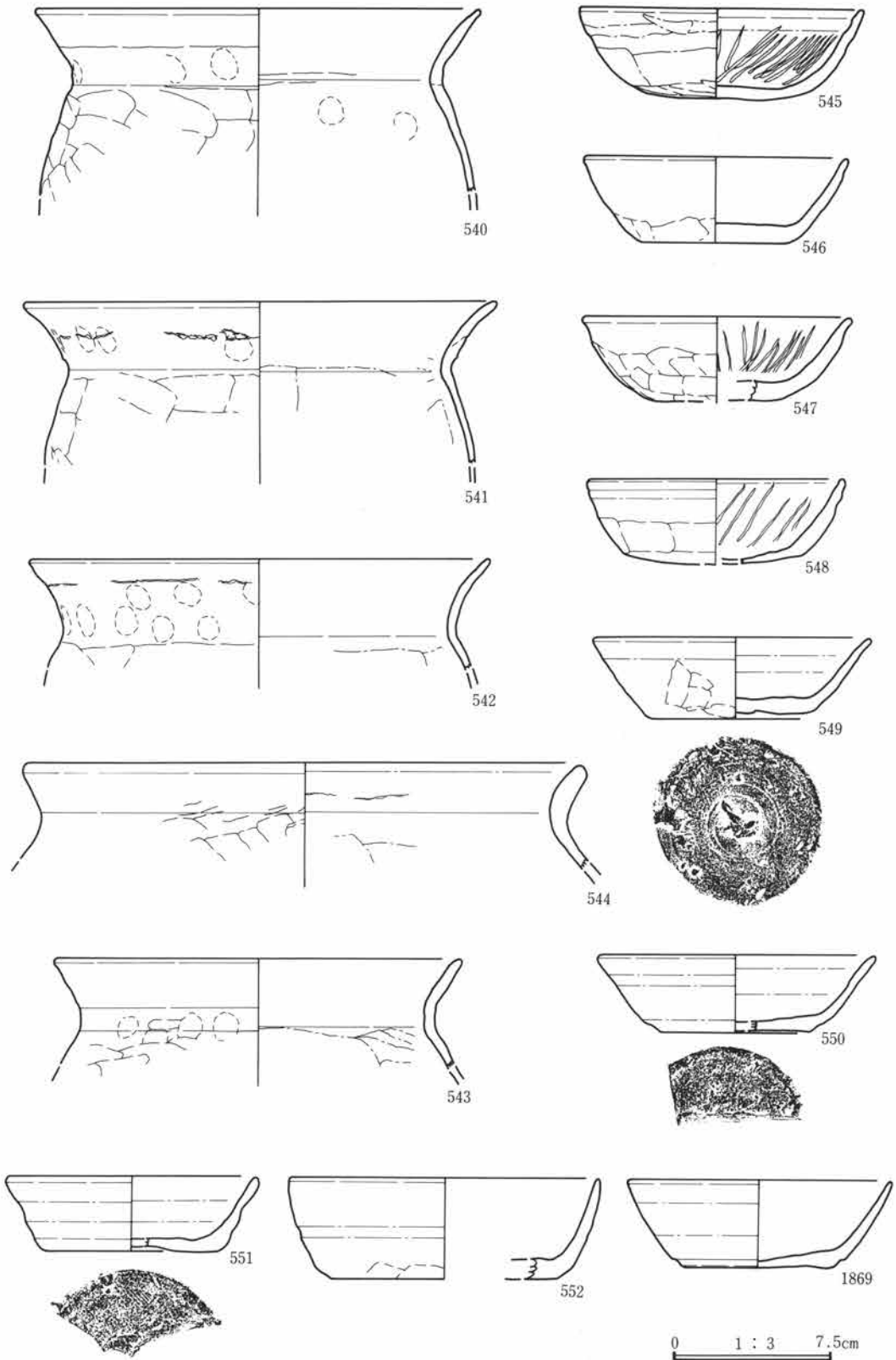
第224図 1区123号住居跡



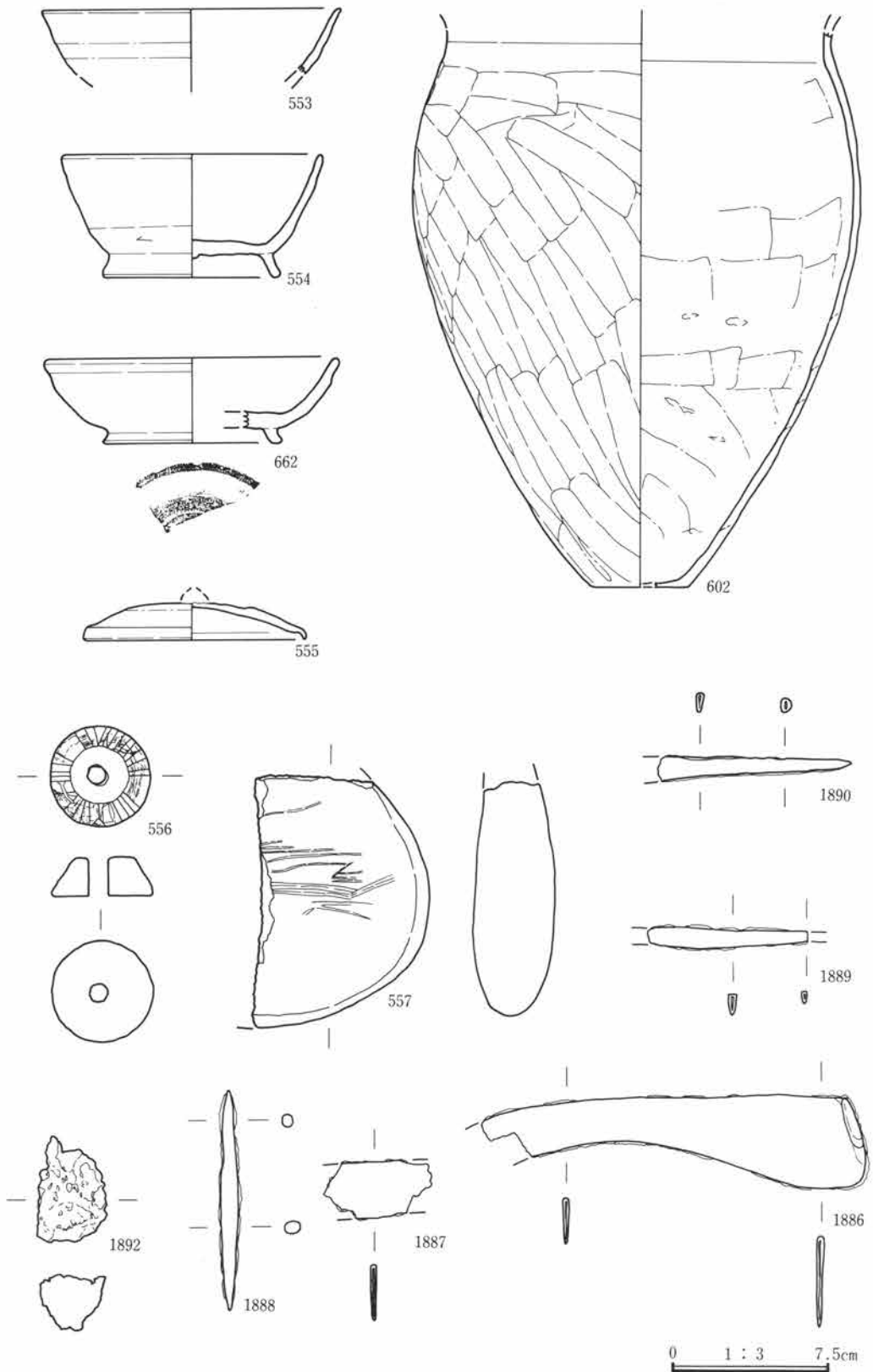
- 1区122・123号住居跡掘形
- 1 黒褐色土・黄褐色土小ブロック・灰の混土層。
  - 2 淡褐色土層：黒褐色土を含む。



第225図 1区122・123号住居跡掘形

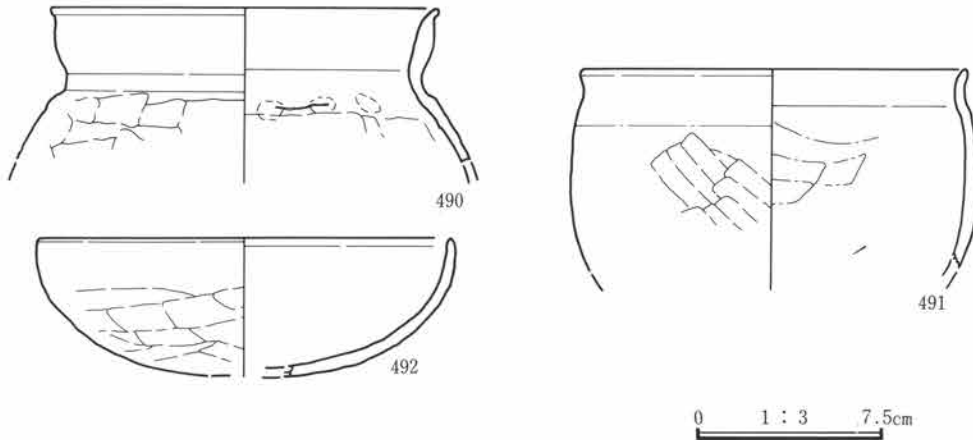


第226图 1区122号住居跡出土遺物①



第227図 1区122号住居跡出土遺物②





第228図 1区123号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0540	甕 土師器	器高：(83mm) 口径：[206mm] 底径：— 口縁部～胴部上半迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上半は篔削り。内面：口縁部は横なで、胴部上半は篔なで、一部指頭痕が残る。	内外面に油煙付着。
0541	甕 土師器	器高：(75mm) 口径：[222mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕・輪積痕が残り、胴部上端は篔削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篔なで。	
0542	甕 土師器	器高：(52mm) 口径：[216mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕・輪積痕が残り、胴部上端は篔削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篔なで。	内面に油煙付着。
0543	甕 土師器	器高：(49mm) 口径：[266mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篔削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篔なで。	
0544	甕 土師器	器高：(42mm) 口径：[132mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篔削り。内面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篔なで。	
0545	杯 土師器	器高：42mm 口径：134mm 底径：85mm ほぼ完形	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁部下端に段を持つ。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0546	杯 土師器	器高：40mm 口径：[124mm] 底径：73mm 口縁部～底部 %	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部上半は横なで、胴部下半～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0547	杯 土師器	器高：39mm 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～底部 %	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部はやや内湾しつつ広がり、口縁部はほぼ直立。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	外面底部に油煙付着。
0548	杯 土師器	器高：(39mm) 口径：[118mm] 底径：— 口縁部～底部 %	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	内外面の口縁部に油煙付着。
0549	杯 須恵器	器高：38mm 口径：132mm 底径：78mm 口縁部～底部 %	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0550	杯 須恵器	器高：(36mm) 口径：[128mm] 底径：[70mm] 口縁部～底部 %	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0551	杯 須恵器	器高：36mm 口径：[116mm] 底径：[82mm] 口縁部～底部 %	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部は直線的に広がり、口縁部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は横なで、底部は回転篋切り後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0552	杯 須恵器	器高：(47mm) 口径：[144mm] 底径：[116mm] 口縁部～底部上半 %	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・淡黄。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、胴部下端～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部上端は回転なで。	
0553	杯 須恵器	器高：(30mm) 口径：[140mm] 底径：— 口縁部～胴部 %	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	
0554	椀 須恵器	器高：57mm 口径：[122mm] 底径：[84mm] 口縁部～高台部 %	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0555	蓋 須恵器	器高：(18mm) 口径：105mm つまみ径：— 天井部～口縁部 %	径1mm前後及び細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。返りは短い。内外面共に天井部～口縁部は回転なで。	外面に自然釉。
0556	紡錘車 石製品	径：47mm 厚：17mm 孔径：7mm 重：53.0g	蛇紋岩。	断面台形。表面に面取りの削り痕あり。	側面に刻石。
0557	用途不明 石製品	長：(115mm) 幅：(83mm) 厚：42mm 重：599.8g	粗粒安山岩。	表裏擦れており、金属の削り痕あり。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0602	甕 土師器	器高：(258mm) 口径：一 底径：47mm 最大径：210mm 口縁部下半～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。橙。	口縁部は外反。最大径は胴部上半。外面： 口縁部下半は横なで、胴部～底部は篋削り。 内面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋な で、胴部に一部輪積痕が残る。	外面に多量の油煙 付着。二次炎を受け ている。
0662	椀 須恵器	器高：40mm 口径：[136mm] 底径：[84mm] 口縁部～高 台部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつ つ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、 底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面： 口縁部～底部は回転なで。	内外面に共に燻し。
1869	杯 須恵器	器高：41mm 口径：[124mm] 底径：70mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。軟質。灰・橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、 底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は 回転なで。	内外面に共に燻し。
1886	鎌 鉄製品	長：(180mm) 幅：20～43mm 厚：4mm		反りは殆どない。鉄板を折り曲げて製造。 基部は折り曲げ。	
1887	鎌 鉄製品	長：(51mm) 幅：26mm 厚： 2.5mm		鎌の一部。鉄板を折り曲げ製造。	
1888	？ 鉄製品	長：103mm 幅：2～8mm 厚1～6mm		用途不明。両端が鋭く尖っている。	
1889	刀子 鉄製品	長：(95mm) 幅：5～10mm 厚：4mm		鉄板を折り曲げて製造。	
1890	刀子 鉄製品	長：(91mm) 幅：2～11mm 厚：3.5～5.5mm		刀子の一部。鉄板を折り曲げて製造。	
1892	鉄 滓			少し鉄分を含む。	

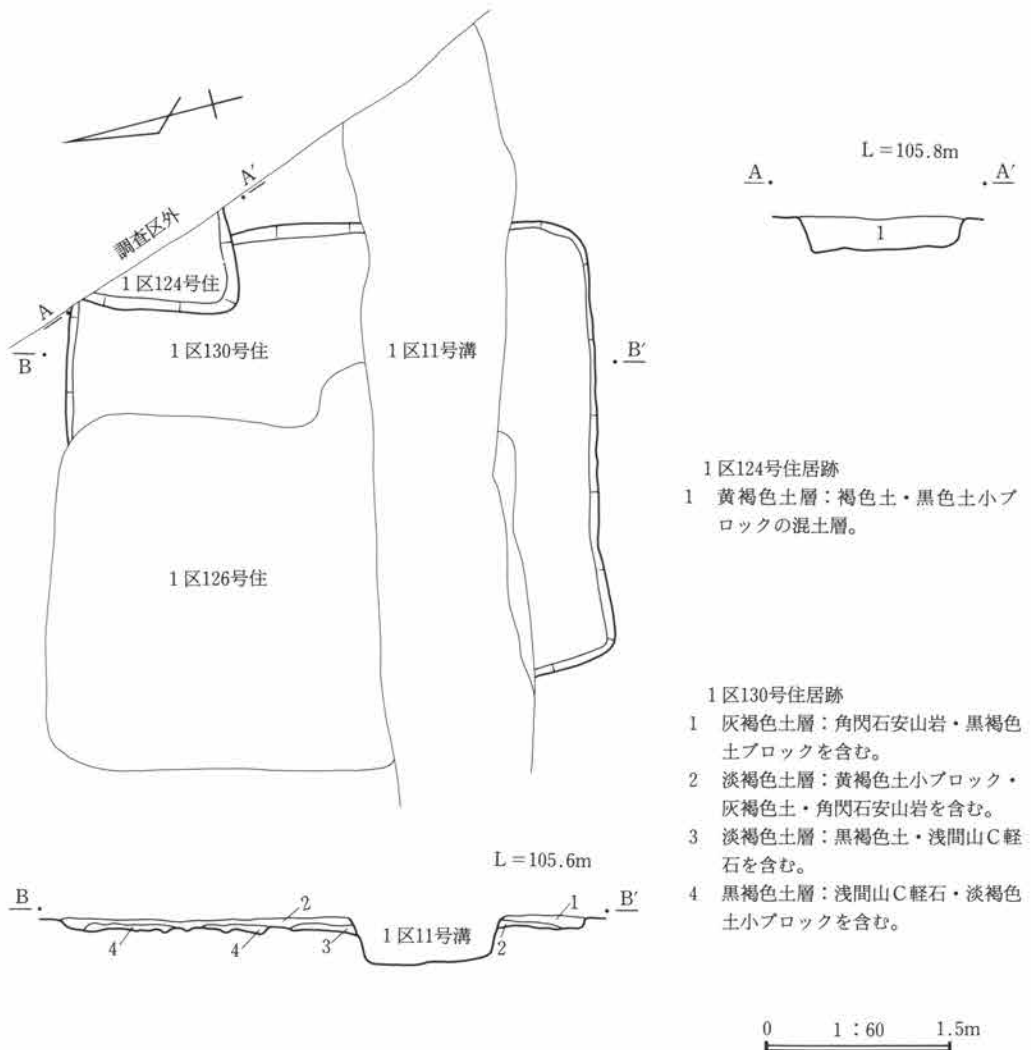
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0490	甕 土師器	器高：(60mm) 口径：[154 mm] 底径：一 口縁部～胴 部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部 は横なで、胴部上端は篋なで、一部指頭痕 が残る。	
0491	甕 土師器	器高：(78mm) 口径：[154 mm] 底径：一 最大径：161 mm 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。硬質。鈍い 橙。	口縁部はやや外反。最大径は胴部上半。外 面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り、 一部指頭痕が残る。内面：口縁部は横なで、 胴部は篋なで、一部指頭痕が残る。	内外面に油煙付 着。
0492	杯 土師器	器高：(54mm) 口径：[166 mm] 底径：一 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。 橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつ つ広がる。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は 篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底 部はなで。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。

1区124号住居跡

1区I-34グリッドに位置し、1区130号住居跡と重複する。新旧関係は、セクションから当住居跡が新しいと判断される。当住居跡は、南西隅の一部が検出されたのみであり平面形・規模・主軸方位は不明である。当住居跡は床面が遺存せず、掘形のみ確認であった。遺物はまったく出土していない。当遺構は土坑の可能性も考えられる。

1区130号住居跡

1区I-33グリッドに位置し、1区124・126号住居跡、1区11号溝と重複する。新旧関係は、いずれも当住居跡が古い。当住居跡も124号住居跡同様、掘形が検出されたのみである。掘形の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は3.6m×4.2m、残存壁高は6cm～12cmである。主軸方位は不明である。掘形において、柱穴・壁溝・竈は確認されなかった。また、図示できる遺物は出土していない。

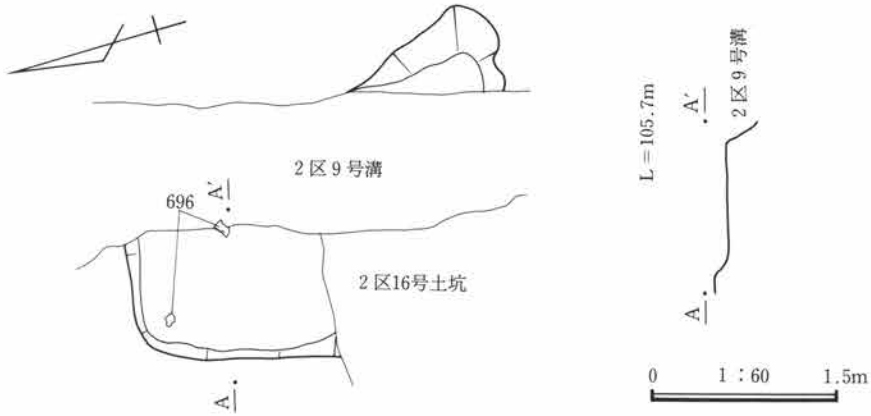


第229図 1区124・130号住居跡

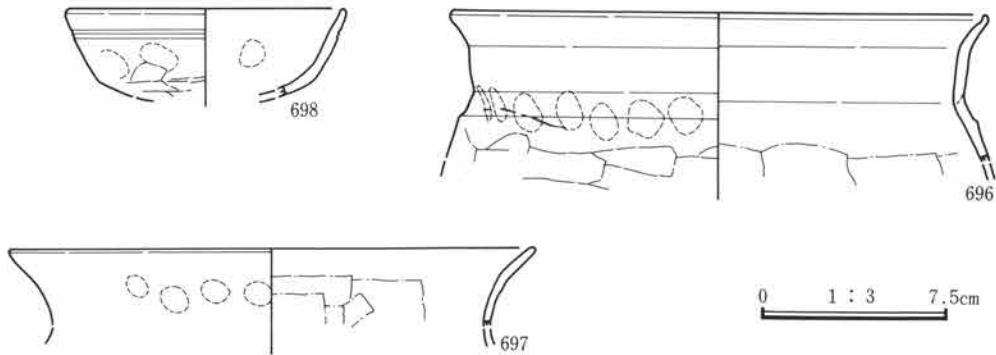
## 2区125号住居跡

2区I-07グリッドに位置し、2区141・150号住居跡、2区9号溝と重複する。新旧関係は、141号住居跡との関係は不明であるが、9号溝より古く150号住居跡より新しい。北西隅と南東の竈状張り出し部分が確認されたのみであり、平面形・規模・主軸方位は不明である。なお、北西隅と南東隅部分は、9号溝によって断ち切られているため同一遺構である確証はない。残存壁高は8cm前後である。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。

南東隅の竈状の部分には、灰や焼土は認められない。



第230図 2区125号住居跡



第231図 2区125号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0696	甕 土師器	器高：(68mm) 口径：[214mm] 底径：一口縁部～胴部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	

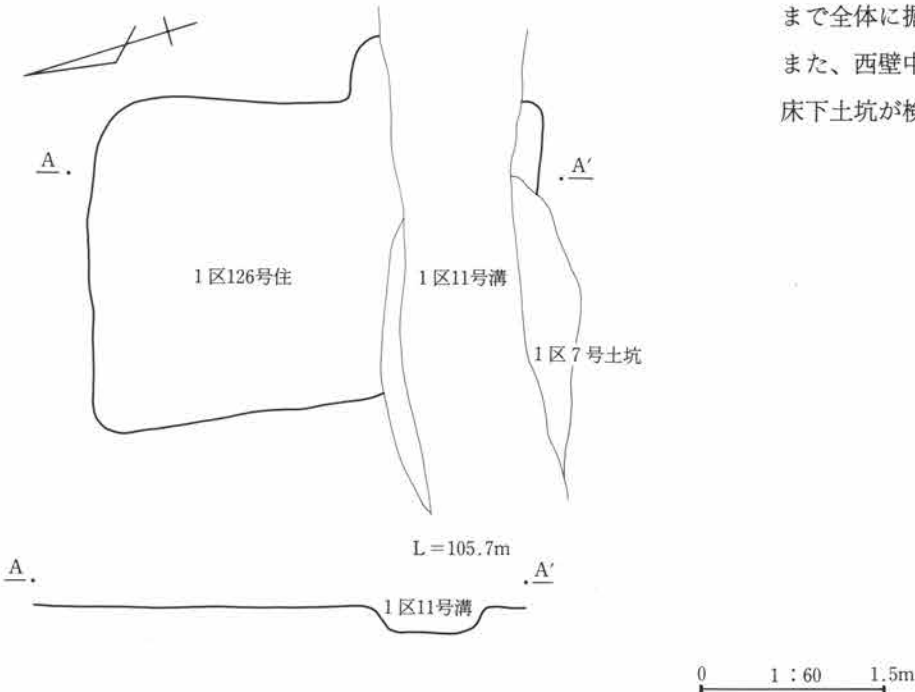
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0697	甕 土師器	器高:(32mm) 口径:[210mm] 底径:一 口縁部小破片	砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	口縁部は外反。外面:口縁部は横なで、一部指頭痕が残る。内面:口縁部は横なで。	内面に油煙付着。
0698	杯 土師器	器高:(34mm) 口径:[110mm] 底径:一 口縁部~底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部~口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面口縁部に沈線2条。外面:口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面:口縁部~底部上端は横なで、胴部に一部指頭痕が残る。	

1区126号住居跡

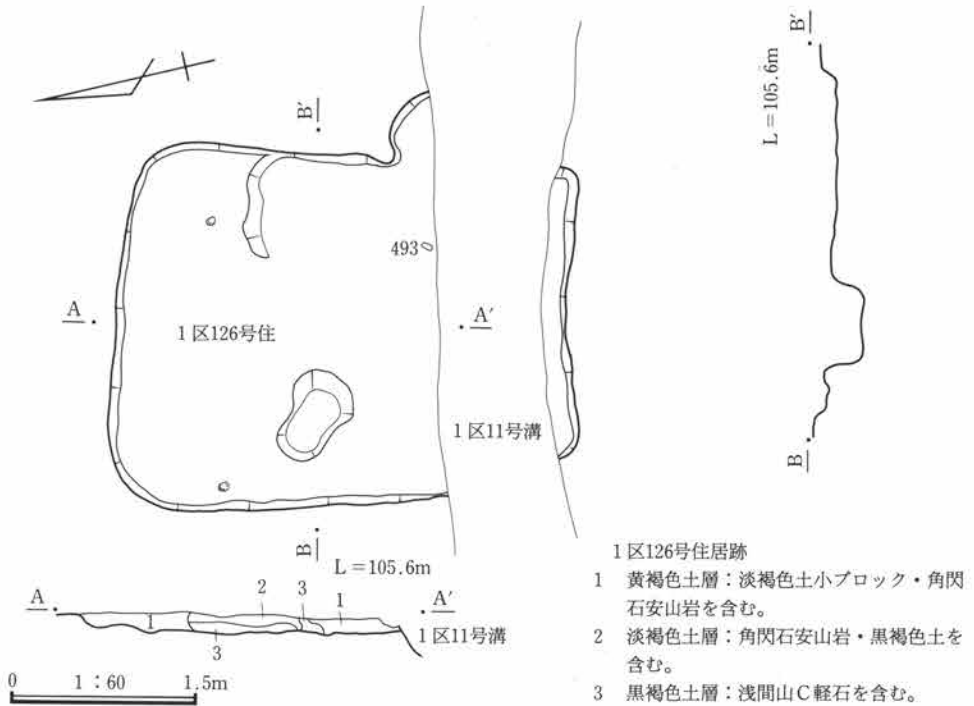
1区I-34グリッドに位置し、1区130号住居跡、1区11号溝、1区27号土坑と重複する。新旧関係は、古い方から130号住居跡→当住居跡→27号土坑→11号溝となっている。当住居跡周辺は、攪乱が深くまで及んでおり、床面のみが検出された。床面の範囲や掘形から、平面形は隅丸長方形を呈し、規模は2.54m×3.55mと判断される。主軸方位はN-15°-Eである。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。

竈は東壁南側に構築され、南半分は11号溝に壊されている。

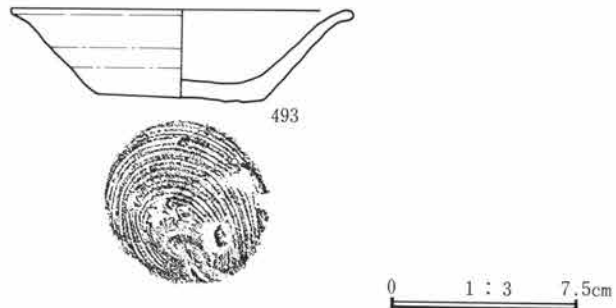
掘り方は、床面下10cm前後まで全体に掘り込んでいる。また、西壁中央には楕円形の床下土坑が検出されている。



第232図 1区126号住居跡



第233図 1区126号住居跡掘形



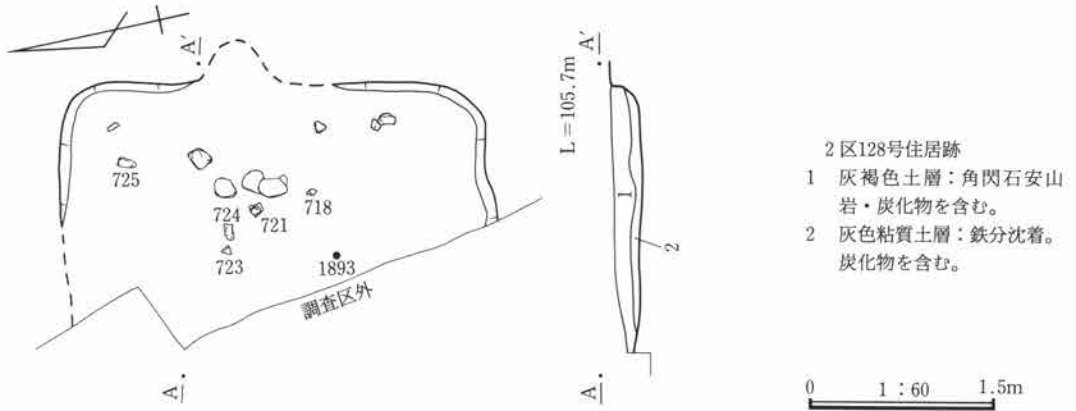
第234図 1区126号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0493	杯 須恵器	器高：35mm 口径：[137mm] 底径：67mm 口縁部～底部 ½	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。 外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回 転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	

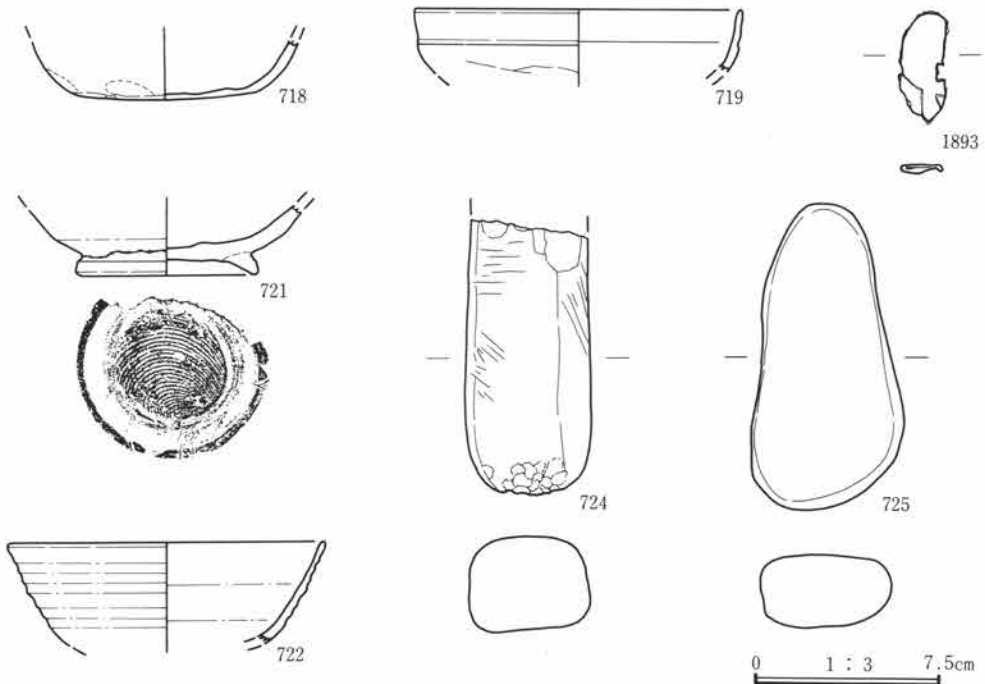
2区128号住居跡

2区J-07グリッドに位置し、2区120・142・145・150号住居跡と重複する。新旧関係は、150号住居跡より新しいが、120・142・145号住居跡との関係は不明である。当住居跡は、側道調査時に東半分が検出されたのみである。このため、平面形は不明で、南北の規模は3.36mを測る。東壁の残存壁高は12cm~14cmである。柱穴・壁溝は確認されない。

竈は確認されないが、通常竈が構築される東壁付近からは石が多く出土している。したがって、竈は重複部分に存在していた可能性もある。

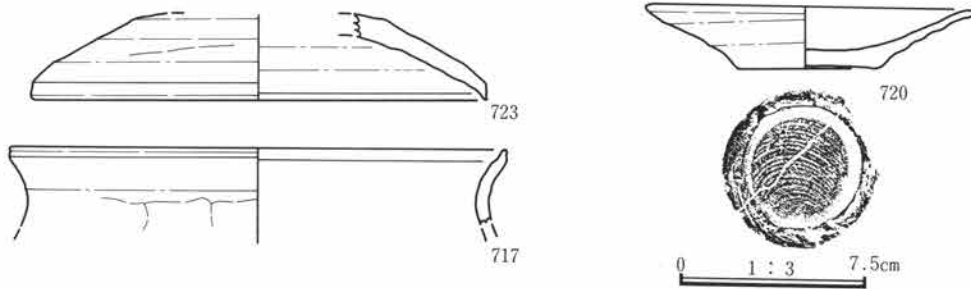


第335図 2区128号住居跡



第236図 2区128号住居跡出土遺物①



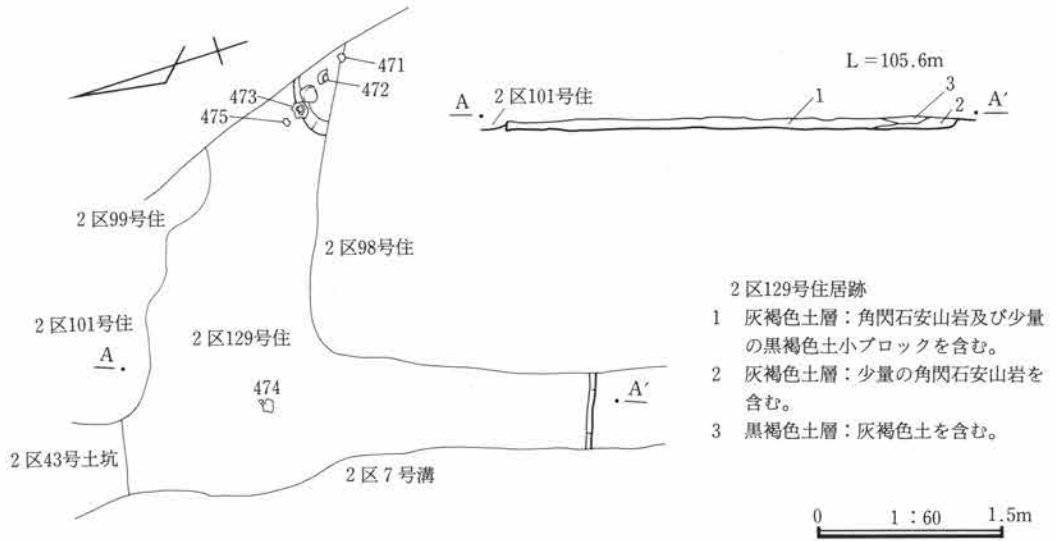


第237図 2区128号住居跡出土遺物②

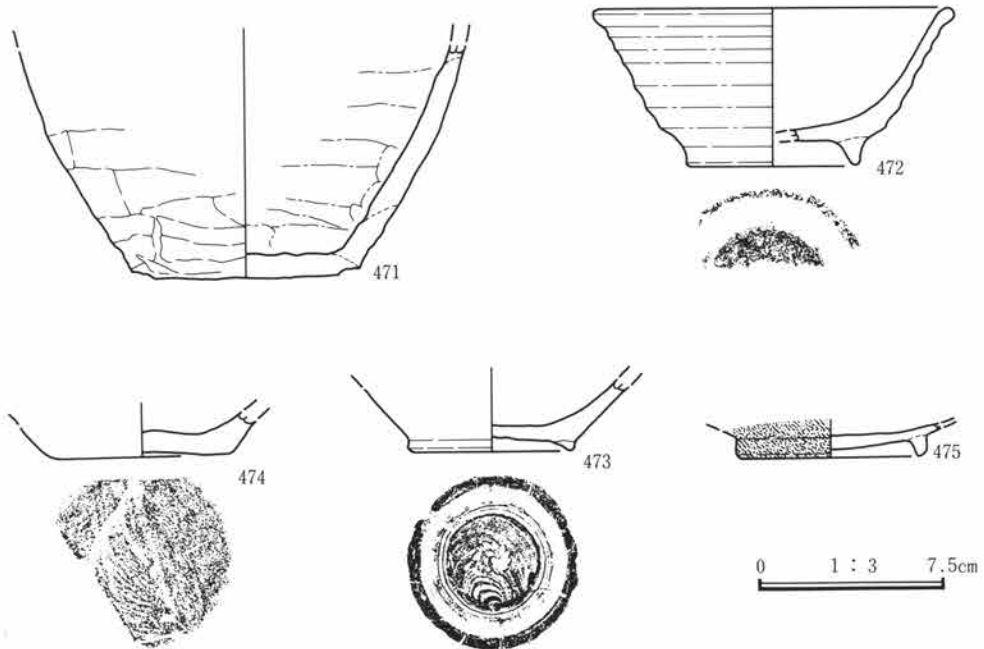
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0717	甕 土器	器高：(30mm) 口径：[200mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は外反。外面口縁端部に沈線一条。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部～胴部上端は横なで。	外面に油煙付着。
0718	杯 土器	器高：(23mm) 口径：— 底径：— 胴部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部はやや内湾する。丸底。外面：胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：胴部～底部上半は横なで、底部下半は横なで。	内外面に油煙付着
0719	杯 土器	器高：(25mm) 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部上端は横なで。	
0720	皿 須恵器	器高：21mm 口径：132mm 底径：— 口縁部～高台部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に共に燻し。
0721	椀 須恵器	器高：(28mm) 口径：— 底径：74mm 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転なで。	
0722	椀 須恵器	器高：(40mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。内外面に共に胴部は回転なで。	
0723	蓋 須恵器	器高：(34mm) 口径：[182mm] 天井部～口縁部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。返りは短い。外面：天井部上半は回転篋削り、天井部下半～口縁部は回転なで。内面：天井部～口縁部は回転なで。	
0724	薦 石	長：(105mm) 幅：50mm 厚：40mm 重：389.9g	粗粒安山岩。	表面に擦痕があり、先端部には打ちつけた跡がある。	
0725	薦 石	長：120mm 幅：62mm 厚：29mm 重：352.1g	粗粒安山岩。		
1893	? 鉄製品	長：(43mm) 幅：20mm 厚：3mm		鎌の一部か？。鉄板を折り曲げて製造。	

2区129号住居跡

2区J-02グリッドに位置し、2区98・99・100・101・106号住居跡、2区7号溝、2区43号土坑と重複する。新旧関係は、いずれも当住居跡が古いと考えられる。南壁の極一部が遺存しているのみで、平面形・規模・主軸方位は不明である。確認された残存壁高は、6cmである。柱穴・壁溝は確認されない。



第238図 2区129号住居跡

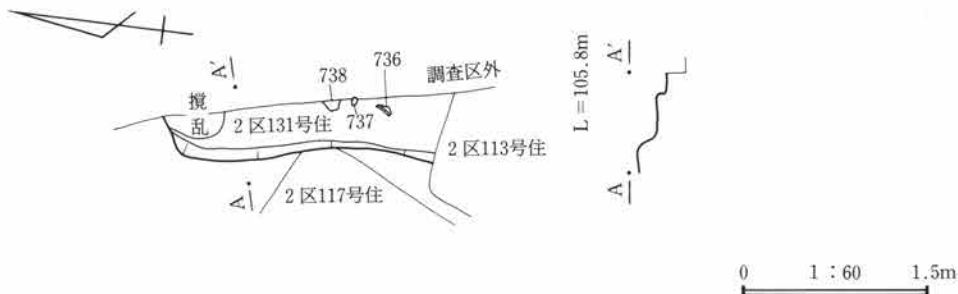


第239図 2区129号住居跡出土遺物

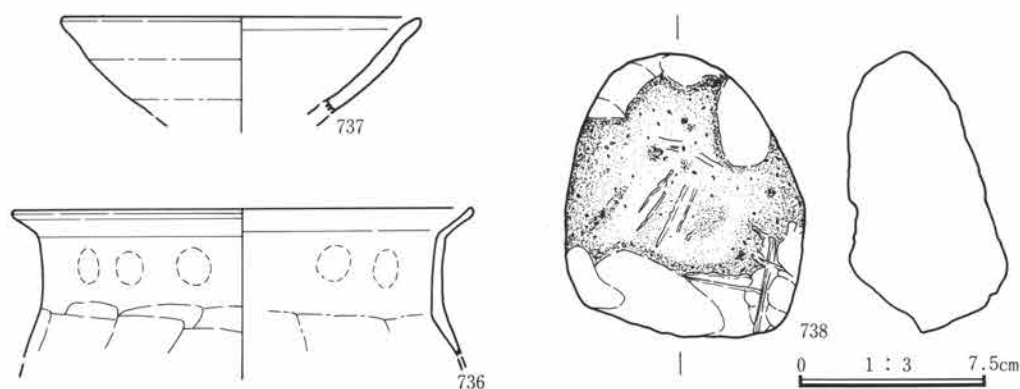
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0471	羽釜	器高：(90mm) 口径：一底 径：92mm 胴部下半～底部 1/2	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬 質。橙。	胴部下半は僅かに内湾しつつ広がる。外 面：胴部下半は篋削り。内面：胴部下半 ～底部は回転なで。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
0472	椀 須恵器	器高：62mm 口径：[142mm] 底径：[68mm] 口縁部～高 台部1/2	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ 広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁 部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け 後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0473	椀 須恵器	器高：(28mm) 口径：一底 径：68mm 胴部下半～高台 部1/2	径1mm前後の砂粒を含 む。不完全還元。硬質。 灰白・浅黄。	轆轤整形、右回転。胴部下半は直線的に広 がる。外面：胴部下半は回転なで、底部は 回転糸切り後、高台貼り付け。内面：胴部 下半～底部は回転なで。	内外面の一部は燻 し。
0474	杯 須恵器	器高：(18mm) 口径：一底 径：70mm 胴部下端～底部 1/2	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転 なで、底部は回転糸切り。内面：胴部下端 ～底部は回転なで。	
0475	椀 灰釉陶器	器高：(13mm) 口径：一底 径：[76mm] 胴部下端～高 台部1/2	細砂粒を含む。還元。 やや硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底 部は高台貼り付け後丁寧な回転なで。内 面：胴部下端～底部は丁寧な回転なで。	

## 2区131号住居跡

2区I-09グリッドに位置し、2区113・117・142号住居跡と重複する。新旧関係は、調査順から113・117号住居跡より古く、142号住居跡より新しいと考えられる。当住居跡は、重複や調査区の関係から西壁北側が検出されたのみである。このため、平面形・規模・主軸方位は不明である。北壁の残存壁高は、8cm～16cmである。壁溝は確認されない。貯蔵穴や竈は、両者が存在すると考えられる東側が調査区外であるため不明である。



第240図 2区131号住居跡

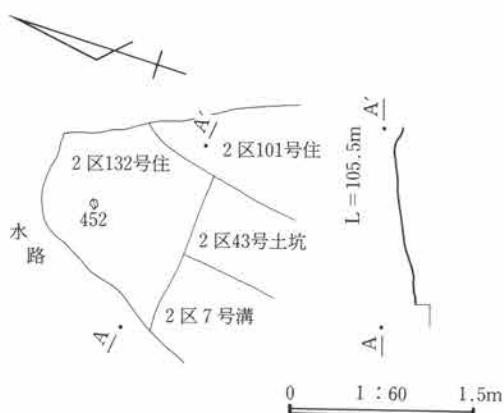


第241図 2区131号住居跡出土遺物

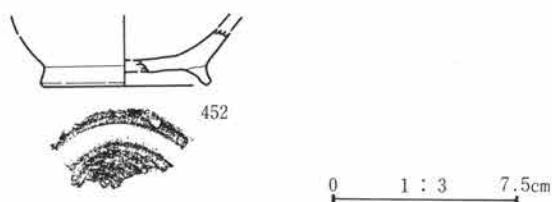
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0736	甕 土師器	器高：(53mm) 口径：[182mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は笥削り。内面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は笥なで。	
0737	椀 須恵器	器高：(37mm) 口径：[144mm] 底径：— 口縁部～胴部迄	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	内外面共に燻し。
0738	用途不明 石製品	長：111mm 幅：94mm 厚：66mm 重：296.2g	二ツ岳軽石。		

### 2区132号住居跡

2区I-04グリッドに位置し、2区101号住居跡、2区7号溝、2区43号土坑と重複する。新旧関係は、いずれも当住居跡が古いと考えられるが、43号土坑との関係は不明である。当住居跡は東側が調査区外、南側が他の遺構に、西側と北側が攪乱によって破壊されているため、平面形・規模・主軸方位は不明である。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。



第242図 2区132号住居跡



第243図 2区132号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0452	椀 須恵器	器高：(22mm) 口径：一底 径：[68mm] 胴部下端～高 台部迄	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底 部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面： 胴部下端～底部は回転なで。	内外面共に胴部下 端～底部は燻し。

## 2区133号住居跡

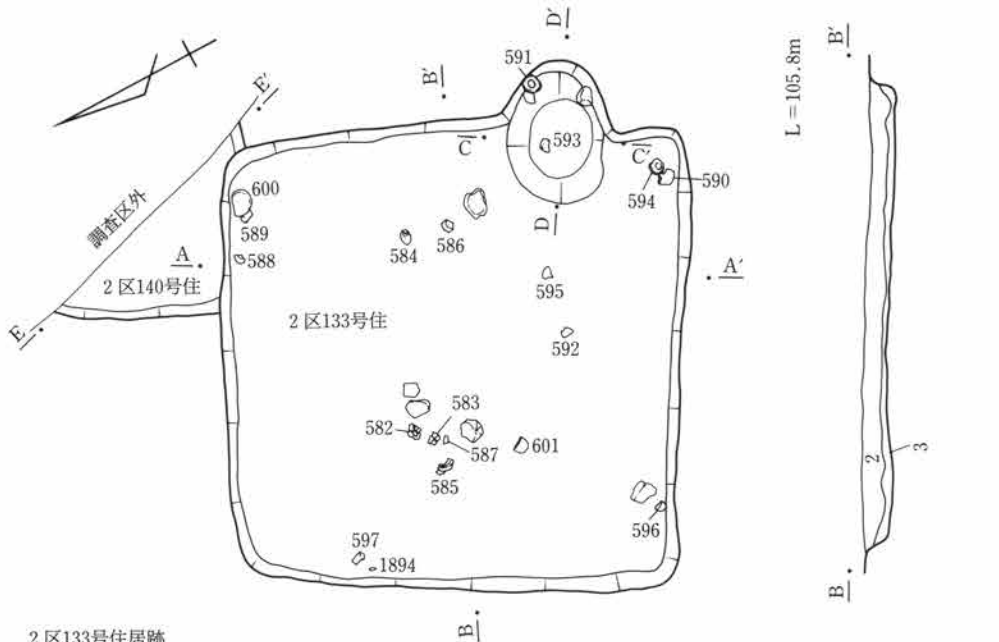
2区I-12グリッドに位置し、2区140・143・152号住居跡、2区11・15号溝、2区19号土坑と重複する。143号住居跡との新旧関係は、140・143号住居跡が古く、11号溝が新しい。しかし、15号溝と19号土坑との関係は不明である。また、152号住居跡との関係は、調査順から当住居跡が新しいと考えられる。平面形は隅丸方形を呈し、規模は3.7m×3.7mである。主軸方位はN-24.5°-Eを示し、残存壁高は11cm～24.5cmを測る。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。遺物は多く、住居跡全体から出土している。

竈は東壁南側に構築され、燃焼部は壁の延長線上に設けている。燃焼部の奥には、竈に使用された一対の石が遺存している。

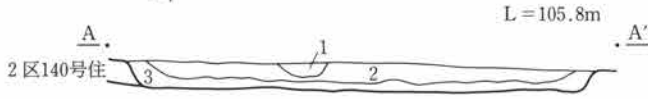
掘形は、南壁中央付近と北東隅をやや深く掘り込んでいるが、他は全体に4cm～14cm掘り込んでいる。なお、竈付近の掘形は、調査の進行上143号住居跡の調査を先行したため、図示できなかった。

## 2区140号住居跡

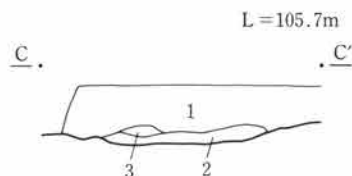
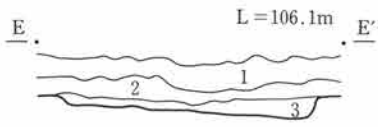
2区I-12グリッドに位置し、2区133・152号住居跡と重複する。新旧関係は、セクションから当住居跡が古いことが確認できる。なお、152号住居跡との関係は不明である。当住居跡は、西壁と南壁の一部が遺存していたのみであり、平面形・規模・主軸方位は不明である。西壁の残存壁高は、5cmである。柱穴・壁溝は確認されない。



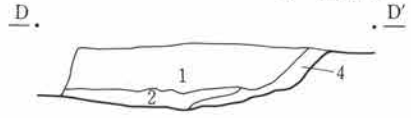
- 2区133号住居跡
- 1 灰白色土層：緻密。
  - 2 灰褐色土層：緻密。
  - 3 灰褐色土層：緻密。浅間山C軽石を含む。



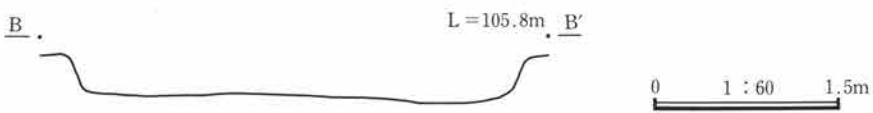
- 2区140号住居跡
- 1 暗灰褐色土層：緻密。
  - 2 暗灰褐色土層：緻密。少量の炭化物を含む。
  - 3 灰褐色土層：緻密。黄褐色土小ブロックを含む。



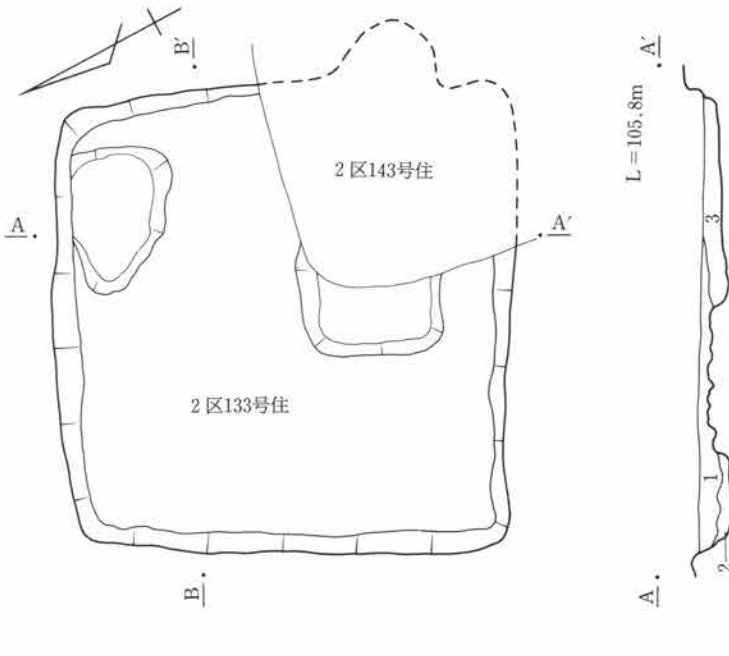
- 2区133号住居跡竈
- 1 灰褐色埴壤土層：緻密。浅間山C軽石を含む。
  - 2 炭化物と灰褐色土の混土層。
  - 3 灰褐色土層：焼土・炭化物を含む。
  - 4 灰褐色土層：焼土小ブロックを含む。



第244図 2区133・140号住居跡



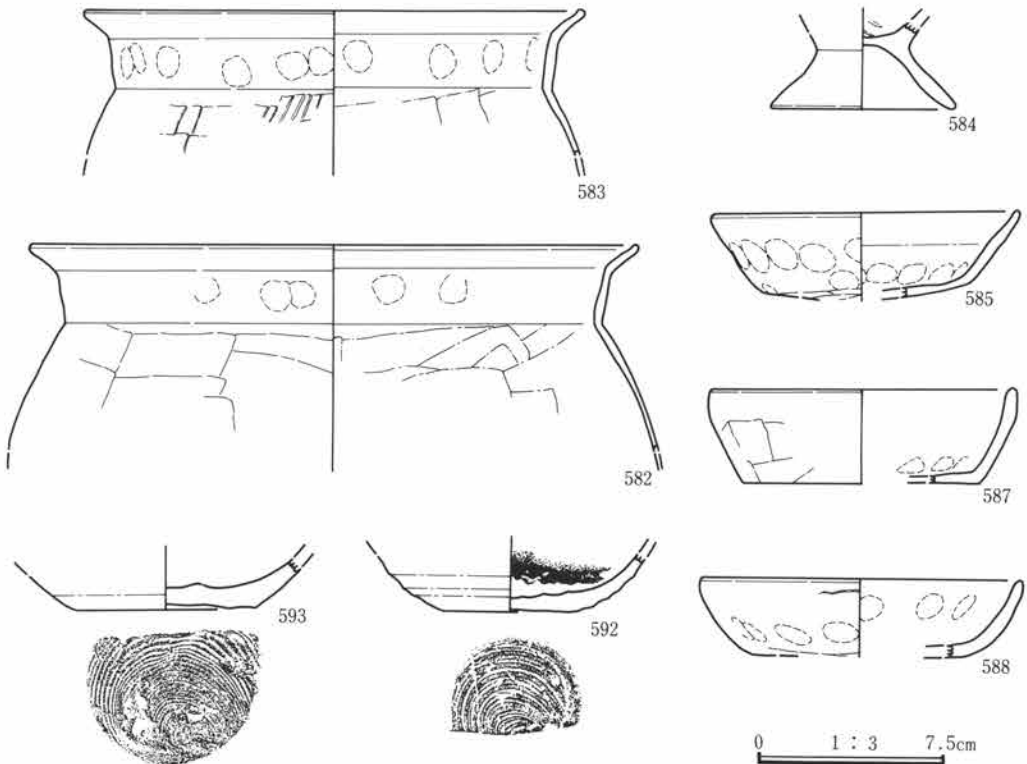
第245図 2区133号住居跡掘形エレベーション



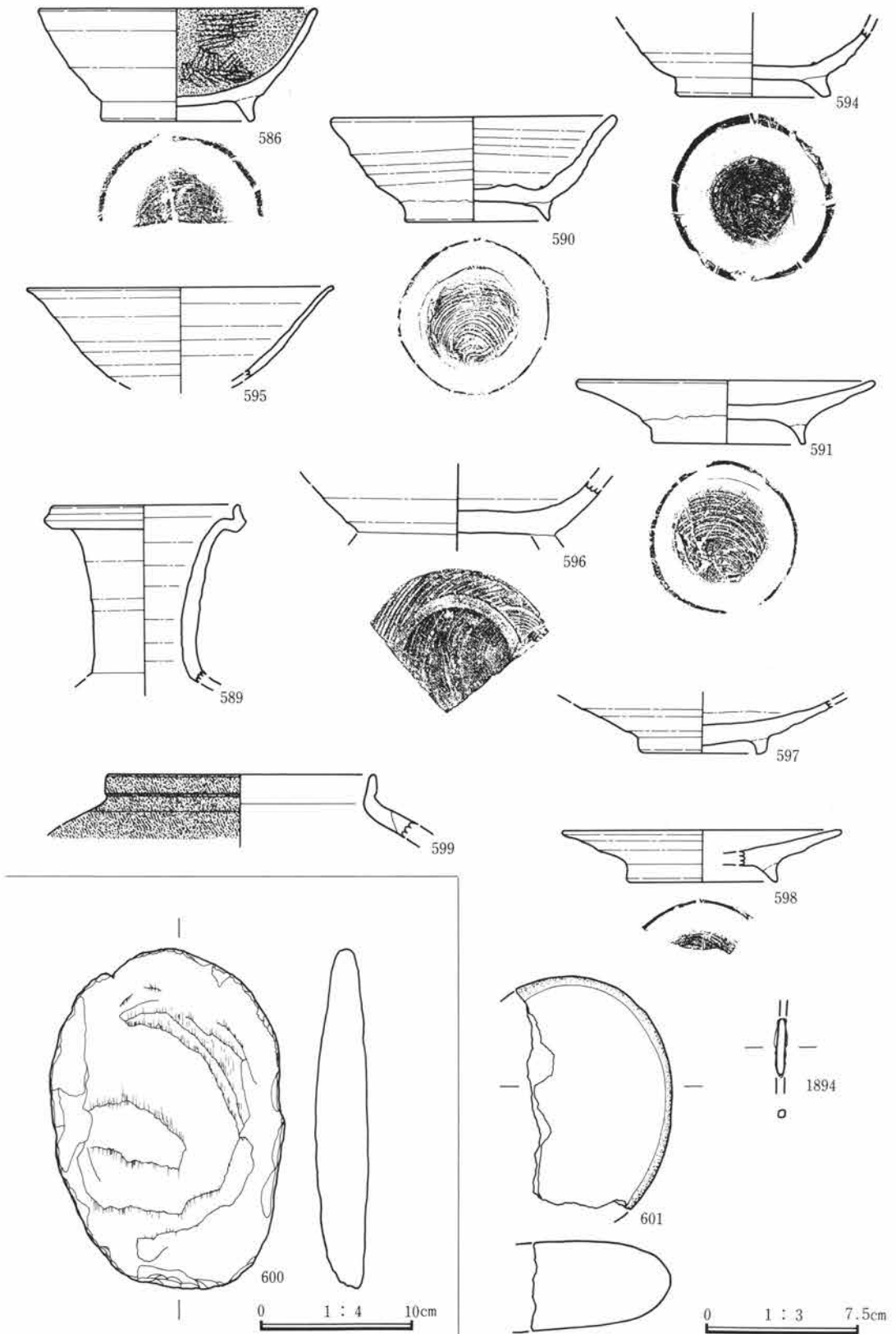
2区133号住居跡掘形

- 1 灰褐色土層：黒色土・ニツ岳軽石を含む。
- 2 黒褐色土層：黄褐色土小ブロックを含む。
- 3 褐色土層：暗褐色土・黄褐色土小ブロックを含む。

第246図 2区133号住居跡掘形



第247図 2区133号住居跡出土遺物①



第248図 2区133号住居跡出土遺物②



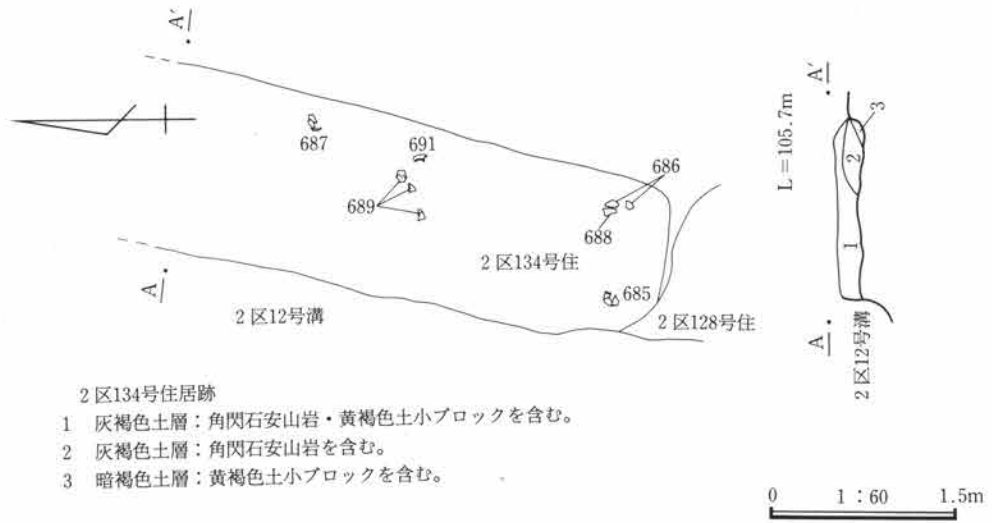
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0582	甕 土師器	器高：(81mm) 口径：[242mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋なで。	
0583	甕 土師器	器高：(57mm) 口径：[200mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋なで。	
0584	台付甕 土師器	器高：(34mm) 口径：— 底径：73mm 底部～脚部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	脚部は「ハ」字状に開く。外面：脚部は横なで。内面：底部は篋なで、脚部は横なで。	内外面に油煙付着。
0585	杯 土師器	器高：34mm 口径：124mm 底径：— 口縁部～底部迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がり、口縁端部は僅かに内湾。丸底。外面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	外面に油煙付着。
0586	椀 須恵器?	器高：54mm 口径：[136mm] 底径：73mm 口縁部～高台部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで後、篋磨き。	内黒。
0587	杯 土師器	器高：(37mm) 口径：[122mm] 底径：[94mm] 口縁部～底部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0588	杯 土師器	器高：(31mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～底部上端迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	
0589	長頸壺 須恵器	器高：(85mm) 口径：91mm 底径：— 口縁部～頸部迄	細砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。口縁部は外反し、口縁端部は内湾する。内外面共に口縁部～頸部は回転なで。	内外面ともに自然釉。
0590	椀 須恵器	器高：51mm 口径：140mm 底径：70mm ほぼ完形	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0591	皿 須恵器	器高：31mm 口径：[144mm] 底径：75mm 口縁部～高台部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内面に油煙付着。
0592	杯 須恵器	器高：(23mm) 口径：— 底径：[54mm] 胴部～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：胴部～底部は回転なで。	内面にタール又は漆付着。

第IV章 発見された遺構と遺物

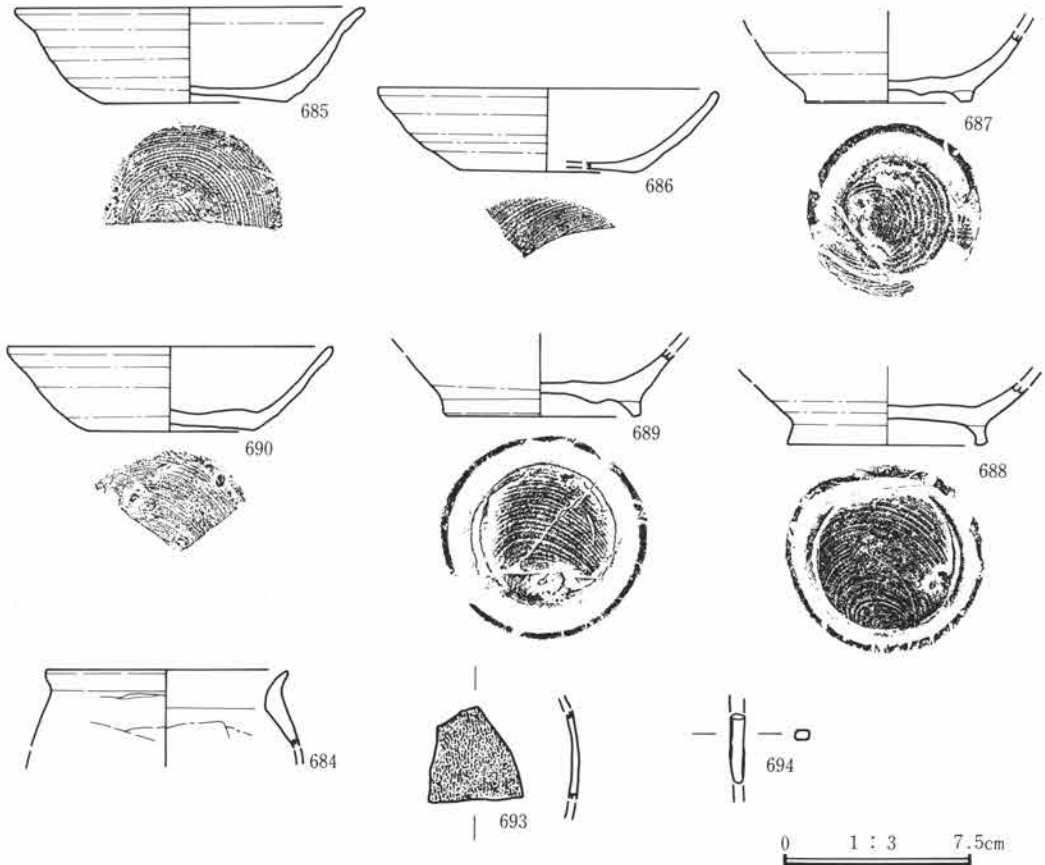
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0593	杯 須恵器	器高：(20mm) 口径：— 底径：70mm 胴部下半～底部%	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転などで、底部は回転糸切り。内面：胴部下半～底部は回転などで。	
0594	椀 須恵器	器高：(32mm) 口径：— 底径：76mm 胴部～高台部%	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転などで。	内面に重ね焼きの痕あり。
0595	椀 須恵器	器高：(45mm) 口径：[148mm] 底径：— 口縁部～胴部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転などで。	
0596	壺? 須恵器	器高：(27mm) 口径：— 底径：[96mm] 胴部下端～底部%	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転などで。	
0597	皿 須恵器	器高：(26mm) 口径：— 底径：[62mm] 胴部～高台部%	細砂粒を含む。還元。硬質。明青灰。	轆轤整形。胴部は直線的に広がる。外面：胴部は回転などで、底部は高台貼り付け後などで。内面：胴部～底部は回転などで。	内面に自然釉。
0598	皿 須恵器	器高：25mm 口径：[136mm] 底径：[72mm] 口縁部～高台部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転などで。	
0599	短頸壺 灰釉陶器	器高：(31mm) 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～胴部上端	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。口縁部はほぼ直立。内外面共に口縁部～胴部上端は回転などで。	外面に施釉。
0600	用途不明 石製品	長：218mm 幅：151mm 厚：34mm 重：1633.4g	雲母石英片岩。	先端に打ち付けた痕あり。	
0601	用途不明 石製品	長：(110mm) 幅：(75mm) 厚：42mm 重：532.6g	粗粒安山岩。	周囲が擦られている。	
1894	? 鉄製品	長：(37mm) 幅：3.5mm 厚：3.5mm		角釘または紡錘車の軸の一部か。	

2区134号住居跡

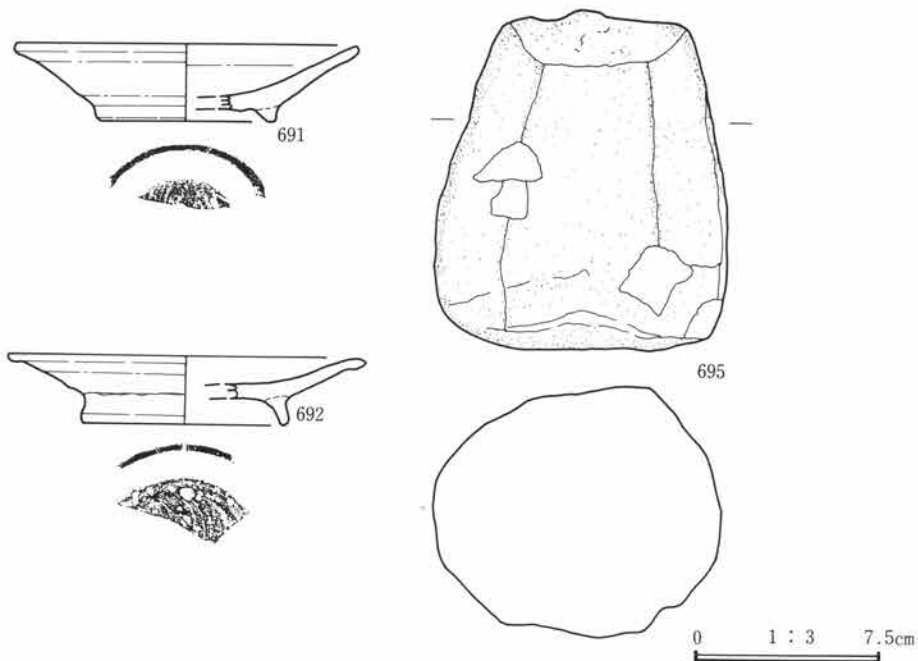
2区J-08グリッドに位置し、2区117・120・142・145・150号住居跡、2区12号溝と重複する。新旧関係は、142・145・150号住居跡より新しいが、117・120号住居跡との関係は不明である。当住居跡は、西側と南側の一部の床面の範囲が確認されたのみであり、平面形・規模・主軸方位は不明である。柱穴・壁溝・貯蔵穴・竈は確認されない。



第249図 2区134号住居跡



第250図 2区134号住居跡出土遺物①



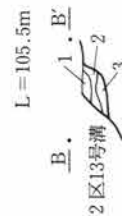
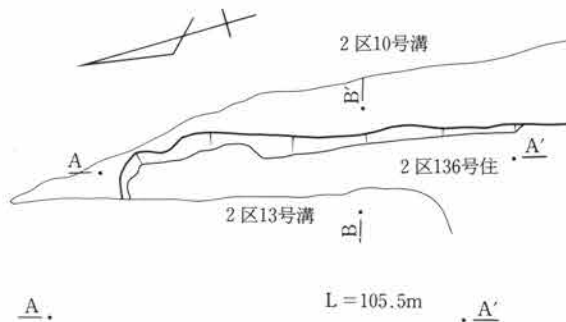
第251図 2区134号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0684	甕 土師器	器高：(30mm) 口径：[96mm] 底径：— 口縁部～胴部上端小破片	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面にやや多量の油煙附着。
0685	杯 須恵器	器高：37mm 口径：[138mm] 底径：74mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0686	杯 須恵器	器高：(32mm) 口径：[136mm] 底径：[70mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0687	碗 須恵器	器高：(28mm) 口径：— 底径：68mm 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転なで。	内外面共に燻し。
0688	碗 須恵器	器高：(24mm) 口径：— 底径：80mm 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転なで。	内外面共に一部燻し。
0689	碗 須恵器	器高：(26mm) 口径：— 底径：78mm 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転なで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0690	杯 須恵器	器高：33mm 口径：[130mm] 底径：[68mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	
0691	皿 須恵器	器高：30mm 口径：[136mm] 底径：[72mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転で。	内面に油煙付着。
0692	皿 須恵器	器高：27mm 口径：[142mm] 底径：[82mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転で。	内外面に共に燻し。
0693	壺 灰釉陶器	器高：— 口径：— 底径：— — 胴部小破片	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。内外面に共に胴部はなで。	外面に施釉。
0694	? 鉄製品	長：(27mm) 幅：4～6mm 厚：4mm		鉄製の茎または紡錘車の軸か。	
0695	石製品 支脚	長：(133mm) 幅：117mm 厚：115mm 重：1305.4g	二ツ岳軽石。	上部が欠けている。面取りがされている。	

## 2区136号住居跡

2区J-09グリッドに位置し、2区13号溝と重複する。新旧関係は13号溝より古い。東壁が確認されたのみであり、平面形・規模・主軸方位は不明である。東壁の残存壁高は11cmである。柱穴・壁溝・貯蔵穴・竈は確認されない。



## 2区136号住居跡

- 1 灰褐色土層：角閃石安山岩を含む。
- 2 灰褐色土層：黄褐色土小ブロック・角閃石安山岩を含む。
- 3 黒色土層：黄褐色土小ブロックを含む。

0 1 : 60 1.5m

第252図 2区136号住居跡



第253図 2区136号住居跡出土遺物

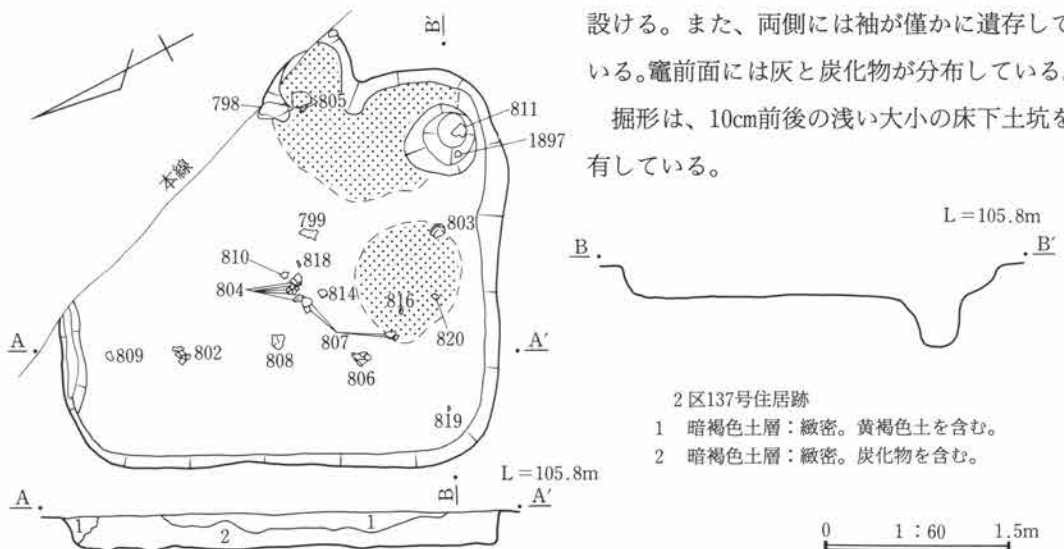
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0496	碗 須恵器	器高:(27mm)口径:[122mm]底径:一口縁部~胴部 $\frac{1}{6}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部~口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部~胴部は回転なで。	
1896	鉄塊			用途不明。	

2区137号住居跡

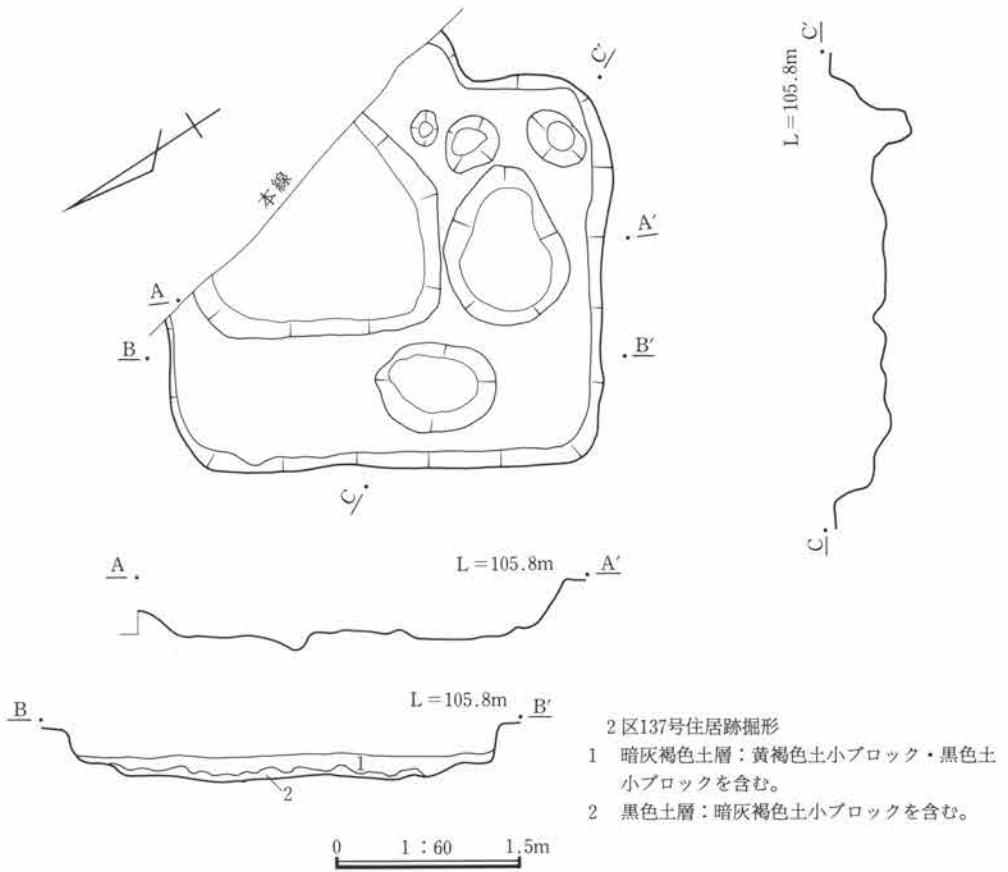
2区I-14グリッドに位置し、2区2号掘立柱跡と重複する。新旧関係は2号掘立柱跡が新しい。当住居跡の北東隅と竈の先端は、調査区外のため確認できない。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は3.1m×3.5mである。残存壁高は2cm~26cmを測る。南壁中央付近の床面上には、灰の分布が認められる。柱穴は確認されない。壁溝は北壁のみ検出された。貯蔵穴は南東隅に位置し、深さは40cmである。出土遺物は多く、住居跡中央と南側に集中する傾向があり、中には鉄滓(818・819・820・1897)も認められる。

竈は東壁南側に構築され、燃焼部は壁外に設ける。また、両側には袖が僅かに遺存している。竈前面には灰と炭化物が分布している。

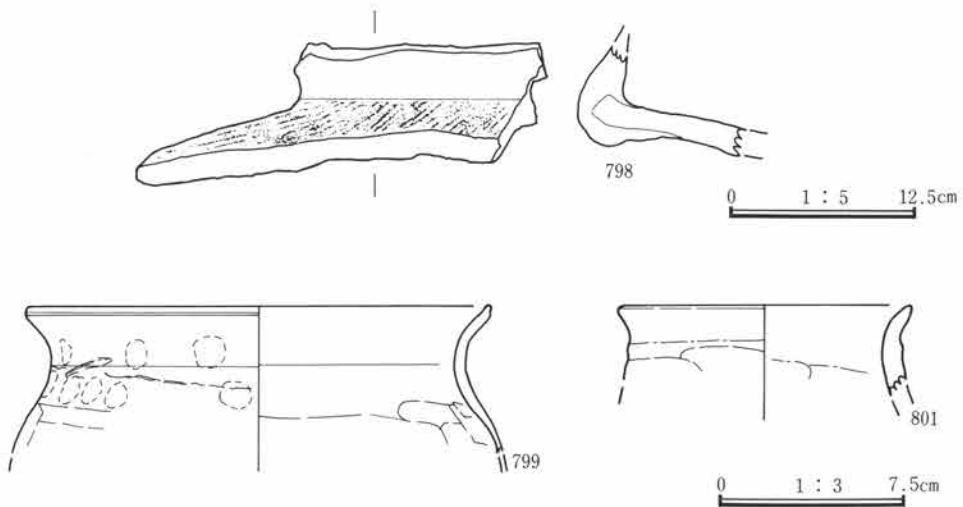
掘形は、10cm前後の浅い大小の床下土坑を有している。



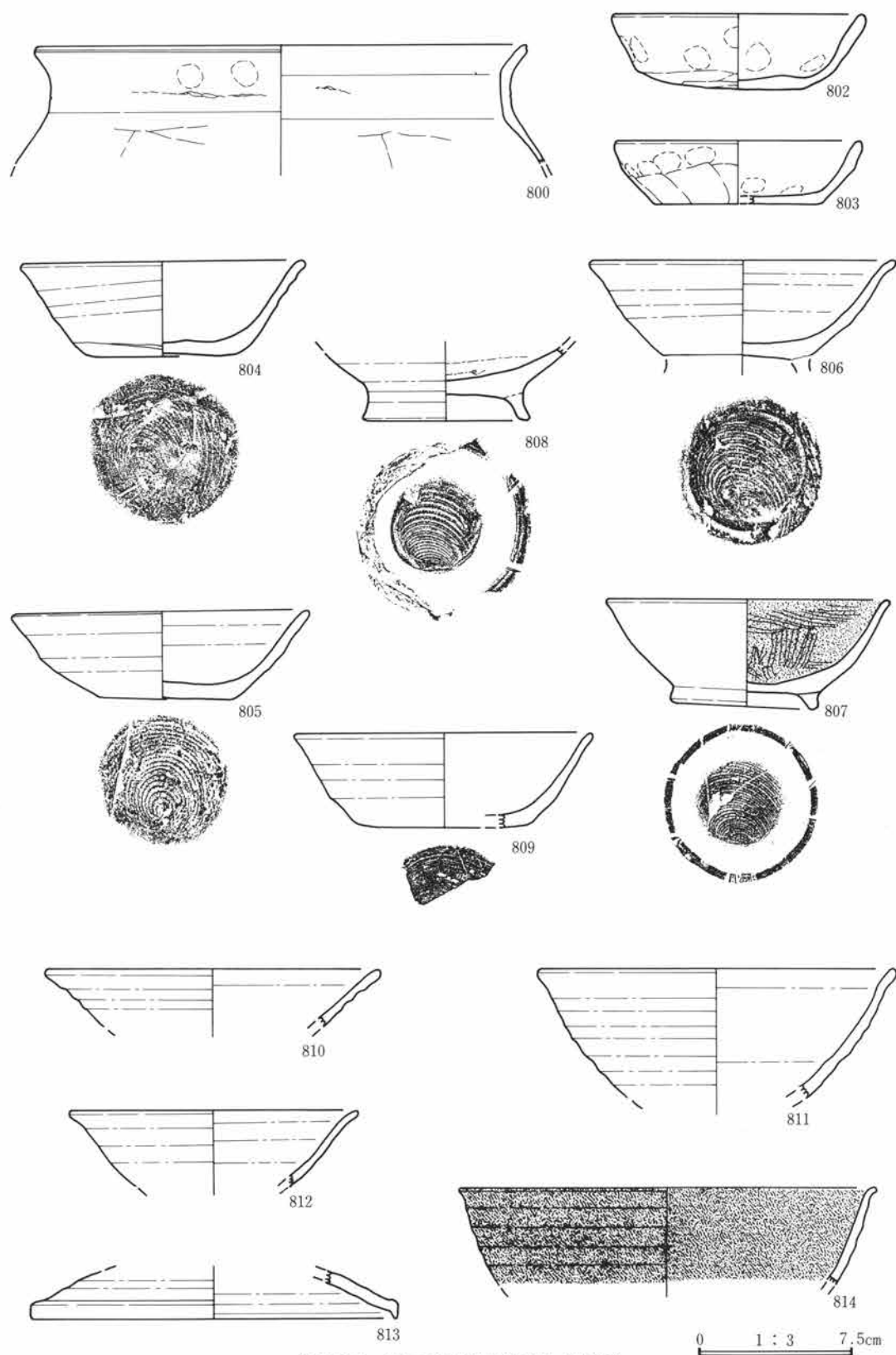
第254図 2区137号住居跡



第255図 2区137号住居跡掘形

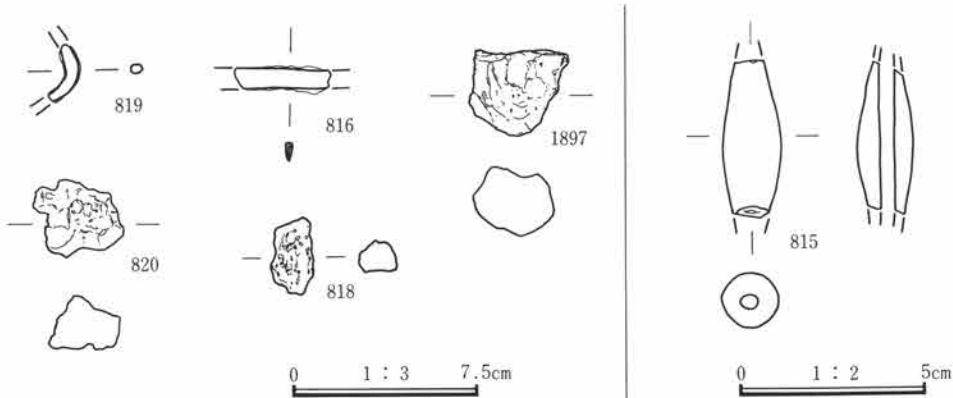


第256図 2区137号住居跡出土遺物①



第257図 2区137号住居跡出土遺物②





第258図 2区137号住居跡出土遺物③

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0798	甕 須恵器	器高：(93mm) 口径：一 底 径：一 口縁部下半～胴部 上端破片	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰。	口縁部は外反。頸部に口縁部と胴部の繋ぎ 痕あり。外面：口縁部下半は横なで、胴部 上端は叩目。内面：口縁部は横なで、胴部 上端は叩後なで。	
0799	甕 土師器	器高：(52mm) 口径：[186 mm] 底径：一 口縁部～胴 部上端%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、一部指頭痕・輪積痕残り、胴部上 端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部 上端は篋なで。	内面にやや多量の 油煙付着。
0800	甕 土師器	器高：(56mm) 口径：[236 mm] 底径：一 口縁部～胴 部上端%	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや軟質。 鈍い橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、一部指頭痕・輪積痕が残り、胴部 上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴 部上端は篋なで。	内外面に油煙付 着。
0801	甕 土師器	器高：(36mm) 口径：[118 mm] 底径：一 口縁部～胴 部上端%	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。 鈍い橙。	口縁部は外反。外面：口縁部は横なで、 胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、 胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付 着。
0802	杯 土師器	器高：36mm 口径：123mm 底径：一 口縁部～底部%	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。丸底。外 面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が 残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部 は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0803	杯 土師器	器高：31mm 口径：[118mm] 底径：[80mm] 口縁部～底 部%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口 縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部～底 部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、 一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0804	杯 須恵器	器高：45mm 口径：137mm 底径：69mm 口縁部～底部 %	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。軟質。淡黄。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、 底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は 回転なで。	外面底部に油煙付 着。

第IV章 発見された遺構と遺物

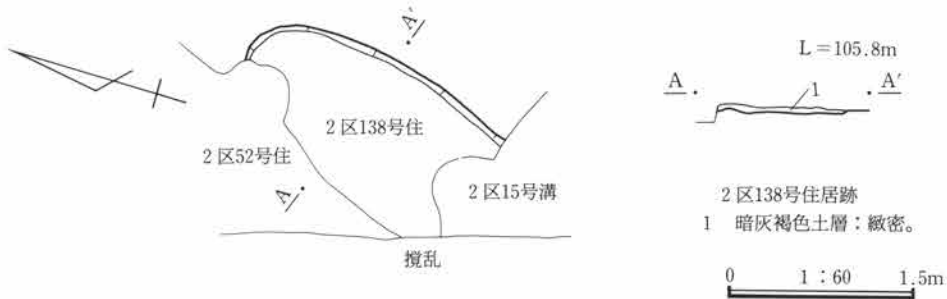
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0805	碗 須恵器	器高：(47mm) 口径：147mm 底径：一 口縁部～高台部 上端 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回 転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部 ～底部は回転まで。	外面に油煙付着、 二次炎を受けてい る。
0806	杯 須恵器	器高：43mm 口径：[144mm] 底径：62mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は 回転まで、底部は回転糸切り。内面：口縁 部～底部は回転まで。	内外面に油煙付 着。燻し？。
0807	碗 須恵器	器高：52mm 口径：136mm 底径：71mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。淡黄。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回 転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。 内面：口縁部～底部は回転まで後燻し、更 に磨き。	内面は燻し。内黒。
0808	碗 須恵器	器高：(34mm) 口径：一 底 径：[80mm] 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。硬質。灰黄・浅黄 橙。	轆轤整形、右回転。外面：胴部は回転まで、 底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面： 胴部～底部は回転まで。	内外面に自然釉。
0809	杯 須恵器？	器高：(45mm) 口径：[144 mm] 底径：[84mm] 口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬 質。鈍い橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は横まで、底部は回転 糸切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	
0810	碗 須恵器	器高：(27mm) 口径：[160 mm] 底径：一 口縁部～胴 部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は内湾しつつ広が り、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口 縁部～胴部は回転まで。	外面に自然釉。
0811	碗 須恵器	器高：(61mm) 口径：[174 mm] 底径：一 口縁部～胴 部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ 広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共 に口縁部～胴部は回転まで。	
0812	碗 須恵器	器高：(35mm) 口径：[140 mm] 底径：一 口縁部～胴 部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。不完全還元。やや 軟質。灰白・鈍い橙。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ 広がり、口縁端部は外反。内外面共に口縁 部～胴部は回転まで。	
0813	蓋 須恵器	器高：(23mm) 口径：[176 mm] 天井部下半～口縁部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形。返りは短い。内外面共に天井部 ～口縁部は回転まで。	
0814	碗 灰釉陶器 破片	器高：(45mm) 口径：[200 mm] 底径：一 口縁部～胴 部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。 やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつ つ広がり、口縁端部は外反。内外面共に口 縁部～胴部は回転まで。	内外面共に口縁部 ～胴部は施釉。
0815	土 錘	長：42mm 最大径：15mm 孔 径：3mm 重：9.2g		両端が細くなる。	
0816	刀 子 鉄製品	長：(39mm) 幅：7mm 厚： 3mm		刀子の一部。鉄板を折り重ねて製造。	
0818	鉄 滓			鉄分を含む。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0819	?	長:(22mm) 幅:4~5mm 厚:3.5mm		用途不明。	
0820	鉄 滓			鉄分を含む。	
1897	鉄 滓			鉄分を含む。	

### 2区138号住居跡

2区J-13グリッドに位置し、2区52号住居跡、2区15号溝と重複する。新旧関係は、52号住居跡、15号溝より古い。東壁北側のみの確認であり、平面形・規模・主軸方位は不明である。残存壁高は2cmである。柱穴・壁溝は確認されない。

竈は15号溝によって壊されていると考えられる。

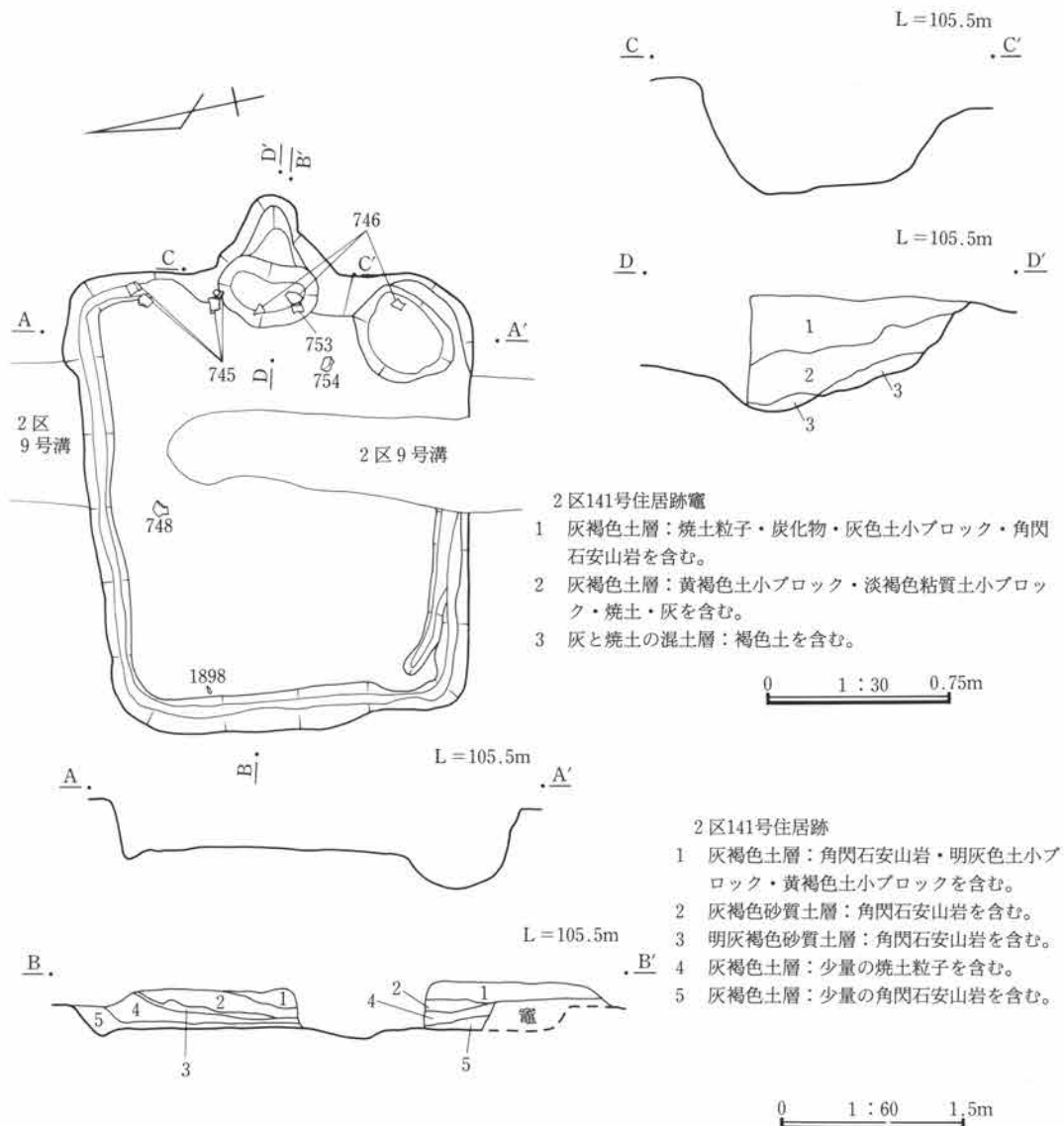


第259図 2区138号住居跡

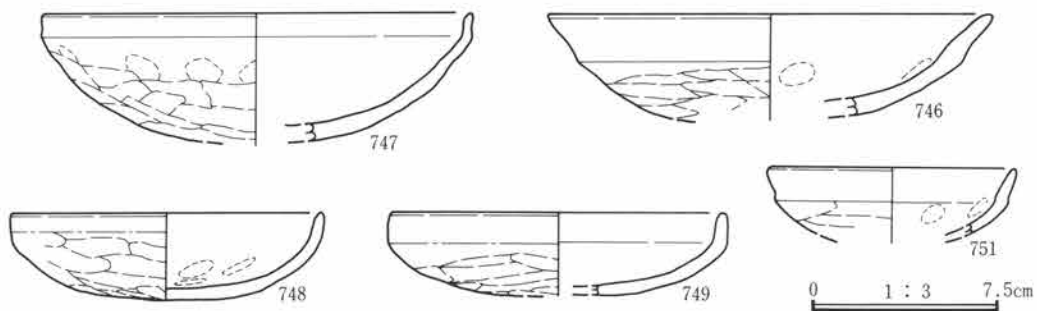
### 2区141号住居跡

2区I-07グリッドに位置し、2区113・125・142・150号住居跡、2区8・9・10号溝と重複する。新旧関係は、113号住居跡、8・9・10号溝より古く、142・150号住居跡より新しい。なお、125号住居跡との関係は不明である。平面形は東西に長い隅丸長方形を呈し、規模は3.68m×3.12mを測る。主軸方位はN-10°-Eである。溝との重複部分を除く残存壁高は35cmである。柱穴は確認されない。壁溝は、竈と貯蔵穴部分を除いてほぼ全周している。貯蔵穴は南東隅に位置し、平面形は円形を呈する。深さは、25cmである。遺物は東側からの出土が多く、これらのうち土師器甕(745)や土師器杯(746・753)などを図示している。

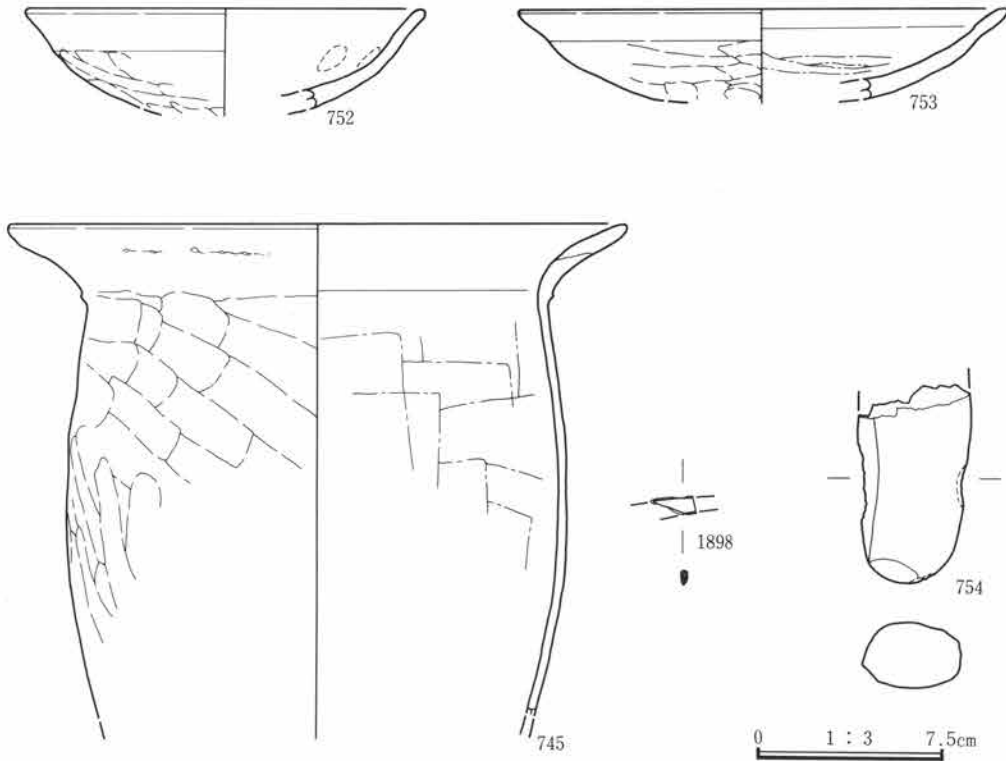
竈は東壁中央に構築されている。燃焼部には浅い落ち込みが認められる。



第260図 2区141号住居跡



第261図 2区141号住居跡出土遺物①



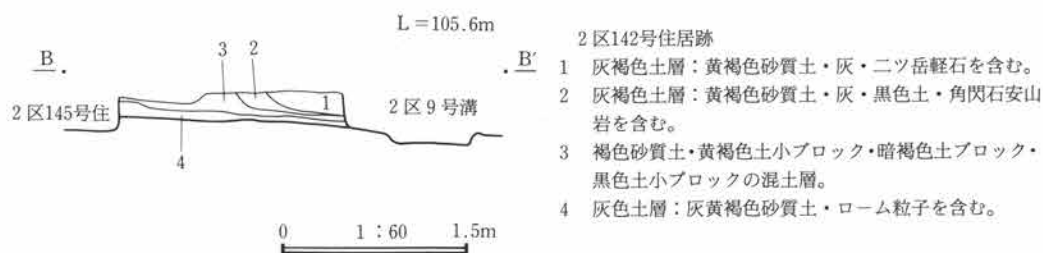
第262図 2区141号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0745	甕 土器	器高：(193mm) 口径：[246mm] 底径：— 口縁部～胴部上半迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕が残り、胴部上半は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上半は篋なで。	内外面に油煙付着、内面は多量。
0746	杯 土器	器高：(40mm) 口径：[176mm] 底径：— 口縁部～底部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	底部上半～胴部は内湾し、口縁部は外反。丸底。外面：口縁部～胴部は横なで、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部上半は横なで、底部はなで。	内面に油煙付着。
0747	杯 土器	器高：(51mm) 口径：[170mm] 底径：— 口縁部～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	外面口縁部下端に不明瞭な稜を持ち、口縁部は短く、ほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り、一部指頭痕が残る。内面：口縁部～底部上半は横なで、底部下半はなで。	
0748	杯 土器	器高：33mm 口径：127mm 底径：— 口縁部～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙・鈍い橙。	口縁部は短く、ほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで、一部指頭痕が残る。	外面に油煙付着。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0749	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[132mm] 底径：一 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0751	杯 土師器	器高：(27mm) 口径：[98mm] 底径：一 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	外面口縁部下端に不明瞭な稜を持ち、口縁部はやや外反。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部上半は篋削り。内面：口縁部～胴部上半は横なで、一部指頭痕が残る。	
0752	杯 土師器	器高：(40mm) 口径：[160mm] 底径：一 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部やや内湾し、口縁部は僅かに外反。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	外面に油煙付着。
0753	杯 土師器	器高：(36mm) 口径：[196mm] 底径：一 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	底部上半～胴部は僅かに内湾し、口縁部は僅かに外反。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	内外面に油煙付着。
0754	用途不明 石製品	長：(78mm) 幅：46mm 厚：28mm 重：133.6g	黒色片岩。		
1898	? 鉄製品	長：(17mm) 幅：6mm 厚：2mm		芯は空洞。刀子の一部か。	

## 2区142号住居跡

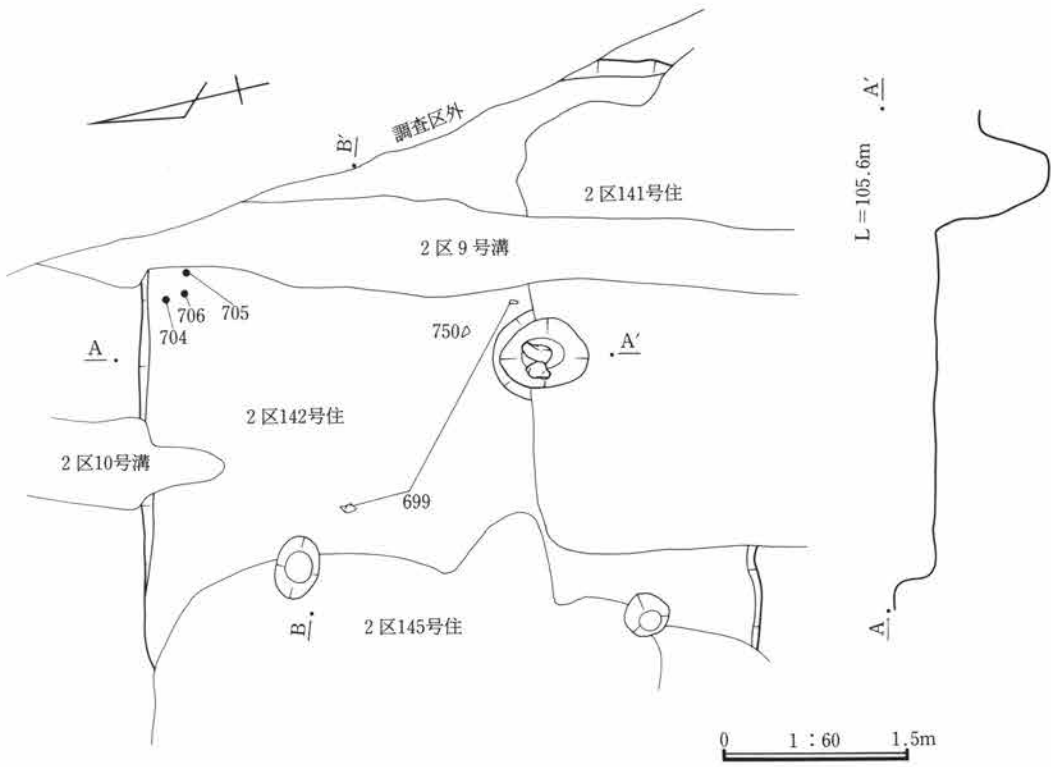
2区I-07グリッドに位置し、2区113・117・120・128・131・134・141・145・150号住居跡、2区9・10号溝と重複する。新旧関係は、113・117・120・131・134・141・145号住居跡、9・10号溝より古く、150号住居跡より新しい。なお、128号住居跡との関係は不明である。平面形は不明であり、南北の規模は4.9mを測る。残存壁高は23cm～35cmである。支柱穴と考えられるピットは、西側に2基確認され、深さは南側が15cm、北側が25cmである。なお、中央やや南寄りにピットがあるが、調査時には当住居跡に伴うと判断している。壁溝・貯蔵穴・竈は確認されない。



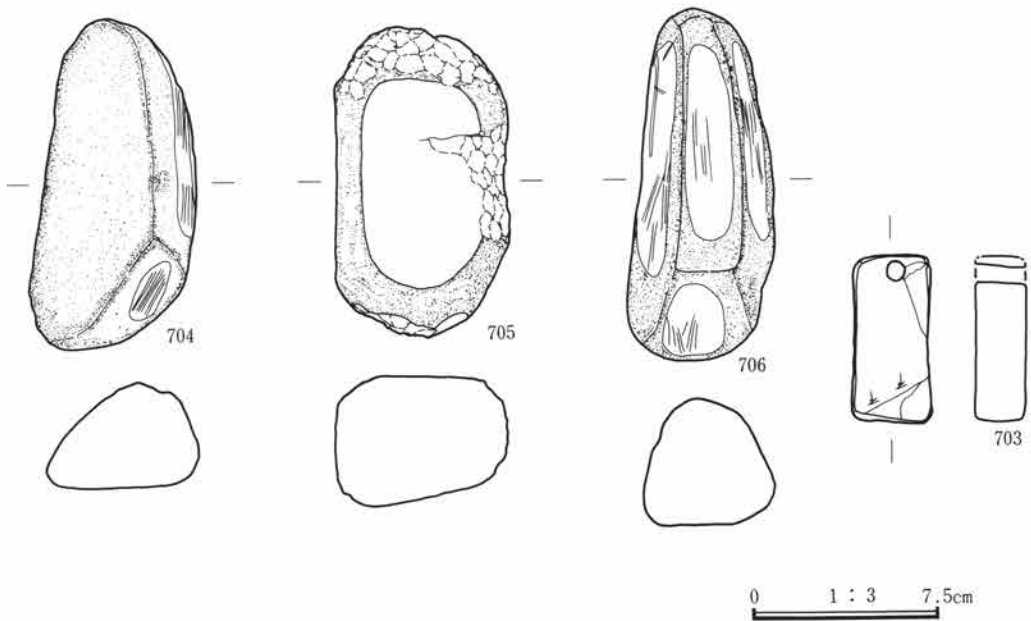
第263図 2区142号住居跡断面

### 2区142号住居跡

- 1 灰褐色土層：黄褐色砂質土・灰・ニツ岳軽石を含む。
- 2 灰褐色土層：黄褐色砂質土・灰・黒色土・角閃石安山岩を含む。
- 3 褐色砂質土・黄褐色土小ブロック・暗褐色土ブロック・黒色土小ブロックの混土層。
- 4 灰色土層：灰黄褐色砂質土・ローム粒子を含む。

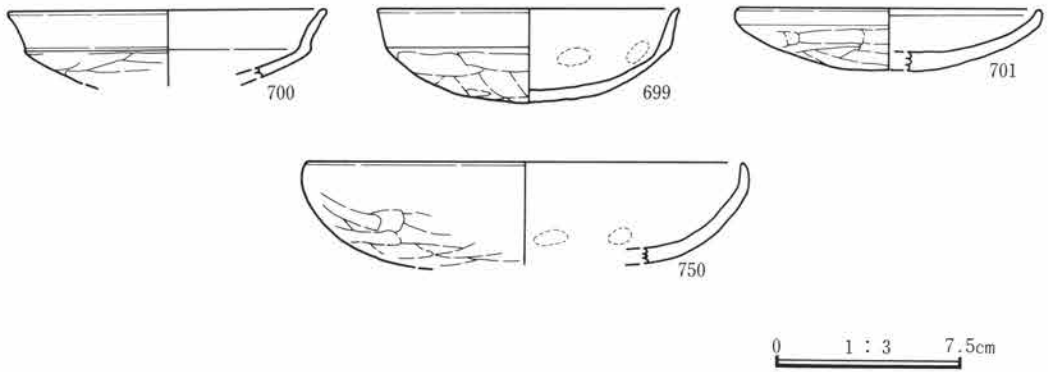


第264図 2区142号住居跡



第265図 2区142号住居跡出土遺物①

第IV章 発見された遺構と遺物



第266図 2区142号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0699	杯 土師器	器高：38mm 口径：[120mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は直線的に広がる。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで、胴部～底部は一部指頭痕が残る。	
0700	杯 土師器	器高：(28mm) 口径：[128mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は直線的に広がる。外面に不明瞭な稜を持つ。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0701	杯 土師器	器高：(26mm) 口径：[122mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部は短くほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0703	砥石	長：67mm 幅：32mm 厚：21mm 孔径：6mm 重：73.3g	砥沢石。	断面形は長方形。使用面は4面。先端に穿孔1カ所。	
0704	薦石	長：130mm 幅：67mm 厚：45mm 重：435.4g	粗石安山岩。		
0705	薦石	長：121mm 幅：69mm 厚：51mm 重：693.7g	粗石安山岩。	3面擦れている。両端部・側面は打ちつけ痕あり。	
0706	薦石	長：138mm 幅：59mm 厚：55mm 重：566.5g	角閃石安山岩。		
0750	杯 土師器	器高：(41mm) 口径：[176mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は短く、ほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、底部はなで、一部指頭痕が残る。	外面に油煙付着。



## 2区143号住居跡

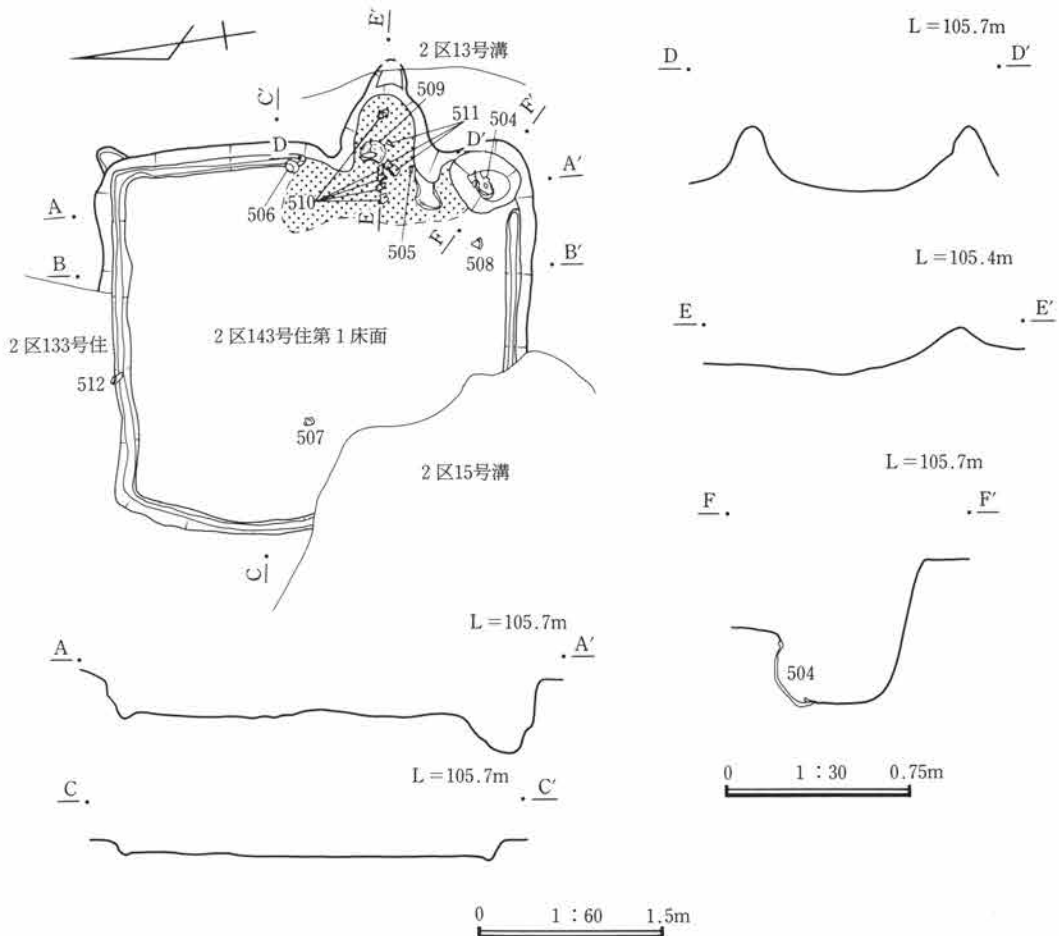
2区I-13グリッドに位置し、2区133・152号住居跡、2区11・13・15号溝と重複する。新旧関係は133号住居跡、11・13・15号溝より古く、152号住居跡より新しい。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は3.1m×3.3mである。主軸方位はN-5.5°-Eを示し、残存壁高は2cm~28cmを測る。床面は全体に固い。柱穴は確認されない。壁溝は竈と貯蔵穴を除いて全周する。貯蔵穴は南東隅に位置し、中には土師器甕(504)が据えられていた。

竈は東壁南側に構築され、燃焼部は壁外に設けている。煙道部は13号溝によって壊されている。竈前面には、焚口天井部に使用したと考えられる砂岩が認められた。

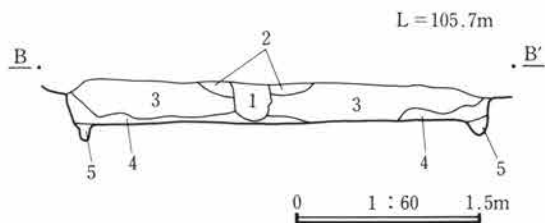
当住居跡では、当初確認した床面下約6cmの所に灰層の広がりが見出され、この面が固く締まっていることから床面と判断された。この面においても壁溝は検出されたが、北東部分はやや壁より内側に巡っている。

竈についても、下層床面に対応する火床面が確認された。

掘形は、全体を掘り込むタイプであり、下層床面下15cm前後掘り下げている。



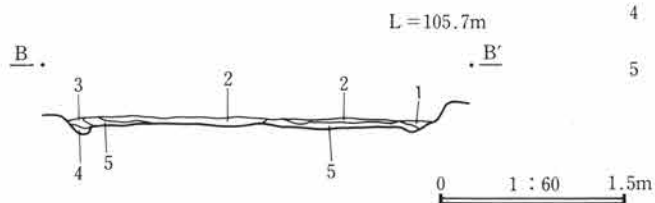
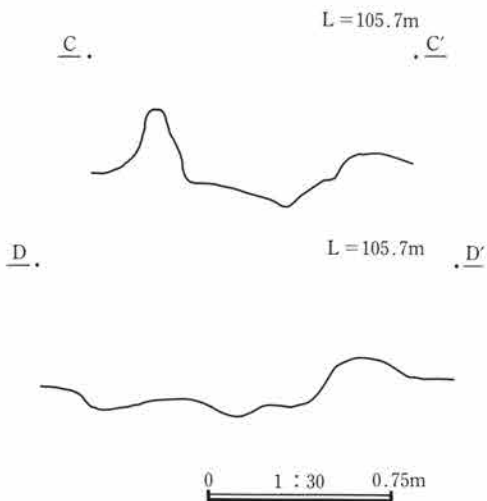
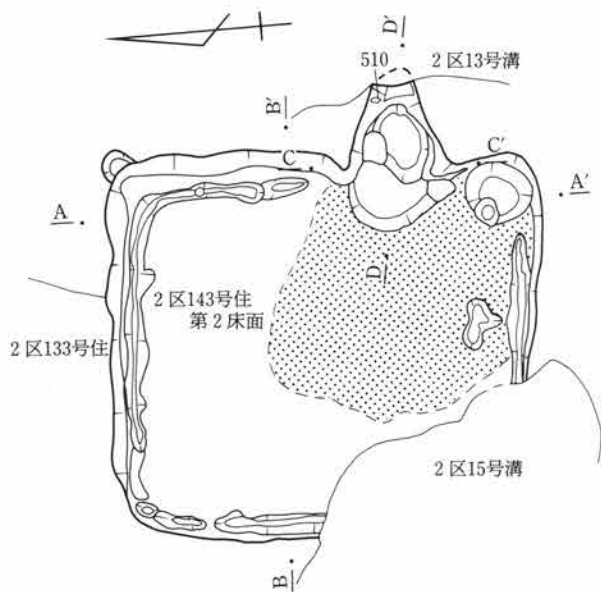
第267図 2区143号住居跡第1床面



2区143号住居跡

- 1 灰褐色土層：やや明るい。
- 2 灰褐色土層：やや緻密。
- 3 灰褐色土層：黄褐色土小ブロック・黒色土小ブロックを含む。
- 4 灰褐色土層：黄褐色土と黒褐色土のブロックは少ない。
- 5 明灰褐色土層：灰褐色土・角閃石安山岩を含む。

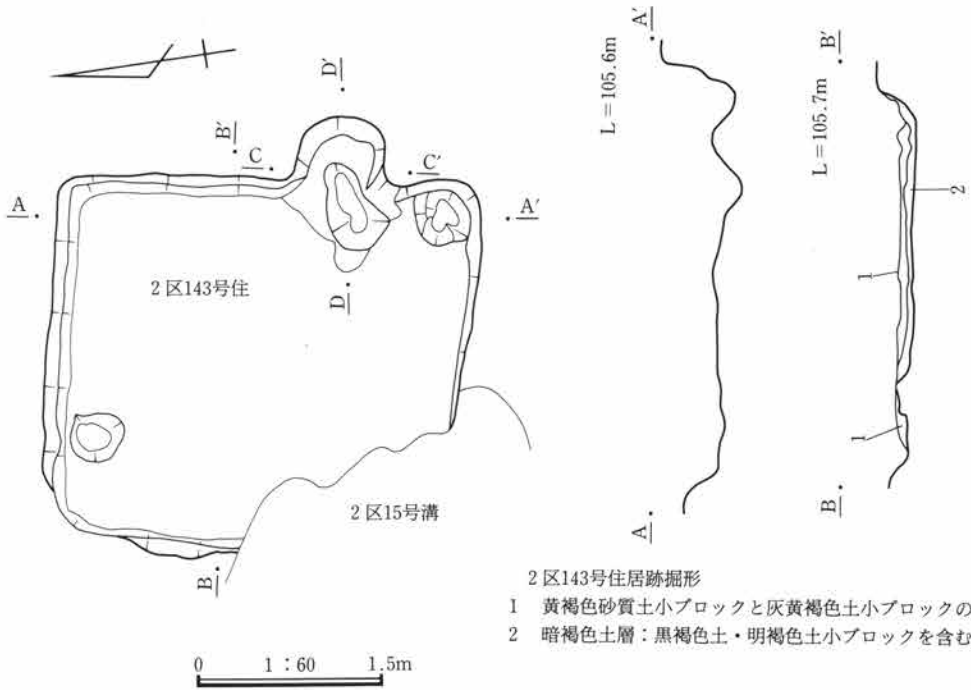
第268図 2区143号住居跡第1床面断面



2区143号住居跡(第2面)

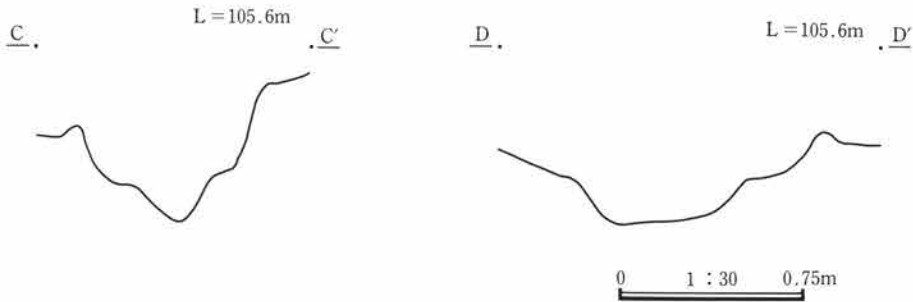
- 1 明灰褐色土層：灰褐色土・角閃石安山岩を含む。
- 2 灰色土層：焼土・黒色土・ニツ岳軽石を含む。
- 3 灰褐色土層：ニツ岳軽石・黒色土小ブロック及び多量の焼土を含む。
- 4 黒色土小ブロック・黄褐色土小ブロック・灰黄褐色砂質土小ブロックの混土層。
- 5 黒色土小ブロック・灰黄褐色砂質土小ブロックの混土層。

第269図 2区143号住居跡第2床面

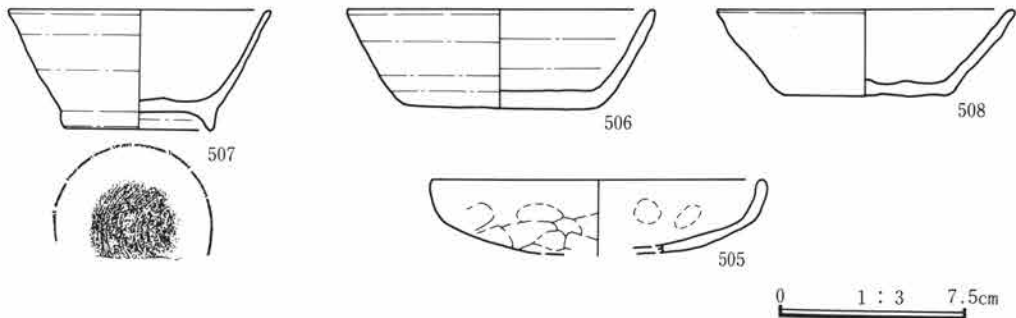


2区143号住居跡掘形

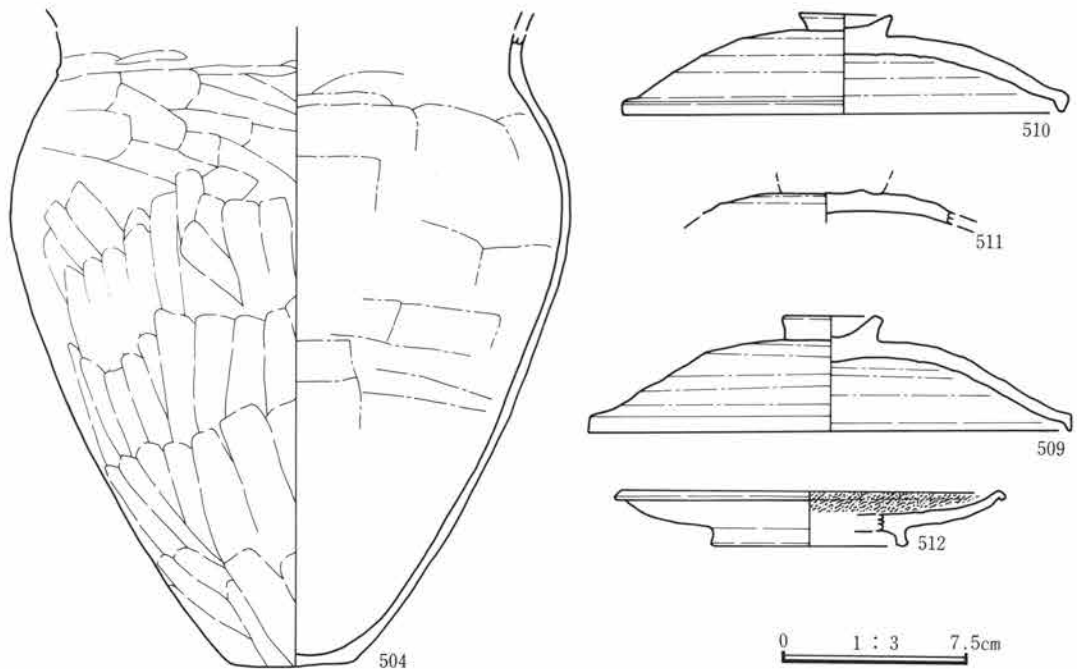
- 1 黄褐色砂質土小ブロックと灰黄褐色土小ブロックの互層。
- 2 暗褐色土層：黒褐色土・明褐色土小ブロックを含む。



第270図 2区143号住居跡掘形



第721図 2区143号住居跡出土遺物①



第272図 2区143号住居跡出土遺物②

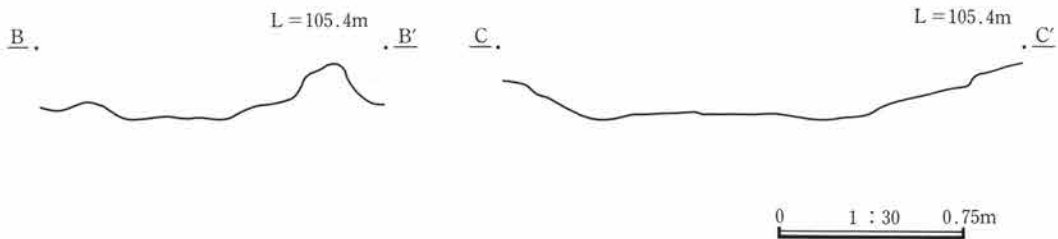
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0504	甕 土師器	器高：(250mm) 口径：一 底径：50mm 最大径：222mm 口縁部下半～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び やや多量の砂粒を含 む。酸化。軟質。明赤 褐。	口縁部は外反。最大径は胴部上半。外面： 口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内 面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋なで。	外面に油煙付着、 二次炎を受けてい る。
0505	杯 土師器	器高：(19mm) 口径：[132 mm] 底径：一 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。橙。	口縁部はやや内湾。平底に近い丸底。外面： 口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、 底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横な で、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0506	杯 須恵器	器高：39mm 口径：122mm 底径：79mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。硬質。明オリープ 灰・鈍い橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回 転篋切り後なで。内面：口縁部～底部は回 転なで。	
0507	椀 須恵器	器高：47mm 口径：[104mm] 底径：60mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。やや硬質。 灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、 底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面： 口縁部～胴部は回転なで。	内面に一部自然 釉。
0508	杯 須恵器	器高：(34mm) 口径：[118 mm] 底径：[64mm] 口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転篋切り後なで。 内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に一部自然 釉。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0509	蓋 須恵器	器高：46mm 口径：192mm つまみ径：39mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形。返りは短い。ボタン状つまみ。 外面：つまみ部は貼り付け、天井部上半は 回転篋削り、天井部下半～口縁部は回転な で。内面：天井部～口縁部は回転なで。	
0510	蓋 須恵器	器高：39mm 口径：176mm つまみ径：37mm つまみ部 ～口縁部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び 砂粒をやや多量に含 む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。返りは短い。ボタン状つまみ。 外面：つまみ部は貼り付け、天井部上半は 回転篋削り、天井部下半～口縁部は回転な で。内面：天井部～口縁部は回転なで。	
0511	蓋 須恵器	器高：(14mm) 口径：一 つ つまみ径：一 つつまみ部下端 ～天井部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。外面：つまみ部は貼り付け、天 井部上半は回転篋削り、天井部下半は回転 なで。内面：天井部は回転なで。	
0512	皿 灰釉陶器	器高：22mm 口径：[156mm] 底径：[78mm] 口縁部～高 台部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。内面に重ね焼きの痕が残る。胴 部～高台部は僅かに内湾しつつ広がり、口 縁端部は外反し、折り返し状。外面：口縁 部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付 け後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	内面に全面的に施 釉。

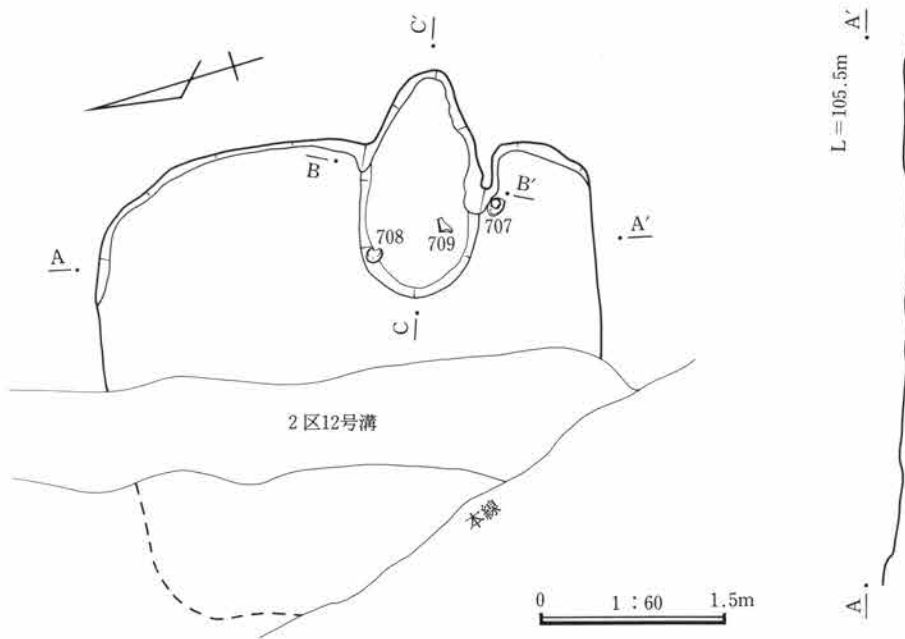
## 2区145号住居跡

2区J-09グリッドに位置し、2区58・117・120・128・134・142・150号住居跡、2区10・12号溝と重複する。新旧関係は58・117・134号住居跡、10・12号溝より古く、142・150号住居跡より新しい。なお、120・128号住居跡との関係は不明である。当住居跡は東半分が検出されたのみであり、平面形は不明で、南北の規模は4.0mである。主軸方位はN-13°-Eを示し、東壁の残存壁高は13cm前後である。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。

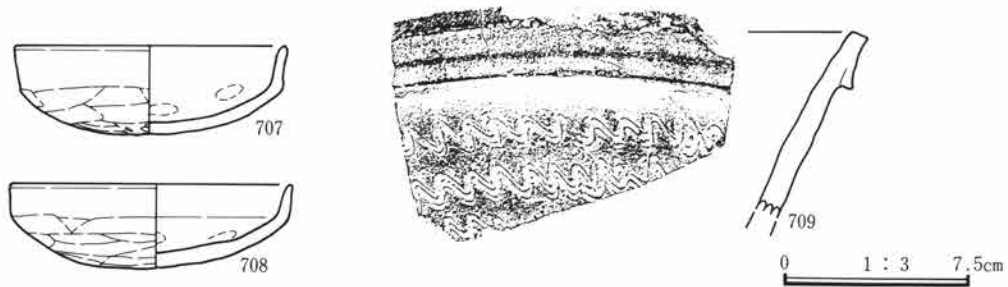
竈は東壁南側に構築され、燃焼部は壁外に設ける。また、両側には、僅かに袖が遺存している。遺物は、竈付近から土師器杯(707・708)や須恵器甕(709)などが少量出土したのみである。



第273図 2区145号住居跡エレベーション



第274図 2区145号住居跡



第275図 2区145号住居跡出土遺物

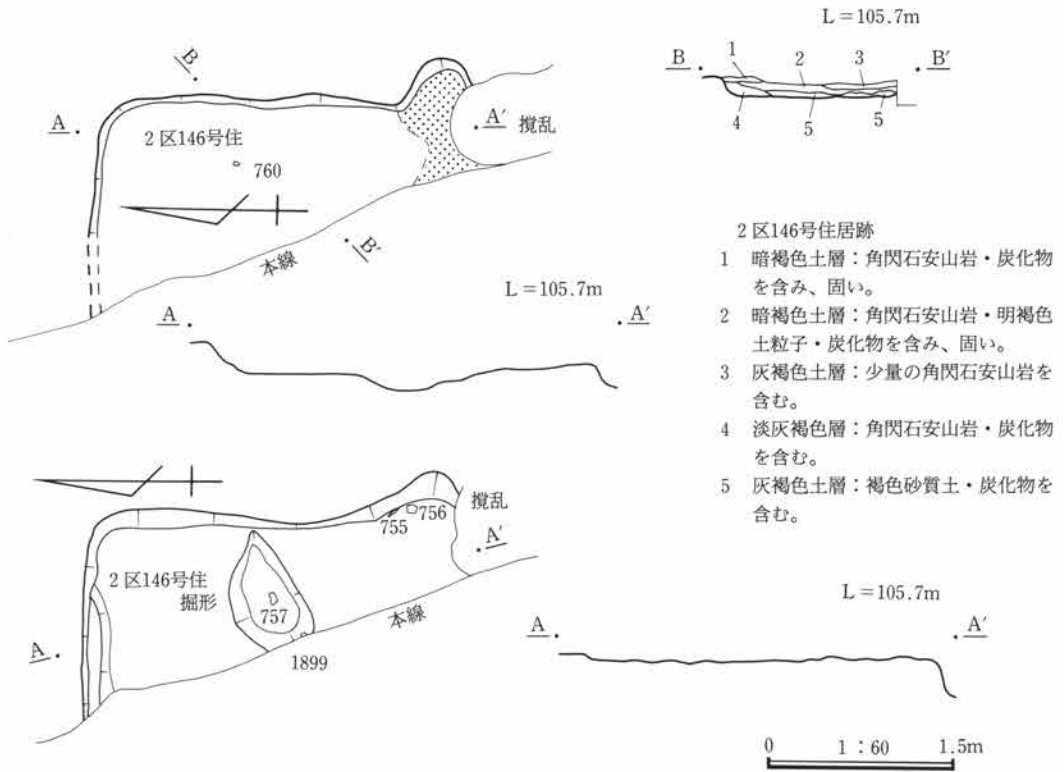
番号	器種 土師器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0707	杯 土師器	器高：35mm 口径：110mm 底径：— 口縁部～底部迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は直線的に僅かに広がる。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、胴部に一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0708	杯 土師器	器高：33mm 口径：[112mm] 底径：— 口縁部～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部はほぼ直立し、口縁端部は僅かに外反。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り、一部指頭痕が残る。内面：口縁部～胴部は横なで、胴部に一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0709	甕 須恵器	器高：— 口径：— 底径：— — 口縁部小破片	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白・灰。	外面：口縁端部は外縁帯を持ち、口縁部は波状文を施す。内面：口縁部は回転なで。	

## 2区146号住居跡

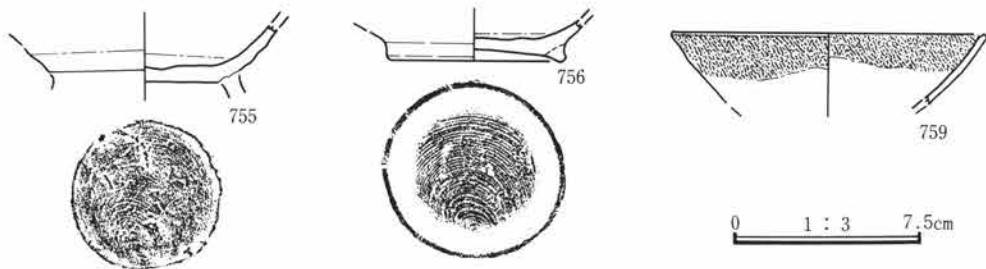
2区J-18グリッドに位置し、2区48号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡が古い。当住居跡は、東壁と北壁東側が検出されたのみであり、平面形・規模は不明である。主軸方位はN-10.8°-Eを示し、残存壁高は3cm~11cmを測る。柱穴・壁溝は確認されない。出土遺物は埋土中や床面上を含めて4点と少なく、図示できたのは須恵器？甕(760)のみである。

竈は東壁に構築されており、前面には灰が分布している。

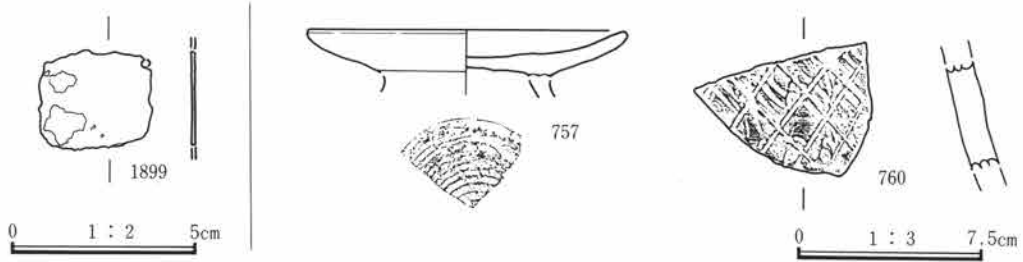
掘形は、中央に深さ10cm前後の床下土坑が認められる。掘形からは、金銅製品(1899)をはじめ須恵器碗(755・756)や須恵器皿(757)が出土している。



第276図 2区146号住居跡・同掘形



第277図 2区146号住居跡出土遺物①



第278図 2区146号住居跡出土遺物②

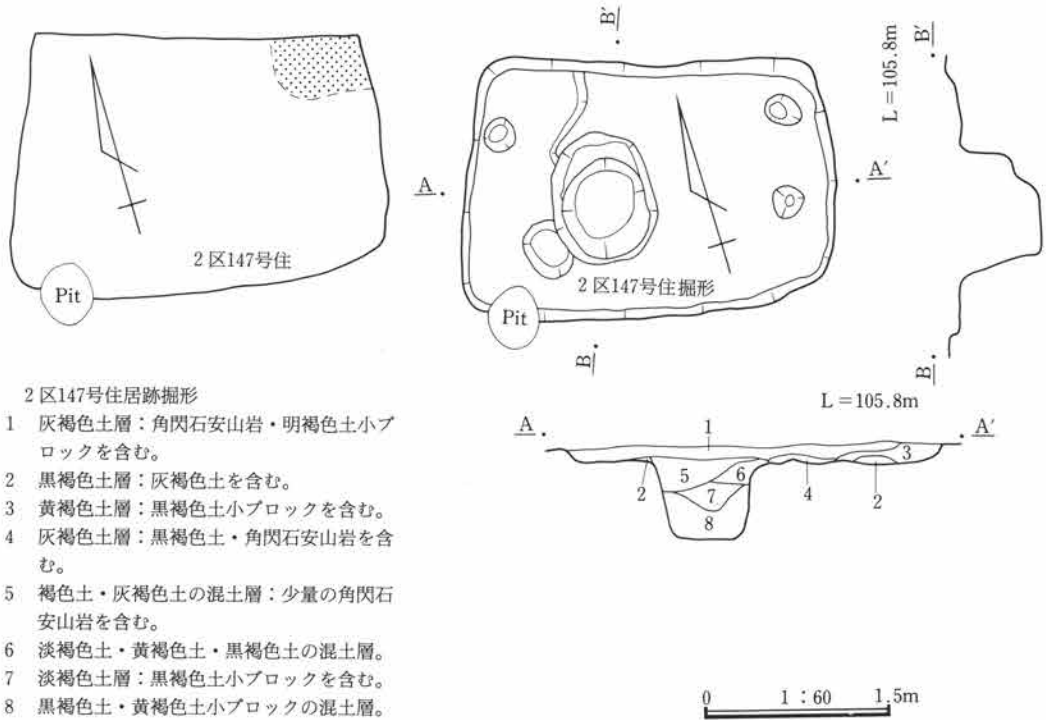
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0755	椀 須恵器	器高：(21mm) 口径：— 底径：— 胴部～底部 $\frac{2}{3}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転など。	内外面共に全面的に油煙付着。燻し。
0756	椀 須恵器	器高：(16mm) 口径：— 底径：70mm 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転など。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0757	皿 須恵器	器高：(17mm) 口径：[128mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{2}{3}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに内湾。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転など。	
0759	椀 灰釉陶器	器高：(33mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～胴部小破片	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転など。	内外面共に口縁部～胴部上半に施釉。
0760	甕? 須恵器	器高：— 口径：— 底径：— 口縁部?小破片	径1mm前後の砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・鈍い橙。	波状文を施文後、篋状工具で格子目文を施す。側面は縁として生きている。	
1899	飾金具 銅製品	縦：(26mm) 横：(30mm) 厚：1mm		表面に金箔。留め穴の痕あり。	

## 2区147号住居跡

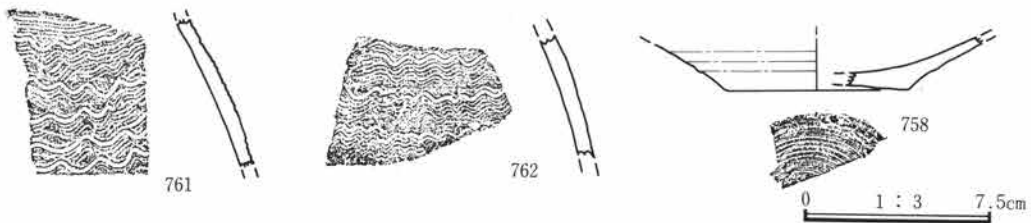
2区I-17グリッドに位置し、ピットと重複する。新旧関係は、当住居跡が古い。当住居跡の壁は遺存しておらず、床面のみ遺存していた。床面の範囲から、平面形は隅丸長方形を呈すると考えられ、床面での規模は2.98m×2.0mである。竈が検出されないため、主軸方位は不明である。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。北東隅の床面には、灰の分布が認められるが竈は検出できなかった。床面からは遺物は出土していない。



掘形は、全体を床面より10cm程下に掘り下げている。また、中央西寄りには床下土坑が認められた。遺物はすべて掘形出土であり、須恵器皿(758)、弥生土器(761・762)を図示している。図示しなかった遺物には土師器杯や須恵器杯があり、弥生土器は混入である。



第279図 2区147号住居跡・同掘形



第280図 2区147号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0758	杯 須恵器	器高：(22mm) 口径：— 底径：[72mm] 胴部～底部4	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部は直線的に広がる。外面：胴部は回転で、底部は回転糸切り。内面：胴部～底部は回転で。	

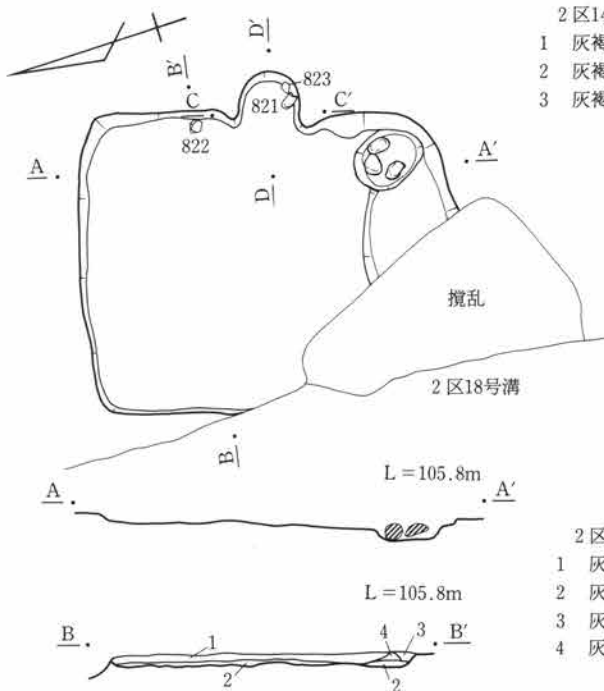
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0761	甕 弥生土器	器高：— 口径：— 底径：— — 頸部～胴部上半小破片	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い橙。	外面：頸部は簾状文。胴部上半は波状文。 内面：胴部上半はなで。	外面に油煙付着。
0762	甕 弥生土器	器高：— 口径：— 底径：— — 胴部上半小破片	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	外面：胴部上半は波状文。内面：胴部上半はなで。	外面に油煙付着。

2区148号住居跡

2区J-20グリッドに位置し、南西部が2区18号溝と重複する。新旧関係は、当住居跡が古い。南壁がやや開くものの平面形は隅丸長方形を呈すると考えられ、規模は2.4m×3.0mを測る。主軸方位はN-20.5°-Eを示し、残存壁高は5cm～12cmである。柱穴・壁溝は確認されない。貯蔵穴は南東隅に位置し、深さは16cmを測る。

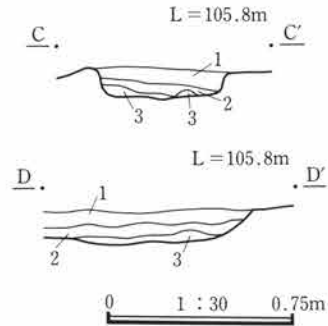
竈は東壁中央に構築され、燃燒部は壁外に設ける。両側には、黄褐色粘質土で造られた袖が遺存している。

掘形は、全体を床面下5cm～15cm掘り下げており、南壁付近はやや下がっている。



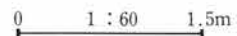
2区148号住居跡竈

- 1 灰褐色土層：角閃石安山岩・黄褐色土粒子を含む。
- 2 灰褐色土層：角閃石安山岩を含む。
- 3 灰褐色土層：焼土小ブロックと炭化物粒子を含む。

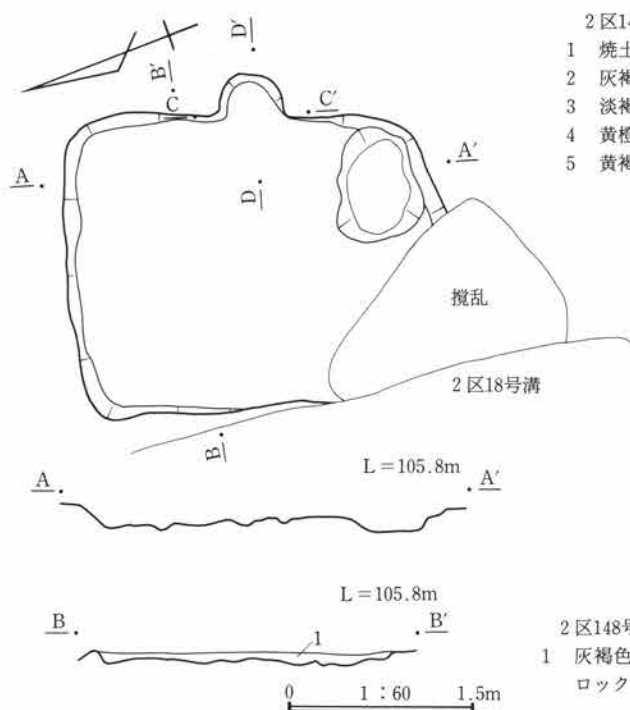


2区148号住居跡

- 1 灰褐色土層：角閃石安山岩・黒色土小ブロックを含む。
- 2 灰褐色土層：黒色土小ブロックを含む。
- 3 灰褐色粘質土層：黄褐色土小ブロック・灰を含む。
- 4 灰褐色土層：角閃石安山岩・黄褐色土小ブロックを含む。

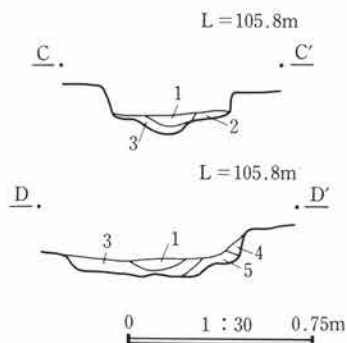


第281図 2区148号住居跡



## 2区148号住居跡竪掘形

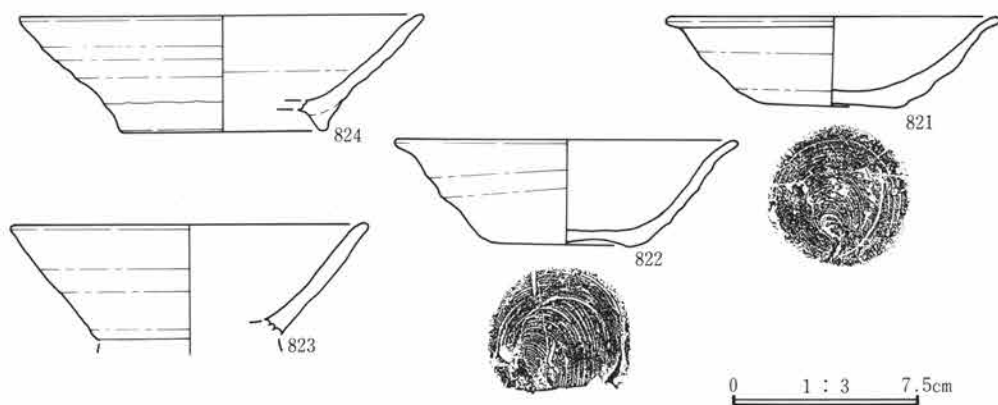
- 1 焼土小ブロック・炭化物・灰の混土層。
- 2 灰褐色土層：焼土小ブロックを含む。
- 3 淡褐色粘質土層：焼土粒子と炭化物粒子を含む。
- 4 黄褐色粘質土層：褐色土を含む。
- 5 黄褐色土層：黒色土粒、焼土粒、炭化物粒を含む。



## 2区148号住居跡掘形

- 1 灰褐色土層：黄褐色土小ブロック・黒褐色土小ブロック・角閃石安山岩を含む。

第282図 2区148号住居跡掘形



第283図 2区148号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0821	杯 須恵器	器高：36mm 口径：[134mm] 底径：60mm 口縁部～底部 1/2	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・浅黄。	轆轤整形、右回転。胴部口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	外面に油煙附着。二次炎を受けている。

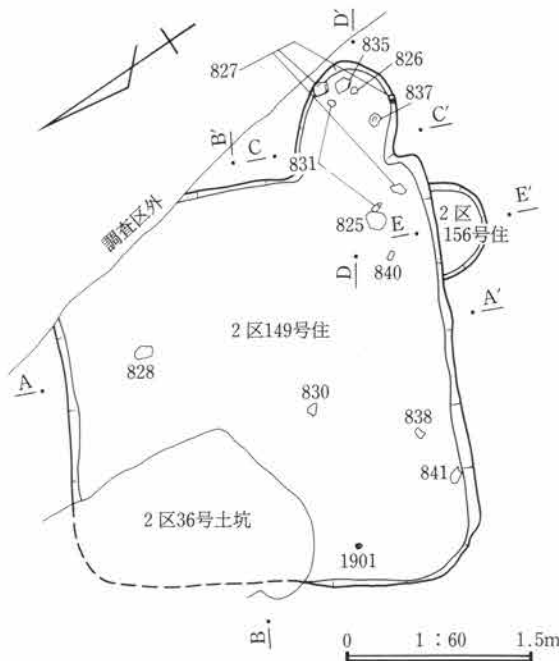
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0822	杯 須恵器	器高：42mm 口径：[138mm] 底径：62mm 口縁部～底部 1/2	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に油煙付着。燻し。
0823	碗 須恵器	器高：(45mm) 口径：[142mm] 底径：— 口縁部～胴部 1/2	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	
0824	碗 須恵器	器高：(46mm) 口径：[162mm] 底径：[84mm] 口縁部～高台部 1/2	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け。内面：口縁部～底部上端は回転なで。	

## 2区149号住居跡

2区I-22グリッドに位置し、2区156号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡が新しい。平面形は隅丸方形を呈し、規模は3.2m×3.1mである。主軸方位はN-18°-Eを示し、残存壁高は5cm～16cmである。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されない。出土遺物は多く、竈内と南西隅に集中している。

竈は東壁南に構築され、燃焼部は壁外に設ける。竈の遺存は良好ではなく、形態はやや乱れている。

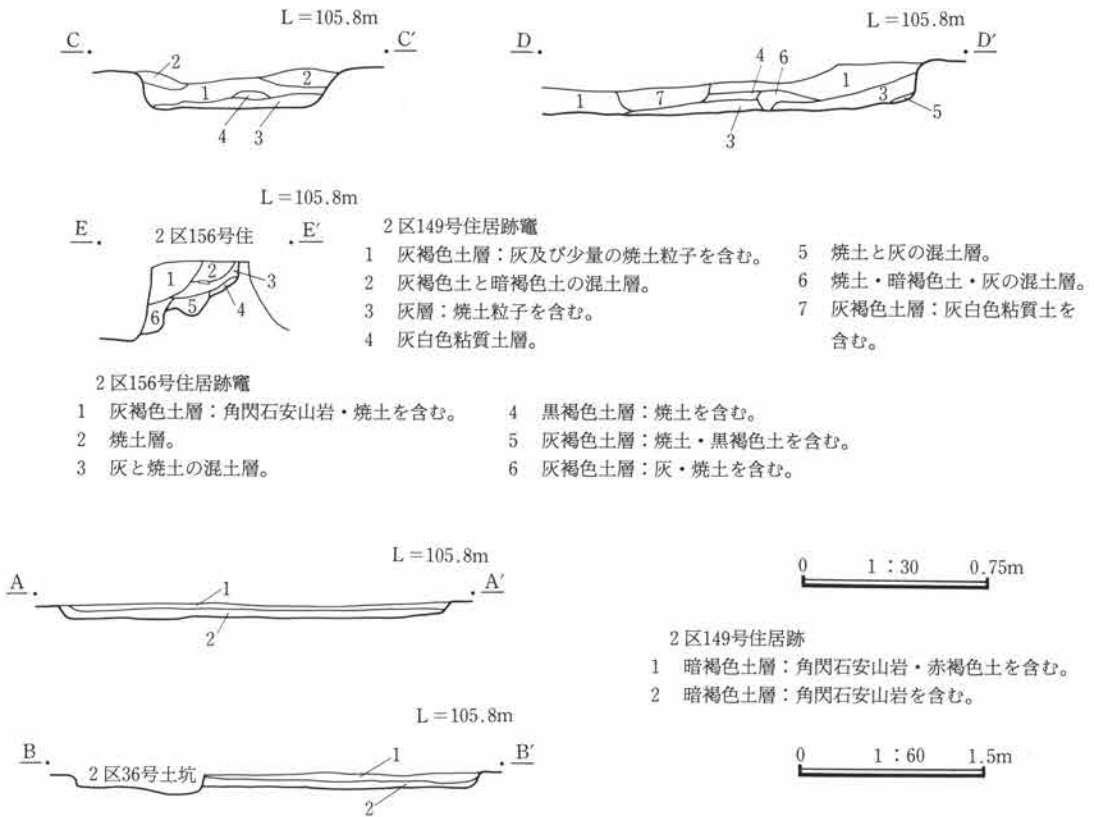
掘形は、竈部分を除いて周囲を溝状に掘り下げている。また、中央部には円形の床下土坑がある。掘形出土の遺物は多く、竈前と中央部に集中している。なお、830の須恵器碗は、床面と掘形で接合している。



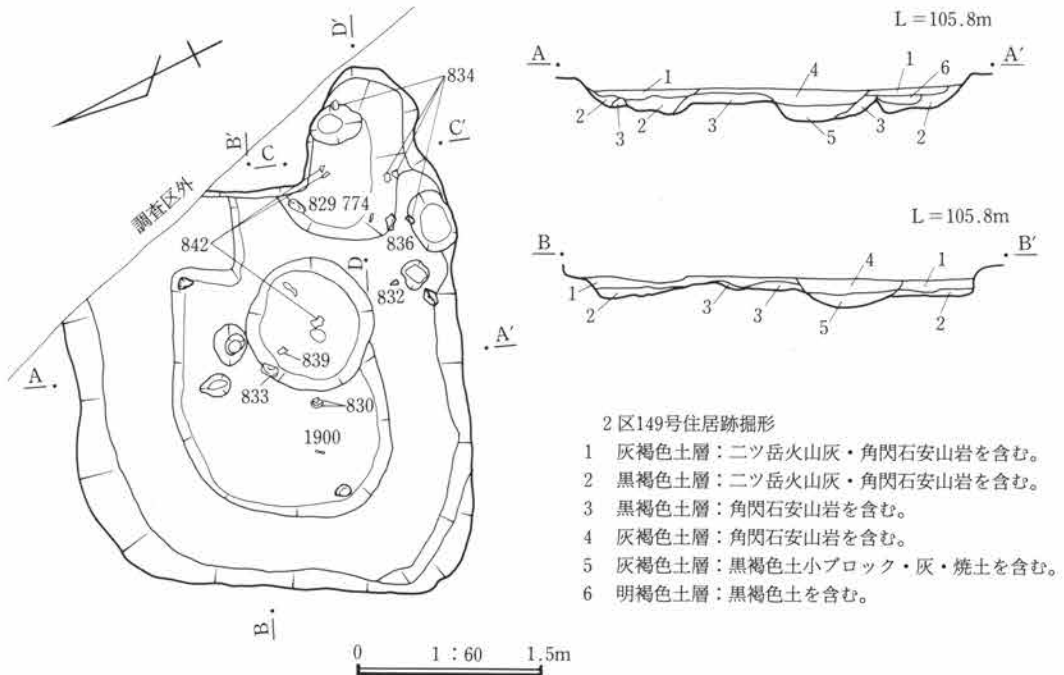
第284図 2区149・156号住居跡

## 2区156号住居跡

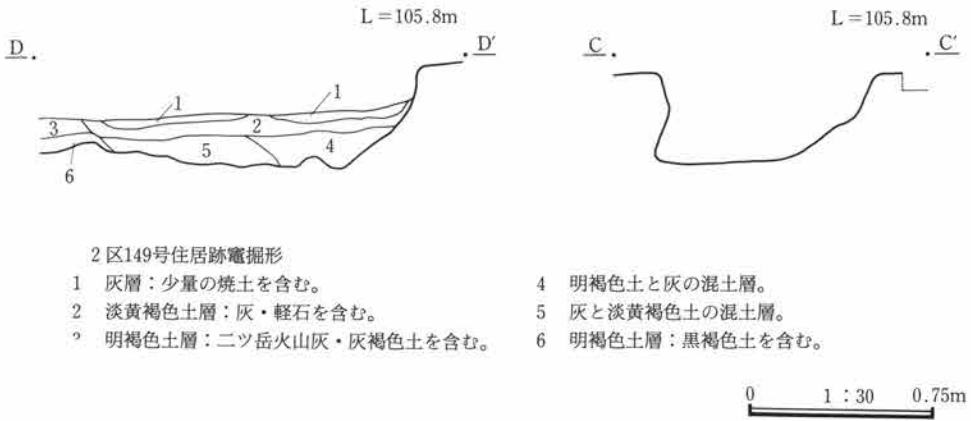
2区I-22グリッドに位置し、2区149号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡が古い。竈の先端が遺存するのみであり、平面形・規模・主軸方位は不明である。竈の残存壁高は26cmである。



第285図 2区149号住居跡断面、149・156号住居跡竈断面



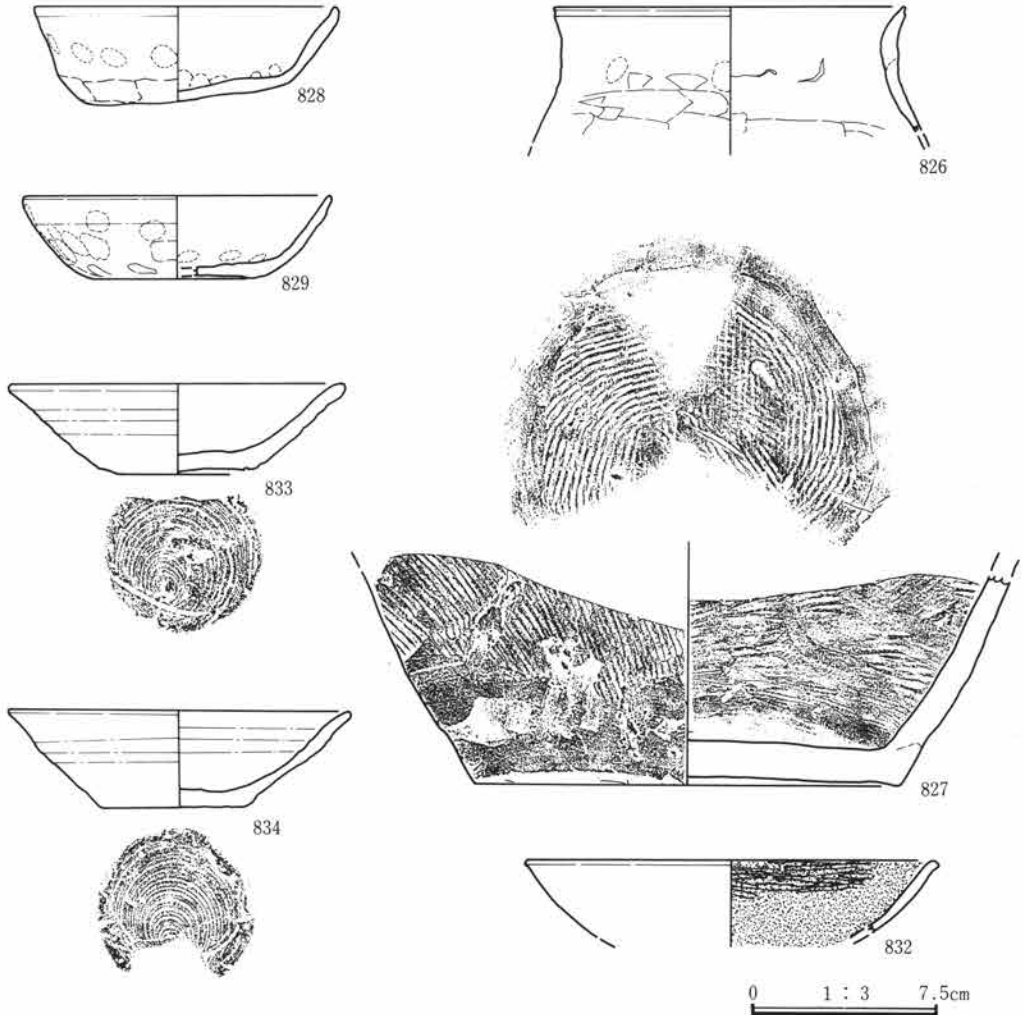
第286図 2区149号住居跡掘形



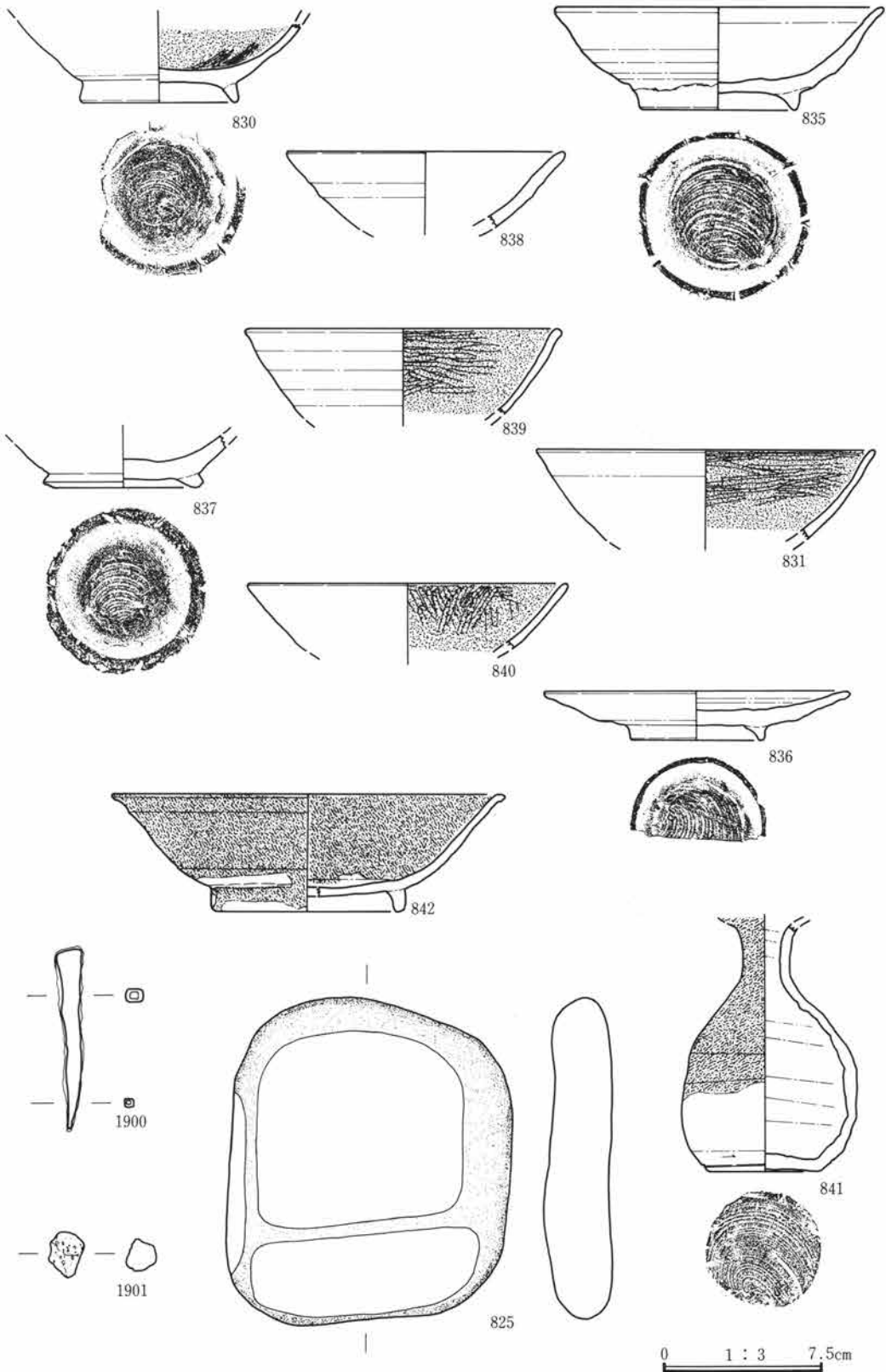
2区149号住居跡竈掘形

- |   |  |
|---|--|
| <p>1 灰層：少量の焼土を含む。</p> <p>2 淡黄褐色土層：灰・軽石を含む。</p> <p>3 明褐色土層：二ツ岳火山灰・灰褐色土を含む。</p> | <p>4 明褐色土と灰の混土層。</p> <p>5 灰と淡黄褐色土の混土層。</p> <p>6 明褐色土層：黒褐色土を含む。</p> |
|---|--|

第287図 2区149号住居跡竈掘形断面・エレベーション



第288図 2区149号住居跡出土遺物①



第289图 2区149号住居跡出土遺物②

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0825	用途不明 石製品	長：152mm 幅：133mm 厚：34mm 重：1131.1g	粗粒安山岩。	全面的に擦れている。偏平な石。	表面に油煙付着。
0826	甕 土師器	器高：(50mm) 口径：[140mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篔削り。内面：口縁部は横なで、一部輪積痕が残り、胴部上端は篔なで。	外面に油煙付着。
0827	甕 須恵器?	器高：(84mm) 口径：— 底径：173mm 胴部下端～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。赤褐。	胴部下端は僅かに内湾しつつ広がる。外面：胴部下端は叩後一部なで、底部はなで。内面：胴部下端～底部は叩。	
0828	杯 土師器	器高：45mm 口径：124mm 底径：80mm ほぼ完形	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は広がる。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部～底部は篔削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	内面に油煙付着。
0829	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[124mm] 底径：[70mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部はなで、一部指頭痕が残り、底部は篔削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	内面に油煙付着。
0830	碗 須恵器?	器高：(36mm) 口径：— 底径：[74mm] 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。浅黄橙。	轆轤整形、右回転。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで後燻し、更に篔磨き。	内黒。
0831	碗 須恵器?	器高：(42mm) 口径：[160mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄橙。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで。内面：口縁部～胴部は回転なで後燻し、更に篔磨き。	外面に油煙付着。 内黒。
0832	碗 須恵器?	器高：(30mm) 口径：[166mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄橙。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで。内面：口縁部～胴部は回転なで後燻し、更に篔磨き。	外面に油煙付着。 内黒。
0833	杯 須恵器	器高：36mm 口径：[134mm] 底径：61mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0834	杯 須恵器	器高：40mm 口径：139mm 底径：60mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0835	碗 須恵器	器高：49mm 口径：[154mm] 底径：75mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に油煙付着。



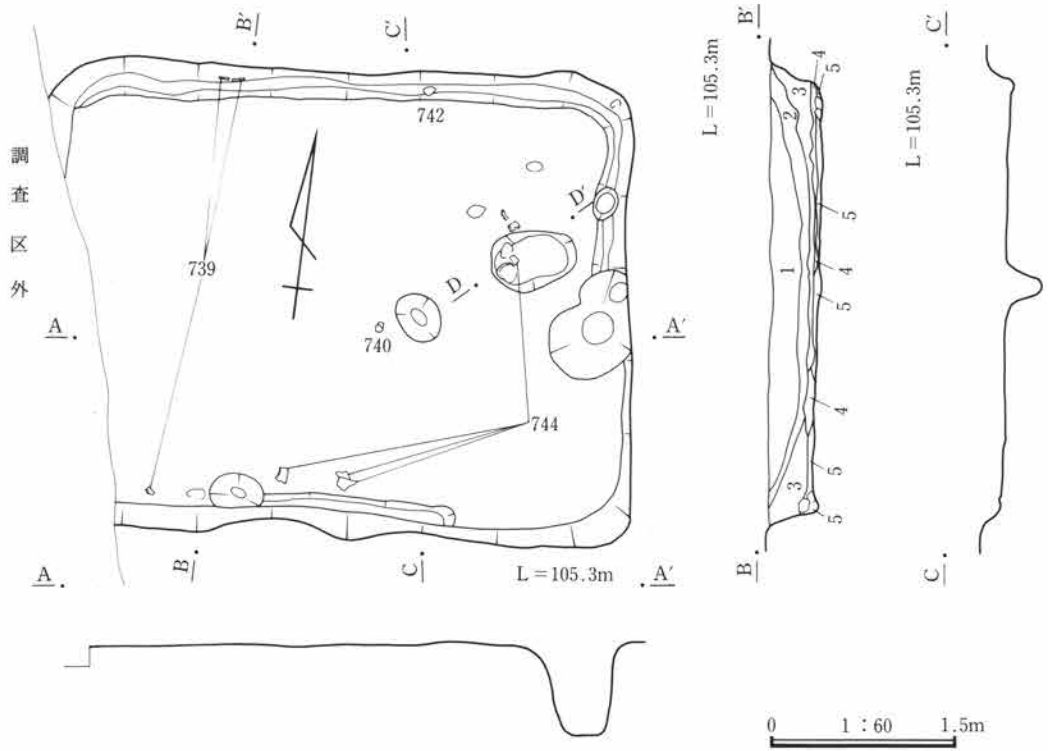
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0836	皿 須恵器	器高：24mm 口径：[144mm] 底径：62mm 口縁部～高台 部迄	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～高台部は直線的 に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、 底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面： 口縁部～底部は回転で。	内外面に油煙付 着。
0837	椀 須恵器	器高：(25mm) 口径：— 底 径：75mm 胴部下端～高台 部迄	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。硬質。灰白・鈍い 橙。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転 で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。 内面：胴部下端～底部は回転で。	
0838	椀 須恵器	器高：(36mm) 口径：[132 mm] 底径：— 口縁部～胴 部迄	径4～5mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。硬質。灰白・赤褐。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつ つ広がる。内外面共に口縁部～胴部は回転 で。	内外面胴部に油煙 付着。
0839	椀 須恵器?	器高：(40mm) 口径：[150 mm] 底径：— 口縁部～胴 部迄	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。硬質。鈍い 黄橙。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつ つ広がり、口縁部は僅かに外反。外面：口 縁部～胴部は回転で。内面：口縁部～胴 部は回転で後燻し、更に筥磨き。	内黒。
0840	椀 須恵器?	器高：(31mm) 口径：[150 mm] 底径：— 口縁部～胴 部迄	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。淡黄。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつ つ広がる。外面：口縁部～胴部は回転で。 内面：口縁部～胴部は回転で後燻し、更 に筥磨き。	内黒。
0841	小瓶 灰釉陶器	器高：(115mm) 口径：— 底径：55mm 最大径：83mm 口縁部下半～底部迄	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。口縁部～頸部は細長く、胴部は 緩やかに膨らむ。最大径は胴部中央。外面： 口縁部～胴部は回転で、胴部下端は回転 筥削り、底部は回転糸切り。内面：口縁部 ～底部は回転で。	内面口縁部と外面 口縁部～胴部上半 に施釉。
0842	椀 灰釉陶器	器高：55mm 口径：[186mm] 底径：93mm 口縁部～高台 部迄	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。やや硬質。 灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつ つ広がり、口縁部は外反。外面：口縁部～胴 部は回転で、底部は高台貼り付け後で。 内面：口縁部～底部は回転で。	内外面の口縁部 ～胴部と高台部の 一部に施釉。
1900	? 鉄製品	長：83mm 幅：2～12mm 厚：2～8mm		用途不明。芯は空洞。	
1901	鉄滓			鉄分を含む。	

## 2区150号住居跡

2区I-07グリッドに位置し、2区117・120・125・128・134・141・142・145号住居跡、2区10・12号溝と重複する。新旧関係は、いずれも当住居跡が古い。西壁と東壁の一部が確認されないが、平面形は隅丸長方形を呈すると考えられる。東西規模は不明であるが、南北は3.6mである。南北壁の残存壁高は6cm～51cmである。柱穴は、東壁中央で確認されている。壁溝は北壁と南壁中央に巡っている。

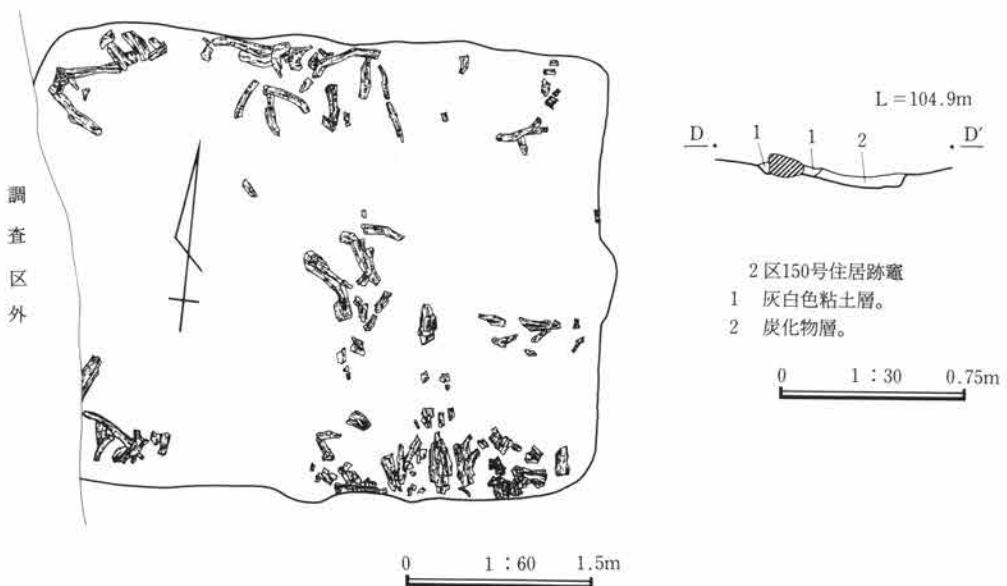
炉は東壁やや北寄りにあり、西端には石を置いている。当住居跡は焼失家屋と考えられ、床面上には焼土が多く、壁際の床面上には炭化材が中央に向かって倒れた状態で出土している。出土遺物は少ないが、弥生後期の樽式土器が出土している。

掘形は殆どなく、北壁中央に浅い床下土坑が認められた程度である。



2区150号住居跡

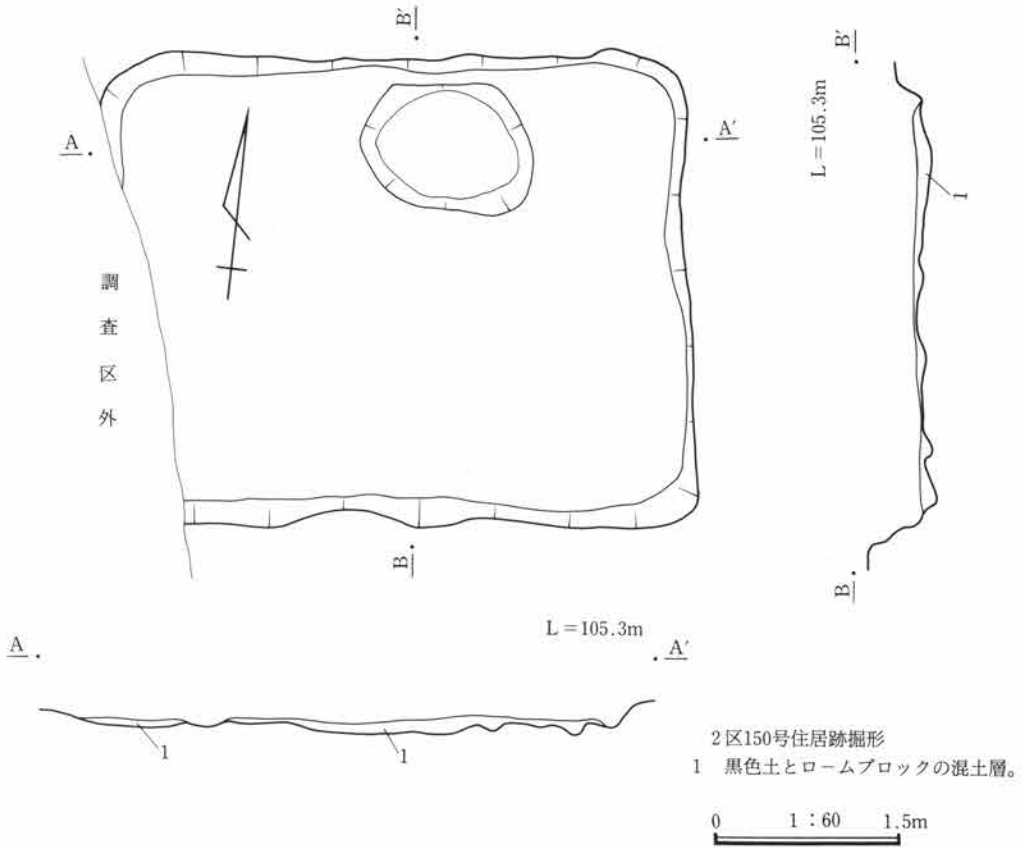
- 1 黒色土層：浅間山C軽石・灰褐色粘質土小ブロックを含む。
- 2 浅間山C軽石層：黒色土を含む。
- 3 暗褐色土層：焼土・炭化物粒子を含む。固めの土。
- 4 焼土ブロック層。
- 5 炭化物層。



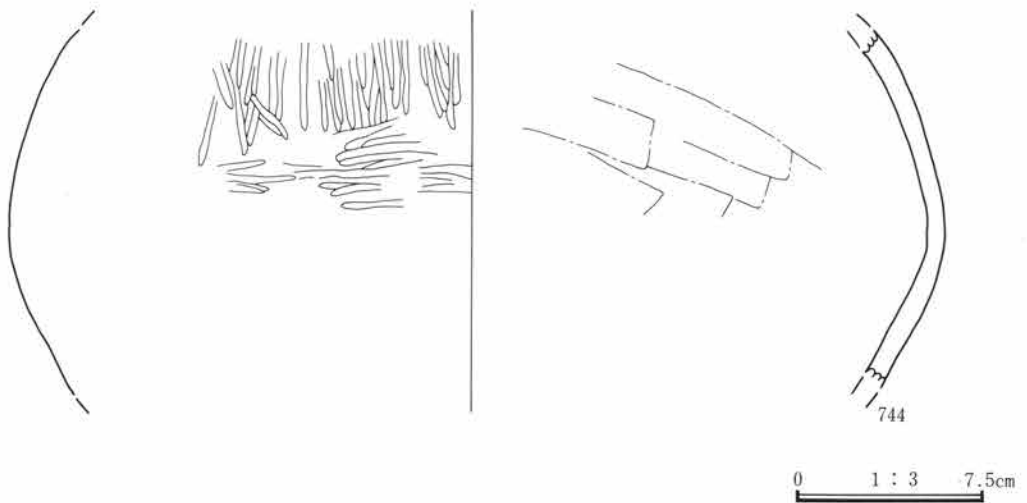
2区150号住居跡竈

- 1 灰白色粘土層。
- 2 炭化物層。

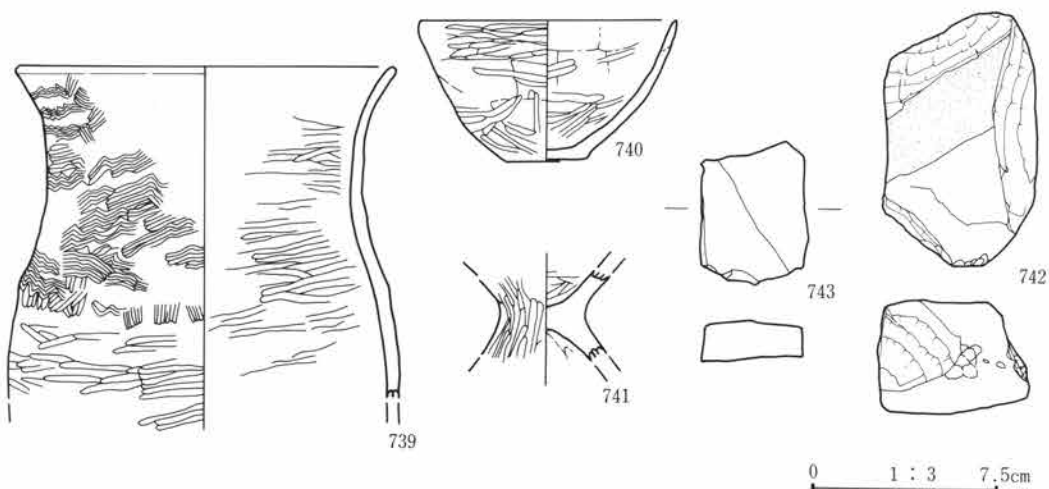
第290図 2区150号住居跡・同炭化物出土状態



第291図 2区150号住居跡掘形



第292図 2区150号住居跡出土遺物①



第293図 2区150号住居跡出土遺物②

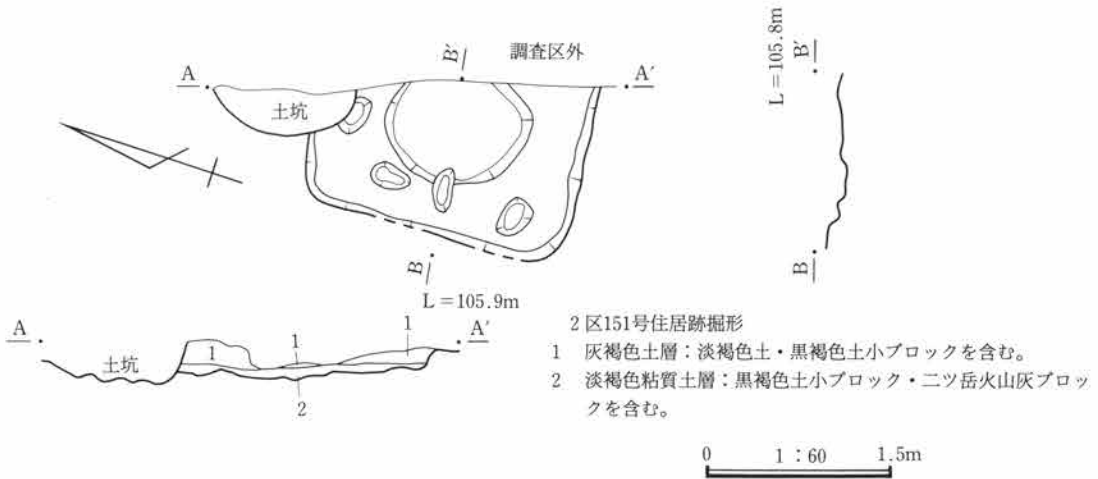
2区150号住居跡

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0739	甕 弥生土器	器高：(131mm) 口径：[152mm] 底径：— 最大径：[156mm] 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐・鈍い褐。	口縁部は外反。外面：口縁部～胴部上端は波状文、胴部上半は篋磨き。内面：口縁部上半はなで、口縁部下半～胴部上半は篋磨き。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0740	杯 弥生土器	器高：56mm 口径：103mm 底径：33mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。鈍い黄橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。内外面共に口縁部～底部は篋磨き。	外面に油煙付着。
0741	高杯 弥生土器	器高：(36mm) 口径：— 底径：— 胴部下端～脚部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	外面：胴部下端～脚部上端は篋磨き。内面：胴部下端は篋磨き、底部～脚部はなで。	内外面に油煙付着。
0742	用途不明 石製品	長：(100mm) 幅：(61mm) 厚：(45mm) 重：364.1g	珪質頁岩。		
0743	用途不明 石製品	長：(57mm) 幅：(44mm) 厚：(17mm) 重：69.1g	粗粒安山岩。		
0744	壺 弥生土器	器高：(142mm) 口径：— 底径：— 最大径：380mm 胴部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。浅黄橙・橙。	内面に輪積痕が残る。内外面共に胴部上半は篋磨き。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。

2区151号住居跡

2区I-25グリッドに位置する。当住居跡は遺存が悪く、掘形が検出できたのみである。また、調査区東端に位置するため、東は調査区外となっている。このため、平面形・主軸方位は不明である。

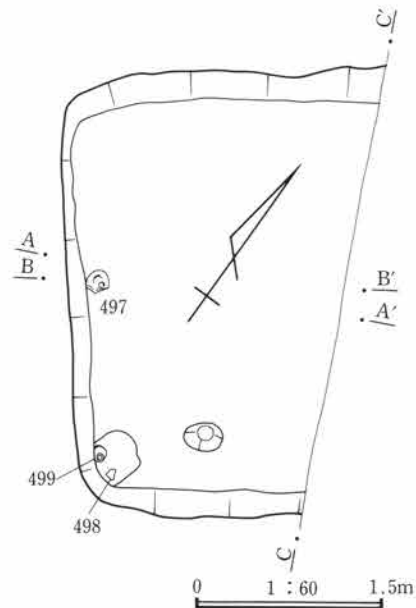
南北の規模は2.2mを測る。掘形においても柱穴は確認されず、中央部は2cm～5cm土坑状にくぼんでいる。遺物は出土していない。



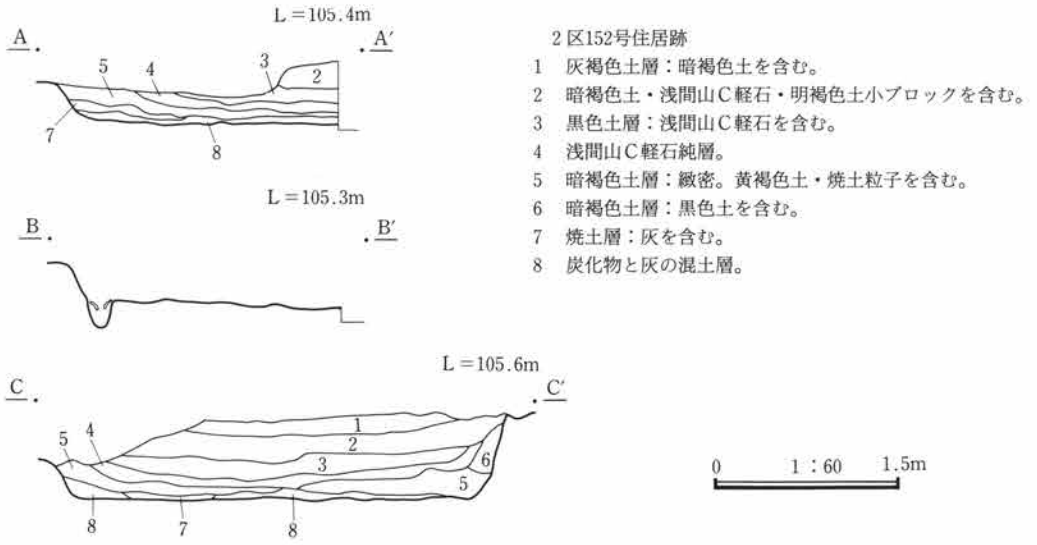
第294図 2区151号住居跡掘形

### 2区152号住居跡

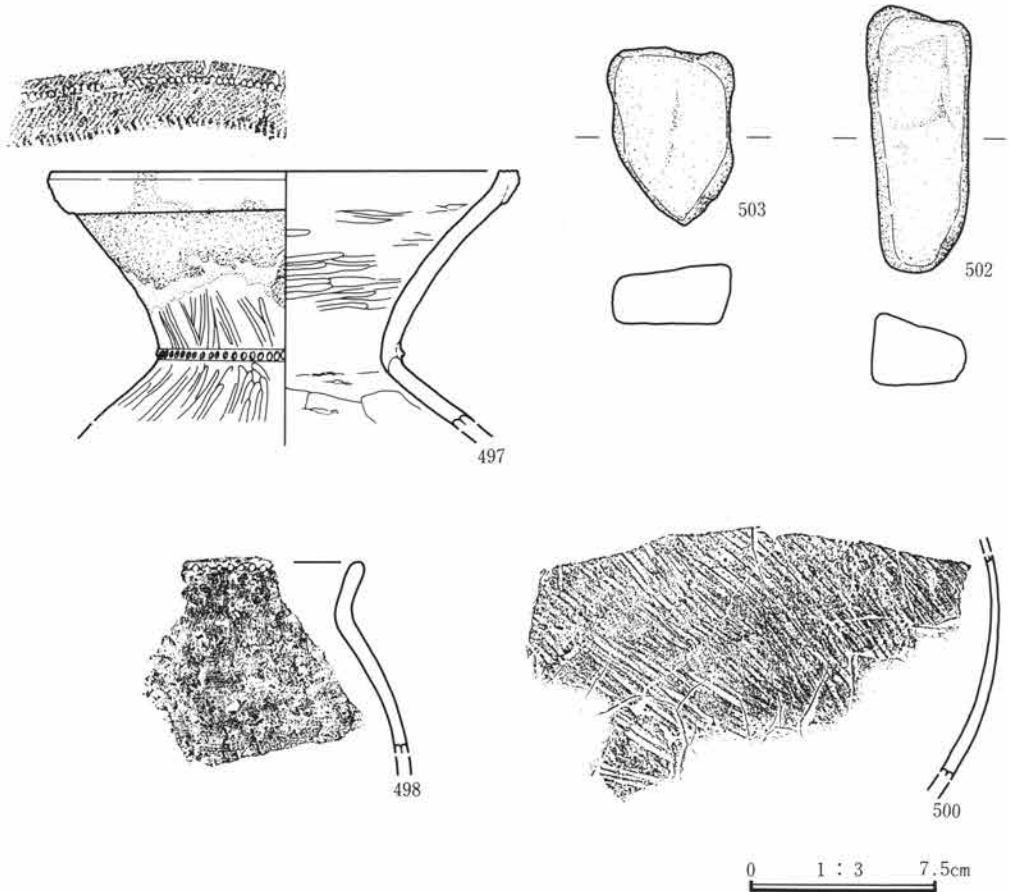
2区I-11グリッドに位置し、2区133・140・143号住居跡、2区11・13号溝と重複する。133・143号住居跡との新旧関係はいずれも当住居跡が古く、140号住居跡との関係は不明である。当住居跡は、調査区の東端に位置するため東半分は調査できなかった。このため平面形・主軸方位は不明である。南北の規模は3.5mを測る。残存壁高は24cm～62cmである。床面中央は、ロームブロックと暗褐色土ブロックの混土層で構築された強い張り床が認められた。また、壁際の床面には焼土や炭化物の堆積が認められ、焼失家屋の可能性がある。柱穴・壁溝は確認されない。遺物は少ないが、南西隅と西壁際から弥生土器が出土している。埋土中層には、浅間C軽石の純層が堆積している。



第295図 2区152号住居跡



第296図 2区152号住居跡断面・エレベーション



第297図 2区152号住居跡出土遺物①

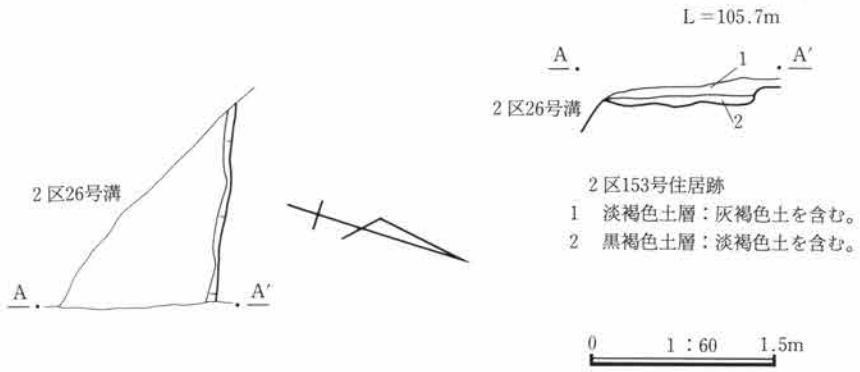


第298図 2区152号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0497	壺 弥生土器	器高：(101mm) 口径：[188mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{4}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。浅黄橙。	口縁部は「く」字状に外反し大きく広がる。口縁部上端は折り返し。頸部に凸帯が一条巡る。外面：口縁部・折り返し部には縄文を施し、折り返し部下端は刻み目が入り、凸帯には刺突文が巡る。口縁部～胴部上端は篋磨き。内面：口縁部は篋磨き、胴部上端は篋まで。	外面口縁部に付着物有り。外面口縁部～胴部上端及び内面口縁部には赤色顔料塗布。
0498	甕 弥生土器	器高：— 口径：— 底径：— 口縁部～胴部上端破片	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙・明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。口縁部に刻み目が巡る。外面：口縁部～胴部上端は篋まで。内面：口縁部～胴部上端は篋まで後、篋磨き。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0499	高杯 弥生土器	器高：(58mm) 口径：— 脚径：[93mm] 底部～脚部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。明赤褐。	脚部は「ハ」字状にひらく。外面：底部～脚部は篋削り後篋磨き。内面：底部は篋磨き、脚部はなで。	外面に油煙付着。
0500	甕 弥生土器	器高：— 口径：— 底径：— 胴部破片	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。淡黄。	胴部は緩やかに膨らむ。外面：条痕文。内面：篋まで。	内外面に油煙付着。外面は多量。二次炎を受けている。
0501	甕 弥生土器	器高：— 口径：— 底径：— 土器破片	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	外面：波状文。内面：篋磨き。内面に赤色顔料塗布。	外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0502	用途不明 石製品	長：104mm 幅：42mm 厚：28mm 重：179.8g	粗粒安山岩。		
0503	用途不明 石製品	長：70mm 幅：50mm 厚：27mm 重：142.8g	粗粒安山岩。		

## 2区153号住居跡

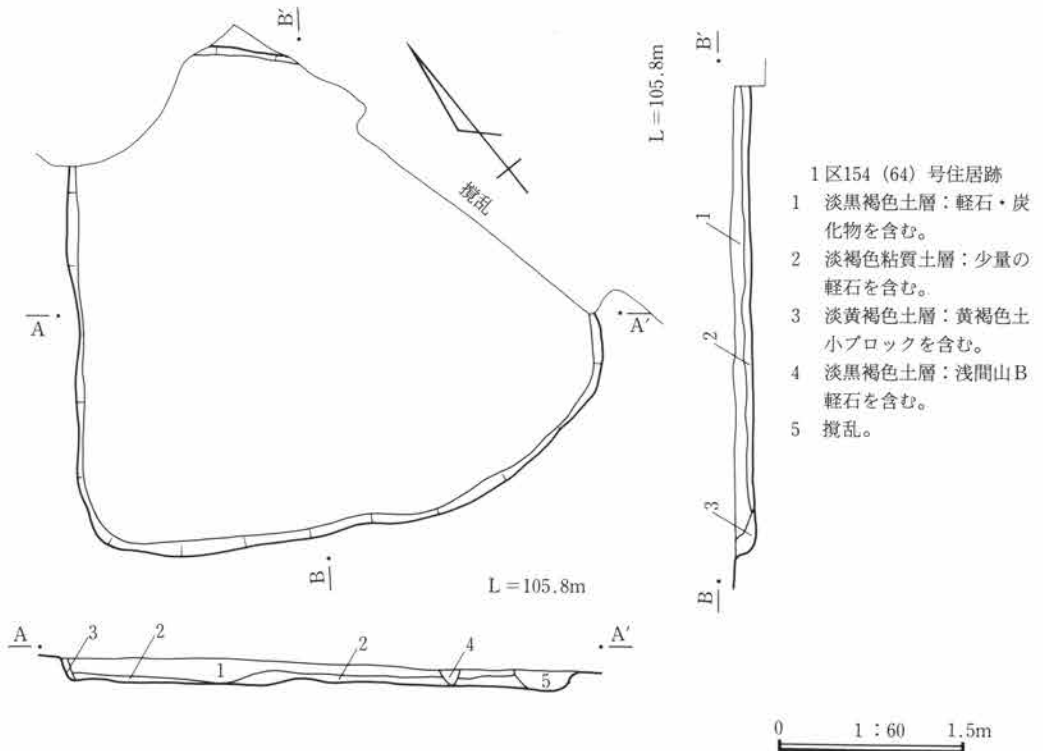
2区I-21グリッドに位置し、2区26号溝と重複する。新旧関係は、当住居跡が古い。当住居跡は調査区の東端に位置するうえに、26号溝との重複により北壁の一部を確認したにとどまった。このため、平面形・規模・主軸方位は不明である。北壁の残存壁高は9cmである。柱穴・壁溝は確認されない。出土遺物は認められない。



第299図 2区153号住居跡

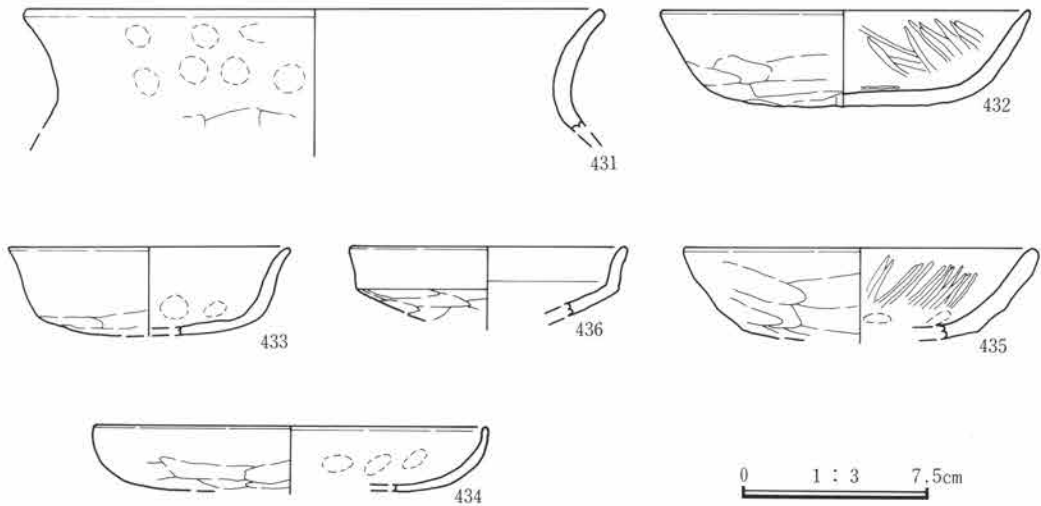
1区154号住居跡

1区N-29グリッドに位置し、1区69号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡が新しい。当住居跡は、側道調査で確認されたが本線調査では確認されず、北側は攪乱によって破壊されている。このため、平面形・規模・主軸方位は不明である。なお、南壁は他遺構との重複のためか、弧状を呈している。残存壁高は11cm~18cmを測る。柱穴・壁溝は確認されない。



第300図 1区154号住居跡



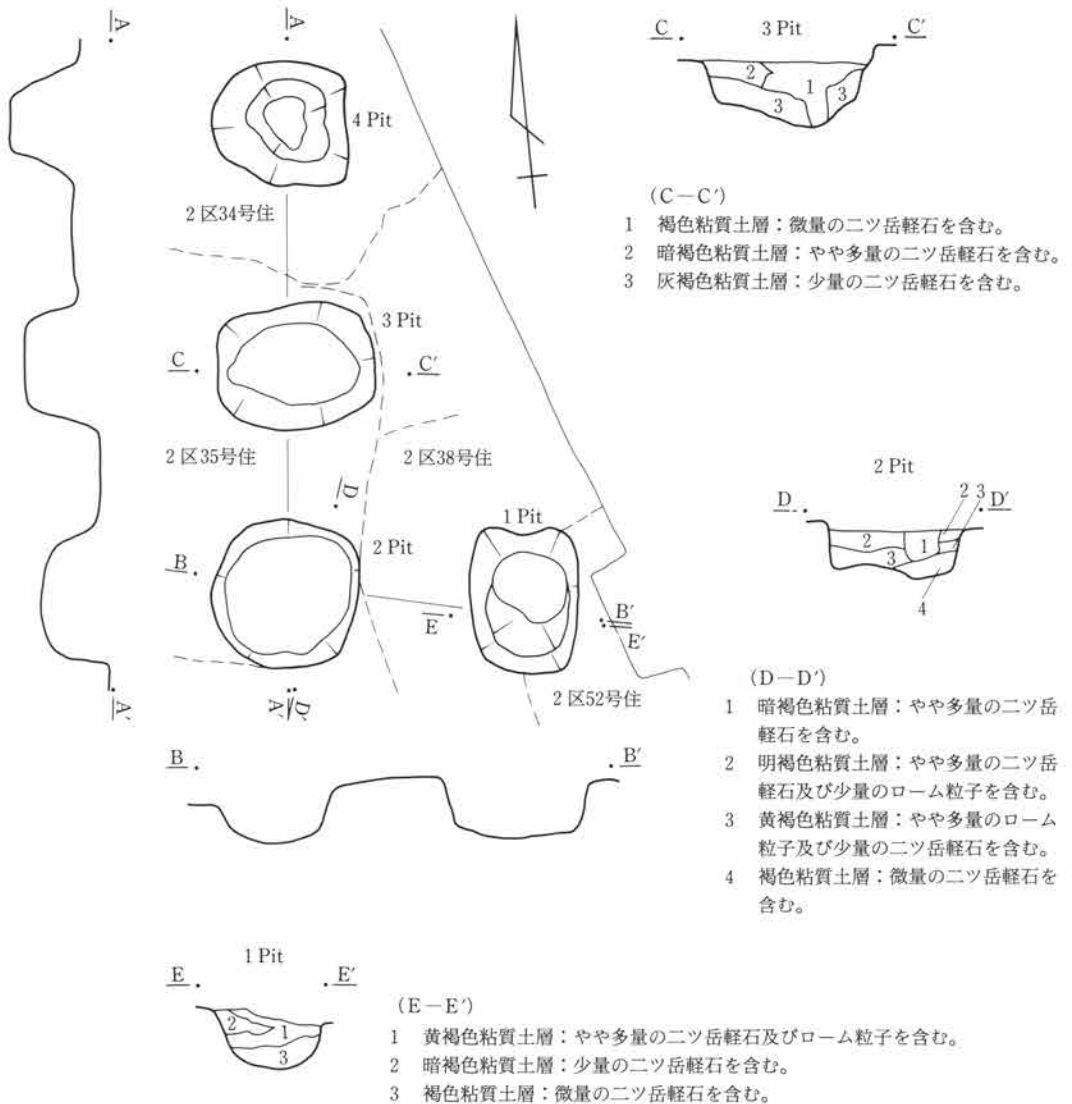


第301図 1区154号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0431	甕 土器	器高：(47mm) 口径：[230mm] 底径：— 口縁部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。内外面共に口縁部は横なで、一部指頭痕が残る。	
0432	杯 土器	器高：38mm 口径：[148mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り、内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
0433	杯 土器	器高：35mm 口径：[112mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は横なで、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	外面に油煙付着。
0434	杯 土器	器高：26mm 口径：[156mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、底部はなで、一部指頭痕が残る。	
0435	杯 土器	器高：(36mm) 口径：[140mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い黄橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り、一部指頭痕が残る。内面：口縁部～胴部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	内外面に油煙付着。
0436	杯 土器	器高：(27mm) 口径：[112mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	外面に不明瞭な稜を持つ。口縁部はやや外反。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部上半は篋削り。内面：口縁部～胴部上半は横なで。	

2区1号掘立柱跡

2区K-14グリッドに位置し、ピット1は2区38・52号住居跡、2区2号溝と重複し、ピット2・3は2区35号住居跡、ピット4は2区34号住居跡と重複する。このうちセクションで新旧が確認できるのはピット1・2・3であり、いずれも住居跡より古い。当建物は側道では確認されず、棟の方向や規模は不明である。各ピットの掘形は、直径は1m前後と大きく、各ピット中心間寸法は、ピット1・2間が1.9m、ピット2・3間が1.8m、ピット3・4間が1.9mと揃っている。各ピット共に、出土遺物は全くなく、詳細な時期は不明である。

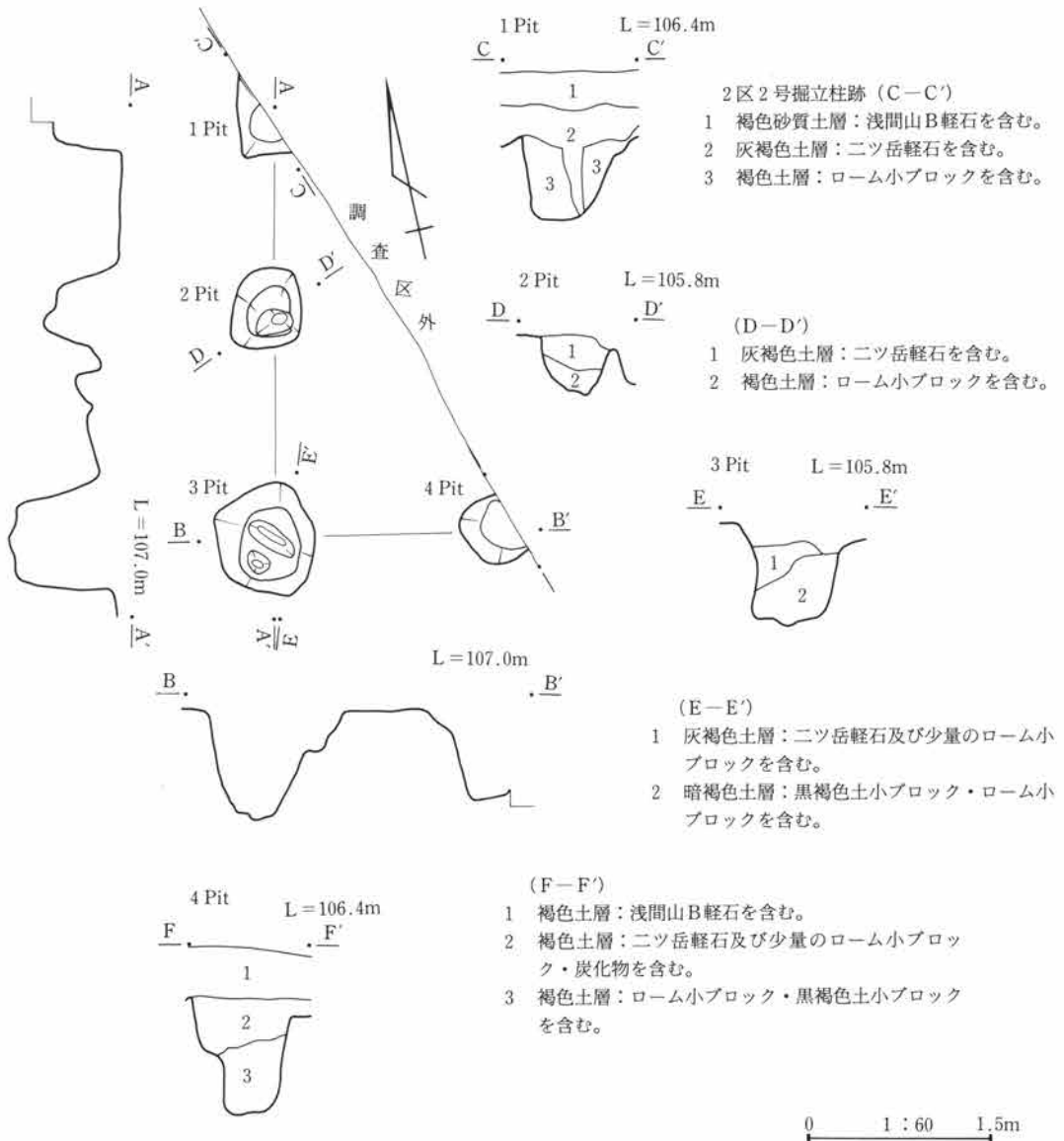


0 1 : 60 1.5m

第302図 2区1号掘立柱跡

## 2区2号掘立柱跡

2区I-16グリッドに位置し、2区137号住居跡、2区2号溝と重複する。新旧関係は、2号溝より後に調査されていること、ピット4のセクションに137号住居跡が表れないことから、2号溝より古く、137号住居跡より新しいと考えられる。当掘立柱跡の東半は、調査区外となるために不明である。このため、規模や軒方向も不明である。各ピットの直径は、50cm~90cmとばらつきが認められるものの中心線は良く通っている。各ピット中心間寸法は、ピット1・2間が1.7m、ピット2・3間が1.8m、ピット3・4間が1.8mを測る。このうち、ピット1は一部の確認であるために中心位置が不明確であることを考慮すれば中心間寸法は良く揃っているといえる。当遺構の時期を決定しうる遺物は出土していない。



第303図 2区2号掘立柱跡

## 溝 跡

### はじめに

当遺跡では、本線部分と側道部分で調査年度が異なるため、同一溝であっても異なった番号を付していることがあり、当報告書作成にあたって両者が図面上で一致した場合には若い番号に統一した。その結果として溝番号には欠番が生じている。しかし、同一溝の可能性が高いものでも調査時に別番号を付し、尚且つ他遺構との重複などにより溝間に距離のある場合は調査時の番号を使用している。溝跡個々の説明は一覧表によって行い、当文では概要の説明を行う。一覧表の項目の「位置」は、東西走行の場合、南東端と北西端のグリッドを表記し、南北走行の場合、南西端と北東端のグリッドを表記した。また、出土遺物の項は、報告書掲載遺物の種類と番号を記した。備考は、埋土や他遺構との重複、報告書に掲載しなかった遺物について記している。なお、他遺構との重複の記載は、重複が複雑なため不明確な部分が多く、調査記録やセクションで確認できたもののみに限った。

### 溝の概要

1区では1号～13号溝（8・9・10号溝は欠番）の10条が検出され、断面形状や上端幅は異なるものの走行方向は東西で方位も比較的近似している。遺物で最も古いのは、6号溝から出土した4枚の古墳時代土師器杯（2040～2043）である。6号溝出土の他の遺物は古代の須恵器杯小片と土師器細片であるが、量的に少ないうえに浅い南北方向の溝と重複していることなどから、古代の遺物は混入の可能性が高い。他の溝は出土遺物のない2・3・13号溝を除き、すべて古代の土師器・須恵器や灰釉陶器のみが出土している。なお、13号溝は底部に砂の堆積が認められ、流水があったことが伺える。

2区からは1～27号溝の27条が検出されている。これらのうち、1・3・19・23・24号溝は出土遺物が全くなく、時期は不明である。1・6・18号溝は、規模・走行方向・断面形状などから同一溝の可能性が高いと考えられる。また、6号溝からは近世陶器が1点、18号溝からは近世陶磁器が数点出土しており、これらの溝は近世以降の所産である可能性が高い。上記以外の溝からは、量の多少はあるもののすべて古代の遺物のみが出土している。

3区では、東西走行の1溝、南北走行の2・3号溝の3条が検出された。いずれも出土遺物が全くなく、時期は不明であるが、1・2区の溝と走行方向が近く、近世～近代と推定される畑状遺構より古いことから古代の所産である可能性も考えられる。

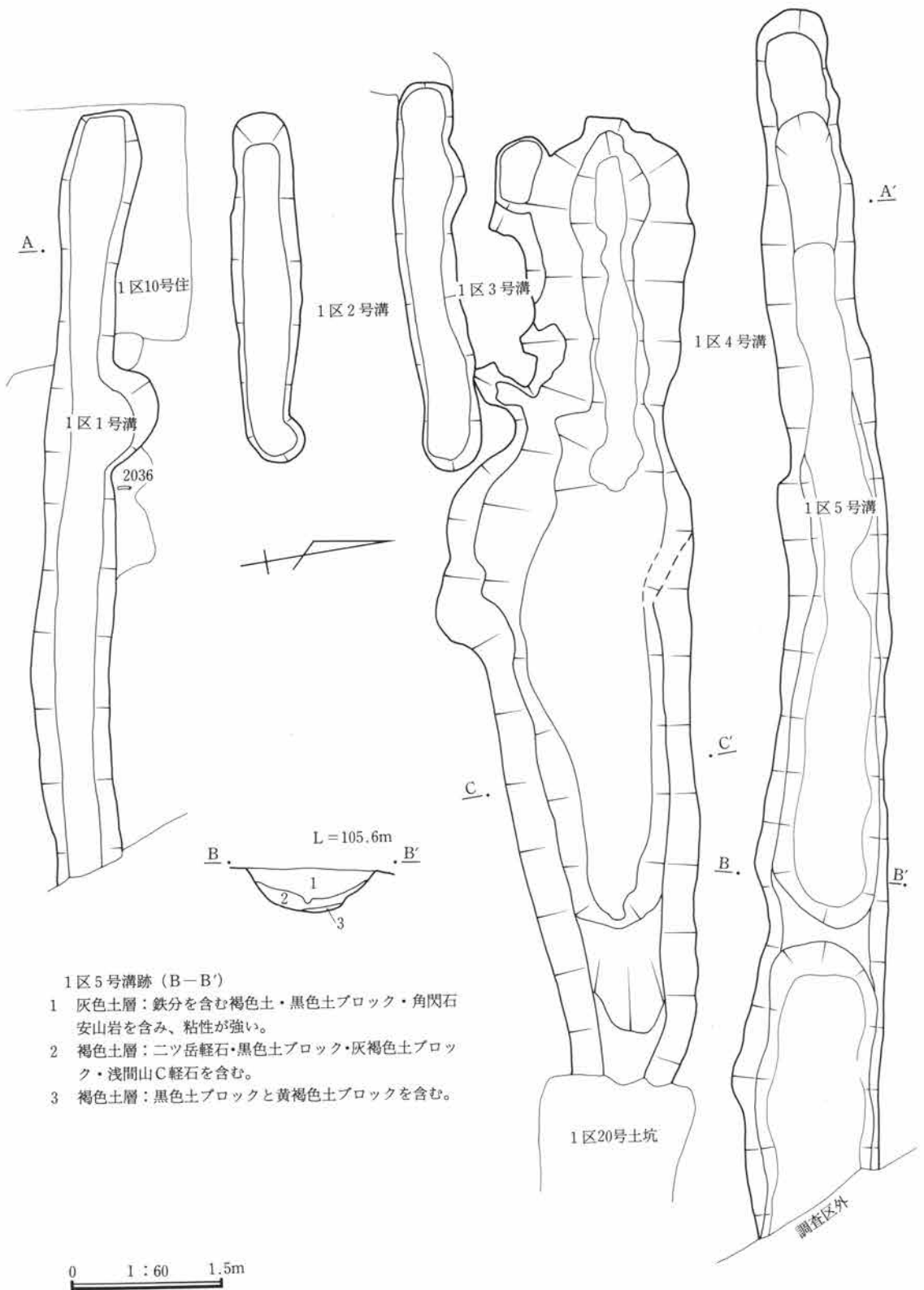
1区から3区の溝の多くは古代の須恵器や土師器、灰釉陶器が出土しているが、各溝における古代遺物の量は、住居跡との重複量に正比例しており、出土遺物が溝の廃棄時期を正確に表しているとは言いがたいが、中世以降の遺物は2区6・18号溝で認められたのみである。また、希少性のある遺物として緑釉陶器があり、図示した2055・2146以外にも1・5・7号溝から細片が各1点出土している。以上概要を記したが、1区～3区の溝の多くは出土遺物のみから推定する限り溝の多くは古代に廃棄されたと考えられよう。

番号 区番号	位置 (グリッド)	走行と形状	断面形状と底部形状	出土遺物(遺物番号)	備考
1 1	K-31~M-32	ほぼ直線的。全長7.5m。上端幅50~80cm。中央で丸みを帯びている部分はピットとの重複か。	逆台形。底部は平坦で東に傾斜。両端の比高差は4cm。	土師器杯(2072・2073)、溝脇から鉄鎌(2036)。緑釉陶器、土師器杯・甕、須恵器蓋・杯。	埋土は黄黒色粘質土。
1 2	K-32~L-32	ほぼ直線的。全長3.5m。上端幅60~70cm。東端は北に屈曲。	逆台形。西に傾斜。両端の比高差は8cm。	無し。	埋土は淡灰褐色土。
1 3	K-32~L-33	僅かに蛇行。全長3.8m。上端幅50~70cm。	逆台形。底部の傾斜は不明瞭。僅かな凹凸。	無し。	埋土は黄黒色粘質土。
1 4	I-32~L-33 (1 10)	直線的。全長9.4m。上端幅1~2.5m。	東は逆台形、西は「U」字形。傾斜なし。	土師器杯(2046・2074・2077) 須恵器(2078・2079)・壺(2080)・杯(2044・2045)など。	埋土は暗灰褐色土。
1 5	I-32~L-34 (1 8)	ほぼ直線的。全長12m。上端幅0.7~1.5m。東は調査区外。	西は逆台形、東は「U」字形。底部は部分的に凹凸。	須恵器碗(2037・2038)・壺(2039)。緑釉陶器・灰釉陶器皿・碗、須恵器瓶、土師器甕等。	
1 6	K-12~L-12	僅かに蛇行。全長5.9m。東西に延びる。上端幅50~80cm。	逆台形。傾斜はなく、比高5cmの凹凸。	土師器杯(2040~2043)が東端埋土上層からまとめて出土。土師器細片、須恵器杯細片。	南北走行の溝と重複、新旧は不明。
1 7	N-27~Q-29	上端幅1.3~2.2m。全長12m。西は調査区外。	深さは幅に比して非常に浅い。西に傾斜し、比高差は10cm。	土師器杯・甕、須恵器杯・蓋。	
1 11	I-33~K-34	僅かに蛇行。全長7.2m。東は調査区外。西は本線部分に延びると思われるが検出されない。	浅い逆台形。西端付近に段差。段差の比高は10cm。	土師器甕(2048)、須恵器甕(2049)・碗(2050~2053)・壺(2056)、灰釉陶器碗(2054)、緑釉陶器段皿(2055)、瓦(2057)など。	
1 12	H-32~J-33	僅かに弧状。全長5.3m。東は調査区外。	底部に凹凸多く、断面形状も一定しない。	須恵器蓋(2059)。須恵器杯・甕、土師器杯・甕。	
1 13	J-30~I-32	僅かに蛇行。北は調査区外。南は本線部分に延びるが検出されない。	カマボコ状。南に傾斜。比高差は6cm。	無し。	重複する住居より古い。底部に砂堆積。
2 1	M-12~L-17	ほぼ直線的。西側が調査区外のため、上端幅は不明。	浅逆台形。底部は平坦。	無し。	
2 2	M-12~L-12	ほぼ直線的。	台形。	土師器細片。	
2 3	K-11~M-12	直線的。西側上端幅は50cm。東側は重複のため狭い。	「U」字形。	出土遺物はない。	

第IV章 発見された遺構と遺物

番号 区番号	位置 (グリッド)	走行と形状	断面形状と底部形状	出土遺物(遺物番号)	備考
2 4	L-9~K-10	不整形。全長4.7m。南は攪乱により破壊。	ほぼ「U」字形。底部は低い段をなして南に傾斜。比高差は13cm。	須恵器長頸瓶(2140・2141)・瓶の取っ手(1244)等。	58号住より新しい。セクションから判断すると1・3層、2・4・5層部分の3条が重複している。
2 5	L-01~K-04	緩い弧状。全長12m。東は側道部に延びるが確認されない。	「U」字形。底部は北に傾斜。比高差は46cm。	土師器甕(2148)、須恵器碗(2151)・甕(2149・2150・2154)・杯(2152)等。灰釉陶器瓶、土師器甕、羽釜。	東に平行して新しい溝が重複。
2 6	P-32~O-03	直線的。全長14m。南北に延びる。西側が調査区外のため上端幅は不明。	浅い台形か。	近世陶器片1、須恵器杯、土師器細片。	2区1・18号溝と同一の可能性高い。
2 7	K-02~I-04	直線的。全長7.2m。南北に延びる。上端幅は1.0~1.4m。新旧2条の溝が重複し、走行方向をやや異にする。	「U」字形。底部は低い段差を有し、南に傾斜。比高差は20cm。	須恵器甕(2100)・杯(2102)・皿(2103)・長頸瓶(2104)、灰釉陶器壺(2105)、羽釜(2101)、土錘(2106)等。	遺物の殆どは覆土上層。
2 8	J-05~I-07	緩い弧状。全長7.5m。上端幅は90cm前後。南北に延びる。	「U」字形。9溝との重複のため傾斜は不明。	羽釜(2125)、土師器甕(2126)、須恵器碗(2128)、皿(2130)、灰釉陶器碗(2129)等。	16溝より新しく、9溝より古い。
2 9	J-05~I-08	直線的だがベルトを境として東西にずれる。全長13.5m。南北に延びる。上端幅は80~100cm。	「U」字形。北半部は低い段差を有し、南に傾斜。北半部の比高差は30cm。	土師器杯(2109・2110)、須恵器皿(2111・2112)、鉄滓(2113)など。	同一溝の判断は、調査時の所見に従った。8・16溝より新しい。
2 10	J-07~I-10	直線的。全長23m。南北に延びるが検出できない。上端幅は50~80cm。	「U」字形。南に傾斜し、比高差は20cm。	土師器杯(2115・2116)、鉄滓(2117)。須恵器碗・杯・甕、羽釜、灰釉陶器碗・瓶。	
2 11	I-10~I-12	弧状。全長7m。南北に延びる。上端幅は40cm。	「U」字形。底部は傾斜しない。	須恵器杯(2188・2119)。	
2 12	K-08~J-10	直線的。両端は屈曲か。上端幅は80~90cm。	浅い台形。底部は部分的な凹凸あり。	須恵器碗(2083・2084)、灰釉陶器碗(2085)等。	
2 13	I-10~I-11	直線的。全長9.8m。北は調査区外。上端幅は1.1m。	浅い台形。	須恵器碗(2121~2113)・甕(2120)、須恵器長頸瓶(2124)。	
2 14	I-10	直線的。全長2.2m。上端幅は15cm。	「U」字形。底部は南に傾斜。	土師器細片1。	
2 15	J-11~J-13	直線的。東端は湾曲。全長6m。西に延びるが本線部では確認されない。	逆台形。底部は西に傾斜。比高差は10cm。	土師器甕(2087)・杯(2088)、須恵器蓋(2089)・碗(2090)・杯(2091)、灰釉陶器碗(2092・2093)等。	遺物は東端に集中。2029は底部付近出土。
2 16	K-04~I-05	形状は不明。	断面形は不明。非常に浅い。	古墳時代土師器甕、灰釉陶器細片、土師器杯・甕。	

番号 区番号	位置 (グリッド)	走行と形状	断面形状と底部形状	出土遺物(遺物番号)	備考	
2	17	J-19~K-20	直線的。全長3.5m。西は調査区外。上端幅は1.2~1.6m。	逆台形。底部は凹凸があり、最深部は中央。	灰釉陶器椀(2060)、須恵器椀(2061)。	
2	18	K-20~I-29	直線的。全長27m。南北は調査区外。西側が調査区外のため上端幅は不明。	浅い逆台形か。底部は平坦。	近世陶磁器、須恵器甕、土師器甕。	覆土は淡褐色砂質土。
2	19	K-14~I-17	緩く蛇行。全長12.5m。南北に延びる。北は調査区外。南は検出されない。	「U」字形。底部は北に傾斜。比高差は8cm。	無し。	
2	20	I-16	緩い弧状。全長1.6m。東は不明瞭。上端幅は30cm。	浅い「U」字形。	無し。	約4m北にある畑状遺構と同じ幅で走行方向も同様なことから同一遺構群の可能性が高い。
2	21	K-18~I-19	一部の確認であり形状は不明。西は調査区外に延びる。	浅い槽鉢状。底部のみ逆台形。	須恵器杯・甕、土師器細片。	146住より古い。
2	22	I-26~I-27	直線的。南端は西に曲がる。全長4.5m。上端幅は40cm。	深い「U」字形。底部の傾斜は殆どない。	土師器杯(2062)。土師器甕、須恵器甕。	
2	23	I-22~J-22	直線的。上端幅は30~190cmと一定しない。	非常に浅い逆台形。	無し。	25・26溝より上層で確認。24溝より新しい。
2	24	I-21~J-22	直線的か。重複のため上端幅は不明。	非常に浅い逆台形。	なし。	25・26溝より上層で確認。23溝より古い。
2	25	I-21~J-22	直線的。全長5.3m。東西に延びる。東は調査区外、西は18溝と重複。26溝との重複のため上端幅は不明。	浅い逆台形か。底部は東に傾斜。比高差は20cm。	須恵器椀(2063・2064)。	26溝より新しい。23・24溝より古い。
2	26	I-21~J-22	緩い弧状。全長5.5m。東西に延びる。東は調査区外、西は18溝と重複。25溝との重複のため上端幅は不明。	断面形は一定せず、「U」字形~逆台形。底部は東に傾斜。比高差は14cm。	土師器甕(2065)・杯(2066)、灰釉陶器皿(2067)など。	153住より新しく、23~25溝より古い。
2	27	M-01~L-02	直線的。全長5m。上端幅は50~60cm。	浅い逆台形。底部は南に傾斜。比高差は8cm。	緑釉陶器椀(2146)、紡錘車。	
3	1	N-15~P-15	直線的。全長4m。西は調査区外に延びる。上端幅は60cm。	逆台形。底部は西に傾斜。比高差は8cm。	無し。	
3	2	P-05~O-10	直線的。全長15.3m。南は調査区外に延びる。上端幅は1.3~1.5m。	鈍い逆台形。底部は北に傾斜。比高差は21cm。	無し。	
3	3	I-03~I-07	やや弧状。全長13.5m。上端幅は1.1m。	浅い逆台形。底部はほぼ平坦。	無し。	

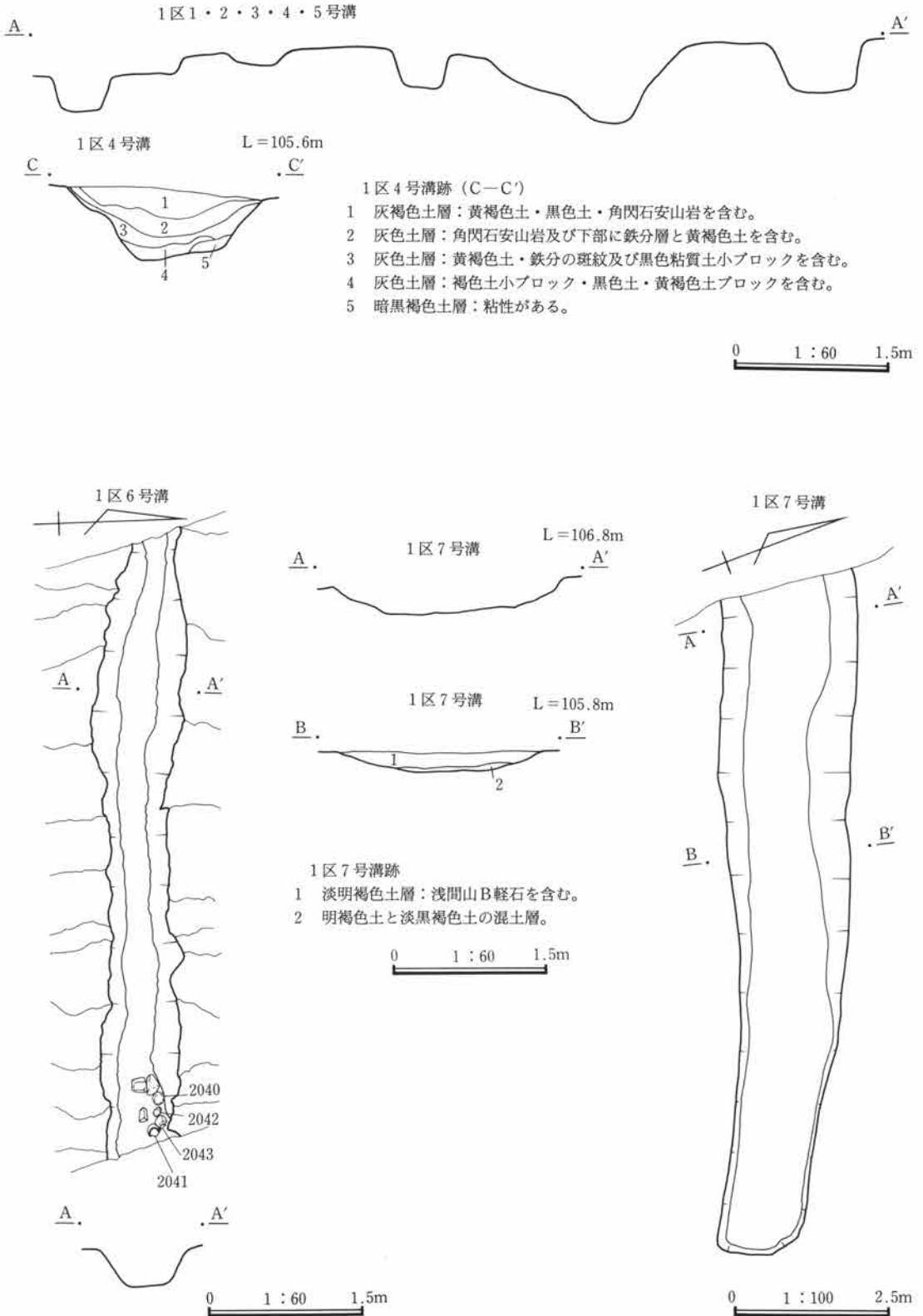


1区5号溝跡 (B-B')

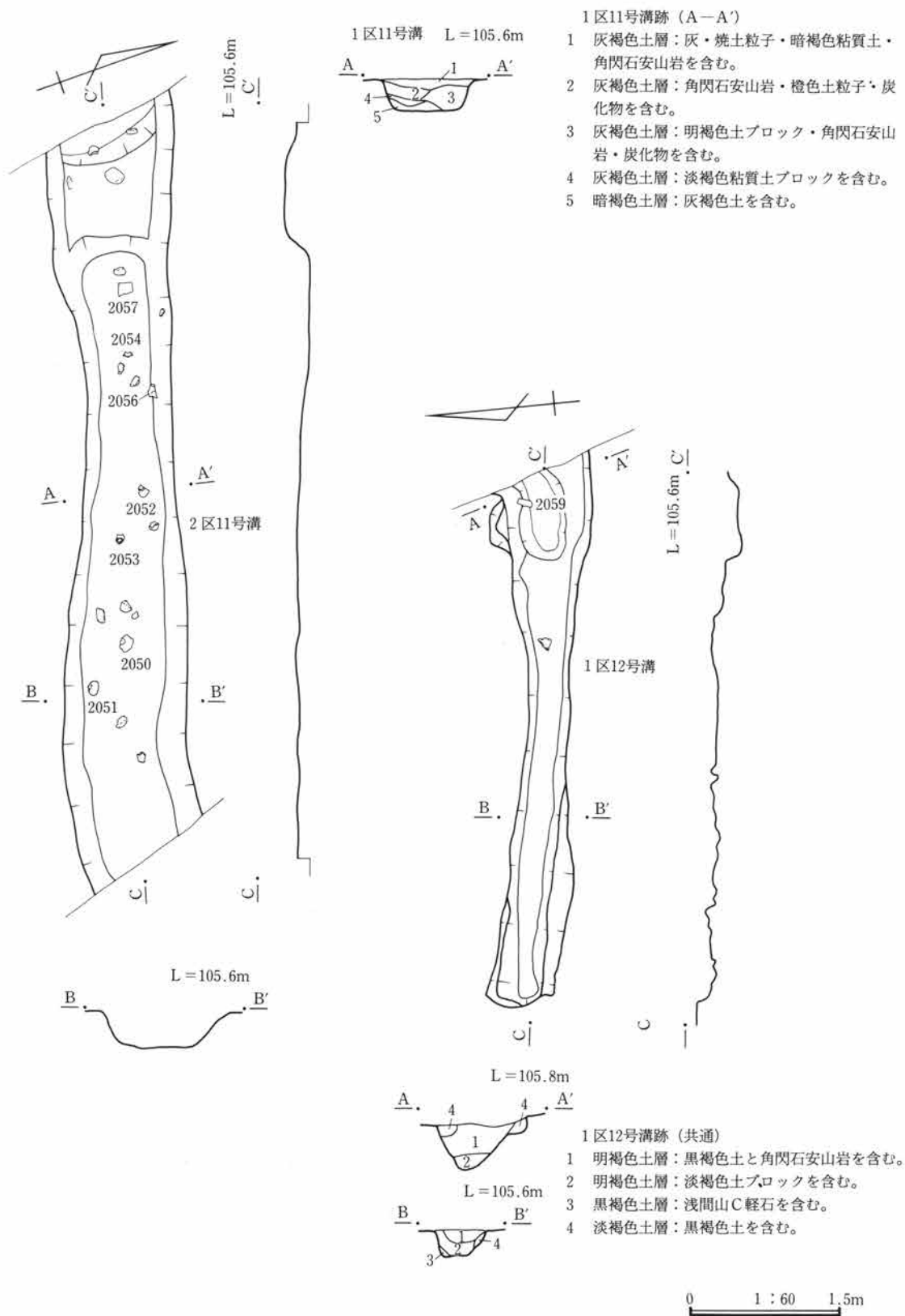
- 1 灰色土層：鉄分を含む褐色土・黒色土ブロック・角閃石安山岩を含み、粘性が強い。
- 2 褐色土層：ニツ岳軽石・黒色土ブロック・灰褐色土ブロック・浅間山C軽石を含む。
- 3 褐色土層：黒色土ブロックと黄褐色土ブロックを含む。

第304図 1区1・2・3・4・5号溝跡

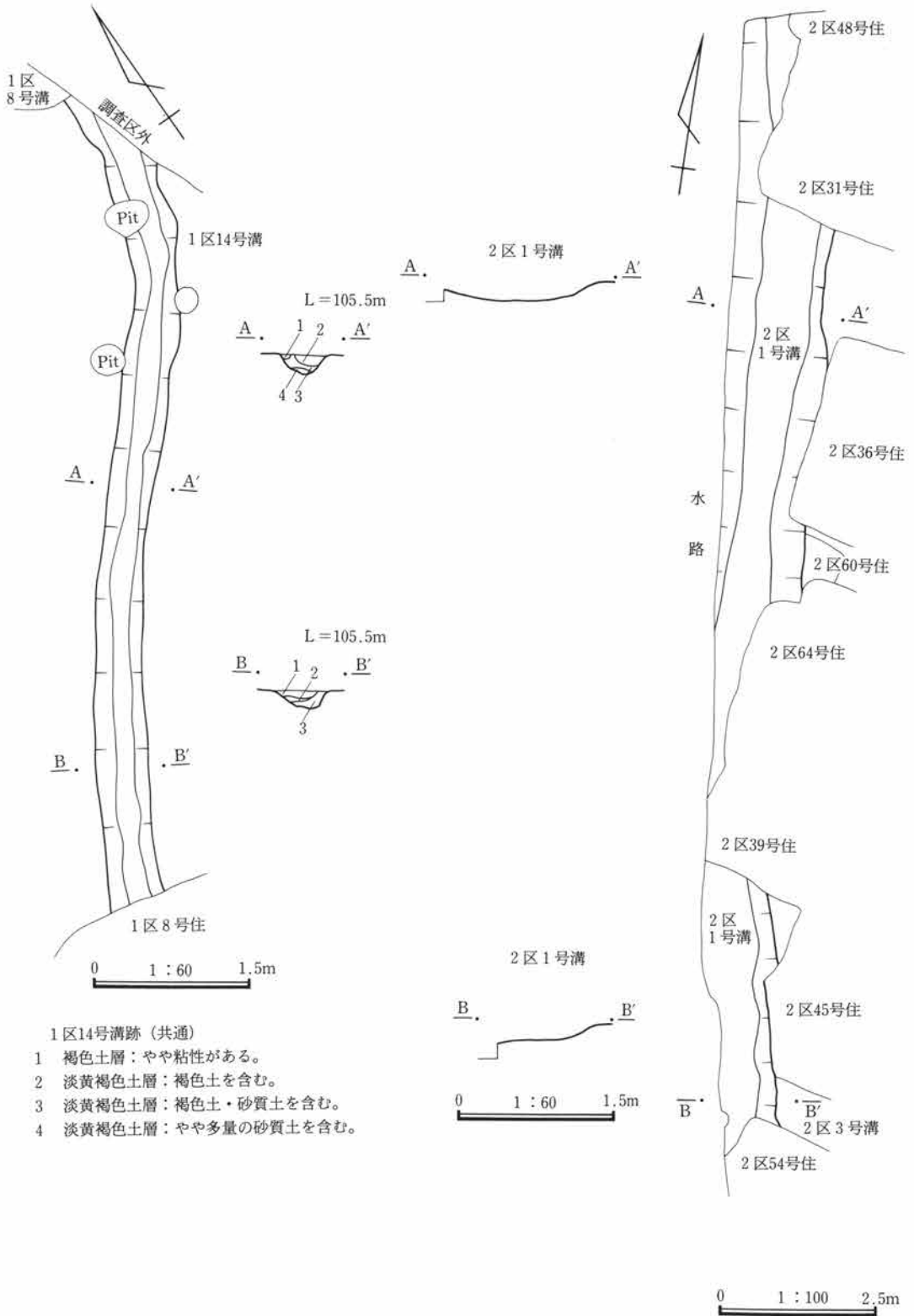




第305図 1区1・2・3・4・5号溝跡エレベーション、4号溝跡断面、6・7号溝跡



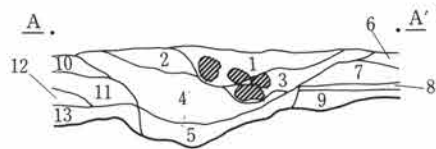
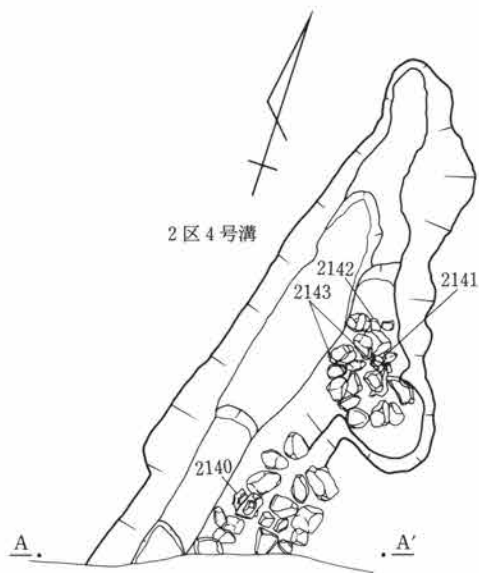
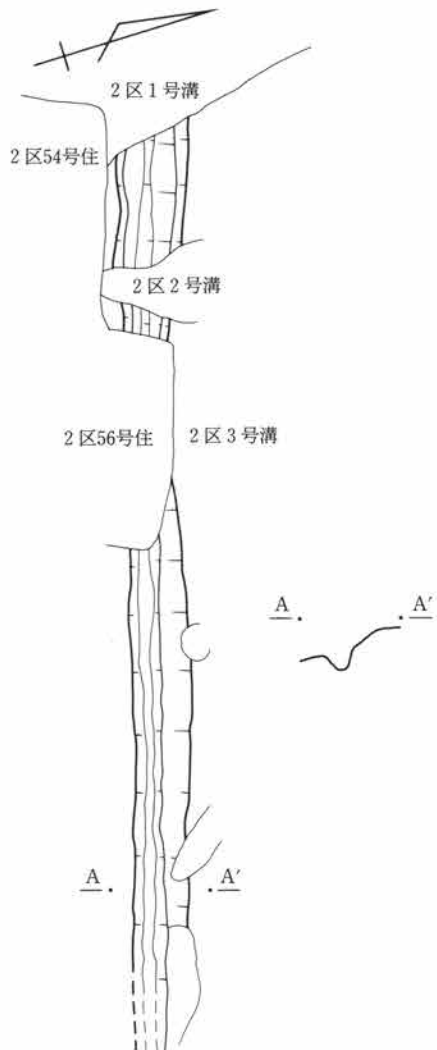
第306図 1区11・12号溝跡



1区14号溝跡（共通）

- 1 褐色土層：やや粘性がある。
- 2 淡黄褐色土層：褐色土を含む。
- 3 淡黄褐色土層：褐色土・砂質土を含む。
- 4 淡黄褐色土層：やや多量の砂質土を含む。

第307図 1区14号、2区1号溝跡

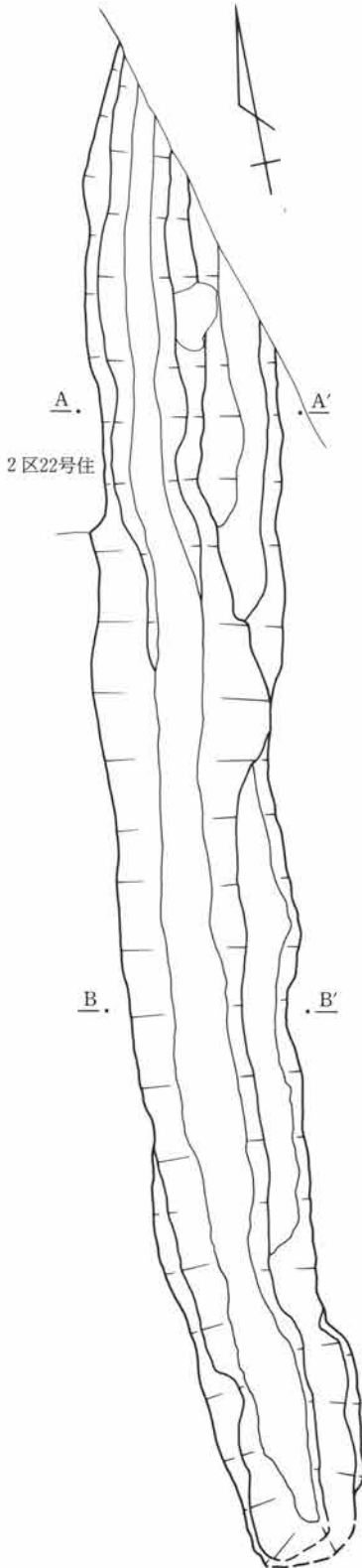


2区4号溝跡

- 1 灰褐色粘質土層：暗褐色土を含む。
- 2 暗褐色粘質土層：灰褐色土を含む。
- 3 灰黒色粘質土層：灰褐色土を含む。
- 4 暗褐色粘質土層：褐色土を含む。
- 5 黒色粘質土層：褐色土を含む。
- 6 暗褐色粘質土層：灰褐色土を含む。
- 7 灰褐色粘質土層：やや灰黄褐色をおびる。
- 8 褐色粘質土層：黒褐色土を含む。
- 9 暗黄褐色粘質土層：黒褐色土・黄褐色土を含む。
- 10 暗褐色粘質土層：黄褐色土を含む。
- 11 灰褐色粘質土層：黄褐色土を含む。
- 12 灰褐色土層：灰黄褐色土を含む。
- 13 黒色土層：灰黄褐色土を含む。

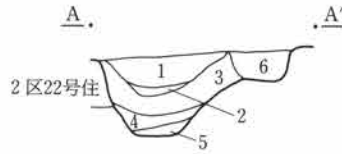
0 1 : 60 1.5m

第308図 2区2・3・4・号溝跡



2区5号溝跡

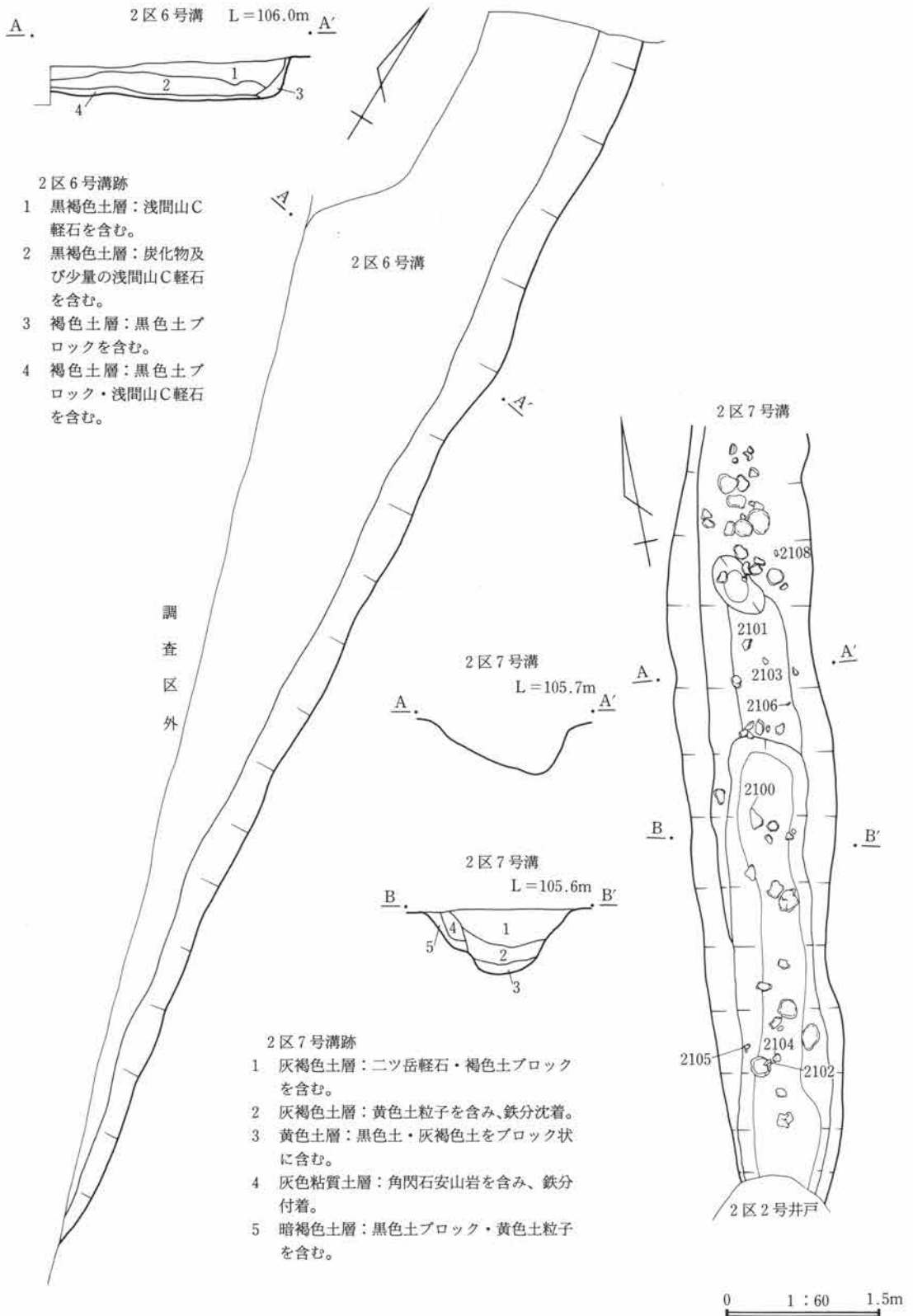
- 1 暗灰色粘質土層：大豆大の軽石を含む。底面には灰が堆積している。
- 2 暗青色灰層。
- 3 暗灰色粘質土層：褐色土小ブロックを斑点状に含む。大豆大の軽石を含む。
- 4 暗灰色粘質土層：褐色土小ブロック及び少量の灰・焼土・軽石小粒を含む。
- 5 黒灰色粘質土層：黒色灰と暗灰色土の混土層。微量の軽石小粒・黄色粘土を含む。
- 6 黒灰褐色粘質土層：褐色土と黒色灰が斑状に入り、少量の軽石小粒を含む。



0 1 : 60 1.5m

第309図 2区5号溝跡

第IV章 発見された遺構と遺物



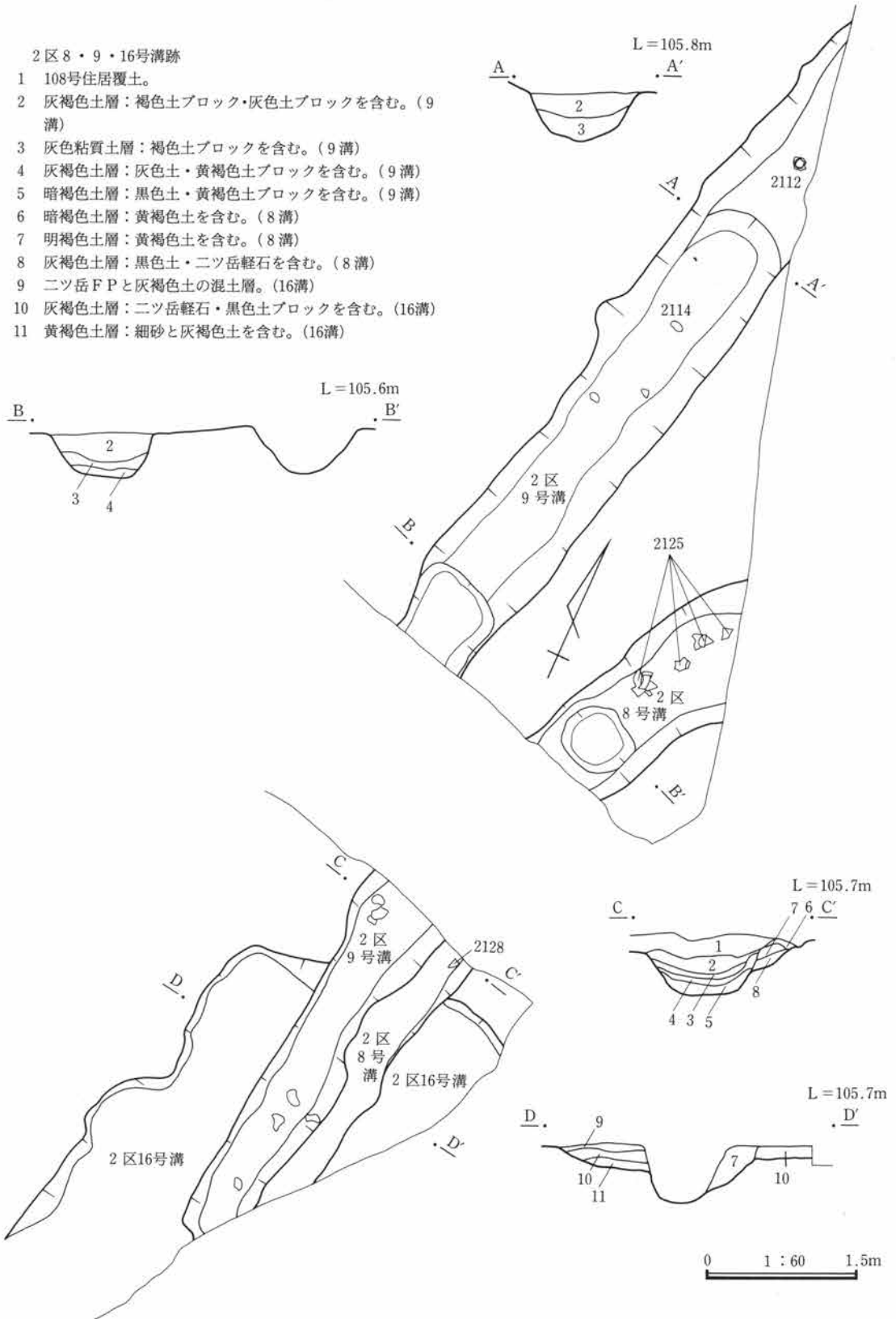
- 2区6号溝跡
- 1 黒褐色土層：浅間山C軽石を含む。
  - 2 黒褐色土層：炭化物及び少量の浅間山C軽石を含む。
  - 3 褐色土層：黒色土ブロックを含む。
  - 4 褐色土層：黒色土ブロック・浅間山C軽石を含む。

- 2区7号溝跡
- 1 灰褐色土層：二ツ岳軽石・褐色土ブロックを含む。
  - 2 灰褐色土層：黄色土粒子を含み、鉄分沈着。
  - 3 黄色土層：黒色土・灰褐色土をブロック状に含む。
  - 4 灰粘質土層：角閃石安山岩を含み、鉄分付着。
  - 5 暗褐色土層：黒色土ブロック・黄色土粒子を含む。

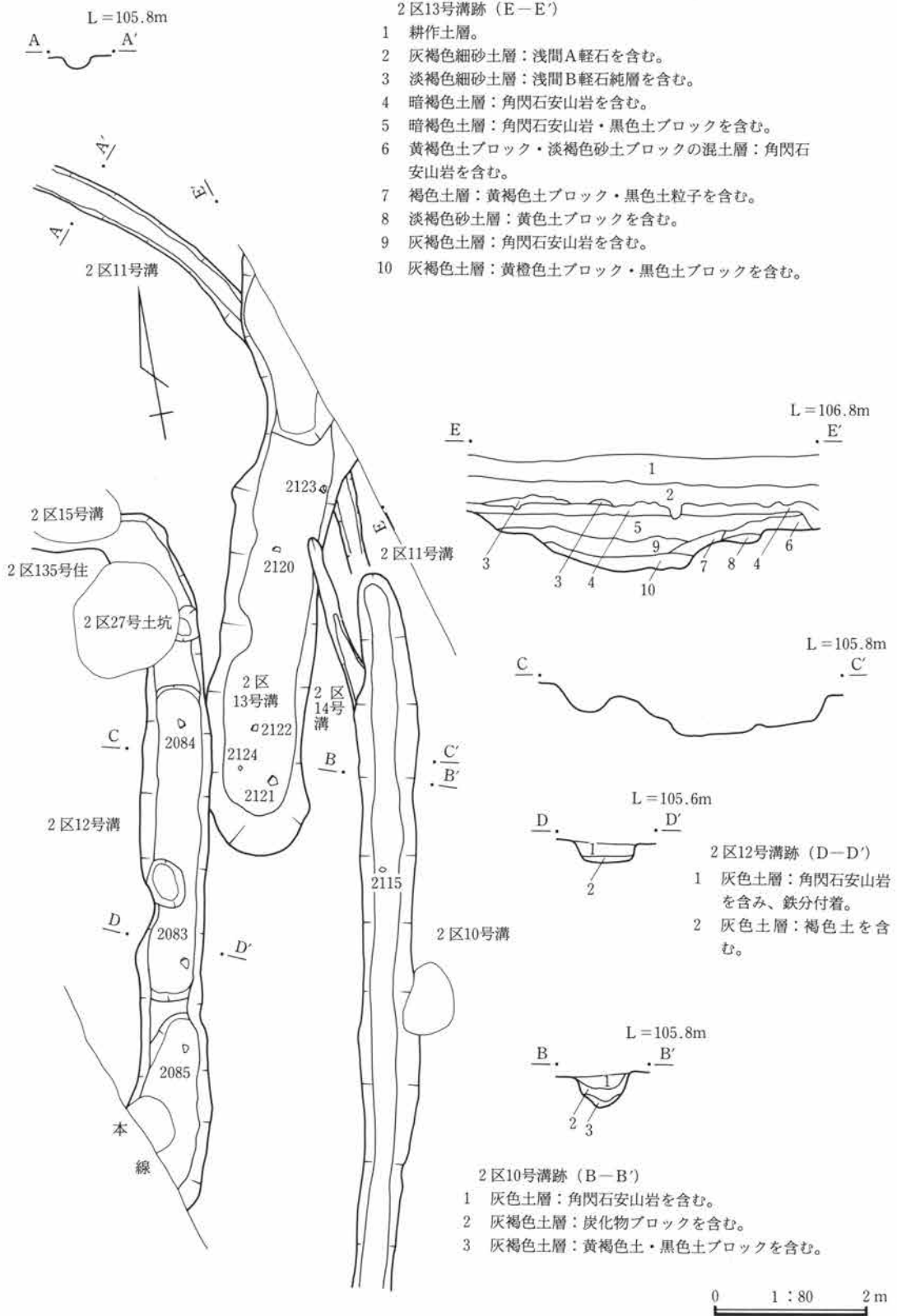
第310図 2区6・7号溝跡

2区8・9・16号溝跡

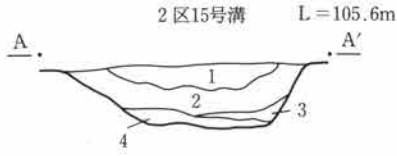
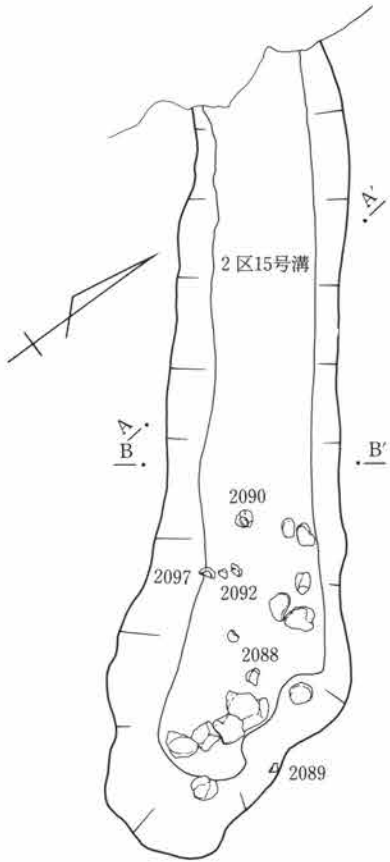
- 1 108号住居覆土。
- 2 灰褐色土層：褐色土ブロック・灰色土ブロックを含む。(9溝)
- 3 灰色粘質土層：褐色土ブロックを含む。(9溝)
- 4 灰褐色土層：灰色土・黄褐色土ブロックを含む。(9溝)
- 5 暗褐色土層：黒色土・黄褐色土ブロックを含む。(9溝)
- 6 暗褐色土層：黄褐色土を含む。(8溝)
- 7 明褐色土層：黄褐色土を含む。(8溝)
- 8 灰褐色土層：黒色土・ニツ岳軽石を含む。(8溝)
- 9 ニツ岳F Pと灰褐色土の混土層。(16溝)
- 10 灰褐色土層：ニツ岳軽石・黒色土ブロックを含む。(16溝)
- 11 黄褐色土層：細砂と灰褐色土を含む。(16溝)



第311図 2区8・9・16号溝跡

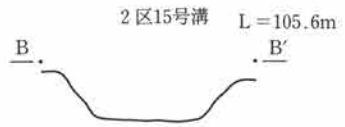






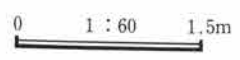
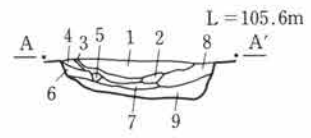
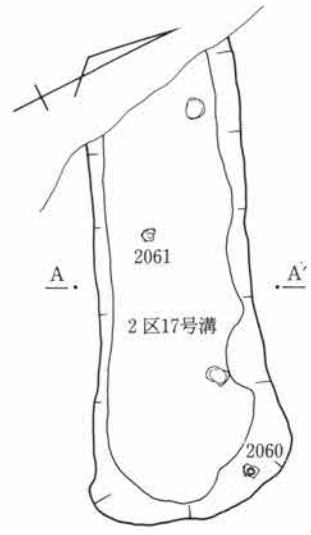
2区15号溝跡

- 1 明灰褐色土層：緻密。軽石を含む。
- 2 灰褐色土層：緻密。軽石及び少量の炭化物を含む。
- 3 灰褐色土層：緻密。少量の黄褐色土ブロック・黒色土ブロックを含む。
- 4 灰褐色土層：緻密。多量の黒色土ブロックを含む。

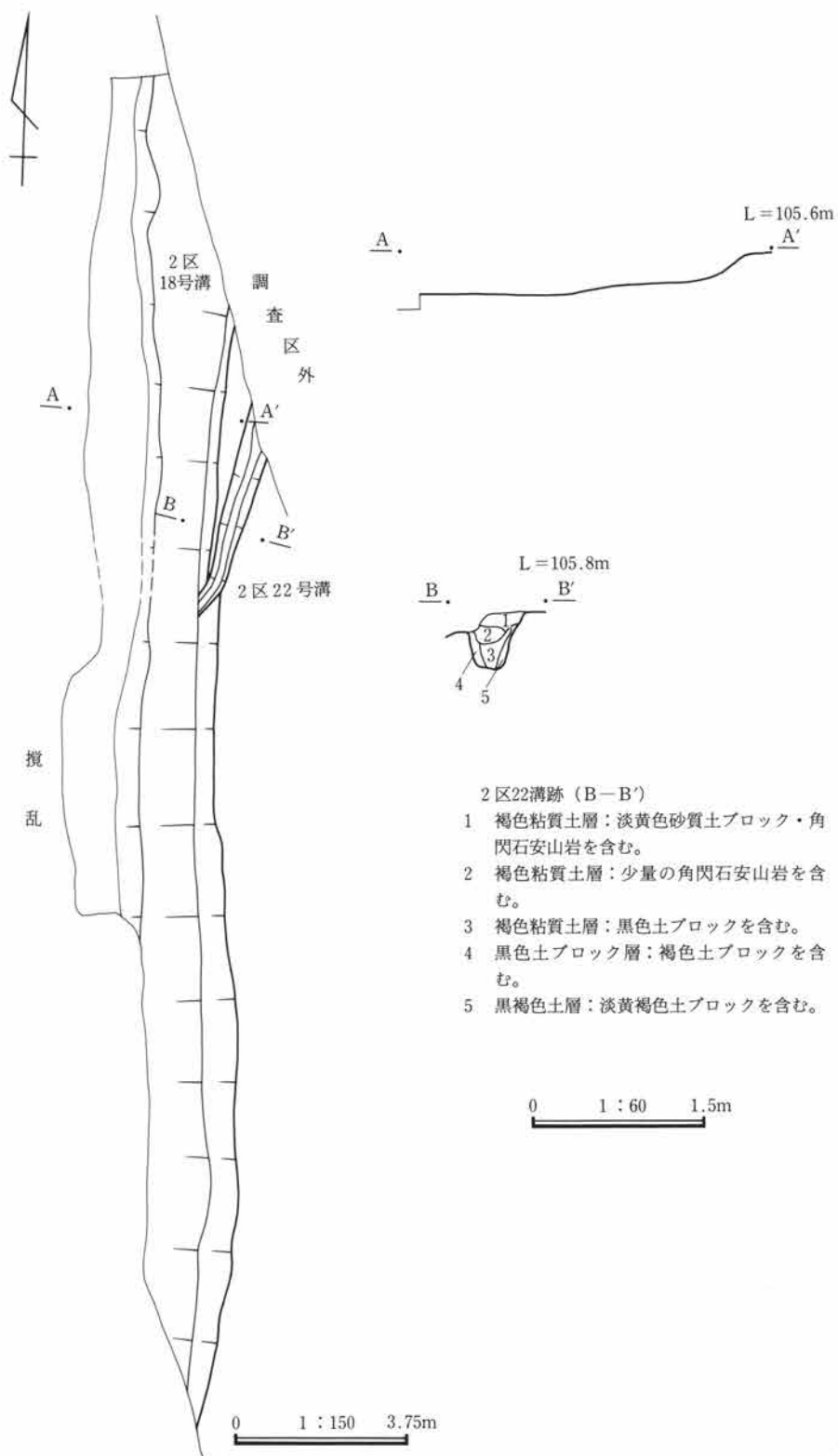


2区17号溝跡

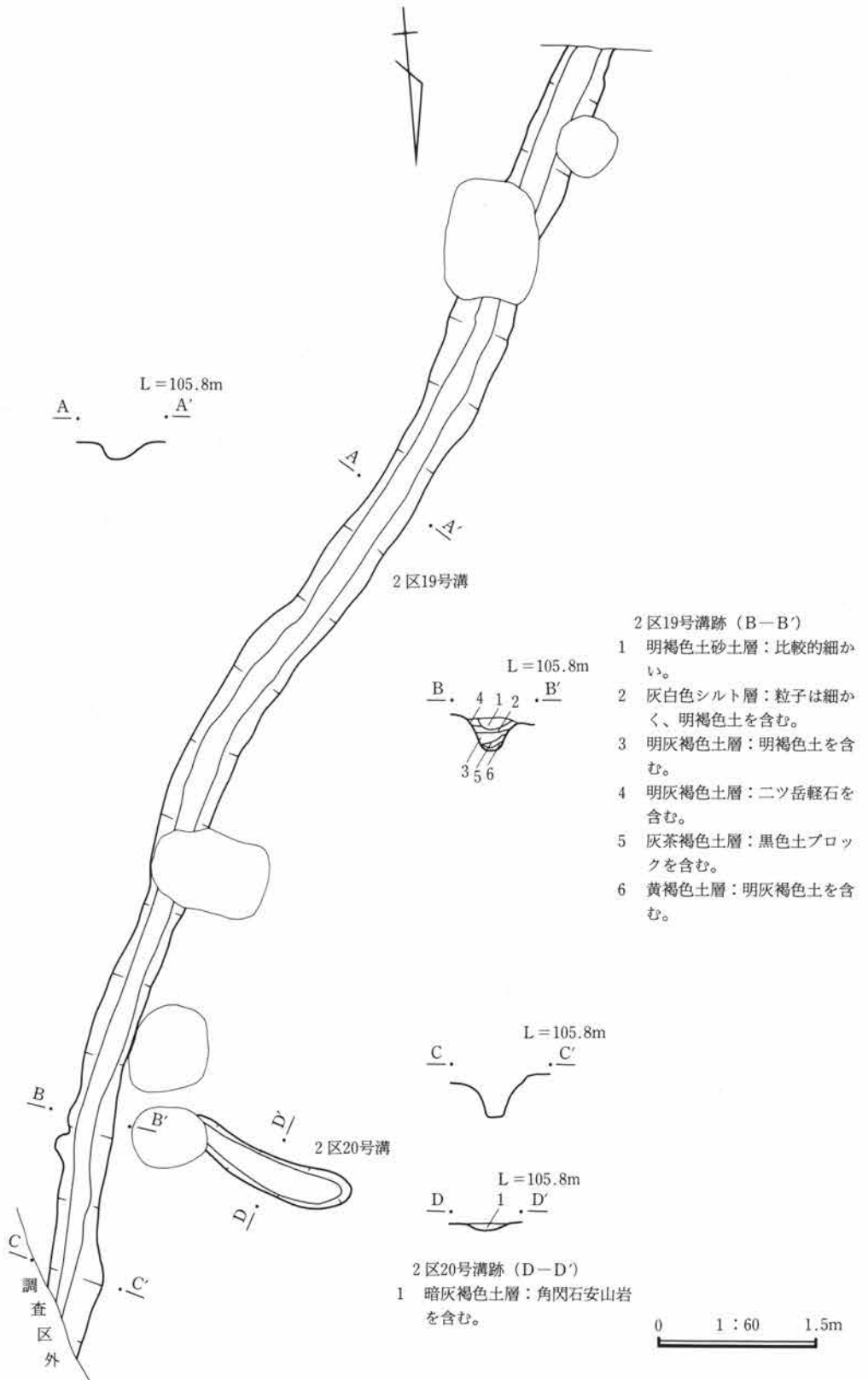
- 1 灰褐色土層：角閃石安山岩・淡褐色土ブロックを含む。
- 2 灰褐色土層：黒色土ブロック・褐色粘質土ブロックを含む。
- 3 淡黄色粘質土層：灰褐色土を含む。
- 4 灰褐色土層：角閃石安山岩と黒色土ブロックを含む。
- 5 黒色土層：灰褐色土を含む。
- 6 灰褐色土層：やや多量の黒色土を含む。
- 7 灰褐色粘質土層：黒褐色土ブロックを含む。
- 8 灰褐色土層：黒色土ブロック・角閃石安山岩を含む。
- 9 黒色土層：灰色土ブロック・黄褐色土ブロックを含む。



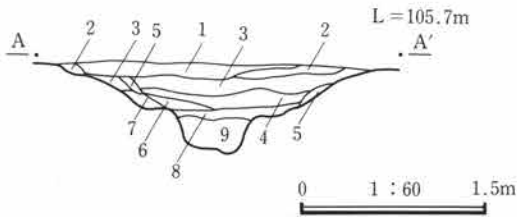
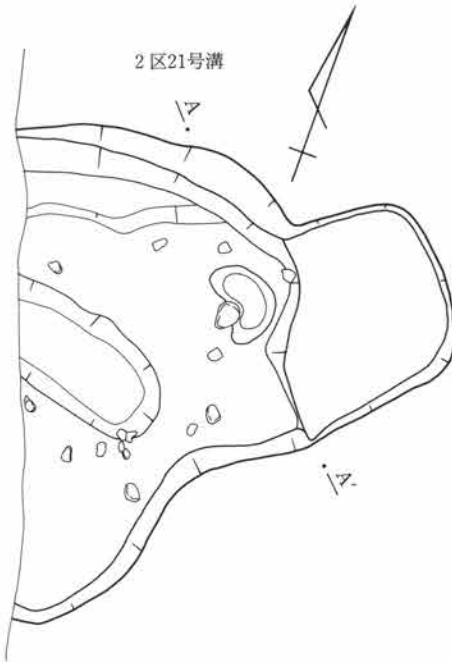
第313図 2区15・17号溝跡



第314図 2区18・22号溝跡

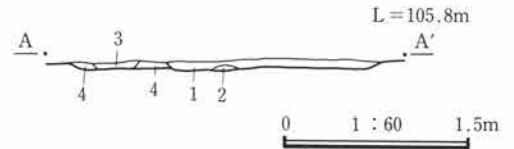
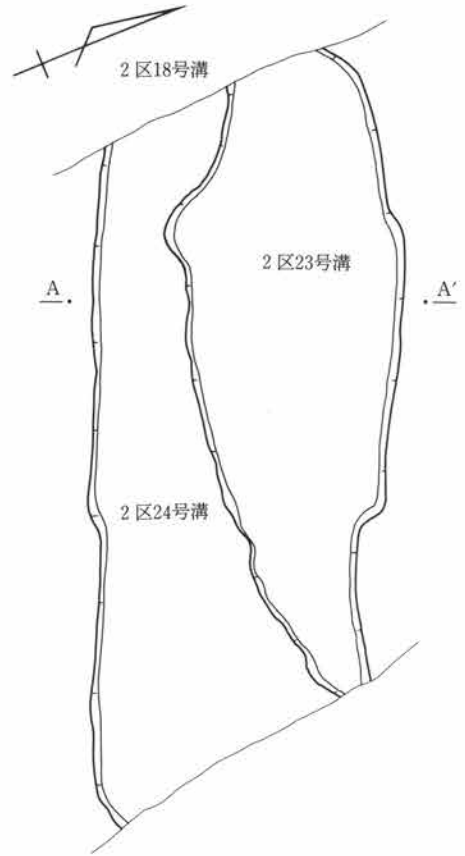


第315図 2区19・20号溝跡



2区21号溝跡

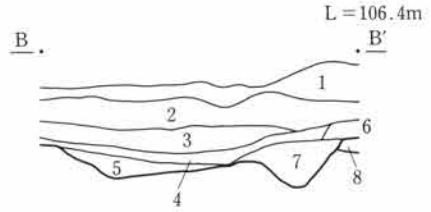
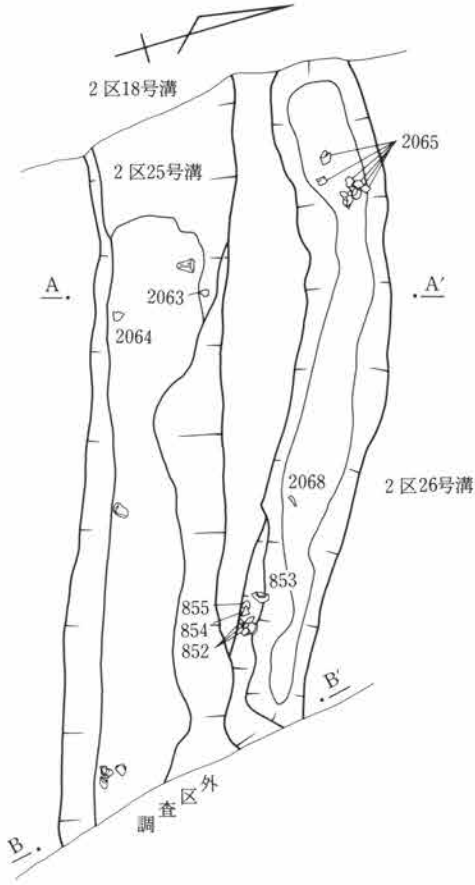
- 1 灰褐色土層：角閃石安山岩・明褐色土粒子を含む。
- 2 明褐色土層：灰褐色土を含む。
- 3 灰褐色土層：少量の角閃石安山岩・明褐色土粒子を含む。
- 4 灰褐色土層：淡褐色砂質土・角閃石安山岩を含む。
- 5 淡褐色砂質土層：黒褐色土を含む。
- 6 黒褐色土層：明褐色土ブロックを含む。
- 7 黒褐色砂質土層：明褐色土を含む。
- 8 ニツ岳軽石ブロック層：褐色土ブロックを含む。
- 9 ニツ岳軽石ブロック層：黒褐色土ブロック・淡褐色土ブロックを含む。



2区23・24号溝跡

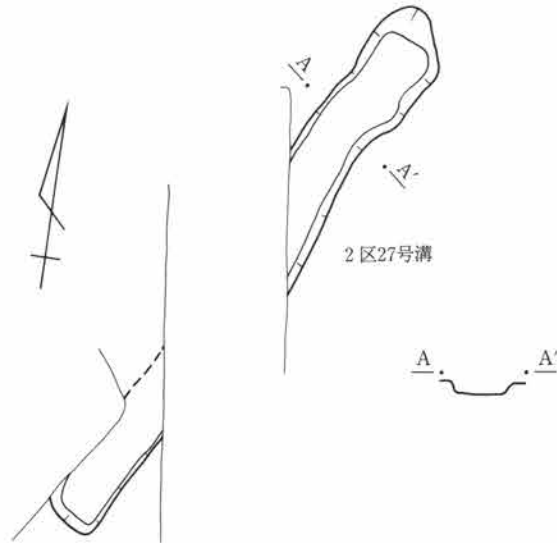
- 1 灰褐色土層：角閃石安山岩・炭化物を含む。(23溝)
- 2 灰褐色土層：ニツ岳火山灰・灰褐色土を含む。(23溝)
- 3 淡褐色土層：黒褐色土ブロックを含む。(24溝)
- 4 灰褐色土層：淡褐色土を含む。

第316図 2区21・23・24号溝跡

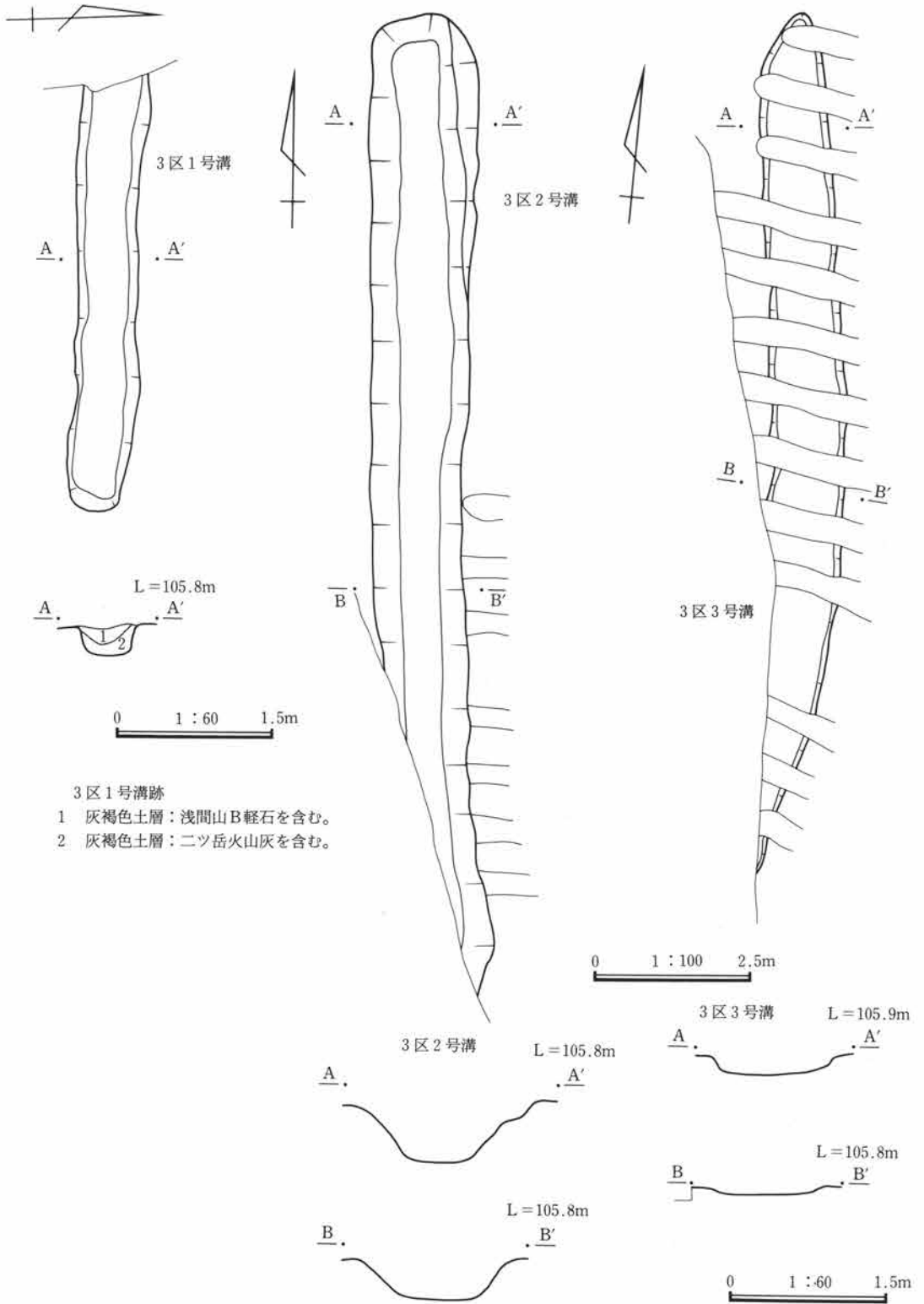


2区25・26号溝跡

- 1 耕作土層：浅間山B軽石を含む。(25・26溝)
- 2 淡黒褐色土層：角閃石安山岩を含む。(25・26溝)
- 3 灰褐色土層：炭化物及び少量の角閃石安山岩を含む。(25・26溝)
- 4 灰褐色土層：灰・灰褐色土・炭化物を含む。(25・26溝)
- 5 黒褐色土層：褐色土を含む。(25溝)
- 6 灰褐色土層：褐色土ブロックを含む。(26溝)
- 7 灰褐色土層：淡黄褐色土・黒褐色土ブロック・川砂を含む。(26溝)
- 8 153号住居覆土。

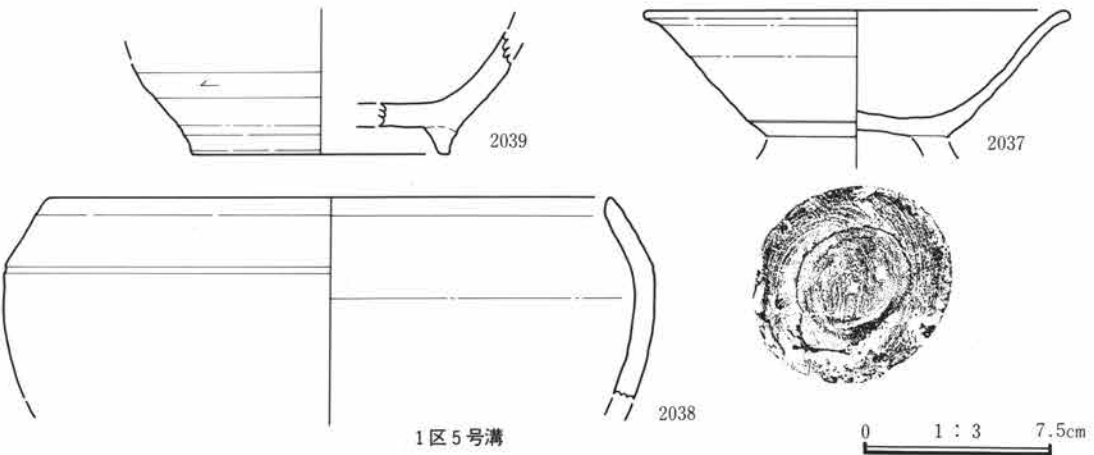
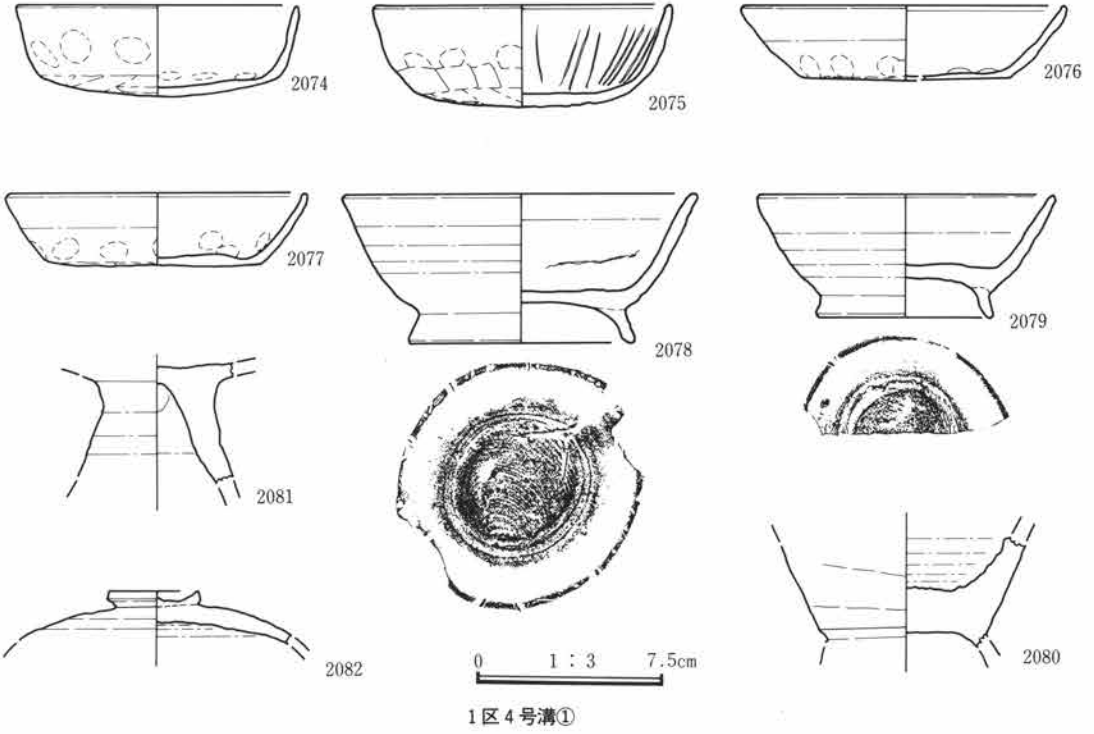
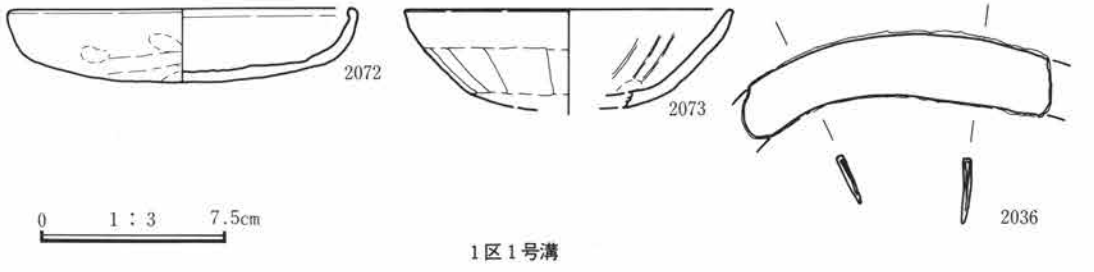


第317図 2区25・26・27号溝跡

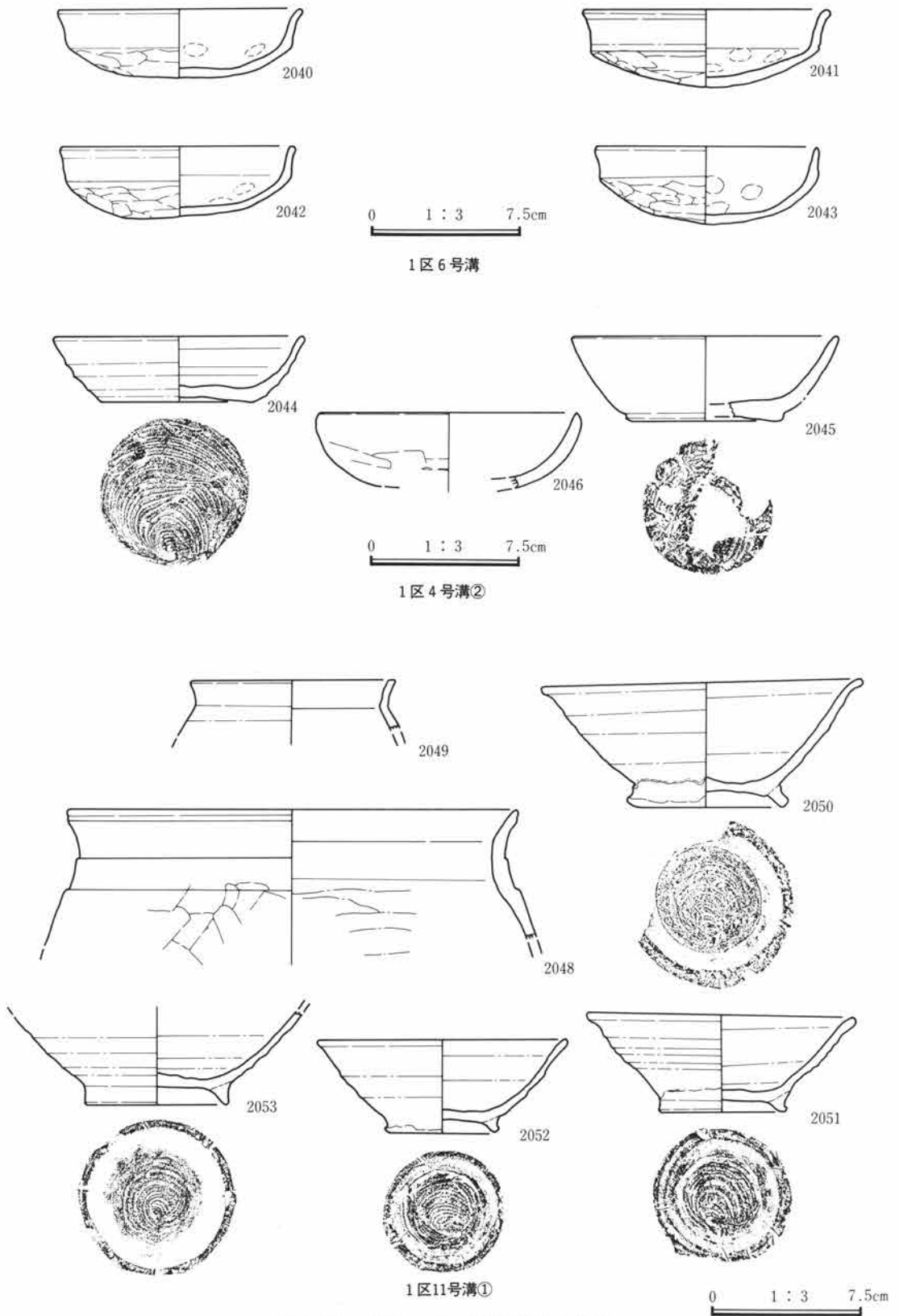


- 3区1号溝跡
- 1 灰褐色土層：浅間山B軽石を含む。
  - 2 灰褐色土層：二ツ岳火山灰を含む。

第318図 3区1・2・3号溝跡

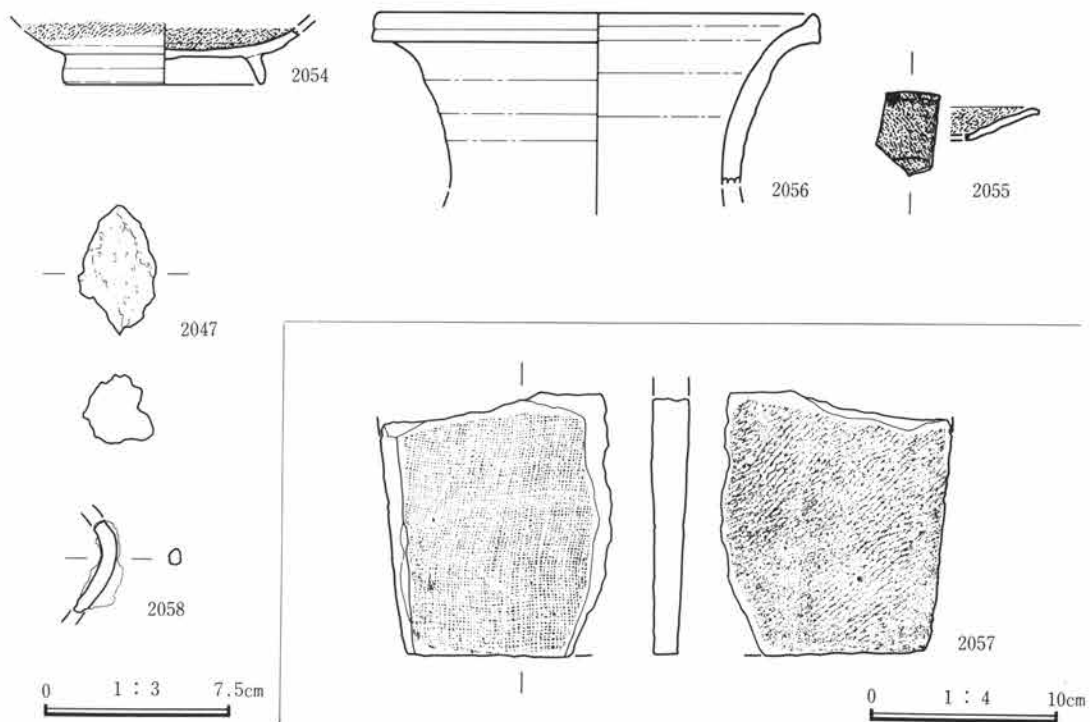


第319图 1区1·4·5号溝跡出土遺物

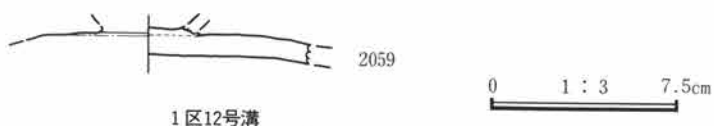


第320図 1区4・6・11号溝跡出土遺物

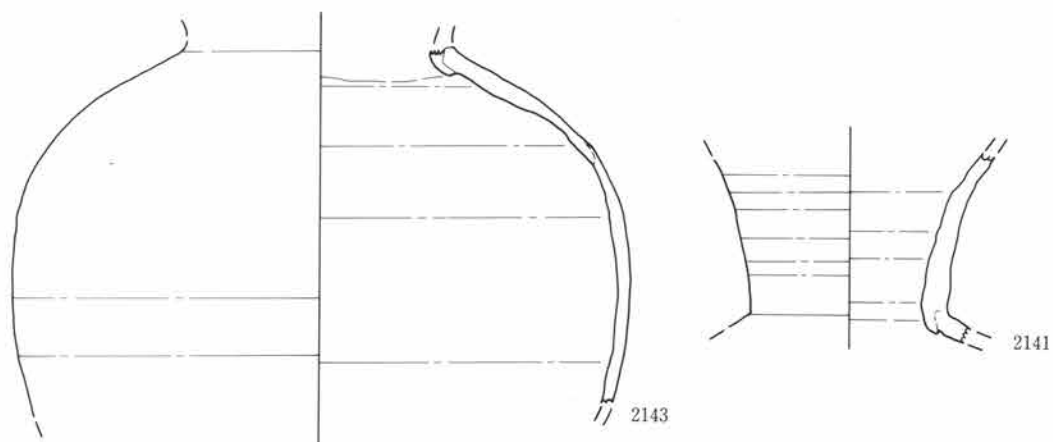




1区11号沟②

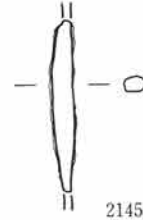
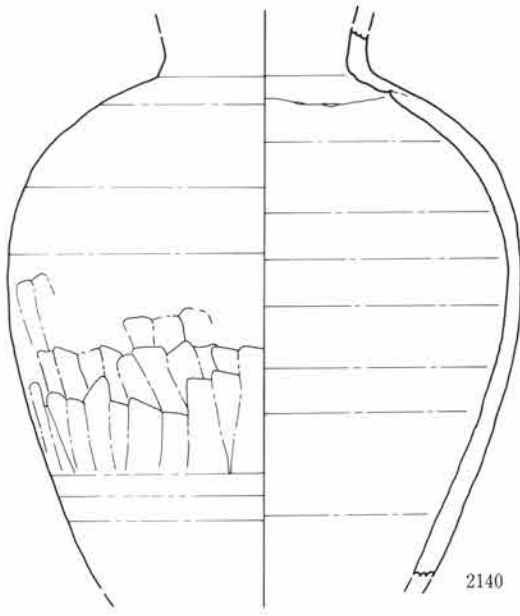


1区12号沟



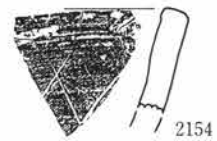
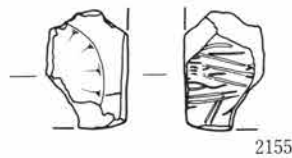
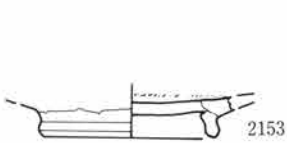
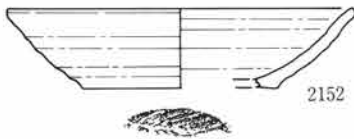
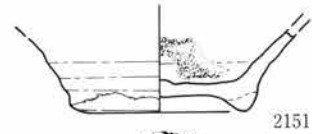
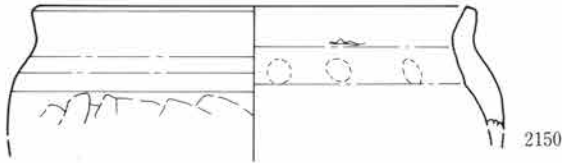
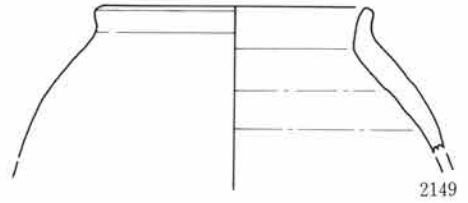
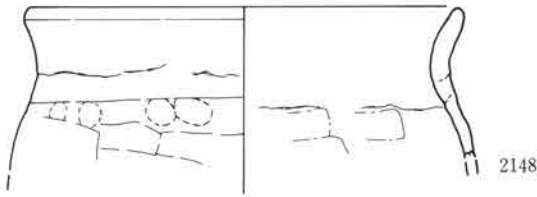
2区4号沟①

第321图 1区11·12号、2区4号沟迹出土遗物



0 1 : 3 7.5cm

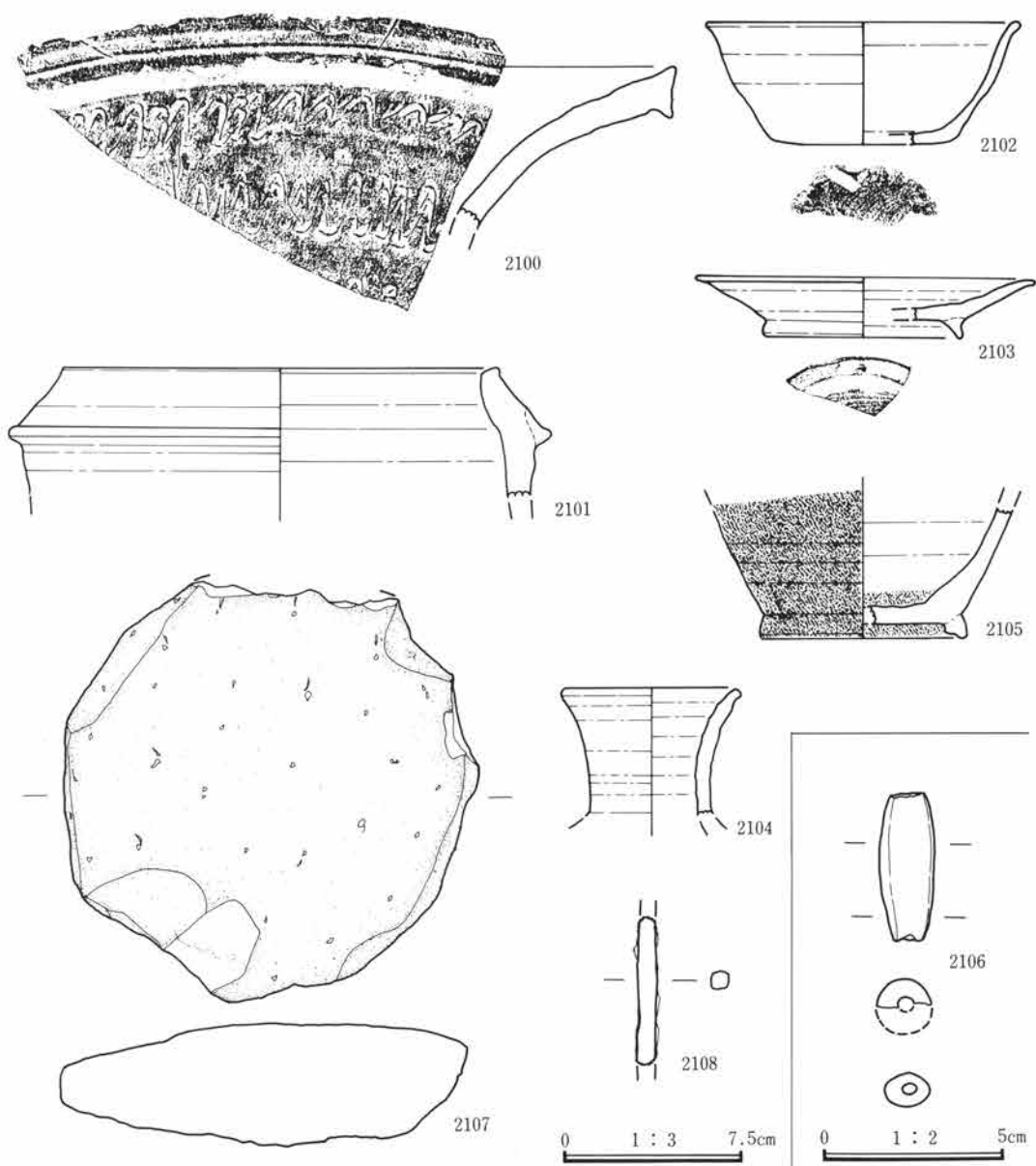
2区4号溝②



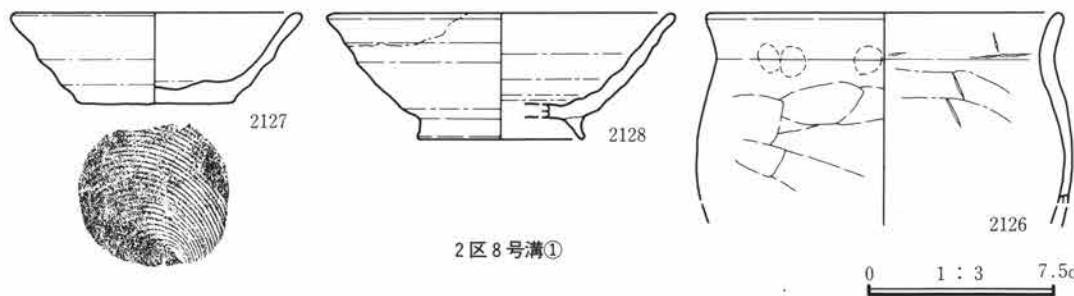
2区5号溝

0 1 : 3 7.5cm

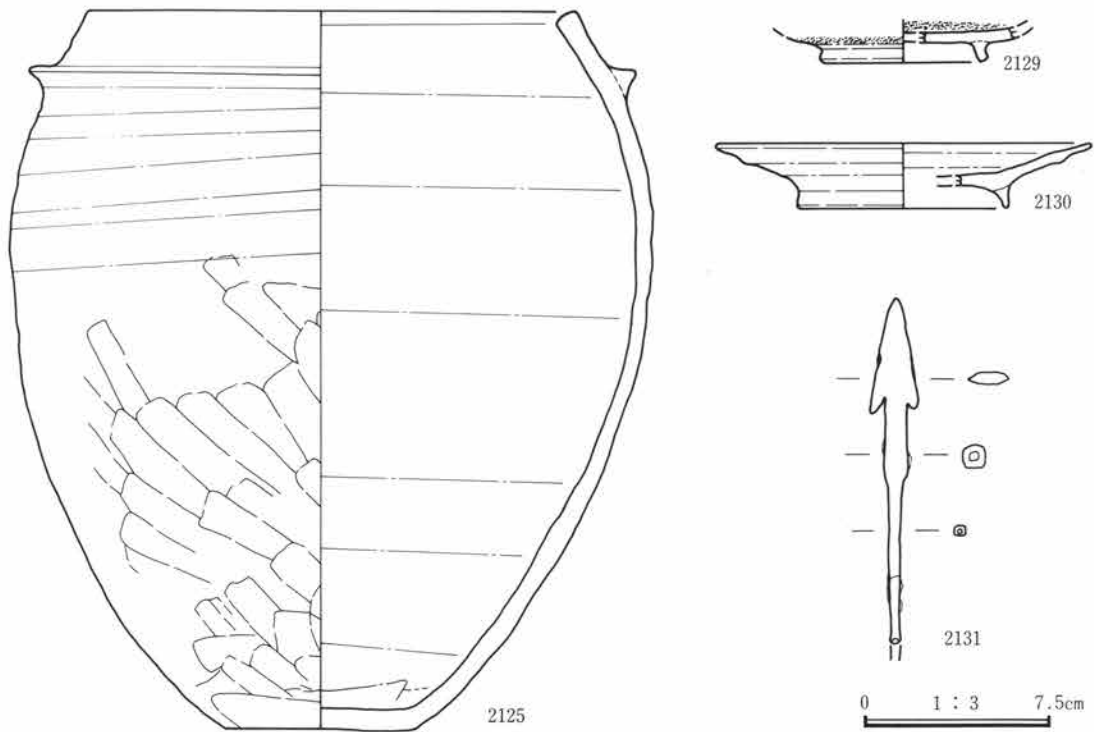
第322図 2区4・5号溝跡出土遺物



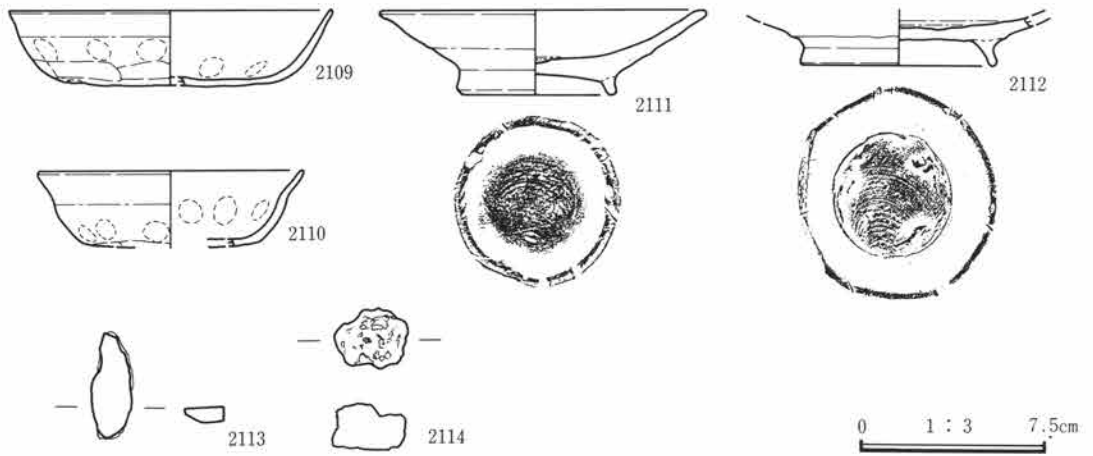
2区7号沟



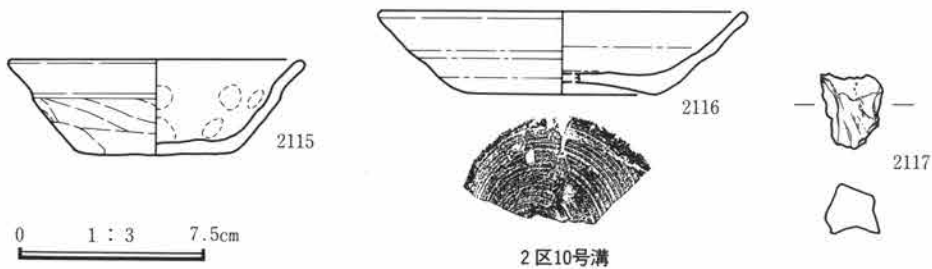
第323图 2区7·8号沟迹出土遗物



2区8号溝②

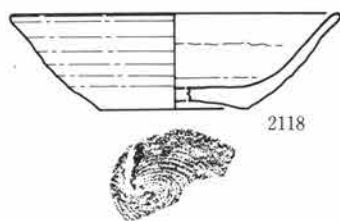


2区9号溝

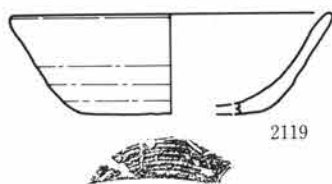


2区10号溝

第324図 2区8・9・10号溝跡出土遺物



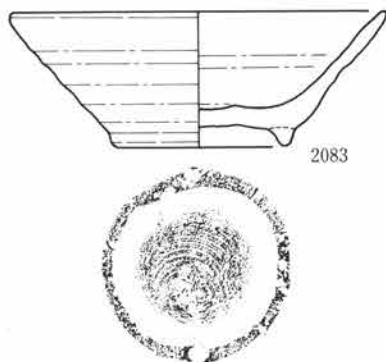
2118



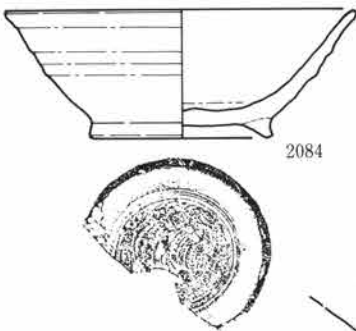
2119

0 1 : 3 7.5cm

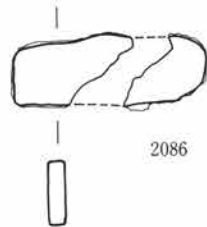
2区11号沟



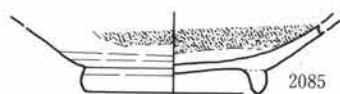
2083



2084



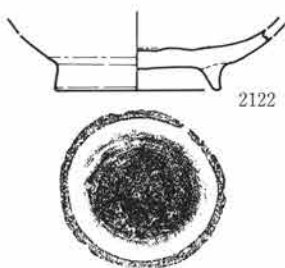
2086



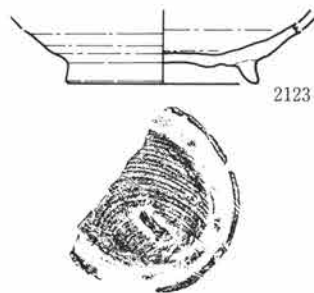
2085

2区12号沟

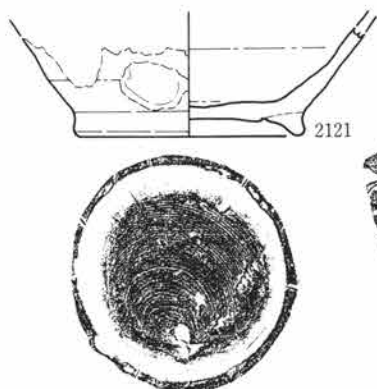
0 1 : 3 7.5cm



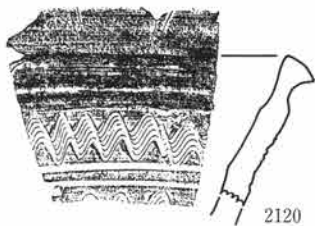
2122



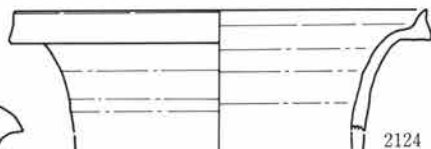
2123



2124



2120

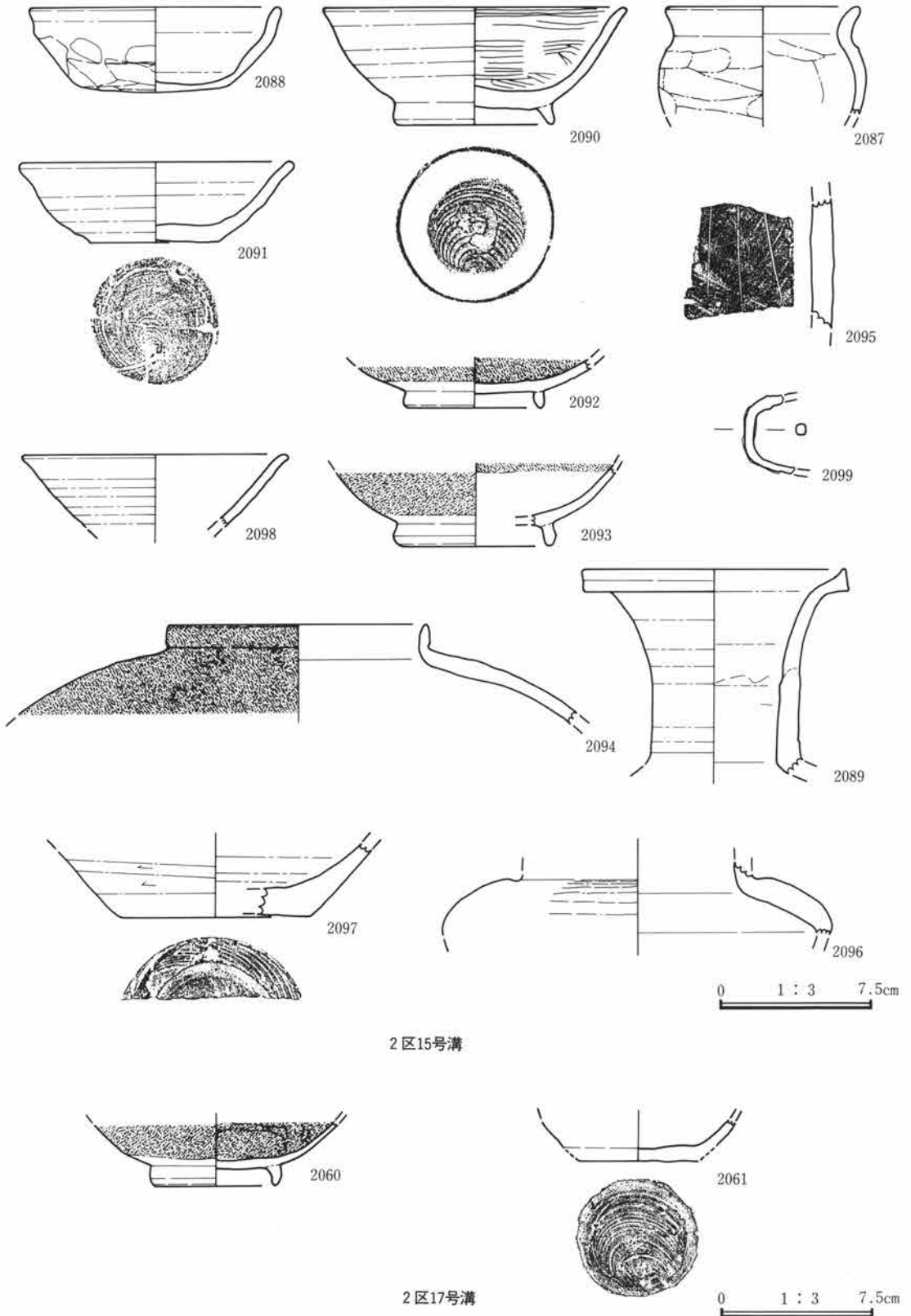


2121

0 1 : 3 7.5cm

2区13号沟

第325图 2区11·12·13号沟迹出土遗物

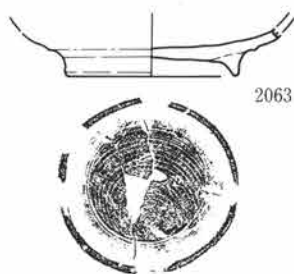


第326図 2区15・17号溝跡出土遺物

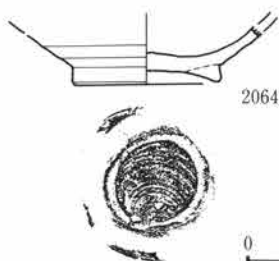


2062

2区22号沟



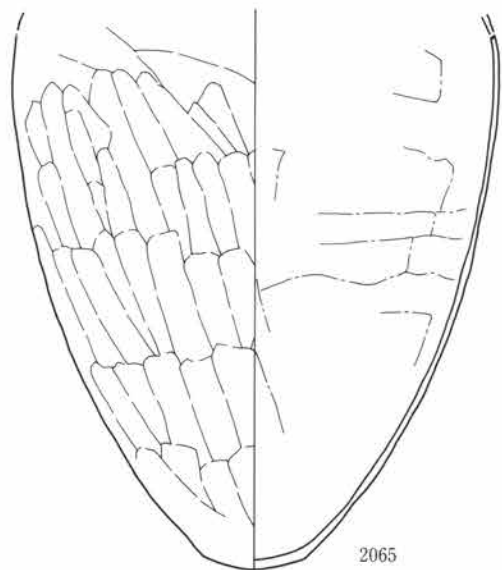
2063



2064

0 1:3 7.5cm

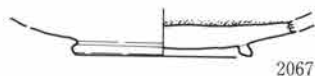
2区25号沟



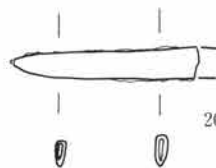
2065



2066



2067



2068

0 1:3 7.5cm

2区26号沟



2146



2147



2区27号沟

0 1:3 7.5cm

第327图 2区22·25·26·27号沟迹出土遗物

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1区 2036	1号溝跡 鎌 鉄製品	長：(122mm) 幅：20～27mm 厚：3.5mm		反りは少なく、刃部の先端が反る。	
2072	杯 土師器	器高：(29mm) 口径：[140mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで、一部指頭痕が残る。	
2073	杯 土師器	器高：(38mm) 口径：[132mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がり、口縁部は僅かに内湾。外面：口縁部は横なで、胴部～底部上端は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部上端はなで、一部指頭痕が残る。	
1区 2074	4号溝跡 杯 土師器	器高：36mm 口径：113mm 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	内外面の一部に油煙付着。
2075	杯 土師器	器高：40mm 口径：118mm 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部は内湾し、口縁部はほぼ直立。丸底に近い平底。外面：口縁部は横なで、胴部上半は一部指頭痕が残り、胴部下半～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	
2076	杯 土師器	器高：30mm 口径：129mm 底径：83mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
2077	杯 土師器	器高：28mm 口径：[118mm] 底径：[86mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	外面に一部油煙付着。
2078	碗 須恵器	器高：59mm 口径：[140mm] 底径：88mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
2079	碗 須恵器	器高：49mm 口径：[118mm] 底径：[72mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
2080	壺 須恵器	器高：(44mm) 口径：— 底径：— 胴部下端～口縁部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転篋削り、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下端～底部は回転なで。	
2081	高杯 須恵器	器高：(48mm) 口径：— 底径：— 胴部下端～脚部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。脚部は「ハ」字状に開く。内外面共に胴部下端～脚部は回転なで。	外面の一部に自然釉。



## 1区溝跡出土遺物観察表

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2082	蓋 須恵器	器高：(21mm) 口径：— つまみ径：36mm つまみ部～天井部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。ボタン状つまみ。つまみ部は貼り付け。外面：つまみ部は回転で、天井部は回転篋削り。内面：天井部は回転で。	
1区 2037	5号溝跡 椀 須恵器	器高：(50mm) 口径：[170mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。灰白・鈍い橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転で。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
2038	鉢? 須恵器	器高：(79mm) 口径：[224mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾。外面胴部上端に沈線一条。内外面共に口縁部～胴部は回転で。	外面の一部に自然釉。
2039	壺 須恵器	器高：(48mm) 口径：— 底径：[104mm] 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転篋削り、底部は高台貼り付け後で。内面：胴部下端～底部は回転で。	
1区 2040	6号溝跡 杯 土師器	器高：34mm 口径：120mm 底径：— ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	外面に不明瞭な稜を持つ。丸底。外面：口縁部は横で、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横で、一部指頭痕が残り、底部はなで。	外面に一部油煙付着。
2041	杯 土師器	器高：38mm 口径：123mm 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	外面に不明瞭な稜を持つ。丸底。外面：口縁部は横で、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横で、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	内外面に一部油煙付着。
2042	杯 土師器	器高：35mm 口径：117mm 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	外面に不明瞭な稜を持つ。丸底。外面：口縁部は横で、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横で、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	外面に一部油煙付着。
2043	杯 土師器	器高：38mm 口径：111mm 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	外面に不明瞭な稜を持つ。丸底。外面：口縁部は横で、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横で、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	
1区 2044	4号溝跡 杯 須恵器	器高：32mm 口径：124mm 底径：75mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	
2045	杯 須恵器	器高：42mm 口径：[132mm] 底径：68mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。灰白・赤橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：胴部～口縁部は回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	外面に油煙付着。二次炎を受けている。
2046	杯 土師器	器高：(37mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。外面：口縁部は横で、胴部～底部上端は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横で。	内外面に一部油煙付着。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1区 2047	11号溝跡 鉄 滓			一部鉄分を含む。	
2048	甕 土師器	器高：(63mm) 口径：[224mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付着。
2049	甕 須恵器	器高：(25mm) 口径：[102mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。口縁部は「く」字状に外反。内外面共に口縁部～胴部上端は回転なで。	内外面にやや多量の油煙付着。
2050	椀 須恵器	器高：62mm 口径：158mm 底径：77mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の口縁部～底部の半分に油煙付着。燻し。
2051	椀 須恵器	器高：49mm 口径：134mm 底径：64mm ほぼ完形	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
2052	椀 須恵器	器高：46mm 口径：[124mm] 底径：58mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。浅黄。	轆轤整形、右回転。胴部～高台部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の口縁部～底部の全面に油煙付着。燻し。
2053	椀 須恵器	器高：(45mm) 口径：— 底径：72mm 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで。	内外面の一部に油煙付着。
2054	椀 灰釉陶器	器高：(23mm) 口径：— 底径：[82mm] 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部下端は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下端～底部は回転なで。	内外面共に胴部回転まで施釉。
2055	段 皿 緑釉陶器	器高：— 口径：— 底径：— 口縁部～胴部破片	細砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部下半に段を持つ。内外面ともに口縁部～胴部は回転なで。	内外面共に胴部下半までは施釉。
2056	甕 須恵器	器高：(67mm) 口径：[176mm] 底径：— 口縁部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。口縁端部は外縁帯を持つ。内外面共に口縁部は回転なで。	
2057	平 瓦	長：(136mm) 幅：(120mm) 厚：20mm	粒子は細かく、黒色鉱物粒子を含む。還元。硬質。灰青。	粘土板成形、一枚造り。凸面は斜め方向縄叩。凹面は布目。側面整形は1面、端面整形は1面。	
2058	? 鉄製品	長：(37mm) 幅：5～6mm 厚：5～6mm		用途不明。	
1区 2059	12号溝跡 蓋 須恵器	器高：(17mm) 口径：— つまみ径：— つまみ部～天井部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・鈍い赤褐。	轆轤整形。ボタン状つまみ。つまみ部は貼り付け。外面：つまみ部は回転なで、天井部上半は回転篋削り、天井部下半は回転なで。内面：天井部は回転なで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2区 2140	4号溝跡 長頸壺 須恵器	器高:(217mm) 口径:— 底径:— 最大径:[206mm] 頸部～胴部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。最大径は胴部上半。内面胴部上 端には胴部と頸部のつなぎ痕が残る。内外 面共に頸部～胴部は回転なで。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
2141	長頸壺 須恵器	器高:(74mm) 口径:— 底 径:— 口径部上半～胴部 上端 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。口径部上半は外反。内面胴部上 端に頸部と胴部のつなぎ痕が残る。内外面 共に口径部上半～胴部上端は回転なで。	内外面に油煙付 着。
2142	杯 須恵器	器高:37mm 口径:119mm 底径:57mm 口径部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。やや硬質。灰白・ 鈍い橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口径部はほぼ直 線的に広がり、口径部は僅かに外反。外 面:口径部～胴部は回転なで、底部は回転 糸切り。内面:口径部～底部は回転なで。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
2143	甕 須恵器?	器高:(140mm) 口径:— 底径:— 最大径:[246mm] 口径部下端～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。明赤褐。	轆轤整形。最大径は胴部上半。内面胴部上 端に頸部と胴部のつなぎの痕あり。内外面 共に口径部下端～胴部上半は回転なで。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。内面は燻 し?
2145	? 鉄製品	長:(68mm) 幅:3～8mm 厚:3～6mm		用途不明。	
2区 2148	5号溝跡 甕 土師器	器高:(62mm) 口径:[172 mm] 底径:— 口径部～胴 部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。明赤褐。	口径部は「く」字状に外反。外面:口径部は 横なで、一部指頭痕が残る、胴部上端は篋 削り。内面:口径部は横なで、胴部上端は 篋なで。	内外面に油煙付 着。
2149	甕 須恵器	器高:(57mm) 口径:[112 mm] 底径:— 口径部～胴 部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。硬質。灰白・橙。	轆轤整形。口径部は短く、ほぼ直立。内外 面共に口径部～胴部上端は回転なで。	
2150	甕 須恵器	器高:(48mm) 口径:[176 mm] 底径:— 口径部～胴 部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。硬質。橙。	轆轤整形。口径部は「く」字状に外反。内外 面共に口径部～胴部上端は回転なで。	内外面にやや多量 の油煙付着。二次 炎を受けている。
2151	椀 須恵器	器高:(31mm) 口径:— 底 径:74mm 胴部下半～高台 部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面:胴部下半は回転 なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。 内面:胴部下半～底部は回転なで。	内外面に油煙付 着、内面は多量。
2152	杯 須恵器	器高:(32mm) 口径:[140 mm] 底径:[76mm] 高台部 ～底部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口径部はやや内湾しつ つ広がる。外面:口径部～胴部は回転なで、 底部は回転糸切り。内面:口径部～底部は 回転なで。	内外面口径部の一 部に油煙付着。
2153	椀 灰釉陶器	器高:(17mm) 口径:— 底 径:71mm 胴部下端～高台 部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面:胴部下端は回転なで、底 部は高台貼り付け後なで。内面:胴部下 端～底部は回転なで。	
2154	甕? 須恵器	器高:— 口径:— 底径:— 口径部破片	径1mm前後の砂粒を含 む。不完全還元。硬質。 灰白・鈍い橙。	轆轤整形。外面:口径部は回転なで後篋状 工具で格子目を刻む。内面:口径部は回転 なで。	
2155	砥石	長:(47mm) 幅:(32mm) 厚:22mm 重:38.0g	砥沢石。	使用面は3面?表面に金属による傷あり。	

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2区 2100	7号溝跡 甕 須恵器	器高：— 口径：— 底径：— — 口縁部破片	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	口縁端部は外縁帯を持つ。外面：口縁部は横なで後波状文を施す。内面：口縁部は横なで。	
2101	羽釜	器高：(52mm) 口径：[180mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・鈍い黄橙。	口縁部はやや内湾。鈔部は貼り付け。内外面共に口縁部～胴部上端は回転なで。	
2102	杯 須恵器	器高：(50mm) 口径：[130mm] 底径：[74mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に一部油煙付着。
2103	皿 須恵器	器高：25mm 口径：[140mm] 底径：[82mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・浅黄橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
2104	長頸壺 須恵器	器高：(52mm) 口径：[74mm] 底径：— 口縁部～頸部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。口縁部上半は外反。内外面共に口縁部～頸部は回転なで。	内外面に油煙付着。
2105	壺 灰釉陶器	器高：(53mm) 口径：— 底径：[86mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下半～底部は回転なで。	外面は底部まで施釉。
2106	土錘	長：(40mm) 最大径：[15mm] 孔径：4mm	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	中央部が太く、両端は細くなる。	
2107	用途不明 石製品	長：171mm 幅：172mm 厚：53mm 重：742.8g	軽石(二ツ岳)。	表裏は擦られており、側面は面取りがされている。	
2108	? 鉄製品	長：(60mm) 幅：7～8mm 厚：7～8mm		用途不明。	
2区 2125	8号溝跡 羽釜	器高：280mm 口径：192mm 底径：78mm 最大径：252mm 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。灰白・鈍い黄橙。	胴部上端～口縁部は内湾。鈔部は貼り付け。外面：口縁部～胴部上半は回転なで、胴部下半～底部は回転なで後篋削り。内面：口縁部～胴部は回転なで、底部はなで。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
2126	甕 土師器	器高：(75mm) 口径：[142mm] 底径：— 最大径：[150mm] 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。最大径は胴部上半。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上半は篋削り。内面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上半は篋なで。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
2127	杯 須恵器	器高：36mm 口径：[116mm] 底径：63mm 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。鈍い橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面にやや多量の油煙付着。

## 2区溝跡出土遺物観察表

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2128	椀 須恵器	器高:(50mm) 口径:[140mm] 底径:— 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰・灰赤。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面:口縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面:口縁部～底部は回転なで。	内外面に全面的に自然釉。
2129	椀 灰釉陶器	器高:(15mm) 口径:— 底径:[68mm] 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面:胴部下端は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面:胴部下端～底部は回転なで。	内外面共に胴部下端まで施釉。
2130	皿 須恵器	器高:(25mm) 口径:[150mm] 底径:[84mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面:口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面:口縁部は回転なで。	内面に一部油煙付着。
2131	鉄 鍔	長:135mm 幅:身19mm・筥9mm・茎4mm 厚:4～9mm		長三角形。脇扶は比較的深い。	
2区 2109	9号溝跡 杯 土師器	器高:(30mm) 口径:[130mm] 底径:— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面:口縁部は横なで、胴部上半は一部指頭痕が残り、胴部下半～底部は筥削り。内面:口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
2110	杯 土師器	器高:(30mm) 口径:[106mm] 底径:— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	胴部はやや内湾し、口縁部は僅かに外反。外面:口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は筥削り。内面:口縁部～底部は横なで、一部指頭痕が残る。	
2111	皿 須恵器	器高:33mm 口径:[132mm] 底径:64mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。灰白・鈍い黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面:口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面:口縁部～底部は回転なで。	内外面の一部に油煙付着。
2112	皿 須恵器	器高:(19mm) 口径:— 底径:78mm 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部は直線的に広がる。外面:胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面:胴部～底部は回転なで。	
2113	? 鉄製品	長:(41mm) 幅:16mm 厚:5.5mm		用途不明。	
2114	鉄 滓			鉄分を含む。	
2区 2115	10号溝跡 杯 土師器	器高:37mm 口径:[118mm] 底径:63mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。灰白・鈍い橙。	胴部は直線的に広がり、口縁部は僅かに外反。外面:口縁部は回転なで、胴部～底部は筥削り。内面:口縁部～底部上半は回転なで、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2116	杯 須恵器	器高：32mm 口径：[148mm] 底径：[76mm] 口縁部～底部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転などで。	内外面の口縁部に油煙付着。
2117	鉄 滓			鉄分を含む。	
2区 2118	11号溝跡 杯 須恵器	器高：38mm 口径：[134mm] 底径：[60mm] 口縁部～底部%	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転などで。	
2119	杯 須恵器	器高：(40mm) 口径：[130mm] 底径：[74mm] 口縁部～底部上端%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。明オリープ灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転などで。	外面に一部油煙付着。
2区 2083	12号溝跡 椀 須恵器	器高：53mm 口径：150mm 底径：73mm 口縁部～高台部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転などで。	内外面共に胴部～底部は油煙付着。燻し。
2084	椀 須恵器	器高：51mm 口径：[142mm] 底径：74mm 口縁部～高台部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転などで。	
2085	椀 灰釉陶器	器高：(28mm) 口径：— 底径：[75mm] 胴部下半～高台部%	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転などで、胴部下端は回転篋削り。内面：胴部下半～底部は回転などで。	内外面共に胴部下半まで施釉。
2086	? 鉄製品	長：(33・47mm) 幅：23～26mm 厚：7mm		断面長方形の鉄板。片端は丸く整形。用途不明。	
2区 2120	13号溝跡 甕 須恵器	器高：— 口径：— 底径：— 口縁部破片	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。青灰。	口縁端部は外縁帯を持つ。外面は上から凹線状の窪みが巡り、波状文を施し、沈線が二条巡り、皿に波状文を施す。内外面共に口縁部は回転などで。	内外面に一部自然釉。
2121	椀 須恵器	器高：(42mm) 口径：— 底径：92mm 口縁部下半～高台部%	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部下半は直線的に広がる。外面：口縁部下半～胴部は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部下半～底部は回転などで。	内外面口縁部～底部に油煙付着。内面にタール又は漆付着。
2122	椀 須恵器	器高：(22mm) 口径：— 底径：67mm 胴部～高台部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部は回転などで、底部は高台貼り付け後などで。内面：胴部～底部は回転などで。	内面に一部油煙付着。
2123	椀 須恵器	器高：(24mm) 口径：— 底径：72mm 胴部～高台部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転などで。	内外面の一部に油煙付着。

## 2区溝跡出土遺物観察表

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2124	壺 須恵器	器高：(47mm) 口径：[164mm] 底径：— 口縁部 $\frac{1}{6}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。口縁部は大きく外反し、口縁端部は外縁帯を持つ。内外面共に口縁部は回転まで。	
2区 2087	15号溝跡 甕 土師器	器高：(53mm) 口径：[96mm] 底径：— 最大径：[102mm] 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{6}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。最大径は胴部上半。外面：口縁部は横なで、胴部上半は篋削り、一部輪積痕が残る。内面：口縁部は横なで、胴部上半は篋なで。	外面及び内面口縁端部に油煙付着。二次炎を受けている。
2088	杯 土師器	器高：41mm 口径：125mm 底径：73mm 口縁部～底部 $\frac{1}{6}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。明赤褐。	胴部は直線的に広がり、口縁部はやや内湾。外面：口縁部は横なで、胴部上半に一部指頭痕が残る、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部は横なで。	
2089	長頸壺 須恵器	器高：(103mm) 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{6}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。口縁部は大きく外反し、口縁端部は外縁帯を持つ。内面胴部上端に胴部と頸部のつなぎ痕が残る。内外面共に口縁部～胴部上端は回転まで。	内外面口縁部～胴部上端の一部に自然釉。
2090	椀 須恵器	器高：57mm 口径：149mm 底径：79mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。鈍い橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転まで。	内面は全面的に油煙付着。燻し。
2091	杯 須恵器	器高：39mm 口径：[136mm] 底径：63mm 口縁部～底部 $\frac{1}{6}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	内外面に一部油煙付着。
2092	椀 灰釉陶器	器高：(24mm) 口径：— 底径：67mm 胴部～高台部 $\frac{1}{6}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部は回転まで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部～底部は回転まで。	内外面共に胴部まで施釉。
2093	椀 灰釉陶器	器高：(40mm) 口径：— 底径：[80mm] 胴部～高台部 $\frac{1}{6}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転まで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部～底部は回転まで。	内面胴部上半と外面胴部下半まで施釉。
2094	短頸壺 灰釉陶器	器高：(48mm) 口径：[128mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{6}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。口縁部はほぼ直立。内外面共に口縁部～胴部は回転まで。	外面は口縁部～胴部に施釉。
2095	甕? 須恵器	器高：— 口径：— 底径：— 口縁部?破片	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・鈍い橙。	外面：口縁部は回転まで篋状工具で格子目を施す。内面：口縁部は回転まで。	
2096	短頸壺 須恵器	器高：(36mm) 口径：— 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{6}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。口縁部はほぼ直立。外面：口縁部は回転まで、胴部上半は回転篋削り。内面：口縁部～胴部上半は回転まで。	
2097	壺 須恵器	器高：(34mm) 口径：— 底径：[92mm] 胴部下端～底部 $\frac{1}{6}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転篋削り、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転まで。	

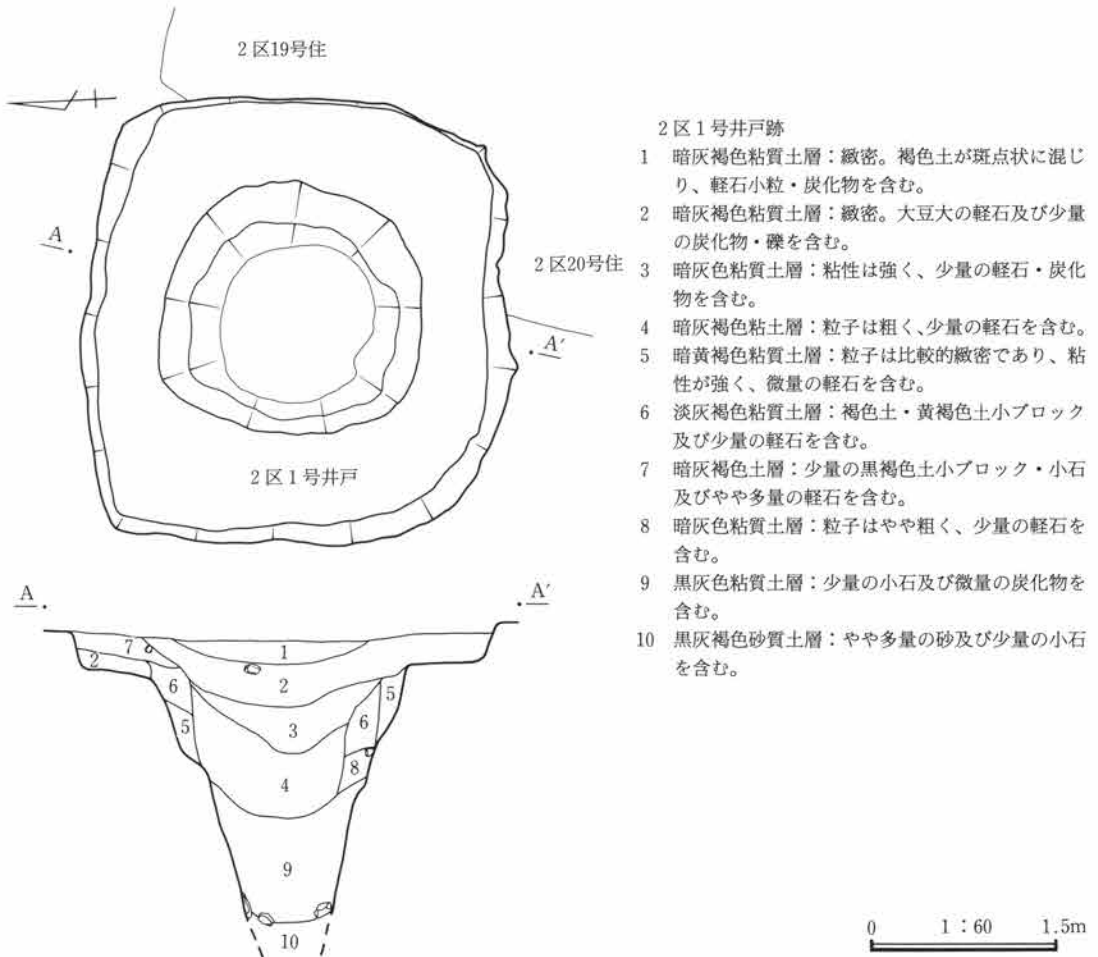
第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2098	碗 須恵器	器高:(35mm) 口径:[130mm] 底径:— 口縁部～胴部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。内外面共に口縁部～胴部は回転まで。	内面鈍い油煙付着。燻し。
2099	? 鉄製品	長:(38mm) 幅:5mm 厚:5mm		用途不明。	
2区 2060	17号溝跡 碗 灰釉陶器	器高:(31mm) 口径:— 底径:67mm 胴部～高台部%	細砂粒を含む。硬質。還元。灰白。	轆轤整形。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面:胴部は回転まで、底部は高台貼り付け後まで。内面:胴部～底部は回転まで。	内外面共に胴部まで施釉。
2061	碗 須恵器	器高:(21mm) 口径:— 底径:— 胴部下端～底部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白(黒)。	轆轤整形、右回転。外面:胴部下端は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面:胴部下端～底部は回転まで。	内外面共に全面的に油煙付着。燻し。
2区 2062	22号溝跡 杯 土師器	器高:34mm 口径:110mm 底径:— 口縁部～底部%	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	外面に不明瞭な稜を持つ。丸底。外面:口縁部は横まで、胴部～底部は篋削り。内面:口縁部は横まで、胴部～底部は横まで、一部指頭痕が残る。	
2区 2063	25号溝跡 皿 須恵器	器高:(19mm) 口径:— 底径:72mm 胴部下端～高台部%	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面:胴部下端は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面:胴部下端～底部は回転まで。	
2064	碗 須恵器	器高:(22mm) 口径:— 底径:[60mm] 胴部下端～高台部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面:胴部下端は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面:胴部下端～底部は回転まで。	
2区 2065	26号溝跡 甕 土師器	器高:(210mm) 口径:— 底径:42mm 胴部～底部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	外面:胴部～底部は篋削り。内面:胴部～底部は横まで、一部輪痕・指頭痕が残る。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
2066	杯 土師器	器高:(33mm) 口径:[130mm] 底径:[88mm] 口縁部～底部上半%	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面:口縁部は横まで、胴部上半は指頭痕が残る、胴部下半～底部は篋削り。内面:口縁部～底部上半は横まで、一部指頭痕が残る。	外面:口縁部の一部に油煙付着。
2067	皿 灰釉陶器	器高:(15mm) 口径:— 底径:76mm 胴部下半～高台部%	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面:胴部下半は回転まで、底部は高台貼り付け後まで。内面:胴部下半～底部は回転まで。	内面は底部まで施釉。
2068	刀子 鉄製品	長:(75mm) 幅:13mm 厚:4.5mm		刀子の一部。鉄板を折り曲げて製作。	
2区 2146	27号溝跡 碗 緑釉陶器	器高:(15mm) 口径:— 底径:[74mm] 胴部下端～高台部%	細砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。外面:胴部下端は回転まで、底部は高台貼り付け後丁寧なまで。内面:胴部下端～底部は回転まで。	内外面共に全面的に施釉。
2147	紡錘石 車製	直径:49mm 孔径:8mm 厚:10mm 重:39.7g	滑石。	上面孔の周囲に窪みあり。断面はほぼ台形。	側面に刻字「小」・「十」。

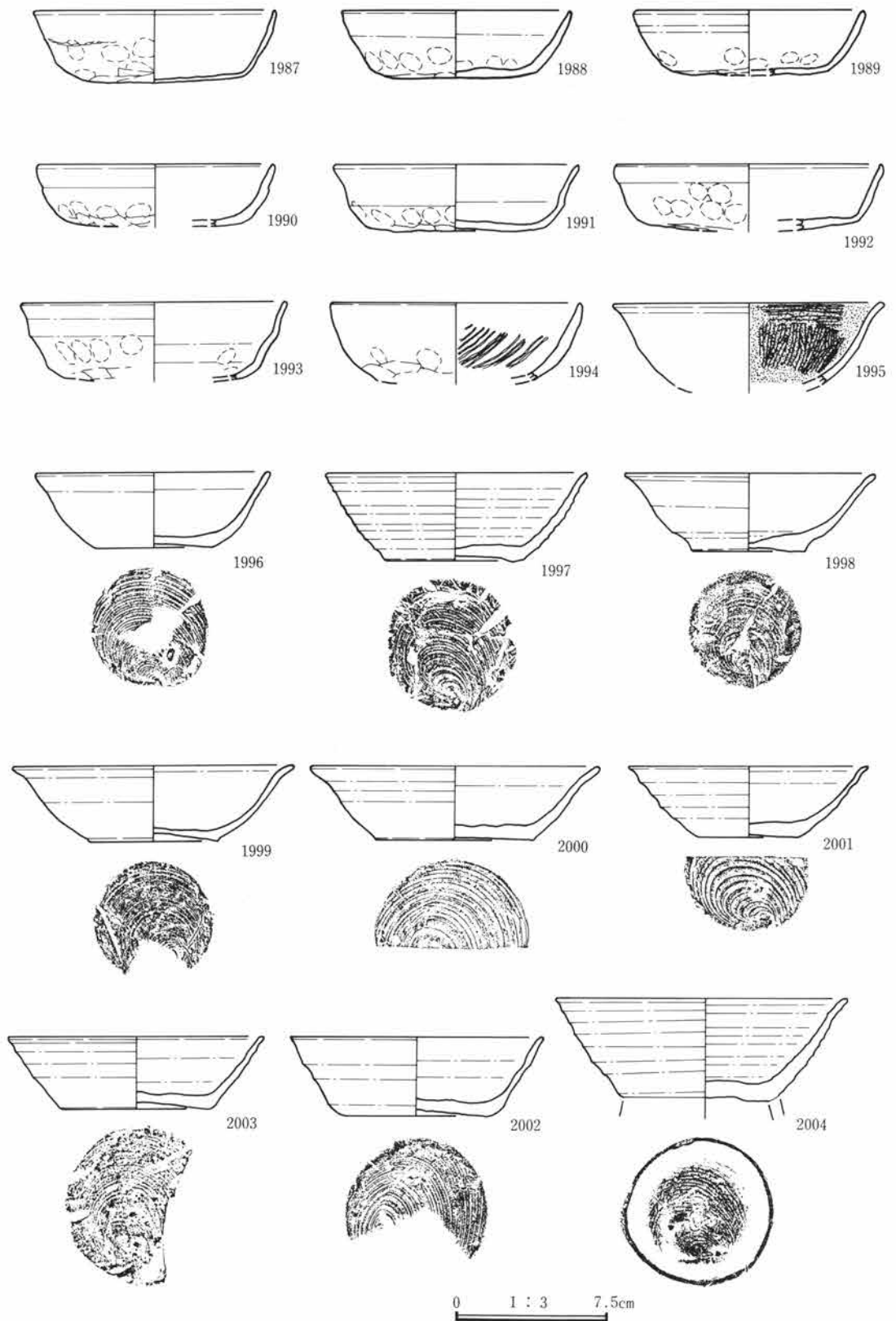


## 2区1号井戸跡

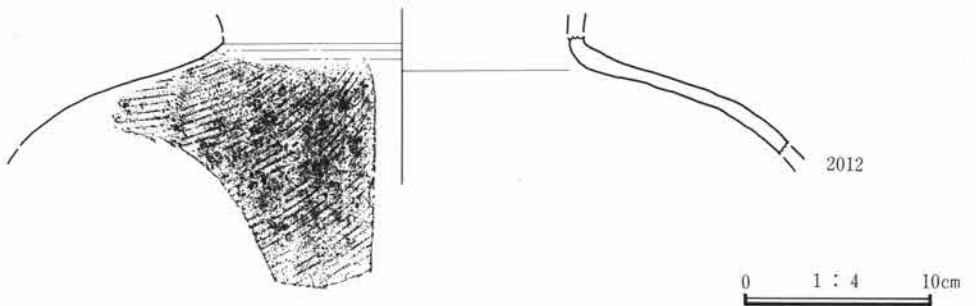
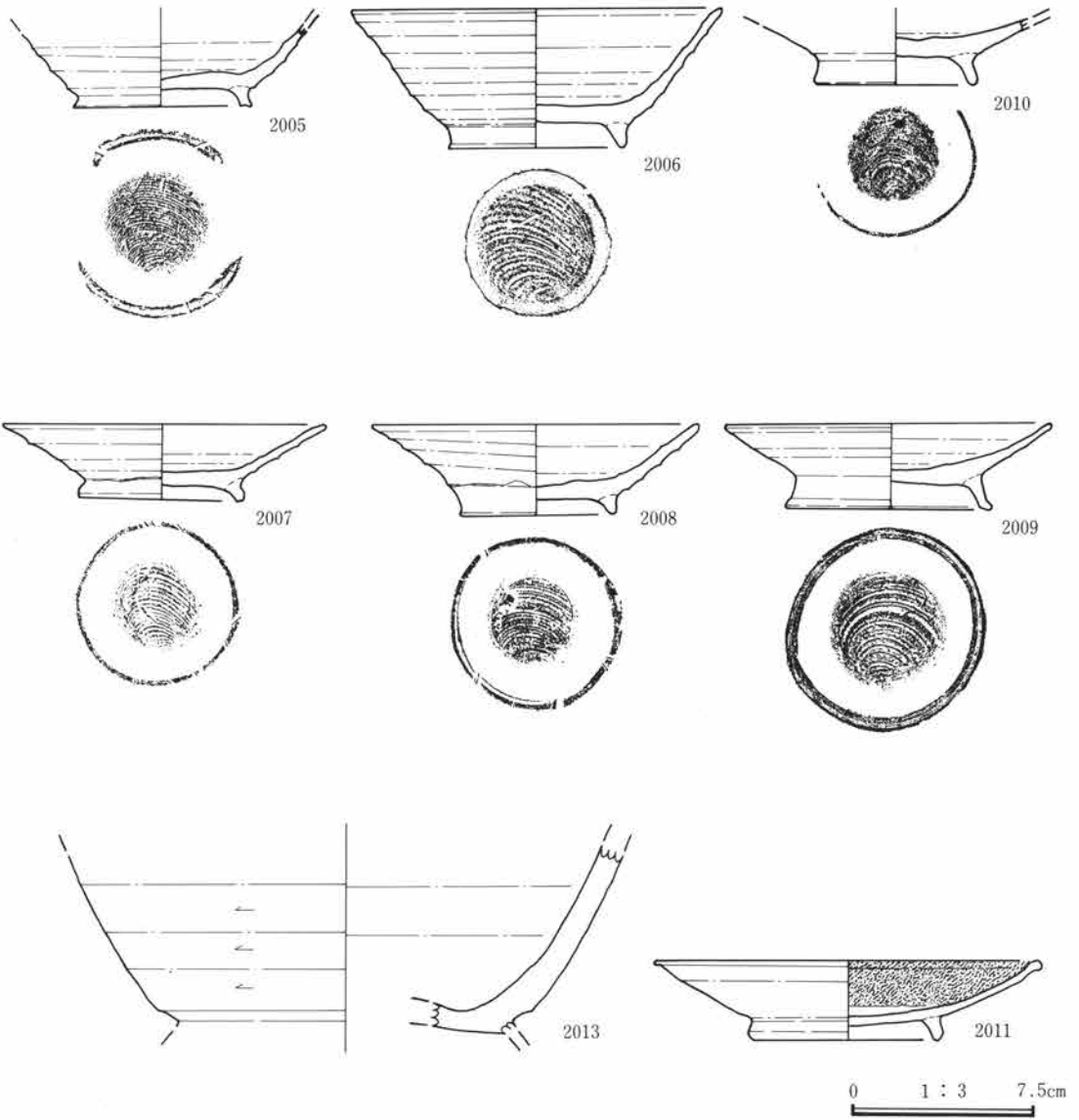
2区K-05グリッドに位置し、2区19・20号住居跡と重複する。新旧関係は、19・20号住居跡の床下から検出されたことから当井戸跡が古い。当井戸跡は、井筒周辺に東西3.45m、南北3.3m、深さ30cmの竪穴状部分を有しており、井戸屋と推定される。井戸屋の底部は、暗褐色土をつき固めて床を構築している。柱穴を確認するために床を掘り下げて精査を行ったが、柱穴は検出できなかった。井筒部分では上部に段差があり、段差上部の土層はほとんど垂直に堆積しており、この部分に井戸枠が存在した可能性がある。当井戸の涌水位は、確認面下1.2mであり、排水を行いながら2.7mまで掘り下げたが、危険防止のため底部の確認は行えなかった。遺物は、底に近い部分から少量の土器片が出土するのみであるが、上層では多量の須恵器、土師器が出土している。なお、調査時の記録では、この部分より出土した羽口が2区M-03グリッド出土のものと接合したとされているが、報告書作成時に羽口が確認できなかったため図示できなかった。



第328図 2区1号井戸跡



第329図 2区1号井戸跡出土遺物①



第330図 2区1号井戸跡出土遺物②

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1987	杯 土師器	器高：36mm 口径：122mm 底径：84mm 完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで、一部指頭痕が残る。	
1988	杯 土師器	器高：33mm 口径：114mm 底径：81mm 口縁部～底部 ⅔	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで、一部指頭痕が残る。	
1989	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[116mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部 上半⅔	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。明赤褐。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残る。	
1990	杯 土師器	器高：(30mm) 口径：[118mm] 底径：— 口縁部～底部 上半⅔	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	内外面に一部油煙 附着。
1991	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[122mm] 底径：[86mm] 口縁部～底部 ⅔	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は僅かに外反。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	内外面に一部油煙 附着。
1992	杯 土師器	器高：(32mm) 口径：[132mm] 底径：— 口縁部～底部 ⅔	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1993	杯 土師器	器高：(38mm) 口径：[132mm] 底径：[86mm] 口縁部～底部 上端⅔	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	
1994	杯 土師器	器高：(38mm) 口径：[124mm] 底径：— 口縁部～底部 上端⅔	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部上半は一部指頭痕が残り、胴部下半～底部上半は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで後放射状暗文を施す。	
1995	碗 須恵器	器高：(40mm) 口径：[134mm] 底径：— 口縁部～胴部 ⅔	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで。内面：口縁部～胴部は燻した後篋磨き。	内黒。
1996	杯 須恵器	器高：37mm 口径：118mm 底径：58mm ほぼ完形	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。軟質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	

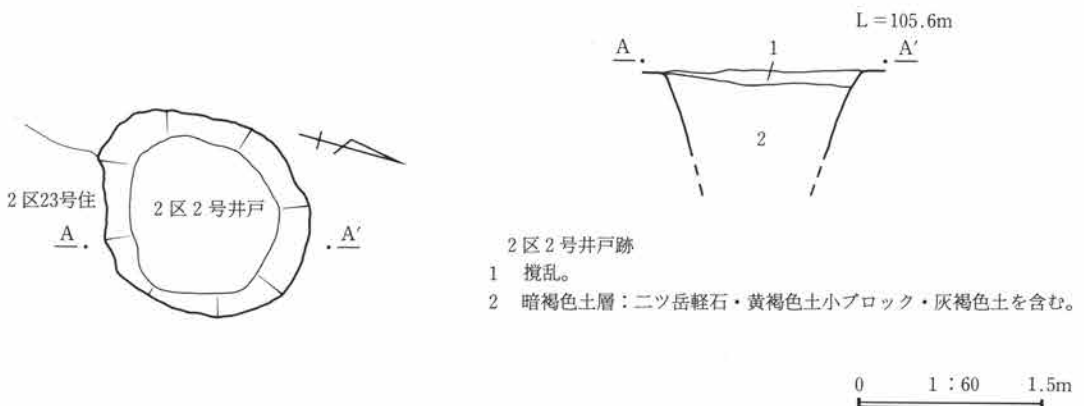
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1997	杯 須恵器	器高：43mm 口径：[130mm] 底径：67mm 口縁部～底部 %	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、 底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は 回転で。	内外面の胴部下半 ～底部に油煙付 着。
1998	杯 須恵器	器高：38mm 口径：122mm 底径：59mm 口縁部～底部 %	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回 転糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	内外面の口縁部に 油煙付着。
1999	杯 須恵器	器高：37mm 口径：[140mm] 底径：60mm 口縁部～底部 %	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回 転糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	内面胴部～底部に 油煙付着。燻し。
2000	杯 須恵器	器高：36mm 口径：[142mm] 底径：[78mm] 口縁部～底 部%	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直 線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外 面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転 糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	内面口縁部～底 部・外面口縁部に 油煙付着。燻し。
2001	杯 須恵器	器高：35mm 口径：[118mm] 底径：[50mm] 口縁部～底 部%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回 転糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	
2002	杯 須恵器	器高：35mm 口径：[126mm] 底径：70mm 口縁部～底部 %	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。青灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直 線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回 転で、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底 部は回転で。	
2003	杯 須恵器	器高：(38mm) 口径：[124 mm] 底径：78mm 口縁部 ～底部%	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。やや硬質。灰白・ 浅黄。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は 回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁 部～底部は回転で。	
2004	碗 須恵器	器高：(50mm) 口径：147mm 底径：— 口縁部～底部%	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。やや硬質。灰・鈍 い橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は 回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付 け。内面：口縁部～底部は回転で。	
2005	碗 須恵器	器高：(33mm) 口径：— 底 径：73mm 胴部～高台部%	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。硬質。灰白・鈍い 褐。	轆轤整形、右回転。胴部は直線的に広がる。 外面：胴部は回転で、底部は回転糸切り 後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回 転で。	
2006	碗 須恵器	器高：57mm 口径：[152mm] 底径：74mm 口縁部～高台 部%	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直 線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回 転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。 内面：口縁部～底部は回転で。	
2007	皿 須恵器	器高：37mm 口径：133mm 底径：65mm 口縁部～底部 %	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、 底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面： 口縁部～底部は回転で。	内外面共に口縁部 ～胴部は全面的に 油煙付着。燻し。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2008	皿 須恵器	器高：31mm 口径：[132mm] 底径：68mm 口縁部～高台部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転まで。	
2009	皿 須恵器	器高：35mm 口径：[134mm] 底径：84mm 口縁部～高台部%	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転まで。	内面口縁部～胴部に自然釉。
2010	皿 須恵器	器高：(28mm) 口径：— 底径：68mm 胴部～高台部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部はほぼ直線的に広がる。外面：胴部は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転まで。	
2011	皿 灰釉陶器	器高：33mm 口径：160mm 底径：77mm 口縁部～高台部%	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は高台貼り付け後など。内面：口縁部～底部は回転まで。	内面口縁部～胴部に施釉。
2012	甕 須恵器	器高：(62mm) 口径：— 底径：— 頸部～胴部上端%	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	内外面共に頸部は横などで、胴部上端は叩目が残る。	外面頸部～口縁部に自然釉。
2013	甕 須恵器	器高：(75mm) 口径：— 底径：— 胴部下半～高台部上半%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転などで、底部は高台貼り付け後など。内面：高台部～底部は回転まで。	外面の一部に自然釉。

2区2号井戸跡

2区K-02グリッドに位置し、2区23・106号住居跡、2区7号溝と重複する。新旧関係は、いずれも当井戸が新しい。形状と規模は、直径1.6mの不整円形である。涌水位は確認面下70cmにあり、これ以下は調査できなかった。井戸からの出土遺物は全くなかった。

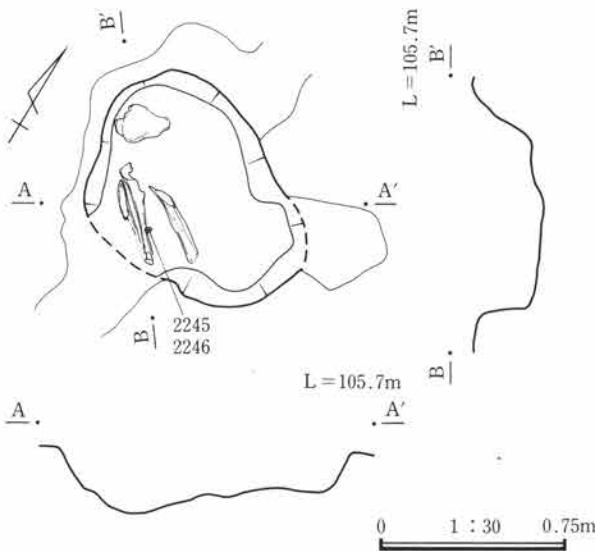


第331図 2区2号井戸跡

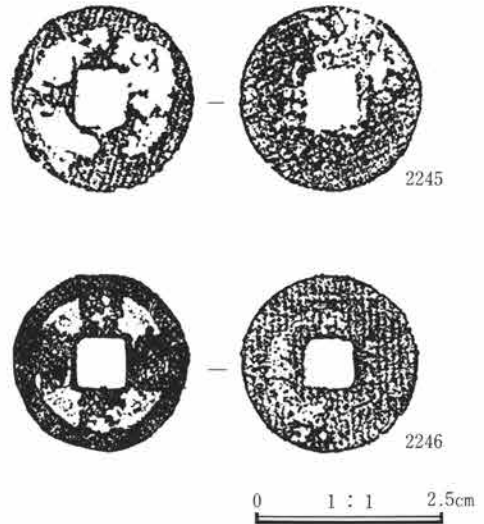
## 土 坑 墓

## 2区1号土坑墓

2区0-19グリッドに位置する。本土坑墓は、近世以降と考えられるサク跡調査時に人骨が出土したことによって墓であることが確認された。形状と規模は、サク跡による攪乱のため不明である。埋葬時の頭位は北西であるが、顔はどちらに向いていたか不明である。出土遺物は、「皇宋通寶」?(2245)、「熙寧元寶」(2246)が各1枚出土している。



第332図 2区1号土坑墓

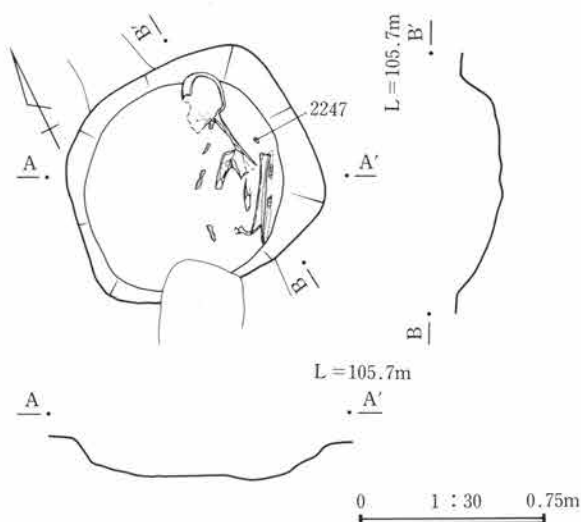


第333図 2区1号土坑墓出土遺物

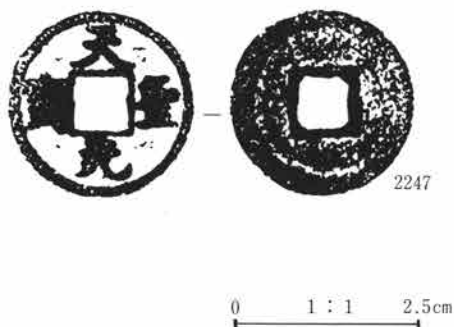
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2245	銭			北宋・「皇宋通寶」	
2246	銭			北宋・「熙寧元寶」	

## 2区2号土坑墓

2区0-18グリッドに位置する。1号土坑墓同様、サク跡に一部壊されているが、形状は保たれている。規模と平面形は、東西1.96m、南北1.8mの隅丸方形を呈している。埋葬体位は、側臥屈曲位で頭は北、顔は西を向いている。なお、頭位はほぼ磁北である。出土遺物は、「天聖元寶」(2247)が1枚出土しているのみである。



第334図 2区2号土墳墓



第335図 2区2号土墳墓出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2247	銭			北宋・「天聖元寶」	

## 土 坑

### はじめに

当初、1区～3区は24地区として、3区～5区は25地区として各々調査が開始された。遺構番号は24地区については区毎に、25地区については連続して番号が付されている。このため、24地区の土坑については図版や一覧表を区毎にまとめ、25地区の土坑については番号順にまとめた。なお、一覧表の主軸方位は、土坑の長軸と磁北との角度を示した。また、本報告書に実測図を掲載した遺物については、遺物の種類と登録番号を記し、掲載しない遺物については破片が出土していることを記した。備考欄は、重複関係や覆土中の軽石などについて記した。

遺構番号は、1区の土坑は29号まで・2区の土坑45号まで・3区の土坑は6号まで、4・5区の土坑は380号まで番号が付されている。合計460基の土坑が検出されたことになるが、実測図・遺物のない土坑もあり、実数はこれよりやや少ない。しかし、総数は400基近くになり、すべての土坑を掲載することはできなかった。また、遺構番号は現場の番号をでき得る限り使用した。従って、遺構番号は飛んでいる。土坑の中には、複数の遺構が重複していると考えられるものがあるが、調査時の所見に従い1基の土坑として扱った。また、住居跡との重複関係に関しては不明なものも多く、明確なもの



み一覧表に記した。備考欄の火山灰については、浅間山の火山灰は浅間山A・浅間山Bと記し、榛名山二ツ岳の火山灰には、FA・FPと略号で記した。しかし、榛名山二ツ岳の火山灰であるがどちらかわからないものについては角閃石安山岩と記した。

## 概 要

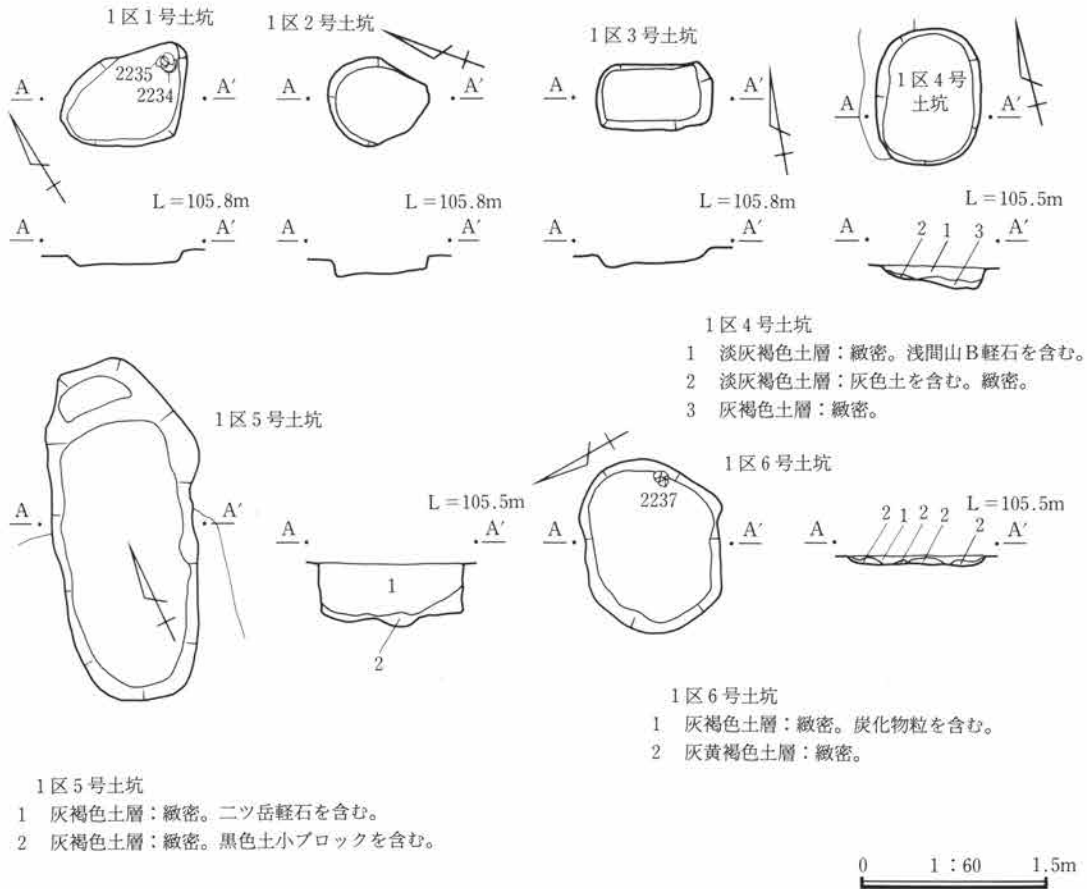
24地区において検出された遺構で最も古いのは、弥生時代後期の2区150・152号住居跡である。しかし、土坑では埋土中に浅間C軽石を含む1区14号土坑、2区15号土坑であっても出土する遺物は古代の須恵器や土師器である。このことから、埋土中に浅間C軽石を含み、出土遺物のない2区28・29・30号土坑、3区6号土坑も弥生時代の所産ではないと考えられる。次に古墳時代であるが、土坑から出土した遺物の中で明らかに古墳時代と判断されるのは、2区18・23号土坑出土の須恵器杯2個体のみである。また、出土遺物のない土坑の埋土中に榛名二岳軽石や榛名二岳火山灰の純層が認められないことから古墳時代の土坑は存在しない可能性が高い。古代については、遺物が出土した多くの土坑に認められ、ほとんどの土坑はこの時期の所産であろう。1区～3区の土坑において中世遺物の出土は全くなく、埋土中に浅間B軽石が認められるのは1区1・8号、2区4号、3区35号土坑であり、これらについても中世の所産である確証はない。したがって、土坑のみから判断すれば中世において1区～3区では生活の痕跡は認められない。次代の近世においても遺物は非常に少なく、混入程度であるため、生活の痕跡は認められないと判断される。明治・大正の遺物は、1区5・9・10・19号土坑から出土しており、2区からの出土はない。

区	番号	平面形	長軸方位	規 模(m)		遺 物	備 考	遺構図 番号
				長軸×短軸×深さ				
1	1	不整形		0.96×0.72×0.08～0.26		須恵器椀(2234・2235)。	上層に浅間山B軽石を含む。	336
1	2	円形?		0.8×0.7×0.16		須恵器・土師器の小破片。		336
1	3	長方形	N-80°-W	0.92×0.52×0.25		須恵器・土師器の小破片。		336
1	4	楕円形	N-20°-E	1.04×0.84×0.17		須恵器・土師器の小破片。		336
1	5	楕円形	N-20°-E	2.70×1.12×0.51		鉄製品(2236)、鉄斧(2238)、須恵器・土師器・羽釜・陶磁器の小破片。		336
1	6	楕円形	N-59°-W	1.36×0.52×0.25		土師器杯(2237)、土師器の小破片。		336
1	8	楕円形	N-73°-W	1.05×0.68×0.09		土師器の小破片。	覆土に浅間山B軽石を含む。	337
1	9	長方形?	N-55°-E	1.12×—×0.31		鉄製品(2239・2240・2241・2242)、土師器・須恵器、明治・大正時代の瓦・陶磁器の小破片。	78・79号住居跡より新しい。	337
1	10	不整形		—×0.60×0.12～0.3		鉄製品(2243)、土師器・須恵器、18世紀～大正時代の磁器の小破片。		337
1	11	不整形長方形	N-54°-E	1.44×—×0.46		土師器・須恵器の小破片、17～18世紀の陶器燈明皿の小破片。		337
1	12	楕円形		0.78×0.66×0.01～0.3		土師器の小破片。	覆土に角閃石安山岩を含む。	337
1	14	円形		0.62×0.54×0.05～0.24		土師器・須恵器の小破片。	覆土に浅間山C軽石を含む。	337
1	16	楕円形	N-28°-E	1.04×0.80×0.60		土師器・須恵器の小破片。	覆土に角閃石安山岩を含む。	337

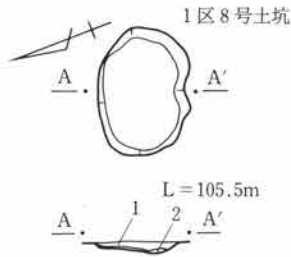
第IV章 発見された遺構と遺物

区	番号	平面形	長軸方位	規模(m)		遺物	備考	遺構図番号
				長軸	短軸×深さ			
1	17	不整楕円形		0.46	0.44×0.22	無し。	覆土に二ツ岳軽石を含む。	338
1	18	長方形?		—	0.60×0.57	土師器・須恵器の小破片。	覆土に二ツ岳軽石を含む。	337
1	19	不整形		1.18	0.07~0.6	幕末~明治時代の焼締陶器摺鉢小破片。		337
1	20	長方形?	N-16°-E	—	2.00×0.02~0.52	須恵器の小破片。	覆土上層に角閃石安山岩を含む。	338
1	22	長方形	N-26°-E	1.00	0.52×0.11	土師器・須恵器の小破片。	覆土に角閃石安山岩を含む。	338
1	23	長方形	N-78°-W	1.98	0.62×0.04	土師器・須恵器の小破片。		338
1	25	楕円形		0.64	0.58×0.13	土師器・須恵器の小破片。	覆土に角閃石安山岩を含む。	338
1	27	長方形?		—	1.54×0.04~0.48	無し。	覆土に角閃石安山岩を含む。	338
1	28	不整形		—	—×—×0.09	土師器の小破片。	覆土に二ツ岳軽石を含む。	339
1	29	不整形		—	0.54×0.48	土師器の小破片。	覆土に角閃石安山岩を含む。	339
2	4	楕円形	N-74°-W	1.25	0.68×0.10	無し。	覆土に浅間山B軽石を含む。	338
2	5	楕円形	N-71°-W	0.92	0.64×0.16	無し。	覆土に二ツ岳軽石を含む。	339
2	6	不整長方形	N-7°-E	4.70	0.64×0.16	土師器の小破片。	覆土に二ツ岳火山灰・軽石を含む。	339
2	7	長方形	N-16°-E	1.96	0.50×0.14	土師器・須恵器の小破片。	覆土に二ツ岳火山灰・軽石を含む。	339
2	10	長方形?		—	0.68×0.19	灰釉陶器碗(2248)、土師器・須恵器の小破片。	覆土に角閃石安山岩を含む。	339
2	11	楕円形		0.90	0.88×0.35~0.71	土師器・須恵器の小破片。	断面に柱痕が認められる。	339
2	12	楕円形		0.60	0.44×0.78	土師器杯(2248)、土師器・須恵器の小破片。		340
2	13	不明		—	—×—×0.20	土師器・須恵器の小破片。	14号土坑と重複。14号土坑より古い。	340
2	14	不整形		1.40	—×—×0.39	土師器・須恵器の小破片。	13号土坑と重複。13号土坑より新しい。	340
2	15	楕円形	N-81°-W	1.04	0.78×0.45~0.62	土師器・須恵器の小破片。	覆土上層に浅間山C軽石を含む。	340
2	18	不整楕円形		0.94	0.84×0.41~0.55	古墳時代~平安時代の土師器・須恵器の小破片。	覆土に二ツ岳軽石を含む。	340
2	22	不整形		—	1.94×0.01~0.38	須恵器短頸壺(2250)、鉄製品(2251)、土師器・須恵器の小破片。	覆土に角閃石安山岩を含む。	340
2	23	長方形	N-66°-W	1.12	0.78×0.12~0.47	古墳時代~平安時代の土師器・須恵器の小破片。		340
2	24	不整楕円形		1.30	1.02×0.60~0.59	無し。		341
2	26	不整形		0.90	—×—×0.11	土師器の小破片。		341
2	27	不整楕円形		1.58	1.34×0.03~0.33	須恵器皿(2252)、鉄製品(2253)、土師器・須恵器の小破片。2252は61号住居土出土破片と接合。	覆土に二ツ岳軽石を含む。	341
2	28	不明		—	0.84×0.12	無し。	29号土坑と重複。29号土坑より新しい。覆土下層に浅間山C軽石を含む。	341
2	29	楕円形	N-29°-E	0.92	0.76×0.07	無し。	28号土坑と重複。28号土坑より古い。114・115号住と重複。114・115号住より古い。覆土下層に浅間山C軽石を含む。	341
2	36	不整形		4.10	1.24×0.14	須恵器碗(2255)、灰釉陶器碗(2256)、須恵器の小破片。	覆土に角閃石安山岩を含む。	341
2	38	不整長方形	N-19°-W	1.40	1.16×0.09	土師器・須恵器の小破片。	覆土に二ツ岳軽石を含む。	341
2	43			—	—×—×0.11	須恵器・羽釜の小破片。	101・129・132号住居と重複。101号住居より古い。129号住居より新しい。132号住居との関係は不明。	342

区番号	平面形	長軸方位	規 模(m)		遺 物	備 考	遺構図 番号
			長軸×短軸×深さ				
2 44			—×—×0.08~0.32		土師器杯(2257)、須恵器椀(2258)、須恵器蓋(2259)、土師器・須恵器・灰釉陶器の小破片。	覆土上層に角閃石安山岩を含む。	342
2 45	長方形	N-78°-W	0.92×0.52×0.14		無し。		342
3 3	楕円形	N-84°-E	1.66×0.82×0.18		無し。	覆土に浅間山B軽石を含む。	342
3 4	不整形		0.80×0.50×0.14		無し。		342
3 5	不整形長方形	N-76°-W	1.30×0.80×0.39		無し。	覆土に浅間山B軽石を含む。	342
3 6	楕円形	N-65°-W	1.08×0.78×0.11~0.31		無し。	覆土に浅間山C軽石を含む。	342

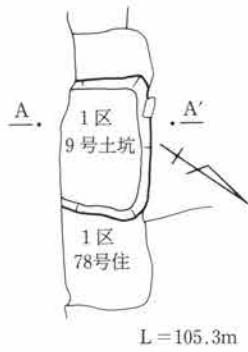


第336図 1区1・2・3・4・5・6号土坑



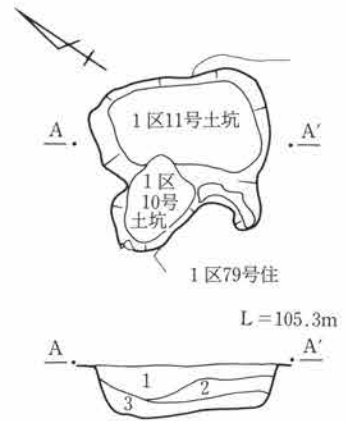
1区8号土坑

- 1 淡灰褐色土層：緻密。浅間山B軽石を含む。
- 2 淡灰褐色土層：緻密。浅間山B軽石・黄褐色土小ブロックを含む。



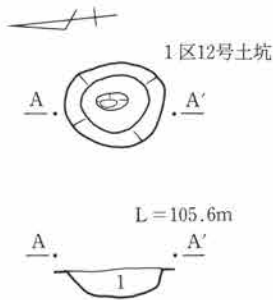
1区9号土坑

- 1 暗灰褐色土層：炭化物を少量含む。



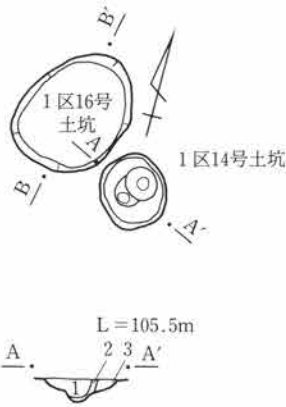
1区11号土坑

- 1 淡褐色土層：黄褐色土を含む。
- 2 淡褐色土層：黒色土小ブロックを含む。
- 3 淡褐色土層と黒色土の混土層。



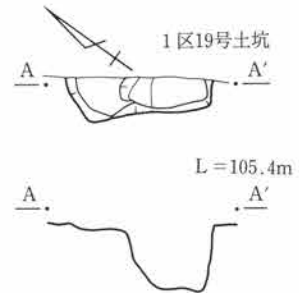
1区12号土坑

- 1 灰色土層：黒色粘質土・黄褐色土小ブロック・角閃石安山岩を含む。



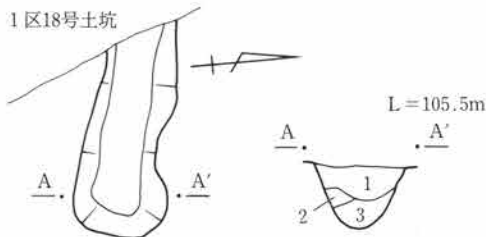
1区16号土坑

- 1 灰褐色土層：淡黄褐色土・角閃石安山岩・炭化物粒子を含む。



1区14号土坑

- 1 灰褐色土層：淡黄褐色土・角閃石安山岩・炭化物粒子を含む。
- 2 黒色土層：浅間山C軽石を含む。
- 3 灰褐色土層：黒褐色土を含む。

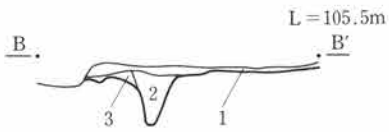
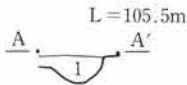
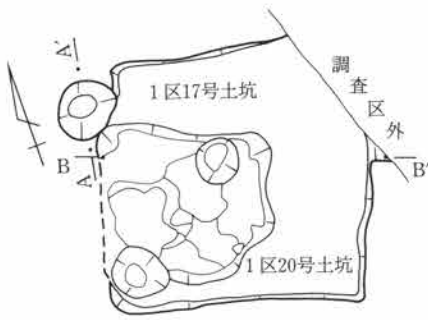


1区18号土坑

- 1 灰褐色土層：浅間山C軽石を含む黒色土・二ツ岳軽石を含む。
- 2 灰褐色土層：二ツ岳軽石を含む。
- 3 灰褐色土層：多量の黒色土小ブロック及び二ツ岳軽石を含む。

0 1:60 1.5m

第337図 1区8・9・10・11・12・14・16・18・19号土坑



1区17号土坑

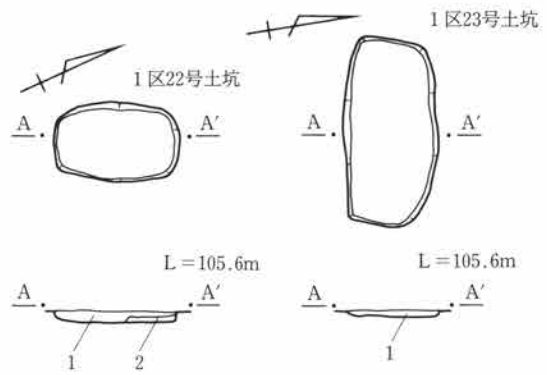
- 1 灰褐色土層：黄褐色土・ニツ岳軽石・黒色土を含む。

1区20号土坑

- 1 灰色粘質土層：黄褐色土小ブロック・黒色土小ブロック・角閃石安山岩を含む。  
 2 灰色粘質土層：角閃石安山岩を含む。  
 3 灰色粘質土層：淡褐色土小ブロック・黒色土小ブロックを含む。

1区27号土坑

- 1 灰褐色土層：角閃石安山岩・黄褐色土粒子を含む。  
 2 灰褐色土層：黒色土小ブロック・淡褐色土小ブロック・角閃石安山岩を含む。

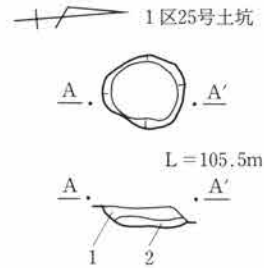


1区22号土坑

- 1 灰色土層：灰褐色土・角閃石安山岩を含む。  
 2 灰色土層：黄褐色土・黒色土小ブロック・角閃石安山岩を含む。

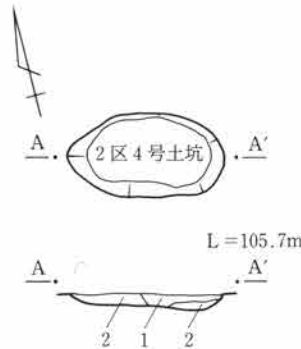
1区23号土坑

- 1 灰色土層：黄褐色土・黒色土小ブロックを含む。



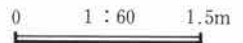
1区25号土坑

- 1 灰色土層：赤褐色土・角閃石安山岩を含む。  
 2 灰色土層：赤褐色土・黄褐色土・炭化物を含む。

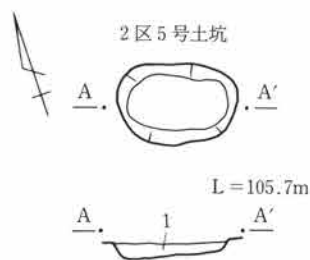
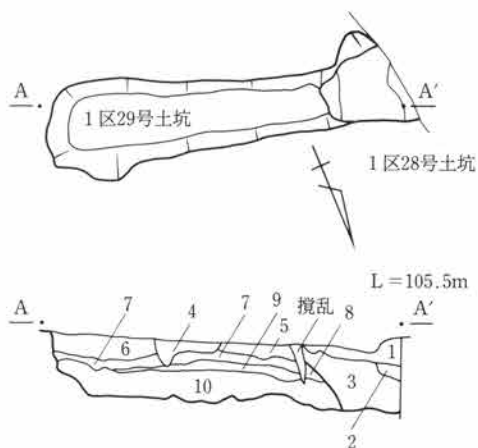


2区4号土坑

- 1 灰褐色土層：ニツ岳火山灰ブロック・浅間山B軽石を含む。  
 2 褐色粘質土層：ニツ岳火山灰・ニツ岳軽石を含む。



第338図 1区17・20・22・23・25・27号、2区4号土坑

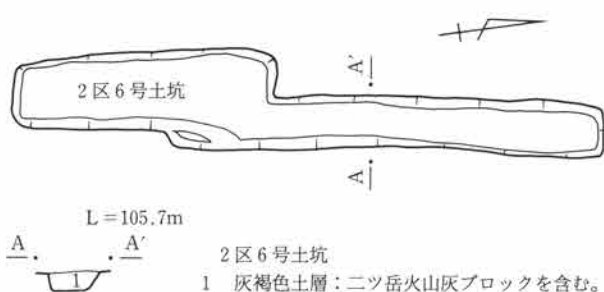


- 2区5号土坑  
1 灰褐色土層：ニツ岳火山灰・ニツ岳軽石を含む。

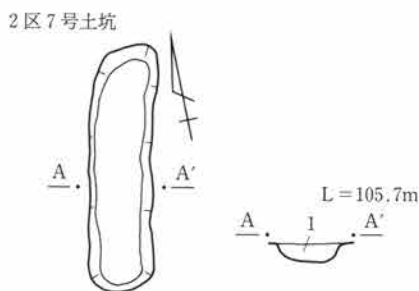
1区28・29号土坑

- 1 黄褐色土層：褐色土を含む。(28土坑)
- 2 黄褐色土層：褐色土・黒色土小ブロック・角閃石安山岩を含む。(28土坑)
- 3 明褐色土層：褐色土・ニツ岳軽石・黒色土含む。(28土坑)
- 4 灰褐色土層：黄褐色土・黒色土小ブロック・角閃石安山岩を含む。(29土坑)
- 5 黄褐色土層：灰褐色土小ブロック・角閃石安山岩を含む。(29土坑)

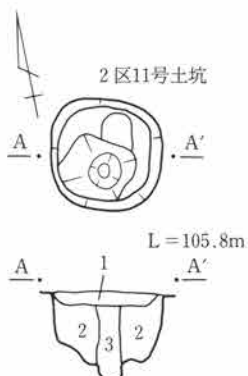
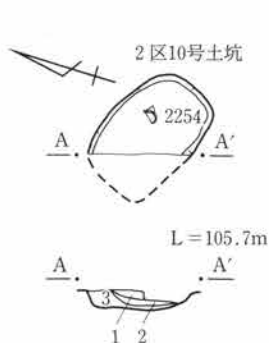
- 6 灰褐色土層：黒色土・黄褐色土・角閃石安山岩を含む。(29土坑)
- 7 黄褐色土層：黒色土小ブロック・角閃石安山岩を含む。(29土坑)
- 8 黄褐色土層：明褐色土を含む。(29土坑)
- 9 黒色土層：黄褐色土小ブロックを板状に含む。
- 10 黒色土層：黄褐色土・暗褐色土・灰褐色土小ブロックを含む。(29土坑)



- 2区6号土坑  
1 灰褐色土層：ニツ岳火山灰ブロックを含む。



- 2区7号土坑  
1 灰褐色土層：ニツ岳火山灰ブロックを含む。

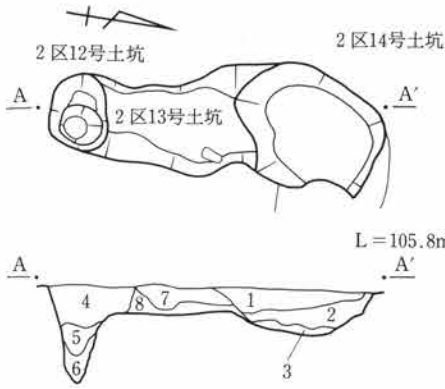


- 2区10号土坑  
1 灰色土層：角閃石安山岩を含む。  
2 灰褐色土層：多量の炭化物を含む。  
3 灰褐色土層：角閃石安山岩と黄褐色土小ブロックを含む。

- 2区11号土坑  
1 灰褐色埴壤土層：緻密。軽石・黒色土小ブロックを含む。  
2 灰褐色埴壤土層：黒色土小ブロック・黄褐色土小ブロックを含む。  
3 暗灰褐色土層：黒色土小ブロックを含む。

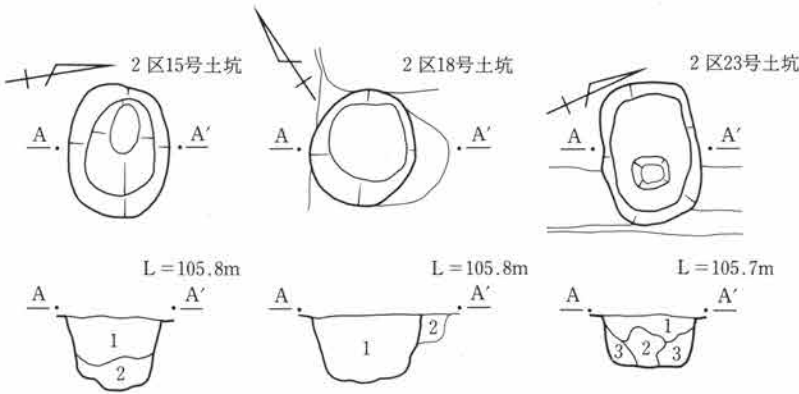
0 1:60 1.5m

第339図 1区28・29号、2区5・6・7・10・11号土坑



2区12・13・14号土坑

- 1 灰褐色土層：緻密。黄褐色土小ブロック・炭化物を含む。(14土坑)
- 2 灰褐色土層：緻密。黒色土小ブロックを含む。(14土坑)
- 3 黒色粘質土層：黄褐色土小ブロックを含む。(14土坑)
- 4 灰褐色土層：黒褐色土小ブロックを含む。(12土坑)
- 5 灰褐色土層：黄褐色土・黒褐色土を含む。(12土坑)
- 6 黒色粘質土層：褐色土を含む。(12土坑)
- 7 灰褐色土層：緻密。炭化物を含む。(13土坑)
- 8 黄褐色土層：緻密。灰褐色土を含む。(13土坑)



2区23号土坑

- 1 暗灰褐色土層：緻密。軽石を含む。
- 2 暗灰褐色土層：緻密。軽石・黒褐色土を含む。
- 3 暗灰褐色土層：黒色土小ブロックを含む。

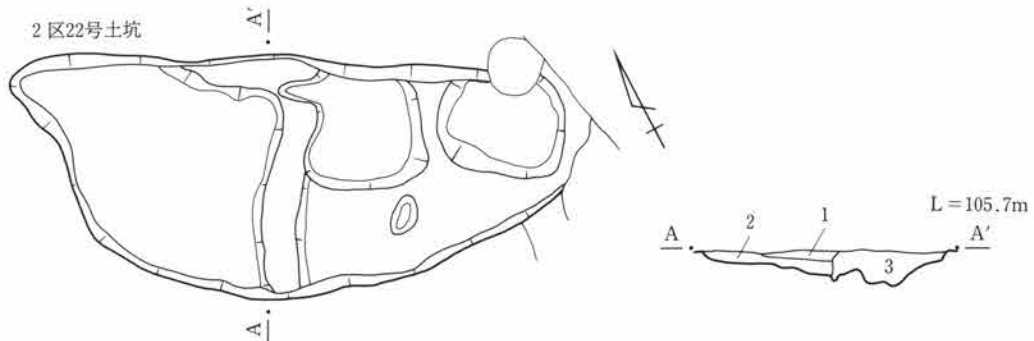
2区15号土坑

- 1 暗灰褐色土層：緻密。浅間山C軽石及び少量の黒色土小ブロックを含む。
- 2 暗灰褐色土層：多量の黒色土小ブロックを含む。

2区18号土坑

- 1 灰色土層：黒色土・浅間山C軽石・ニツ岳軽石を含む。
- 2 灰色土層：ニツ岳軽石及び多量の黒色土小ブロックを含む。

2区22号土坑

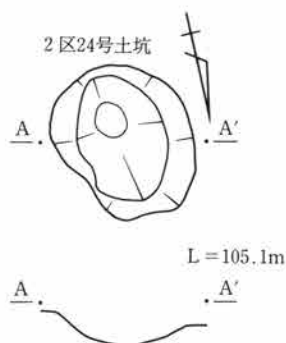


2区22号土坑

- 1 灰褐色土層：角閃石安山岩を含む。
- 2 灰色土層：黒色土小ブロック・黄褐色土粒子を含む。
- 3 灰色土層：角閃石安山岩・黒色土小ブロック・黄褐色土小ブロックを含む。

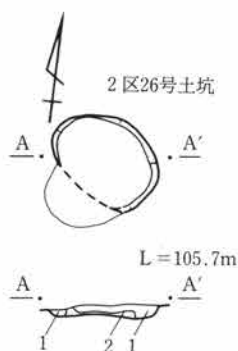
0 1 : 60 1.5m

第340図 2区12・13・14・15・18・22・23号土坑



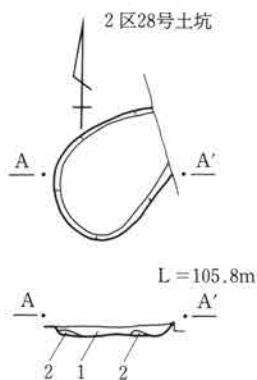
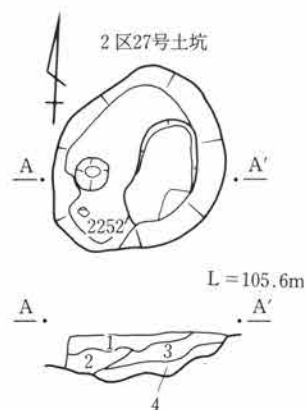
2区24号土坑

- 1 黄褐色土層：淡褐色土小ブロックを含む。
- 2 黒褐色土層：軽石・淡褐色土小ブロックを含む。



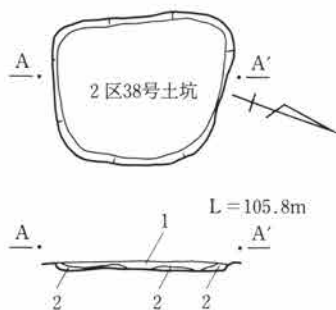
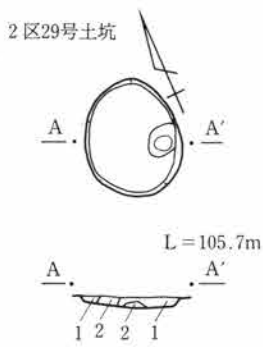
2区26号土坑

- 1 灰褐色土層：暗褐色土ブロック及び多量のニツ岳軽石を含む。
- 2 灰褐色土層：暗褐色土ブロック及び少量のニツ岳軽石を含む。
- 3 灰褐色土層：赤褐色土・焼土・灰色土を含む。
- 4 灰褐色土層：暗褐色土・ニツ岳軽石・褐色土を含む。



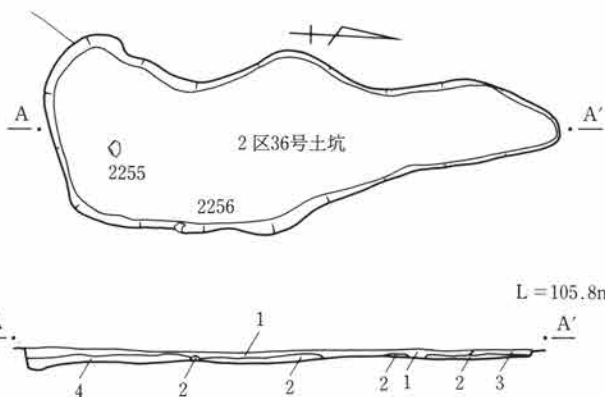
2区28号土坑

- 1 灰褐色土層：角閃石安山岩・明褐色土小ブロックを含む。
- 2 黒褐色土層：浅間山C軽石を含む。



2区29号土坑

- 1 灰褐色土層：角閃石安山岩・明褐色土小ブロックを含む。
- 2 黒褐色土層：浅間山C軽石を含む。



2区38号土坑

- 1 灰褐色土層：ニツ岳軽石を含む。
- 2 暗褐色土層：灰褐色土を含む。

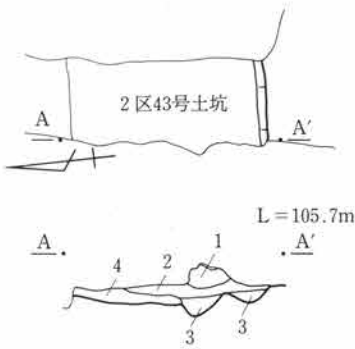
2区36号土坑

- 1 灰褐色土層：角閃石安山岩・明褐色土小粒を含む。
- 2 黒褐色土層：灰褐色土を含む。
- 3 淡灰褐色土層：粒子は細かく、砂質土を含む。
- 4 淡灰褐色土層：粒子はやや粗く、灰褐色土・角閃石安山岩を含む。



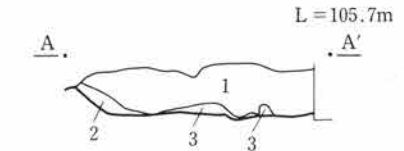
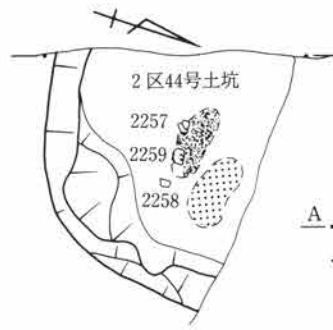
第341図 2区24・26・27・28・29・36・38号土坑





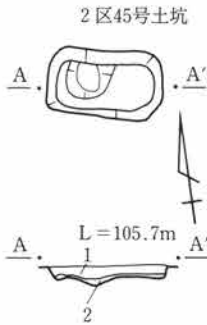
2区43号土坑

- 1 灰褐色土層：炭化物・角閃石安山岩を含む。
- 2 灰褐色土層：角閃石安山岩及び少量の炭化物を含む。
- 3 灰褐色土層：淡褐色土小ブロック・炭化物を含む。
- 4 淡褐色土層：灰褐色土・暗褐色土小ブロックを含む。



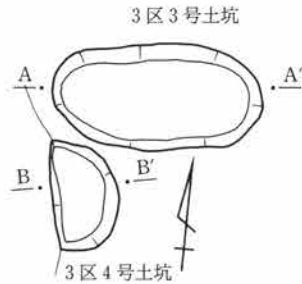
2区44号土坑

- 1 灰色土層：角閃石安山岩を含む。
- 2 灰色土層：黄褐色土粒子を含む。
- 3 灰色土層：黒色土小ブロックを含む。



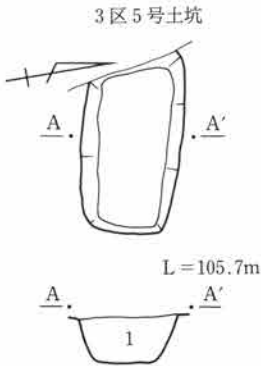
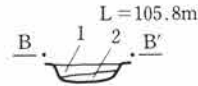
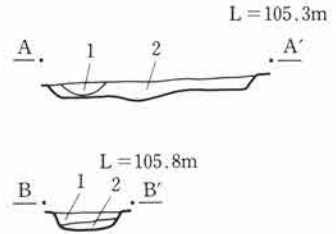
2区45号土坑

- 1 灰褐色土層：浅間山B軽石を含む。
- 2 ニツ岳FA軽石層。(榛名ニツ岳火山灰)



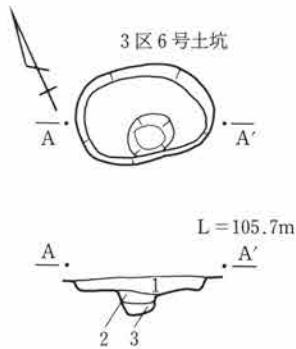
3区3・4号土坑

- 1 ニツ岳火山灰とニツ岳軽石の混土層。
- 2 ニツ岳火山灰・ニツ岳軽石・浅間山B軽石の混土層。



3区5号土坑

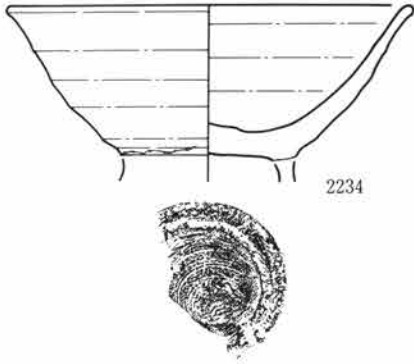
- 1 ニツ岳FA軽石・浅間山B軽石・灰褐色土の混土層。



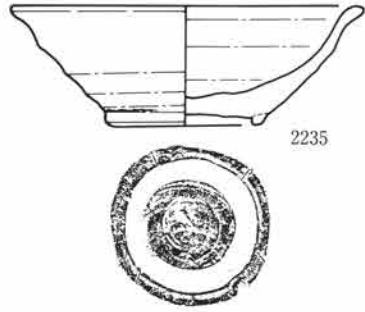
3区6号土坑

- 1 灰褐色土層：浅間山B軽石とニツ岳FA軽石を含む。
- 2 ニツ岳FA軽石層。
- 3 黒色土層：浅間山C軽石を含む。

0 1 : 60 1.5m



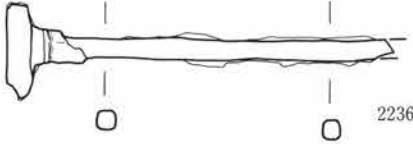
2234



2235

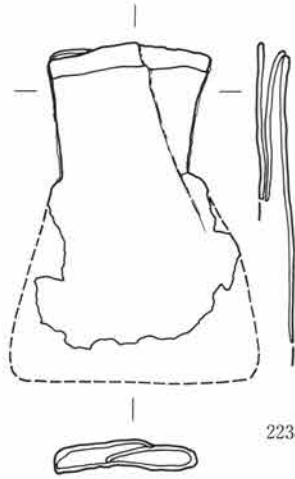
0 1 : 3 7.5cm

1区1号土坑



2236

0 1 : 3 7.5cm



2238

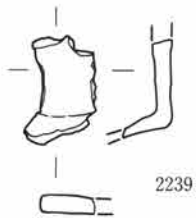
1区5号土坑



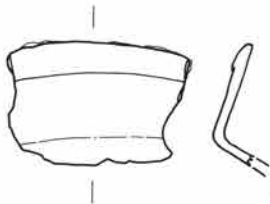
2237

0 1 : 3 7.5cm

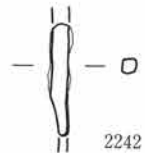
1区6号土坑



2239



2241

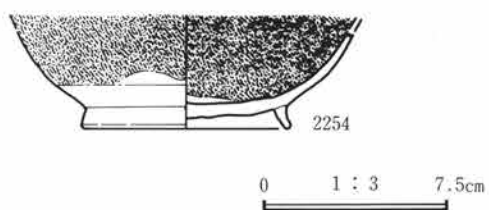


2242

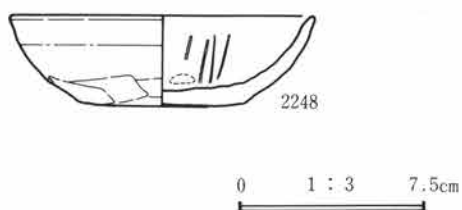
0 1 : 3 7.5cm

1区9号土坑

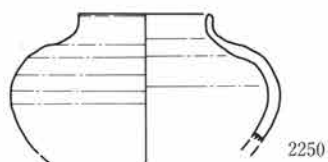
第343図 1区1・5・6・9号土坑出土遺物



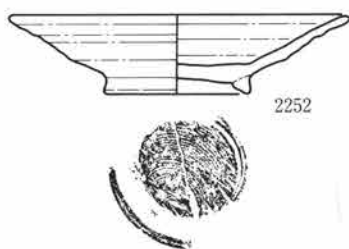
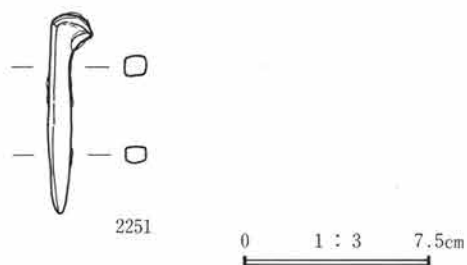
2区10号土坑



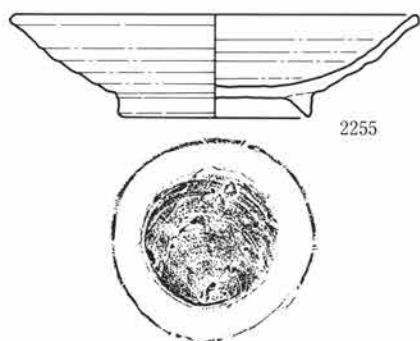
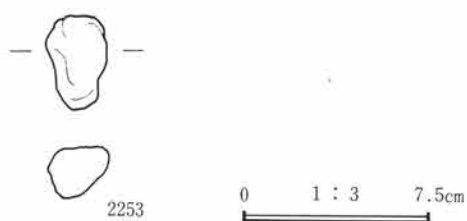
2区12号土坑



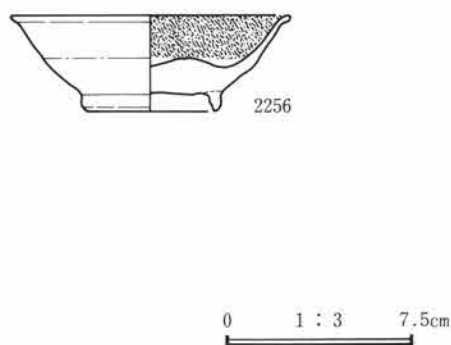
2区22号土坑

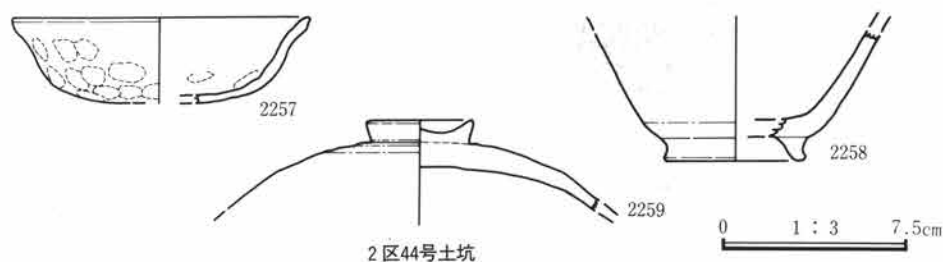


2区27号土坑



2区36号土坑



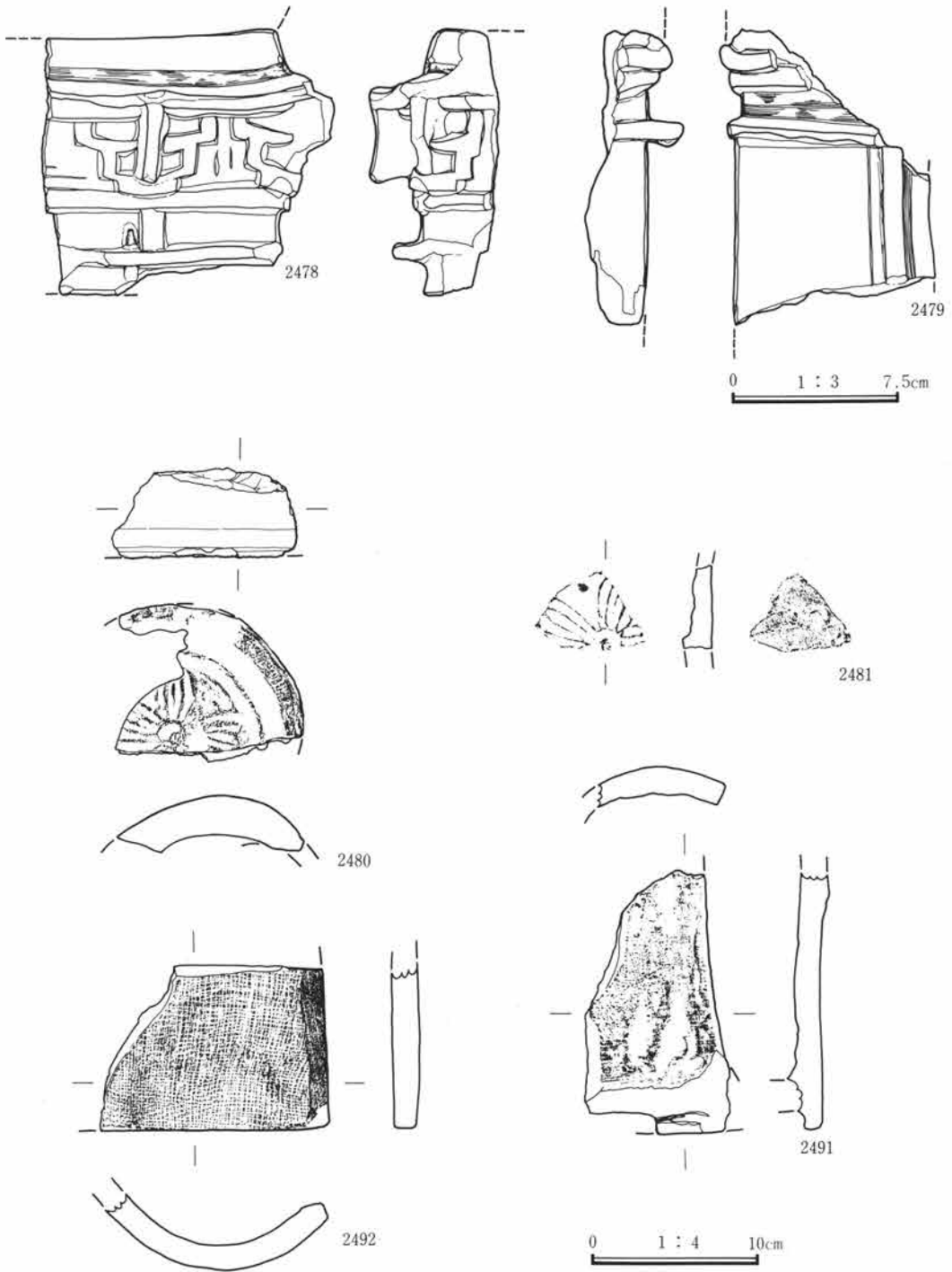


第345図 2区44号土坑出土遺物

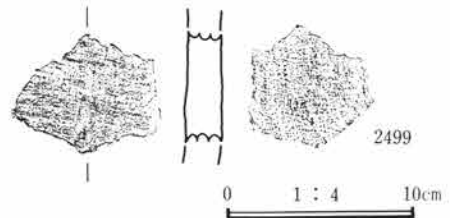
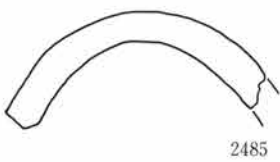
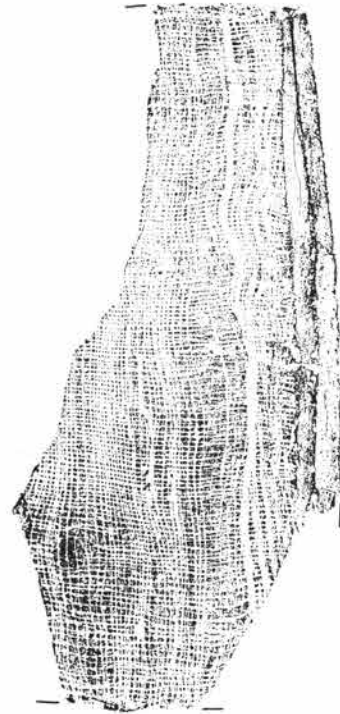
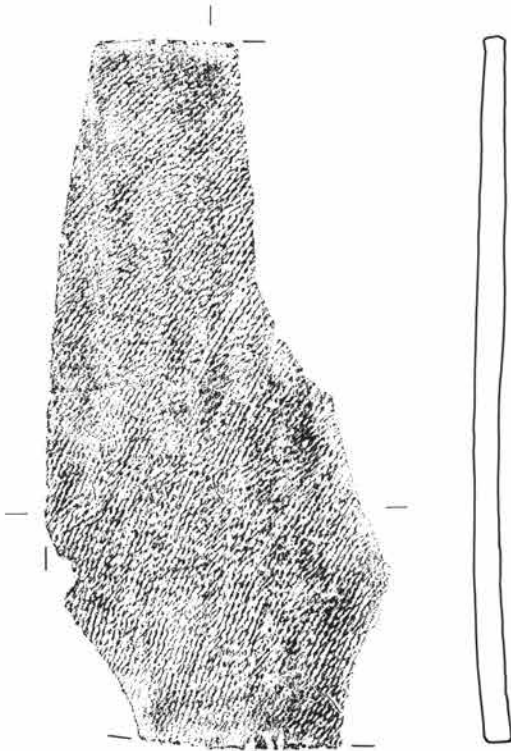
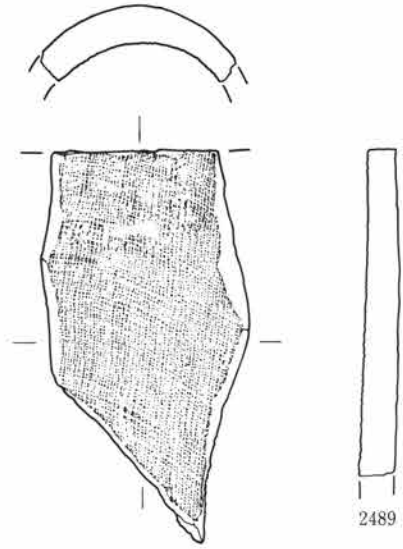
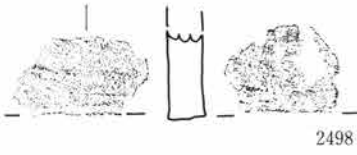
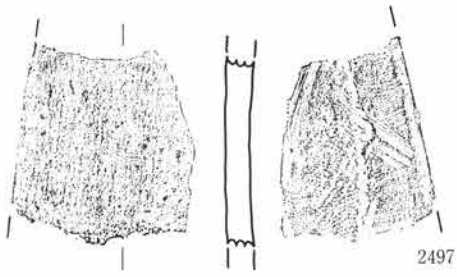
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1区 2234	1号土坑 碗 須恵器	器高：(61mm) 口径：[162mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転で。	内外面の一部に油煙付着。
2235	碗 須恵器	器高：48mm 口径：[140mm] 底径：64mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。	
1区 2236	5号土坑 ? 鉄製品	長：(155mm) 幅：端37mm・軸8mm 厚：軸8mm		用途不明。	
2238	鉄 斧	長：(121mm) 幅：(83mm) 厚：2～3mm		鉄板を折り曲げ製作。基部は折り返し、袋状になっている。	
1区 2237	6号土坑 杯 土師器	器高：39mm 口径：[132mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は内湾。丸底。外面：口縁部は横で、胴部は一部指頭痕が残り、底部は窪削り。内面：口縁部～底部上端は横で、一部指頭痕が残り、底部は横で、一部指頭痕が残る。	
1区 2239	9号土坑 ? 鉄製品	長：(37mm) 幅：(25mm) 厚：6～8mm		用途不明。鉄板が直角に近く折り曲げられている。	
2241	? 鉄製品	幅：40mm 厚：4mm		鉄板を折り曲げてある。縁は折り返し。用途不明。	
2242	? 鉄製品	長：(43mm) 幅：5～7mm 厚：5～6mm		角釘または鉄鎌の茎の一部か。	
2区 2254	10号土坑 碗 灰釉陶器	器高：(39mm) 口径：— 底径：84mm 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰黄。	轆轤整形。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転で、底部は高台貼り付け後回転で。内面：胴部～底部は回転で。	内外面共に胴部まで施釉。

## 2区44号土坑、1・2区土坑出土遺物観察表

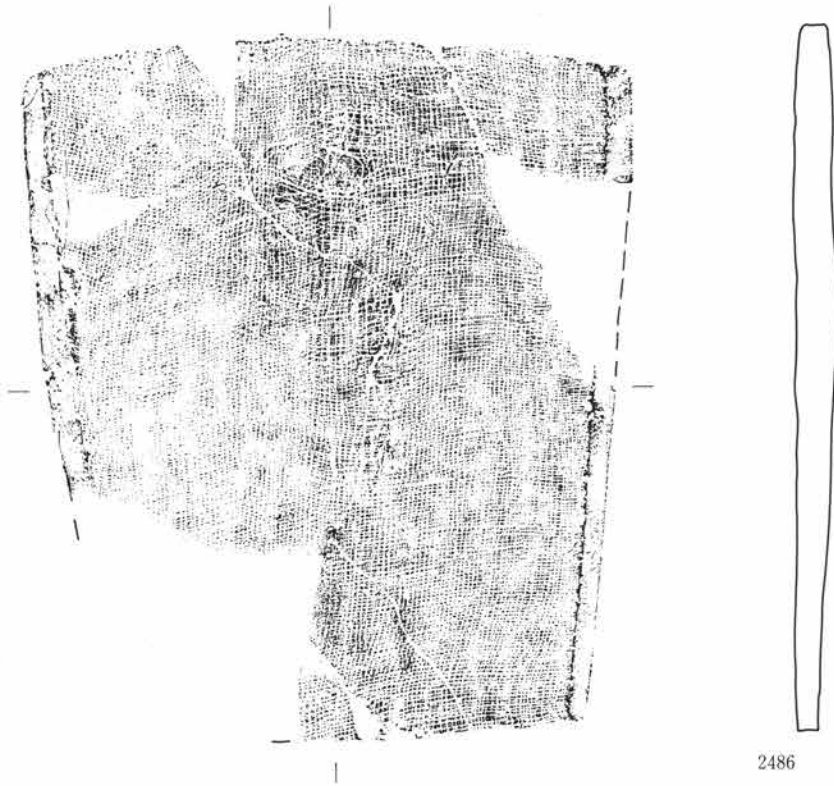
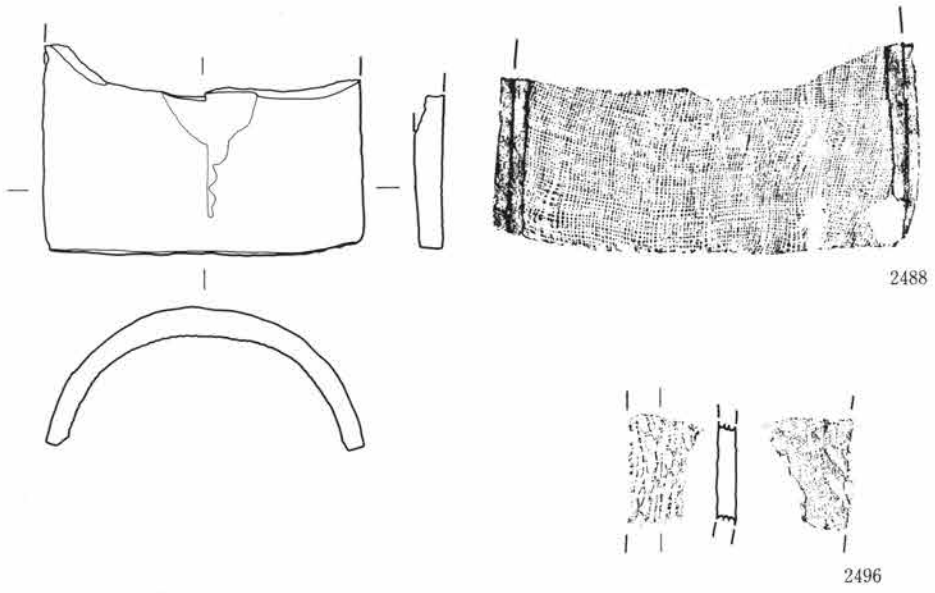
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2区 2248	12号土坑 杯 土師器	器高：(37mm) 口径：[122mm] 底径：[68mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	
2区 2250	22号土坑 短頸壺 須恵器	器高：(51mm) 口径：[52mm] 底径：— 最大径：108mm 口縁部下半～胴部中央 $\frac{1}{4}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。口縁部はほぼ直立。最大径は胴部上半。外面：口縁部は回転なで、胴部上半は回転篋削り、胴部中央は回転なで。内面：口縁部～胴部中央は回転なで。	
2251	角釘 鉄製品	長：78mm 幅：3～16mm 厚：3～15mm		いぬ釘か。断面四角形。	
2区 2252	27号土坑 皿 須恵器	器高：32mm 口径：[136mm] 底径：[58mm] 口縁部～高台部 $\frac{3}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
2253	鉄塊? 鉄製品	長：37mm 幅：25mm 厚：20mm		用途不明。	
2区 2255	36号土坑 皿 須恵器	器高：41mm 口径：[164mm] 底径：79mm 口縁部～高台部 $\frac{3}{4}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
2256	椀 灰釉陶器	器高：38mm 口径：[112mm] 底径：[56mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内面は胴部まで施釉。
2区 2257	44号土坑 杯 土師器	器高：(34mm) 口径：[120mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部は直線的に広がり、口縁部は外反。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
2258	壺 須恵器	器高：(52mm) 口径：— 底径：[56mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形。胴部下半は直線的に広がる。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面胴部に一部自然釉。
2259	蓋 須恵器	器高：(31mm) 口径：— つまみ径：41mm つまみ部～天井部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。ボタン状つまみ。つまみ部は貼り付け。外面：つまみ部は回転なで、天井部上半は回転篋削り、天井部下半は回転なで。内面：天井部は回転なで。	



第346図 1・2区表土瓦塔・瓦①



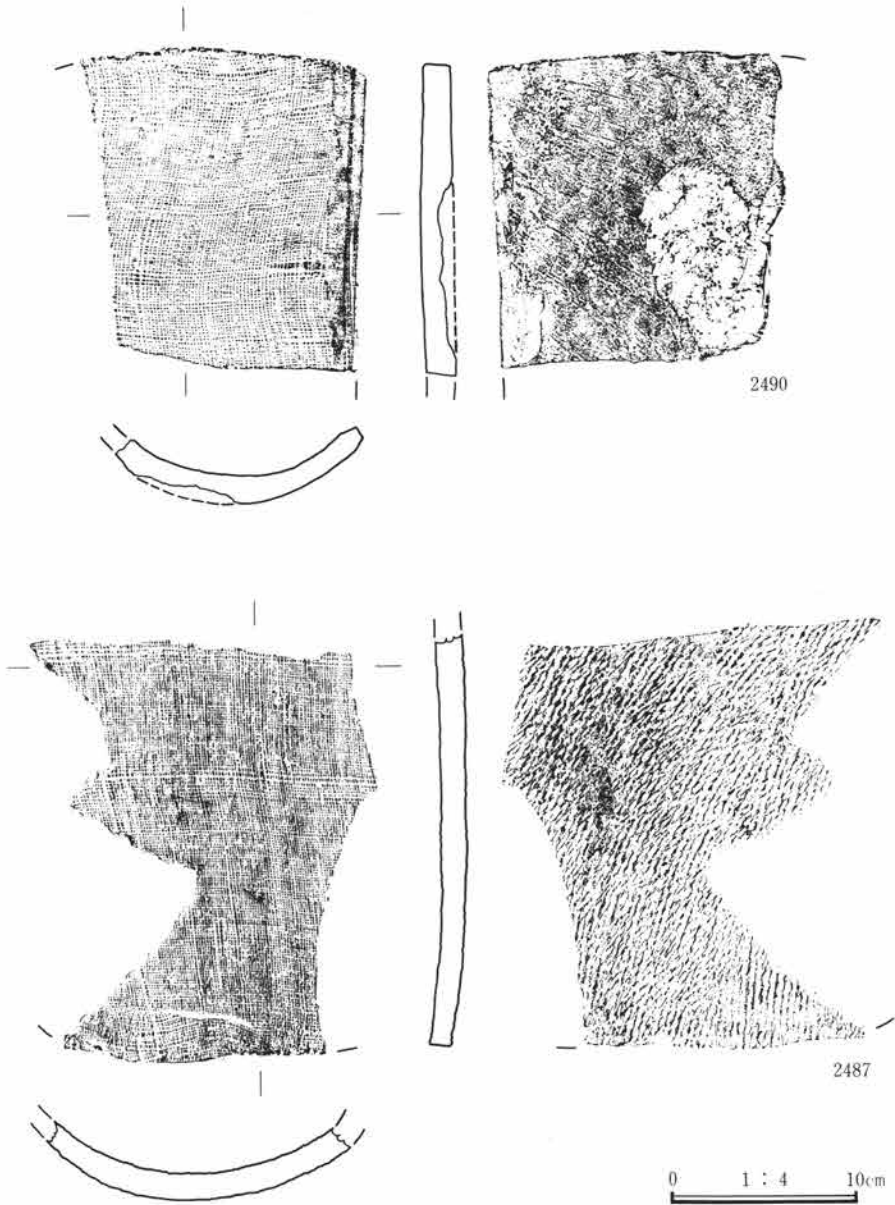
第347图 1·2区表土出土瓦②



0 1 : 4 10cm

第348図 1・2区表土出土瓦③





第349図 1・2区表土出土瓦④

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2478	瓦塔	縦：(129mm) 横：(57mm) 高：112mm	粒子は細かい。酸化。 普通。	瓦塔の軸部初層。斗拱については大斗と一手目、二手目は省略され、三手目が簡略的に表現される。隅のものは45度方向にのみ挺出する。	

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2479	瓦 塔	縦：(89mm) 横：(42mm) 高：(130mm)	粒子は細かい。酸化。 普通。	瓦塔の軸部初層。隅の柱の表現を欠くが、 方3間と考えられる。	
2480	軒 丸 瓦	瓦当部と丸瓦部の一部。	粒子はやや粗い。還元。 軟質。灰。	丸瓦部の凸面は縦方向なで。瓦当部裏面は 指なで。瓦当部と丸瓦部の接続はいんろう つぎ。	
2481	軒 丸 瓦	瓦当部の小破片	粒子はやや粗い。還元。 軟質。灰。	瓦当部裏面は指なで。	
2485	丸 瓦	長：(375mm) 幅：(147mm) 厚：10～18mm	砂粒を含む。還元。普 通。灰。	粘土板成形、円筒二分割か。凸面は全面斜 め方向縄叩き。凹面は布目。側面整形は1 面、端面整形は2面。	
2486	平 瓦	長：377mm 幅：265mm 厚： 11～21mm	やや細かい。還元。普 通。灰。	粘土板成形、一枚造り。凸面は斜め方向な で。凹面は布目、部分的に二重の布目。側 面整形は1面、端面整形は1面。	表面に一部油煙付 着。
2487	平 瓦	長：(228mm) 幅：(183mm) 厚：12～15mm	黒色鉍物粒子を含み、 細かい。還元。硬質。 青灰。	粘土板成形、一枚造り。凸面は斜め方向叩 き、凹面は布目。側面整形は1面、端面整 形は1面。	
2488	丸 瓦	長：(110mm) 幅：170mm 厚：10～15mm	黒色鉍物粒子を含み、 細かい。還元。硬質。 青灰。	粘土板成形、円筒二分割か。凸面は斜め方 向なで。凹面は布目。側面整形は2面、端 面整形は1面。	
2489	丸 瓦	長：(208mm) 幅：(107mm) 厚：11～18mm	黒色鉍物粒子を含み、 やや細かい。還元。普 通。灰。	粘土板成形、円筒二分割か。凸面は斜め方 向なで。凹面は布目、部分的に二重の布目。 側面整形は2面、端面整形は1面。	裏面に一部油煙付 着。
2490	平 瓦	長：(170mm) 幅：(135mm) 厚：11～18mm	黒色鉍物粒子を含み、 やや細かい。還元。普 通。灰。	粘土板成形、円筒二分割か。凸面は斜め方 向なで。凹面は布目、部分的に二重の布目。 側面整形は2面、端面整形は1面。	
2491	軒 丸 瓦	外区から丸瓦部にかけての 小破片	粒子はやや粗い。還元。 軟質。灰。	丸瓦部の凸面は縦方向なで、凹面は布目痕。 側面整形は1面。瓦当部と丸瓦部の接続は いんろうつぎ。	裏面に一部油煙付 着。
2492	丸 瓦	長：(97mm) 幅：(130mm) 厚：10～15mm	黒色鉍物粒子を含み、 細かい。還元。硬質。 青灰。	粘土板成形、円筒二分割か。凸面は斜め方 向なで。凹面は布目。側面整形は2面、端 面整形は1面。	
2496	平 瓦	長：(55mm) 厚：9mm	粒子は細かく、砂粒を 含む。軟質。褐。	粘土板成形、一枚造り。凸面は篋削り。凹 面は蓆状編目。側面整形は1面。	
2497	丸 瓦	長：(100mm) 厚：13mm	粒子は細かい。還元。 やや硬質。青灰。	粘土板成形、円筒二分割か。凸面は縄叩後 轆轤右回転横なで。凹面は布目。側面整形 は3面。	
2498	丸 瓦?	長：(46mm) 厚：15～17mm	粒子は細かい。酸化。 軟質。淡褐・淡灰褐。	粘土板成形、円筒二分割か。凸面は轆轤回 転なで。凹面は布目。側面整形は2面、端 面整形は1面。	
2499	丸 瓦	長：(58mm) 厚：18～20mm	粒子は細かい。酸化。 軟質。淡褐・淡灰褐。	粘土板成形、円筒二分割か。凸面は轆轤な で。凹面は布目。側面整形は2面、端面整 形は1面。	

# 写 真 图 版





調査風景



調査風景



調査風景



調査風景



調査風景



調査風景



3区本線グリッド全景（南より）



1・2区本線グリッド全景（北より）





1・2・3区  
西側道全景  
(南より)



1・2・3区東側道全景 (南より)



1区東側道全景（北より）



1区西側道全景（北より）



2区西側道全景（南より）



2区東側道全景（北より）

図版 8



2区K・L・M-13~17グリッド全景(北より)



2区K・L・M-10~17グリッド全景(南より)



1区1号住居跡遺物出土状態全景



1区1号住居跡貯藏穴遺物出土状態



1区3号住居跡遺物出土状態全景



1区3号住居跡掘形全景



1区4号住居跡竈



1区4号住居跡全景

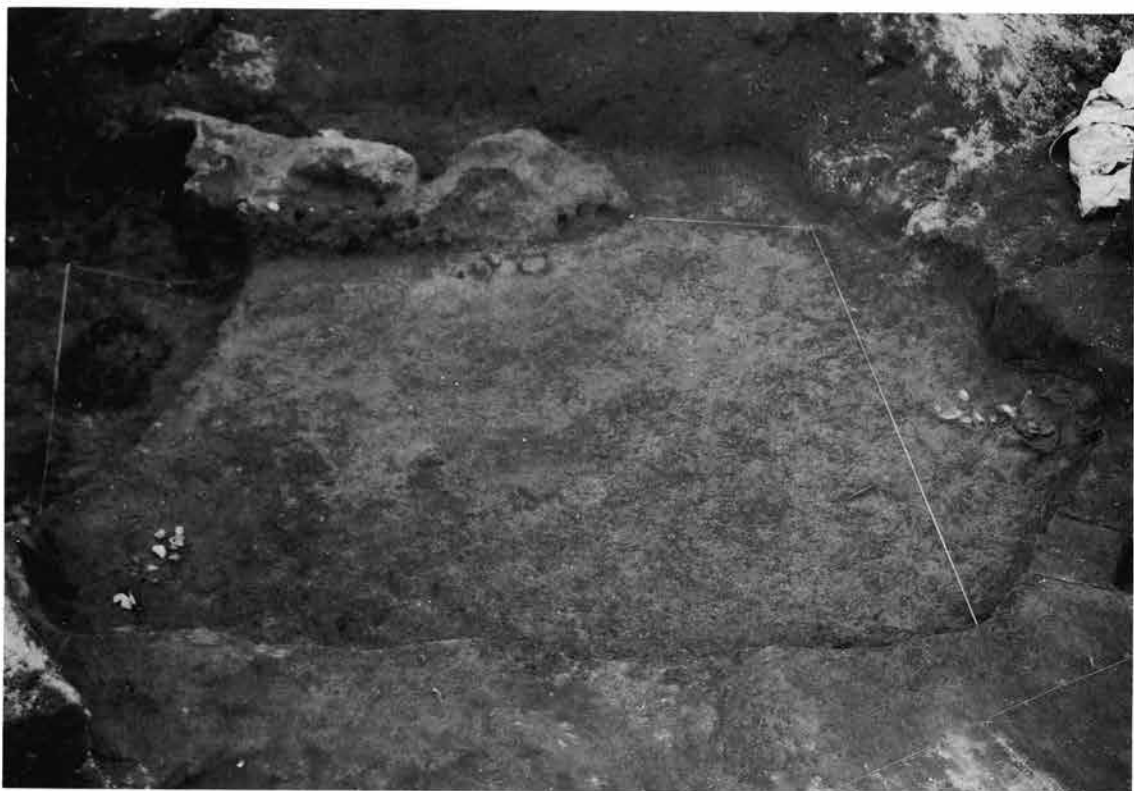


1区4·5·11号住居跡全景



1区5号住居跡全景





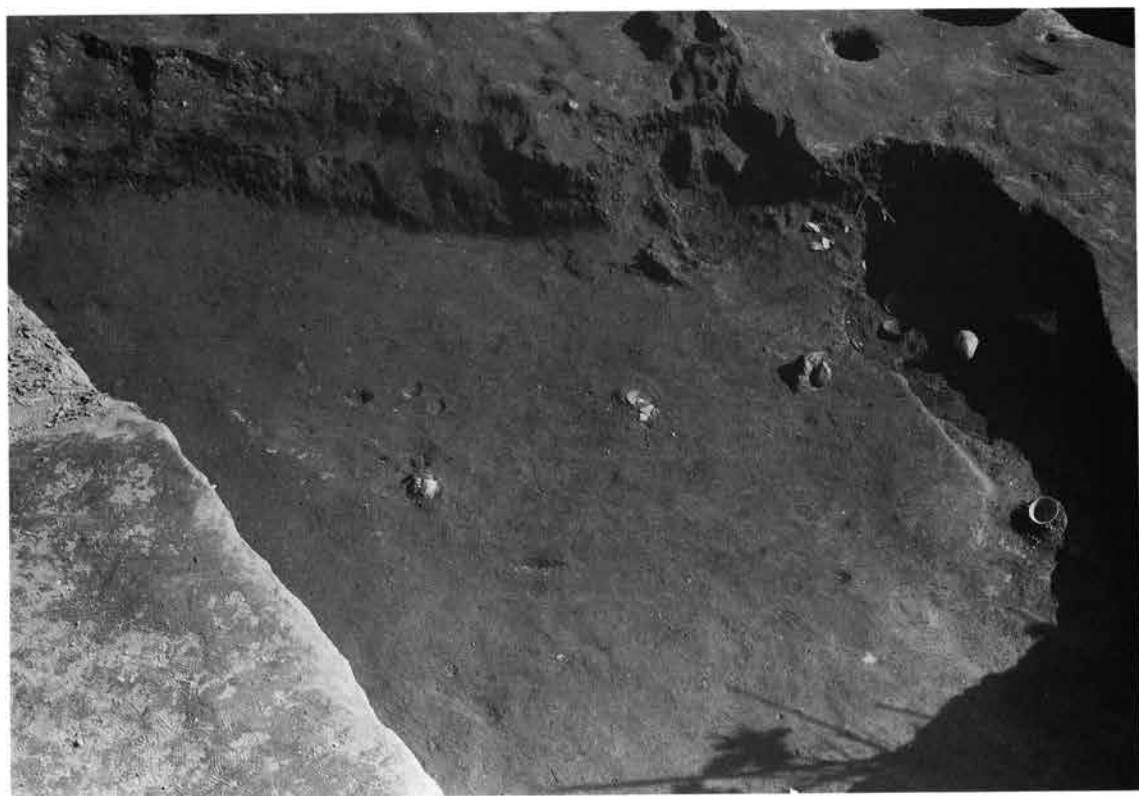
1区6号住居跡全景



1区8号住居跡全景



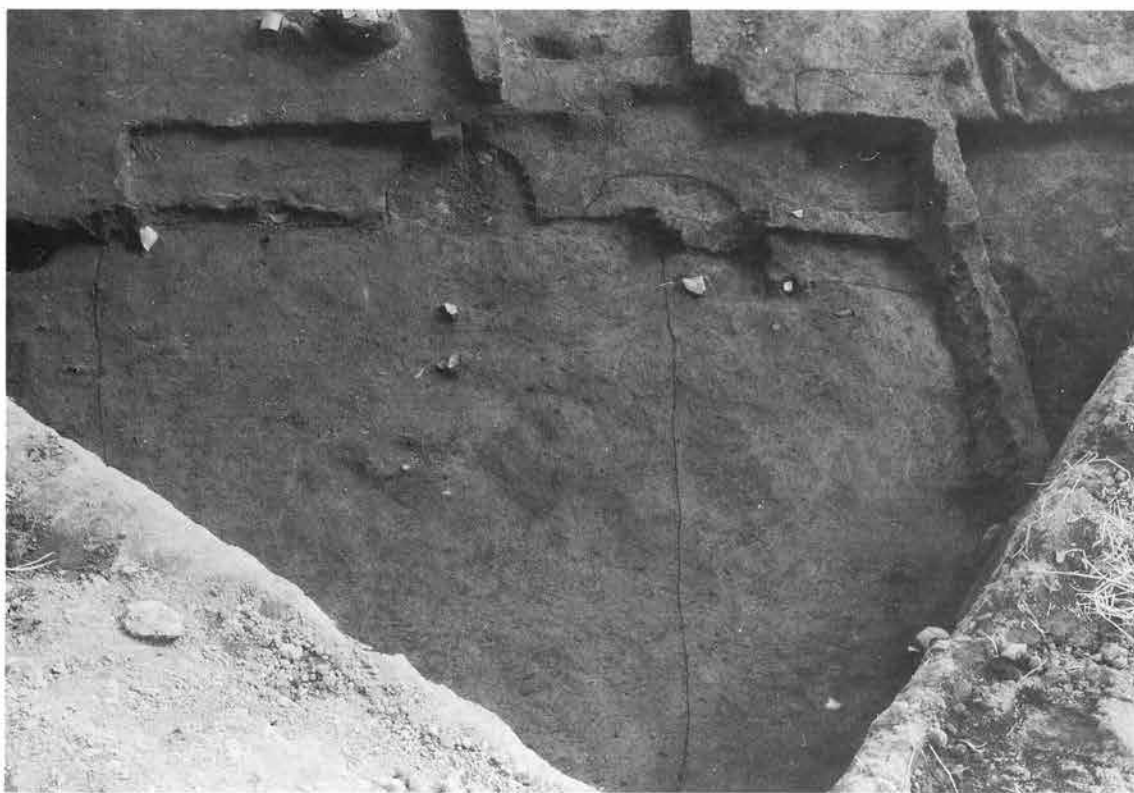
1区8号住居跡掘形全景



1区9号住居跡全景



2区15·16·17号住居跡遺物出土状態全景



2区15·16·17号住居跡全景



2区19号住居跡遺物出土状態全景（側道部分）



2区19・20号住居跡遺物出土状態全景



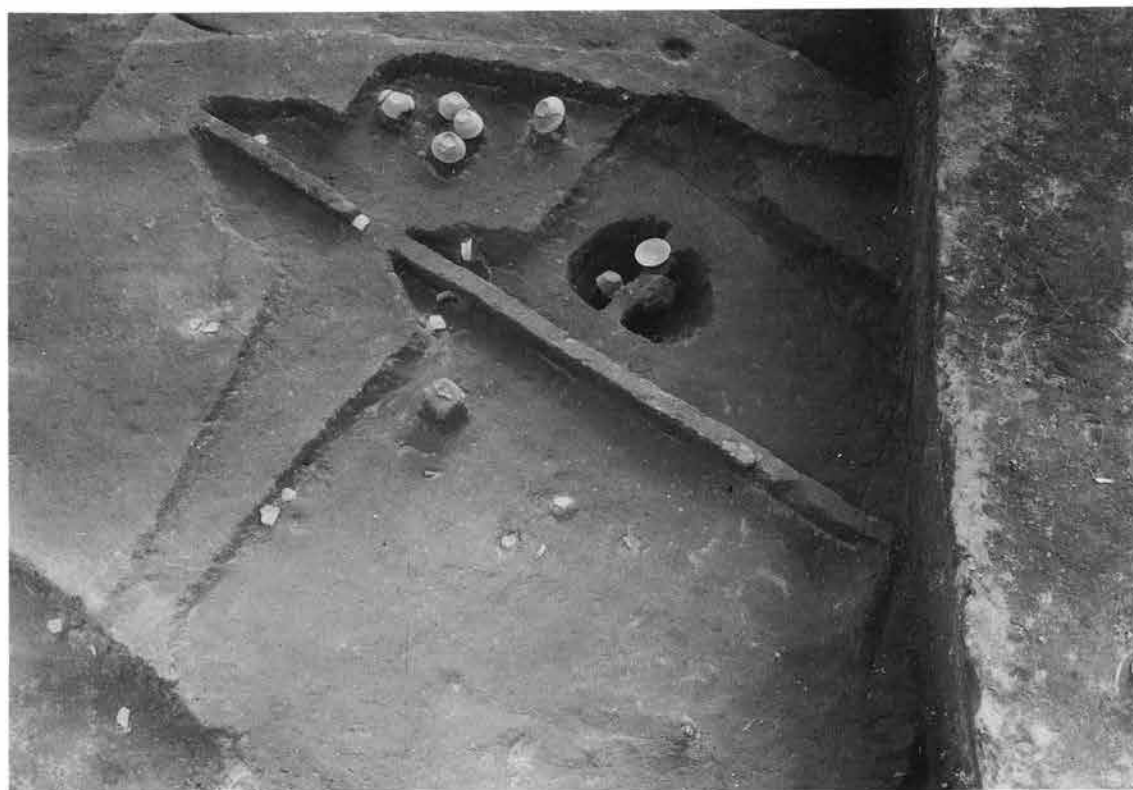
2区24・25・26号住居跡全景



2区24号住居跡竈



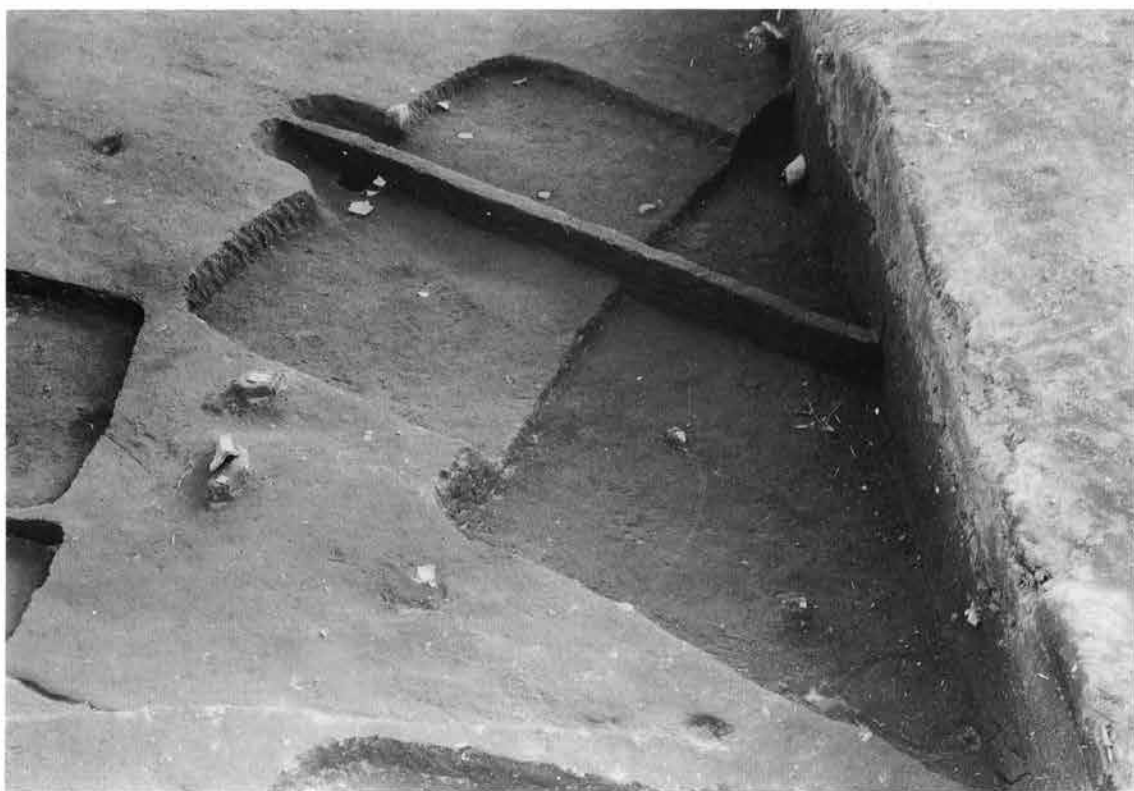
2区34号住居跡全景



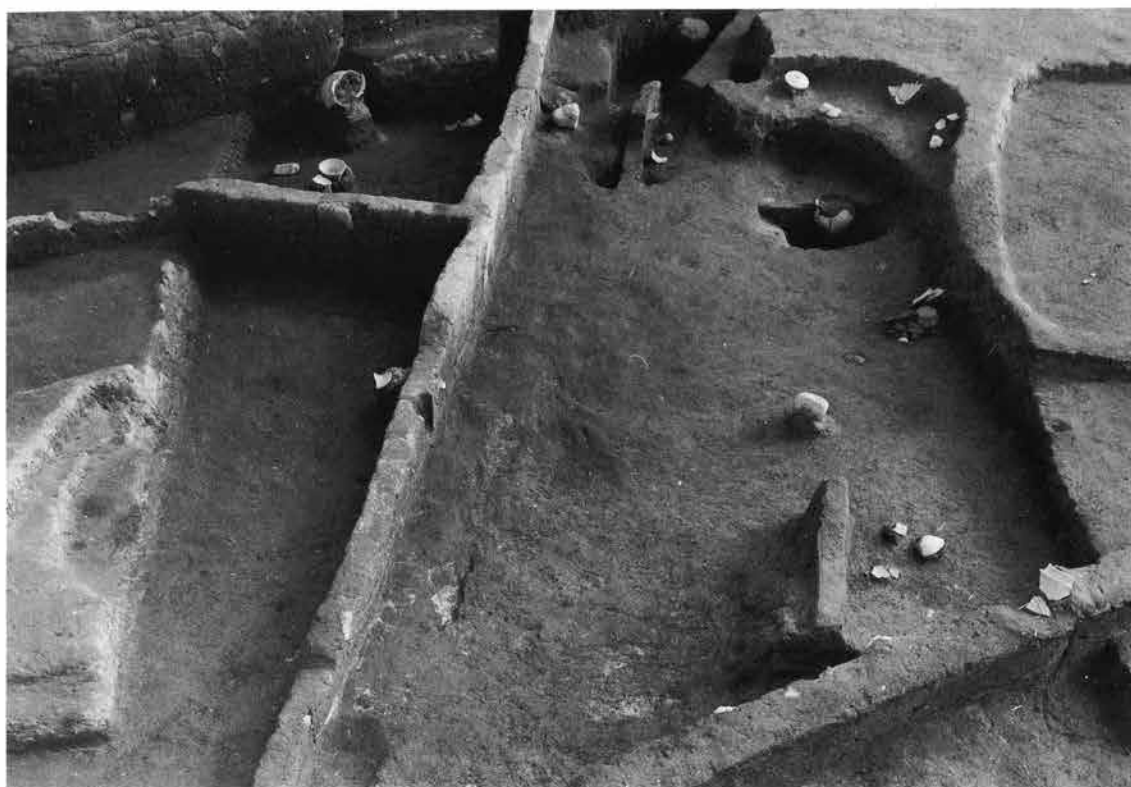
2区36・37号住居跡遺物出土状態全景



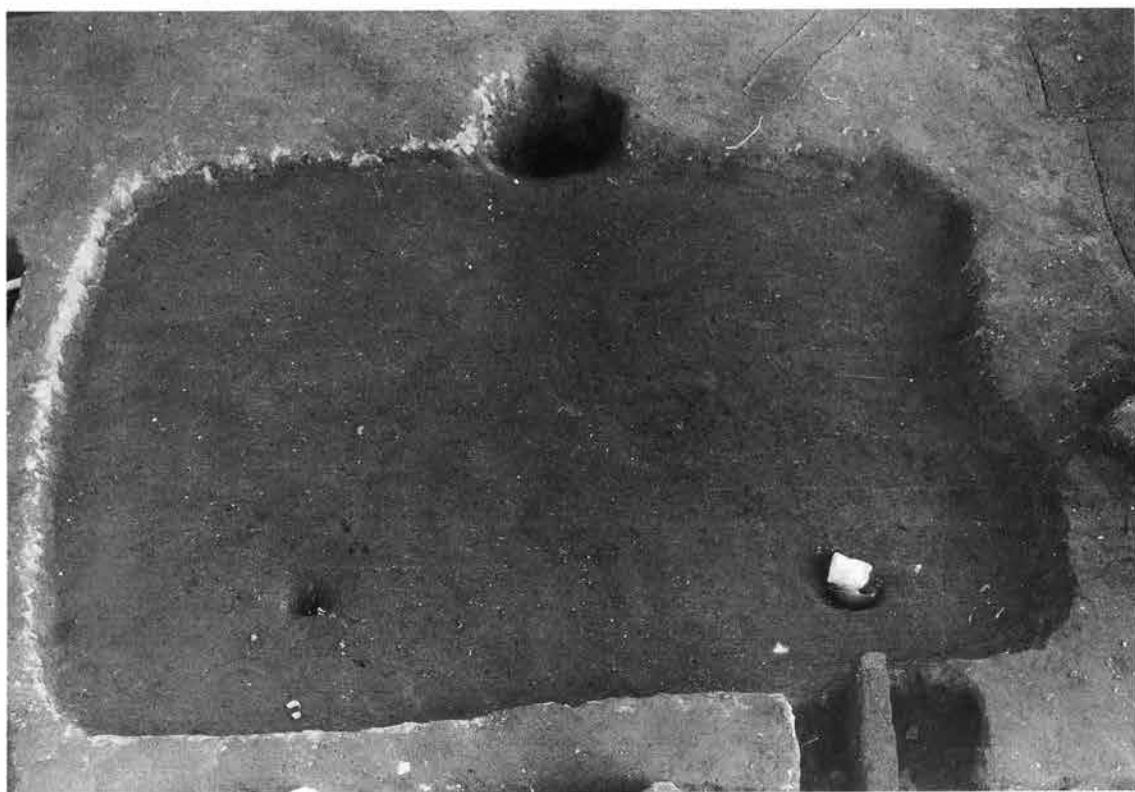
2区36·37号住居跡全景



2区39·40号住居跡遺物出土狀態全景



2区40・41・53号住居跡遺物出土状態全景



2区46号住居跡全景





2区53号住居跡



2区53号住居跡貯藏穴遺物出土狀態



2区57号住居跡竈



2区61号住居跡遺物出土状態全景



2区61号住居跡竈付近遺物出土狀態



2区61号住居跡貯藏穴遺物出土狀態



2区63号住居跡遺物出土状態全景



2区63・67号住居跡全景



2区69·70·76·154号住居迹全景



2区71号住居迹全景



1区80号住居跡遺物出土状態全景



1区80号住居跡全景



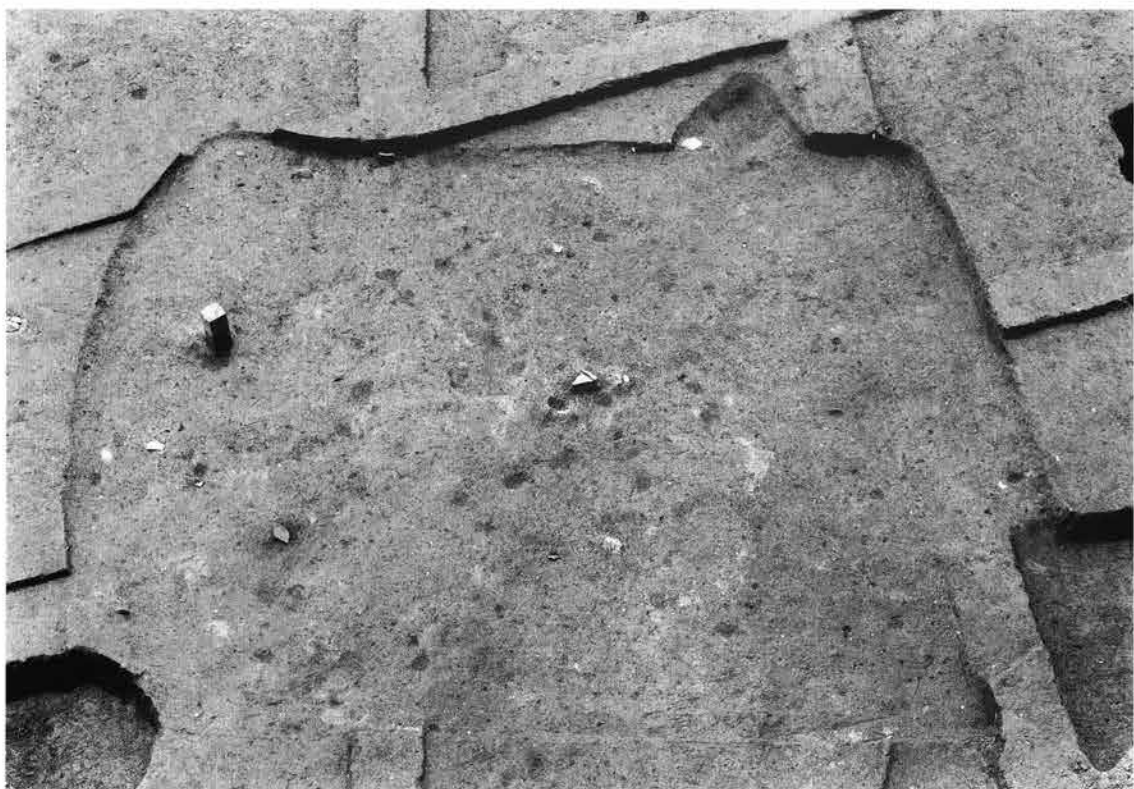
1区81号住居跡竈



1区83・84・85・90号住居跡全景



1区83·85·90号住居跡掘形全景



1区97号住居跡遺物出土状態全景





2区98号住居跡遺物出土状態全景



1区97・107・112号住居跡掘形全景



2区117号住居跡遺物出土狀態全景



2区117号住居跡掘形遺物出土狀態全景



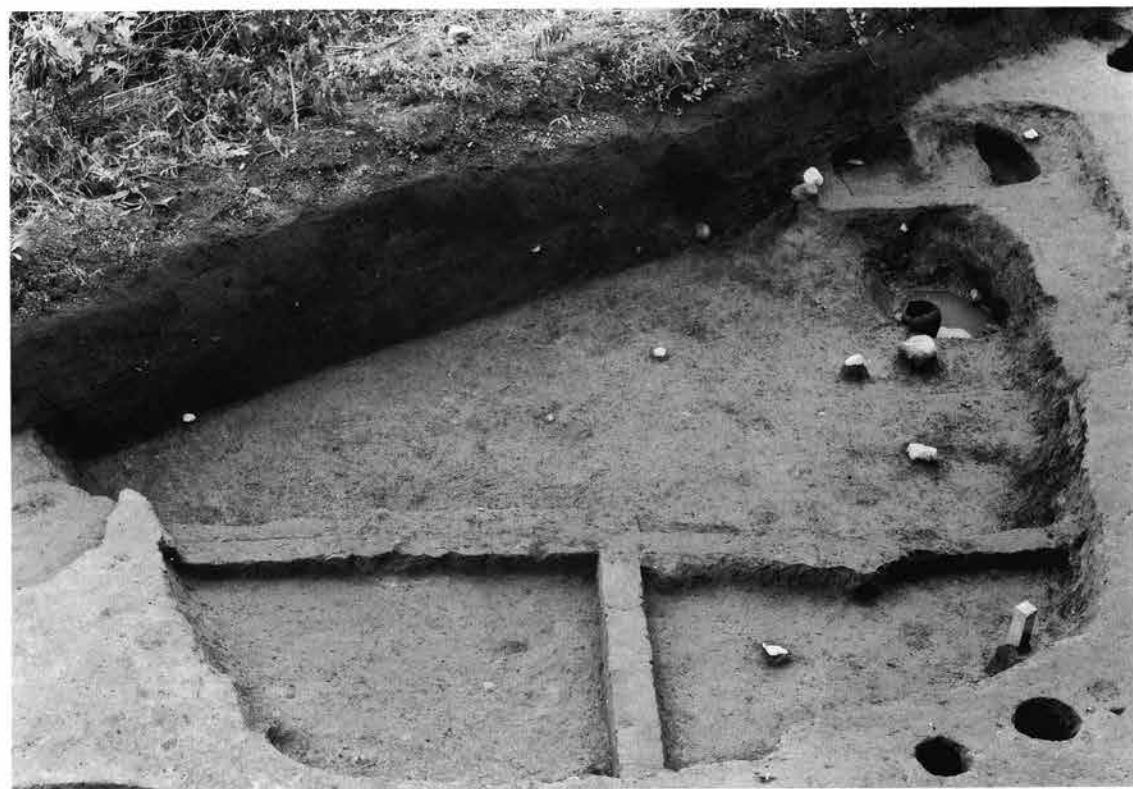
1区118号住居迹全景



2区58·120号住居迹全景



1区122号住居跡遺物出土状態全景



1区122号住居跡全景



1区122号住居跡掘形全景



1区122号住居跡鉄製鎌出土状態



2区133号住居跡遺物出土状態全景



2区133号住居跡全景



2区137号住居跡遺物出土状態全景



2区141号住居跡遺物出土状態全景



2区141号住居迹全景



2区141号住居迹掘形全景





2区143号住居迹遗物出土状态全景



2区143号住居迹全景



2区148号住居跡遺物出土状態全景



2区149号住居跡遺物出土状態全景



2区149号住居跡掘形遺物出土狀態全景



2区150号住居跡遺物出土狀態全景



2区152号住居跡掘形全景



1区1・2・3・4・5号溝跡全景（本線部分）



1区8号溝跡  
全景（東側道  
部分・北より）



1区8・9・11  
・12号溝跡全景  
（東側道部分・  
西より）



1区14号溝跡  
全景（東側道部  
分・南西より）



2区8・9・10号溝  
跡全景（東側道部分・  
南西より）



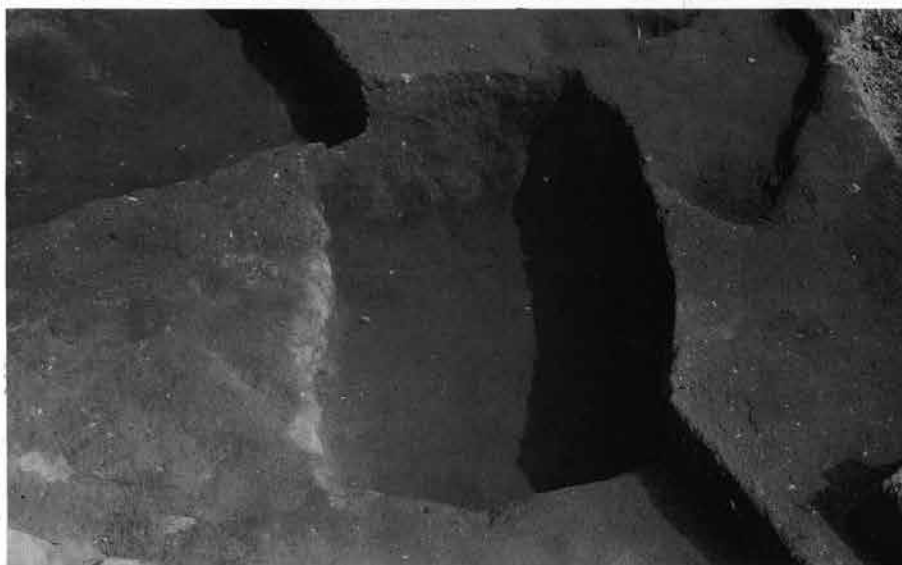
2区18号溝跡全景（東側道部分・  
南西より）



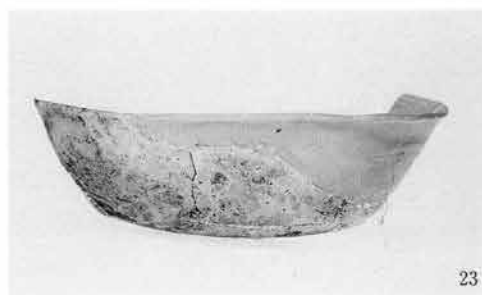
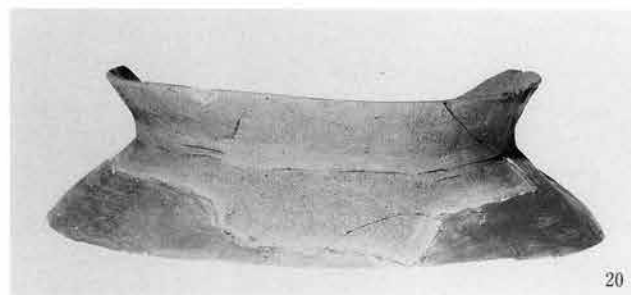
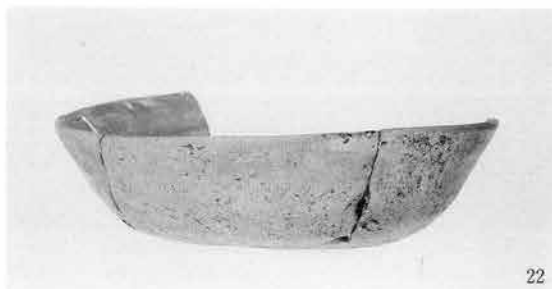
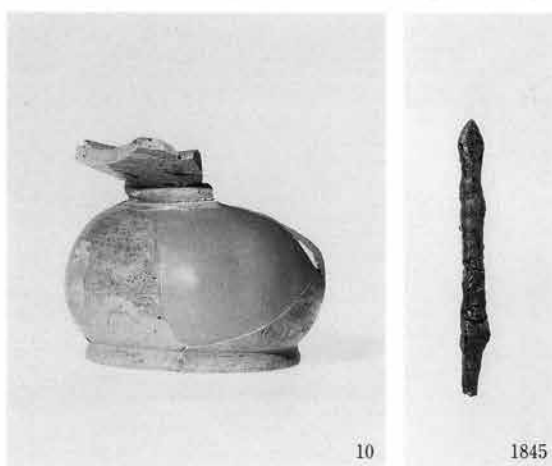
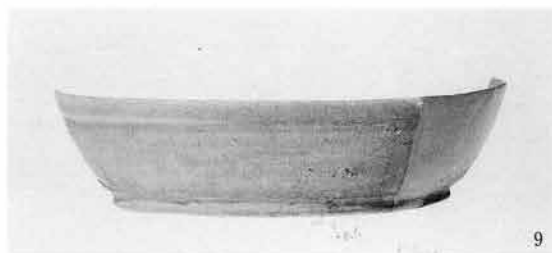
2区8・9・10号  
溝跡全景（東側道  
部分・南西より）



3区2号溝跡全景  
（西側道部分・  
北東より）

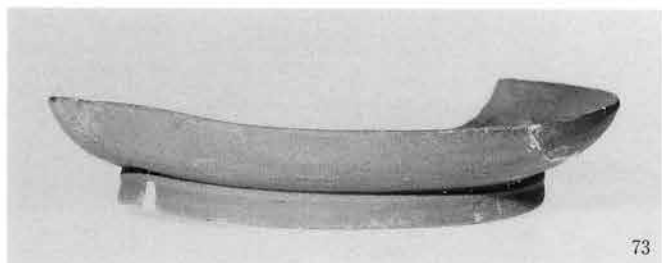
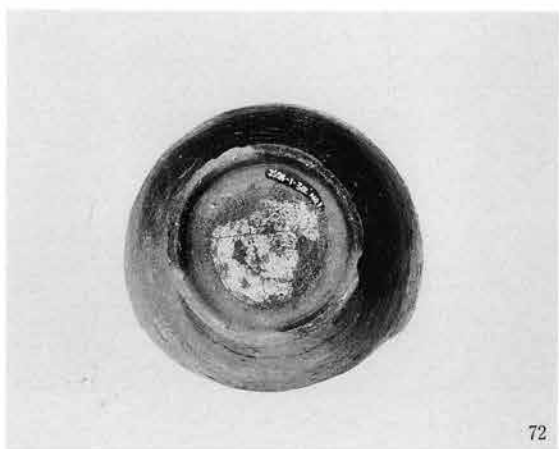
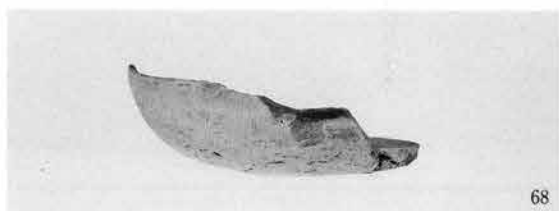
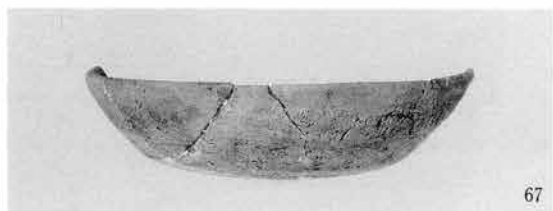
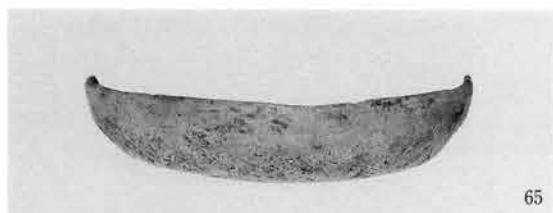
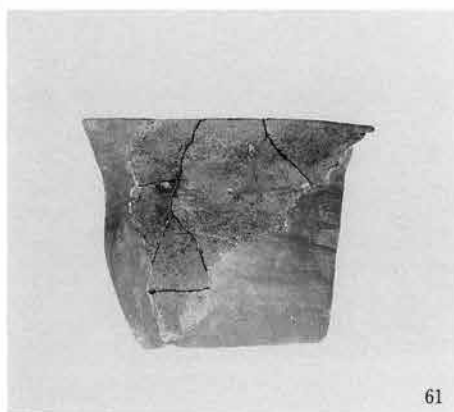


1区3号土坑全景

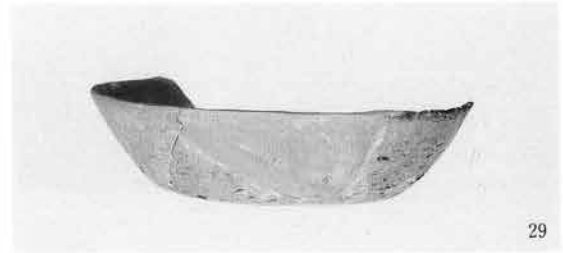
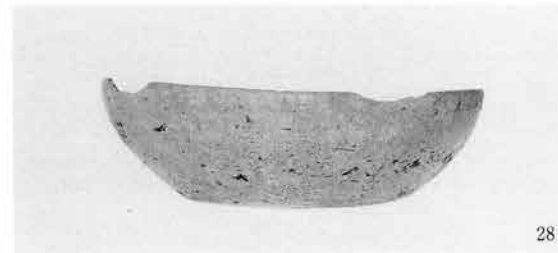
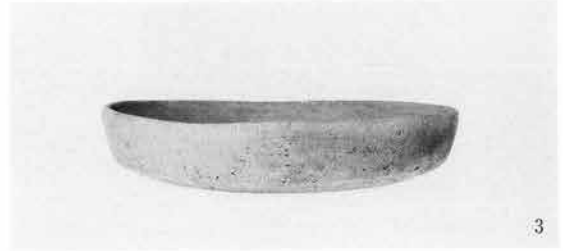
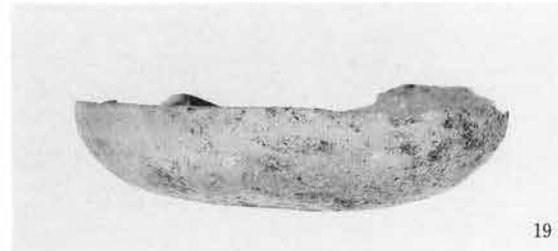
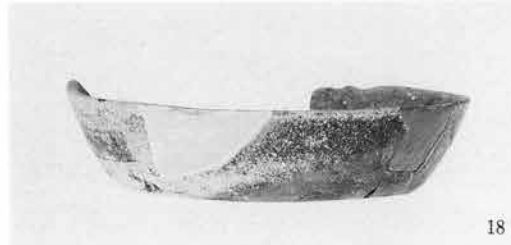
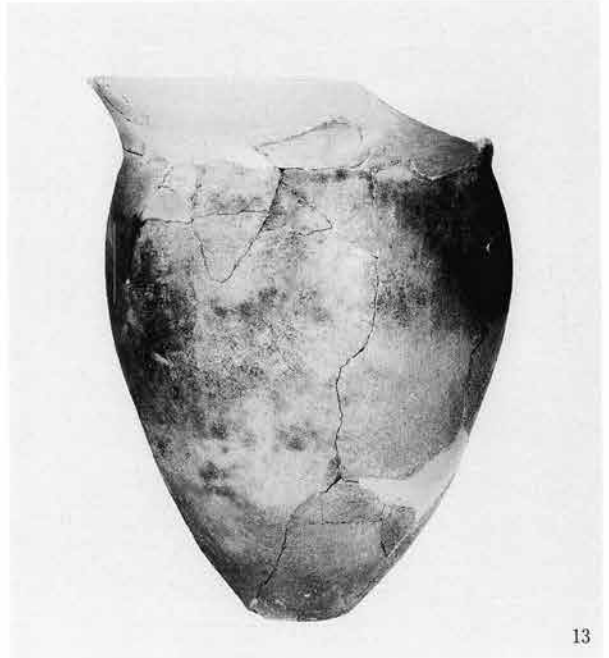
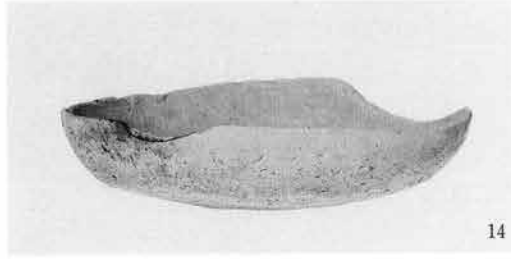
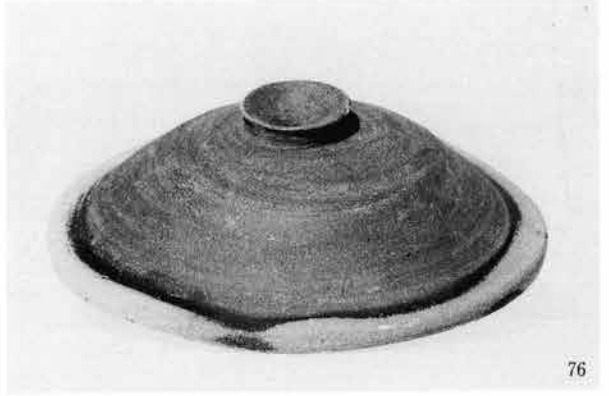


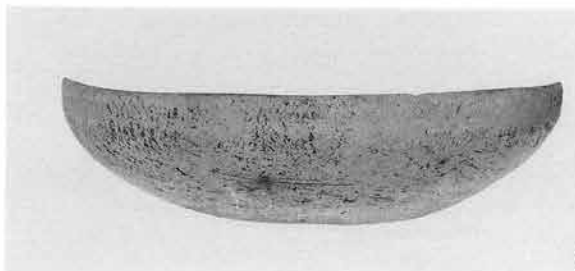
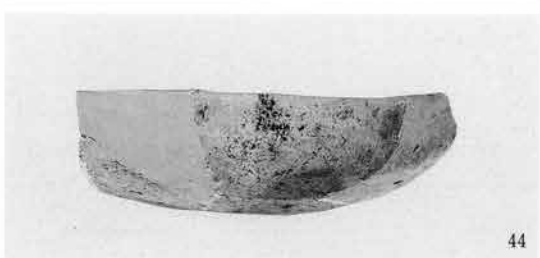
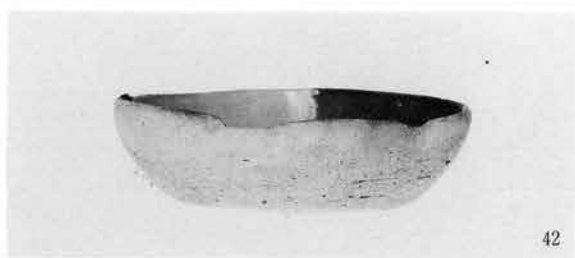
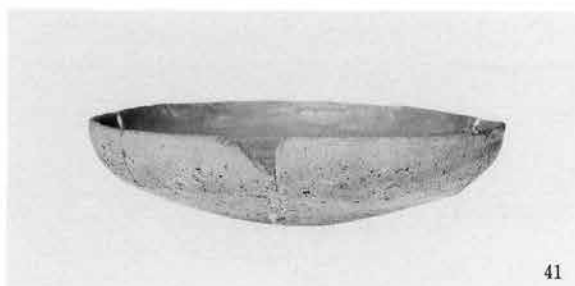
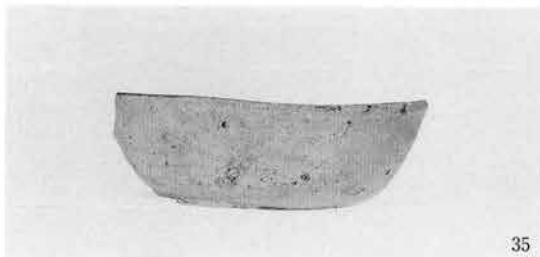
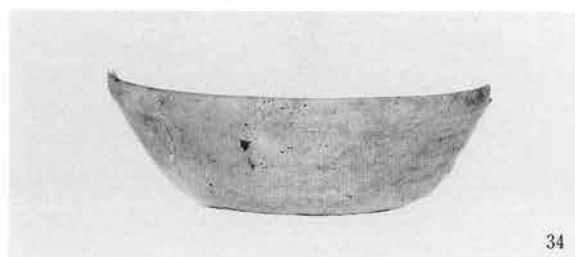
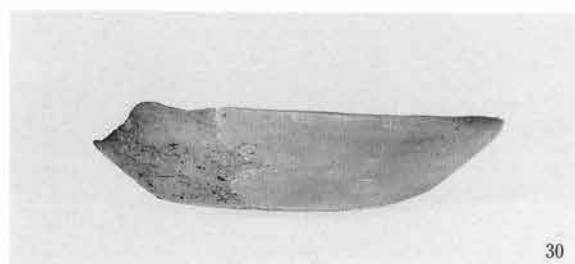
1区1・2号住居跡出土遺物



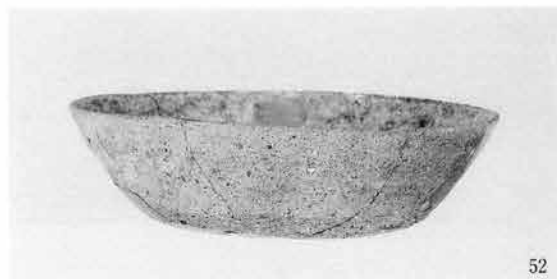
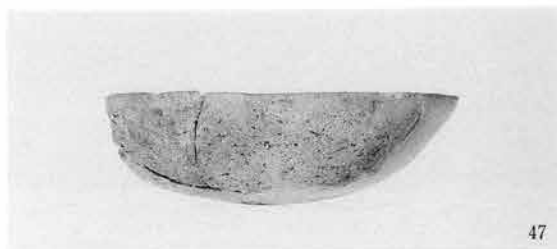
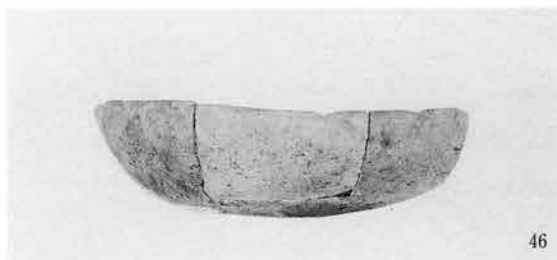


1区3号住居跡出土遺物

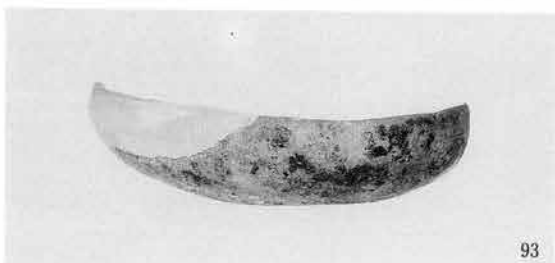
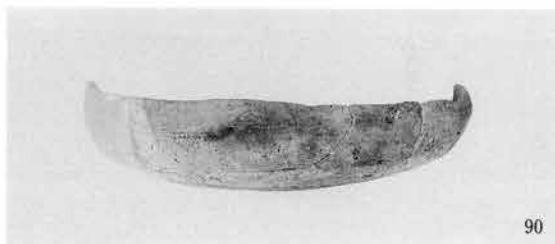
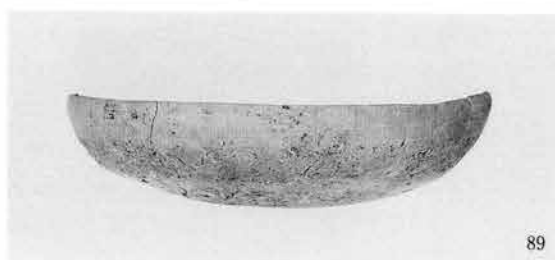
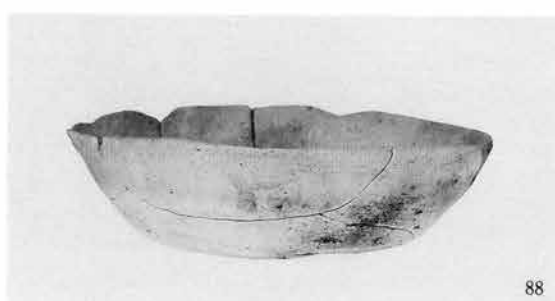
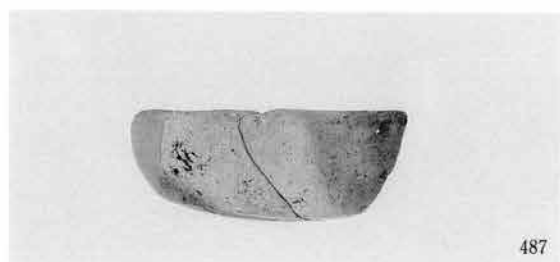




1区5・6号住居跡出土遺物

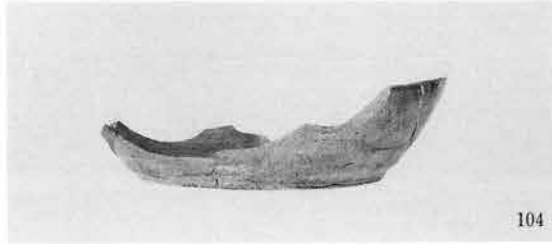
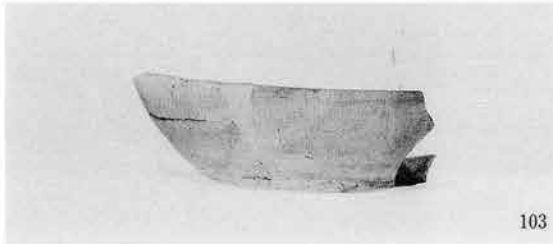
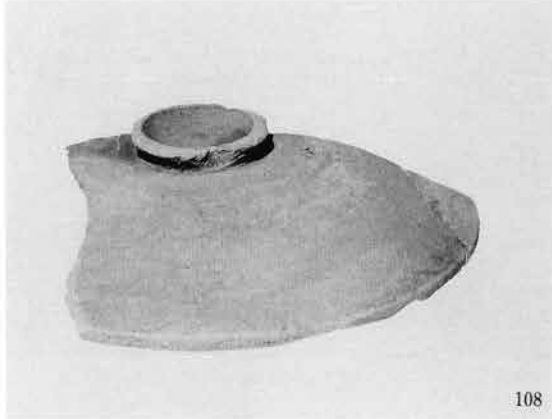
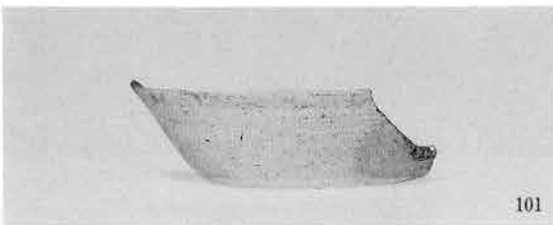
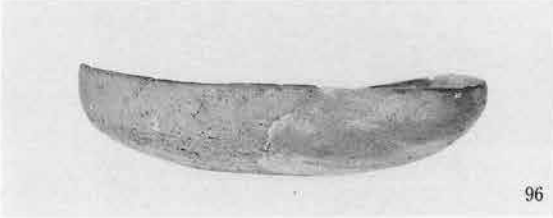
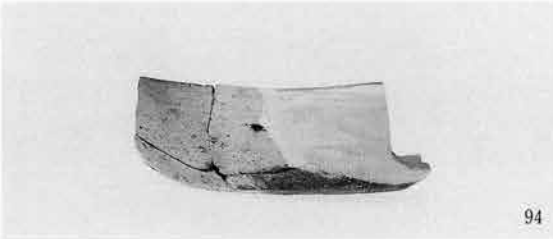


1区6号住居跡出土遺物

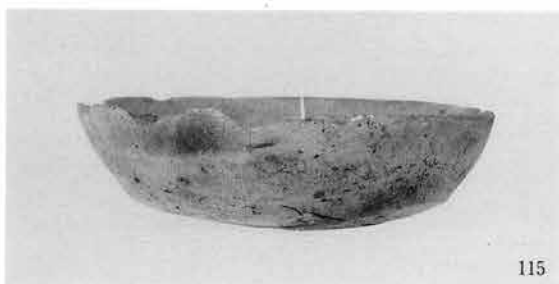
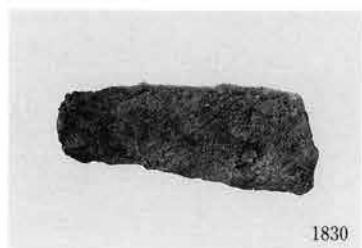
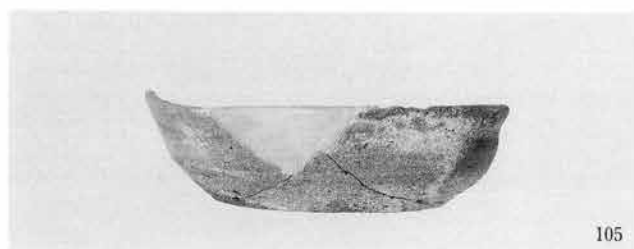


1区7・8号住居跡出土遺物

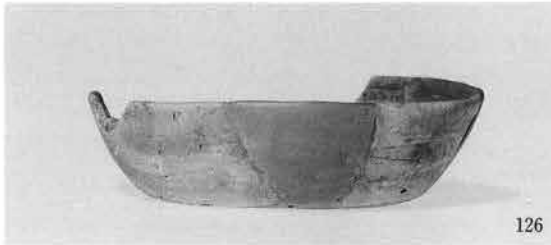
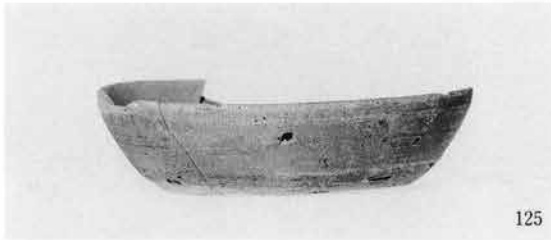
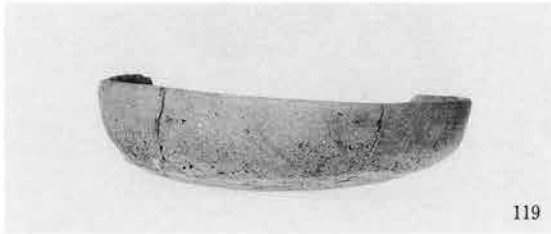
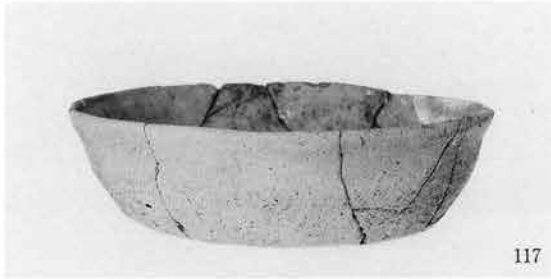
图版50



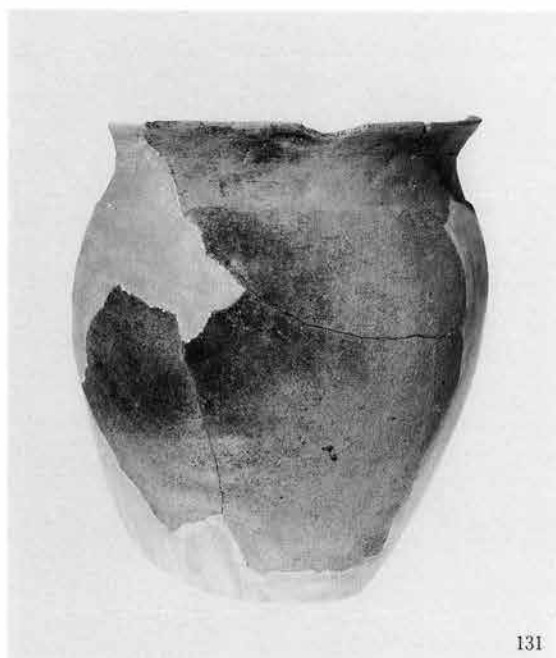
1区8号住居跡出土遺物



1区8・9号住居跡出土遺物



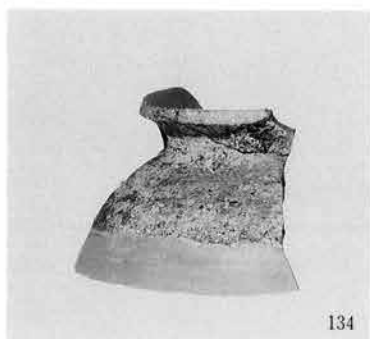




131



132



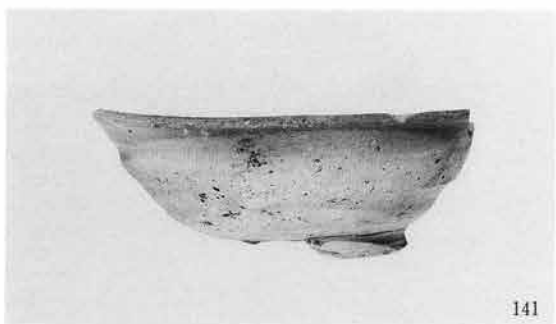
134



1855



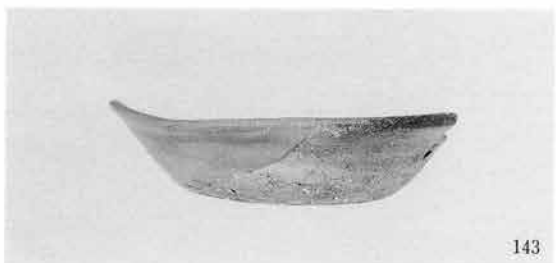
140



141



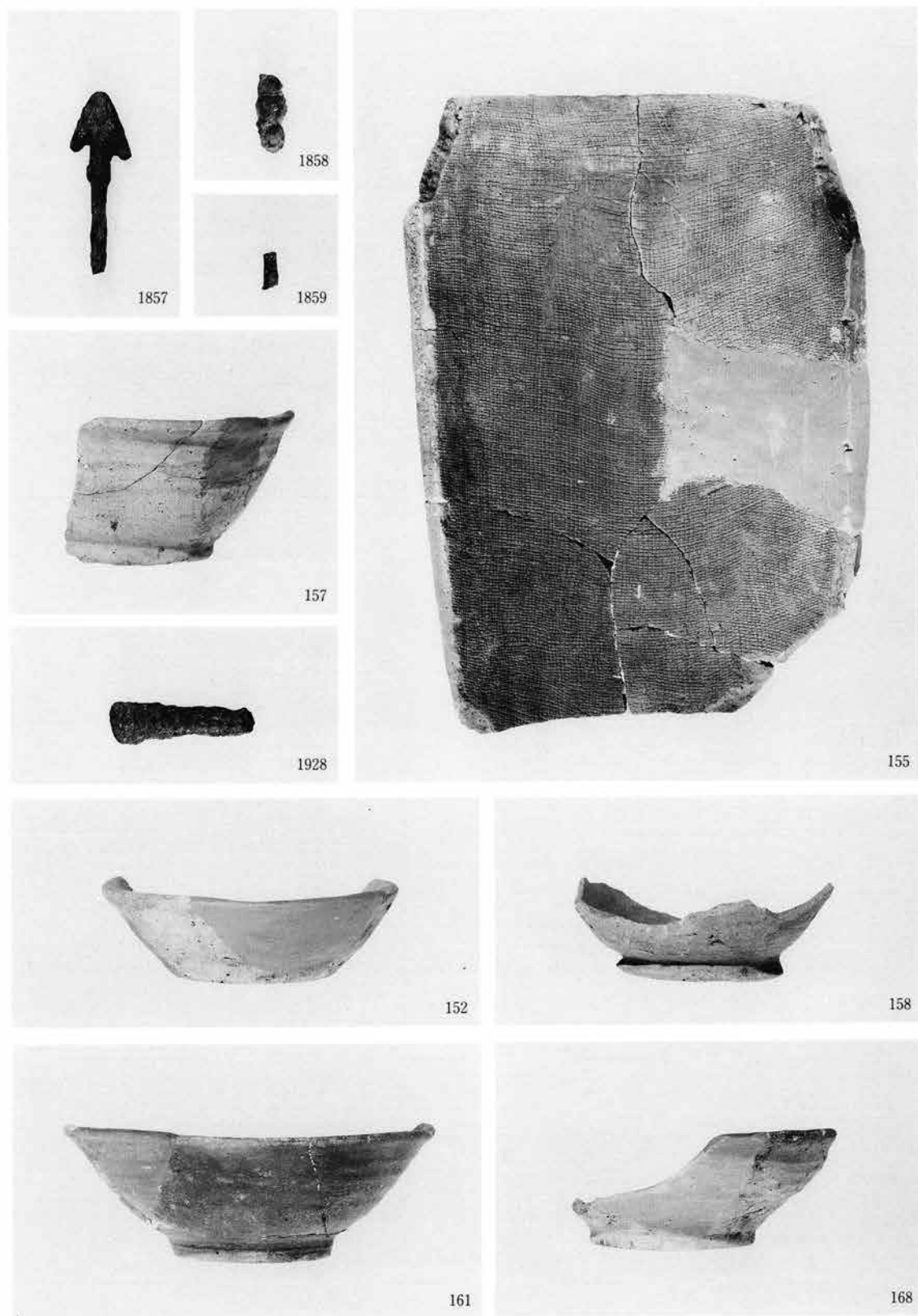
142



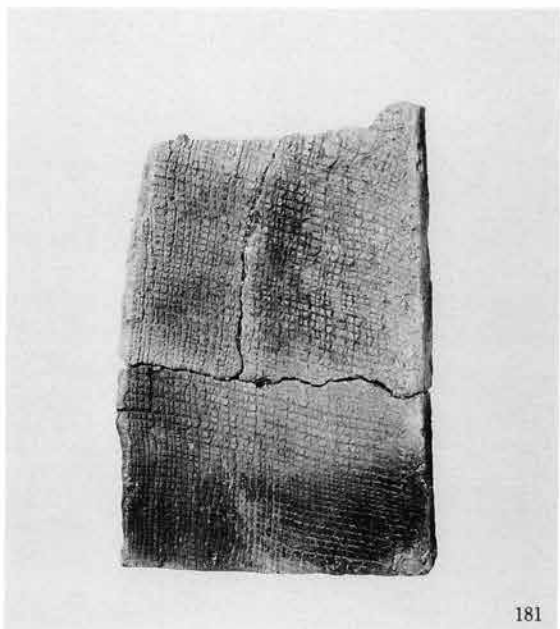
143

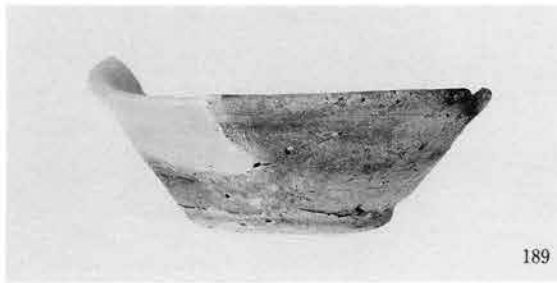
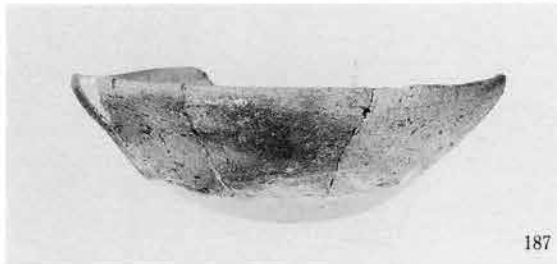


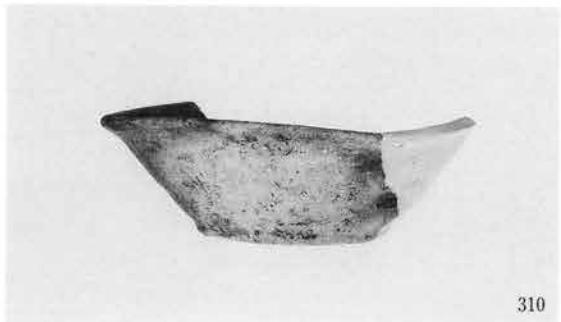
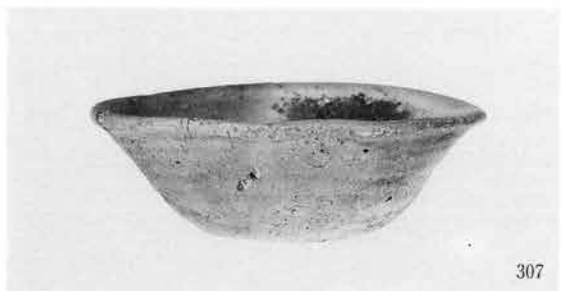
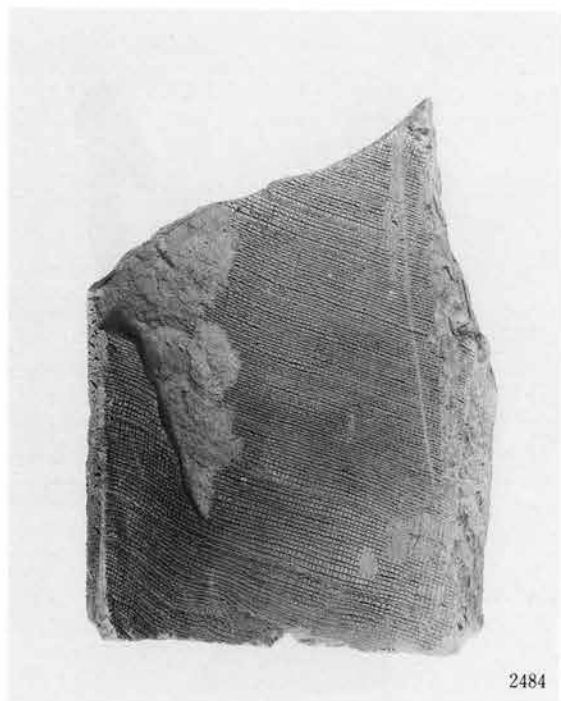
145

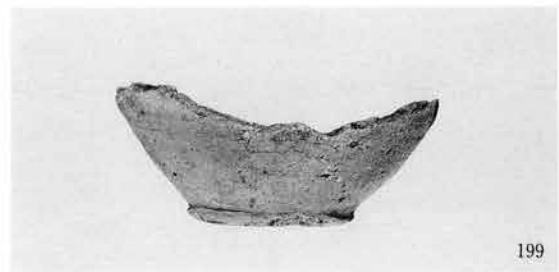
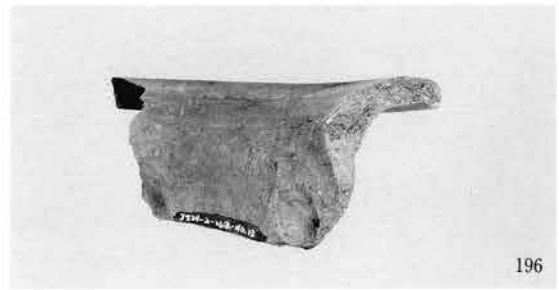
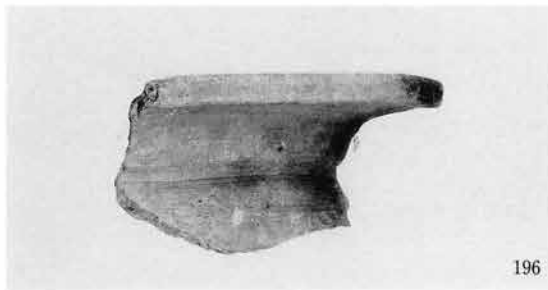
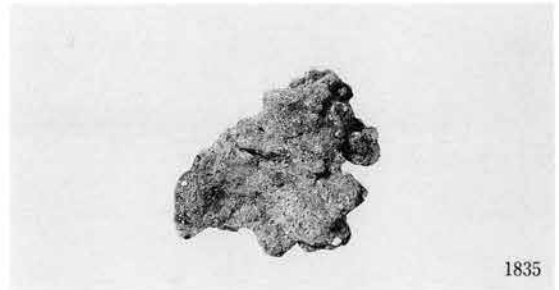
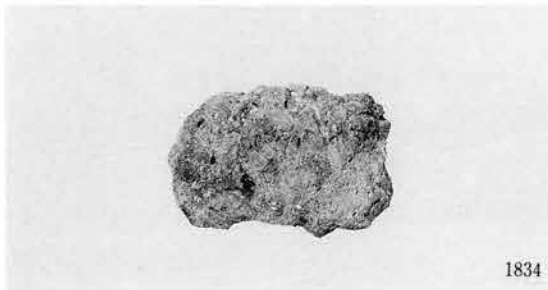
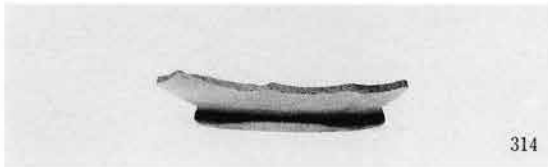
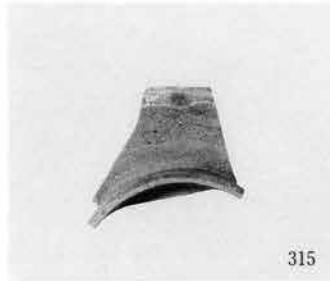
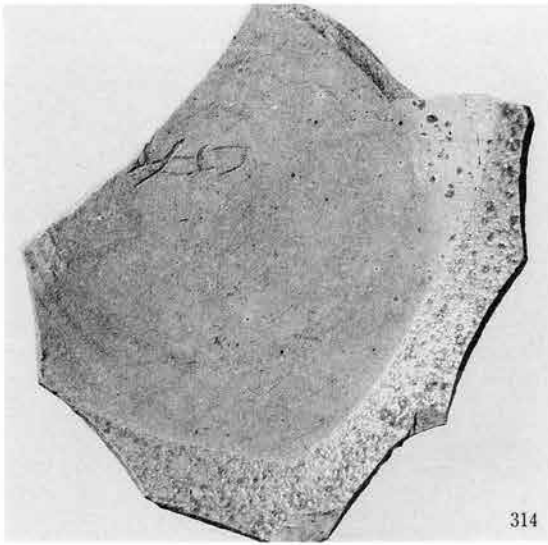


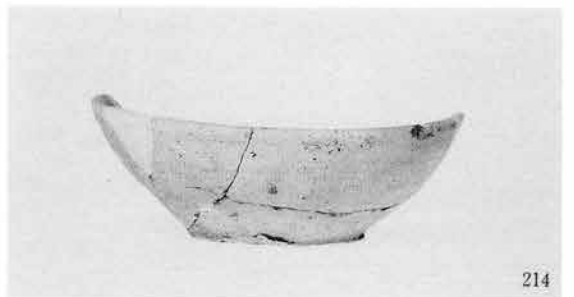
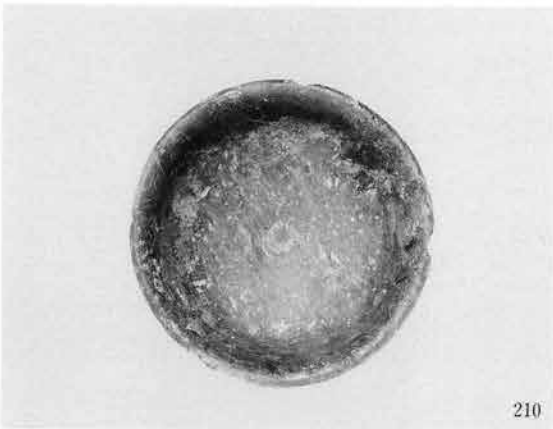
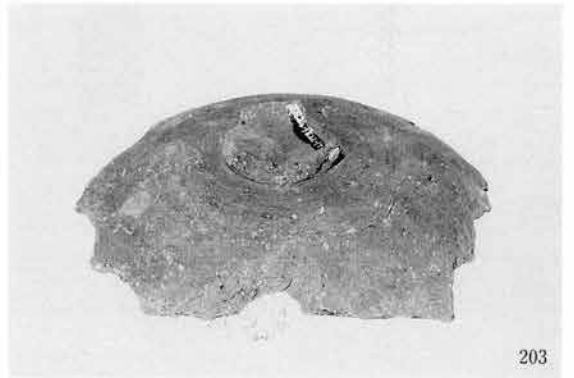
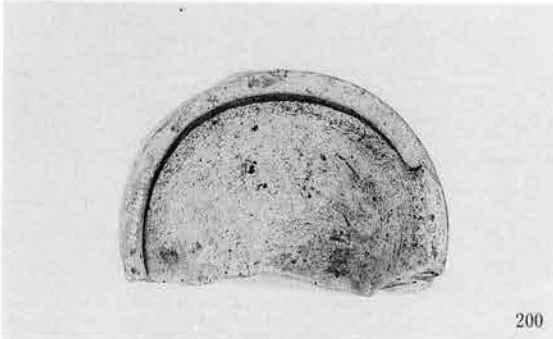
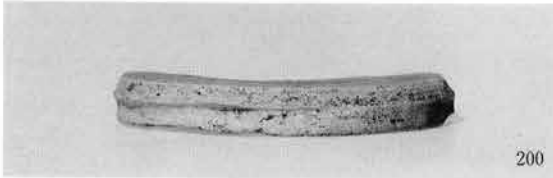
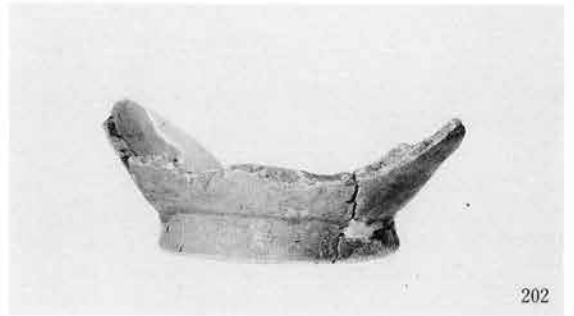
2区15・16・17号住居跡出土遺物

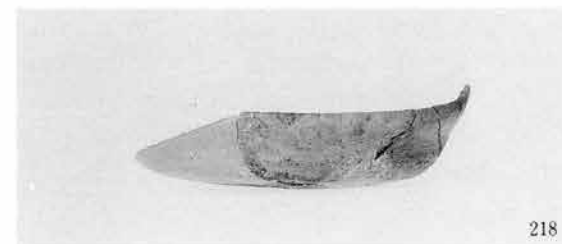
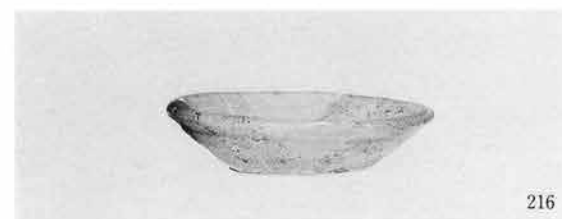
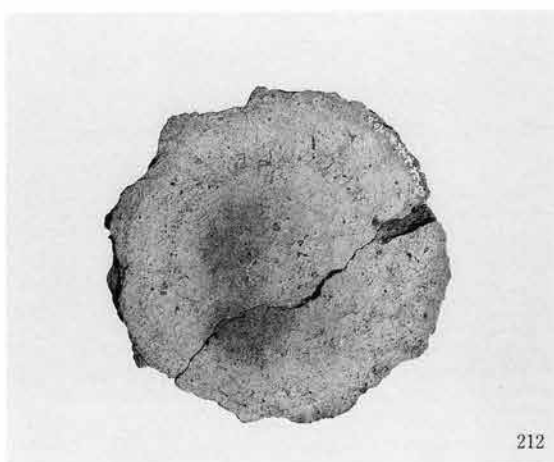
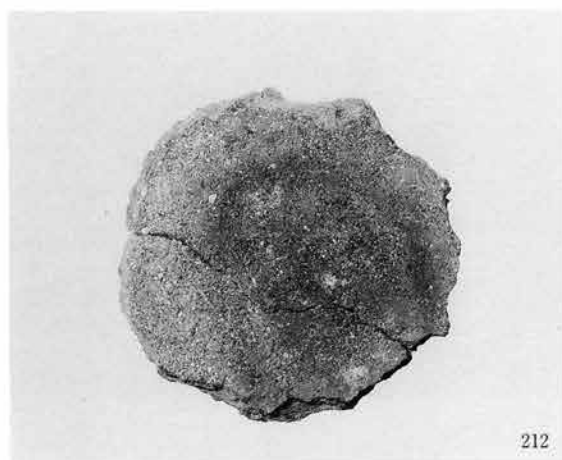




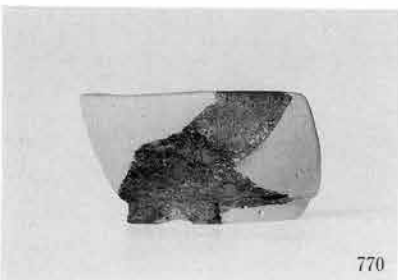
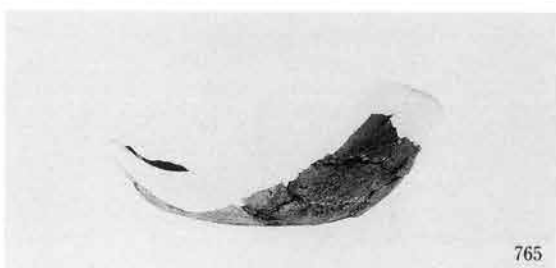
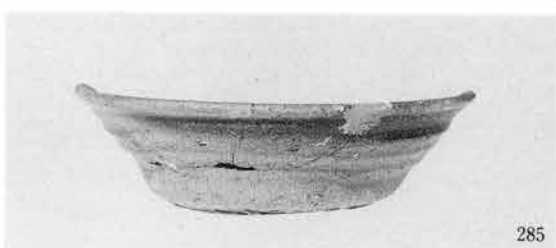
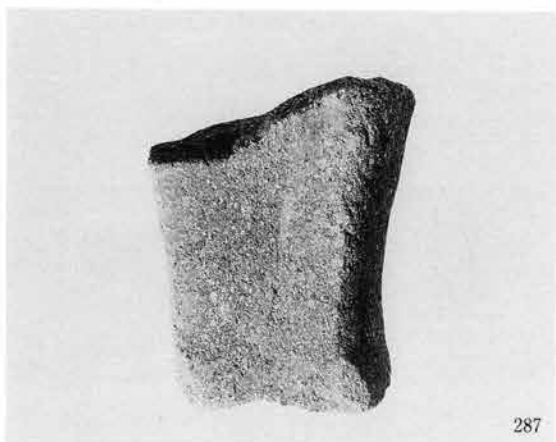
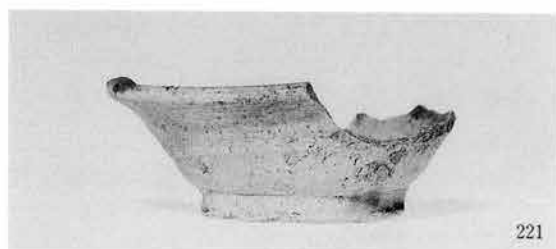


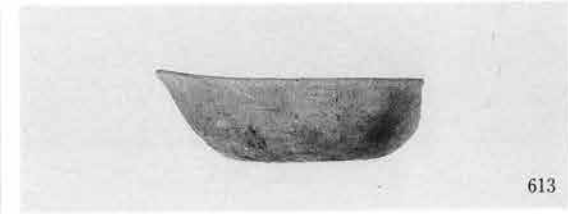
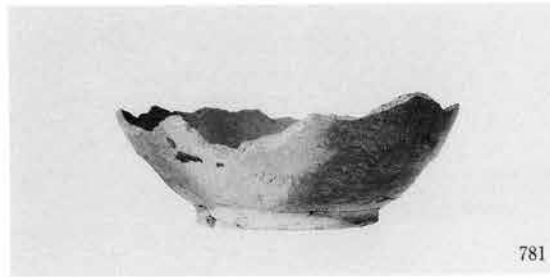
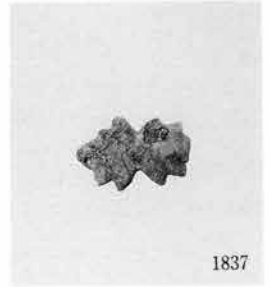
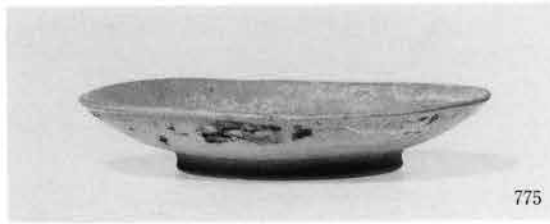
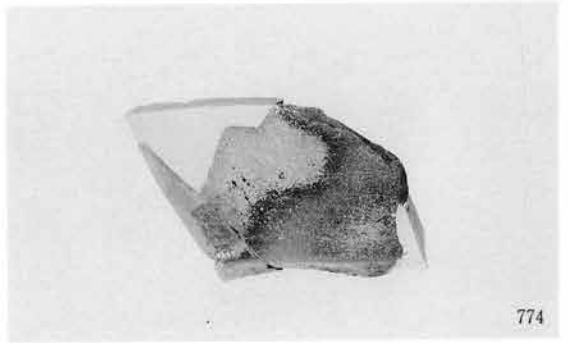


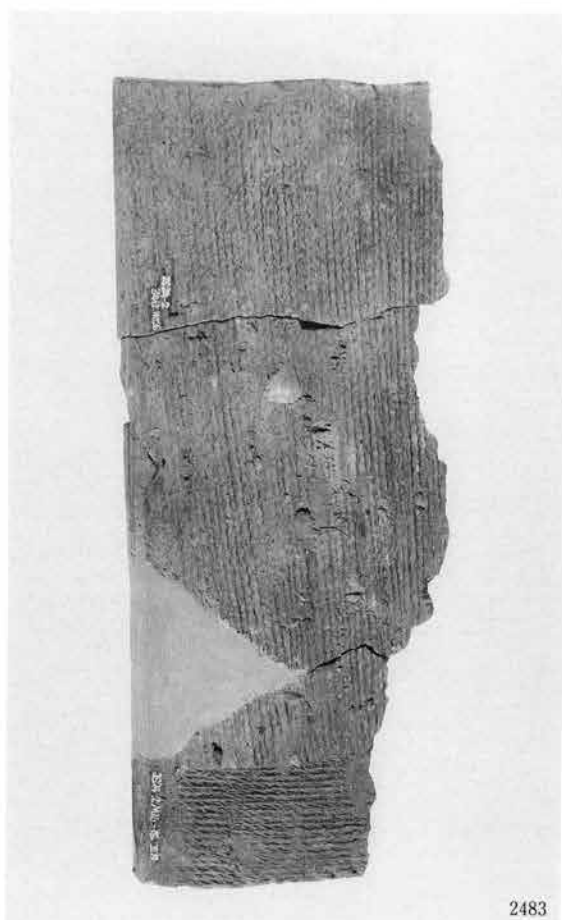
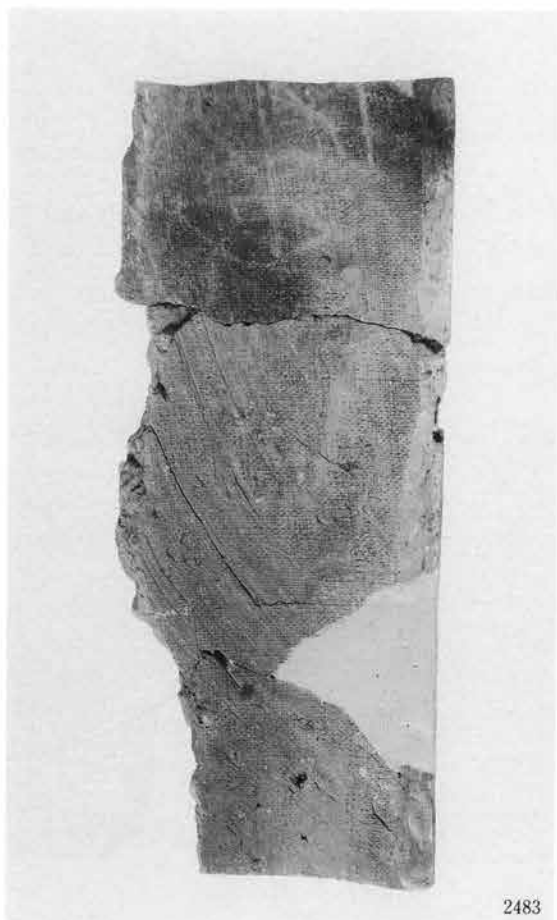






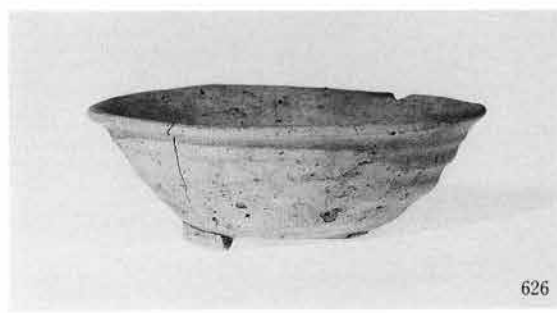
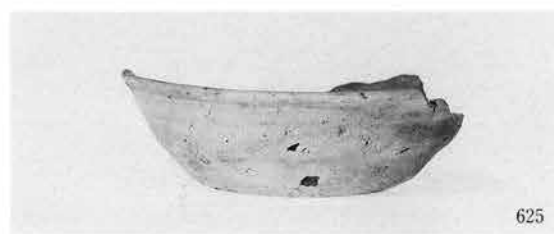
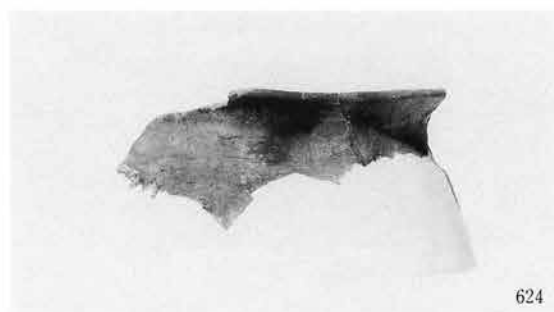


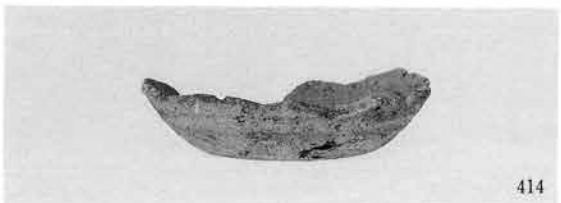
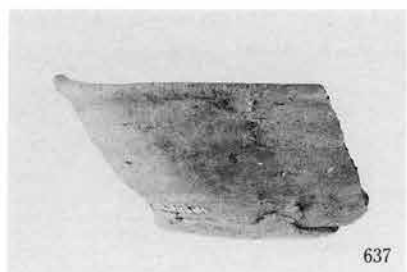
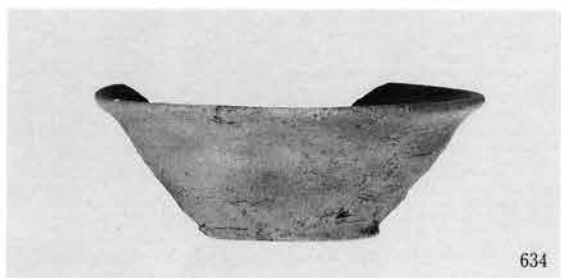
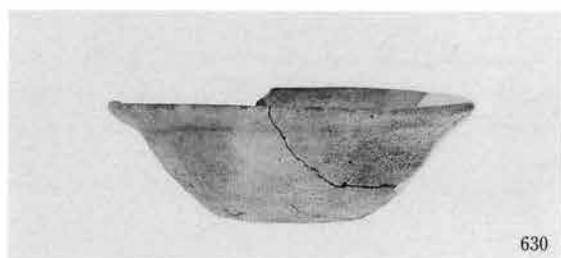


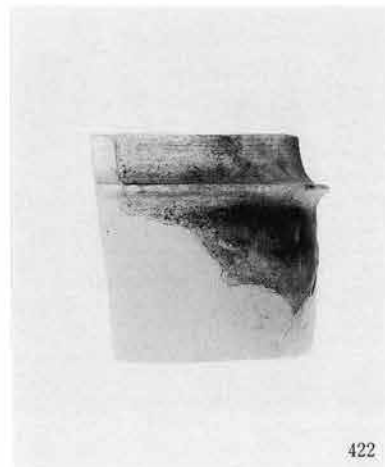
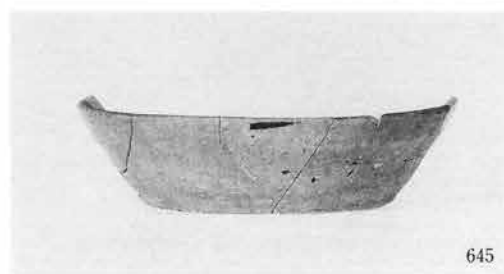
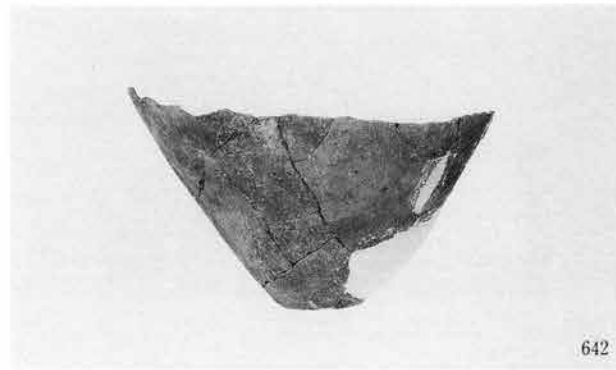
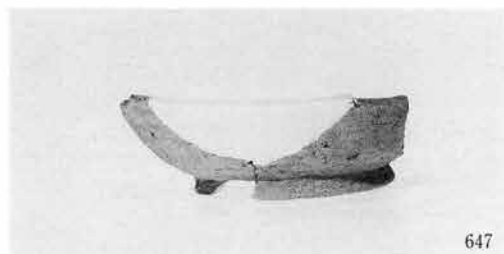
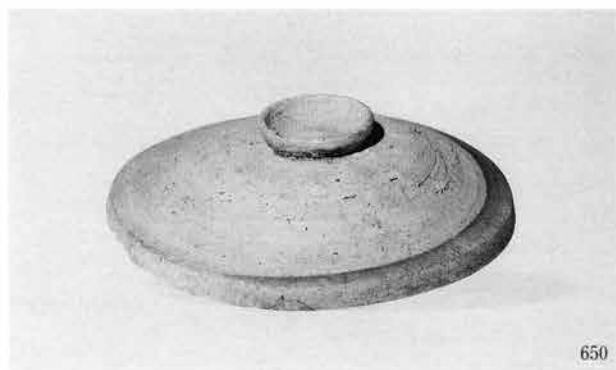
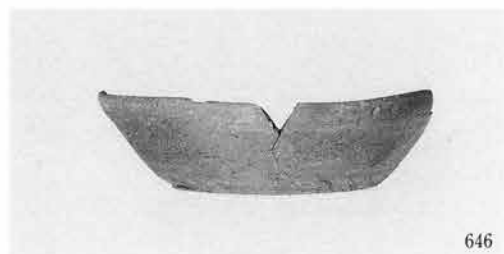
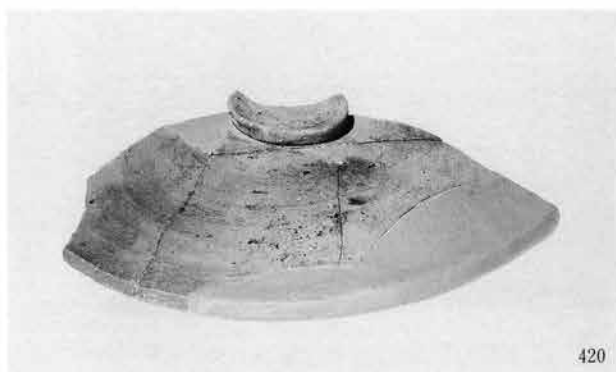
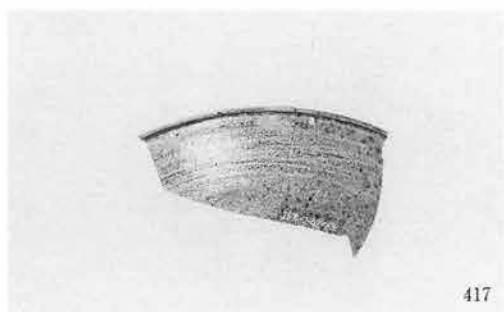


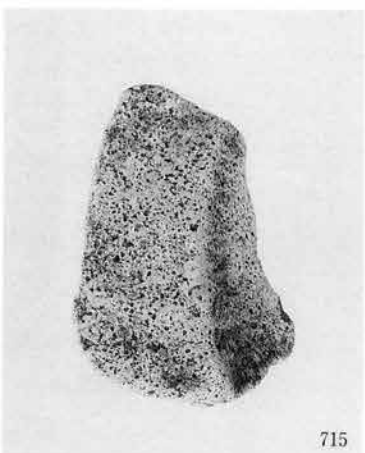
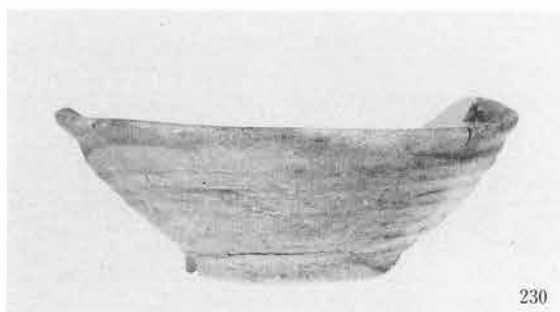
2区34号住居跡出土遺物

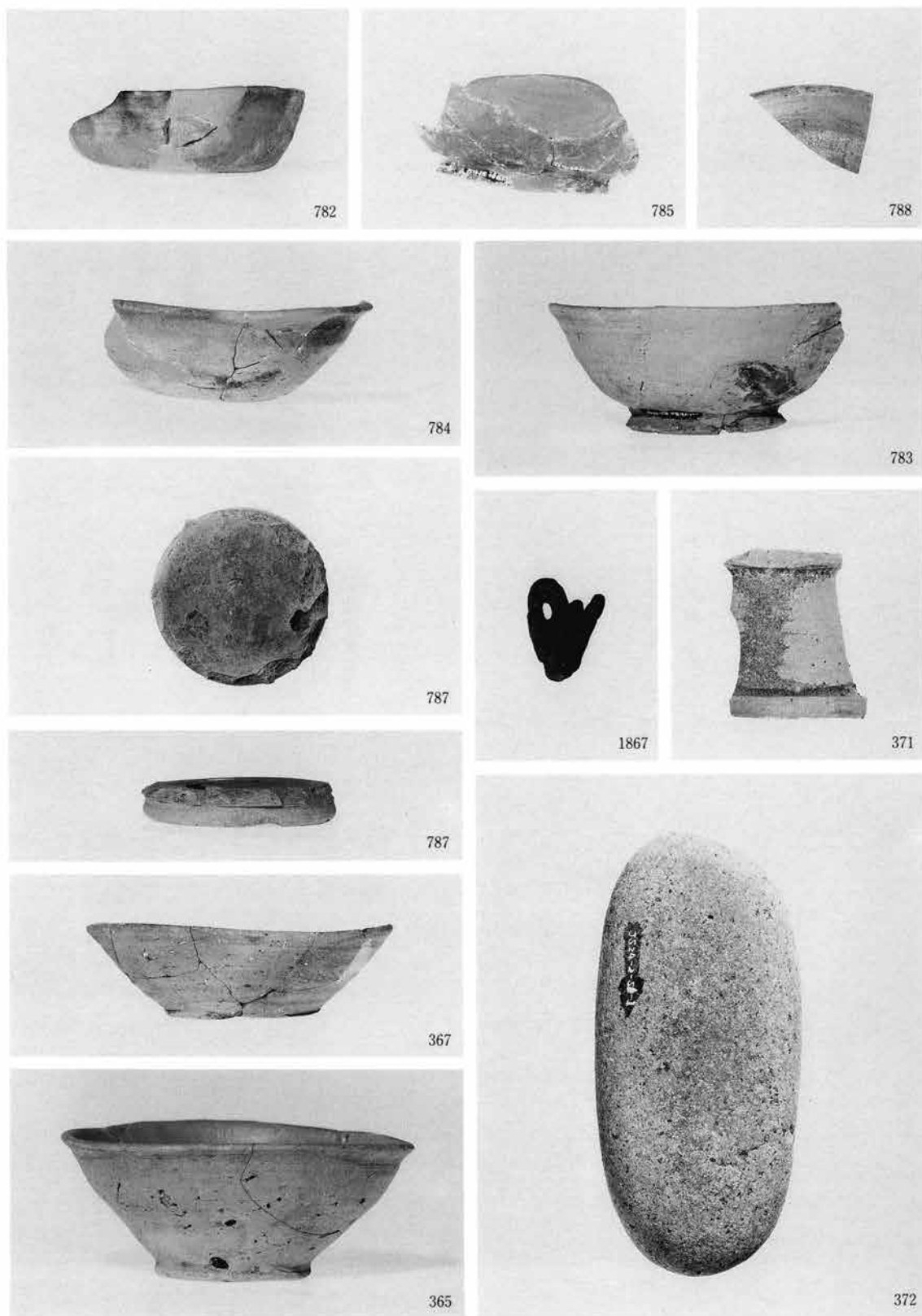
图版64



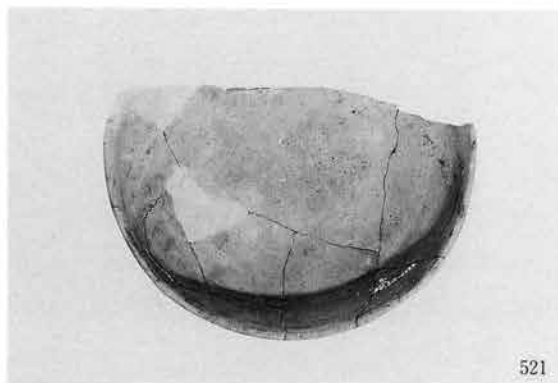
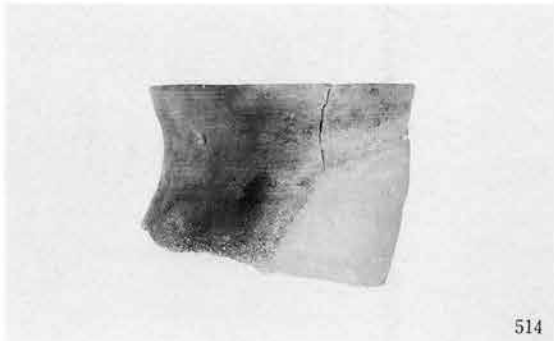
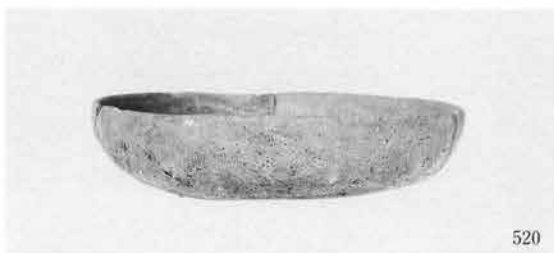
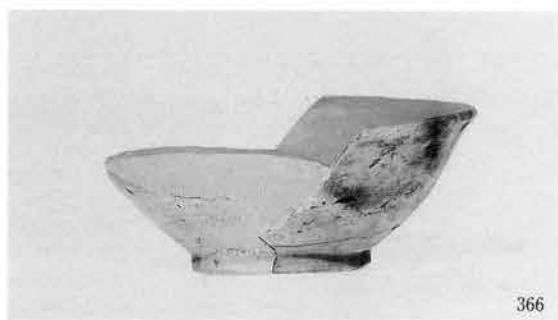


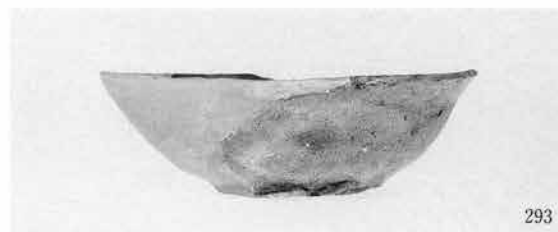
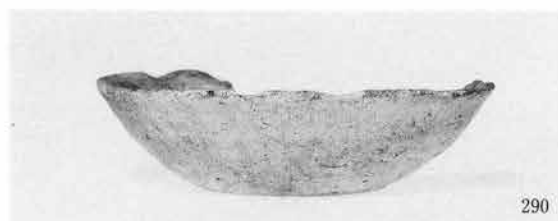
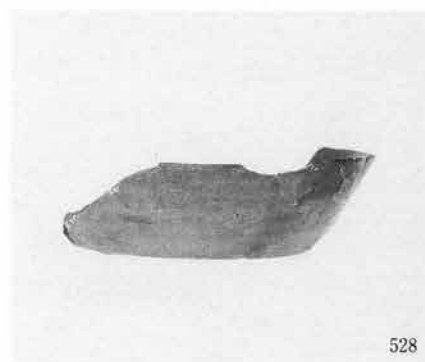
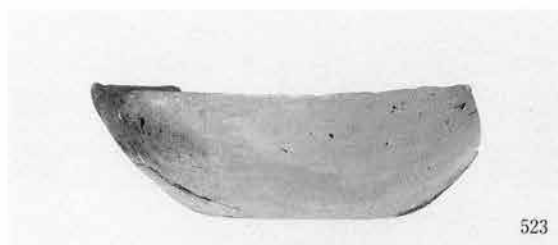


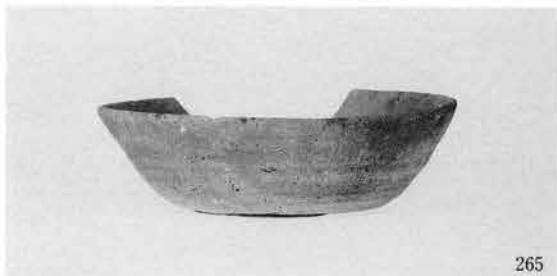
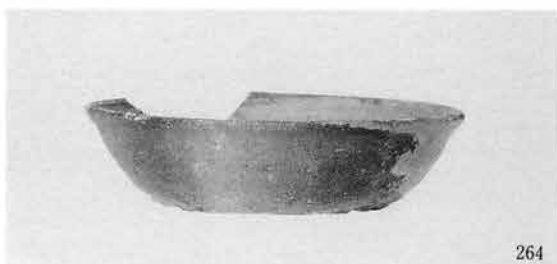
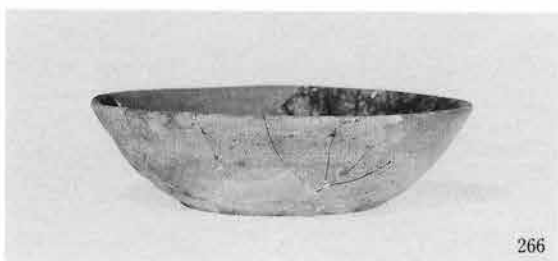
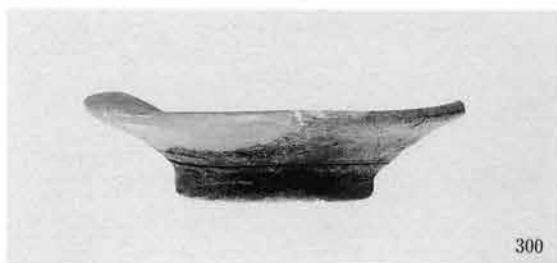
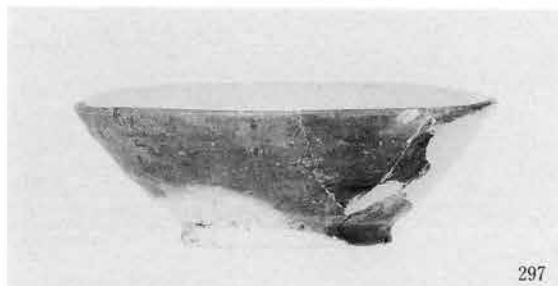
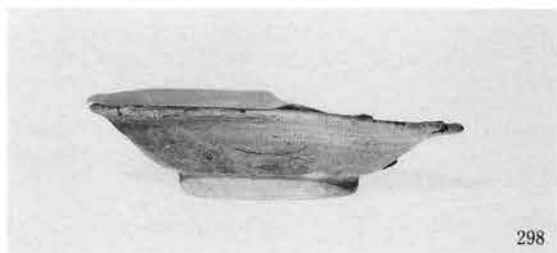
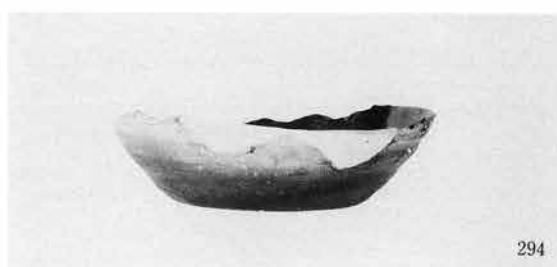




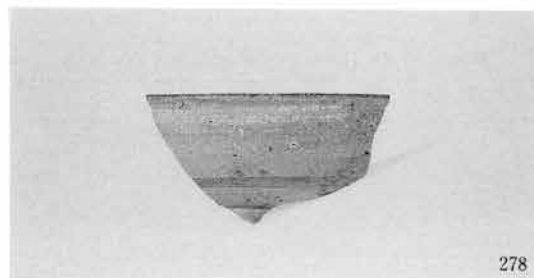
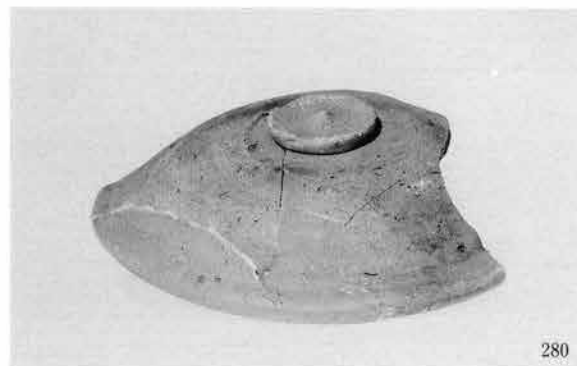
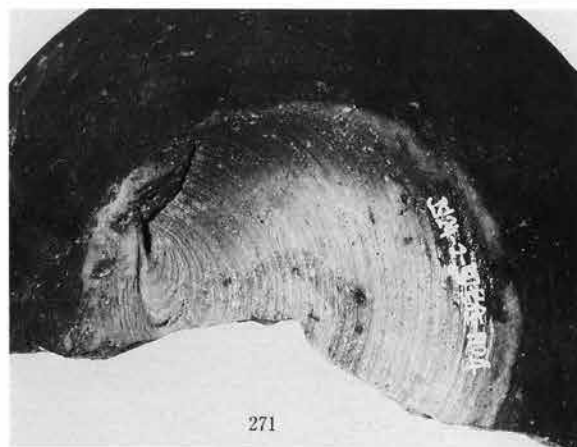
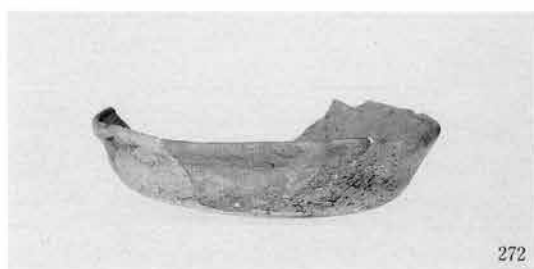
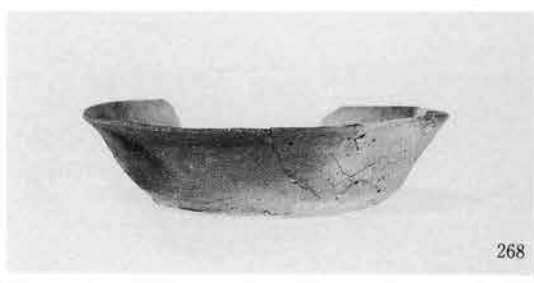




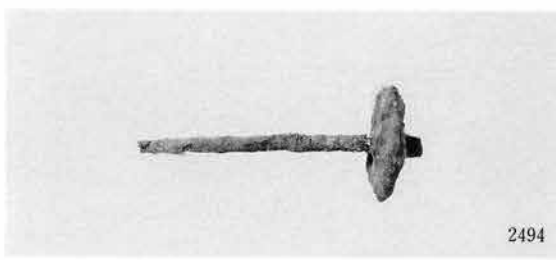
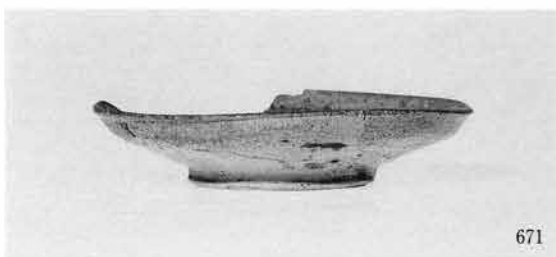
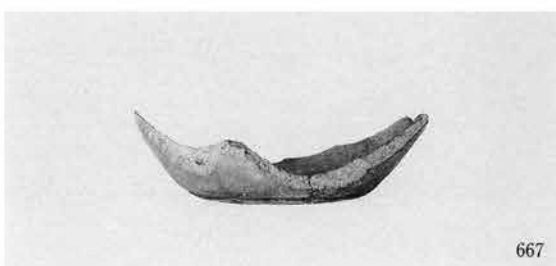
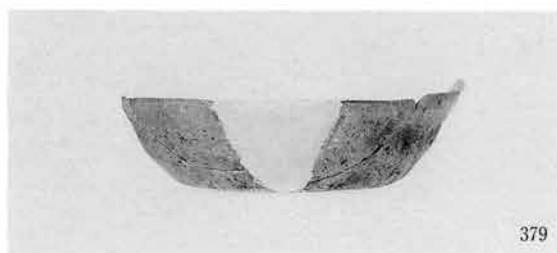
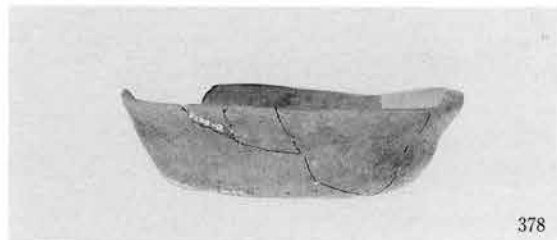
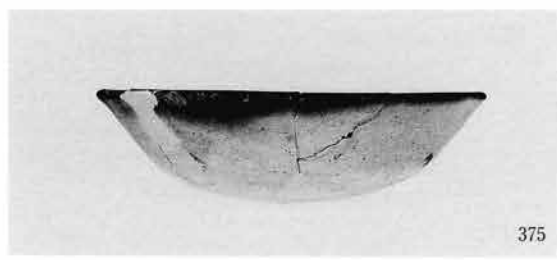
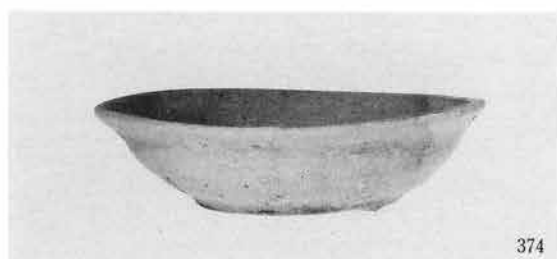


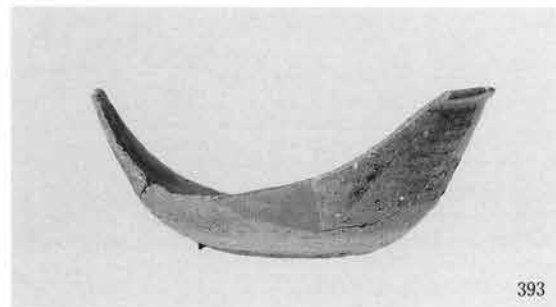
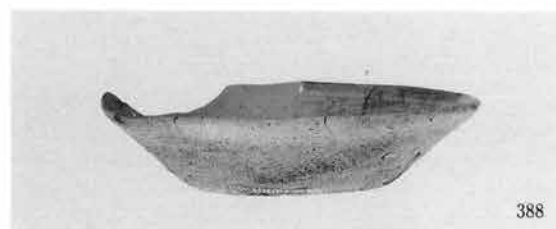
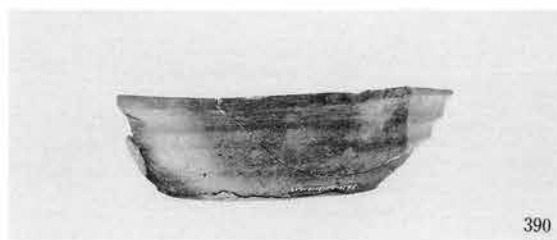
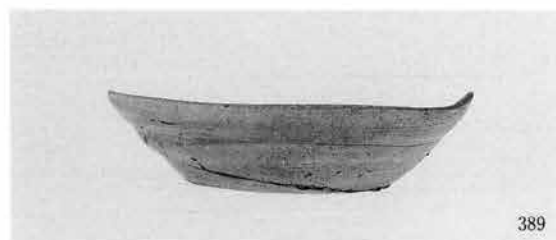
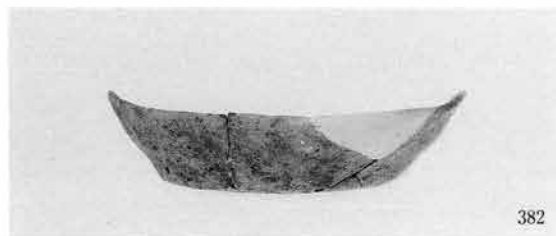
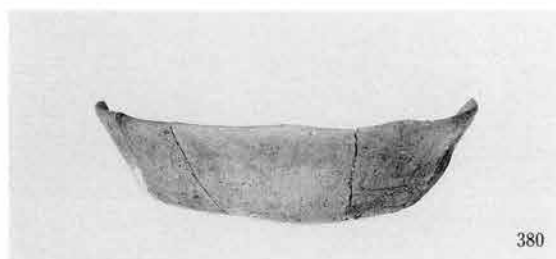


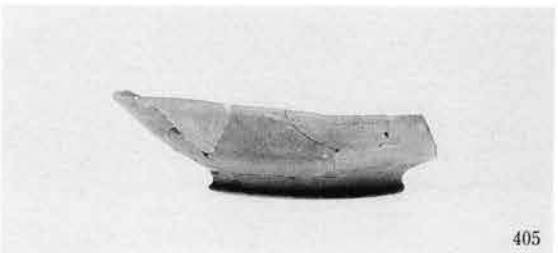
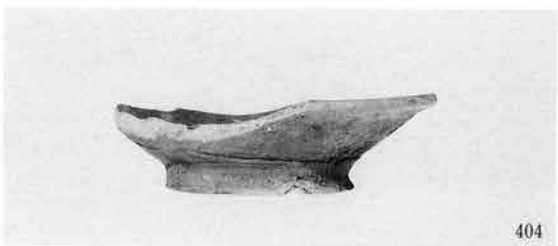
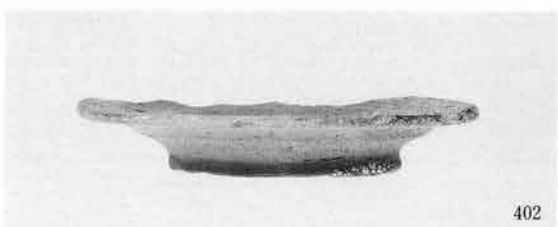
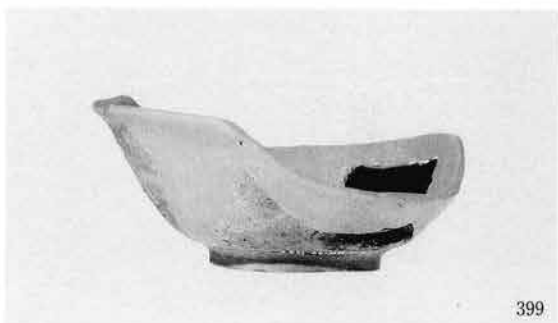
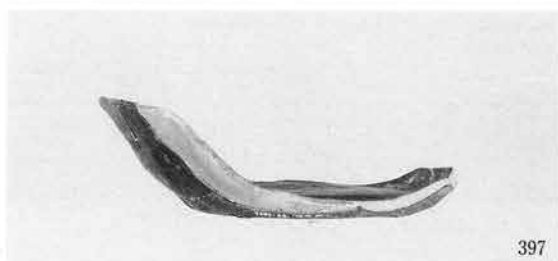
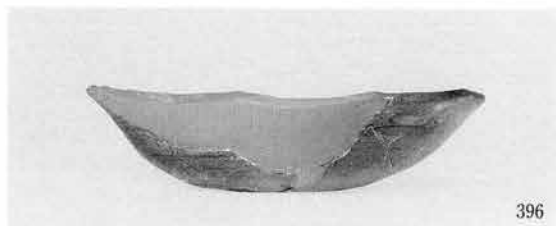
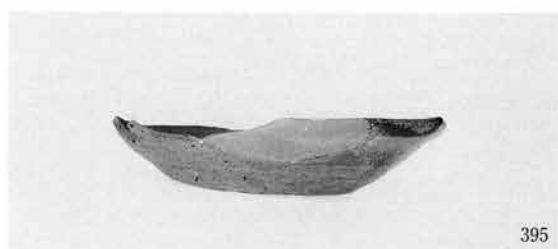
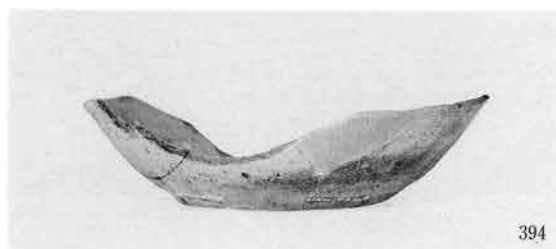
2区56・57号住居跡出土遺物



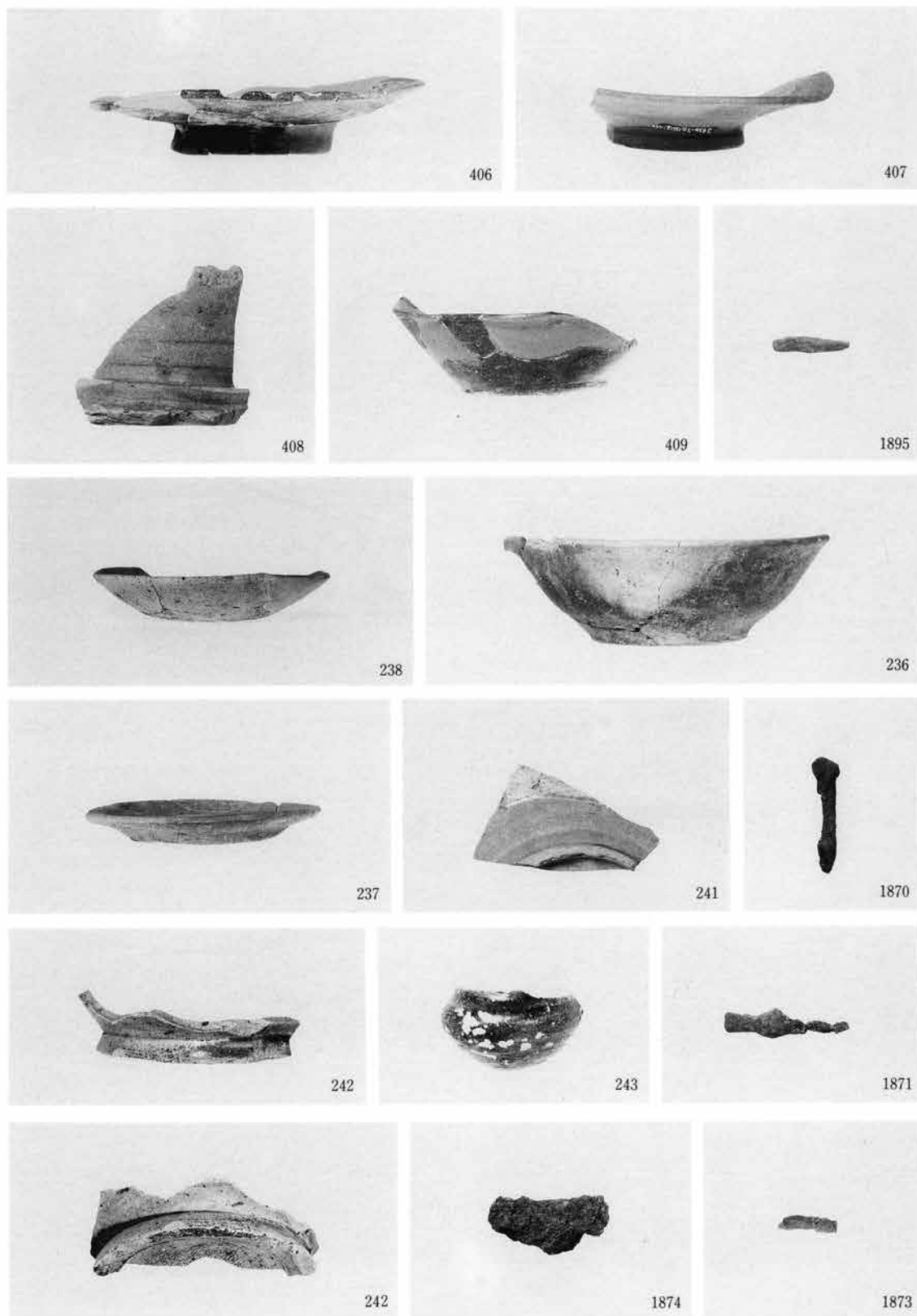
2区57号住居跡出土遺物





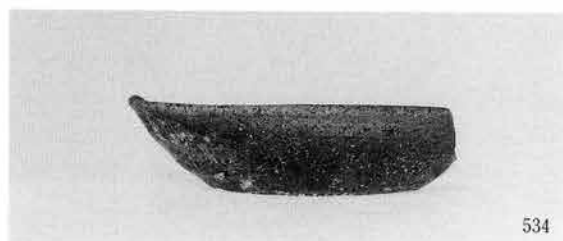


2区61号住居跡出土遺物

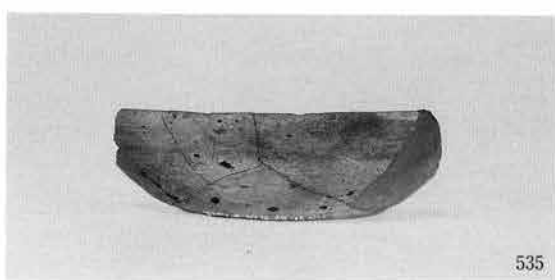


2区61号、1区63号住居跡出土遺物

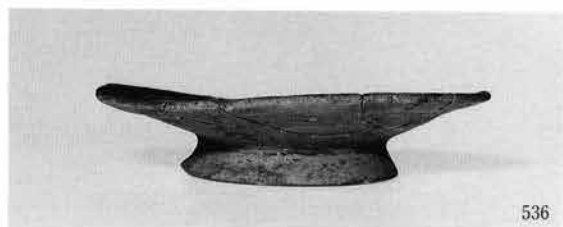




534



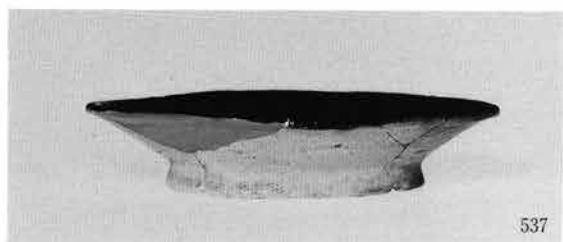
535



536



532



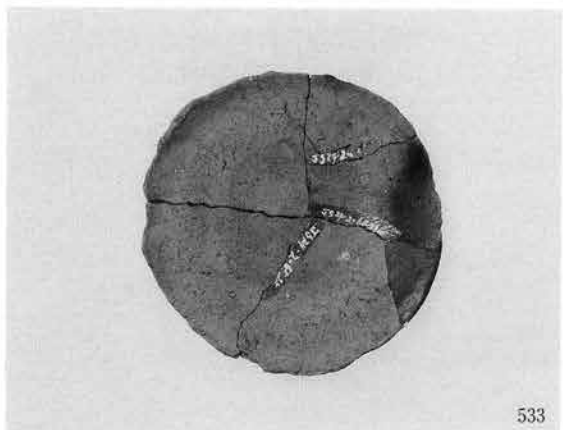
537



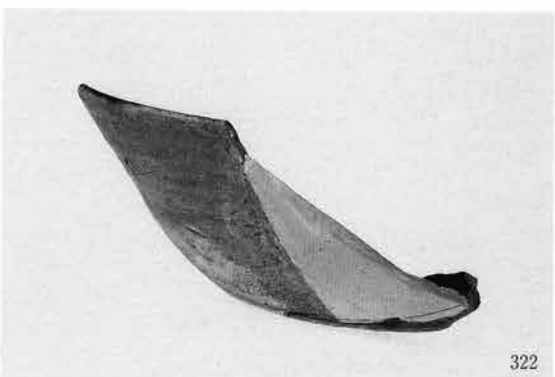
1903



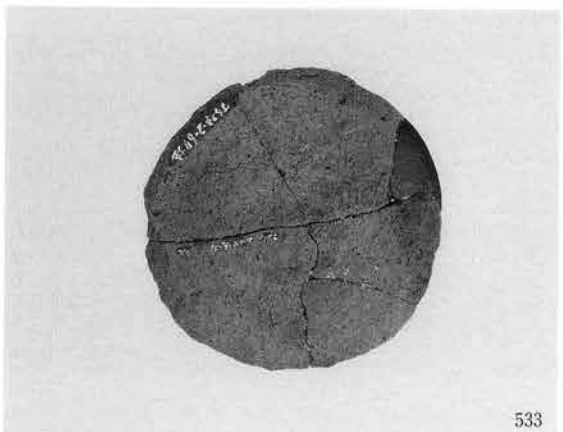
1904



533



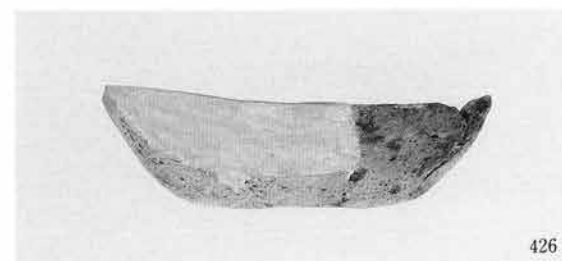
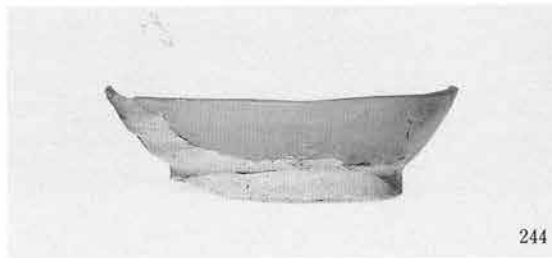
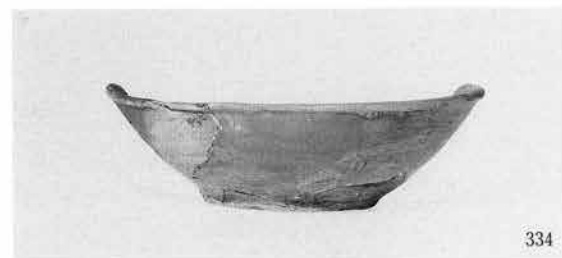
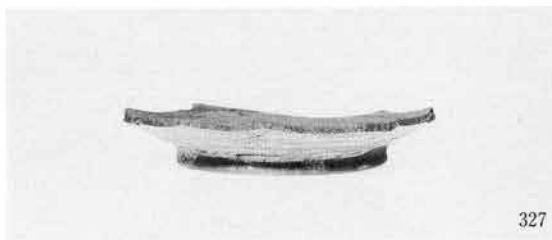
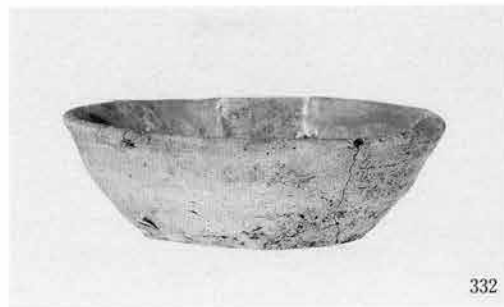
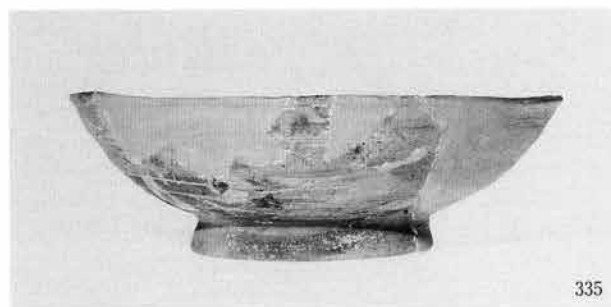
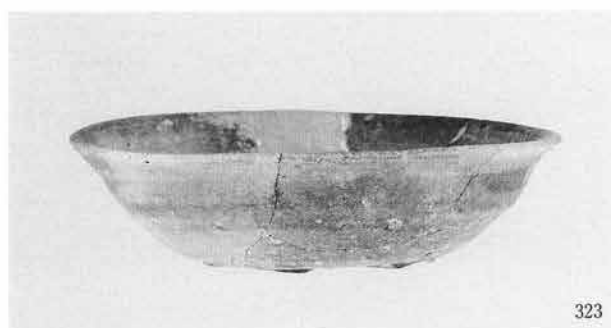
322



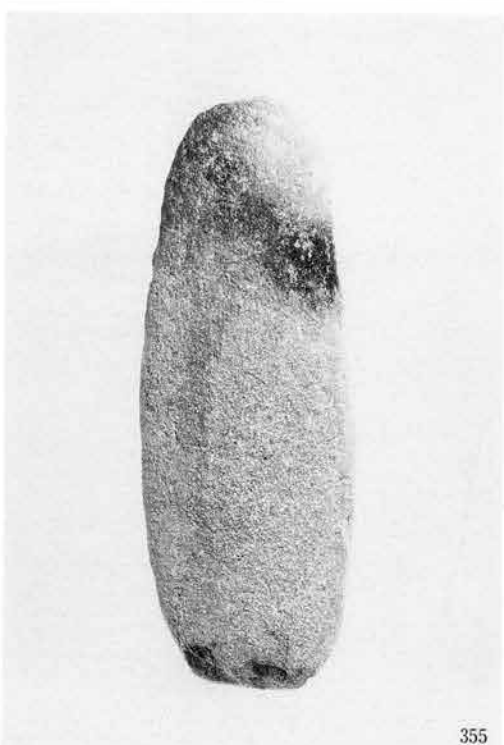
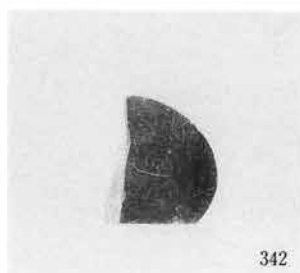
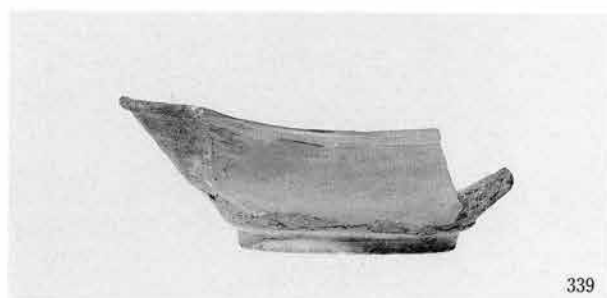
533



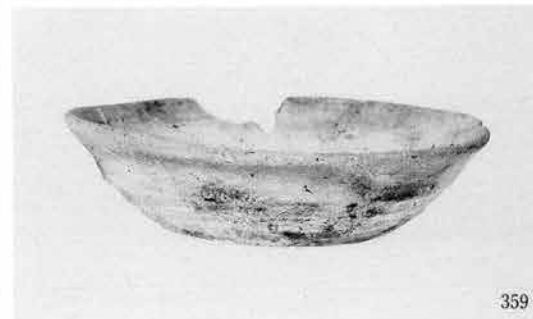
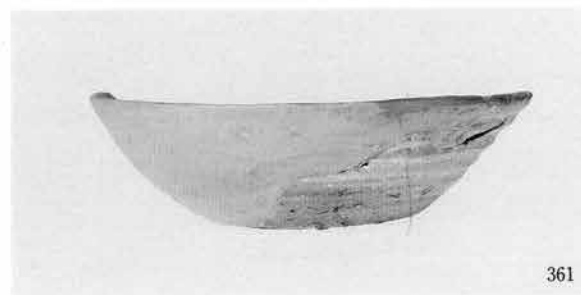
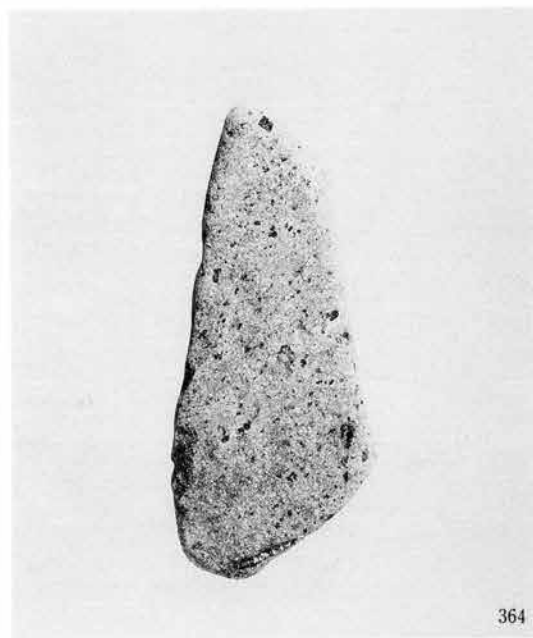
331

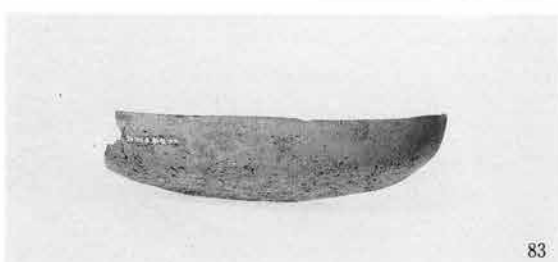
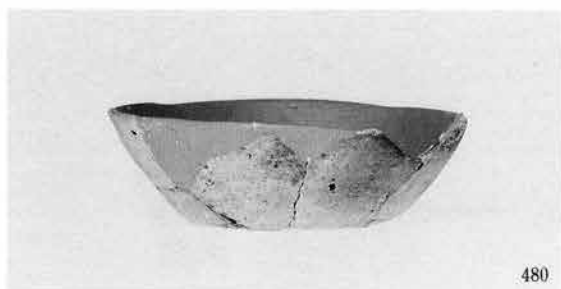
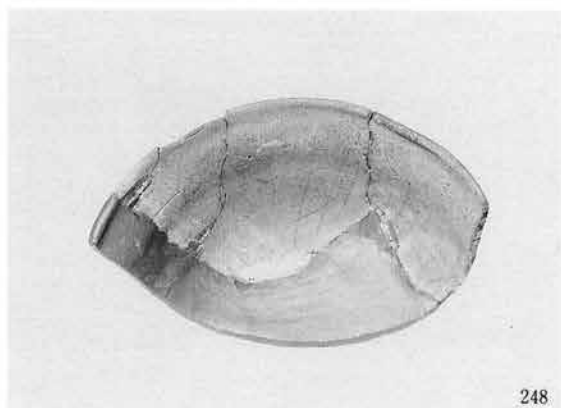
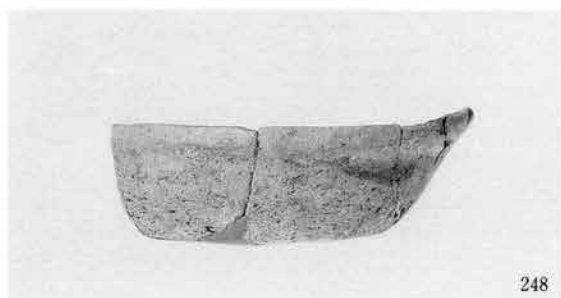


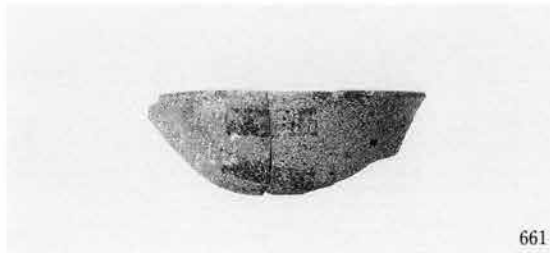
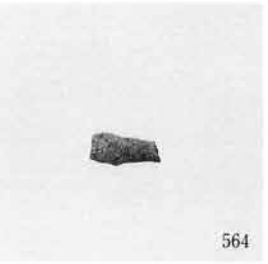
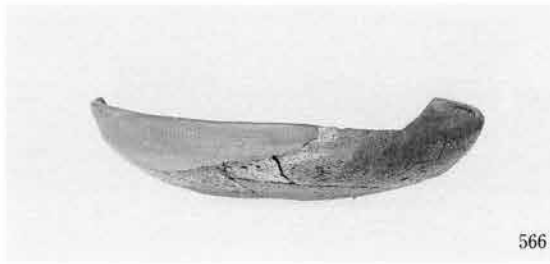
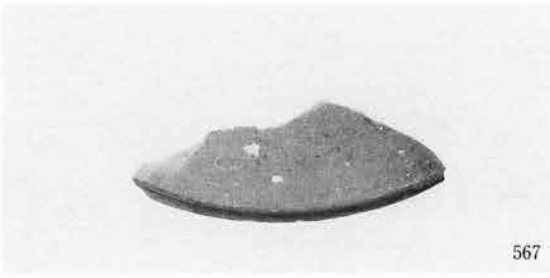
1区67・69・70、2区66・68・71号住居跡出土遺物

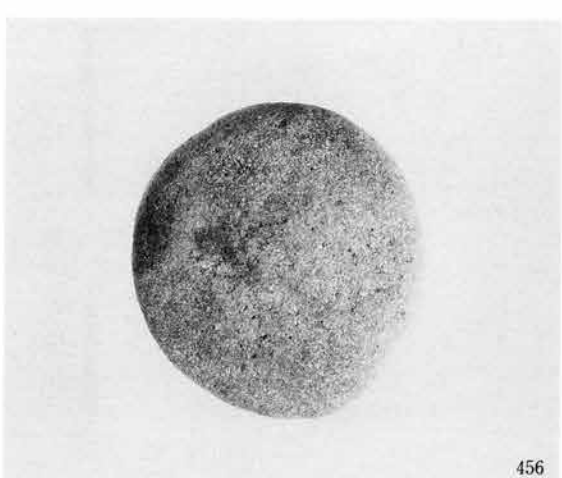
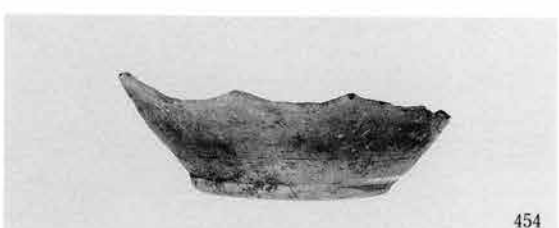
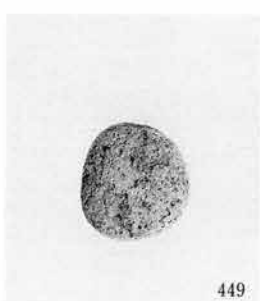


2区71・72・73号住居跡出土遺物

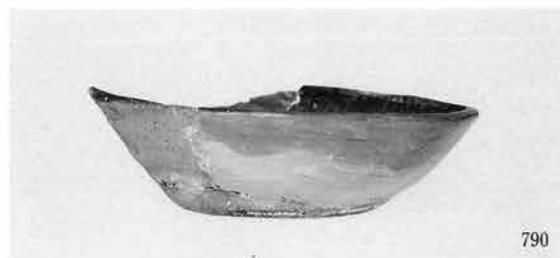
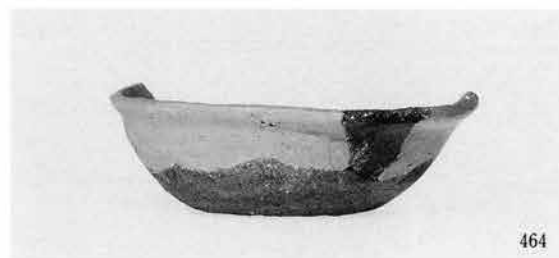
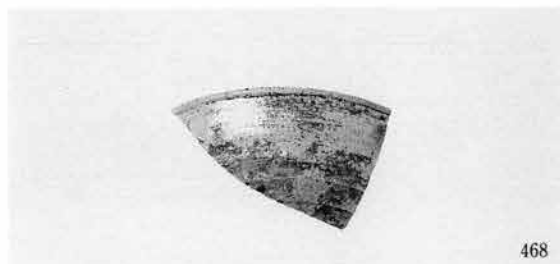
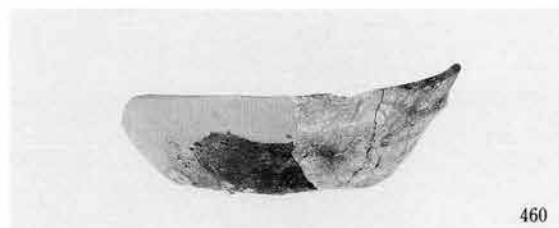
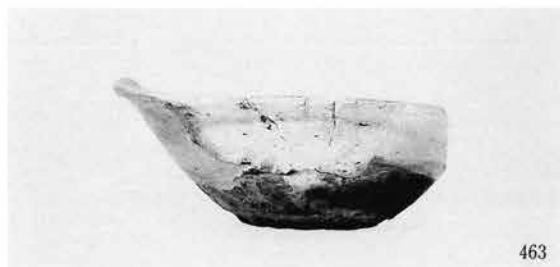
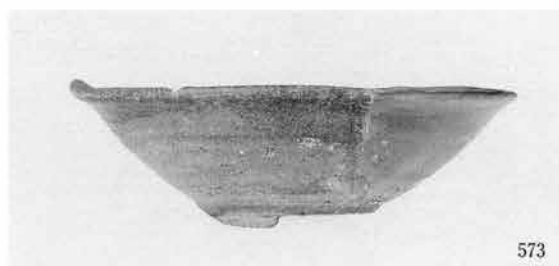








1区96・97・102号、2区98・100・101号住居跡出土遺物







793



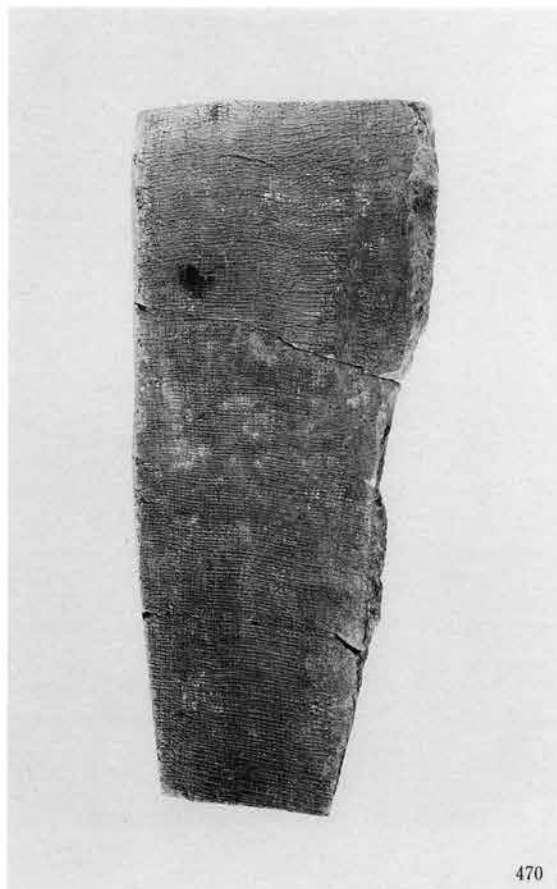
797



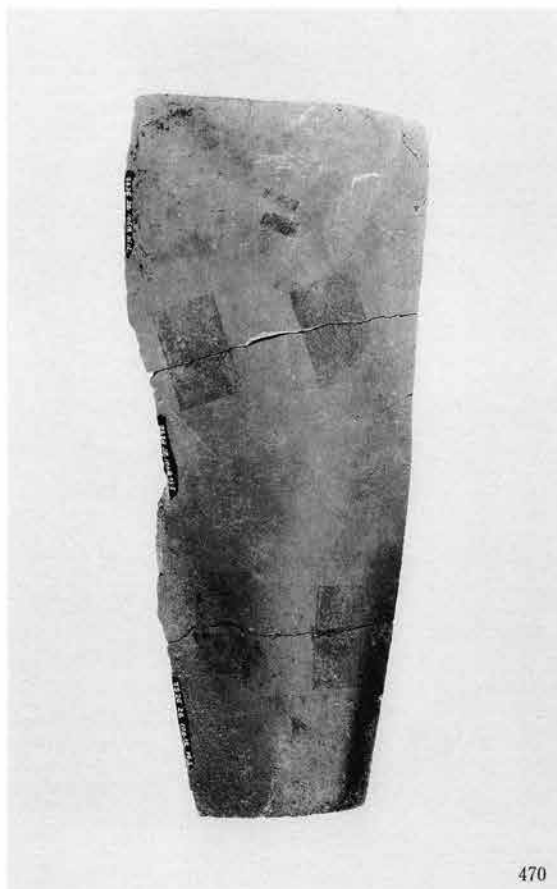
794



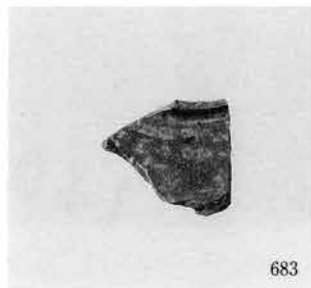
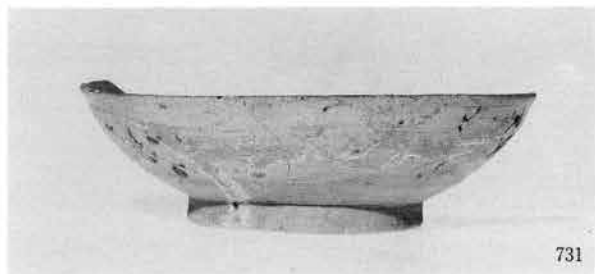
795



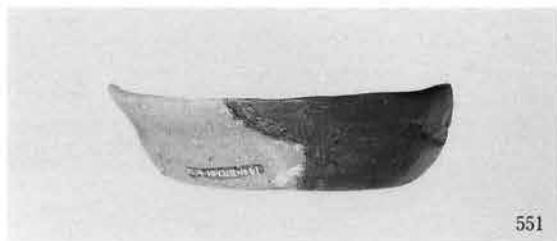
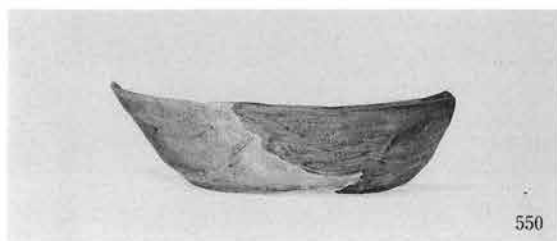
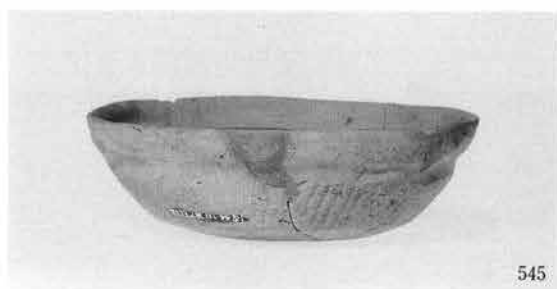
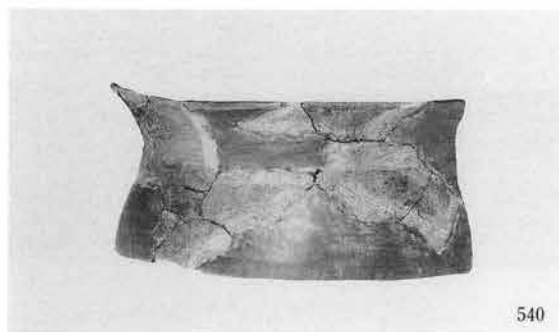
470



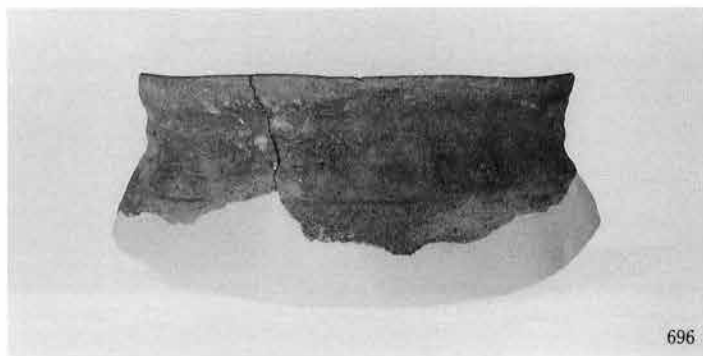
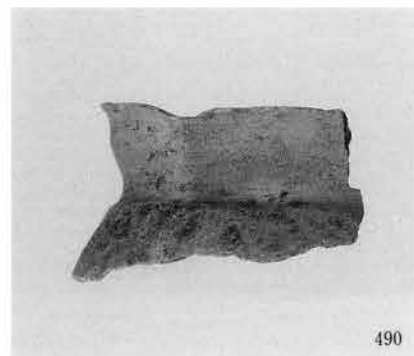
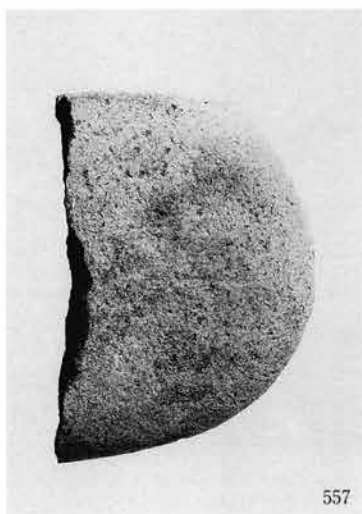
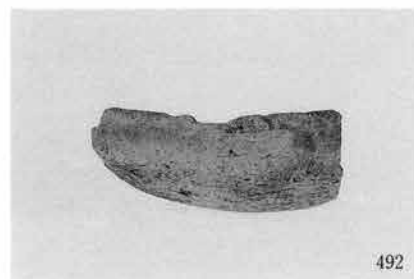
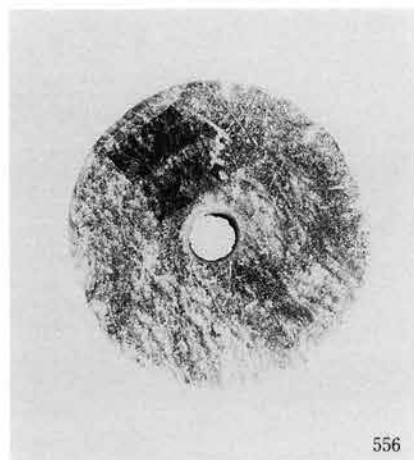
470



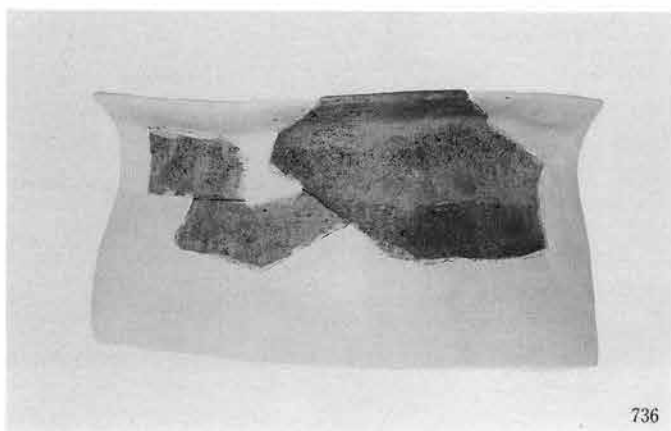
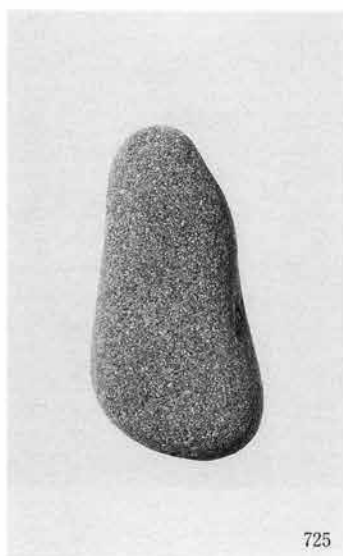
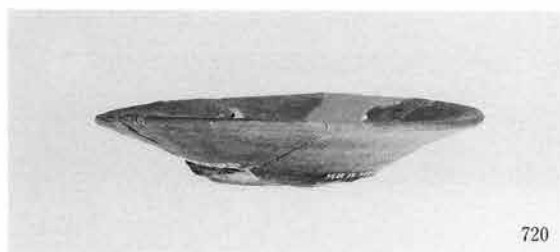
1区118・122号、2区113・117・120号住居跡出土遺物



1区122号住居跡出土遺物

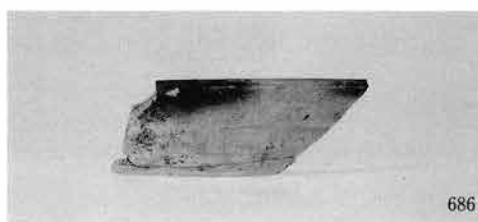
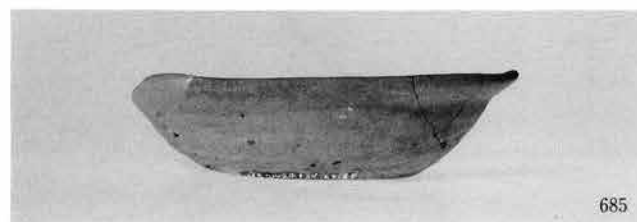
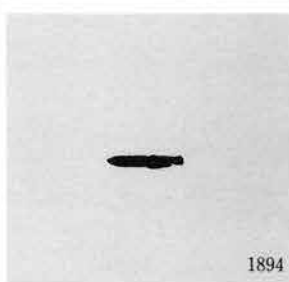
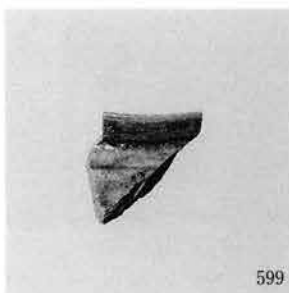
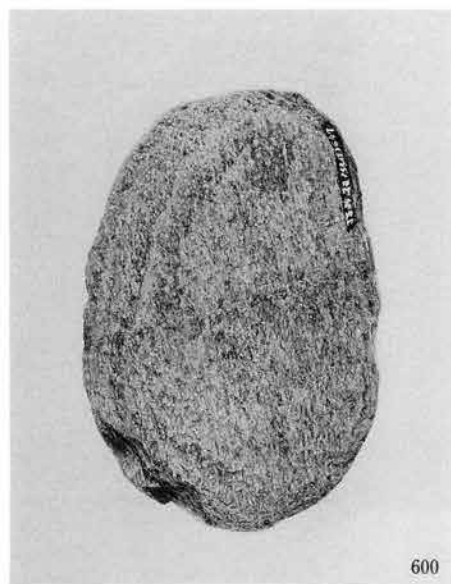
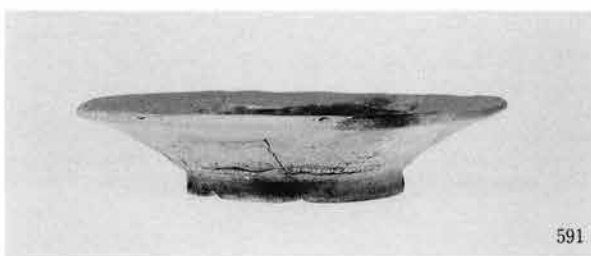
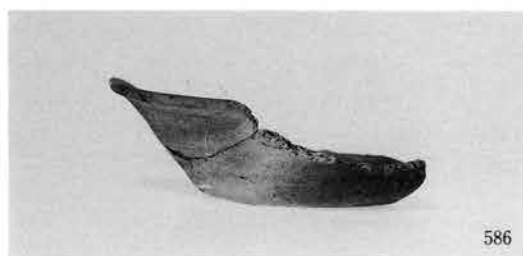
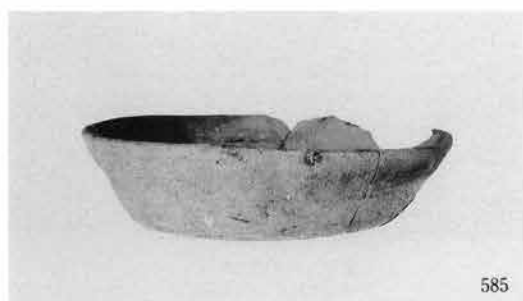


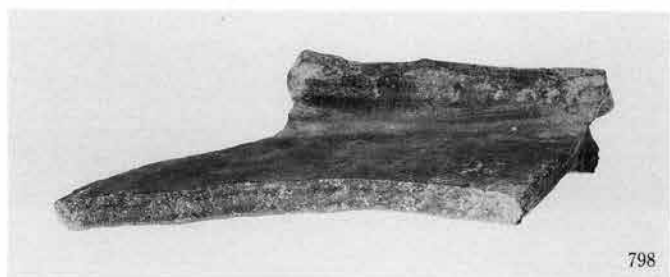
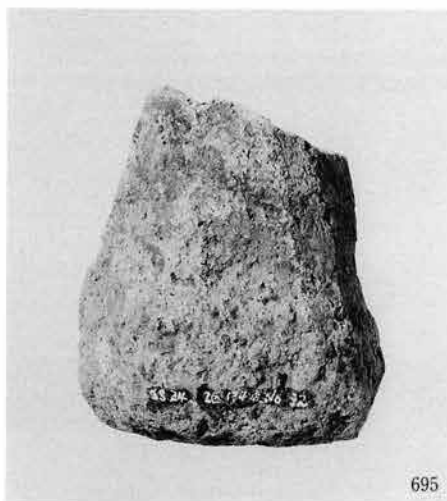
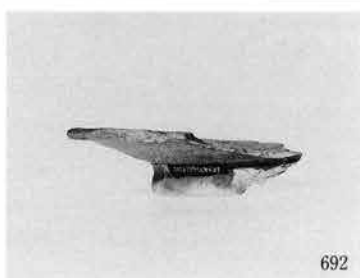
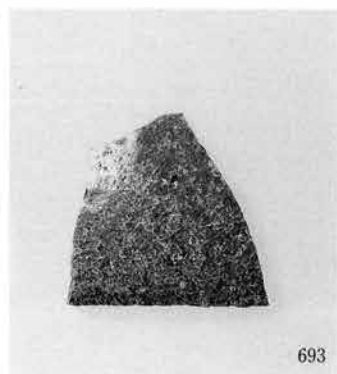
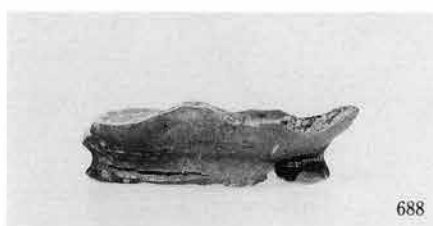
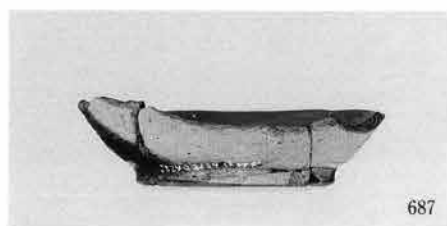
1区122・123号、2区125号住居跡出土遺物

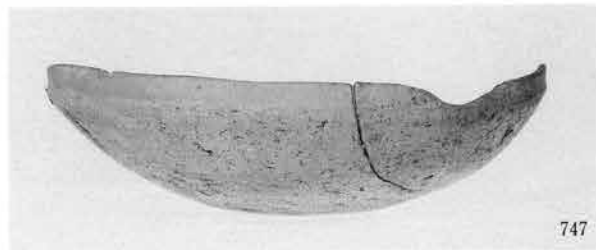
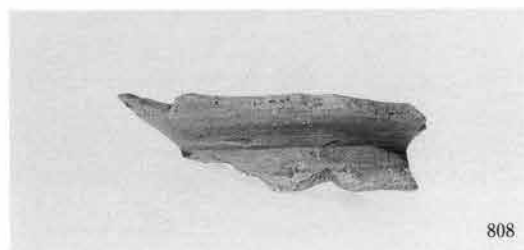
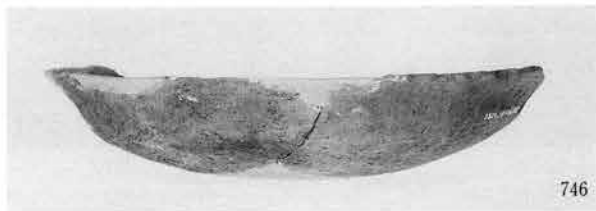


1区126号、2区128・129・131・133号住居跡出土遺物

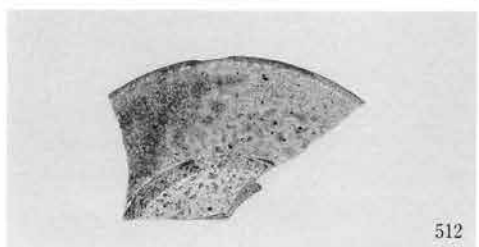
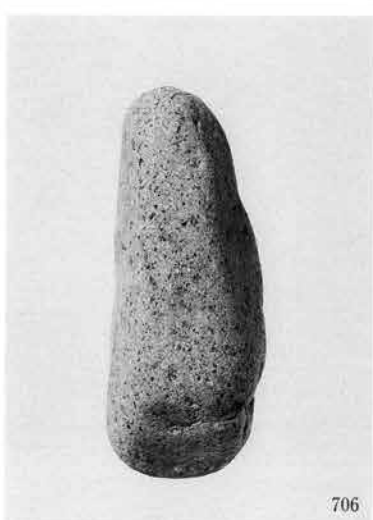
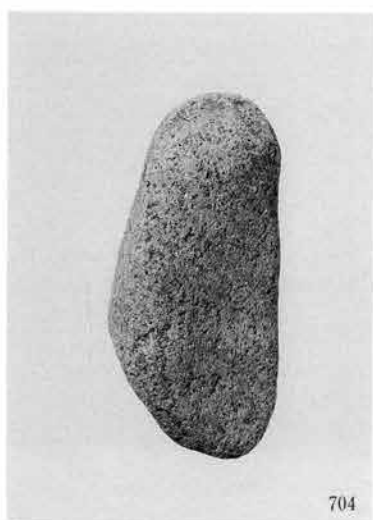
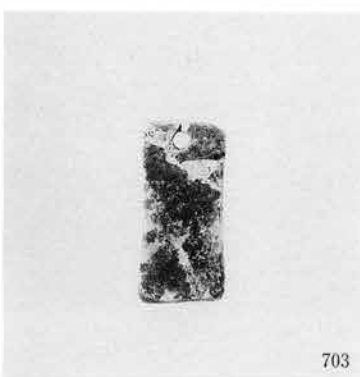
图版90



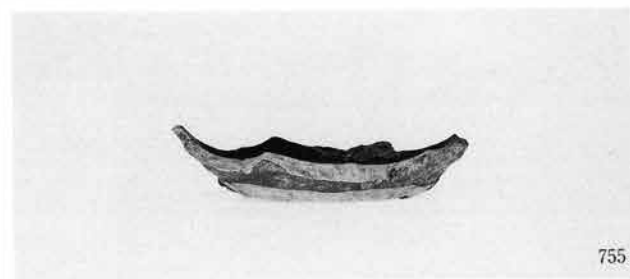
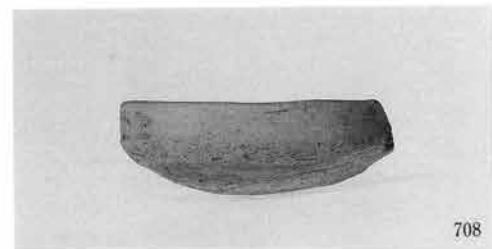
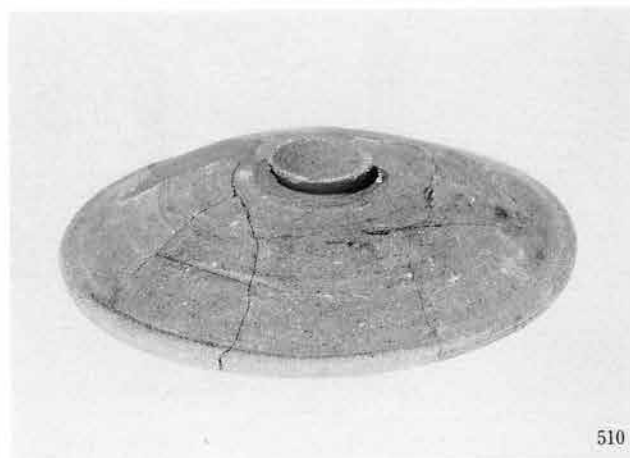
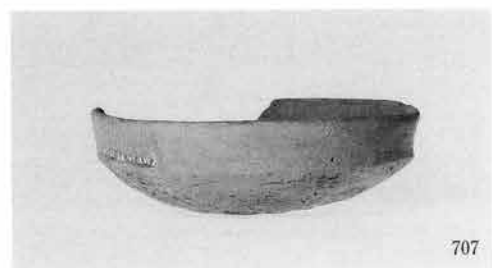


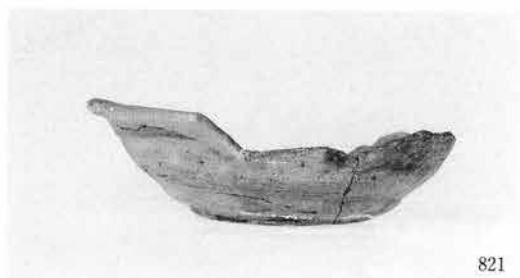






2区141·142·143号住居跡出土遺物





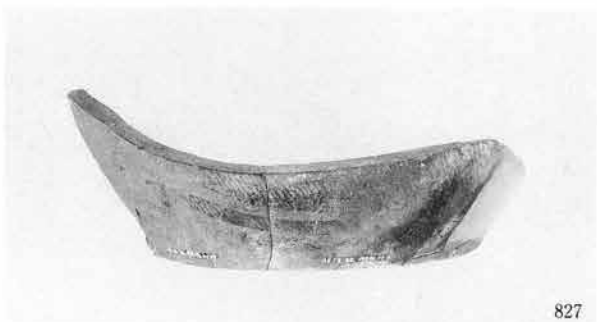
821



822



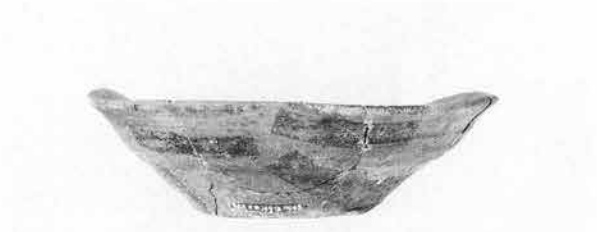
828



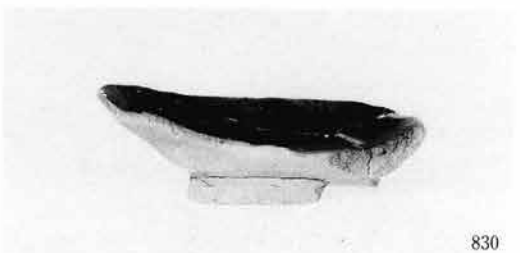
827



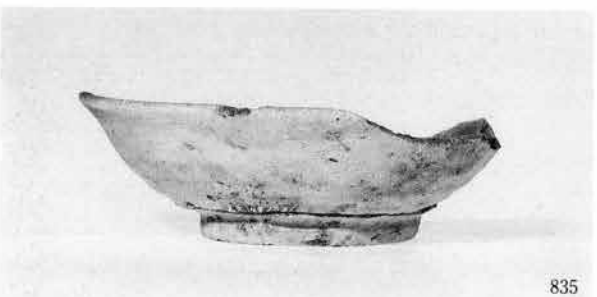
829



834



830



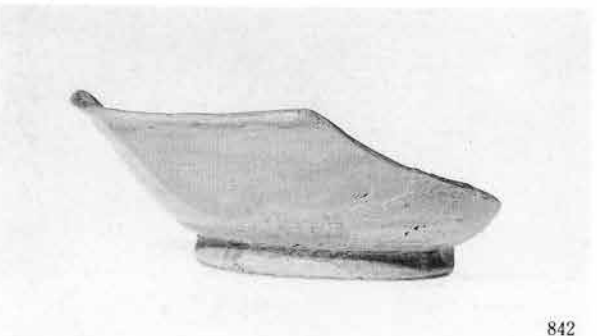
835



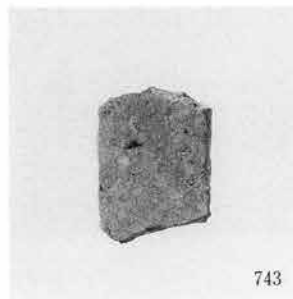
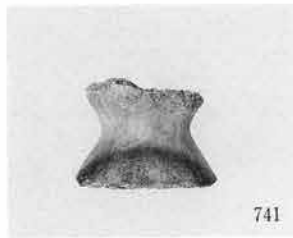
833



836



842

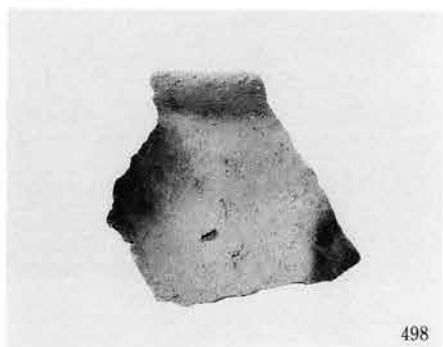




500



502



498



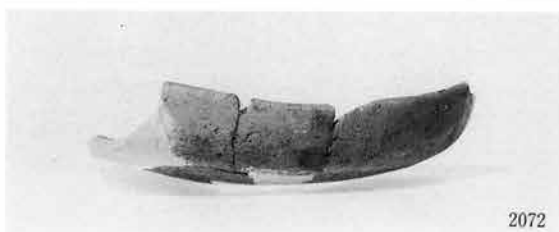
501



503



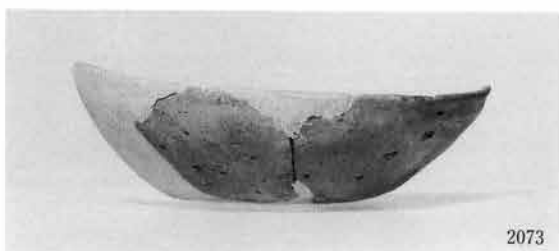
432



2072



2036



2073

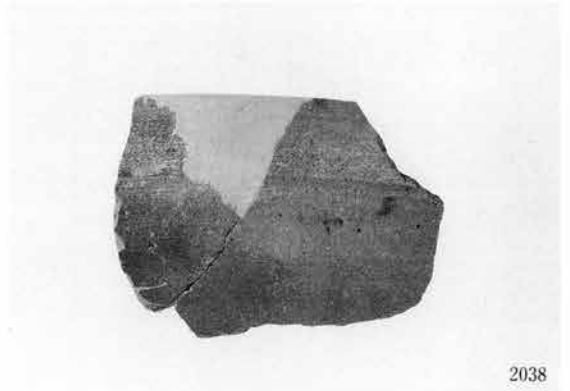
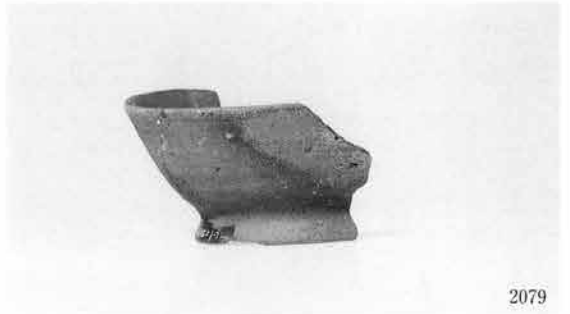
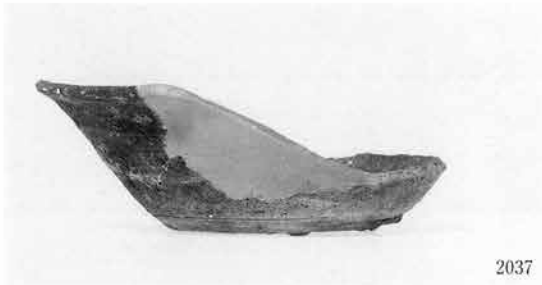
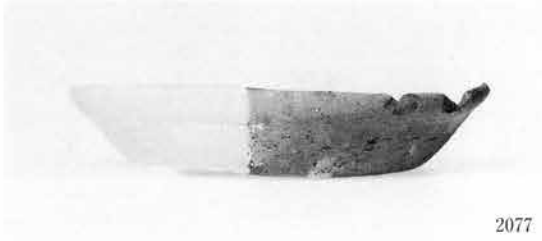
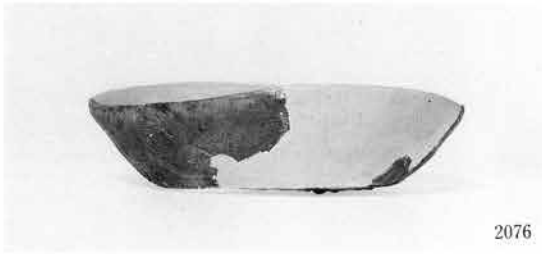


2074



2075

1区154号、2区152号住居跡、1区1・4号溝跡出土遺物





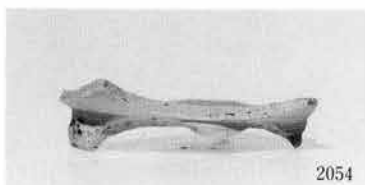
2045



2050



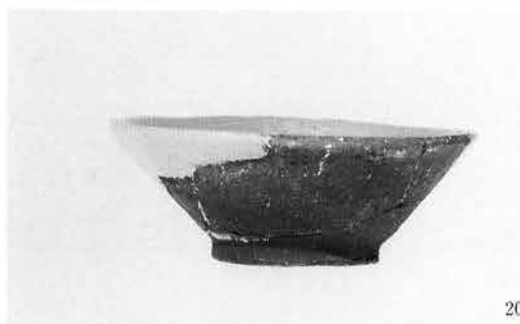
2051



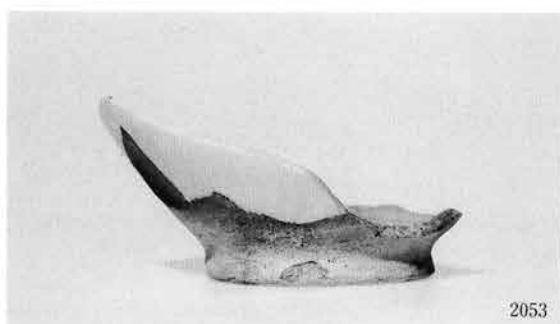
2054



2055



2052



2053



2057



2057



2047



2058

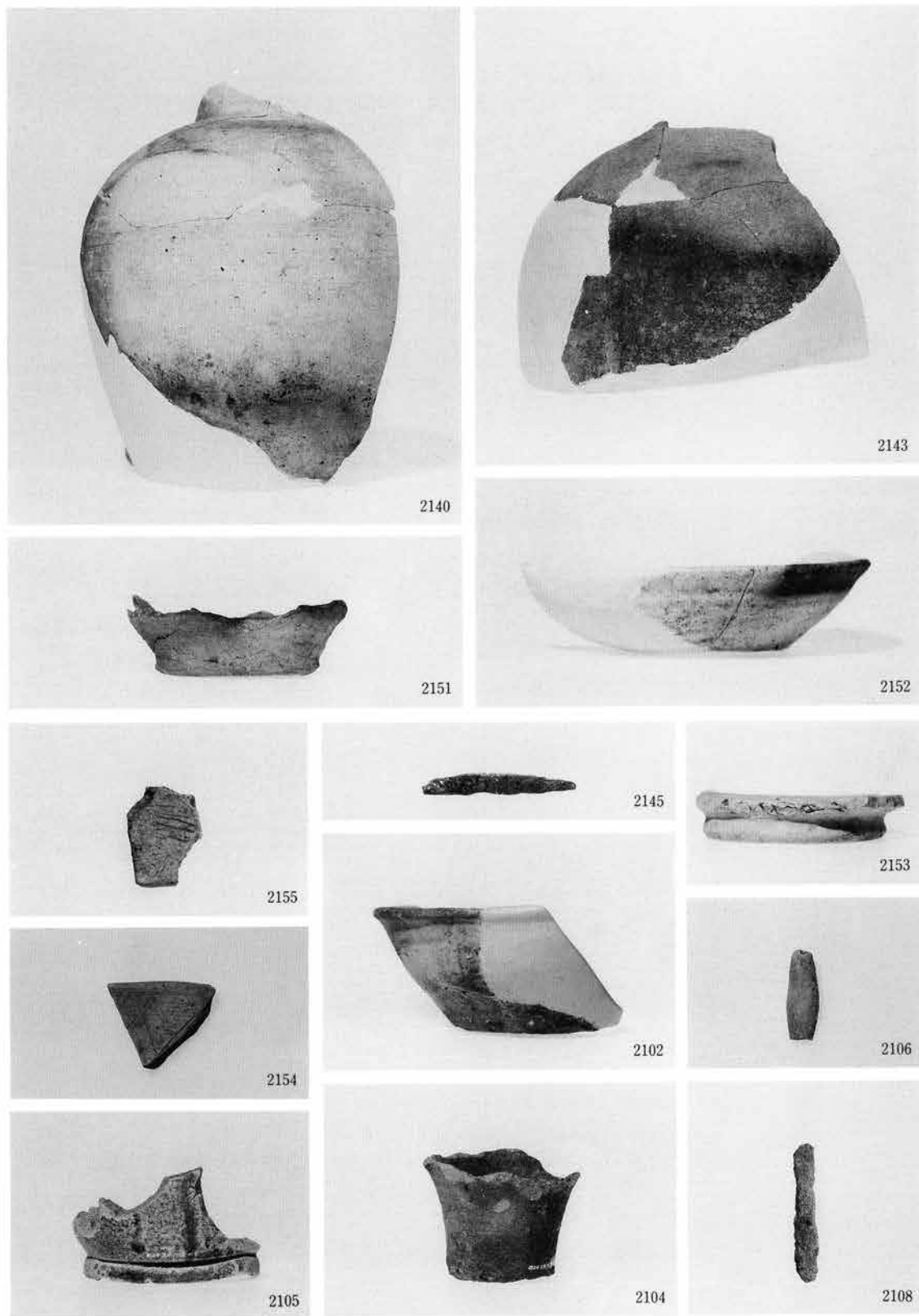


2141



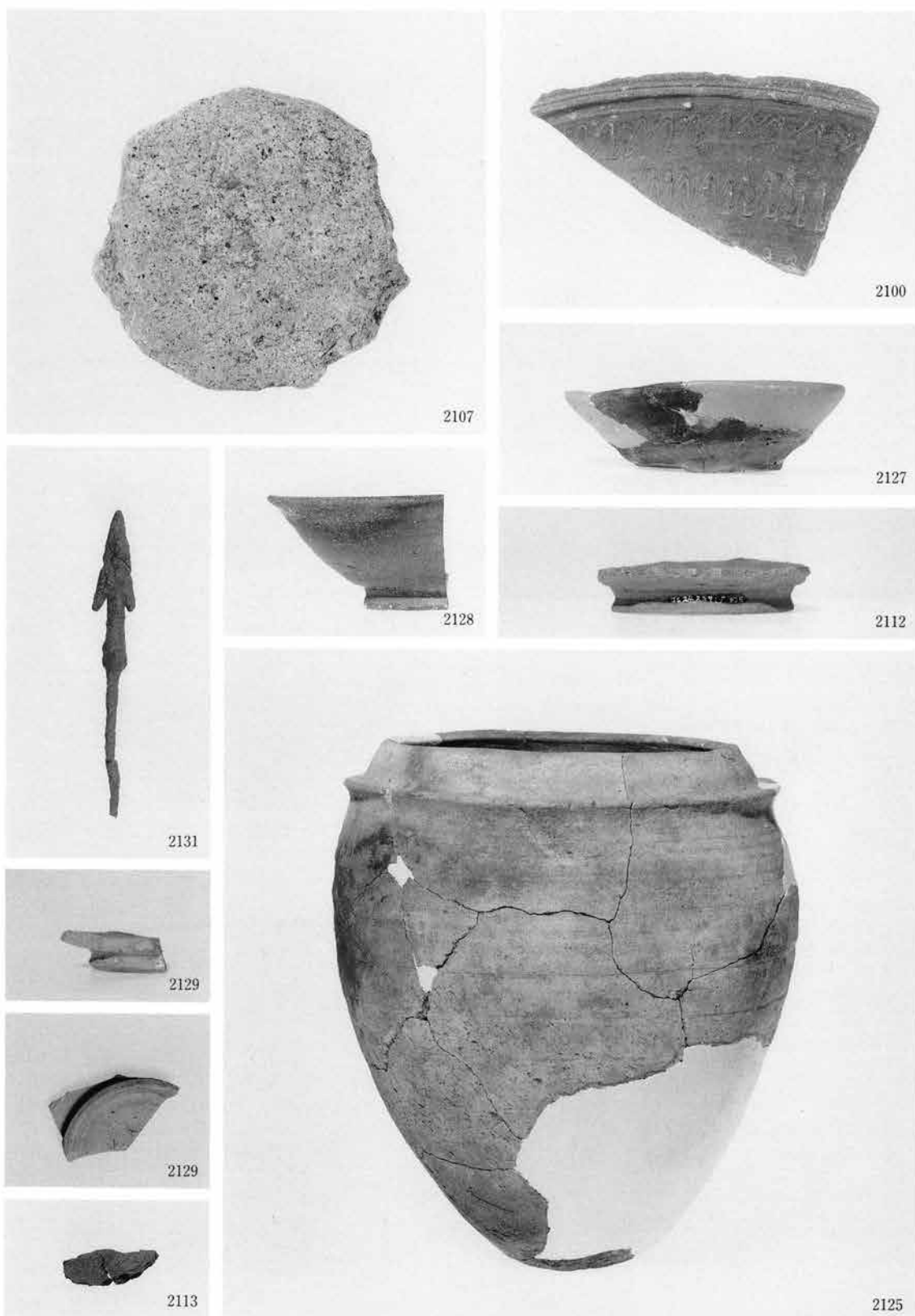
2142

1区10・11号、2区4号溝跡出土遺物



2区4・5・7号溝跡出土遺物





2区7・8・9号溝跡出土遺物

图版102



2109



2111



2114



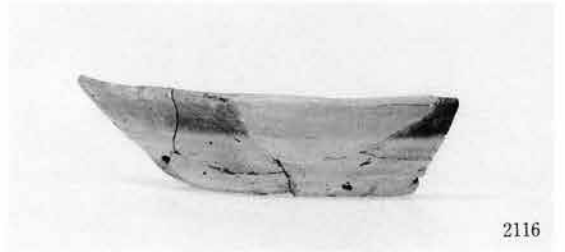
2117



2115



2118



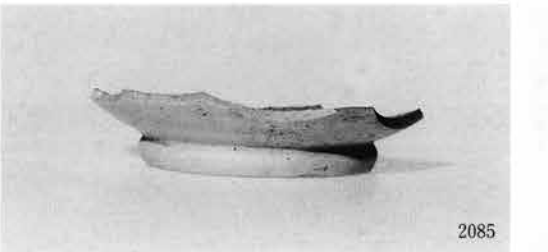
2116



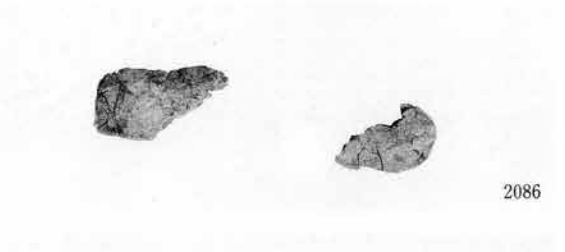
2119



2083



2085



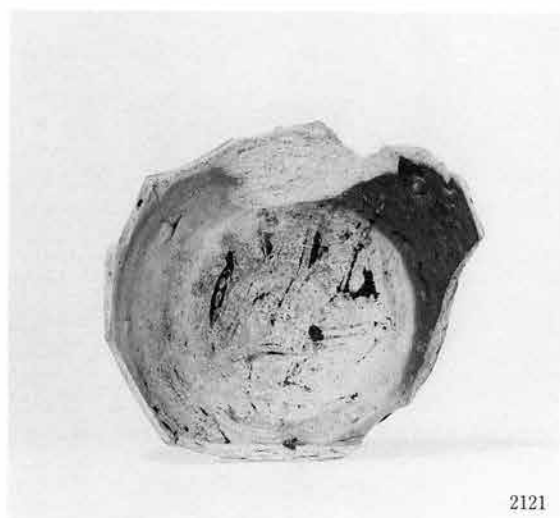
2086



2084



2120



2121



2089



2121



2090



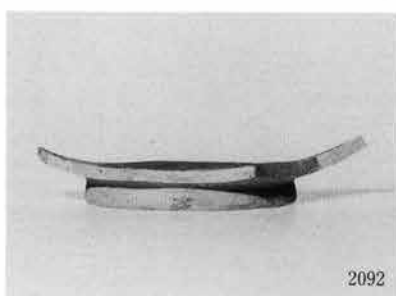
2091



2088



2087



2092



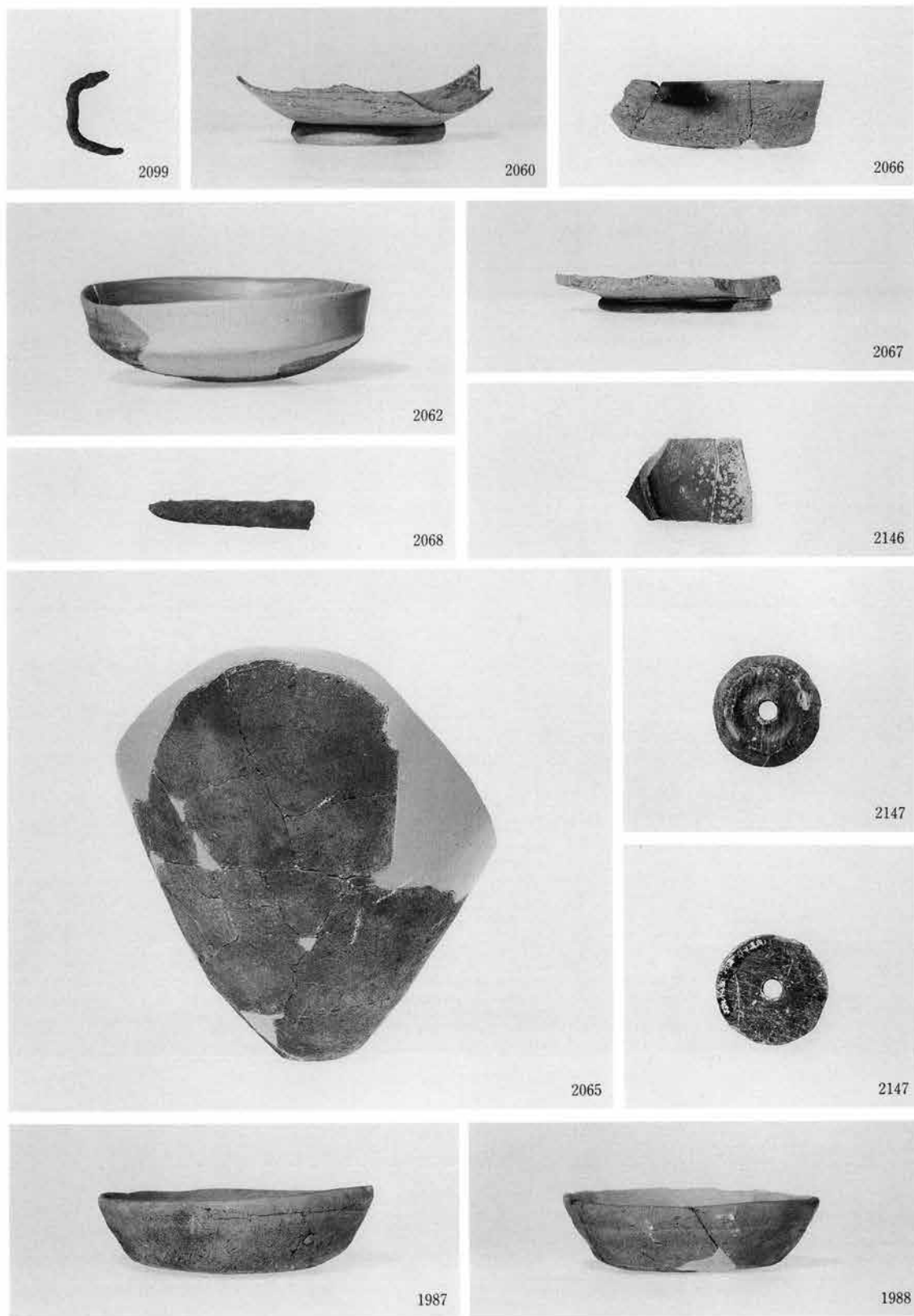
2093



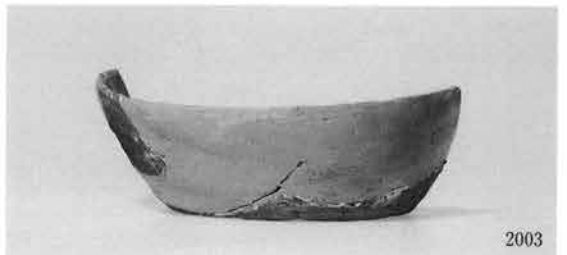
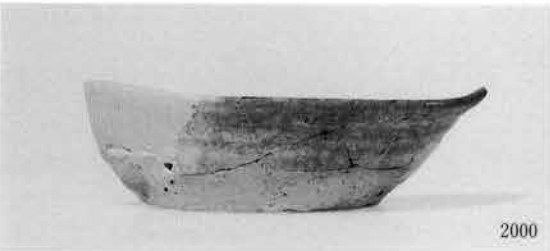
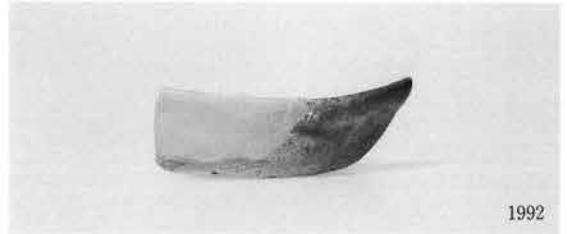
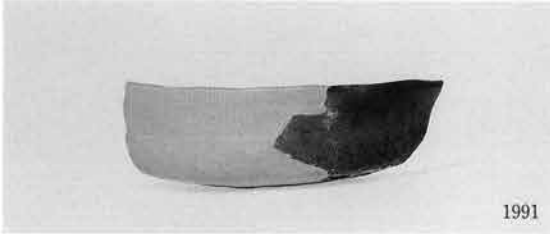
2095



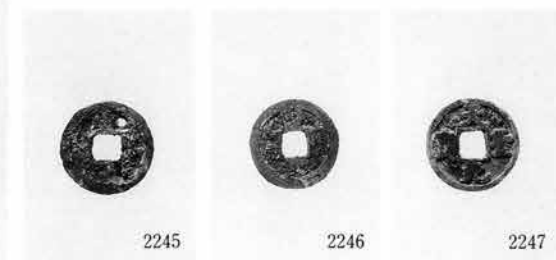
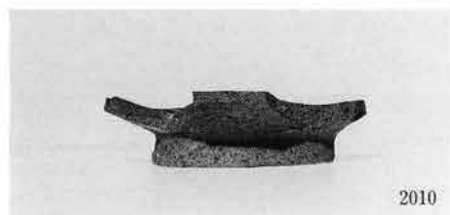
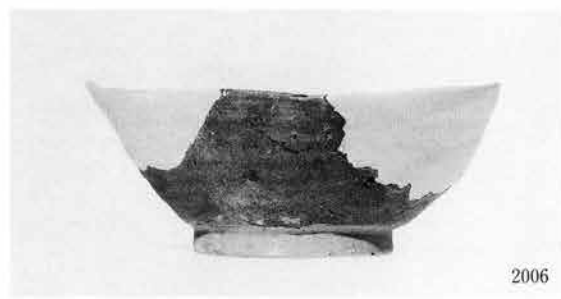
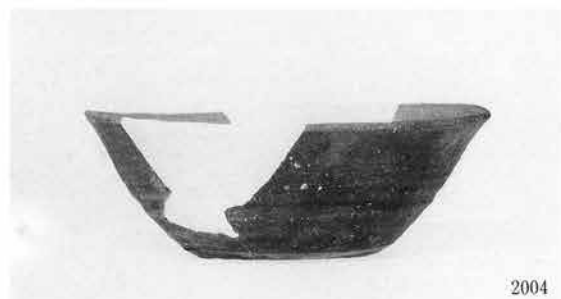
2094



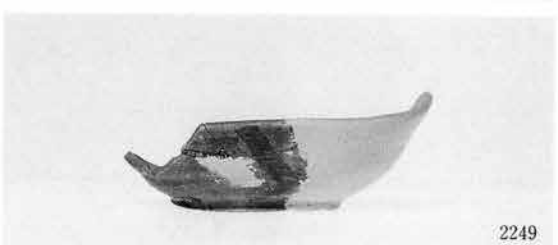
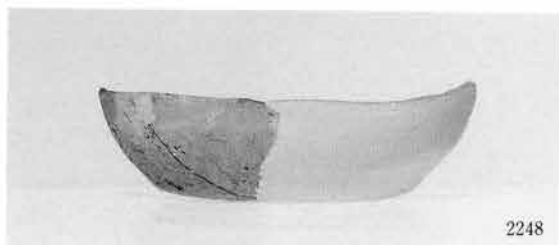
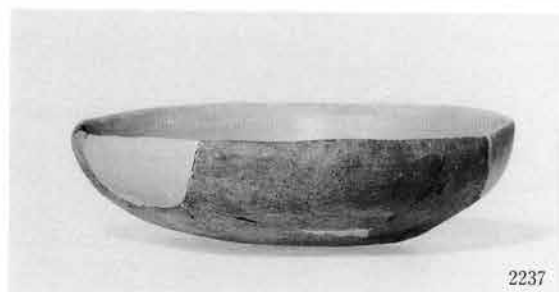
2区15・17・22・26・27号溝跡、2区1号井戸跡出土遺物



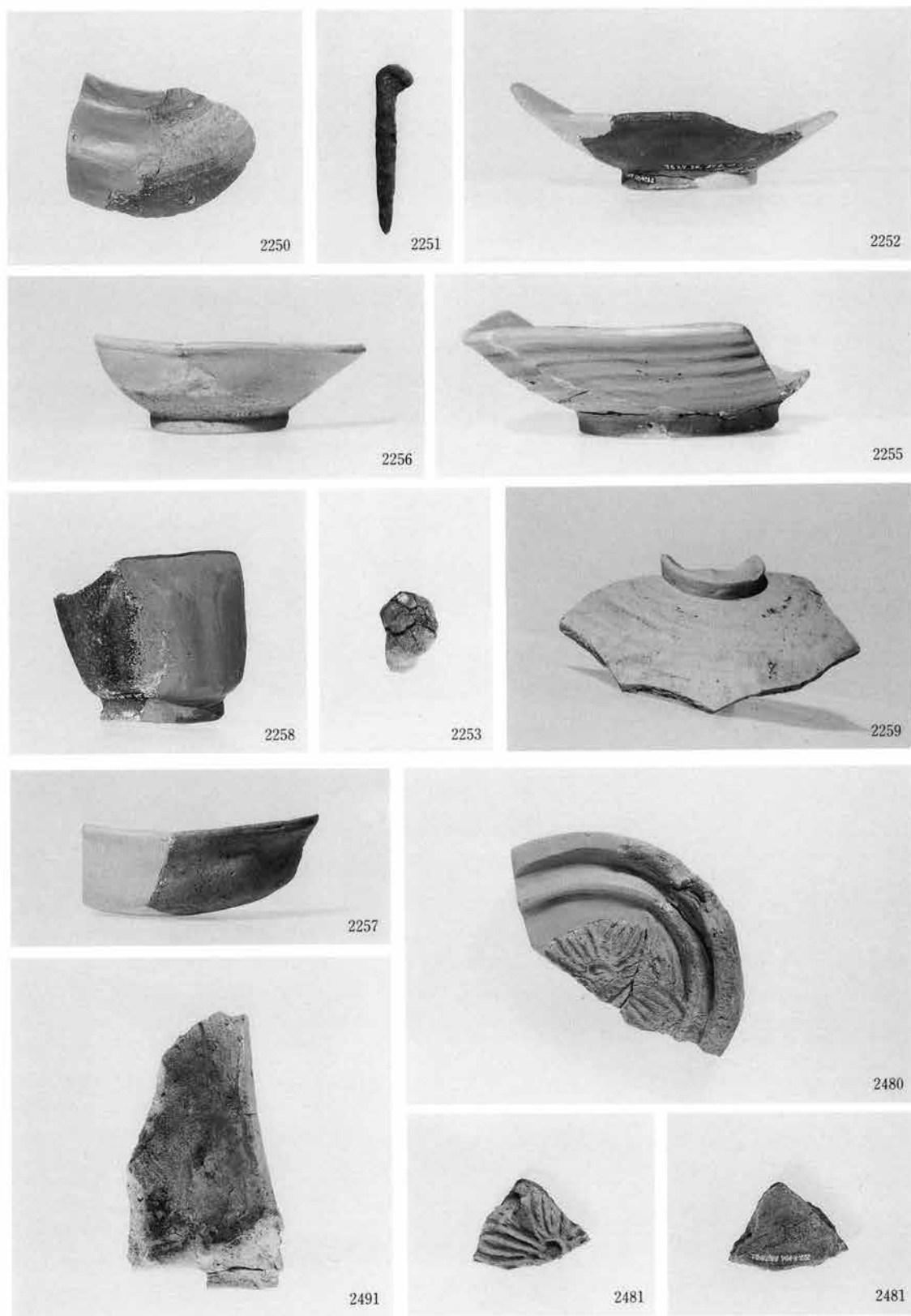
2区1号井戸跡出土遺物



2区1号井戸跡、1・2号土壌墓出土遺物

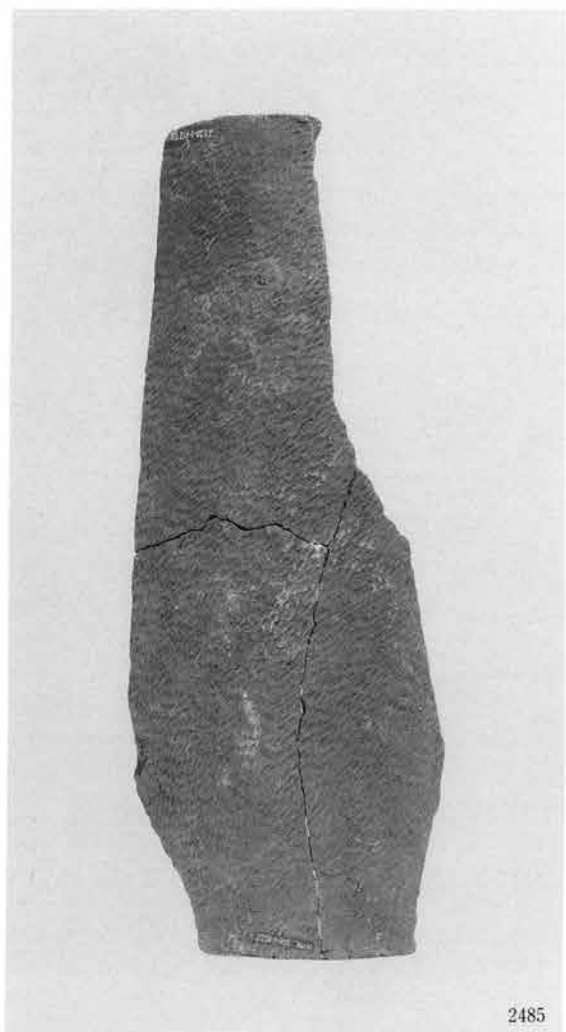


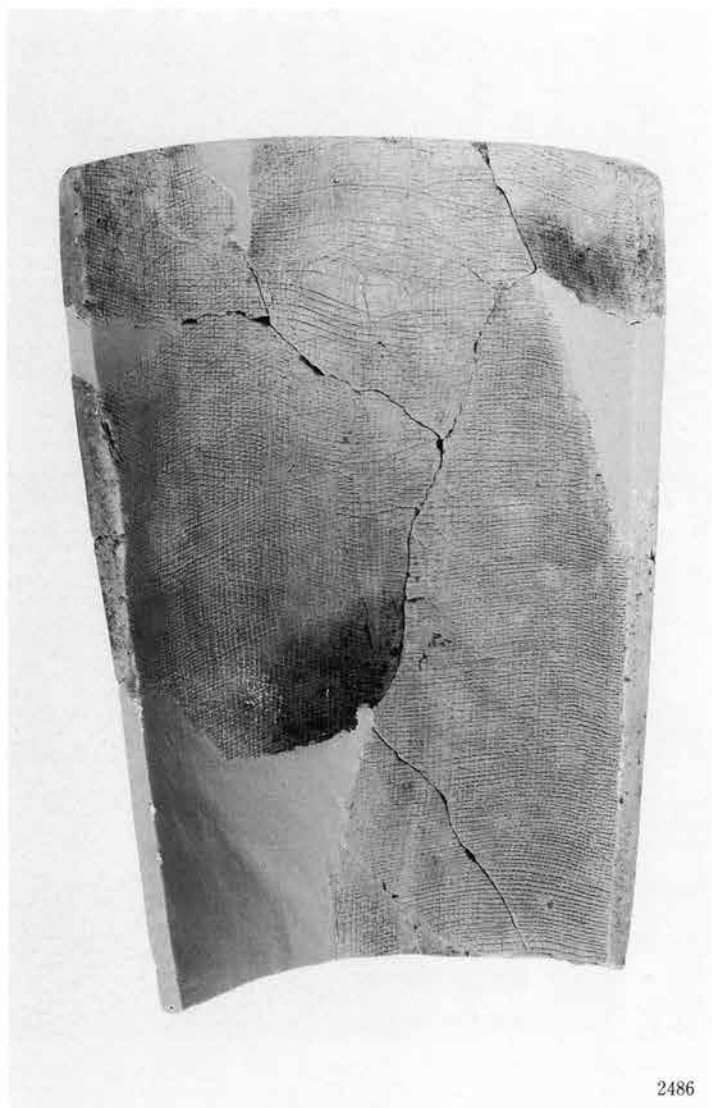
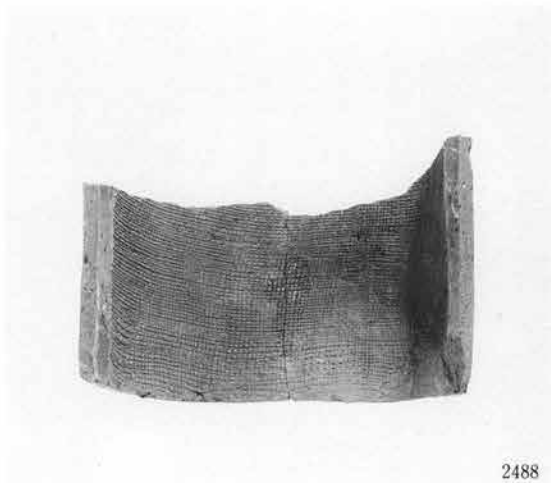
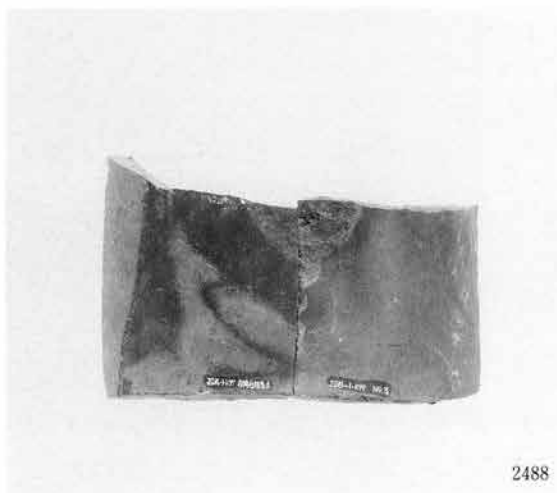
1区1・5・6・9号、2区10・12・20号土坑出土遺物

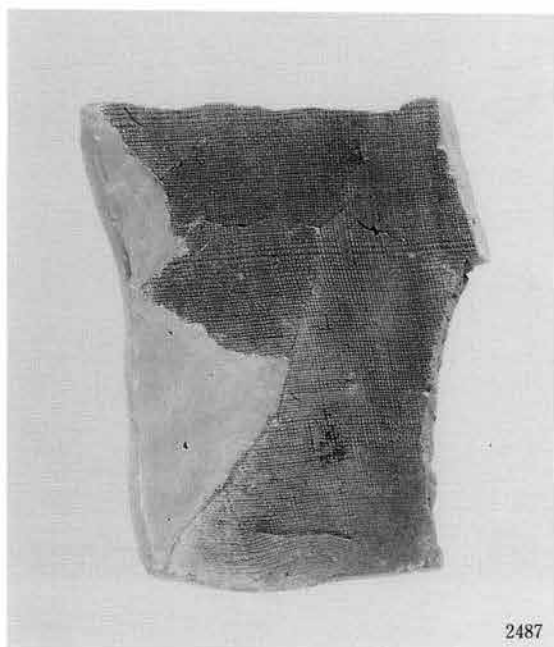


2区22・27・36・44号土坑出土遺物、表土出土遺物①

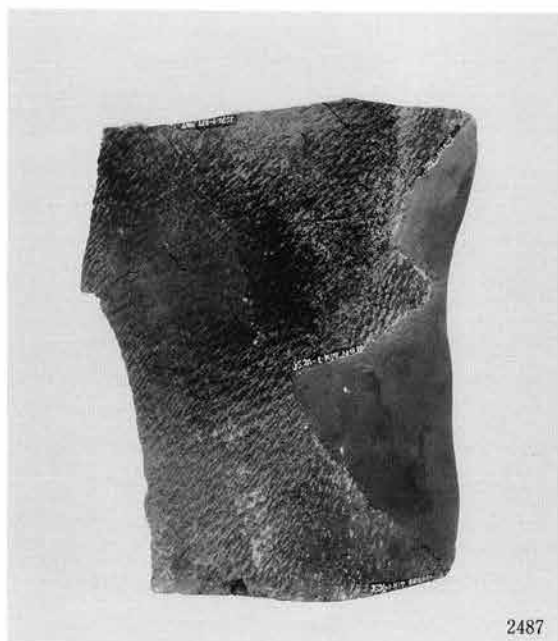




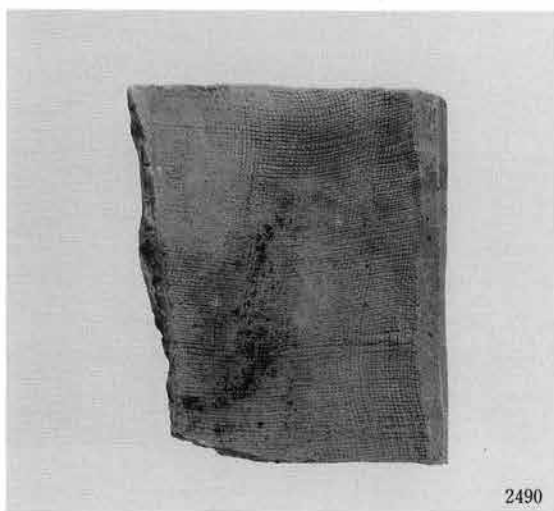




2487



2487



2490



2490

表土出土遺物④



財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
発掘調査報告第118集

# 融通寺遺跡

(第1分冊)

—上越新幹線関係埋蔵文化財  
発掘調査報告書 第15集—

平成3年3月15日 印刷

平成3年3月20日 発行

編集／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話(0279)52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会

勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話(0279)52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社